

# 田村遺跡群Ⅲ

高知南国道路建設工事に伴う発掘調査報告書Ⅶ

(高知東部自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅹ)

第1分冊

I～Ⅲ区

2015.3

高 知 県 教 育 委 員 会

(公財)高知県文化財団埋蔵文化財センター



# 田村遺跡群Ⅲ

高知南国道路建設工事に伴う発掘調査報告書Ⅶ  
(高知東部自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書ⅩⅣ)

第1分冊

I～Ⅲ区

2015.3

高 知 県 教 育 委 員 会  
(公財)高知県文化財団埋蔵文化財センター



## 序

公益財団法人高知県文化財団埋蔵文化財センターでは、平成16年度から高知県教育委員会が国土交通省四国地方整備局の業務委託を受けた一般国道55号自動車専用道路(高知東部自動車道)建設に伴う埋蔵文化財発掘調査を実施しています。田村遺跡群の発掘調査は、平成22年から25年まで4年にわたって実施いたしました。

田村遺跡群はご存知のように高知県を代表する遺跡の一つです。高知龍馬空港の拡張に伴い、二度にわたって大規模な発掘調査が行われてきました。一連の調査では縄文時代から近世にかけてのおびただしい数の遺構・遺物がみつかっています。弥生時代では高知県で本格的な水田稲作を初めて行ったムラの発見当時は全国的に類例が無く全国的にも注目されました。弥生時代中期末から後期初頭にかけては西日本でも屈指の大規模集落となり各種の青銅器を保有していました。古代では田村庄に関連するものと考えられています。中世では田村城跡と溝で囲まれた屋敷群がみつかり、土佐支配の拠点として機能していました。

今回、報告します調査区は、田村遺跡群の北側にあたります。前回までの調査と同様、縄文時代から近代にかけての遺構・遺物がみつき、田村遺跡群の範囲がさらに広がることが明らかとなりました。越州窯系の青磁、大阪府の楠葉産の黒色土器碗など貴重な遺物が出土するなど、田村遺跡群の新たな一面が明らかとなりました。

最後になりましたが、今回の調査では国土交通省四国地方整備局土佐国道事務所、南国市教育委員会をはじめ地元の皆様には多大なご理解とご協力を得ることができました。また、発掘作業・整理作業に従事していただきました作業員の皆様に対しましても厚く御礼を申し上げます。

平成27年3月

公益財団法人高知県文化財団 埋蔵文化財センター  
所長 森田尚宏



## 例 言

1. 本書は高知南国道路の建設に伴い、平成22～25年度に実施した田村遺跡群(調査時は田村北遺跡)の発掘調査報告書である。
2. 本調査は、高知県教育委員会が国土交通省四国地方整備局から受託し、財団法人高知県文化財団埋蔵文化財センター(現公益財団法人高知県文化財団埋蔵文化財センター)が発掘調査を実施した。
3. 田村遺跡群は物部川の沖積扇状地に立地する縄文時代から近世までの複合遺跡で、弥生時代の集落跡、古代の掘立柱建物群、中世の溝で囲まれた屋敷群・田村城跡など多くの遺構・遺物が確認されている。

平成22年度の調査期間は平成22年4月26日から5月31日、調査面積は327㎡である。

平成23年度の調査期間は平成23年9月27日から平成24年1月31日、調査面積は2,800㎡である。

平成24年度の調査期間は平成24年4月6日から平成25年2月28日、調査面積は27,700㎡である。

平成25年度の調査期間は4月1日から6月30日、調査面積は650㎡である。

4. 発掘調査・整理作業は次の体制で行った。

### 平成22年度

総 括：財団法人高知県文化財団埋蔵文化財センター 所長 小笠原孝夫

総 務：同次長 森田尚宏、同総務課長 里見敦典、同主任 弘末節子

調 査 総 括：同調査課長兼企画調整班長 廣田佳久

調 査 担 当：同調査第四班長 出原恵三、同調査第一班長 山本哲也、同主任調査員 久家隆芳、技術補助員 坂本憲彦、測量補助員 岩原明美

事務補助員：奥宮千恵子

### 平成23年度

総 括：財団法人高知県文化財団埋蔵文化財センター 所長 森田尚宏

総 務：同次長 嶋崎るり子、同総務課長 里見敦典、同主任 黒岩千恵

調 査 総 括：同調査課長兼企画調整班長 廣田佳久

調 査 担 当：同調査第四班長 出原恵三、同専門調査員 谷脇正、同主任調査員 久家隆芳、同調査員 松本安紀彦、技術補助員 坂本憲彦、測量補助員 岩原明美

事務補助員：奥宮千恵子

### 平成24年度

総 括：財団法人高知県文化財団埋蔵文化財センター 所長 森田尚宏

総 務：同次長 嶋崎るり子、同総務課長 里見敦典、同主任 黒岩千恵

調 査 総 括：同調査課長兼企画調整班長 廣田佳久

調 査 担 当：同調査第一班長 出原恵三、同調査第二班長 池澤俊幸、同調査第三班長 坂本憲昭、同専門調査員 北井達朗・小山求・茂松清志・武森清幸、同調査員 山崎孝盛・菊池直樹・松本安紀彦、技術補助員 坂本憲彦・大賀幸子・片岡和美・矢野雅子、測量補助員 岩原明美・横山愛・岡林真史・大野大

事務補助員：奥宮千恵子

## 例言

### 平成25年度

総括：公益財団法人高知県文化財団埋蔵文化財センター所長 森田尚宏  
総務：同次長 宮田謙輔, 同総務課長 野田美智子, 同主任 黒岩千恵  
整理総括：同調査課長 廣田佳久  
調査担当：同調査第二班長 池澤俊幸, 同調査員 山崎孝盛, 調査補助員 岡林真史  
整理担当：同調査第二班長 池澤俊幸, 同主任調査員 久家隆芳  
事務補助員：廣内美登利

### 平成26年度

総括：公益財団法人高知県文化財団埋蔵文化財センター所長 森田尚宏  
総務：同次長兼調査課長 松田直則, 同総務課長 野田美智子, 同主任 黒岩千恵  
整理担当：同調査第一班長 出原恵三, 同調査第二班長 池澤俊幸,  
同主任調査員 久家隆芳, 調査補助員 大賀幸子・前田早苗・岡林真史  
事務補助員：廣内美登利

5. 本書の執筆は、本文目次に記した。各調査担当が行った基礎整理、遺構の位置づけ及び一部の調査区については選別された遺物を引き継ぎ、その後の整理作業を行った。第IV章はパリノ・サーヴェイ株式会社が行った。編集は整理担当調査員、補助員が行い、久家がとりまとめた。現場写真は各調査員が撮影し、遺物写真は出原・池澤・岡林・久家が撮影した。
6. 遺構についてはST(竪穴建物跡), SB(掘立柱建物跡), SA(柵列跡), SK(土坑), SD(溝跡), SE(井戸跡), P(柱穴), SX(性格不明遺構)等で表記した。また、掲載している遺構平面図の縮尺はそれぞれに記しており、方位Nは世界測地系のGNである。遺構の主軸方位については、真北から計測した。
7. 遺物については弥生土器は縮尺1/4, 須恵器・土師器・土師質土器は縮尺1/3を基本として掲載し、一部の遺物については適宜縮尺を変えているが、各挿図にはスケールを表記している。
8. 現地調査及び報告書作成にあたっては、下記の方々のご指導及び貴重なご教示、ご助言を賜った。記して感謝の意を表したい。  
梅木謙一氏((公財)松山市文化・スポーツ振興財団), 中野良一氏・松村さを里氏((公財)愛媛県埋蔵文化財センター), 山元素子氏(香川県埋蔵文化財センター), 大北和美氏・植地岳彦氏((公財)徳島県埋蔵文化財センター), 市村慎太郎氏(大阪府立近つ飛鳥博物館), 中村耕治氏((公財)鹿児島県文化振興財団埋蔵文化財調査センター), 山口俊博氏・河野賢太郎氏(鹿児島県鹿屋市教育委員会), 内村憲和氏(鹿児島県曾於郡大崎町教育委員会), 吉倉紳一氏(国立大学法人 高知大学), パリノ・サーヴェイ株式会社, 公益財団法人高知県文化財団埋蔵文化財センターの諸氏
9. 調査にあたっては、国土交通省四国地方整備局土佐国道事務所のご協力を頂いた。また、地元住民の方々には遺跡に対するご理解とご協力を頂き、厚く感謝の意を表したい。
10. 発掘作業・整理作業について、多くの方々に労を厭わず作業に従事して頂いた。厚く感謝の意を表したい。
11. 出土遺物は平成22年度を「10 - 3NTK」, 平成23年度を「11 - 3NTK」, 平成24年度を「12 - 1NTK」, 平成25年度を「13 - 1NTK」と注記し、高知県立埋蔵文化財センターで保管している。

# 本文目次

## 第1分冊

第I章 田村遺跡群周辺の地理的・歴史的環境	1
1. 地理的環境(久家)	1
2. 歴史的環境(久家)	1
第II章 調査に至る経過と調査の方法	5
1. 調査に至る経過(久家)	5
2. 調査の方法(久家)	5
第III章 調査成果	9
1. I区(久家)	9
2. II-1・2区他(池澤)	77
3. II-3-1区(久家)	159
4. II-3-4区(出原)	167
5. II-4区(久家)	173
6. III-1区(池澤)	193
7. III-2区(出原)	259
8. III-3-1~5区(久家)	293
9. III-3-6・7・III-4E区(池澤)	333
10. III-4W区(出原)	355

## 第2分冊

11. IV-1区(久家)	367
12. IV-2区(久家)	433
13. IV-3・4・8区(池澤)	461
14. IV-5区(出原)	591
15. IV-6区(久家)	643
16. IV-7区(久家)	669
第IV章 田村遺跡群Ⅲの自然科学分析	
1. はじめに	679
2. 田村遺跡群Ⅲの古環境復元	679
3. 田村遺跡群Ⅲの植物利用	700
第V章 考察	
1. 中期末の土器と弥生時代の遺構と田村遺跡の消長(出原)	715
2. 古代を中心とした田村遺跡群北部の様相-古墳時代末から中世前期-(池澤)	727
3. 弥生時代中期(Ⅲ期)の遺構と遺物(久家)	737
4. 弥生時代後期末~古墳時代前期初頭の遺構と遺物(久家)	743

## 第3分冊

写真図版

# 挿図目次

## 第 I 章

図 1	南国市位置図.....	1
図 2	田村遺跡群周辺の遺跡分布図(S=1/50,000).....	2

## 第 II 章

図 1	調査区配置図.....	6
-----	-------------	---

## 第 III 章

### I 区

図 I - 1	I - 1 区南壁断面図.....	9
図 I - 2	I - 2 - 3 区西壁断面図.....	10
図 I - 3	I - 5 ~ 9 区南壁断面図.....	11
図 I - 4	I - 10 区南壁・東壁断面図.....	13
図 I - 5	I - 1 - 3 区 ST1 平面図・断面図・遺物実測図.....	16
図 I - 6	I - 1 - 3 区 ST2 平面図・断面図.....	17
図 I - 7	I - 1 - 3 区 SD1 ~ 4 断面図・遺物実測図.....	17
図 I - 8	I - 1 - 3 区 P28 平面図・エレベーション図・遺物実測図.....	17
図 I - 9	I - 2 - 0・1 区 ST1 平面図・断面図.....	18
図 I - 10	I - 2 - 0・1 区 ST1 遺物実測図.....	19
図 I - 11	I - 2 - 0・1 区 SB1 平面図・エレベーション図.....	20
図 I - 12	I - 2 - 0・1 区 SK1 平面図・断面図・遺物実測図.....	20
図 I - 13	I - 2 - 0・1 区 SK3 平面図・断面図・遺物実測図.....	22
図 I - 14	I - 2 - 0・1 区 SK4 平面図・エレベーション図・遺物実測図.....	23
図 I - 15	I - 2 - 0・1 区 SK7・12・14 平面図・断面図・遺物実測図.....	24
図 I - 16	I - 2 - 0・1 区 SK9 平面図・断面図・遺物実測図.....	24
図 I - 17	I - 2 - 0・1 区 SK10 平面図・断面図・遺物出土状況図.....	25
図 I - 18	I - 2 - 0・1 区 SK10 遺物実測図 1.....	26
図 I - 19	I - 2 - 0・1 区 SK10 遺物実測図 2.....	27
図 I - 20	I - 2 - 0・1 区 SK12 遺物実測図.....	27
図 I - 21	I - 2 - 0・1 区 SD3・4・6 ~ 9 断面図・遺物実測図.....	28
図 I - 22	I - 2 - 0・1 区 SR1 断面図・遺物実測図.....	29
図 I - 23	I - 2 - 0・1 区遺構外出土遺物実測図.....	30
図 I - 24	I - 2 - 2 区 SK1 平面図・断面図.....	32
図 I - 25	I - 2 - 2 区 SD1・3 断面図・エレベーション図・遺物実測図.....	32
図 I - 26	I - 2 - 2 区 SR1 断面図・遺物実測図.....	33
図 I - 27	I - 2 - 2 区遺構外出土遺物実測図.....	33
図 I - 28	I - 2 - 3 区 SD1 断面図.....	34

図 I - 29	I - 2 - 3区SR1 遺物実測図	34
図 I - 30	I - 3区SD1 断面図	35
図 I - 31	I - 3区SD1・SR1 断面図・遺物実測図	36
図 I - 32	I - 3区SR2 断面図・遺物実測図	37
図 I - 33	I - 4 - 1区ST1 遺物出土状況図	38
図 I - 34	I - 4 - 1区ST1 平面図・断面図	39
図 I - 35	I - 4 - 1区ST1 遺物実測図1	40
図 I - 36	I - 4 - 1区ST1 遺物実測図2	41
図 I - 37	I - 4 - 1区ST1 遺物実測図3	43
図 I - 38	I - 4 - 1区ST1 遺物実測図4	44
図 I - 39	I - 4 - 1区ST1 遺物実測図5	46
図 I - 40	I - 4 - 1区ST1 遺物実測図6	47
図 I - 41	I - 4 - 1区ST1 遺物実測図7	48
図 I - 42	I - 4 - 1区ST1 遺物実測図8	50
図 I - 43	I - 4 - 1区ST1 遺物実測図9	51
図 I - 44	I - 4 - 1区ST1 遺物実測図10	52
図 I - 45	I - 4 - 1区SB1 平面図・エレベーション図	53
図 I - 46	I - 4 - 1区SK1 平面図・断面図・遺物実測図	54
図 I - 47	I - 4 - 1区SD2・4 断面図	54
図 I - 48	I - 4 - 1区SR1・2 断面図・遺物実測図	55
図 I - 49	I - 4 - 1区遺構外出土遺物実測図	55
図 I - 50	I - 4 - 2区SD2・3・7 断面図	56
図 I - 51	I - 4 - 2区SD3 断面図・遺物実測図	57
図 I - 52	I - 4 - 2区SD10 遺物実測図	58
図 I - 53	I - 4 - 2区SD16 遺物実測図	58
II 区		
II - 1 - 1～3区		
図 II - 1	1区 遺構配置図	78
図 II - 2	1 - 1区 基本層準図	79
図 II - 3	1 - 2区 基本層準図	80
図 II - 4	1 - 2区 SB1 平断面図	81
図 II - 5	1区 SD2 断面図	82
図 II - 6	1 - 1区 SK1 平断面図	83
図 II - 7	1 - 1区 SK1b 出土遺物	84
図 II - 8	1 - 2区 SX15・16, SZ1 平断面図	85
図 II - 9	環濠屋敷区 遺構配置図	86
図 II - 10	2区 基本層準図1	87

挿図目次

図Ⅱ－11	2区 基本層準図2.....	88
図Ⅱ－12	2区 SB1・2平断面図.....	89
図Ⅱ－13	2区 SB3・4平断面図.....	90
図Ⅱ－14	2区 SB5平断面図.....	91
図Ⅱ－15	2区 SB6.....	92
図Ⅱ－16	2区 SB7・8平断面図.....	93
図Ⅱ－17	2区 SB9・11平断面図.....	94
図Ⅱ－18	2区 SB10平断面図.....	95
図Ⅱ－19	2区 SB12平断面図.....	96
図Ⅱ－20	2区 SB13・14平断面図.....	97
図Ⅱ－21	2－6区 SB15平断面図.....	98
図Ⅱ－22	2－6区 SB16平断面図.....	99
図Ⅱ－23	2－6区 SB17・20平断面図.....	100
図Ⅱ－24	2－6区 SB18平断面図.....	101
図Ⅱ－25	2－6区 SB19.....	102
図Ⅱ－26	2－6区 SA1平断面図.....	103
図Ⅱ－27	2－1区 SD1・SX1断面図・出土遺物.....	104
図Ⅱ－28	2－4区 SD1・2断面図・出土遺物.....	105
図Ⅱ－29	2区 SD3・4平断面図.....	106
図Ⅱ－30	2区 SD3・4出土遺物.....	107
図Ⅱ－31	2区 SK・Pit出土遺物.....	108
図Ⅱ－32	2－2区 遺構配置図・西壁断面図.....	110
図Ⅱ－33	2－2区 SX1・2平断面図.....	111
図Ⅱ－34	2－2区 SX1出土遺物.....	112
図Ⅱ－35	2－7区 遺構配置図・南壁断面図.....	113
図Ⅱ－36	2－7区 SK1.....	114
図Ⅱ－37	3－3区 遺構配置図.....	116
図Ⅱ－38	3－2・3区 SD・ピット断面図・出土遺物.....	117
図Ⅱ－39	3－6区 遺構配置図.....	118
図Ⅱ－40	3－6区 SB1・2平断面図.....	119
図Ⅱ－41	3－6区 SK12・14.....	120
図Ⅱ－42	3－6区 SK20・SX3.....	121
図Ⅱ－43	3－6区 SX1・P36・44・ハンダ遺構3.....	122
図Ⅱ－44	東西横断SD断面図.....	123
図Ⅱ－45	東西横断SD遺物出土状況.....	124
図Ⅱ－46	東西横断SD出土遺物1.....	125
図Ⅱ－47	東西横断SD出土遺物2.....	126

図Ⅱ-48	東西横断SD出土遺物3.....	127
図Ⅱ-49	東西横断SD出土遺物4.....	128
図Ⅱ-50	東西横断SD出土遺物5.....	129
Ⅱ-3-1区		
図Ⅱ-51	SK3・10・11・16平面図・断面図.....	160
図Ⅱ-52	SK13平面図・断面図・遺物実測図.....	161
図Ⅱ-53	SD2・4・8断面図・エレベーション図・遺物実測図.....	162
図Ⅱ-54	P14・207・291遺物実測図.....	162
図Ⅱ-55	遺構外出土遺物実測図.....	163
Ⅱ-3-4区		
図Ⅱ-56	Ⅱ-3-4区西壁・南壁基本層序.....	167
図Ⅱ-57	Ⅱ-3-4区SK2・SD1平面図・断面図・石列出土状況図.....	168
図Ⅱ-58	Ⅱ-3-4区SD3～6・P9・12平面図・断面図・エレベーション図・遺物実測図.....	169
Ⅱ-4区		
図Ⅱ-59	Ⅱ-4-1区南壁.....	173
図Ⅱ-60	Ⅱ-4-3区北壁.....	174
図Ⅱ-61	Ⅱ-4-1区SB1平面図・断面図・エレベーション図.....	176
図Ⅱ-62	Ⅱ-4-1区SB2平面図・断面図・エレベーション図.....	177
図Ⅱ-63	Ⅱ-4-1区SB3平面図・断面図・エレベーション図.....	178
図Ⅱ-64	Ⅱ-4-1区SB4平面図・断面図・エレベーション図.....	179
図Ⅱ-65	Ⅱ-4-1区SB5平面図・断面図・エレベーション図.....	180
図Ⅱ-66	Ⅱ-4-1区SA1平面図・断面図.....	181
図Ⅱ-67	Ⅱ-4-1区SK6・8・9平面図・断面図・遺物実測図.....	181
図Ⅱ-68	Ⅱ-4-1区SD1・2断面図・遺物実測図.....	182
図Ⅱ-69	Ⅱ-4-1区P286・297平面図・断面図・エレベーション図・遺物実測図.....	183
図Ⅱ-70	Ⅱ-4-2区SA1・2平面図・エレベーション図.....	184
図Ⅱ-71	Ⅱ-4-3区ST1平面図・断面図.....	185
図Ⅱ-72	Ⅱ-4-3区SB1平面図・エレベーション図・遺物実測図.....	186
図Ⅱ-73	Ⅱ-4-3区SB2平面図・エレベーション図.....	186
図Ⅱ-74	Ⅱ-4-3区SK2・3・5・6平面図・断面図.....	187
図Ⅱ-75	Ⅱ-4-3区SE1平面図・断面図.....	188
図Ⅱ-76	Ⅱ-4-3区SD1・2断面図.....	188
図Ⅱ-77	Ⅱ-4-3区SX1・2平面図・断面図.....	189
図Ⅱ-78	Ⅱ-4-3区SX3平面図・断面図.....	189
図Ⅱ-79	Ⅱ-4-3区_P67平面図・エレベーション図・遺物実測図.....	190

插图目次

Ⅲ区

Ⅲ-1区

图Ⅲ-1	2区 基本層準図	194
图Ⅲ-2	2·3区 基本層準図	195
图Ⅲ-3	4·5区 基本層準図	196
图Ⅲ-4	2·3区 ST1平断面図	197
图Ⅲ-5	2区 ST1出土遺物	198
图Ⅲ-6	3·4区 ST2平断面図	199
图Ⅲ-7	3·4区 ST2出土遺物	200
图Ⅲ-8	1区 ST3平断面図	202
图Ⅲ-9	1区 ST3出土遺物	203
图Ⅲ-10	1区 ST4平断面図	204
图Ⅲ-11	1区 ST4出土遺物	205
图Ⅲ-12	0区 ST5	206
图Ⅲ-13	0区 ST6·7	207
图Ⅲ-14	1区 SB2	208
图Ⅲ-15	1·2区 SB3·SK15	209
图Ⅲ-16	2区 SB4·SK7	210
图Ⅲ-17	2区 SB5·6平断面図	211
图Ⅲ-18	2区 SB7·8平面図	212
图Ⅲ-19	2区 SB7a·b平断面図	213
图Ⅲ-20	2区 SB8平断面図	214
图Ⅲ-21	2·3区 SB9·10平断面図	215
图Ⅲ-22	3区 SB11·12平断面図	216
图Ⅲ-23	3区 SB13·SK33平断面図	217
图Ⅲ-24	3区 SB14·SK34	218
图Ⅲ-25	4区 SB15平断面図	219
图Ⅲ-26	4区 SB16平断面図	220
图Ⅲ-27	5区 SB17平断面図	221
图Ⅲ-28	2区 SA1平断面図	221
图Ⅲ-29	0区 SK1·2·16	222
图Ⅲ-30	0区 SK6~9	223
图Ⅲ-31	0区 SK12·13	224
图Ⅲ-32	0·2区 SK14·15·17	225
图Ⅲ-33	2区 SK1	226
图Ⅲ-34	2区 SK2·19	227
图Ⅲ-35	2区 SK4·5·13	228

図Ⅲ－36	2区 SK14.....	229
図Ⅲ－37	2区 SK16・18平断面図.....	230
図Ⅲ－38	3区 SK21・22.....	231
図Ⅲ－39	5区 SK35.....	232
図Ⅲ－40	1区 SK41.....	233
図Ⅲ－41	1区 SK51・52.....	234
図Ⅲ－42	1区 SK53平断面図.....	235
図Ⅲ－43	4区 SK60・61.....	236
図Ⅲ－44	4区 SK61出土遺物.....	237
図Ⅲ－45	0・2区 SD1・2・3断面図・出土遺物.....	242
図Ⅲ－46	0区 P25・26平断面図.....	243
図Ⅲ－47	0・1区 包含層等出土遺物.....	244
Ⅲ－2区		
図Ⅲ－48	調査区西壁・北壁基本層序.....	259
図Ⅲ－49	ST1平面図・断面図・遺物実測図1.....	261
図Ⅲ－50	ST1遺物実測図2.....	262
図Ⅲ－51	ST1遺物実測図3.....	263
図Ⅲ－52	ST2平面図・断面図・エレベーション図・遺物実測図.....	264
図Ⅲ－53	SB1・SK2・P11平面図・断面図・エレベーション図・遺物実測図.....	265
図Ⅲ－54	SB2・SK31平面図・断面図・エレベーション図・遺物実測図.....	266
図Ⅲ－55	SB3・SK28平面図・断面図・エレベーション図・遺物実測図.....	268
図Ⅲ－56	SB4・SK27平面図・断面図・エレベーション図.....	269
図Ⅲ－57	SB5平面図・エレベーション図.....	269
図Ⅲ－58	SK1平面図・断面図・遺物実測図.....	270
図Ⅲ－59	SK3平面図・断面図・遺物実測図.....	270
図Ⅲ－60	SK4平面図・断面図・遺物実測図.....	271
図Ⅲ－61	SK5平面図・断面図・遺物実測図.....	271
図Ⅲ－62	SK6・7平面図・断面図・エレベーション図・遺物実測図.....	272
図Ⅲ－63	SK8平面図・断面図・遺物実測図.....	272
図Ⅲ－64	SK10～14平面図・断面図.....	273
図Ⅲ－65	SK10・12・13遺物実測図1.....	274
図Ⅲ－66	SK10・12・13遺物実測図2.....	275
図Ⅲ－67	SK15平面図・断面図・遺物実測図.....	276
図Ⅲ－68	SK16平面図・断面図・遺物実測図.....	276
図Ⅲ－69	SK17平面図・断面図・遺物実測図.....	277
図Ⅲ－70	SK18平面図・断面図・遺物実測図.....	278
図Ⅲ－71	SK19平面図・断面図・遺物実測図.....	279

挿図目次

図Ⅲ - 72	SK21平面図・断面図・遺物実測図.....	280
図Ⅲ - 73	SK22・23平面図・断面図・エレベーション図・遺物実測図.....	280
図Ⅲ - 74	SK24～26・29平面図・断面図・エレベーション図・遺物実測図.....	281
図Ⅲ - 75	SK32平面図・断面図・遺物実測図.....	282
図Ⅲ - 76	SD1・2・P6平面図・断面図・エレベーション図・遺物実測図及び包含層遺物実測図.....	283
Ⅲ-3-1～5区		
図Ⅲ - 77	Ⅲ-3-2・3・5区北壁.....	295
図Ⅲ - 78	Ⅲ-3-1区ST1平面図・断面図.....	296
図Ⅲ - 79	Ⅲ-3-1区ST2平面図・断面図・遺物実測図.....	297
図Ⅲ - 80	Ⅲ-3-1区ST3平面図・断面図・遺物実測図.....	298
図Ⅲ - 81	Ⅲ-3-1区ST4平面図・断面図・遺物実測図.....	299
図Ⅲ - 82	Ⅲ-3-3区ST1平面図・断面図・遺物実測図.....	300
図Ⅲ - 83	Ⅲ-3-3区ST2平面図・断面図・遺物実測図.....	300
図Ⅲ - 84	SB1平面図・断面図・エレベーション図・遺物実測図.....	301
図Ⅲ - 85	SB2平面図・エレベーション図.....	302
図Ⅲ - 86	SB3平面図・エレベーション図・遺物実測図.....	303
図Ⅲ - 87	SB4平面図・断面図・エレベーション図.....	304
図Ⅲ - 88	SB5平面図・断面図・エレベーション図.....	305
図Ⅲ - 89	SB6平面図・エレベーション図・遺物実測図.....	306
図Ⅲ - 90	SB7平面図・エレベーション図・遺物実測図.....	307
図Ⅲ - 91	SB8平面図・断面図・エレベーション図・遺物実測図.....	308
図Ⅲ - 92	SB9平面図・断面図・エレベーション図.....	309
図Ⅲ - 93	SB10平面図・断面図・エレベーション図・遺物実測図.....	310
図Ⅲ - 94	SB11平面図・エレベーション図.....	311
図Ⅲ - 95	SB12平面図・断面図・エレベーション図.....	312
図Ⅲ - 96	SA1～3平面図・断面図・エレベーション図.....	313
図Ⅲ - 97	SA4・5平面図・エレベーション図.....	314
図Ⅲ - 98	Ⅲ-3-3区SK1・8・9平面図・エレベーション図・遺物実測図.....	315
図Ⅲ - 99	Ⅲ-3-3区SK10平面図・エレベーション図・遺物実測図.....	316
図Ⅲ - 100	Ⅲ-3-4区SK1・10～13平面図・断面図・エレベーション図・遺物実測図.....	317
図Ⅲ - 101	Ⅲ-3-4区SK12平面図・断面図・遺物実測図.....	318
図Ⅲ - 102	Ⅲ-3-5区SK2平面図・断面図・遺物実測図.....	319
図Ⅲ - 103	Ⅲ-3-5区SK3平面図・断面図・遺物実測図.....	320
図Ⅲ - 104	Ⅲ-3-5区SK6平面図・断面図.....	320
図Ⅲ - 105	Ⅲ-3区SD断面図・遺物実測図.....	321
図Ⅲ - 106	Ⅲ-3-5区SX1・2平面図・断面図・エレベーション図・遺物実測図.....	322
図Ⅲ - 107	Ⅲ-3区ピット平面図・エレベーション図・遺物実測図.....	323
図Ⅲ - 108	遺構外出土遺物実測図.....	324

Ⅲ-3-6・7区・Ⅲ-4E区	
図Ⅲ-109	3-6・7/4E区 上面遺構配置図.....333
図Ⅲ-110	3-6・7/4E区 中面遺構配置図.....334
図Ⅲ-111	3-6・7/4E区 下面遺構配置図.....335
図Ⅲ-112	3-6区 基本層準図.....337
図Ⅲ-113	3-6区 基本層準図・SD5.....338
図Ⅲ-114	3-7区 基本層準図.....339
図Ⅲ-115	4E区 基本層準図.....341
図Ⅲ-116	4E区西端 基本層準図1.....342
図Ⅲ-117	4E区西端 基本層準図2.....343
図Ⅲ-118	3-6区 水田跡断面図.....345
図Ⅲ-119	4E区東北隅 基本層準図.....346
図Ⅲ-120	4E区 SB・ビット平断面図.....347
図Ⅲ-121	3-6・4E区 遺構出土遺物.....348
図Ⅲ-122	3-6・4E区 包含層等出土遺物.....349
図Ⅲ-123	3-6区SE1平断面図.....350
Ⅲ-4W区	
図Ⅲ-124	調査区西壁・北壁基本層序.....355
図Ⅲ-125	ST1平面図・断面図・遺物実測図.....356
図Ⅲ-126	ST2・4平面図・断面図・遺物実測図.....357
図Ⅲ-127	ST3平面図・断面図・遺物実測図.....358
図Ⅲ-128	SB1平面図・断面図・エレベーション図・遺物実測図.....359
図Ⅲ-129	SB2平面図・エレベーション図・遺物実測図.....360
図Ⅲ-130	SK7・13・22・31平面図・断面図・エレベーション図・遺物実測図.....361
図Ⅲ-131	SK34・38・39・SD5～7平面図・断面図・エレベーション図・遺物実測図.....362
図Ⅲ-132	ビット遺物実測図.....363
第2分冊	
Ⅳ-1区	
図Ⅳ-1	ST1平面図・断面図.....367
図Ⅳ-2	ST1遺物実測図1.....368
図Ⅳ-3	ST1遺物実測図2.....369
図Ⅳ-4	ST2平面図・断面図.....371
図Ⅳ-5	ST2遺物実測図.....372
図Ⅳ-6	ST3平面図・断面図・遺物実測図.....374
図Ⅳ-7	ST4平面図・断面図・遺物実測図.....375
図Ⅳ-8	SB1平面図・断面図.....376

挿図目次

図Ⅳ－ 9	SB2平面図・断面図・エレベーション図	377
図Ⅳ－10	SB3平面図・断面図・エレベーション図・遺物実測図	378
図Ⅳ－11	SB4平面図・断面図・エレベーション図	379
図Ⅳ－12	SB5平面図・断面図・エレベーション図・遺物実測図	380
図Ⅳ－13	SB6平面図・断面図・エレベーション図・遺物実測図	381
図Ⅳ－14	SK1～4平面図・断面図・遺物実測図	383
図Ⅳ－15	SK5・9平面図・断面図・遺物出土状況図・遺物実測図	385
図Ⅳ－16	SK6平面図・断面図・遺物実測図	386
図Ⅳ－17	SK7・8・11・12・15・22・24・30・31平面図・断面図	387
図Ⅳ－18	SK10平面図・断面図・遺物実測図	388
図Ⅳ－19	SK13平面図・断面図・遺物実測図1	389
図Ⅳ－20	SK13遺物実測図2	390
図Ⅳ－21	SK13遺物実測図3	391
図Ⅳ－22	SK14平面図・断面図・遺物実測図	392
図Ⅳ－23	SK16平面図・断面図・遺物実測図	393
図Ⅳ－24	SK17遺物実測図	393
図Ⅳ－25	SK23遺物実測図	393
図Ⅳ－26	SK25平面図・断面図・遺物実測図	394
図Ⅳ－27	SK26平面図・断面図・遺物実測図	395
図Ⅳ－28	SK27平面図・断面図・遺物実測図	395
図Ⅳ－29	SK29平面図・断面図	396
図Ⅳ－30	SK29遺物実測図1	397
図Ⅳ－31	SK29遺物実測図2	398
図Ⅳ－32	SK32～34・36・37・40・41・44～46平面図・断面図	399
図Ⅳ－33	SK35平面図・断面図・遺物実測図	400
図Ⅳ－34	SK47平面図・断面図・遺物実測図	401
図Ⅳ－35	SK48平面図・断面図・遺物実測図	402
図Ⅳ－36	SK49平面図・エレベーション図・遺物実測図	404
図Ⅳ－37	SD1断面図・遺物実測図	405
図Ⅳ－38	SD2断面図・遺物実測図	406
図Ⅳ－39	SD6断面図・遺物実測図1	407
図Ⅳ－40	SD6遺物実測図2	408
図Ⅳ－41	SD7エレベーション図・遺物実測図	409
図Ⅳ－42	SD10遺物実測図	410
図Ⅳ－43	SD11・12断面図・遺物実測図	410
図Ⅳ－44	SD13断面図・遺物実測図	412
図Ⅳ－45	SR1断面図・遺物実測図	413

図Ⅳ－46	SX1遺物実測図.....	414
図Ⅳ－47	P34遺物出土状況図・遺物実測図.....	414
図Ⅳ－48	ピット出土遺物実測図.....	415
図Ⅳ－49	遺構外出土遺物実測図.....	417
Ⅳ－2区		
図Ⅳ－50	基本層序.....	433
図Ⅳ－51	SK1・3平面図・断面図・遺物実測図.....	434
図Ⅳ－52	SK2平面図・断面図・遺物実測図.....	435
図Ⅳ－53	SK4平面図・エレベーション図・遺物実測図.....	436
図Ⅳ－54	SK5平面図・断面図・遺物実測図.....	436
図Ⅳ－55	SK6平面図・断面図.....	437
図Ⅳ－56	SK7平面図・断面図・遺物実測図.....	437
図Ⅳ－57	SK8平面図・エレベーション図・遺物実測図.....	438
図Ⅳ－58	SK9・10平面図・エレベーション図.....	438
図Ⅳ－59	SD1エレベーション図・遺物実測図.....	439
図Ⅳ－60	SD3断面図, SD4・7エレベーション図.....	440
図Ⅳ－61	SR1遺物実測図1.....	441
図Ⅳ－62	SR1遺物実測図2.....	442
図Ⅳ－63	SR1遺物実測図3.....	443
図Ⅳ－64	SR1遺物実測図4.....	444
図Ⅳ－65	SR1遺物実測図5.....	445
図Ⅳ－66	SR1遺物実測図6.....	446
図Ⅳ－67	SR1遺物実測図7.....	447
図Ⅳ－68	SR1遺物実測図8.....	448
図Ⅳ－69	SR1遺物実測図9.....	449
図Ⅳ－70	ピット平面図・断面図・エレベーション図・遺物実測図.....	450
図Ⅳ－71	遺構外出土遺物実測図.....	451
Ⅳ－3・4・8区		
図Ⅳ－72	3区 遺構配置図.....	462
図Ⅳ－73	3区 基本層準図.....	463
図Ⅳ－74	3区 SK1・4～6.....	464
図Ⅳ－75	3区 SK7・SX1.....	465
図Ⅳ－76	3区 SR1上層(1)・SD1断面図・出土遺物.....	466
図Ⅳ－77	3区 SR1上層(2)出土遺物.....	467
図Ⅳ－78	3区 SR1上層(3)・下層(1)出土遺物.....	468
図Ⅳ－79	3区 SR1下層(2)出土遺物.....	469
図Ⅳ－80	3区 SR1下層(3)出土遺物.....	470

插图目次

图IV - 81	3区 SX2.....	471
图IV - 82	3区 包含层等出土遗物.....	471
图IV - 83	4区 基本层准图1.....	473
图IV - 84	4区 基本层准图2.....	474
图IV - 85	4区 SR2·3断面图.....	475
图IV - 86	4区 ST1平断面图.....	476
图IV - 87	4区 ST1出土遗物.....	477
图IV - 88	4区 ST2平断面图.....	478
图IV - 89	4区 ST2出土遗物.....	479
图IV - 90	4区 SK1·4.....	480
图IV - 91	4区 SK52.....	481
图IV - 92	4区 SK57.....	482
图IV - 93	4区 SK72.....	483
图IV - 94	4区 SK75·76.....	484
图IV - 95	4区 SK77(1).....	485
图IV - 96	4区 SK77(2)出土遗物.....	486
图IV - 97	4区 SK77(3)出土遗物.....	487
图IV - 98	4区 SD7断面图.....	488
图IV - 99	4区 SX5.....	488
图IV - 100	4区 土器集中1平面图·出土遗物.....	489
图IV - 101	4区 土器集中1出土遗物.....	490
图IV - 102	4区 土器集中3平面图·出土遗物.....	491
图IV - 103	4区 SR2·3出土遗物(1).....	492
图IV - 104	4区 SR3出土遗物(2).....	493
图IV - 105	4区 SB1.....	494
图IV - 106	4区 SB2.....	495
图IV - 107	4区 SB3.....	496
图IV - 108	4区 SB4·5平断面图.....	497
图IV - 109	4区 SB10平断面图.....	498
图IV - 110	4区 SB4·5·10出土遗物.....	499
图IV - 111	4区 SB6.....	500
图IV - 112	4区 SB7·SA1.....	501
图IV - 113	4区 SB9.....	502
图IV - 114	4区 SB12.....	503
图IV - 115	4区 SB11·13.....	504
图IV - 116	4区 SB14平断面图.....	505
图IV - 117	4区 SB15平断面图.....	506

図Ⅳ - 118	4区 SB16 .....	507
図Ⅳ - 119	4区 SB17・18.....	508
図Ⅳ - 120	4区 SB24平断面図.....	509
図Ⅳ - 121	4区 SB25・26.....	510
図Ⅳ - 122	4区 SK2・3.....	511
図Ⅳ - 123	4区 SK24・35・40・41.....	512
図Ⅳ - 124	4区 SK43・48・54.....	513
図Ⅳ - 125	4区 SK56・68・84.....	514
図Ⅳ - 126	4区 SD1・5・8.....	515
図Ⅳ - 127	4区 SX2・Pit出土遺物.....	516
図Ⅳ - 128	4区 Pit出土遺物 .....	517
図Ⅳ - 129	4区 Pit・包含層出土遺物.....	518
図Ⅳ - 130	8区 基本層準図.....	519
図Ⅳ - 131	8区 SK2.....	520
図Ⅳ - 132	8区 SK6.....	521
図Ⅳ - 133	8区 SK6出土遺物 .....	522
図Ⅳ - 134	8区 SD2断面図・出土遺物 .....	523
図Ⅳ - 135	8区 SX1・SX4.....	524
図Ⅳ - 136	8区 SX5.....	525
図Ⅳ - 137	8区 SB19 .....	526
図Ⅳ - 138	8区 SB20・SA2 .....	527
図Ⅳ - 139	8区 SB21 .....	528
図Ⅳ - 140	8区 SB22・23.....	529
図Ⅳ - 141	8区 SB27 .....	530
図Ⅳ - 142	8区 SB28 .....	531
図Ⅳ - 143	8区 SB29 .....	532
図Ⅳ - 144	8区 SE1・SX6平断面図.....	533
図Ⅳ - 145	8区 Pit出土遺物 .....	533
Ⅳ - 5区		
図Ⅳ - 146	調査区南壁基本層序.....	591
図Ⅳ - 147	ST1・10平面図・断面図.....	592
図Ⅳ - 148	ST1遺物実測図.....	593
図Ⅳ - 149	ST2平面図・断面図・エレベーション図.....	594
図Ⅳ - 150	ST2遺物実測図.....	595
図Ⅳ - 151	ST3平面図・断面図・エレベーション図・遺物実測図.....	596
図Ⅳ - 152	ST4平面図・断面図・遺物実測図.....	597
図Ⅳ - 153	ST5平面図・断面図・エレベーション図.....	598

挿図目次

図IV - 154	ST5出土遺物位置図.....	599
図IV - 155	ST5遺物実測図1.....	600
図IV - 156	ST5遺物実測図2.....	601
図IV - 157	ST5遺物実測図3.....	602
図IV - 158	ST5遺物実測図4.....	603
図IV - 159	ST5遺物実測図5.....	604
図IV - 160	ST6平面図・断面図.....	606
図IV - 161	ST6遺物実測図1.....	607
図IV - 162	ST6遺物実測図2.....	608
図IV - 163	ST7平面図・断面図・遺物実測図.....	609
図IV - 164	ST8平面図・断面図・エレベーション図・遺物実測図.....	611
図IV - 165	ST9平面図・断面図・遺物実測図.....	612
図IV - 166	SB1・SK6平面図・断面図・エレベーション図及びSK6遺物実測図.....	613
図IV - 167	SB2平面図・エレベーション図.....	614
図IV - 168	SK1平面図・断面図.....	614
図IV - 169	SK2平面図・エレベーション図・遺物実測図.....	615
図IV - 170	SK3平面図・断面図・遺物実測図.....	615
図IV - 171	SK5平面図・エレベーション図・遺物実測図.....	616
図IV - 172	SK7平面図・エレベーション図及びSK8平面図・断面図・遺物実測図.....	617
図IV - 173	SK9～12平面図・断面図及びSK12遺物実測図.....	618
図IV - 174	SK13～17平面図・断面図・遺物実測図.....	619
図IV - 175	SK18・19平面図・断面図・エレベーション図・遺物実測図.....	620
図IV - 176	SK20・21平面図・断面図・遺物実測図.....	621
図IV - 177	SK22～27平面図・断面図・遺物実測図.....	622
図IV - 178	SK28～30平面図・断面図及びSK28・29遺物実測図.....	623
図IV - 179	SK30遺物実測図.....	625
図IV - 180	SD1～3断面図及びSD2・3遺物実測図.....	626
図IV - 181	P1平面図・エレベーション図及びピット遺物実測図.....	628
IV - 6区		
図IV - 182	調査区南壁基本層序.....	643
図IV - 183	ST1平面図・断面図・遺物実測図.....	645
図IV - 184	ST2平面図・遺物実測図.....	646
図IV - 185	SB1平面図・エレベーション図.....	646
図IV - 186	SB2・SK4・P26平面図・断面図・エレベーション図・遺物実測図.....	647
図IV - 187	SB3平面図・エレベーション図.....	648
図IV - 188	SB4平面図・エレベーション図.....	649
図IV - 189	SB5平面図・エレベーション図.....	649

図Ⅳ－190	SK1～3・8・10・15平面図・断面図・エレベーション図・遺物実測図.....	650
図Ⅳ－191	SK9平面図・断面図・遺物出土状況図.....	651
図Ⅳ－192	SK9遺物実測図.....	653
図Ⅳ－193	SK13平面図・エレベーション図・遺物出土状況図・遺物実測図.....	654
図Ⅳ－194	SK16・17平面図・エレベーション図・遺物実測図.....	655
図Ⅳ－195	SK20平面図・エレベーション図・遺物出土状況図.....	655
図Ⅳ－196	SK27・28平面図・断面図・遺物実測図.....	656
図Ⅳ－197	SD1断面図・遺物実測図.....	657
図Ⅳ－198	SR1エレベーション図・遺物実測図.....	658
図Ⅳ－199	P2・6平面図・エレベーション図・遺物実測図.....	660
図Ⅳ－200	遺構外出土遺物実測図.....	661
Ⅳ－7区		
図Ⅳ－201	調査区東壁基本層序.....	669
図Ⅳ－202	ST1_中央P平面図・断面図.....	670
図Ⅳ－203	ST1遺物実測図.....	671
図Ⅳ－204	ST2平面図・断面図.....	672
図Ⅳ－205	SK3平面図・断面図・焼土分布図・遺物実測図.....	673
図Ⅳ－206	SK4平面図・断面図.....	673
図Ⅳ－207	遺構外出土遺物実測図.....	674
第Ⅳ章		
図 1	分析試料採取地点の柱状図.....	680
図 2	植物珪酸体含量.....	684
図 3	調査地点周辺の地形起伏と自然科学分析が実施された主要な周辺遺跡.....	686
図 4	遺跡の位置図と自然科学分析が実施された主要な周辺遺跡.....	686
図 5	田村遺跡群周辺地形分類図.....	687
図 6	西野々・関遺跡の堆積層の累重状況.....	689
図 7	介良野遺跡の層序と年代.....	690
図 8	田村遺跡群周辺の微地形.....	691
図 9	物部川扇状地の標高分布図.....	694
図10	炭化種実画像(その1).....	703
図11	炭化種実画像(その2).....	704
図12	炭化種実画像(その3).....	705
図13	Ⅳ－1区SK9の炭化種実組成.....	706
図14	アワ・キビ炭化胚乳の大きさ.....	708
図15	マメ科炭化種子の大きさ.....	708
図16	Ⅳ－1区SK5・9遺構平面図と断面図および検出状況写真.....	709

表目次

第V章

図1 壺分類.....	716
図2 甕分類.....	718
図3 鉢分類.....	720
図4 高杯分類.....	720
図5 田村遺跡群位置図(S=1/10,000).....	724
図6 周辺遺跡遺物資料 0期.....	728
図7 周辺遺跡遺物資料 I期.....	729
図8 周辺遺跡遺物資料 II～IV期.....	731
図9 弥生時代中期(Ⅲ期)の遺構配置図.....	738
図10 鹿児島県麦田下遺跡出土の南四国型土器.....	740
図11 弥生時代後期末～古墳時代前期初頭の遺構配置図.....	744

表目次

第I章

表1 田村遺跡群周辺の遺跡一覧.....	2
----------------------	---

第II章

表1 調査担当・執筆担当一覧.....	7
---------------------	---

第III章

I区

竪穴建物跡計測表 (I-1-3区).....	61
竪穴建物跡計測表 (I-2-0.1区).....	62
竪穴建物跡計測表 (I-4-1区).....	62
土坑計測表(I-2-0.1区).....	64
土坑計測表(I-2-2区).....	64
土坑計測表(I-2-3区).....	65
土坑計測表(I-4-1区).....	65
土坑計測表(I-5～10区).....	65
出土遺物(土器)観察表.....	66
出土遺物(石器)観察表.....	75
出土遺物(土製品)観察表.....	76

II-1.2区他

表1 II-1区 遺構計測表.....	131
表2 II-1・II-2-2区 近現代SK・SX 有文字遺物一覧.....	132
表3 II-2-1.4.6区 掘立柱建物等計測表.....	134

表4	Ⅱ-2-1・4・6区	ピット一覧	135
表5	Ⅱ-2-1・4・6区	計測表(ピット以外)	144
表6	Ⅱ-2-2・7区	遺構一覧	145
表7	Ⅱ-3-2~6区	遺構出土遺物一覧	145
表8	Ⅱ-3-6区	掘立柱建物跡一覧	146
表9	Ⅱ区	縦断SD計測表	146
		出土遺物(土製品・容器)観察表	149
		出土遺物(鉄器等)観察表	153
		平安溝跡出土遺物(土製品)観察表	153
		平安溝跡出土遺物(鉄器等)観察表	158
	Ⅱ-3-1区		
		土坑計測表(Ⅱ-3-1区)	165
		出土遺物(土器)観察表	166
	Ⅱ-3-4区		
		出土遺物(土器・陶磁器)観察表	171
	Ⅱ-4区		
		竪穴建物跡計測表(Ⅱ-4-3区)	191
		土坑計測表(Ⅱ-4-1区)	191
		土坑計測表(Ⅱ-4-3区)	191
		出土遺物(土器)観察表	192
		出土遺物(石器)観察表	192
		出土遺物(土製品)観察表	192
	Ⅲ-1区		
表1	Ⅲ-1区	竪穴建物跡計測表	246
表2		掘立柱建物跡等計測表	246
表3		土坑・溝跡・ピット等計測表	247
表4	Ⅲ1-0~6区	弥生遺構出土遺物計数表(非掲図分)	250
	Ⅲ-1区	出土遺物(土製品)観察表	253
	Ⅲ-1区	出土遺物(石器)観察表	258
	Ⅲ-2区		
		出土遺物(土器)観察表	286
		出土遺物(石器)観察表	290
	Ⅲ-3-1~5区		
		竪穴建物跡計測表(Ⅲ-3-1区)	325
		竪穴建物跡計測表(Ⅲ-3-3区)	326
		土坑計測表(Ⅲ-3-1区)	327
		土坑計測表(Ⅲ-3-2区)	327

表目次

土坑計測表(Ⅲ-3-3区) .....	327
土坑計測表(Ⅲ-3-4区) .....	328
土坑計測表(Ⅲ-3-5区) .....	329
出土遺物(土器)観察表.....	330
出土遺物(石器)観察表.....	332
出土遺物(土製品)観察表.....	332
Ⅲ-3-6・7・Ⅲ-4E区	
表1 畦・溝跡計測表.....	351
表2 畦跡の間隔.....	351
表3 波板状遺構計測表.....	351
表4 土坑・ピット計測表.....	352
出土遺物(土製品)観察表.....	353
出土遺物(石器)観察表.....	354
Ⅲ-4W区	
土坑計測表(Ⅲ-4W区) .....	364
出土遺物(土器・陶器)観察表.....	365
出土遺物(石器)観察表.....	366
Ⅳ-1区	
竪穴建物跡計測表(Ⅳ-1区).....	419
土坑計測表(Ⅳ-1区).....	421
出土遺物(土器)観察表.....	424
出土遺物(石器)観察表.....	430
出土遺物(鉄器)観察表.....	432
出土遺物(土製品)観察表.....	432
Ⅳ-2区	
土坑計測表(Ⅳ-2区).....	452
出土遺物(土器)観察表.....	453
出土遺物(石器)観察表.....	460
出土遺物(土製品)観察表.....	460
Ⅳ-3・4・8区	
表1 Ⅳ-3区 土坑等計測表.....	461
表2 Ⅳ-4区 竪穴建物計測表.....	472
表3 弥生遺構計測表(竪穴建物除く).....	534
表4 掘立柱建物等計測表.....	535
表5-1 ピット計測表 Ⅳ-4区.....	537
表5-2 ピット計測表 Ⅳ-8区.....	550
表6 土坑等計測表(古代以降等).....	555

表7 溝・流路跡計測表(古代以降等) .....	558
表8 IV-4・8区 弥生遺構出土遺物計数表 .....	558
表9 IV-4区 古代以降遺構出土遺物計数表 .....	562
IV-3区出土遺物(土製品)観察表 .....	566
IV-3区出土遺物(石器)観察表 .....	571
IV-3区出土遺物(鉄器)観察表 .....	571
IV-4区出土遺物(土製品)観察表 .....	572
IV-4区出土遺物(石器)観察表 .....	586
IV-4区出土遺物(鉄器)観察表 .....	586
IV-8区出土遺物(土製品)観察表 .....	587
IV-8区出土遺物(石器)観察表 .....	590
IV-5区	
出土遺物(土器)観察表 .....	631
出土遺物(石器)観察表 .....	639
IV-6区	
竪穴建物跡計測表 (IV-6区) .....	663
土坑計測表(IV-6区) .....	664
出土遺物(土器)観察表 .....	666
出土遺物(石器)観察表 .....	668
IV-7区	
竪穴建物跡計測表 (IV-7区) .....	675
土坑計測表(IV-7区) .....	676
出土遺物(土器)観察表 .....	677
出土遺物(鉄器)観察表 .....	677
出土遺物(石器)観察表 .....	677
第IV章	
表1 放射性炭素年代測定結果 .....	682
表2 珪藻分析結果 .....	683
表3 植物珪酸体含量 .....	683
表4 炭化種実同定結果 .....	702
表5 炭化米の大きさ・重量 .....	707
表6 アワ・キビ炭化胚乳の大きさ・重量 .....	707
表7 マメ科炭化種子の大きさ・重量 .....	707
表8 炭化材同定結果 .....	708
第V章	
表1 遺跡別壺組成 .....	722
表2 遺跡別甕組成 .....	722

## 付図目次

表3 検出遺構の方位と出土遺物・時期.....	732
表4 粘土帯外面.....	739
表5 口唇部形状.....	739
表6 口唇部文様.....	739
表7 器種別組成比率.....	745

## 付図目次

付図 1 田村遺跡群Ⅲ I区①(上面)遺構平面図(S=1/200)	
付図 2 田村遺跡群Ⅲ I区①(下面)遺構平面図(S=1/200)	
付図 3 田村遺跡群Ⅲ I区②遺構平面図(S=1/200)	
付図 4 田村遺跡群Ⅲ II区①遺構平面図(S=1/200)	
付図 5 田村遺跡群Ⅲ II区②遺構平面図(S=1/200)	
付図 6 田村遺跡群Ⅲ III区①(上面)遺構平面図(S=1/200)	
付図 7 田村遺跡群Ⅲ III区①(下面)遺構平面図(S=1/200)	
付図 8 田村遺跡群Ⅲ III区②遺構平面図(S=1/200)	
付図 9 田村遺跡群Ⅲ IV区①(上面)遺構平面図(S=1/200)	
付図10 田村遺跡群Ⅲ IV区①(下面)遺構平面図(S=1/200)	
付図11 田村遺跡群Ⅲ IV区②遺構平面図(S=1/200)	

# 第 I 章 田村遺跡群周辺の地理的・歴史的環境

## 1. 地理的環境

田村遺跡群が所在する高知県南国市は、面積約 125km<sup>2</sup>、人口約 48,000 人であり、高知市につぐ人口規模を誇る。物部川右岸沿いに南北に長く、南は太平洋に面し、北は四国山地へと続き、異なった地勢が複合的に組み合わさり、それぞれの自然環境を活かした文化を育んできている。市域の南半部は物部川により形成された高知県下最大規模の沖積扇状地である香長平野がひろがっている。この沖積扇状地は縄文時代前期には形成されていたと考えられている。当地域では温暖な気候のもと、沖積地内の名残川を灌漑等に利用した水田耕作が行われてきた。現在ではハウス園芸が増加しているが、広大な水田がひろがり高知県の穀倉地帯であることには変わりはない。一方、工場団地の造成などハイテク産業の育成にも力が注がれている。また、高知龍馬空港があり、空の玄関口の役割も果たしている。



図1 南国市位置図

## 2. 歴史的環境

### (1) 旧石器時代

県中央部では、高間原 1 号墳(高知市)の石室からチャート製の細石刃核が発見されているのみであった。その後、岩陰遺跡である奥谷南遺跡からナイフ形石器、細石刃がまとめて出土している。

### (2) 縄文時代

草創期では奥谷南遺跡、早期では飼古屋岩陰遺跡(香美市)、奥谷南遺跡、刈谷我野遺跡(香美市)、新改開キ丸遺跡(香美市)、美良布遺跡(香美市)が物部川等の河岸段丘上に認められ、旧石器時代と同様の立地を示す。中期以降では奥谷南遺跡、田村遺跡群、祈年遺跡で確認され、低位段丘、沖積平野でも遺跡がみられるようになる。中期の奥谷南遺跡では、ドングリピットが検出されている。後期の田村遺跡群では鐘崎Ⅱ式がまとめて出土しており、九州島との関連が認められる。また、栄工田遺跡では、後期から晩期の遺物が出土し、蛇紋岩の磨製石斧が多数出土している。

### (3) 弥生時代

田村遺跡群に前期初頭の集落が出現し、高知平野の弥生時代が始まる。弥生文化は田村遺跡群から周辺部へ浸透していく。その後、田村遺跡群は中期末から後期初頭にかけて大規模集落へと発展

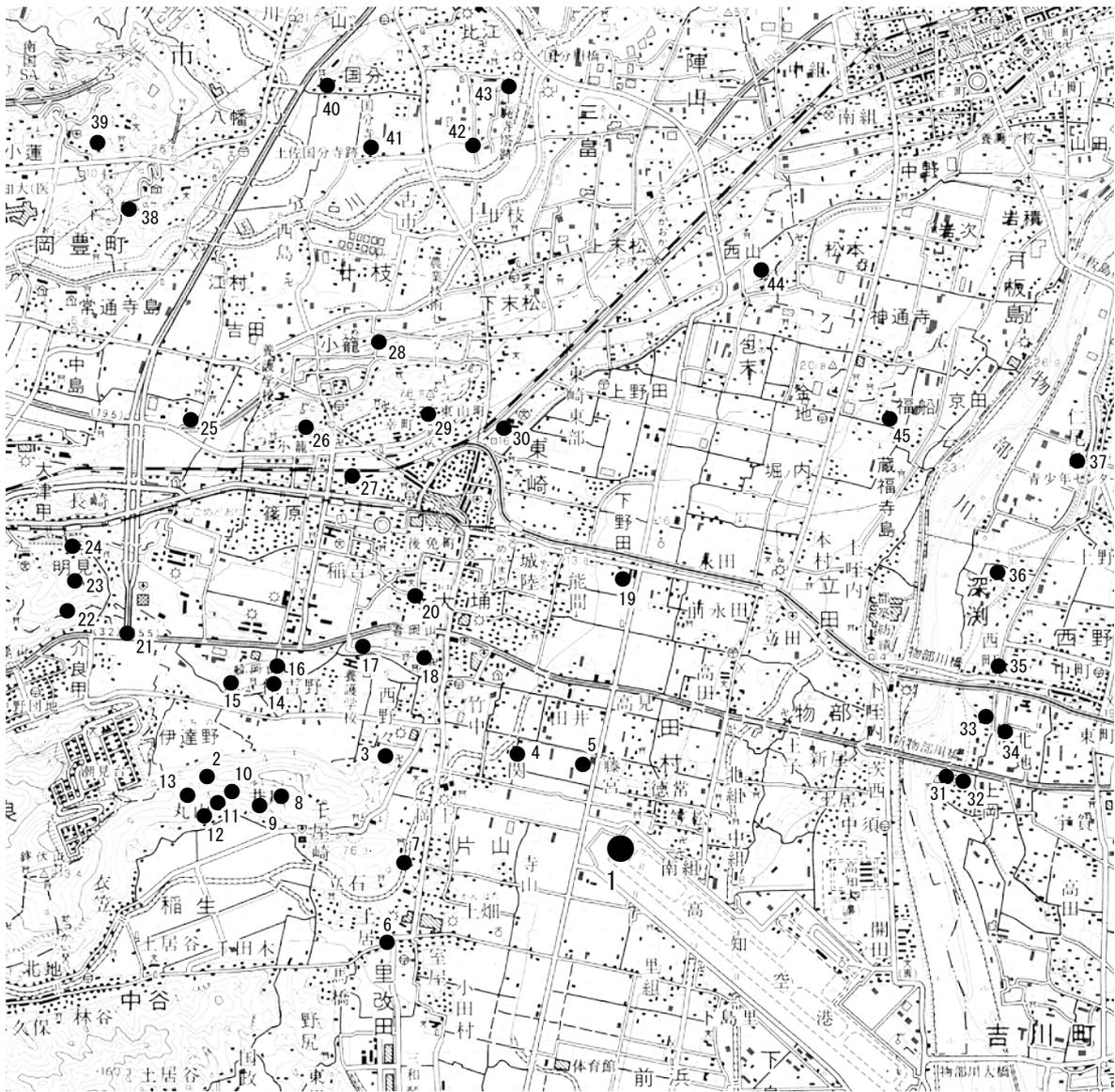


図2 田村遺跡群周辺の遺跡分布図(S = 1/50,000)

表1 田村遺跡群周辺の遺跡一覧

No.	遺跡名	時代	No.	遺跡名	時代	No.	遺跡名	時代
1	田村遺跡群	縄文～近世	16	住吉山3・4号墳	古墳	31	上岡北遺跡	弥生・近世
2	向山戦争遺跡	近代	17	吾岡山古墳	〃	32	上岡遺跡	弥生・平安
3	西野々遺跡	弥生～近世	18	吾岡山南遺跡	古墳～平安	33	下ノ坪遺跡	弥生～古代
4	関町田遺跡	弥生	19	カントラリ遺跡	縄文～平安	34	北地遺跡	弥生～中世
5	田村西遺跡	弥生～近世	20	大篠遺跡	弥生	35	西野遺跡群	弥生～古代
6	里改田遺跡	弥生～中世	21	介良野遺跡	弥生・古墳	36	深淵遺跡	弥生～中世
7	秋葉山南平古墳	古墳	22	狸岩1～3号墳	古墳	37	深淵北遺跡	〃
8	井川山1・2号墳	〃	23	明見彦山1～3号墳	〃	38	岡豊城跡	中世
9	馬背古墳	〃	24	竹ノ後遺跡	弥生・古墳	39	小蓮古墳	古墳
10	馬背東1・2号墳	〃	25	小籠遺跡	弥生～近世	40	国分大塚古墳	〃
11	馬背西1号墳	〃	26	越戸1・2号墳	古墳	41	土佐国分寺跡	古代
12	丸山古墳	〃	27	野中廃寺跡	平安	42	土佐国府跡	〃
13	坂ノ松古墳	〃	28	祈年遺跡	縄文～近世	43	比江廃寺	〃
14	住吉山1号墳	〃	29	年越山1～3号墳	古墳	44	金地遺跡	弥生
15	住吉山2号墳	〃	30	東崎遺跡	弥生～中世	45	岩村土居城跡	弥生～中世

するとともに、周辺にも西野々遺跡等の中規模集落が営まれ、高知平野の弥生文化は最盛期を迎える。田村遺跡群には銅鏡、銅矛、銅鐸、銅釧など多種類の青銅器がもたらされ、その求心力の強さを示している。しかし、後期中葉になると田村遺跡群は急激に衰退するとともに高知平野全体の遺跡数も減少する。その後、後期末から古墳時代初頭にかけて遺跡数は増加し、台地上、沖積平野に中規模から小規模な集落遺跡が営まれ、再び活況を呈する。台地上には小籠遺跡、祈年遺跡、東崎遺跡、伏原遺跡(香美市)、ひびのき遺跡(香美市)、ひびのきサウジ遺跡(香美市)が、沖積平野には介良野遺跡(高知市)、西野々遺跡、田村西遺跡が営まれる。しかし、ほとんどの集落遺跡は古墳時代前期まで継続せず廃絶され、高知平野の弥生時代は終焉を迎える。

#### (4)古墳時代

高知平野には前期古墳は確認されていないが、中期古墳としては狭間古墳と長畝2号墳の2基のみである。古墳時代後期になると香長平野を取り巻く丘陵上に多くの古墳が築かれ、高知県内でも古墳の密集地域を形成する。土佐三大古墳に数えられている明見彦山1号墳、小蓮古墳が所在し、当地域一帯を代表する地域首長の墳墓として位置づけられている。また、県下最大規模の群集墳である舟岩古墳群(TK43～TK217型式)が築造されている。一方、集落遺跡数は古墳数の増減と軌を一にした動態を示す。古墳時代前期以降、竪穴建物跡はごく僅かである。小籠遺跡、介良遺跡などで初期須恵器が出土しているものの集落跡の実態は不明である。後期になると土佐国衙跡、祈年遺跡、西野々遺跡等で竪穴建物跡が検出される等、高知平野での集落跡の調査例は増加する。

#### (5)古 代

南国市には土佐国衙跡、土佐国分寺、比江廃寺の中核施設が集まっている。他にも野中廃寺、式内社の植田神社、国史蹟在社の祈年神社が所在する土佐の中心地である。国衙跡は周辺に残るホノギ等から比定されているものの、31次を数える土佐国衙跡の発掘調査で政庁跡と確定できる建物跡は確認されていない。また、香長平野にはN-12°-Eを基本とする香長条里が碁盤目状に残っている。田村遺跡群では、75棟の建物跡が検出され、8世紀中頃～9世紀前半、10世紀～11世紀の2時期に機能していた。826年に田村庄が神護寺の荘園となったことが史料にみえ、上記の建物群と関連付けられている。西野々遺跡でも、約100棟の掘立柱建物跡が検出されている。これらの建物群は8世紀中頃に出現し、8世紀後半～9世紀に最盛期を迎え、10世紀までは維持されていた。「コ」の字形の配置も認められ、官衙的な建物跡と推測される。下ノ坪遺跡(香南市)は、物部川左岸に位置する遺跡である。8世紀中頃～9世紀中頃まで存続する遺跡である。9世紀前半～中頃にかけて最盛期を迎える。桁行16.4m、梁行8.4mの規模を有する、県下でも最大規模の掘立柱建物跡をはじめ、多くの掘立柱建物跡が検出され整然とした配置が認められる。四仙騎獣八稜鏡片、緑釉陶器の火舎等の特筆すべき遺物が出土している。田村遺跡群と下ノ坪遺跡は、物部川を強く意識した立地であり、物資の集積・集散の機能を果たすものと位置づけられている。祈年遺跡でも、官衙関連の建物跡、道路状遺構が発見されている。田村遺跡群は香美郡物部郷に属する。

#### (6)中 世

田村城跡は守護代である細川氏の居館とされ、その南側には溝で囲まれた33ヶ所の家臣団屋敷が

形成されている。田村城跡は約 200m 四方以上の規模を有し、二重の堀で囲まれた構造を持ち、外堀は幅約 4m、深さ約 3.5m、内堀は幅 7m 以上の規模を有する。内郭部は南北約 130m、東西約 120m の規模を持つ。特筆すべき遺物として李朝青磁が出土している。西野々遺跡では一辺 35～44m の屋敷跡が検出されている。土豪クラスのものとして推定されており<sup>(1)</sup>、古代以降も当調査地点の重要性を示している。中世後期になると長宗我部氏の台頭により岡豊城跡へと拠点は移るが、田村周辺の重要性はなお継続している。

## (7)近世・近代

田村遺跡群では、近世後期の屋敷跡、墓が検出されている。中世までとは異なった農村がひろがり、近現代の景観が形成されたと考えられる。西野々遺跡、山田三又遺跡、小籠遺跡、陣山遺跡などで近世の農村集落の状況が明らかとなりつつある。

向山戦争遺跡では、竪坑、交通壕、退避壕、重機関銃の銃座、貫通坑、横穴が検出され、尾根上に築かれた観測所と防空陣地と坑道で構成された陣地跡が復元されている。カスガイ、ガイシ、薬莢等が出土している。戦争遺跡単独での発掘調査は、初めてのことであり画期的な調査である。また、高知龍馬空港周辺には 7 基の掩体壕遺構が残され、南国市の史跡に指定されている。

## 註

(1)廣田佳久 2011「第 V 章総括 5. 中世について」『西野々遺跡Ⅲ』高知県教育委員会・(財)高知県文化財団埋蔵文化財センター

## 主な参考文献

1979『南国市史』南国市

1991『東崎遺跡Ⅰ』(財)高知県文化財団

1996『小籠遺跡Ⅱ』(財)高知県文化財団埋蔵文化財センター

1997『小籠遺跡Ⅲ』(財)高知県文化財団埋蔵文化財センター

池澤俊幸 2000「土佐における古代前期の建物群」『古代文化』52-6

1997『介良遺跡』(財)高知県文化財団埋蔵文化財センター

荻慎一郎・森公章・市村高男・下村公彦・田村安興 2001『高知県の歴史』山川出版社

2004『田村遺跡群Ⅱ』高知県教育委員会・(財)高知県文化財団埋蔵文化財センター

2006『南国市における大型後期古墳の調査』高知大学人文学部考古学研究室

2007『介良野遺跡』(財)高知県文化財団埋蔵文化財センター

2008『土佐国衙跡発掘調査報告書 第 13 集』高知県南国市教育委員会

2008『田村城跡 平成 16～18 年度南国市重要遺跡確認調査』南国市教育委員会

2011『西野々遺跡Ⅱ』『西野々遺跡Ⅲ』高知県教育委員会・(財)高知県文化財団埋蔵文化財センター

2012『祈年遺跡Ⅳ』(公財)高知県文化財団埋蔵文化財センター

## 第Ⅱ章 調査に至る経過と調査の方法

### 1. 調査に至る経過

高知東部自動車道は、高知市を起点に安芸市までの約 36 kmの高規格幹線道路である。他の自動車道、高速道路、高知龍馬空港、高知新港と連結することで広域の交通ネットワークを形成する。陸路輸送が主体を占める現在の状況では、道路が重要な要素であり、道路網の整備は人・文物の交流を活発にし、観光産業を含めた地域の産業振興にも欠くことができないものである。また、災害等による緊急時には救命救急活動、救援物資の輸送を円滑に推進させることができる、「命の道」としての役割も期待されている。

田村北遺跡は、高知東部自動車道の建設予定地内において高知県教育委員会が平成20・21年度に実施した試掘確認調査により新たに発見された遺跡である。その後、高知県教育委員会と国土交通省四国地方整備局土佐国道事務所が協議し、事前の発掘調査を行い記録保存することとなった。(公財)高知県文化財団埋蔵文化財センターは高知県教育委員会の委託を受け、平成22～26年度事業として発掘調査を実施した。平成22年度は平成22年4月26日～5月31日にかけて327㎡、平成23年度は平成23年9月27日～平成24年1月31日にかけて2,800㎡、平成24年度は平成24年4月6日～平成25年2月28日にかけて27,700㎡、平成25年度は平成25年4月1日～6月30日にかけて650㎡の調査を実施した。なお、発掘調査時は田村北遺跡として実施したが、調査成果等から遺跡名及び遺跡範囲について関係機関との協議及び見直しが行われ、田村遺跡群となった。

### 2. 調査の方法

調査区を西から大きくⅠ～Ⅳ区に区分した。Ⅰ区は10調査区に、Ⅱ区は4調査区に、Ⅲ区は4調査区に、Ⅳ区は8調査区に細分して調査を実施した。調査前の現況は水田である部分が多く、用地外のため仮設の用排水路が設置されていること等により、さらに細分して調査を行った調査区もある。試掘確認調査の結果をもとに表土は重機で掘削し、遺構検出及び遺構掘削については人力により掘削した。一部の調査区では、遺構完掘後、高所作業車により全景写真を撮影した。遺構平面図は20分の1の縮尺で実測した。その他、必要に応じて断面図、遺物出土状況図を作成した。

グリッドの設定は世界測地系に基づく公共座標により100m四方の大グリッド、20m四方の中グリッド、4m四方の小グリッドを設定した。このグリッドは西野々遺跡からの一連のものであり、測量は世界測地系第4座標系(Ⅳ系)の基準点を使用し、X=62,500m、Y=11,000m(北緯33° 33' 49"、東経133° 37' 07"、真北方向角-0° 03' 56")を原点とし、A0(100mグリッド:大グリッド)を組んだ。大中小グリッドの間は「-」で区切って表記している。このグリッド、座標を使用して遺構の平面図、遺物出土状況等の実測、出土遺物の取り上げを行った。

遺構名は、検出及び調査順に連番を付した。整理報告時に遺構番号を変更した調査区と調査時に付した遺構番号を踏襲している調査区がある。そのため、欠番が発生している調査区もある。基本的には竪穴建物跡をST、掘立柱建物跡をSB、柵列跡をSA、土坑をSK、井戸跡をSE、溝跡をSD、自然流路跡をSR、畝状遺構をSU、性格不明遺構をSX、墓跡をSZ、ピット・柱穴をPの略号としてそれぞれ使用した。遺構名は小調査区毎で1から付したことを基本としたが、その限りではなく、各調査区の冒頭で記述している。

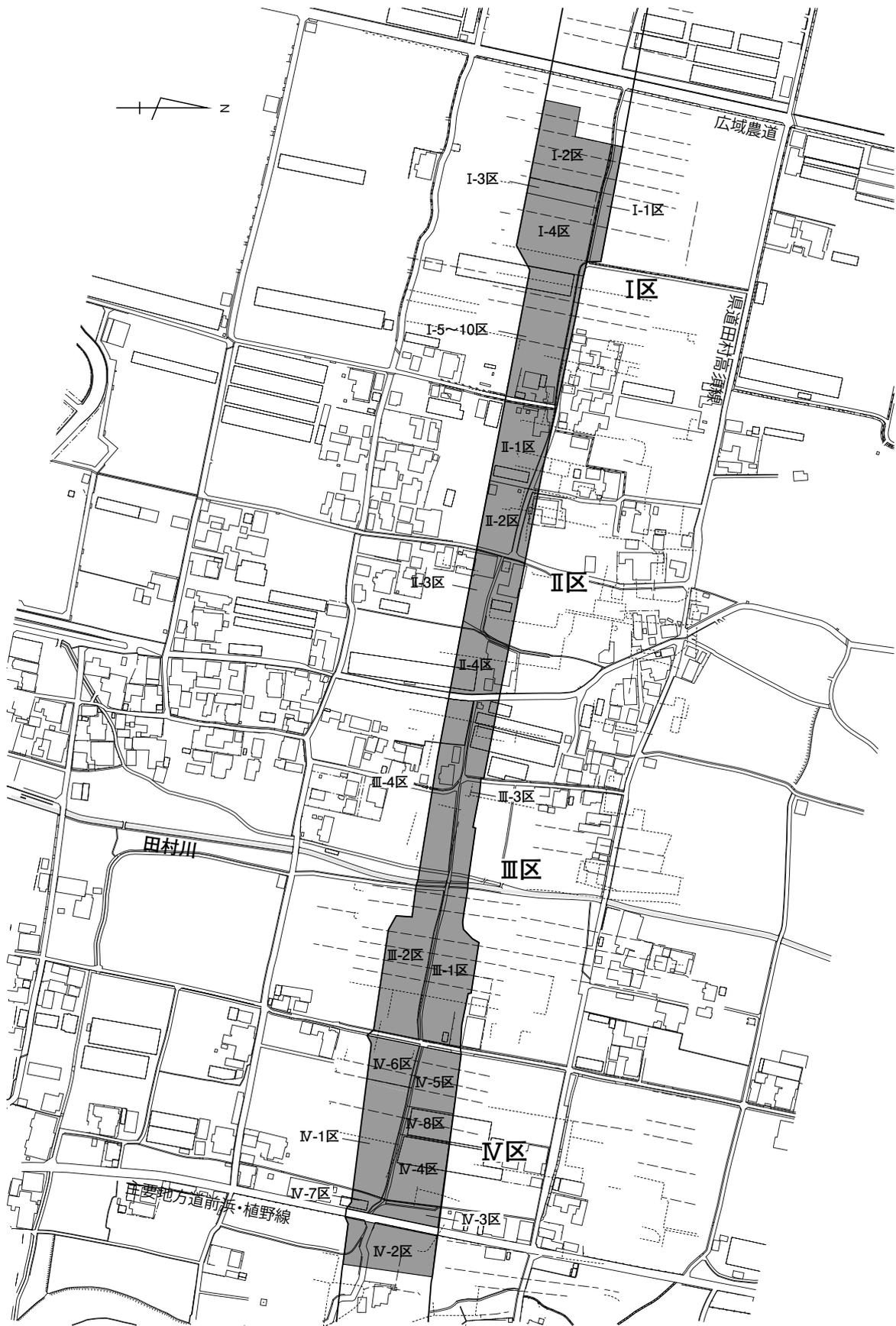


図1 調査区配置図

表1 調査担当・執筆担当一覧

調査区		調査年度	調査担当		執筆担当
			調査員	補助員	
I	1	平成 24 年度	坂本憲昭・小山 求	片岡和美・大野 大	久家隆芳
		〃	〃	〃	〃
		〃	〃	〃	〃
	2	〃	〃	〃	〃
		〃	〃	〃	〃
		〃	〃	〃	〃
	3	〃	〃	〃	〃
		〃	〃	〃	〃
	4	〃	〃	〃	〃
		〃	〃	〃	〃
5	〃	出原恵三・山崎孝盛	岩原明美	久家隆芳	
6	〃	〃	〃	〃	
7	〃	〃	〃	〃	
8	〃	〃	〃	〃	
9	〃	〃	〃	〃	
10	〃	〃	〃	〃	
II	1	平成 24 年度	茂松清志・菊池直樹	大賀幸子	池澤俊幸
		〃	〃	〃	〃
	2	〃	〃	〃	〃
		〃	〃	〃	〃
		〃	〃	〃	〃
		〃	〃	〃	〃
		〃	〃	〃	〃
		〃	〃	〃	〃
	3	〃	坂本憲昭・小山 求	片岡和美・大野 大	久家隆芳
		〃	〃	〃	池澤俊幸
		〃	茂松清志・菊池直樹	大賀幸子	〃
		〃	出原恵三・山崎孝盛	岩原明美	出原恵三
		〃	茂松清志・菊池直樹	大賀幸子	池澤俊幸
		平成 25 年度	池澤俊幸・山崎孝盛	岡林真史	〃
	4	平成 24 年度	坂本憲昭・小山 求	片岡和美・大野 大	久家隆芳
		〃	茂松清志・菊池直樹	大賀幸子	〃
		〃	〃	〃	〃
III	1	平成 22 年度	出原恵三・山本哲也・久家隆芳	坂本憲彦・岩原明美	池澤俊幸
		平成 24 年度	池澤俊幸・北井達朗	矢野雅子・岡林真史	〃
		〃	〃	〃	〃
		〃	〃	〃	〃
		〃	〃	〃	〃
		〃	〃	〃	〃
	2	〃	出原恵三・山崎孝盛	岩原明美	出原恵三
		〃	〃	〃	〃
		〃	〃	〃	〃
		〃	〃	〃	〃
		〃	〃	〃	〃
		〃	〃	〃	〃
		〃	〃	〃	〃
	3	〃	茂松清志・菊池直樹	大賀幸子	久家隆芳
		〃	〃	〃	〃
		〃	〃	〃	〃
		〃	〃	〃	〃
〃		〃	〃	〃	
〃		出原恵三・山崎孝盛	岩原明美	池澤俊幸	
〃		〃	〃	〃	
4	W	〃	〃	出原恵三	
	E	〃	池澤俊幸・北井達朗	矢野雅子・岡林真史	
IV	1	平成 23 年度	谷脇 正・久家隆芳	坂本憲彦・岩原明美	久家隆芳
	2	〃	谷脇 正・久家隆芳・松本安紀彦	〃	〃
	3	平成 24 年度	武森清幸・松本安紀彦	坂本憲彦・横山 愛	池澤俊幸
	4	〃	〃	〃	〃
	5	〃	出原恵三・山崎孝盛	岩原明美	出原恵三
	6	〃	武森清幸・松本安紀彦	坂本憲彦・横山 愛	久家隆芳
	7	〃	〃	〃	〃
	8	〃	池澤俊幸・北井達朗	矢野雅子・岡林真史	池澤俊幸



## 第三章 調査成果

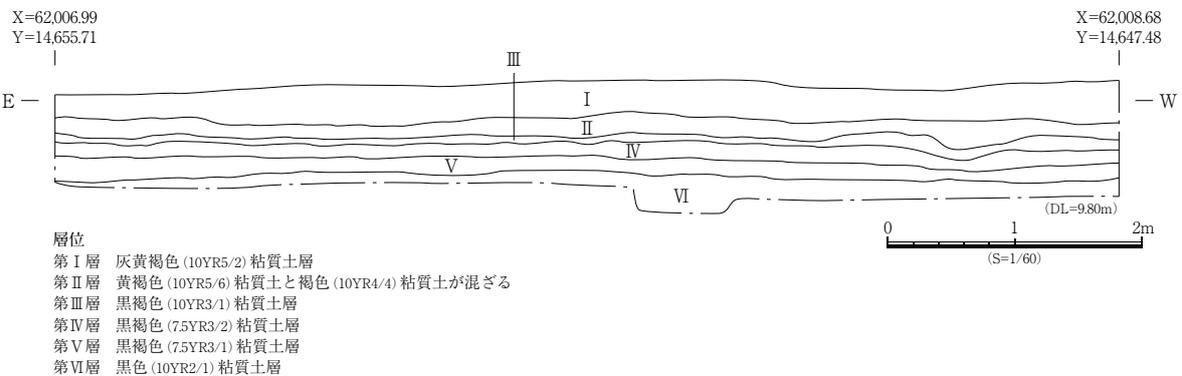
### 1. I区

#### 1. 調査区の概要

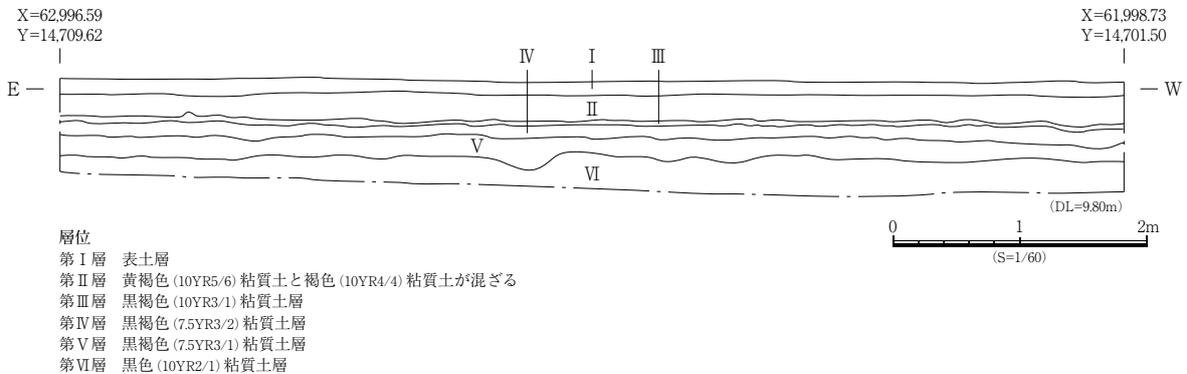
I区は今次調査範囲の西端部の調査区である。I-1区~I-10区, さらにI-1区はI-1-1区~I-1-3区に, I-2区はI-2-0区~I-2-3区に, I-4区はI-4-1区~I-4-2区に細分して調査を実施した。これらの細分調査区毎に報告するが遺構名が連番で付されている調査区についてはまとめて報告する。ただし, 出土遺物の番号についてはI区全体で連番とする。

主に弥生時代中期前半・中期末・後期末, 近世の遺構・遺物を検出した。様相から大きくI-1区

#### I-1-1区



#### I-1-2区



#### I-1-3区

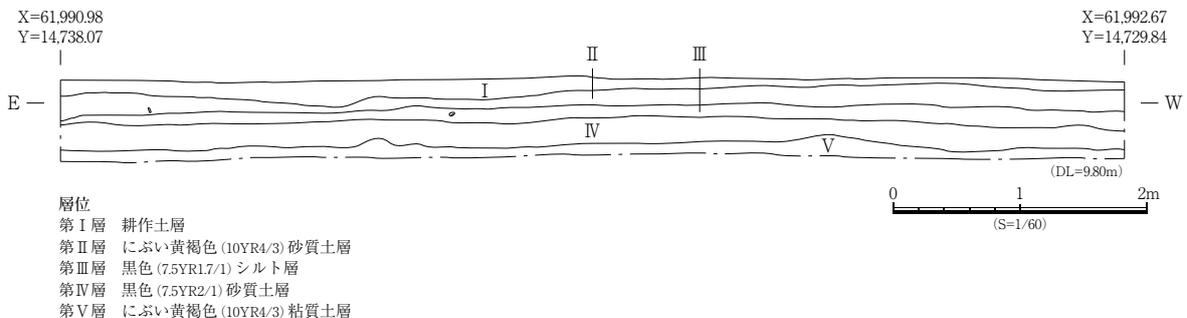


図 I-1 I-1区南壁断面図

～I-4区, I-5区～I-9区, I-10区に分けることができる。I-1～4区では弥生時代中期前半～中期後葉の自然流路跡が西方向から東方向, 北方向から南方向へ流れる。南西部には弥生時代中期後葉の居住域, 北東部には弥生時代後期末～古墳時代前期初頭の居住域の一部がそれぞれみつかっている。遺構密度の低いI-5～9区は生産域と推測される。I-10区は近世以降の居住域の西端部と考えられる。

## 2. 基本層序(図I-1～4)

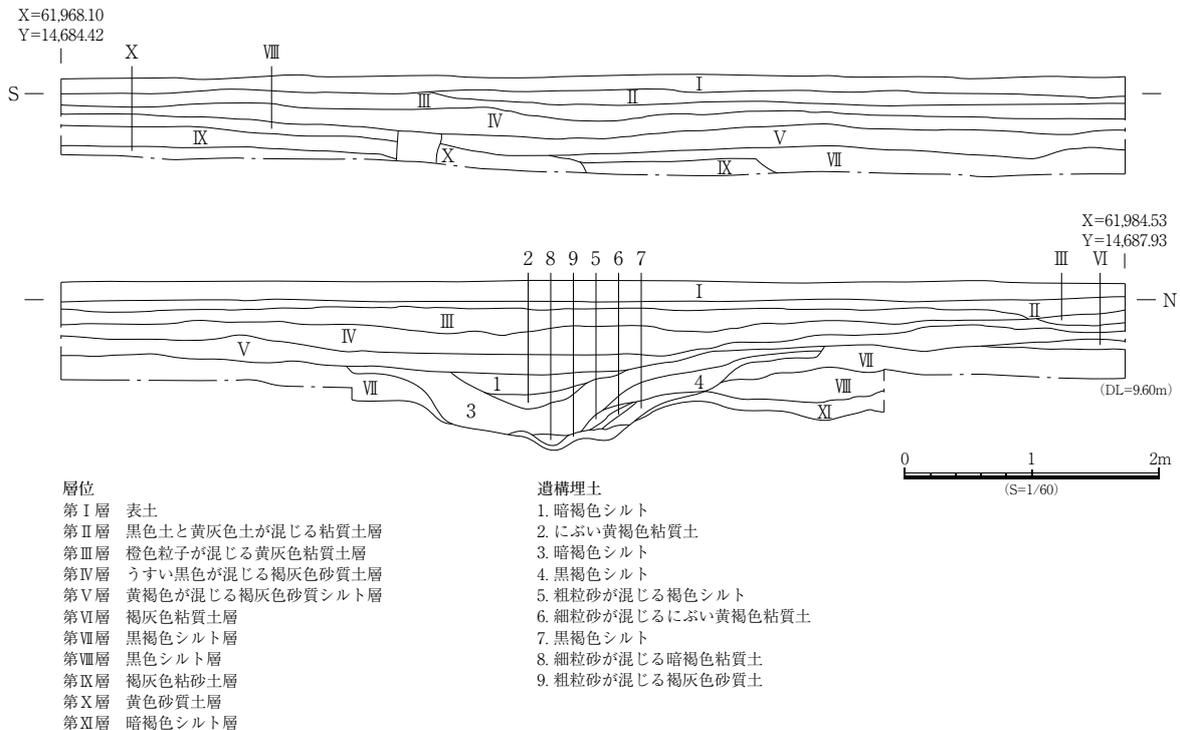
I-1-1～3区は南壁で, I-2-3区は西壁で, I-5～9区は南壁で, I-10区は南壁と東壁で基本層序を確認した。鍵層となる黒色土層が各調査区で2枚あるいは1枚確認することができる。

### I-1-1区の層位

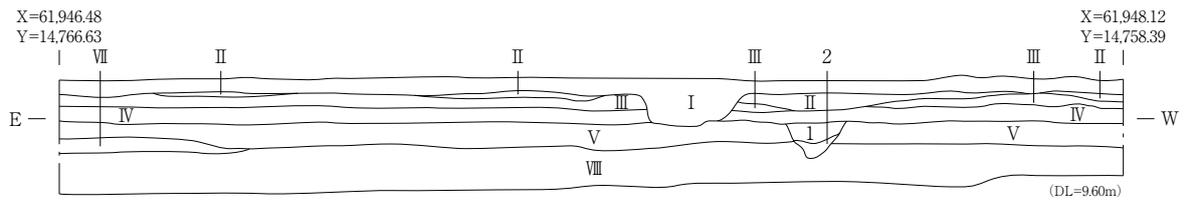
- 第I層 灰黄褐色(10YR5/2)粘質土層
- 第II層 黄褐色(10YR5/6)と褐色(10YR4/4)粘質土が混ざる
- 第III層 黒褐色(10YR3/1)粘質土層
- 第IV層 黒褐色(7.5YR3/2)粘質土層
- 第V層 黒褐色(7.5YR3/1)粘質土層
- 第VI層 黒色(10YR2/1)粘質土層

### I-1-2区の層位

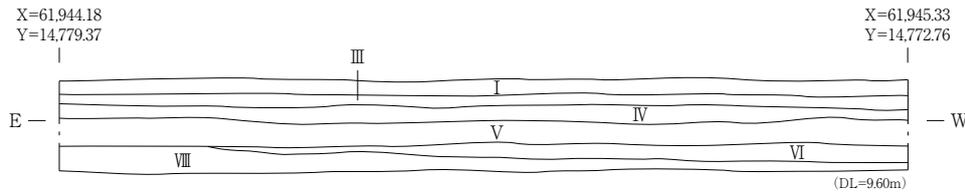
- 第I層 表土層
- 第II層 黄褐色(10YR5/6)粘質土と褐色(10YR4/4)粘質土が混ざる
- 第III層 黒褐色(10YR3/1)粘質土層



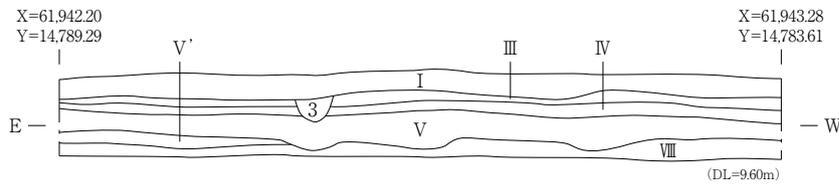
図I-2 I-2-3区西壁断面図



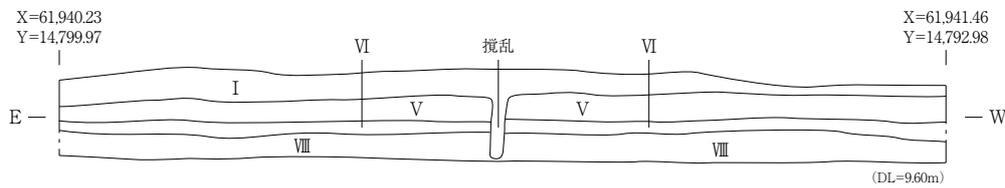
I - 5区南壁



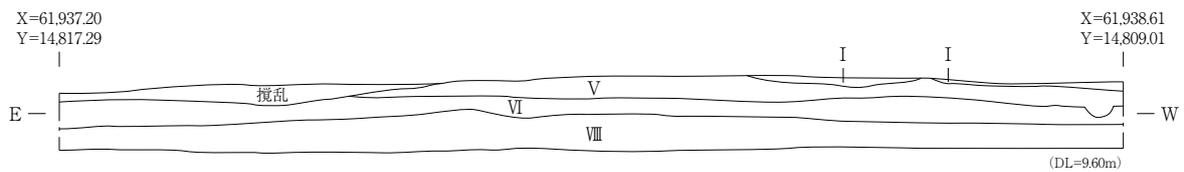
I - 6区南壁



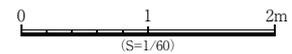
I - 7区南壁



I - 8区南壁



I - 9区南壁



層位	説明
第 I 層	褐灰色 (10YR6/1) シルト層 (耕作土)
第 II 層	褐灰色 (10YR4/1) 粘性土層
第 III 層	灰黄褐色 (10YR4/2) 粘性土層
第 IV 層	黒褐色 (10YR3/2) 粘性土層
第 V 層	黒褐色 (10YR3/1) 粘性土層 (第2黒土層)
第 V' 層	にぶい黄褐色 (10YR4/3) 粘性土層
第 VI 層	暗褐色 (10YR3/3) 粘性土層
第 VII 層	暗褐色 (10YR3/4) 粘性土層
第 VIII 層	にぶい黄橙色 (10YR6/4) シルト層

遺構埋土	説明
1.	黒褐色 (10YR2/3) 粘性土 (I - 5区_P1)
2.	黒褐色 (10YR2/2) 粘性土 (I - 5区_P1)
3.	灰黄褐色 (10YR5/2) 粘性土 (I - 7区_P1)

図 I - 3 I - 5~9区南壁断面図

- 第Ⅳ層 黒褐色(7.5YR3/2)粘質土層
- 第Ⅴ層 黒褐色(7.5YR3/1)粘質土層
- 第Ⅵ層 黒色(10YR2/1)粘質土層

I-1-3区の層位

- 第Ⅰ層 耕作土層
- 第Ⅱ層 にぶい黄褐色(10YR4/3)砂質土層
- 第Ⅲ層 黒色(7.5YR1.7/1)シルト層
- 第Ⅳ層 黒色(7.5YR2/1)砂質土層
- 第Ⅴ層 にぶい黄褐色(10YR4/3)粘質土層

I-2-3区の層位

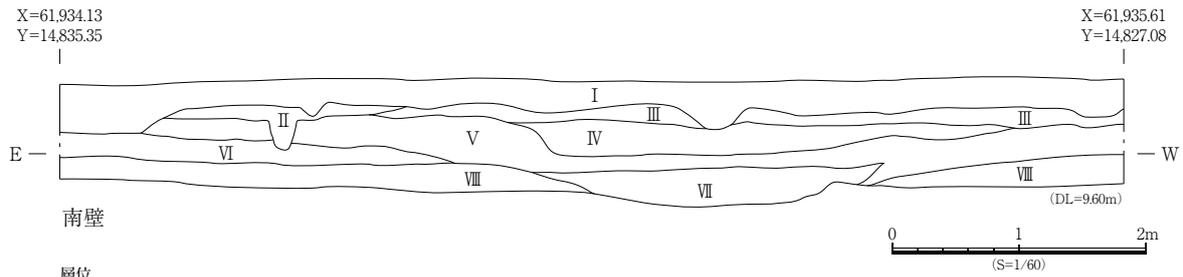
- 第Ⅰ層 表土
- 第Ⅱ層 黒色土と黄灰色土が混じる粘質土層
- 第Ⅲ層 橙色粒子が混じる黄灰色粘質土層
- 第Ⅳ層 うすい黒色が混じる褐灰色砂質土層
- 第Ⅴ層 黄褐色が混じる褐灰色砂質シルト層
- 第Ⅵ層 褐灰色粘質土層
- 第Ⅶ層 黒褐色シルト層
- 第Ⅷ層 黒色シルト層
- 第Ⅸ層 褐灰色粘砂土層
- 第Ⅹ層 黄色砂質土層
- 第Ⅺ層 暗褐色シルト層

I-5～9区の層位

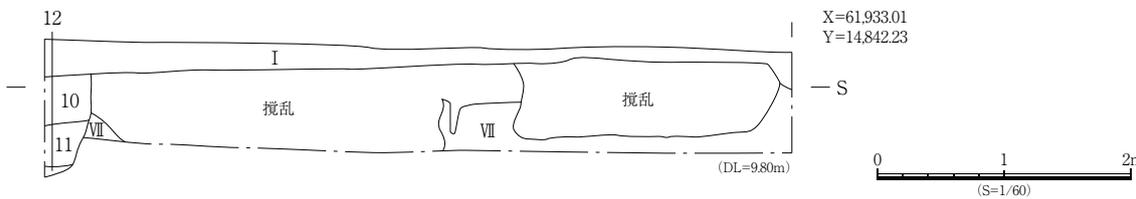
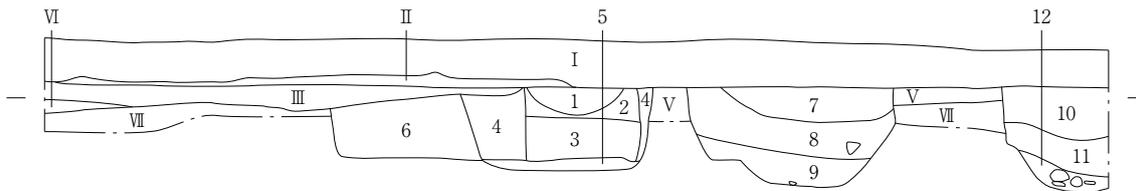
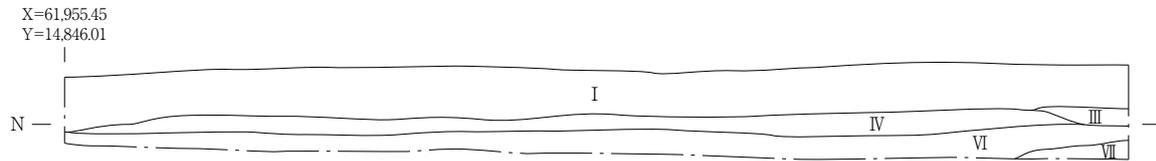
- 第Ⅰ層 褐灰色(10YR6/1)シルト層(耕作土)
- 第Ⅱ層 褐灰色(10YR4/1)粘性土層
- 第Ⅲ層 灰黄褐色(10YR4/2)粘性土層
- 第Ⅳ層 黒褐色(10YR3/2)粘性土層
- 第Ⅴ層 黒褐色(10YR3/1)粘性土層(第2黒土層)
- 第Ⅵ層 にぶい黄褐色(10YR4/3)粘性土層
- 第Ⅶ層 暗褐色(10YR3/3)粘性土層
- 第Ⅷ層 暗褐色(10YR3/4)粘性土層
- 第Ⅷ層 にぶい黄橙色(10YR6/4)シルト層

I-10区の層位

- 第Ⅰ層 褐灰色(10YR5/1)土等層(現代造成土)
- 第Ⅱ層 灰黄褐色(10YR4/2)砂質土層(現代整地層)
- 第Ⅲ層 褐灰色(10YR4/1)砂質土層(現代整地層)
- 第Ⅳ層 灰黄褐色(10YR5/2)砂質土層
- 第Ⅴ層 褐灰色(10YR5/1)砂質土層
- 第Ⅵ層 暗灰黄色(2.5Y5/2)砂質土層
- 第Ⅶ層 明黄褐色(10YR6/6)シルト層(基盤層)



- 層位
- |                                  |                            |
|----------------------------------|----------------------------|
| 第I層 耕作土                          | 第V層 におい黄褐色 (10YR6/3) 砂層    |
| 第II層 灰黄褐色 (10YR5/2) 細粒砂層         | 第VI層 浅黄褐色 (10YR8/4) 砂層     |
| 第III層 黒褐色 (10YR3/1) 粘性土層 (第2黒土層) | 第VII層 褐灰色 (10YR5/1) 砂層     |
| 第IV層 におい黄褐色 (10YR5/3) 砂層         | 第VIII層 明黄褐色 (10YR7/6) シルト層 |
- ※ I-5-9区のV層に相当する



- 層位
- |                                  |                               |
|----------------------------------|-------------------------------|
| 第I層 褐灰色 (10YR5/1) 土等層 (現代造成土)    | 遺構埋土                          |
| 第II層 灰黄褐色 (10YR4/2) 砂質土層 (現代整地層) | 1. 黄灰色 (2.5Y6/1) 砂質土 (SK8)    |
| 第III層 褐灰色 (10YR4/1) 砂質土層 (現代整地層) | 2. 暗黄褐色 (2.5Y5/2) 粘質土 (SK8)   |
| 第IV層 灰黄褐色 (10YR5/2) 砂質土層         | 3. 黄灰色 (2.5Y4/1) 粘質土 (SK8)    |
| 第V層 褐灰色 (10YR5/1) 砂質土層           | 4. 黄褐色 (2.5Y5/3) 粘土 (SK8)     |
| 第VI層 暗黄褐色 (2.5Y5/2) 砂質土層         | 5. 灰色 (5Y5/1) 粘土 (粘土) (SK8)   |
| 第VII層 明黄褐色 (10YR6/6) シルト層 (基盤層)  | 6. におい黄褐色 (10YR5/3) 粘質土 (SK9) |
1. 黄灰色 (2.5Y6/1) 砂質土 (SK8)  
 2. 暗黄褐色 (2.5Y5/2) 粘質土 (SK8)  
 3. 黄灰色 (2.5Y4/1) 粘質土 (SK8)  
 4. 黄褐色 (2.5Y5/3) 粘土 (SK8)  
 5. 灰色 (5Y5/1) 粘土 (粘土) (SK8)  
 6. におい黄褐色 (10YR5/3) 粘質土 (SK9)  
 7. 暗黄褐色 (2.5Y5/2) 粘質土 (SK2)  
 8. 黄灰色 (2.5Y5/1) 粘質土 (SK2)  
 9. 黄灰色 (2.5Y4/1) 粘質土 (SK2)  
 10. 灰黄褐色 (10YR5/2) 粘質土 (SK1)  
 11. 褐灰色 (10YR5/1) 粘質土 (SK1)  
 12. 黄褐色粘土のブロックを含む黄灰色 (2.5Y4/1) 粘質土 (SK1)

図I-4 I-10区南壁・東壁断面図

### 3. 検出遺構と遺物

#### ① I - 1 - 3区

##### (1) ST

##### ST1 (図 I - 5)

調査区の東端部で検出した竪穴建物跡である。一辺約 5m の隅丸方形を呈していたと考えられる。検出面から床面までの深さは 18cm である。床面には幅約 80cm、床面との比高差約 10cm のベッド状遺構が巡る。床面では中央ピット、9 基のピットを検出した。中央ピットは床面のやや南寄りに位置する。長軸約 1.2m、短軸約 0.6m の長楕円形であり、床面からの深さは 18cm である。中央ピットの埋土は、黒色粘質土、黄色粘質土、灰色粘質土が混ざる。また、中央ピット付近には炭化物層が分布する。P3・4・12・15 が支柱穴と考えられ、ベッド状遺構直下の四隅に配置されている。

図示した出土遺物は弥生土器の甕・鉢・高杯・支脚である。1 は甕である。口縁部は上胴部からの一連の叩き調整後、折り曲げ、指押さえにより成形する。口唇部にはルーズな面取りを施す。口縁部内面はハケ調整である。体部はナデ調整であり、肩部にハケメがみられる部分がある。2 は甕である。口縁部は「く」の字状に外反し、口唇部は丸くおさめる。外面は叩き調整である。口縁端部まで上胴部から一連の叩き調整を施す。口縁部は折り曲げ、指頭で成形する。内面はナデ調整である。また、内面には粘土紐接合痕跡が認められる。3 は甕である。外面は口縁端部まで一連の叩き調整を施す。口縁部は短く折り曲げ、指頭で成形する。口唇部にはルーズな面取りを施す。内面はナデ調整であり、粘土紐接合痕跡が認められる。4 は甕である。外面は口縁端部まで右上がりの叩き調整を施す。口縁部は折り曲げ、指頭で成形する。口唇部には面取りを施す。口縁部内面はナデ調整、体部はハケ調整である。内面には口縁部の接合痕跡が明瞭に残る。6 は甕である。外面は口縁端部まで叩き調整を施す。口縁部は折り曲げ、指頭で成形し、叩き目の多くは消えている。肩部外面は叩き調整後ハケ調整を施す。内面はハケ調整である。7 は鉢である。外面は叩き調整後、上半部にはナデ調整を施す。内面はハケ調整である。外底面は叩き調整後ナデ調整である。8 は鉢である。内底面を押し出すことで丸底とする。外面は荒れており調整は不明瞭であるが、叩き調整後ナデ調整を施したと考えられる。内面はハケ調整である。また、内面には煤が付着する。9 は鉢である。丸底である。外面は叩き調整後ナデ調整を施す。内面はナデ調整であり、一部にハケメがみられる。10 は鉢である。外面は太めの右下がりの叩き調整後ナデ調整を施す。内面は粗いハケ調整であり、内底面には弱い指頭圧痕が認められる。大きく歪む。11 は鉢である。口径がひろく浅めの形態である。底部は丸底でやや突出する。外面は叩き調整後ナデ調整か。内面はナデ調整である。13 は高杯の脚部である。円孔を穿つ。外面は縦方向のミガキ調整である。内面はナデ調整であり、しぼり目がみられる。14 は支脚である。体部は断面楕円形で中実であり、脚部は断面楕円形で中空である。背部につまみは付かない。裾部は大きくひろがる。体部から指 2 本が前上方に若干ねじって付く。指の長さは異なる。脚部から指先にかけて前傾する。外面は叩き調整である。指の腹側には叩き目がみられることから、叩き調整で断面楕円形の柱状に作り、上部を裂き、粘土を継ぎ足して指を成形する。そして、背部につまみを付す。

##### ST2 (図 I - 6)

調査区東部で検出した遺構である。隅丸方形あるいは隅丸長方形の土坑と考えられる。長軸は約 2.3m、短軸約 1.2m まで検出した。検出面からの深さは 10cm であり、埋土は褐灰色粘質土である。また、床面でピットを 2 基検出した。

(2)SD

SD1 (図 I - 7)

調査区東部で検出した溝跡である。幅約0.4m, 検出面からの深さは3cmである。

SD2 (図 I - 7)

調査区東部で検出した溝跡である。幅約0.3m, 検出面からの深さは12cmである。

SD3 (図 I - 7)

調査区東部で検出した溝跡である。幅約0.5m, 検出面からの深さは10cmである。

SD4 (図 I - 7)

調査区東部で検出した溝跡である。幅約0.8m, 検出面からの深さは17cmである。

図示した出土遺物は弥生土器の甕(15・16)である。15の体部は球形を呈し、口縁端部をつまみ上げる。磨耗のため、調整等は不明瞭である。外面は右下がりの叩き調整、体部内面はヘラケズリ調整である。庄内式土器の甕を模倣したものと推測される。16の体部は球形を指向し、丸底である。外面は叩き調整後、ハケ調整を施す。内面はハケ調整であり、下半部はハケ調整後ナデ調整を施す。肩部内面には粘土紐接合痕跡が認められる。

(3)SR

SR1

調査区西部で検出した流路跡である。幅約1.4m, 深さは1cmであり、浅い。検出長は4.8mである。ピット列(SX1)と関連があると推測される。

(4)P (ピット)

P28 (図 I - 8)

調査区北端部で検出した。直径約0.3m, 検出面からの深さは20cmである。図示した出土遺物は弥生土器の鉢(17)である。丸底であり、上胴部に最大径部を持ち、口縁部は短く外反する。外面は叩き調整後、下半部には粗いハケ調整あるいはナデ調整を施す。内面はナデ調整である。ほぼ完存である。埋納と考えられる。

(5)SX

SX1

調査区西部で検出した。SR1に平行してピット列が並ぶ。いわゆる波板状遺構である。SR1とともに調査区外へのびると推測される。ピット列は楕円形のもので構成されるものと円形のもので構成されるものの2条が認められる。

② I - 2 - 0・1区

(1)ST

ST1 (図 I - 9・10)

調査区南端部で検出した竪穴建物跡である。長軸約4.9m, 短軸約4.8mの楕円形を呈する。検出面から床面までの深さは20cmである。床面で中央ピット, ピット, 小溝を検出した。中央ピットは床面

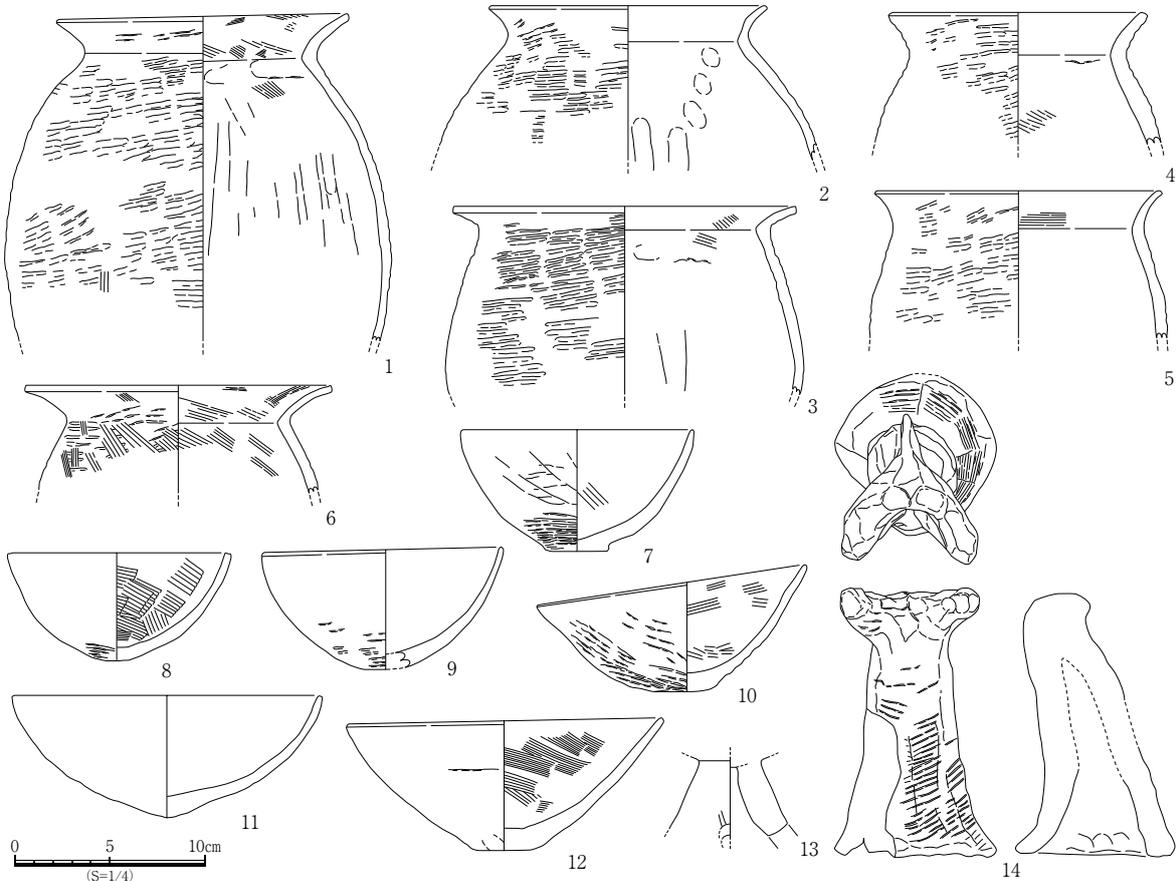
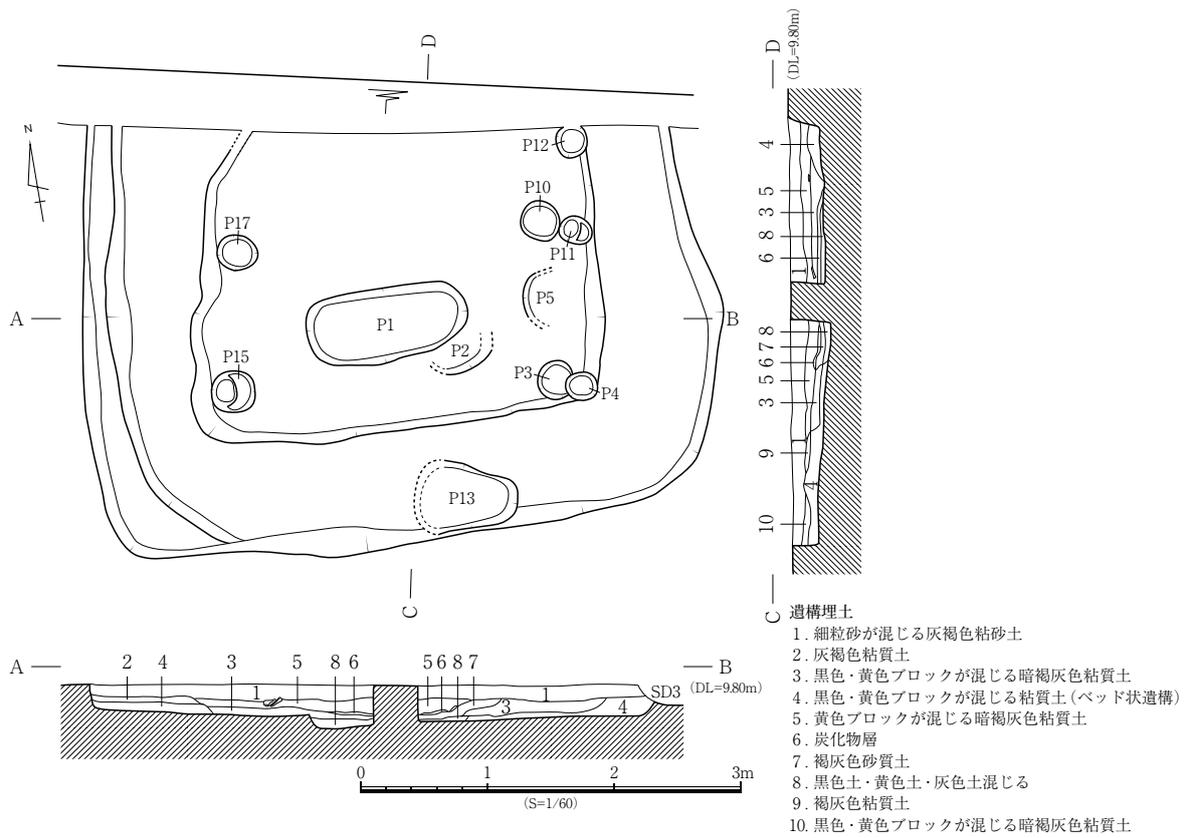


図 I - 5 I - 1 - 3区ST1平面図・断面図・遺物実測図

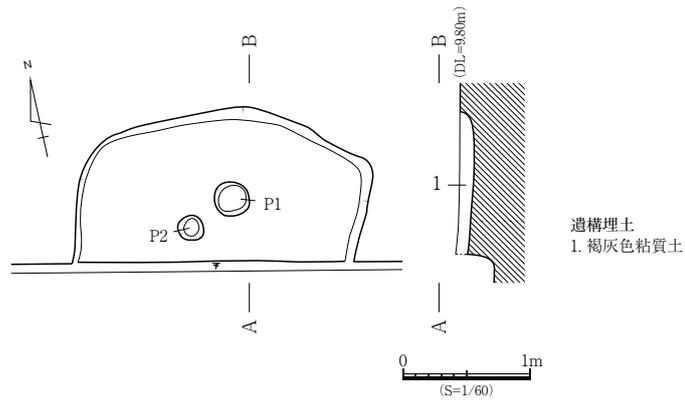


図 I-6 I-1-3区ST2平面図・断面図

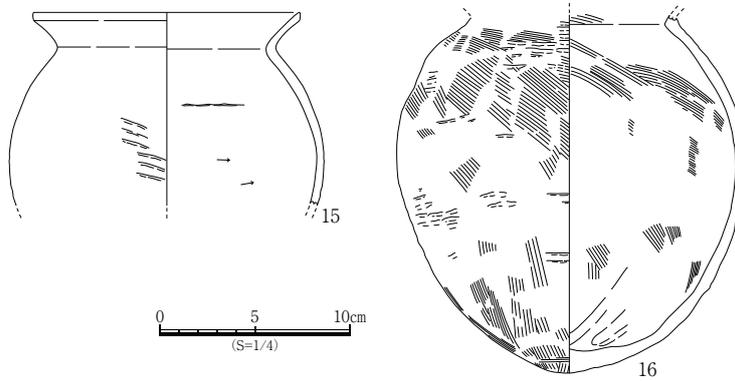
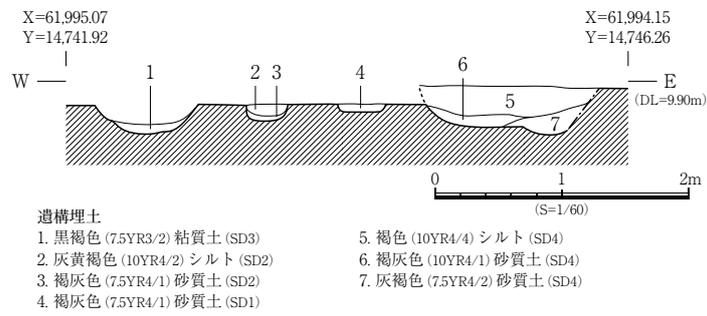


図 I-7 I-1-3区SD1~4断面図・遺物実測図

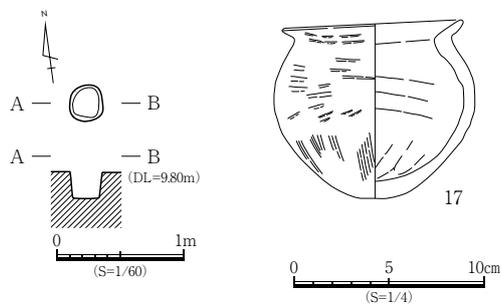


図 I-8 I-1-3区P28平面図・エレベーション図・遺物実測図

中央に位置する。長軸約0.9m，短軸約0.6mの楕円形を呈する。床面からの深さは10cmであり，埋土は暗褐色粘質土，灰褐色粘質土である。中央ピット内にはP4・8が掘り込まれている。中央ピットの両脇にP5・6が付随する，いわゆる松菊里タイプである。P5・6の床面からの深さは約40cmである。

図示した出土遺物は弥生土器の壺・甕・鉢・高杯・蓋，石鏃である。18は壺である。頸部から口縁部はあまりひらかない。貼付口縁であり，口唇部には面取りを施す。外面はタテハケ調整，内面はナデ調整である。19は壺である。口縁部は大きく外反し，口唇部には面取りを施す。20は壺である。口縁部は短く外反し，上方へ拡張させ，2条の凹線文を施す。頸部に押捺突帯を貼付ける。21は壺である。口縁部は緩やかに外反する。口唇部をわずかに拡張させ，磨耗のため不明瞭ではあるが2条の凹線文を巡らせていると考えられる。頸部には押捺突帯を貼付ける。22は大型の壺である。貼付口縁であり，粘土外面には明瞭に指頭圧痕が残り，装飾的である。口唇部には斜格子文を施す。頸部外面はタテハケ調整，口縁部内面はヨコハケ調整である。23は壺である。頸部から上胴部を文様帯とする。櫛描直線文を2単位施し，単位境には微隆起突帯を巡らせ，さらに微隆起突帯の下には楕円形浮文を配

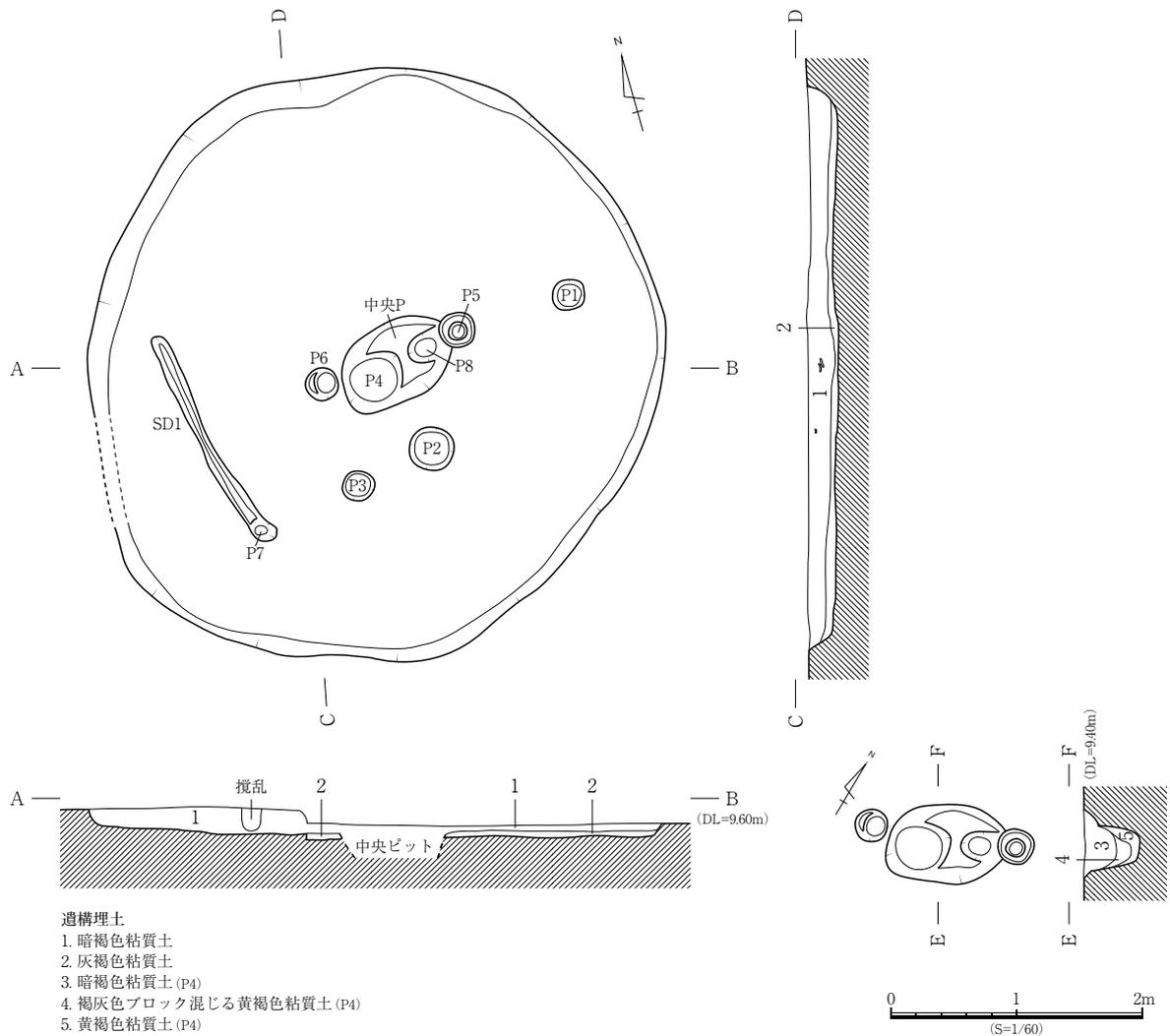


図 I-9 I-2-0・1区ST1平面図・断面図

置する。内面はナデ調整であり、ハケメ状に見える部分がある。仁淀川流域からの搬入品である。24は壺である。頸部から上胴部を文様帯とする。口縁部が残存していれば、口縁部にも文様があると推測される。上から微隆起突帯、棒状浮文、4条の微隆起突帯、棒状浮文、5条の微隆起突帯、棒状浮文を配置する。仁淀川流域からの搬入品である。25は細頸壺である。6条1単位のやや粗い櫛描直線文を3単位施す。26は脚付き壺である。脚部は「ハ」の字状を呈し、端部に平坦面を成す。内底面の円盤は欠落する。SK10出土の破片と接合する。27は脚付き壺である。脚部は「ハ」の字状を呈し、端部は強いヨコナデ調整により上方へつまみ出し、端面は凹面状を呈する。外面は縦方向のミガキ調整である。28は甕である。貼付口縁であり、強く外反する。粘土帯外面にはナデ調整を施す。口唇部は凹面状を呈する。外面はタテハケ調整、内面はヨコハケ調整である。29は甕である。口縁部を大きく外反させ、口唇部には面取りを施す。口唇部下端には刻目を入れる。また、口縁直下に微隆起突帯を巡らせる。頸部を下から上への調整で粘土を掻きあげ、微隆起突帯を強調する。口縁端部と微隆起突帯間に櫛

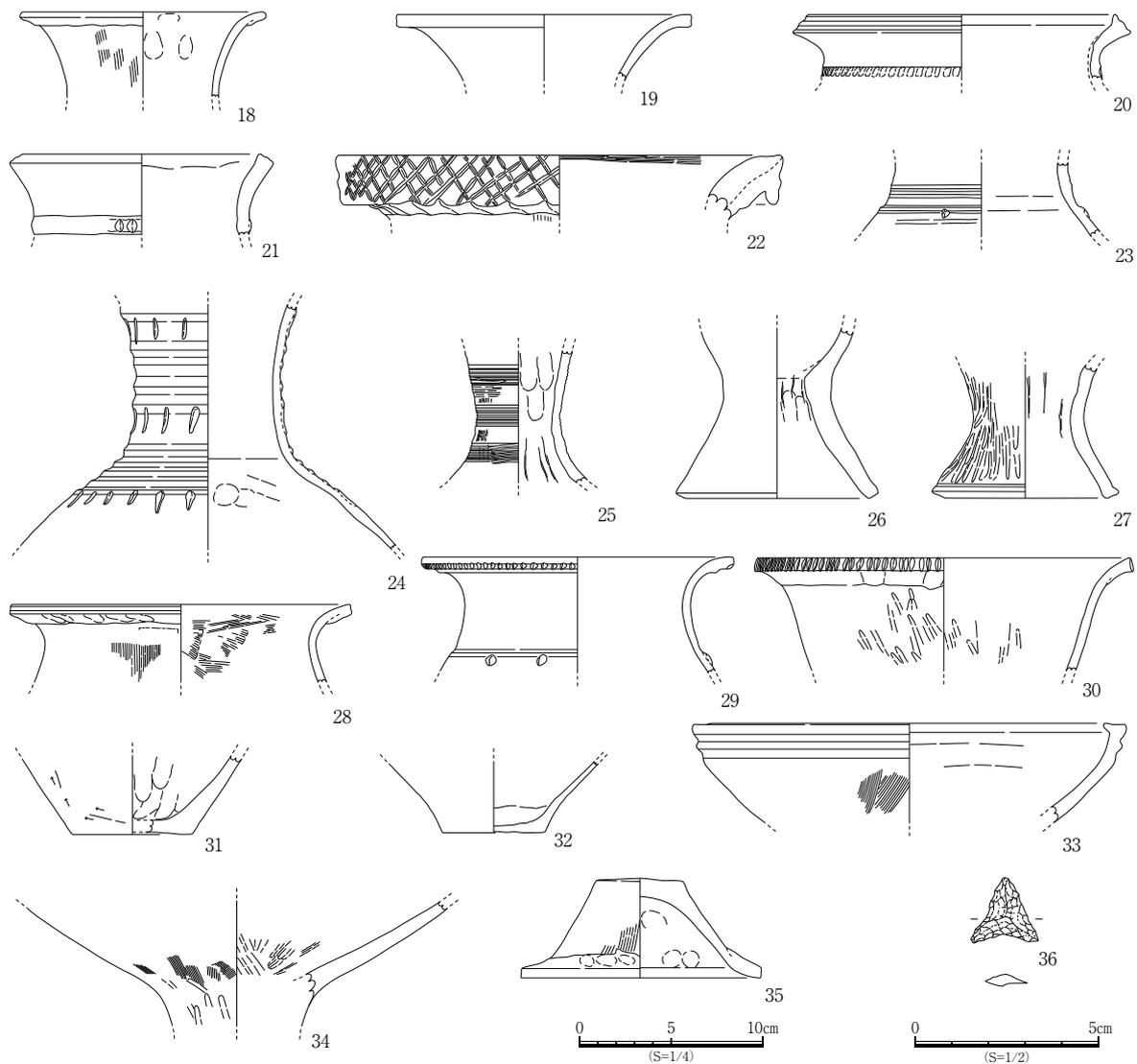


図 I - 10 I - 2 - 0・1区ST1遺物実測図

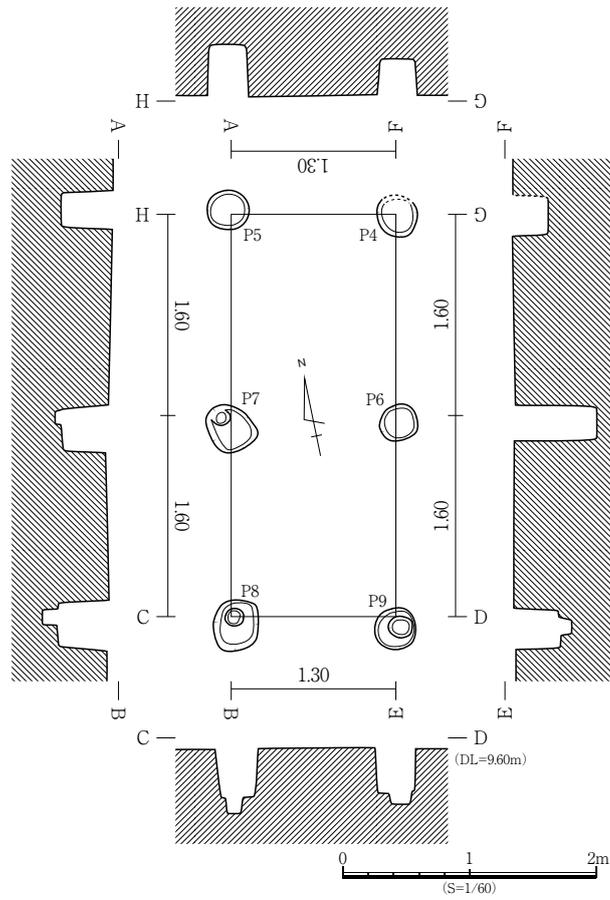


図 I - 11 I - 2 - 0・1区SB1平面図・エレベーション図

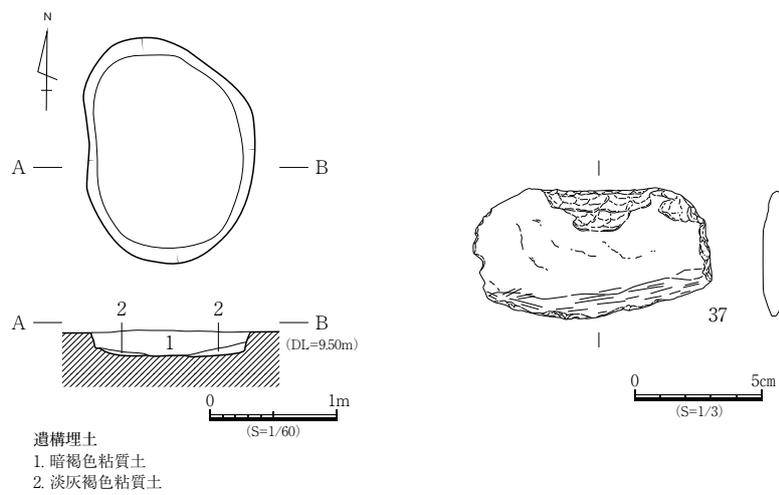


図 I - 12 I - 2 - 0・1区SK1平面図・断面図・遺物実測図

描直線文が施されていた可能性がある。上胴部には微隆起突帯、微隆起突帯下端に接して浮文を貼付ける。30は鉢である。貼付口縁であり、口唇部全面にしっかりとした刻目を施す。内外面ともミガキ調整である。31は底部である。底端部はシャープであり、底面と体部の境界は明瞭である。外面にはケズリ調整を施す。32は壺の底部である。器壁は薄い。仁淀川流域からの搬入品である。33は高杯である。口縁部は内湾気味に立ち上がる。外面には凹凸の明瞭な凹線文が2条巡る。口唇部は強いヨコナデ調整により内側へ拡張し、端部は凹面状を呈する。杯部外面はハケ調整である。34は高杯である。外面はハケ調整後ミガキ調整である。内面はミガキ調整である。SK1出土の破片と接合した。35は蓋である。貼付口縁である。貼付部分から大きく外反する。粘土帯外面には指頭圧痕がみられ、口唇部には面取りを施す。外面はタテハケ調整である。

## (2)SB

### SB1 (図 I - 11)

調査区北部で検出した掘立柱建物跡である。P4～9で構成される。1間×2間の南北棟の建物跡に復元できる。桁行は1.6m、梁行は1.3mである。棟方向はN-11°33'-Eである。時期は不明である。

## (3)SK

### SK1 (図 I - 12)

調査区南部で検出した土坑である。長軸約1.8m、短軸約1.3mの楕円形を呈する。検出面からの深さは15cmであり、埋土は暗褐色粘質土、淡灰褐色粘質土である。

図示した出土遺物は石包丁(37)である。表面は主要な剥離面を大きく残し、裏面は自然面である。刃部は磨き、片刃である。短辺には紐掛け用の抉りを入れる。粘板岩製である。

### SK2

調査区南端部で検出した土坑である。ST1に切られる。長軸約1.8m、短軸約0.7mの楕円形を呈する。検出面からの深さは17cmであり、埋土は灰褐色粘質土である。

### SK3 (図 I - 13)

調査区南端部に位置し、一部は調査区外である。長軸約1.8m、短軸約0.9mの楕円形を呈する。検出面からの深さは28cmであり、埋土は暗褐色粘質土である。

図示した出土遺物は弥生土器の壺・鉢である。38は壺である。口縁部はあまりひらかず、なで肩である。貼付口縁であり、粘土帯は指押え後ヨコナデ調整を施す。口唇部には面取りを施す。外面は縦方向のミガキ調整であり、内面はナデ調整である。39は鉢である。口縁部は弱く外反する。貼付口縁であり、粘土帯を指押え後ヨコナデ調整を施す。口唇部はつまみ上げ、平坦面を成す。外面は縦方向のミガキ調整であり、内面はナデ調整である。40は鉢である。底部付近からひろがりながら立ち上がり、口縁部は緩やかに外反する。貼付口縁であり、粘土帯を指押さえ後ヨコナデ調整を施す。口縁端部をつまみ上げる。外面は縦方向のミガキ調整である。口縁部内面は横方向のハケ調整であり、体部は縦方向のミガキ調整である。内面底部付近には砂粒の移動痕跡が認められる。外面には煤が付着しており、煮沸に使用されたと考えられる。

### SK4 (図 I - 14)

調査区南端部で検出した土坑である。長軸約0.5m、短軸約0.4mの隅丸長方形を呈する。検出面か

らの深さは5cmである。図示した出土遺物は弥生土器の底部(41)である。端部が丸みを帯びた平底である。磨耗のため調整等の観察は困難である。被熱変色する。

SK7 (SK12・14, P31) (図 I - 15)

調査区南西部で検出した土坑である。床面でSK12・14, P31を検出した。SK7は長軸約3.0m, 短軸約2.3mの隅丸長方形を呈する。検出面からの深さは10cmであり, 埋土は暗褐色粘質土である。SK12はSK7の北半分を掘り下げたような土坑である。長軸約2.3m, 短軸約1.1mの隅丸長方形を呈する。SK7の床面からの深さは22cmであり, 埋土は黒褐色粘質土, 暗褐色粘質土である。SK14はSK7の床面中央に位置する土坑である。長軸約1.1m, 短軸約0.5mの楕円形を呈する。SK7の床面からの深さは4cmであり, 埋土は暗褐色粘質土である。P31は直径約0.4mの円形を呈したピットである。SK7の床面からの深さは15cmである。

図示した出土遺物は弥生土器の壺・甕, 石斧である。42は壺である。貼付口縁であり, 貼付部分から水平近く外反する。粘土帯を指押え後ヨコナデ調整を施す。粘土帯外面には指頭圧痕がみられる。口唇部には面取りを施すが, 丸みを帯びる。頸部外面はタテハケ調整, 口縁部内面はヨコハケ調整である。43は壺である。口縁部は緩やかに外反する。口縁部外面に刻目を施す。器壁は比較的薄い。44は壺である。貼付口縁であり, 粘土帯を指押え後ヨコナデ調整を施す。口唇部には面取りを施し, 凹面状を呈する。45は甕である。口縁部よりやや下がった位置に微隆起突帯を巡らせる。微隆起突帯部が最も器壁が厚く口縁端部にむかって器厚は減じる。口唇部には面取りを施し, 下端に刻目を入れる。仁淀川流域か

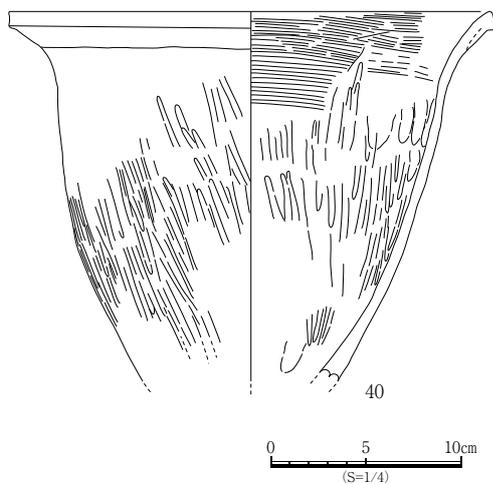
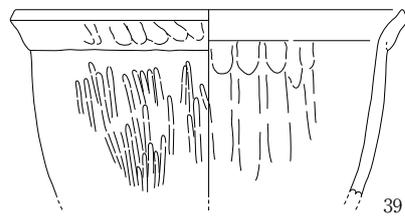
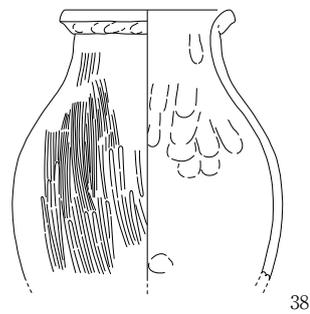
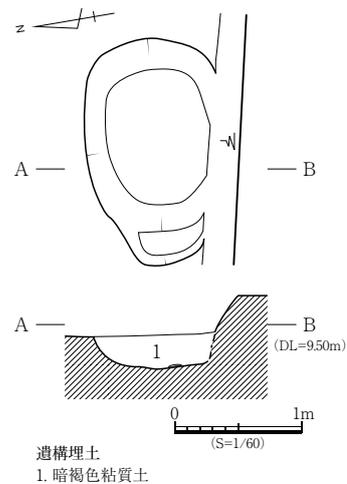


図 I - 13 I - 2 - 0・1区SK3  
平面図・断面図・遺物実測図

らの搬入品である。46は緑色片岩製の石斧である。扁平な棒状の自然石を利用する。基部を直線的に成形、刃部を研磨する以外は未加工である。両刃である。基部付近の側面にわずかな凹みがみられる。柄に装着する時の痕跡の可能性ある。刃部は欠損する。

SK9 (図 I - 16)

調査区南西部で検出した土坑である。長軸約 1.8m, 短軸約 1.5mの隅丸長方形を呈する。検出面からの深さは7cmであり、埋土は暗褐灰色粘質土である。

図示した出土遺物は弥生土器の壺(47), 石槍(48)である。47は細頸長頸壺である。外面に櫛描直線文を施す。磨耗のため調整等の観察が困難である。48の両側面は敲打により鋭角にする。両端は欠損する。サヌカイト製である。

SK10 (図 I - 17~19)

調査区南西部で検出した土坑である。長軸約 2.1m, 短軸約 1.3mの楕円形を呈する。検出面からの深さは50cmであり、主な埋土は黒褐色粘質土, 暗灰褐色粘質土である。

図示した出土遺物は弥生土器の壺・甕・鉢, 石鏃である。49は壺である。長頸で口縁部はほとんどひらかない。貼付口縁である。口唇部は面取りされ、つまみ上げる。外面には繊細な櫛描直線文を施す。外面はミガキ調整, 内面はナデ調整である。

50は壺である。球形の体部から頸部は短く直立する。口縁部は短く外反し、口唇部には面取りを施す。52は壺である。貼付口縁である。粘土帯外面には指頭圧痕がみられ、口唇部には面取りを施す。53は壺である。貼付口縁である。粘土帯を指押え後ヨコナデ調整を施す。口唇部にはハケ状原体による面取りを施す。外面はタテハケ調整であり、内面は磨耗のため調整等は不明瞭である。54は壺である。口縁部は「く」の字状を呈し、口唇部は面取りによりわずかに拡張する。口縁部内面に薄い粘土帯を貼付か。頸部に押捺突帯を巡らせる。外面はミガキ調整である。55は大型壺である。胴部中位に最大径部を持つ。底部は平底で外底面にはナデ調整を施す。頸部は内傾気味に短く直立し、粘土帯接合部で外反させ口縁部とする。口唇部には斜格子文を施す。頸部と上胴部の境には断面三角形の突帯を貼付ける。指頭により粘土をつまんで突帯を成形する。56は壺である。頸部と上胴部の境に断面三角形の突帯を貼付ける。57は壺である。残存部位のほぼ全面に文様を施す。上から櫛描波状文, 断面三角形の突帯, 櫛描波

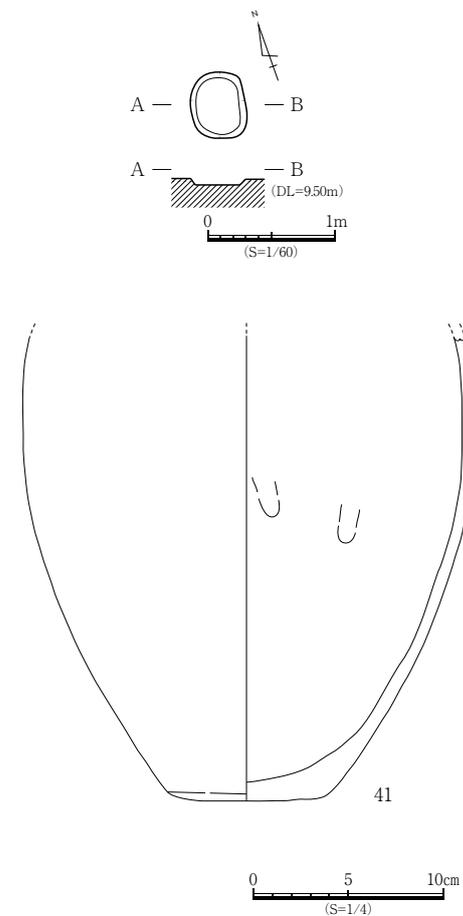


図 I - 14 I - 2 - 0・1区SK4  
平面図・エレベーション図・遺物実測図

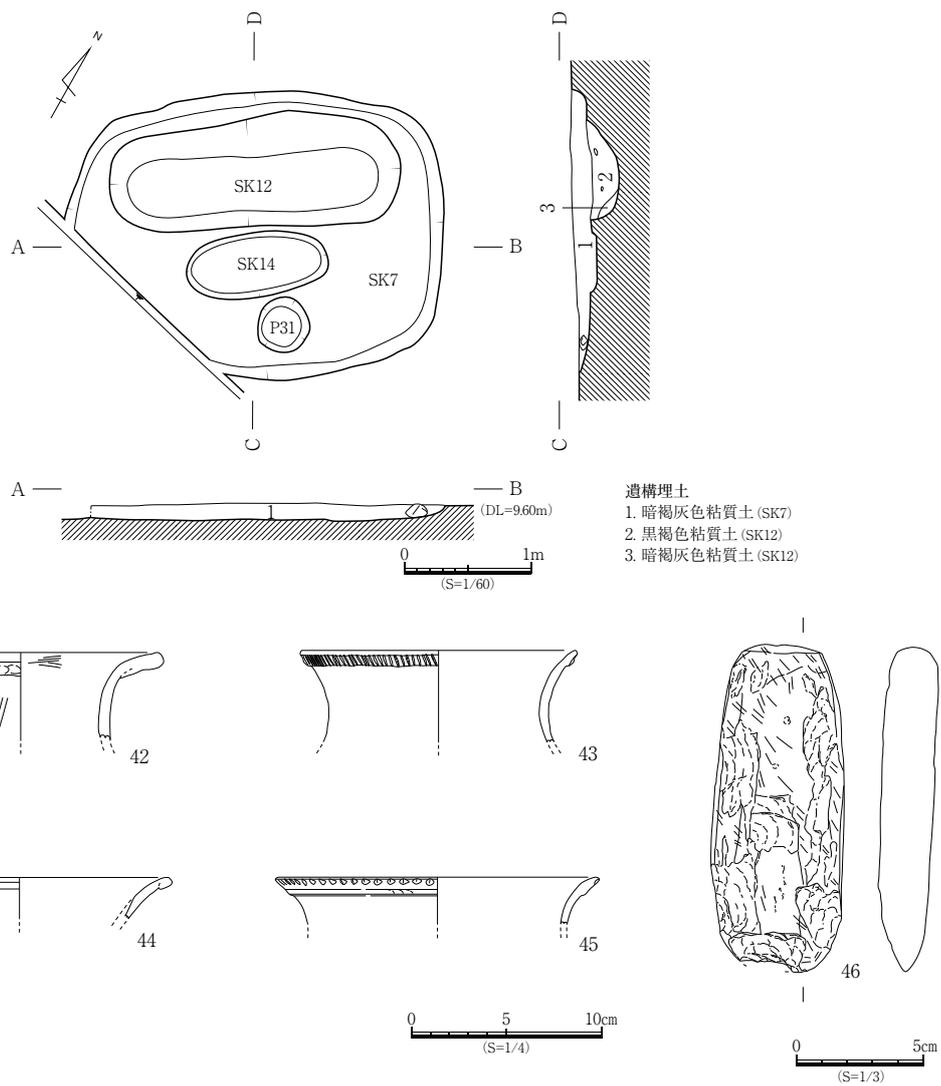


図 I - 15 I - 2 - 0・1区SK7・12・14平面図・断面図・遺物実測図

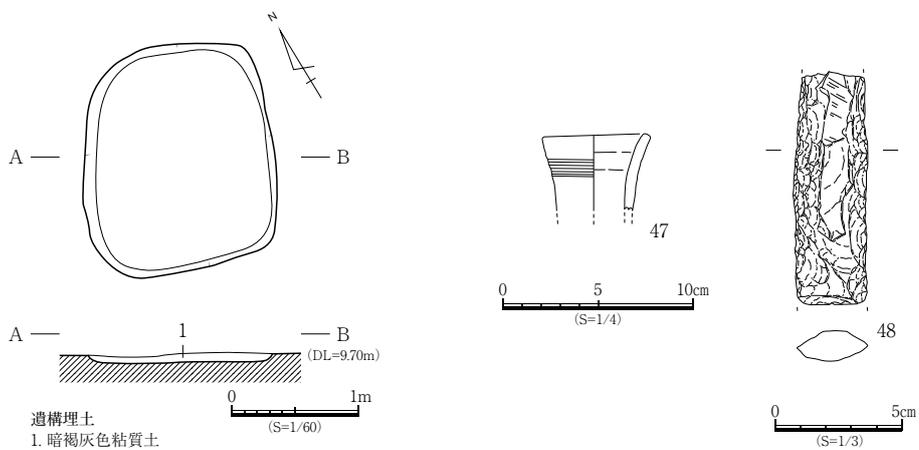


図 I - 16 I - 2 - 0・1区SK9平面図・断面図・遺物実測図

状文、流水文を配置する。内面は強いナデ調整を施し、凹凸が明瞭である。58は甕である。口縁部は大きく外反し、胴部最大径をしのぐ。口縁端部外面に刻目突帯を貼付する。また、口縁部からやや下がった位置に微隆起突帯を巡らせる。頸部から体部上半部を文様帯とする。上から櫛描直線文、4条の突帯、楕円形浮文、櫛描直線文、櫛描波状文を配置する。59は甕である。上胴部を文様帯とする。3条の突帯、楕円形浮文を配置する。内外面ともナデ調整である。60は甕である。口縁部は強く外反する。口縁端部をつまみ上げ、口唇部に凹線文を巡らせる。讃岐からの搬入品である。61は鉢である。粘土紐を接合し、水平近くまで外反させて口縁部とする。粘土帯外面には指頭圧痕が認められる。ヨコナデ調整により口縁端部をつまみ上げる。口唇部にはハケ状原体による面取りを施す。内外面ともナデ調整である。62は鉢である。平底から膨らみながら立ち上がり、口唇部は丸くおさめる。外面下半部はタテハケ調整である。被熱により変色、煤が付着する。63は鉢である。口唇部は内側に拡張し平坦面を成す。外面には5条の沈線文、刻目文を施す。讃岐からの搬入品である。64は高杯である。口唇部を拡張し、凹面状を呈する。外面には4条の凹線文を施す。65は脚部である。「ハ」の字状を呈し、端部は丸くおさめる。磨耗のため、調整等の観察は困難である。円盤充填か。66・67は底部である。ともに讃岐からの搬入品である。68は大型壺の底部である。粘土紐接合部で剥離しており、製作工程が復元できる。底部は粘土紐を輪状にし外周とする。底面は大きく2層から成る。体部は内傾接合で粘土紐を積んでいく。69は甕である。断面三角形の突帯を2条巡らせる。外面はミガキ調整であり、内面はナデ調整であり、一部にハケメがみられる。煤が付着する。金雲母片を含み、南九州からの搬入品である可能性が高い。70は壺の底部である。やや上げ底である。内面はナデ調整である。金雲母片を含み、南九州からの搬入品である可能性が高い。71はサヌカイト製の有茎式の打製石鏃である。完存である。

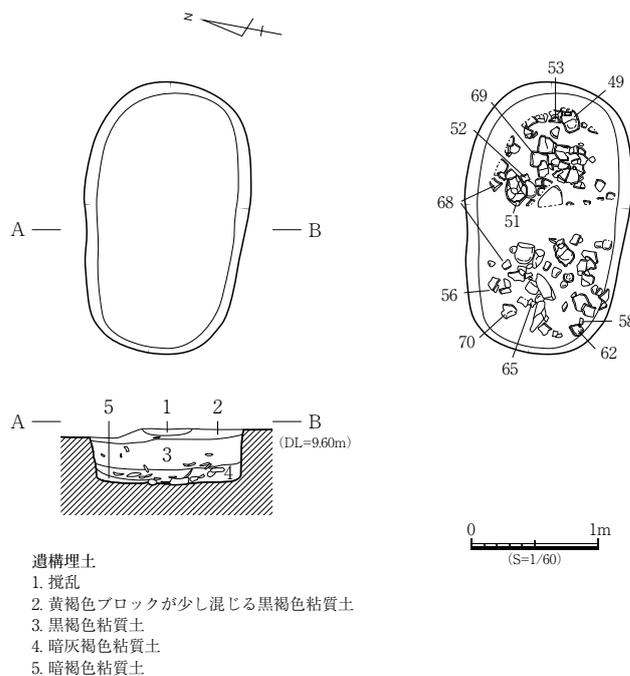


図 I - 17 I - 2 - 0・1区SK10平面図・断面図・遺物出土状況図

SK11

調査区南西部で検出した土坑である。長軸約 1.7m，短軸約 0.4m の溝状を呈する。検出面からの深さは 12cm であり，埋土は暗褐色粘質土である。

SK12 (図 I - 20)

調査区南西部に位置する。SK7 の床面で検出した。長軸約 2.3m，短軸約 1.1m の隅丸長方形を呈す

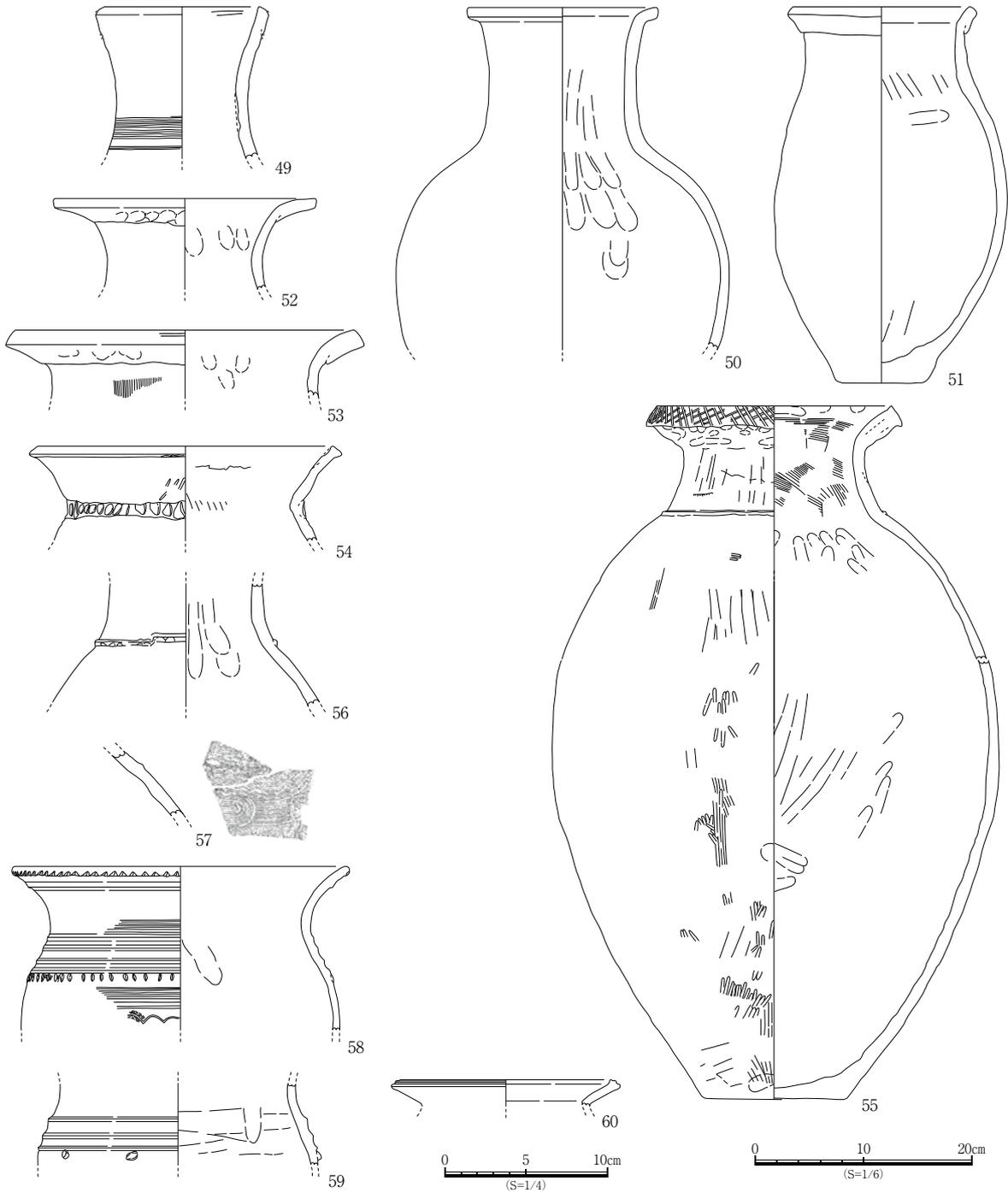


図 I - 18 I - 2 - 0・1区SK10遺物実測図1

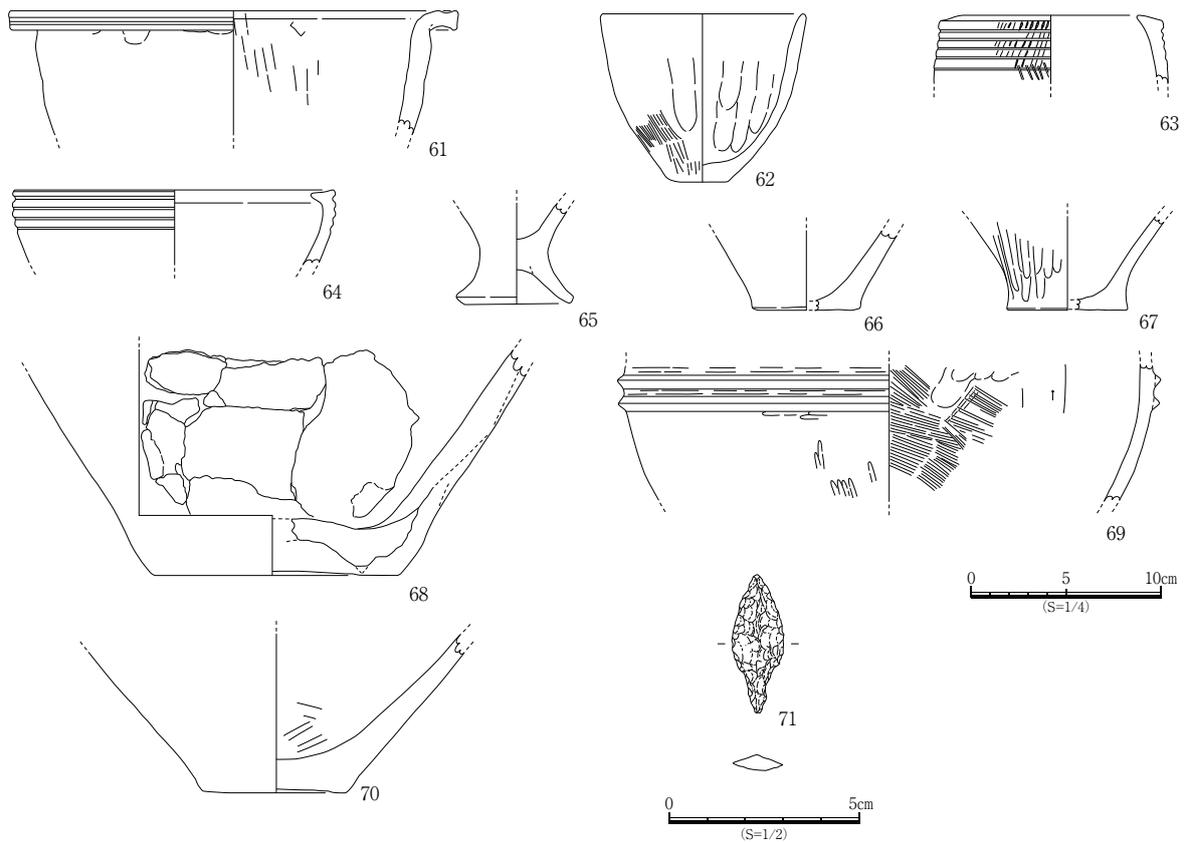


図 I - 19 I - 2 - 0・1区SK10 遺物実測図2

る。検出面からの深さは25cmであり、埋土は黒褐色粘質土、暗褐灰色粘質土である。

図示した出土遺物は凹基式の打製石鎌(72)である。完存である。

### (3)SD

#### SD1

調査区北部の上面で検出した東西方向の溝跡である。西方向は調査区外へのびる。幅約0.6m、検出長は約6.1mである。検出面からの深さは9cmである。埋土は黄灰色粘質土である。

#### SD3

調査区中央部の上面で検出した溝跡である。東西方向に直線的にのび、南東方向に方向転換する。東西方向の溝幅は約1.1mとひろく、南東方向の溝跡は幅約0.5mである。検出長は約17mであり、東側に隣接する調査区(I-2-2区)でも検出している。埋土は黄灰色砂、灰色粘砂土である。

#### SD4 (図 I - 21)

上面で検出した北西方向から南東方向へのびる溝跡であり、調査区南端付近で分岐する。幅約0.4m、検出長は約30mであり、両端は調査区外へのびる。検出面からの深さは17cm

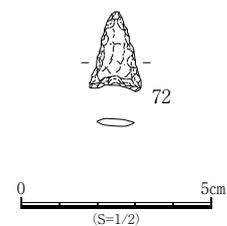
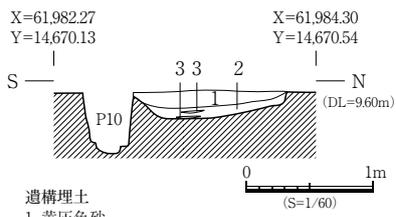
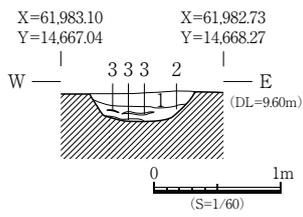


図 I - 20 I - 2 - 0・1区 SK12 遺物実測図

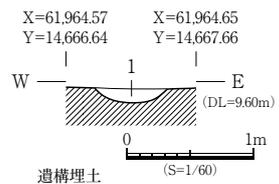


遺構埋土  
1. 黄灰色砂  
2. 灰色粗砂  
3. 黄橙色粘質土

SD3

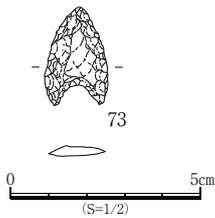


SD3

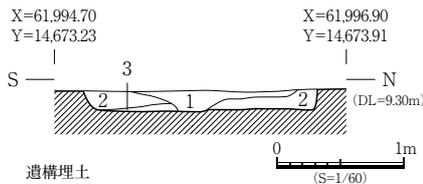


遺構埋土  
1. 暗黄褐色が混じり砂粒入る灰黄色粘砂土

SD4

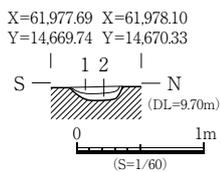


SD6



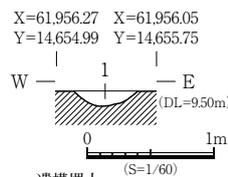
遺構埋土  
1. 褐灰色粘質土  
2. 黑色粘質土  
3. 黄褐色粘質土

SD7



SD8

遺構埋土  
1. 黄褐色粗砂  
2. 黑褐色粘質土



遺構埋土  
1. 暗褐色粘質土

SD9

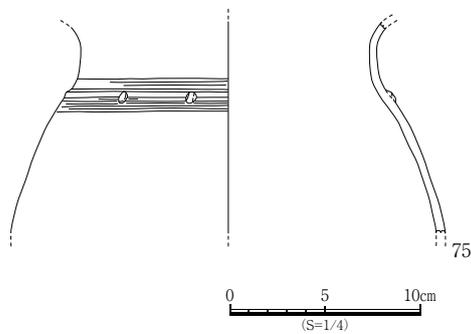
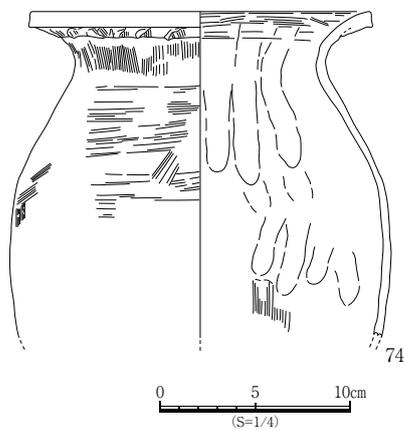


図 I - 21 I - 2 - 0.1区SD3・4・6~9断面図・遺物実測図

であり、埋土は灰黄色粘砂土である。

**SD5**

調査区中央の上面で検出した溝跡である。SD4に切られる。幅約0.3m、検出長は約2.5mである。検出面からの深さは3cmである。

**SD6 (図 I - 21)**

図示した出土遺物は凹基式の打製石鏃(73)である。サヌカイト製である。両面とも主要な剥離面を大きく残し、縁辺部のみ調整剥離を施す。完存である。

**SD7 (図 I - 21)**

調査区北部で検出した溝跡である。東西方向の溝跡で調査区の東端部で南東方向に曲がる。幅約1.3m、検出長は約8mである。検出面からの深さは14cmであり、埋土は褐灰色粘質土、黒色粘質土、黄褐色粘質土である。東に隣接する調査区においてもこの溝の続きを検出した。

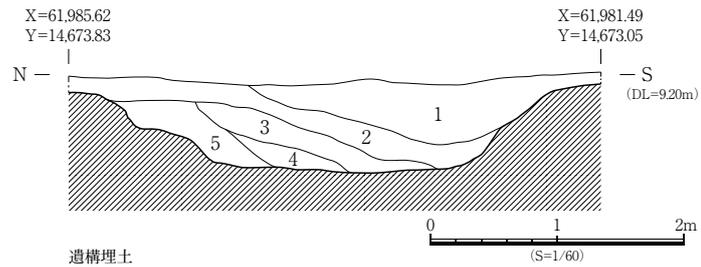
**SD8 (図 I - 21)**

調査区中央で検出した溝跡である。北西方向から南東方向の溝跡である。幅約0.4m、検出長約11mであり、両端は調査区外へのびる。検出面からの深さは4cmである。

図示した出土遺物は弥生土器の甕(74)である。貼付口縁であり、粘土帯外面には指頭圧痕が残る。口唇部には面取りを施し、凹面状を呈する。口縁部外面はタテハケ調整、体部は横方向・斜め方向のハケ調整である。口縁部内面はヨコハケ調整、体部はナデ・ハケ調整である。

**SD9 (図 I - 21)**

調査区南部で検出した南北方向の溝跡である。幅約0.5m、検出長約



- 遺構埋土
- 1. 暗褐灰色粘質土
  - 2. 褐灰色粘質土
  - 3. 褐灰色粘質土
  - 4. 砂を含む黄色粘質土
  - 5. 褐色粘質土

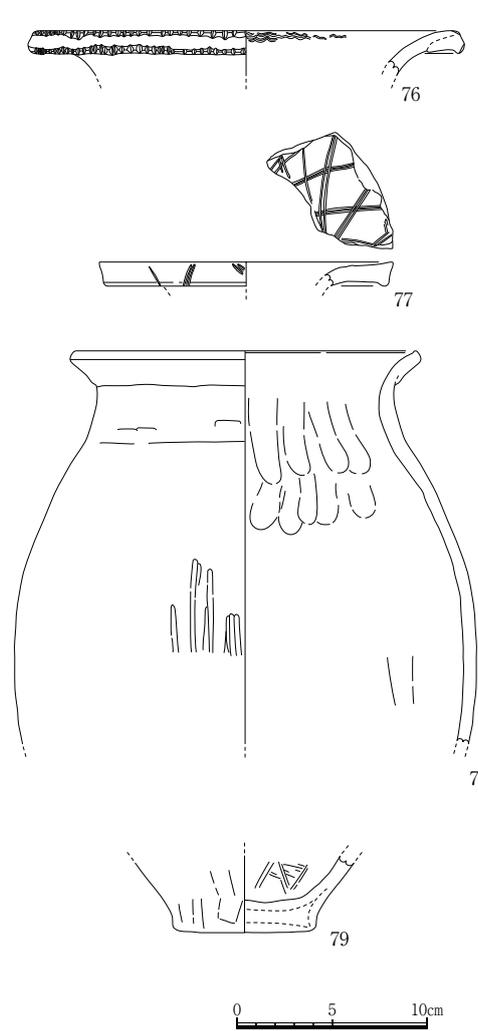


図 I - 22 I - 2 - 0・1区SR1断面図・遺物実測図

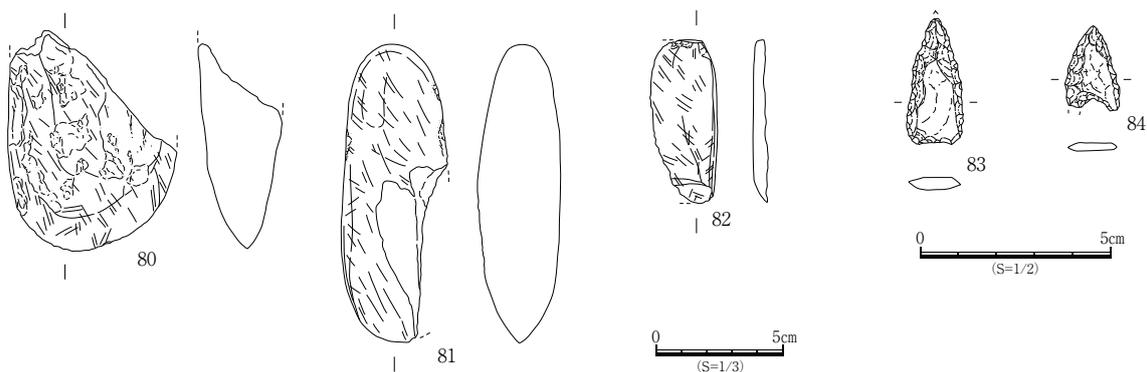


図 I - 23 I - 2 - 0・1区遺構外出土遺物実測図

6mである。検出面からの深さは11cmであり、埋土は暗褐色粘質土である。

図示した出土遺物は弥生土器の甕(75)である。頸部と胴部の境目が微隆起突帯であり、その上下には1単位ずつ櫛描直線文を施す。微隆起突帯の下端に接して楕円形浮文を貼付ける。内面はナデ調整である。仁淀川流域からの搬入品である。

#### (4)SR

##### SR1 (図 I - 22)

調査区北部で検出した自然流路跡である。幅約5m, 検出長約7mである。検出面からの深さは60cmであり、主な埋土は暗褐灰色粘質土, 褐色粘質土等である。東に隣接する調査区においてもこの流路の続きを検出した。

図示した出土遺物は弥生土器の壺・底部である。76は壺である。貼付口縁であり、粘土帯を連続的に指押さえする。口唇部を下方へ引っ張り出すため強くヨコナデ調整を施す。そのため口唇部は凹面状を呈し、粘土帯外面の上部は平滑となる。口唇部の上下端に刻目を施す。口縁部内面には櫛描波状文を描く。77は壺である。貼付口縁であり水平に外反する。口唇部はヨコナデ調整により上端をつまみ上げ、平坦面となる。口縁部内面には双線による斜格子文, 口唇部には斜線文を施す。78は壺である。上胴部に最大径部を持ち、口縁部はあまりひらかない。貼付口縁であり、外面にはヨコナデ調整を施し、口唇部は面取りする。外面はタテハケ調整後ミガキ調整を施す。内面の上半部はナデ調整, 下半部は砂粒の移動痕跡が認められる。外面には煤が付着し、煮沸に使用していたと考えられる。

#### (5)遺構外出土遺物(図 I - 23)

図示した出土遺物は石斧, 石鏃である。80は緑色岩製の太型蛤刃石斧である。大部分は欠損する。部分的に自然面, 成形時の敲打による凹みが認められる。刃部は片減りする。81は緑色岩製の伐採斧である。側面には成形時の細かな敲打痕跡がみられる。基部付近は柄に固定するための凹みが認められる。両面とも磨かれ、特に刃部はよく磨かれている。基部は丸みを持つ。82は硬質砂岩製の扁平片刃石斧である。大部分は欠損する。側面は面取りされるが基部付近には及ばない。また、その部位に対応して幅も狭くなる。83はサヌカイト製の打製石鏃である。平面形は縦長の二等辺三角形を呈する。両面

とも主要な剥離面を大きく残し、縁辺部のみ調整剥離を施す。ほぼ完存である。84はサヌカイト製の打製石鏃である。凹基式である。両面とも主要な剥離面を大きく残し、縁辺部のみ調整剥離を施す。

③ I - 2 - 2区

(1)SK

SK1 (図 I - 24)

調査区中央で検出した土坑である。西側は調査区外である。長軸2m以上、短軸約1.7mの隅丸長方形を呈する。検出面からの深さは12cmであり、埋土は黒褐色粘質土である。

(2)SD

SD1 (図 I - 25)

調査区北部で検出した東西方向の溝跡である。幅約0.6m、検出長約6.8mである。検出面からの深さは19cmであり、埋土は黄褐色粘質土、黒色粘質土である。両隣の調査区においても、この溝の続きを検出した。

SD2

調査区南部の上面で検出した北西方向から南東方向の溝跡である。幅約0.4m、検出長約7.4mである。検出面からの深さは19cmであり、埋土は黄灰色砂、灰色粗砂等である。西隣の調査区においても、この溝の続きを検出した。

SD3 (図 I - 25)

調査区北部で検出した南北方向の溝跡である。幅約0.5m、検出長約6.2mである。検出面からの深さは9cmである。

図示した出土遺物は平基式の打製石鏃(85)である。サヌカイト製である。基部付近はやや厚い。縁辺に調整剥離を施すが、むらがある。

(3)SR

SR1 (図 I - 26)

調査区北部で検出した東西方向の流路跡である。幅約5.7m、検出長約6.8mである。検出面からの深さは68cmであり、主な埋土は褐色シルト、暗褐色シルト、黒褐色シルト、黒褐色粘質土、褐灰粘質土である。両隣の調査区においても、この流路の続きを検出した。

図示した出土遺物は弥生土器の甕・鉢、石剣である。86は甕である。口縁部は「く」の字状を呈し、端部をつまみ上げる。口唇部は凹線状を呈する。内外面ともナデ調整である。87は鉢である。貼付口縁であり、粘土帯外面には指頭圧痕が認められる。口唇部には面取りを施す。頸部外面はタテハケ調整、体部外面は縦方向のミガキ調整である。口縁部内面は斜め方向のハケ調整、体部内面はナデ調整である。88は磨製石剣の切先である。頁岩製である。両面とも丁寧に磨かれ鏃は明瞭であり、横断面形は菱形を呈する。鏃は先端までは認められない。

(4)遺構外出土遺物(図 I - 27)

図示した出土遺物は凹基式の打製石鏃(89)である。赤色チャート製である。両面とも主要な剥離

面を残す。縁辺部の調整剥離の単位はやや大きい。

④ I - 2 - 3区

(1)SD

SD1 (図 I - 28)

調査区北部で検出した東西方向の溝跡である。幅約 2.7m, 検出長約 8.6mである。検出面からの深さは33cmであり、埋土は褐灰色粘質土, 暗褐灰色粘質土である。両隣の調査区においても、この溝の続きを検出した。

(2)SR

SR1 (図 I - 29)

調査区北部で検出した東西方向の流路跡である。幅約 5.3m, 検出長約 8.6mである。検出面からの深さは77cmであり、主な埋土は黒褐色シルト層等である。両隣の調査区においても、この流路の続きを検出した。

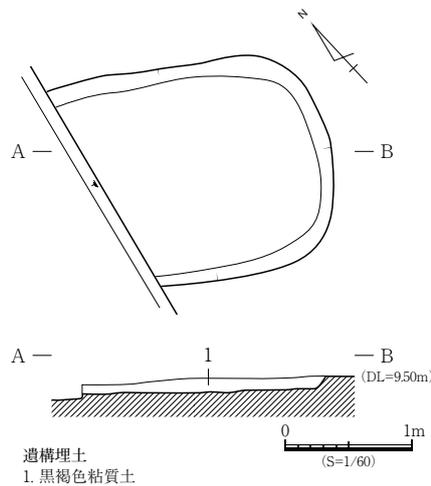


図 I - 24 I - 2 - 2区SK1平面図・断面図

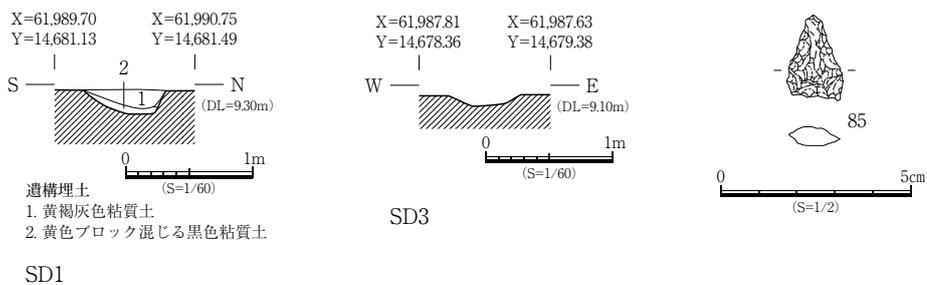


図 I - 25 I - 2 - 2区SD1・3断面図・エレベーション図・遺物実測図

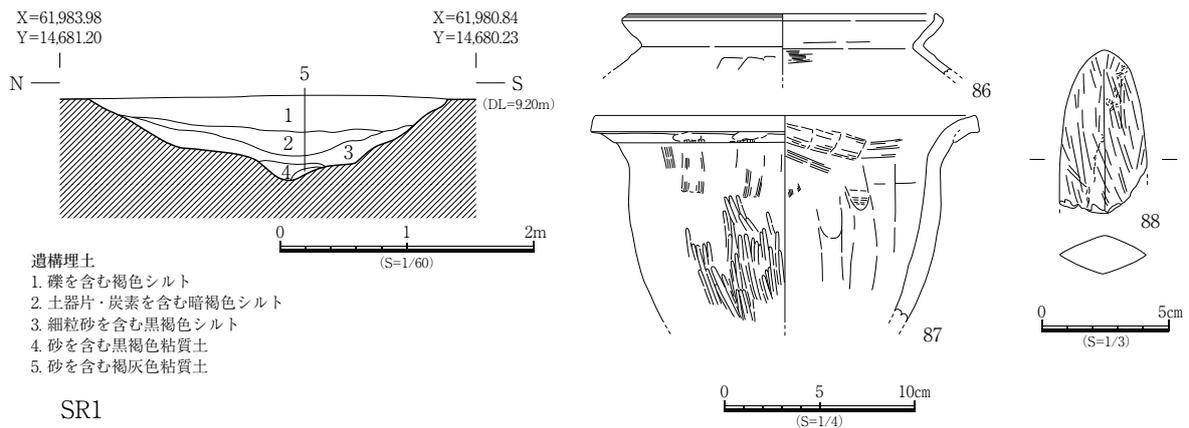


図 I - 26 I - 2 - 2区SR1断面図・遺物実測図

図示した出土遺物は弥生土器の壺・甕である。90は壺である。頸部はやや長く直立し、口縁部は大きくひらく。貼付口縁であり、粘土帯を指押え後ヨコナデ調整を施す。口唇部に強いヨコナデ調整を施し、下端を引っ張り出す。口縁部下端に刻目を施す。頸胴部境に櫛描波状文を施す。外面はタテハケ調整、内面はナデ・ハケ調整を施す。91は甕である。口縁部は大きくひらき、口縁端部をつまみ上げる。口縁部下端に刻目を施す。刻目の下に微隆起突帯を貼付け、さらに櫛描直線文を巡らせる。仁淀川流域からの搬入品である。

⑤ I - 3区

(1)SD

SD1 (図 I - 30・31)

調査区北部で検出した溝跡である。I - 2 - 3区から続く溝跡である。幅約1.5mであり、検出面からの深さは33cmである。主な埋土は、褐色砂質シルト、褐色シルト、暗灰褐色粘質シルト等である。両隣の調査区においても、この溝の続きを検出した。

(2)SR

SR1 (図 I - 31)

調査区北部で検出した流路跡である。I - 2 - 3区から続く溝跡である。幅約4.0mであり、検出面からの深さは74cmである。主な埋土は、褐色砂質シルト、暗褐色砂質シルト、褐灰色砂質シルト等である。西隣の調査区においても、この流路の続きを検出した。

図示した出土遺物は弥生土器の壺・甕・鉢、土製円盤である。92は壺である。口縁部は大きくひらき、下方へ拡張させる。口縁部内面に双線による文様、2孔1対の刺突文、口唇部には双線による文様を施す。讃岐からの搬入品である。93は壺である。頸胴部境に断面三角形の貼付け突帯を1条巡らせる。上胴部には上から櫛描直線文・櫛描波

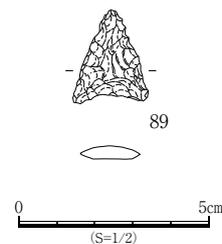


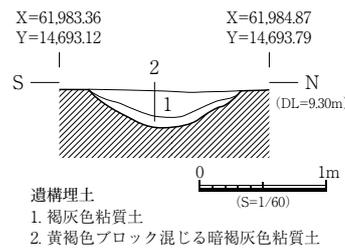
図 I - 27 I - 2 - 2区遺構外出土遺物実測図

状文・櫛描直線文・櫛描波状文・櫛描直線文・2孔1対の刺突文を配置する。讃岐からの搬入品であり、92と同一個体の可能性がある。94は壺である。上胴部を文様帯とし、上から櫛描籐状文・櫛描直線文・櫛描波状文・櫛描直線文を配置する。外面はハケ調整(ミガキ調整か)、内面はナデ調整である。96は甕である。頸胴部境付近に上から櫛描直線文・微隆起突帯・櫛描直線文・微隆起突帯・櫛描直線文・楕円形浮文を配置する。97は鉢である。貼付口縁であり、粘土帯外面には指頭圧痕がみられる。口唇部には面取りを施す。外面は縦方向のミガキ調整、内面はナデ調整である。98は土製円盤である。土器片を加工したと推測される。磨耗のため調整等の観察は困難である。紡錘車の未成品か。

SR2(図I-32)

調査区南半部で検出した流路跡である。検出面からの深さは70cmである。主な埋土は、暗褐色シルト、黒褐色シルト、暗褐色砂質土等である。

図示した出土遺物は弥生土器の甕、石包丁、石鏃である。99は甕である。貼付口縁であり、粘土帯外面にはヨコナデ調整を施す。口唇部は面取りされ、下端には不揃いの刻目を入れる。粘土帯下端に微隆起突帯を施す。櫛描直線文を巡らせ、楕円形浮文を重ねるか。仁淀川流域からの搬入品である。100は頁岩製の磨製石包丁である。両面とも研磨を施すが、剥離による段差は残る。片刃である。穿孔は片面のみから行う。101は凹基式の打製石鏃である。サヌカイト製である。両面とも主要剥離面を大きく残し、縁辺部への調整剥離も少ない。102は凹基式の打製石鏃である。サヌカイト製である。両面とも主要剥離面を大きく残す。縁辺部には調整剥離を施す。完存である。



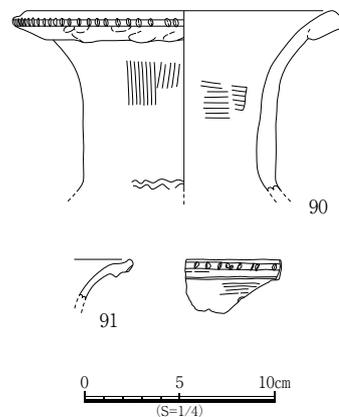
図I-28 I-2-3区SD1断面図

⑥ I-4-1区

(1)ST

ST1(図I-33~44)

調査区北東部で検出した竪穴建物跡である。北側は調査区外である。一辺約6.4mの隅丸方形を呈していると考えられる。検出面から床面までの深さは40cmであり、床面の標高は9.1mである。主な埋土は黒褐色シルト層、黒褐色粘質土層である。幅約0.5m、床面からの高さが10cmのベッドが巡る。床面で、中央ピット、焼土跡、ピットを検出している。床面のやや南寄りで中央ピット、その北側で焼土跡を検出した。中央ピットは、長軸約1.2m、短軸約0.7mの長楕円形を呈し、床面からの深さは28cmである。中央ピットの埋土は灰褐色粘質土であり、底には炭化物層がある。焼土跡は中央ピットの北端から焼土範囲の南端まで16cmであり、長軸24cm、短軸18cmの不整形



図I-29 I-2-3区SR1遺物実測図

である。中央ピットと北側の焼土跡はセットになると考えられる。

図示した出土遺物は弥生土器の壺・甕・鉢・高杯・甌・支脚・ミニチュア土器, 庄内式土器, 石包丁, 台石である。103は壺である。口縁部は短く外反し, 口唇部は丸くおさめる。体部は長胴であり, 底部は丸底である。外面は叩き調整であり, 口縁端部まで一連の叩き調整を施し, 口縁部を外反させる。底端部際まで螺旋状の叩き目が認められ, 外底面にもナデ消されているが叩き目がみられる。内面はナデ調整である。外面の叩きは3分割で施される。被熱変色する。104は壺である。体部最大径を中位に持

つ長胴の体部から口縁部は直線的に外反する。口唇部は丸くおさめる。外面は叩き調整であり, 下半部は叩き調整後ハケ調整を粗に施す。口縁部は叩き調整後, ハケ調整を丁寧に施す。内面には粘土紐接合痕跡が明瞭に残存する。縦方向のナデ調整である。肩部から口縁部は斜め方向のハケ調整である。105は壺である。球形の体部から口縁部は大きく外反する。口唇部にはルーズな面取りを施す。外面は叩き調整, 下半部は叩き調整後タテハケ調整である。口縁部は端部まで上胴部からの一連の叩き調整を施し, 外反させる。口縁部の叩き目は比較的残存している。肩部内面には粘土紐接合痕跡が明瞭に残存する。口縁部から粘土紐接合痕跡まではハケ調整, それ以下はナデ調整である。106は壺である。球形の体部に口縁部は短く外反し, 端部は丸くおさめる。外面は叩き調整である。口縁部は上胴部からの一連の叩き調整後, 指頭により成形し, 叩き目はほとんど残らない。内面はハケ調整後ナデ調整を施す。口縁部はハケ調整である。被熱変色する。107は壺である。球形の体部から口縁部は内湾気味にのび, 端部は丸くおさめる。底部は角の丸みを持った平底であり, 叩き目が認められる。体部外面は全面叩き調整であり, 下半部にはタテハケ調整を加える。叩き調整は2回に分割して施す。口縁部外面の最終調整は斜め方向のハケ調整であり, 一部に叩き目状に見える部分があるが断定できない。108は壺である。上胴部に最大径を持ち, 口縁部は水平近くまで外反する。口唇部は下方へ引っ張り出す。底部はほぼ丸底であり, 中央部は凹む。外面は叩き調整後, 下半部には縦方向のナデ調整を粗に施す。肩部から口縁部はナデ調整であり, 肩部を境に調整が変化する。これは内面の粘土紐接合痕跡と対応する。内面はナデ調整である。109は壺である。口縁部は水平近くまで外反し, 口唇部には面取りを施す。外面はタテハケ調整, 内面はナデ調整である。110は壺である。体部は大きくひろがり, 球形を呈するものと推測される。口縁部を上下に拡張し, ハケ状工具により面取りを施す。外面は叩き調整後タテハケ調整を密に施す。頸部から口縁部はハケ調整である。内面は, ナデ・ハケ調整を施す。111は壺である。頸部には押捺突帯が巡る。磨耗のため調整等の観察は困難であるが, 外面は叩き調整と考えられる。113は壺である。内底面から押し出し丸底に成形する。外面は磨耗のため調整等の観察が困難であるが, 叩き目が認められる。内面はハケ調整後縦方向のナデ調整を施す。114は壺である。上胴部に最大径を持ち, 丸底である。外面は叩き調整であり, 下半部は

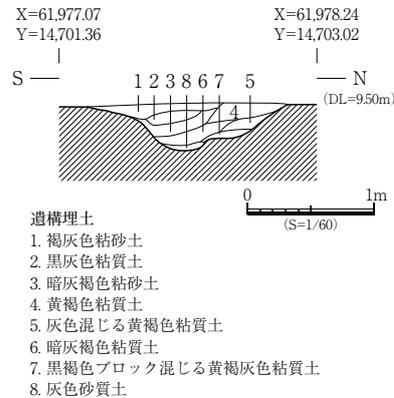
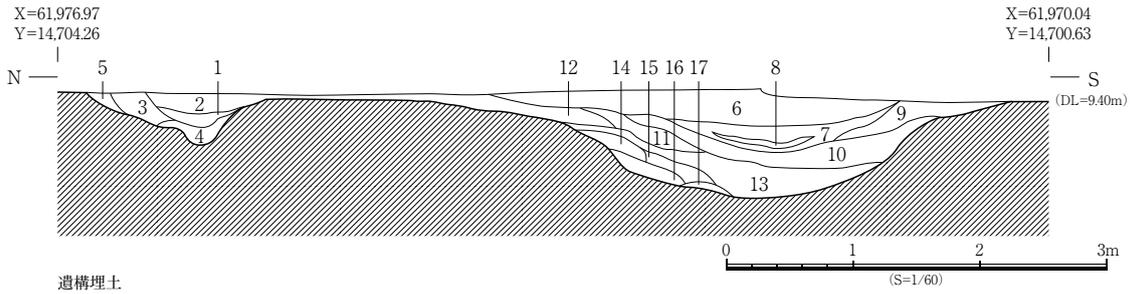


図 I - 30 I - 3区SD1断面図



遺構埋土

- |                           |                          |
|---------------------------|--------------------------|
| 1. 褐色砂質シルト (SD1)          | 10. 暗褐色砂質シルト (SR1)       |
| 2. 褐色シルト (SD1)            | 11. 黄灰褐色シルト (SR1)        |
| 3. 暗灰褐色粘質シルト (SD1)        | 12. 褐色砂質シルト (SR1)        |
| 4. 黄橙色粒子多量に入る灰白色砂質土 (SD1) | 13. 褐灰色砂質シルト (SR1)       |
| 5. 黒色土混じる暗褐灰色砂質シルト (SD1)  | 14. 黄色粒子入る褐灰色粘性シルト (SR1) |
| 6. やや粘性がある褐色砂質シルト (SR1)   | 15. 黄灰色粘性シルト (SR1)       |
| 7. 灰黄白色シルト (SR1)          | 16. 黒褐灰色粘性シルト (SR1)      |
| 8. 粗砂 (SR1)               | 17. 灰色砂混じる黄褐色粘質土 (SR1)   |
| 9. 褐灰色シルト (SR1)           |                          |

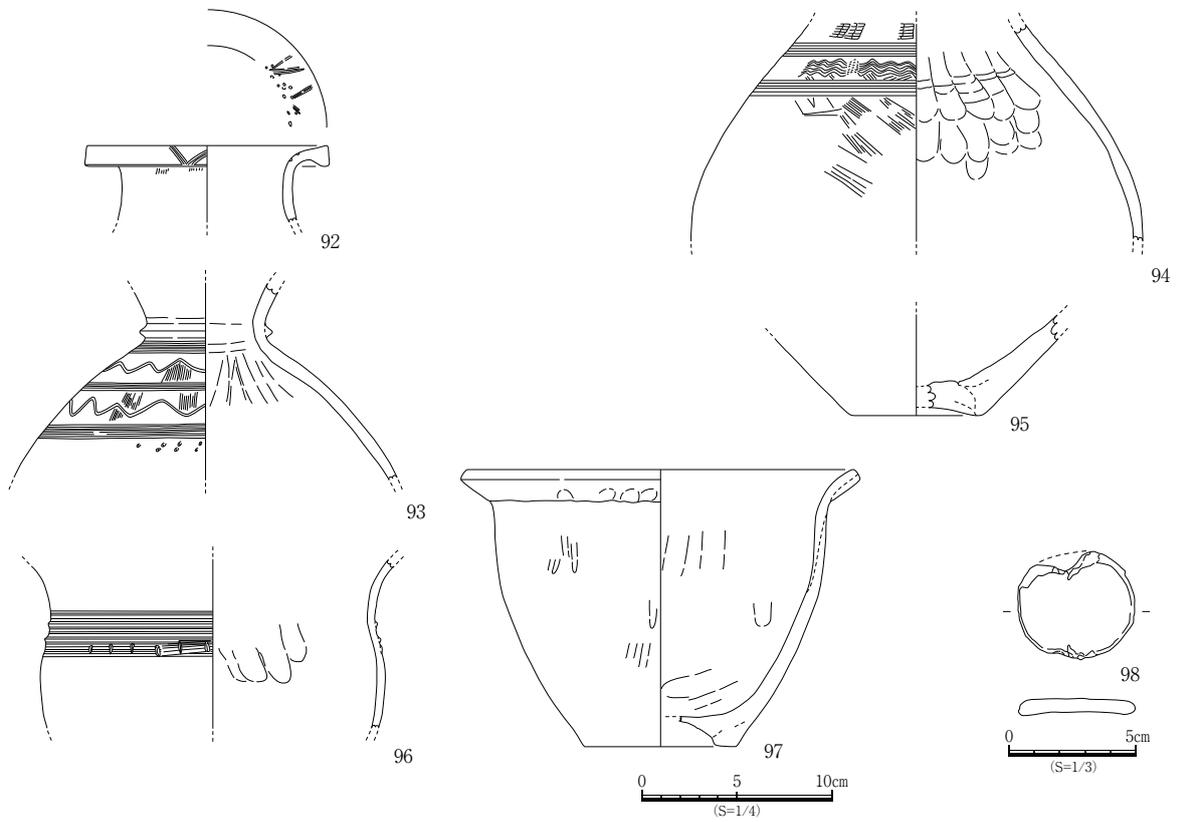


図 I - 31 I - 3区SD1・SR1断面図・遺物実測図

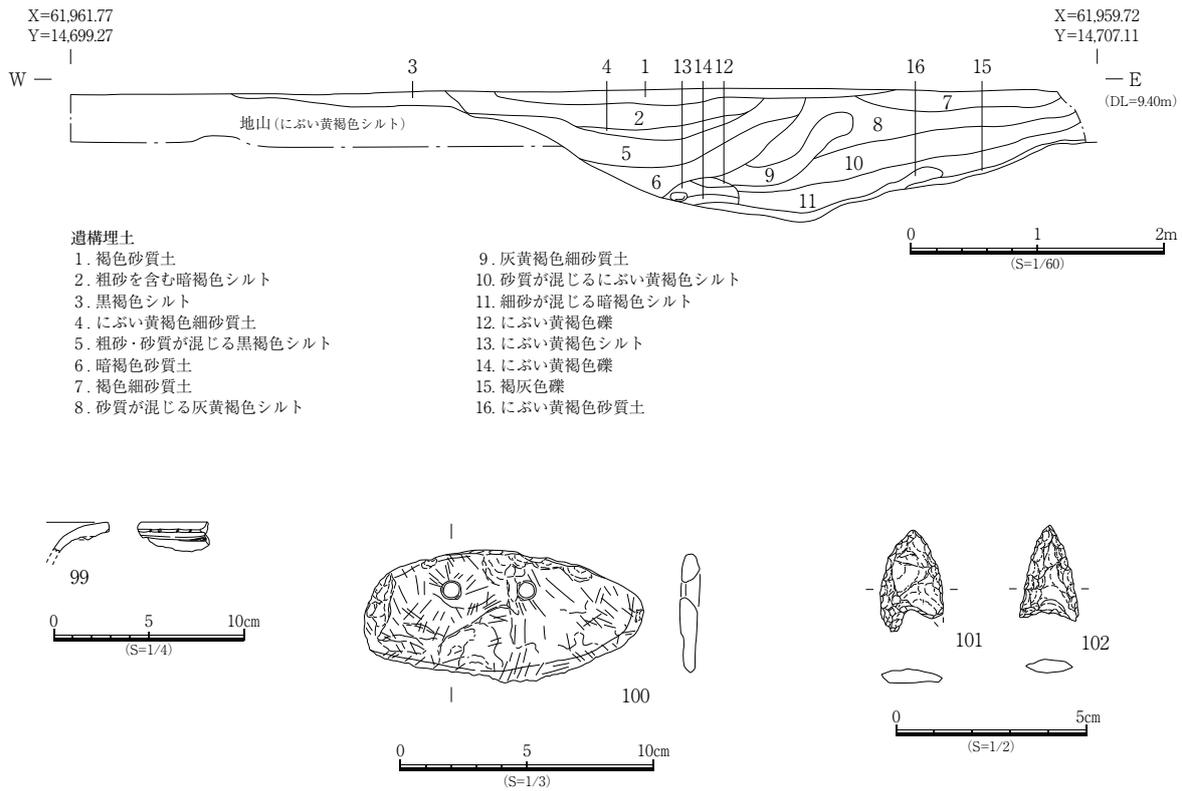


図 I - 32 I - 3区SR2断面図・遺物実測図

叩き調整後タテハケ調整を比較的密に施す。内面はナデ調整であり、下半部はタテハケ調整である。内底面はナデ調整であり、押し出しにより丸底化か。内外面の調整の変化点はほぼ対応する。115は壺である。体部は球形を呈し、底部は丸底である。外面は叩き調整であり、下半部は叩き調整後タテハケ調整を粗に施す。116は甕である。体部は長胴でやや腰部が張る。底部は小さく平らな部分を残すがほぼ丸底である。外面は叩き調整であり、下半部は叩き調整後、ハケ調整あるいはナデ調整で叩き目を消している。口縁部は上胴部から連続する一連の叩き調整を施した後外反させる。口縁部内面はハケ調整を施し、口唇部にはルーズな面取りである。被熱変色が激しい。117は甕である。外面は叩き調整であり、連続して口縁端部にまで及ぶ。口縁部は指頭により強く外反させるため、叩き目は消えかけている。口唇部にはルーズな面取りを施す。頸部に1条のハケメがみられる。内面は磨耗のため調整等の観察が困難であるが、口縁部はハケ調整、体部はナデ調整と考えられる。118は甕である。口縁部にはハケ調整を密に施し、端部は面取りする。外面は叩き調整、内面は口縁部から肩部はハケ調整、体部はナデ調整である。119は甕である。外面は口縁端部まで叩き調整を施し、指頭により口縁部を成形する。内面は口縁部から肩部にハケ調整を施し、頸部の屈曲部には稜が立つ。胴部はハケ調整後、ナデ調整を施す。120は甕である。外面には右下がりの叩き調整を施す。口縁部は叩き調整後、折り曲げて成形する。内面はナデ調整である。121は甕である。底部は押し出すことで丸底とする。外底面には叩き目が認められる。底部は厚い。口唇部は丸くおさめる。外面は叩き調整であり、3分割である。接点はないが同一個体と思われる破片には叩き調整後ハケ調整が認められる。内面はナデ調整である。122は甕である。口縁部は「く」の字状を呈し、端部は丸くおさめる。上胴部

からの一連の叩き調整を施し、指頭により成形する。口縁部下半は叩き目が残存するが上半はナデ消されている。さらに上端には粘土の折り返しによる痕跡が認められる。底部は完全な丸底で厚い。外面は叩き調整であり、下半部は叩き調整後タテハケ調整である。内面はハケ調整後ナデ調整である。口縁部はハケ調整である。123は甕である。口縁部にはヨコナデ調整を施し端部をつまみ上げる。外面はハケ調整である。内面は頸部にヨコハケ調整を1条施し、それ以下はケズリ調整である。搬入品か。124は甕である。口縁端部まで叩き調整を施し、指頭により口縁部を成形する。口縁部内面にはハケメがみられ、体部はナデ調整である。肩部内面には粘土紐接合痕跡が認められる。125は甕である。口縁部は上胴部からの一連の叩き調整後、指頭により成形する。内面は口縁部から肩部はハケ調整、体部はナデ調整である。126は甕である。外面は叩き調整であり、下半部は叩き調整後タテハケ調整を数単位施すのみである。外面の叩き調整は3分割である。上胴部からの叩き調整は口縁端部まで及び、折り曲げて口縁部を成形する。外底面には叩き目がみられ、わずかに平らな部分が残るがほぼ丸底である。口縁部内面はハケ調整であり、体部はナデ調整である。127は甕である。外面は口縁端部まで叩き調整を施し、折り曲げて口縁部を作り出す。内面は口縁部から肩部はハケ調整であり、以下はナデ調整である。肩部内面には粘土紐接合痕跡が認められる。被熱変色する。128は甕である。口縁端部まで叩き調整を施し、折り曲げて口縁部を作る。肩部内面には粘土紐接合痕跡が認められる。内面は口縁部から肩部にはハケ調整、それ以下はナデ調整である。129は甕である。口縁端部まで叩き調整を施し、折り曲げて口縁部を作る。口縁部の外反度合いは弱い。内面は口縁部から頸部までにハケ調整を施し、体部はナデ調整である。130は甕である。口縁端部まで叩き調整を施し、折り曲げて口縁部を作る。内面の口縁部から肩部にはハケ調整を施す。内面の屈曲部に粘土紐接合

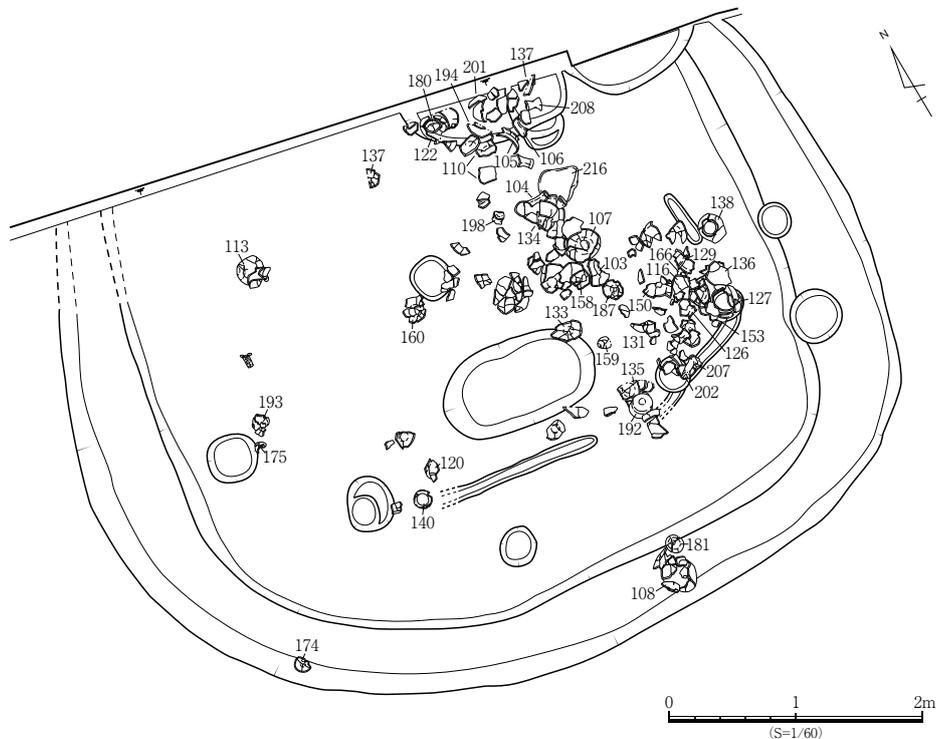


図 I - 33 I - 4 - 1区ST1遺物出土状況図

痕跡が認められる。131は甕である。口縁端部まで叩き調整を施し、折り曲げて口縁部を作る。外反度合いは弱い。肩部には叩き調整後、タテハケ調整を施す。内面の口縁部にはハケ調整、体部にはナデ調整を施す。132は甕である。体部は球形を呈する。外面は叩き調整であり、下半部は叩き調整後タテハケ調整を施す。口縁部は叩き調整後、折り曲げて成形する。内面はナデ調整であり、下半部はタテハケ調整である。133は甕である。中位に最大径を持ち、球形を指向する。底部は小さく、叩き目が認められ、角のとれた平底である。外面は叩き調整である。下半部は叩き調整後、縦方向のナデ調整あるいはハケ調整を粗に施す。口縁部は上胴部からの連続する叩き調整後、折り曲げる。口唇部には面取りを施す。内面腰部には指頭圧痕がみられ、外側へ押し出しており腰部が張る形態となっている。134は甕である。体部中位に最大径を持ち、腰部はやや張る。外面は叩き調整である。中位は叩き調整後、タテハケ調整を施す。口縁部は叩き調整後、折り曲げ、タテハケ調整を密に施す。口唇部

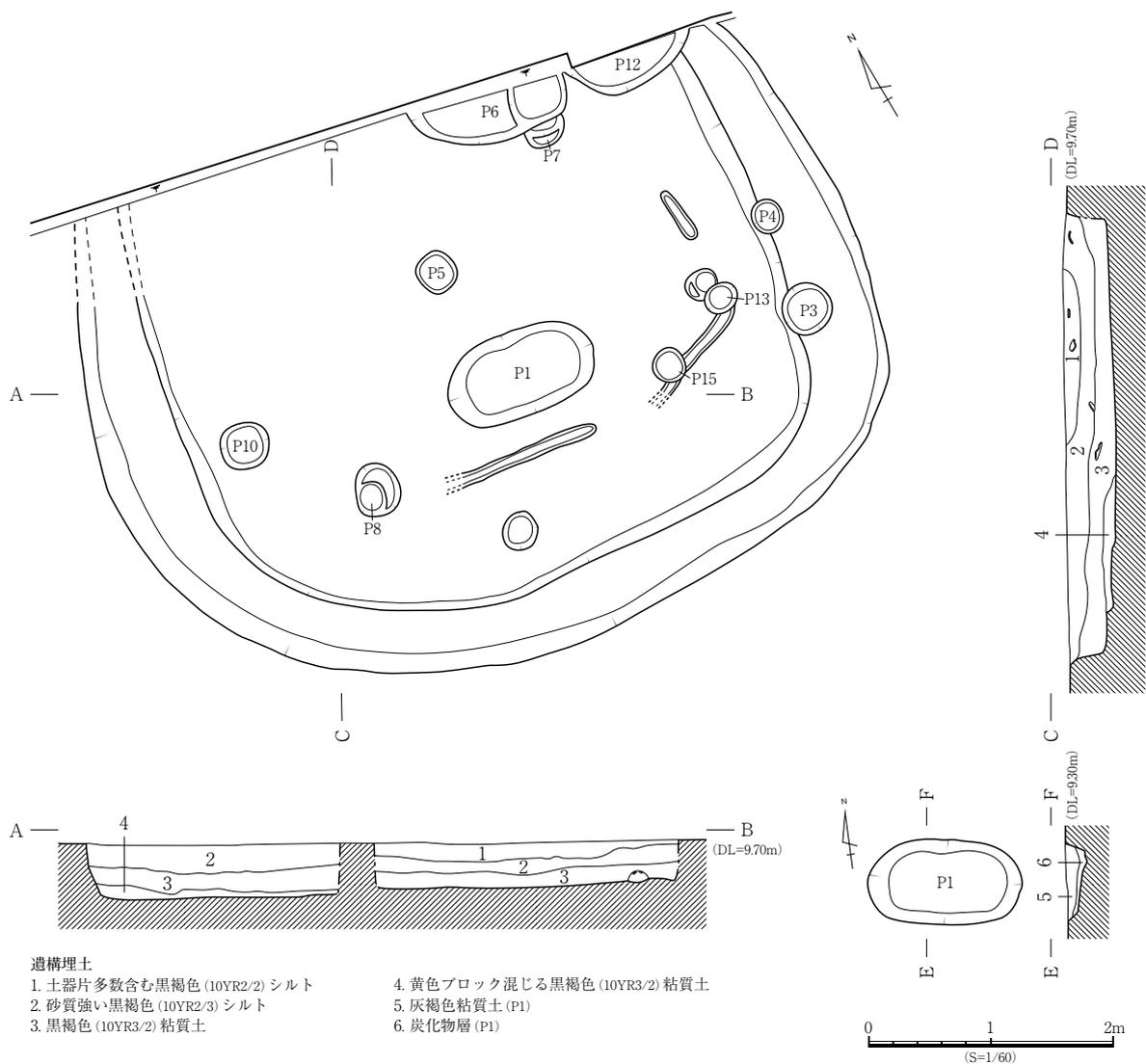
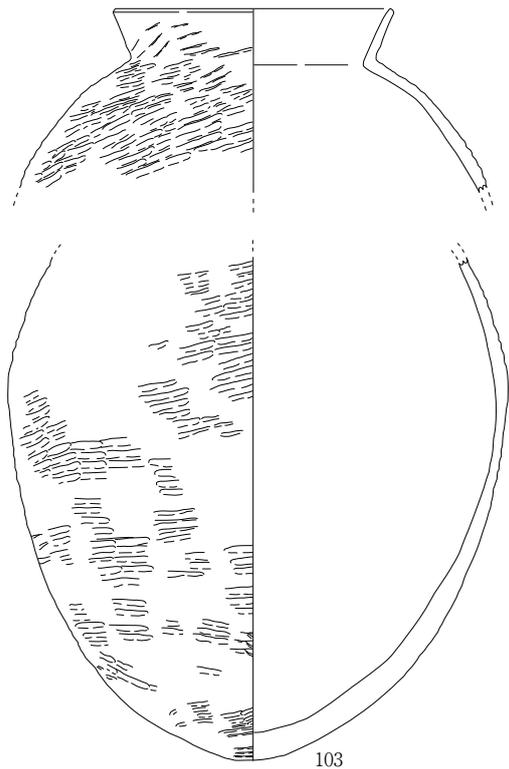
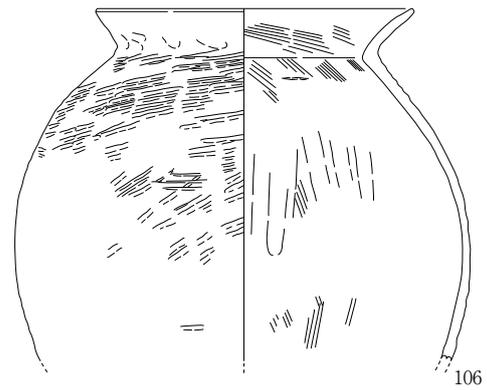


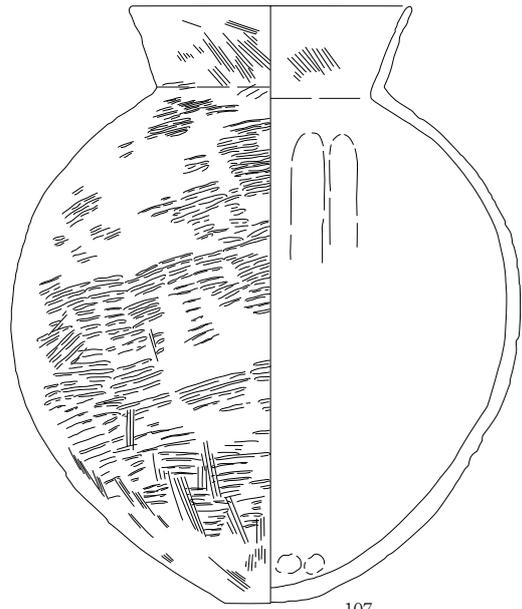
図 I - 34 I - 4 - 1区ST1平面図・断面図



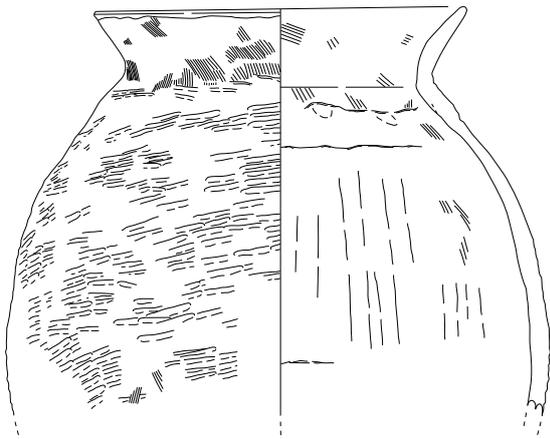
103



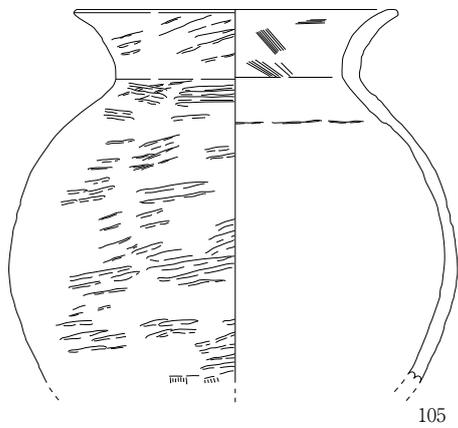
106



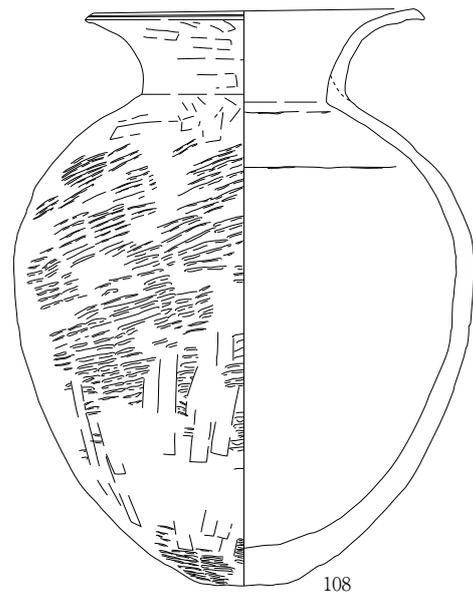
107



104



105



108

0 5 10cm  
(S=1/4)

图 I - 35 I - 4 - 1 区 ST1 遺物実測図 1

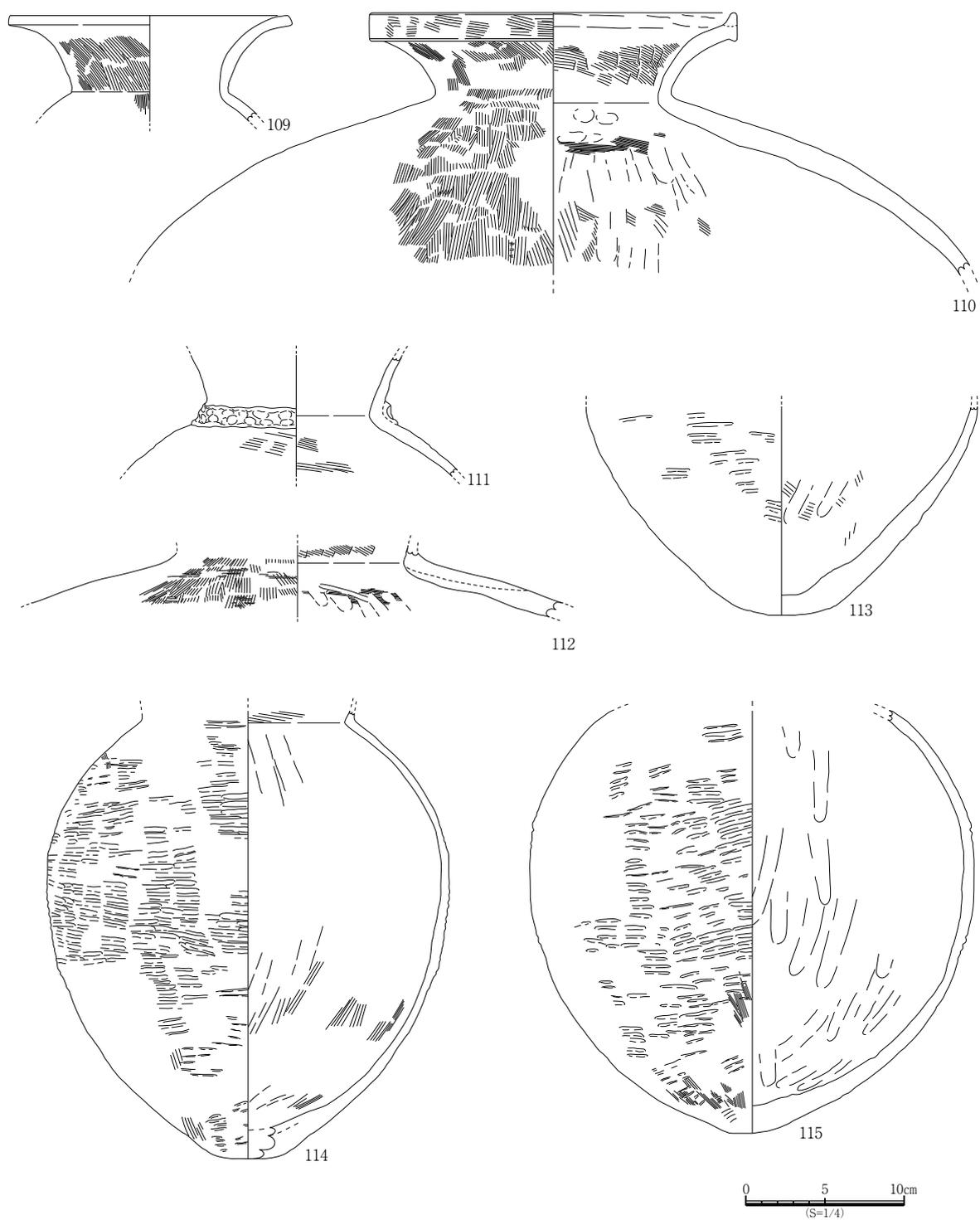


图 I - 36 I - 4 - 1 区 ST1 遗物实测图 2

にはルーズな面取りを施す。外底面には叩き目が認められる。内面は口縁部から肩部にハケ調整を施し、体部はナデ調整である。135は甕である。外面は右下がりの叩き調整を施す。口縁部は叩き調整後、折り曲げて成形する。口唇部には面取りを施す。内面はナデ調整である。内面には粘土紐接合痕跡が認められる。136は甕である。体部は球形を指向する。外面は叩き調整である。口縁部は叩き調整後、折り曲げて成形する。口唇部はハケ状工具で面取りを施す。内面は口縁部から肩部にハケ調整を施し、以下はナデ調整である。ただし、ハケメ状にみえる部分がある。137は甕である。体部中位に最大径を持つ。外面は叩き調整であり、下半部は叩き調整後タテハケ調整を密に施す。底部はほぼ丸底であり、外底面には叩き目がみられる。口縁部は上胴部からの一連の叩き調整後、折り曲げる。口唇部は丸くおさめる。内面は口縁部から肩部にかけてハケ調整であり、以下はナデ調整である。肩部内面に粘土紐接合痕跡が認められる。下半部はタテハケ調整を密に施す。内底面には指頭の凹みが明瞭に残存しており、外底面の叩き調整の当て痕か。138は甕である。口縁部は上胴部からの一連の叩き調整後、指頭により折り曲げる。外面は叩き調整であり、下半部は叩き調整後タテハケ調整を密に施す。内面はハケ調整であり、肩部にはハケ調整後縦方向のナデ調整を施す。139は甕である。口縁部は上胴部からの一連の叩き調整後、指頭により成形する。口縁部外面にはわずかに叩き目がみられる。口唇部にはルーズな面取りを施す。内面はナデ調整である。140は甕である。口縁部は叩き調整後タテハケ調整を施し、口唇部は面取りする。外面は叩き調整、内面はハケ調整である。141は甕である。外面は叩き調整、内面はナデ調整である。142は甕である。口縁部は肩部から連続する叩き調整後、折り曲げる。口唇部は面取りする。口縁部外面の叩き目は明瞭に残存する。内面はハケ調整である。143は甕である。口唇部は丸くおさめる。外面はハケ調整を密に施し、確実な叩き目は認められない。外面は叩き調整であり、内面はハケ調整である。144は甕である。口縁部は上胴部からの一連の叩き調整後、折り曲げ、指押さえにより調整する。口縁端部にヨコナデ調整を施し、粘土が垂れ下がる。内面はハケ調整である。145は甕である。磨耗のため調整等の観察は困難である。外面は叩き調整である。口縁部外面には指頭圧痕がみられる。146は甕である。口縁部は上胴部からの一連の叩き調整後、折り曲げ、指押さえにより調整する。口唇部にはルーズな面取りを施す。内面はハケ調整である。147は甕である。口縁部は上胴部からの一連の叩き調整後、折り曲げ、指押さえにより調整する。内面はハケ調整であり、肩部はハケ調整後ナデ調整を加える。148は甕である。口縁部は上胴部からの一連の叩き調整後、折り曲げ、指押さえにより調整する。口縁部内面はハケ調整、肩部はハケ・ナデ調整である。また、肩部内面には粘土紐接合痕跡が認められる。150は甕である。口縁部外面は叩き調整である。口縁部内面は磨耗のため調整の確認ができない。肩部は斜め方向のハケ調整、下半部はタテハケ調整を施し、中位は斜め方向のハケ調整後ナデ調整を施す。151は甕である。口縁部は外反度合いが弱く、内湾気味である。上胴部からの一連の叩き調整後、折り曲げ、指押さえにより調整する。外面は叩き調整である。口縁部内面はハケ調整、体部は縦方向のナデ調整を強く施す。屈曲部内面に粘土紐接合痕跡が認められる。153はやや大きめの法量の甕である。体部は長胴である。底部は丸底である。外面は叩き調整であり、下半部は叩き調整後、タテハケ調整を密に施す。内面は口縁部から肩部及び下半部はハケ調整であり、中位は斜め方向のハケ調整後縦方向のナデ調整を施す。肩部内面には粘土紐接合痕跡が認められる。肩部には穿孔が2ヶ所認められる。中位に帯状に煤が付着する。154は甕である。口縁部は叩き調整後、折り曲げ、指押さえにより調整する。口縁部はやや長めである。外面は叩き調整である。内面はナデ調整である。上胴部内面に粘土紐接合

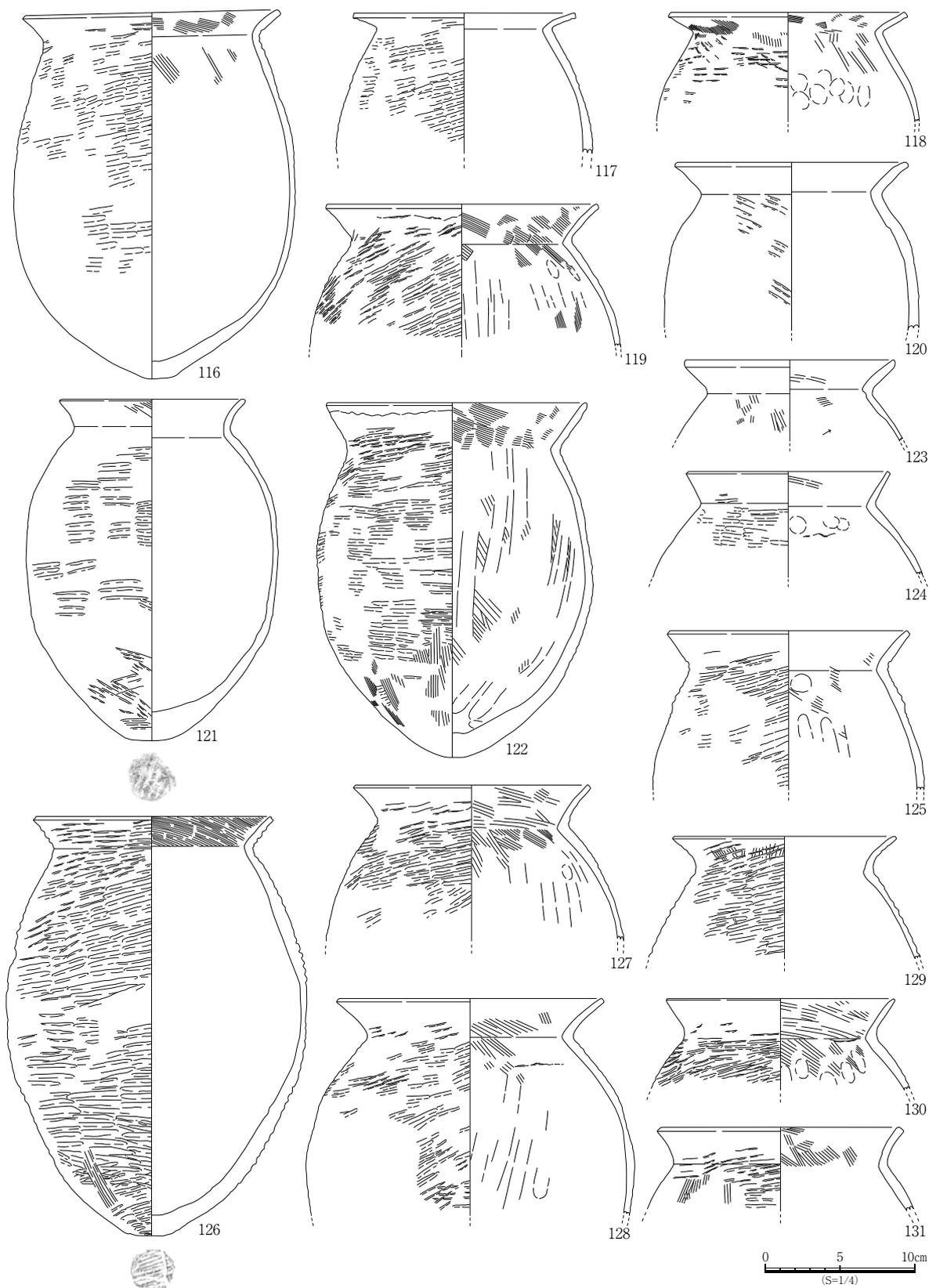


图 I - 37 I - 4 - 1 区 ST1 遗物实测图 3

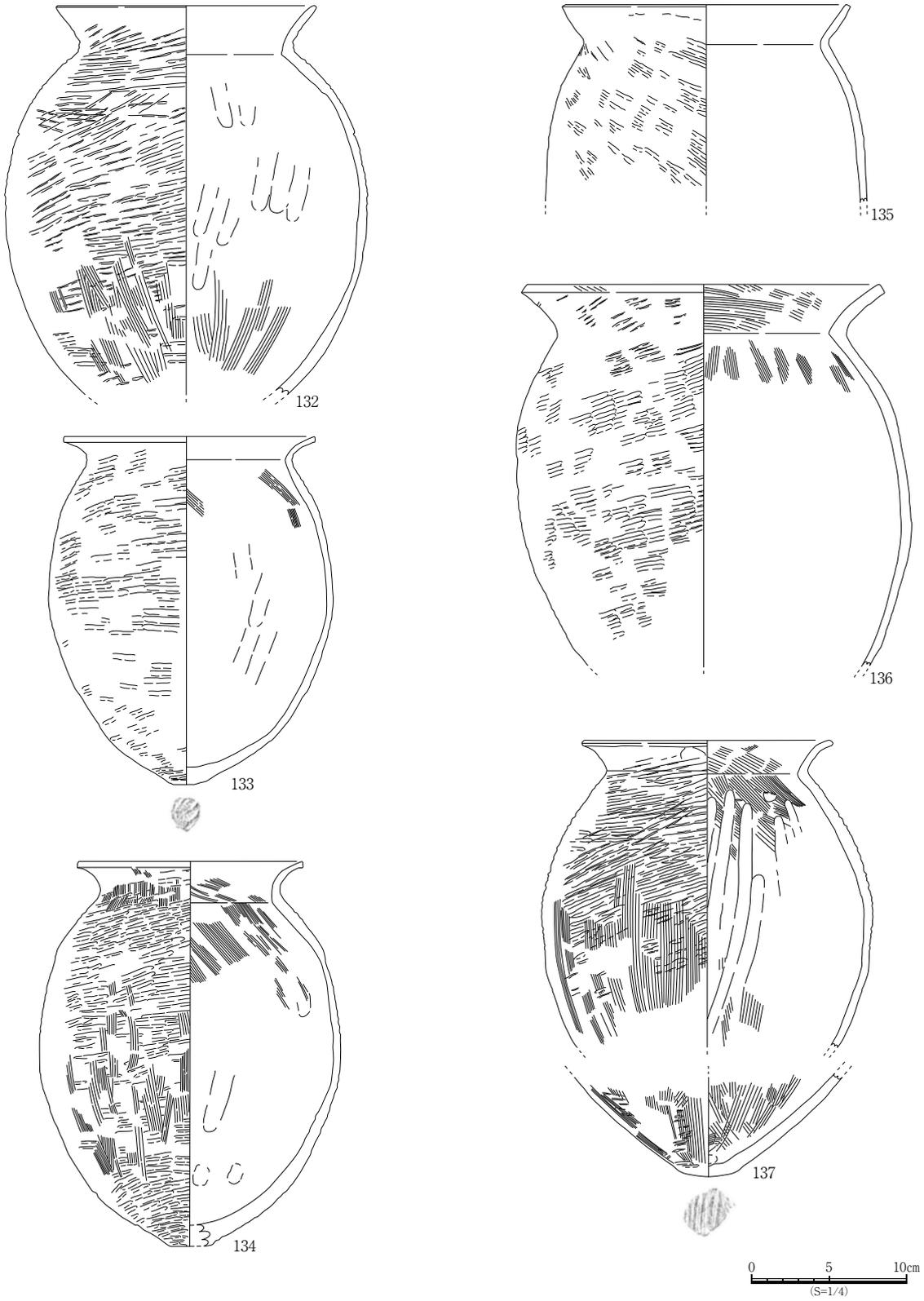


图 I - 38 I - 4 - 1 区 ST1 遗物实测图 4

痕跡が認められる。156は底部である。丸底であり、外底面にハケ調整を施す。外面は叩き調整後、タテハケ調整を密に施す。内面はナデ調整であり、底部には指頭圧痕が明瞭に認められる。157は底部である。長胴であり、底部は角のとれた平底である。外面は叩き調整である。叩き目の方向は水平から右下がりである。ナデ消されている部分がある。内面は粗いタテハケ調整である。158は底部である。腰部は若干張る。尖り気味の丸底である。外面は叩き調整であり、内面はナデ調整である。腰の張る部分と、外面の叩き目の変換点が一致している。160は底部である。平らな部分をわずかに残すが、ほぼ丸底である。外面は叩き調整後、タテハケ調整を施す。内面はハケ調整である。161は底部である。外底面及び底部際には指頭圧痕が顕著にみられる。163は丸底である。外面は叩き調整後ナデ調整を施す。体部の叩き調整後、外底面に叩き調整を施す。164は底部である。ほぼ丸底である。外面は叩き調整後、タテハケ調整である。外底面の周縁には体部の叩き目が認められることから、底端部の角をナデることで丸底とする。また、外底面には叩き目がみられる。166は底部である。突出した底部であり、外縁をつぶし丸底化する。平らな部分がわずかに残るが、ほぼ丸底である。外面は叩き調整後ナデ調整である。内面はハケ調整である。168は丸底の底部である。外面は叩き調整後ナデ調整である。内面はハケ調整であり、腰部に施した後に底部に施しており、底部に施したハケ調整により丸底とする。169は底部である。突出した底部であり、一部はつぶれる。外底面はわずかに凹む。体部外面は叩き調整後ナデ調整である。内面はハケ調整であり、底面にまで及ぶ。

171は鉢である。平底の底部から体部は内湾気味に立ち上がる。底端部外面には指頭圧痕が認められ、底部を意識的に作り出す。外面は磨耗のため調整の観察は困難である。内面はハケ調整である。172は鉢である。平底であり、一方はつぶれる。外面は叩き調整、内面はハケ調整である。173は鉢である。底部は突出した平底であり、一部はつぶれる。外面は叩き調整後、ナデ調整を施す。上半部のほうが丁寧に消される。内面は磨耗のため調整等の観察は困難であるが、ハケ調整と考えられる。174は鉢である。底部は突出した平底であり、一部はつぶれる。外面は叩き調整後、ナデ調整を施す。内面は上半部がハケ調整、下半部がナデ調整である。175は鉢である。平底であり、外底面には葉脈痕跡が認められる。外面は叩き調整後ナデ調整を施す。内面は粗いハケ調整である。176は鉢である。外面は叩き調整後ナデ調整を施し、叩き目は丁寧に消される。内面はナデ調整か。177は鉢である。外面は叩き調整後ナデ調整を施す。上半部の方が丁寧に叩き目をナデ消す。外底面には不定方向の強いナデ調整により丸底とする。178は鉢である。外底面には不定方向の強いナデ調整を施し、丸底化する。内面はハケ調整後、下半部から底面にかけてミガキ調整を密に施す。179は鉢である。外底面中央はわずかに上げ底となり、角のとれた平底である。内外面とも磨耗のため調整等の観察は困難である。180は鉢である。底部はほぼ丸底であり、内底面には指頭圧痕がみられ押し出すことで丸底化する。外面は叩き調整後ナデ調整であり、上半部の方が丁寧に叩き目をナデ消す。内面はハケ調整である。181は鉢である。角のとれた平底である。全体的に器壁はやや厚い。外面は叩き調整後ナデ調整である。内面はナデ調整か。182は鉢である。外面はナデ調整であり、亀裂が認められる。外底面には強いナデ調整を施し、丸底とする。内面はハケ調整である。ほぼ完存する。183は皿状の鉢である。内外面とも指頭圧痕が多く認められる。184は鉢である。口径は大きく浅い形態である。外面はナデ調整、内面の上半部はハケ調整、底面はナデ調整である。内面は環状に煤が付着し、外面の被熱及び煤の付着状況と対応することから、煮沸に使用されたものと推測される。187は鉢である。底部の一部はつぶれる。磨耗のため調整等の観察は困難であるが、外面には叩き目が全面にみられる。

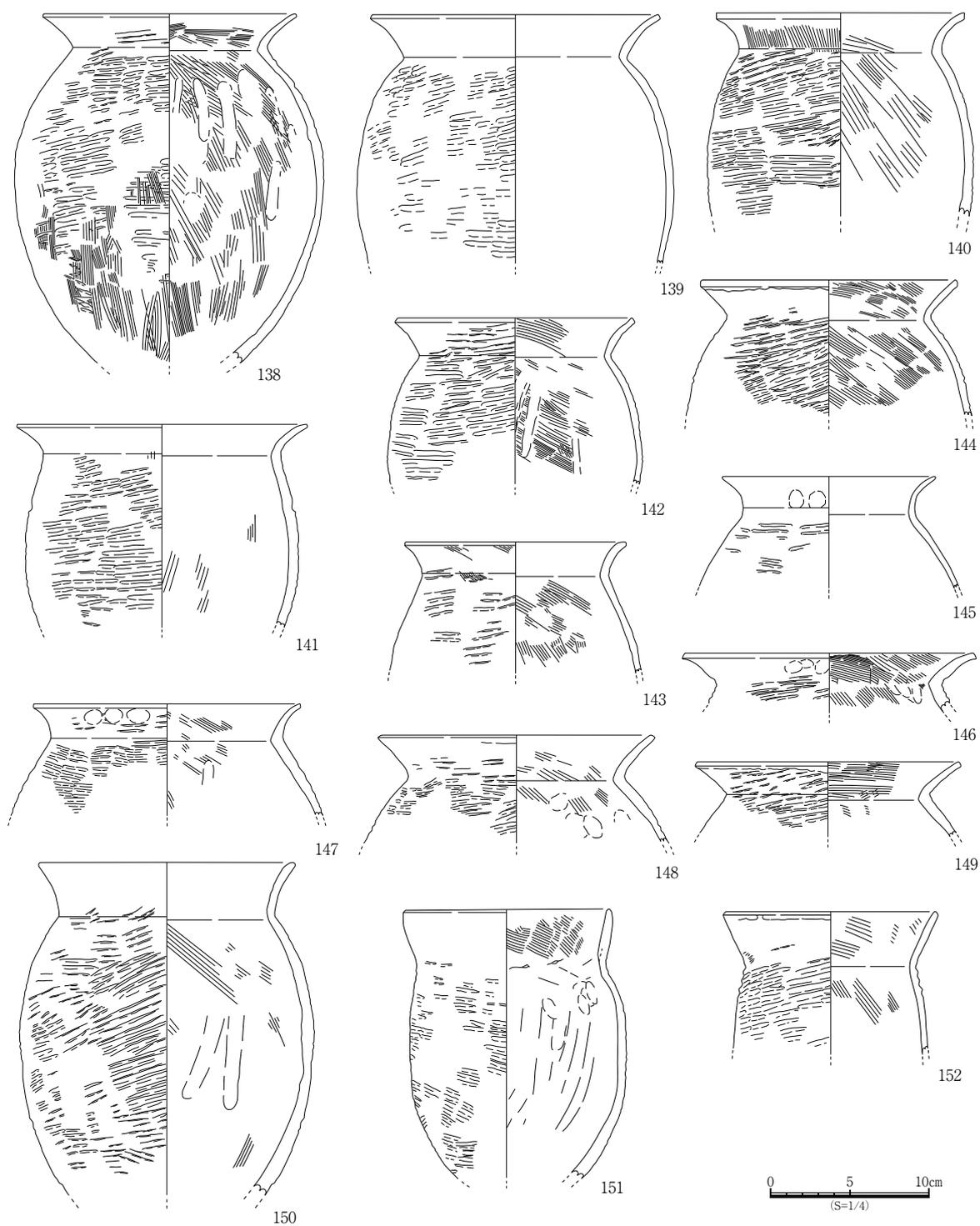


图 I - 39 I - 4 - 1 区 ST1 遗物实测图 5

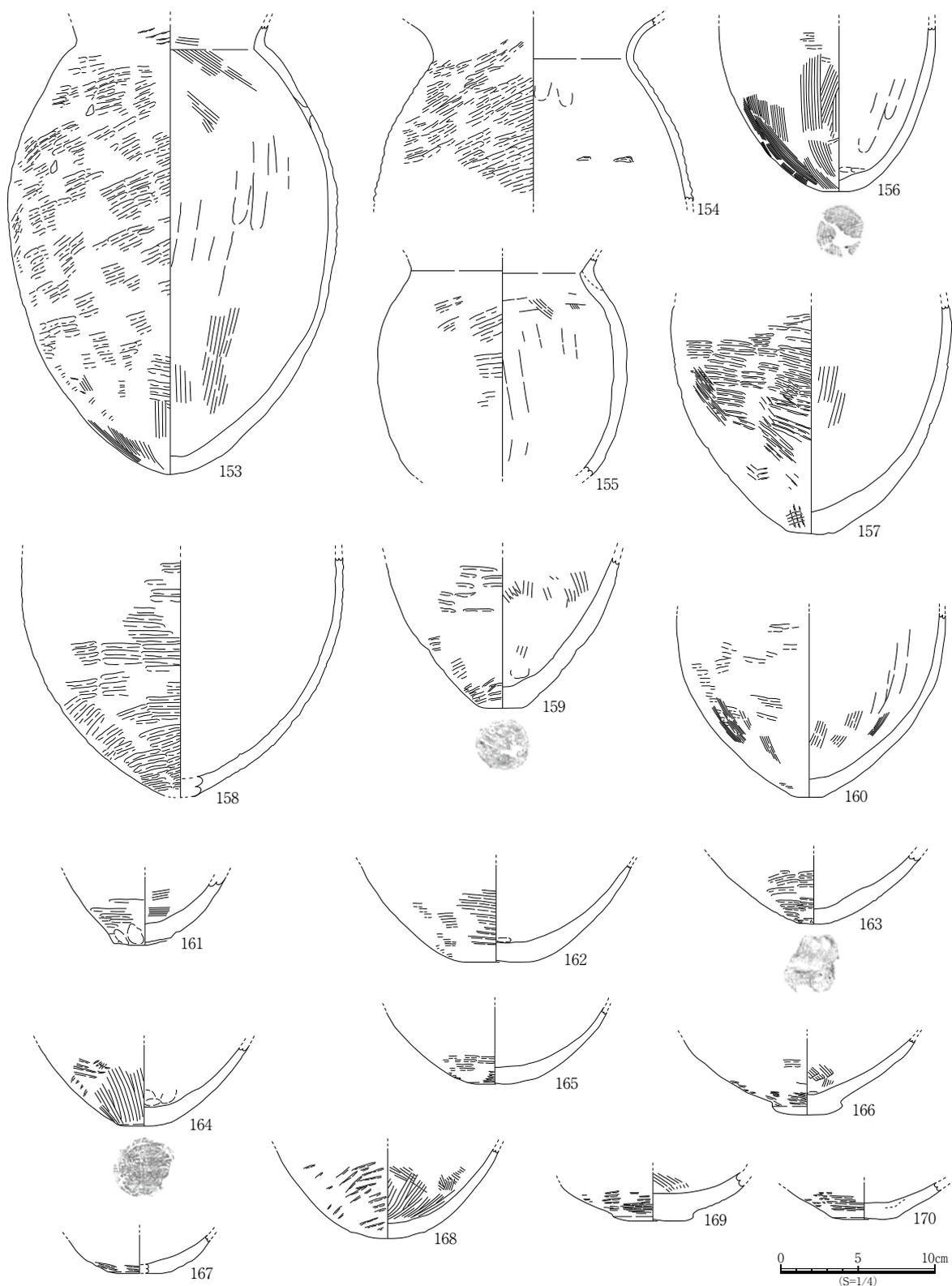


图 I - 40 I - 4 - 1 区 ST1 遗物实测图 6



图 I - 41 I - 4 - 1 区 ST1 遺物実測图 7

ほぼ完存である。188 は鉢である。外底面は不定方向の強いナデ調整で丸底とする。外面は叩き調整後ナデ調整を施す。上半部のナデ調整のほうが丁寧である。189 は鉢である。丸底であり、外底面にはヘラケズリ調整を施す。外面は叩き調整後ナデ調整であり、上半部は丁寧に叩き目がナデ消されている。内面はやや磨耗しており調整等の観察は困難であるが、ミガキ調整、ハケメが認められる。190 は鉢である。底部はわずかに突出し、縁周をつぶして丸底とする。外面は叩き調整であり、上半部は叩き調整後ナデ調整を施す。内面はハケ調整であり、底面はナデ調整か。191 は鉢である。底部はやや突出し端部を指頭によりつぶしたり、強いナデ調整により丸底とする。外面はナデ調整である。内面の上半部はハケ調整、下半部から底面はナデ調整である。192 は鉢である。口縁端部まで体部からの一連の叩き調整後、弱く外反させる。体部は深く、丸底である。外面は口縁端部から底面まで叩き調整である。内面は口縁部から肩部はハケ調整であり、以下はナデ調整である。内底面には指頭圧痕が認められる。内面肩部に粘土紐接合痕跡が認められる。193 は鉢である。平底である。腰部に最大径を持ち、口縁部は短く外反する。外面は叩き調整であり、2段に分かれる。最大径部以下は右上がりの叩き調整、それ以上は水平から右上がりの叩き目であり、境目には粘土の接合痕跡が認められる。内面はナデ調整である。194 は鉢である。上胴部に最大径を持ち、底部から上胴部にかけて直線的にのびる。口縁部は上胴部からの一連の叩き調整後、折り曲げ、指押さえにより調整する。叩き調整後、上胴部と底部にはタテハケ調整を施す。内面は全面ハケ調整であり、口縁部、上胴部、体部、底部に分けて施されている。また、体部はハケ調整後、ナデ調整を施す。

195 は高杯である。浅い椀形の杯部である。外面はナデ調整、内面はハケ調整である。外底面には脚部の剥離痕跡が認められる。196 は高杯である。中空の脚部から裾部が大きくひろがる。円孔を4ヶ所に均等配置する。外面はミガキ調整、内面はナデ調整である。197 は高杯である。短い中実の脚部から杯部は直線的にのびる。198 は高杯の杯部と脚部の破片である。円柱状の粘土塊を芯に粘土紐を巻き付け、脚部と杯部を成形する。脚部外面は縦方向のミガキ調整、杯部外面は横方向のミガキ調整を施す。200 は高杯の脚部である。外面はタテハケ調整、内面はナデ調整である。脚部下方には円形の刺突文、2条の沈線文、円形の刺突文を配置する。

201 は甌である。深めの鉢の底部に1穴、焼成前に穿孔する。底部はわずかに突出し、やや丸みを持った平底である。体部外面には2分割の叩き調整を施し、上半部は叩き調整後ナデ調整を加える。内面はハケ調整であり、上下2段に分け施す。被熱変色するが、使用によるものだけではない。202 は甌である。逆三角形を呈する。底部には焼成前に穿孔する。外面は叩き調整を2分割で施した後ナデ調整を施す。内面の上半部はハケ調整、下半部はナデ調整である。

203 は支脚である。器高の低いタイプである。中空で上下端をひろげる。上面はやや傾斜する。手捏ね成形で指頭圧痕が顕著である。204 は支脚である。器高の低いタイプである。中空であり、上下端はひろがる。上面の傾斜はきつい。手捏ね成形である。上面は指頭によりつまみ出され、端部を調整する。被熱変色する。205 は支脚である。器高の低いタイプである。1ヶ所に切れ込みがあることから上端としたが、やや不安定な印象を受けるため天地が逆の可能性もある。上端には他に2ヶ所の欠損部があり、本来は3ヶ所に切れ込みがあったと推測される。低い円柱形の粘土塊に粘土を継ぎ足し、上面の受け部と脚部を作る。206 は支脚である。器高の高いタイプである。中空で脚部は「ハ」の字状にひろがる。受け部は板状を呈し、2本であったと推測される。脚部から受け部にかけて前傾する。側面は被熱変色する。207 は支脚である。体部は断面楕円形で中実であり、脚部は断面楕円形で

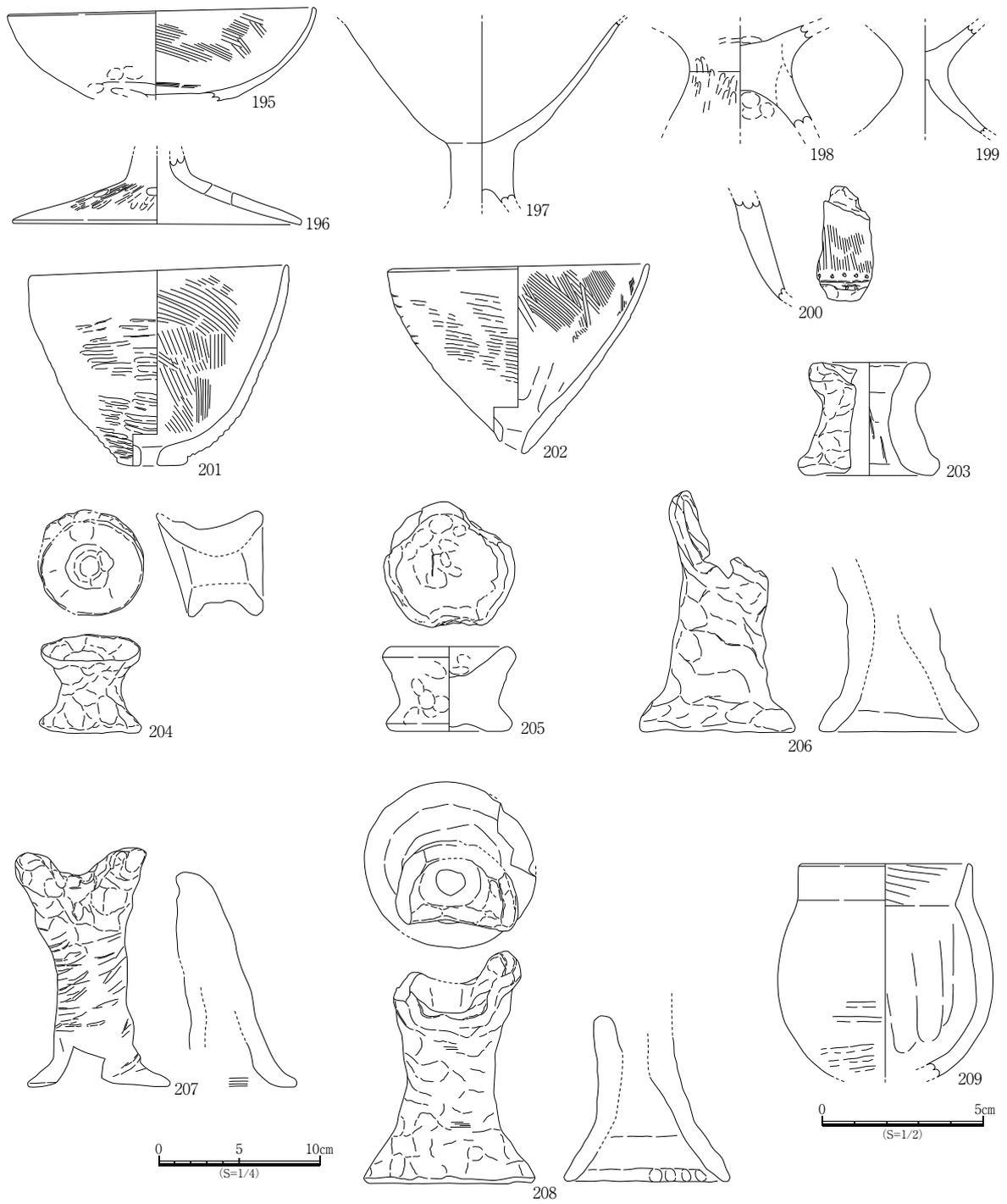
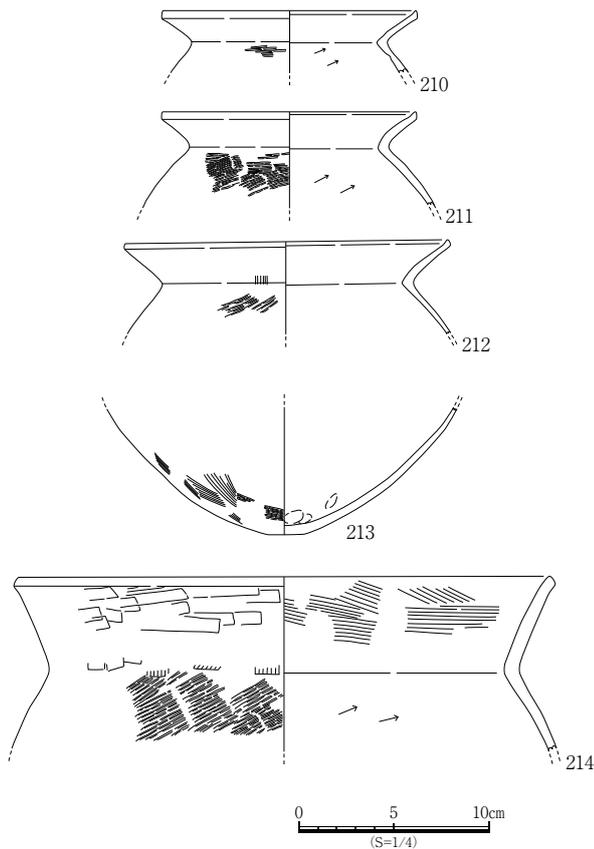


图 I - 42 I - 4 - 1 区 ST1 遗物实测图 8



図I-43 I-4-1区ST1遺物実測図9

中空である。背部につまみは付かない。裾部は大きくひろがる。体部から指2本が前上方に若干ねじって付く。脚部から指先にかけて前傾する。外面は叩き調整である。指の腹側には叩き目がみられることから、叩き調整で断面楕円形の柱状に作り、上部を裂いて指を成形する。脚部内面はナデ調整でしぼり目が認められる。裾部内面はハケ調整である。側面には縦方向に煤が付着する。完存である。208は支脚である。器高の高いタイプである。中空で脚部は「ハ」の字状にひろがる。ナデ調整で仕上げるが、叩き目状にみえる部分がある。板状を呈した受け部が

2本付く。脚部から受け部にかけて前傾である。被熱変色する。

209はミニチュア土器である。体部は球形を呈する。口縁部を短く外反させる。外面は叩き調整後、ナデ調整を施す。口縁部内面はハケ調整、体部はナデ調整である。

210は庄内式土器の甕である。口縁部は「く」の字状を呈し、口縁端部を上方へつまみ上げる。体部外面は叩き調整、内面は頸部直下までヘラケズリ調整を施す。211は庄内式土器の甕である。口縁部は「く」の字状を呈し、口縁端部を上方へつまみ上げる。体部外面は叩き調整、内面は頸部のやや下がった位置までヘラケズリ調整を施す。212は庄内式土器の甕である。口縁部は「く」の字状を呈し、口縁端部を上方へつまみ上げる。磨耗のため調整等の観察は困難であるが、体部外面は叩き調整である。色調は、にぶい黄褐色を呈する。213は庄内式の甕である。底部はやや平らな部分が残るがほぼ丸底である。外面は右下がりの叩き調整後、ハケ調整を疎らに施す。内面は底部付近に指頭圧痕がみられ、腰部まではヘラケズリ調整を施す。214は鉢である。口頸部の屈曲は弱く、口唇部は面取りする。体部外面は叩き調整、内面はケズリ調整である。口縁部内面はヨコハケ調整であり、外面のハケメは弱い。搬入品である。

215は打製石包丁である。砂岩の剥片を使用する。表面は主要剥離面を大きく残し、裏面は自然面である。両端に紐掛け用の抉りを入れる。片刃である。216は台石である。砂岩の自然石であり、弱い敲打痕跡が認められる。

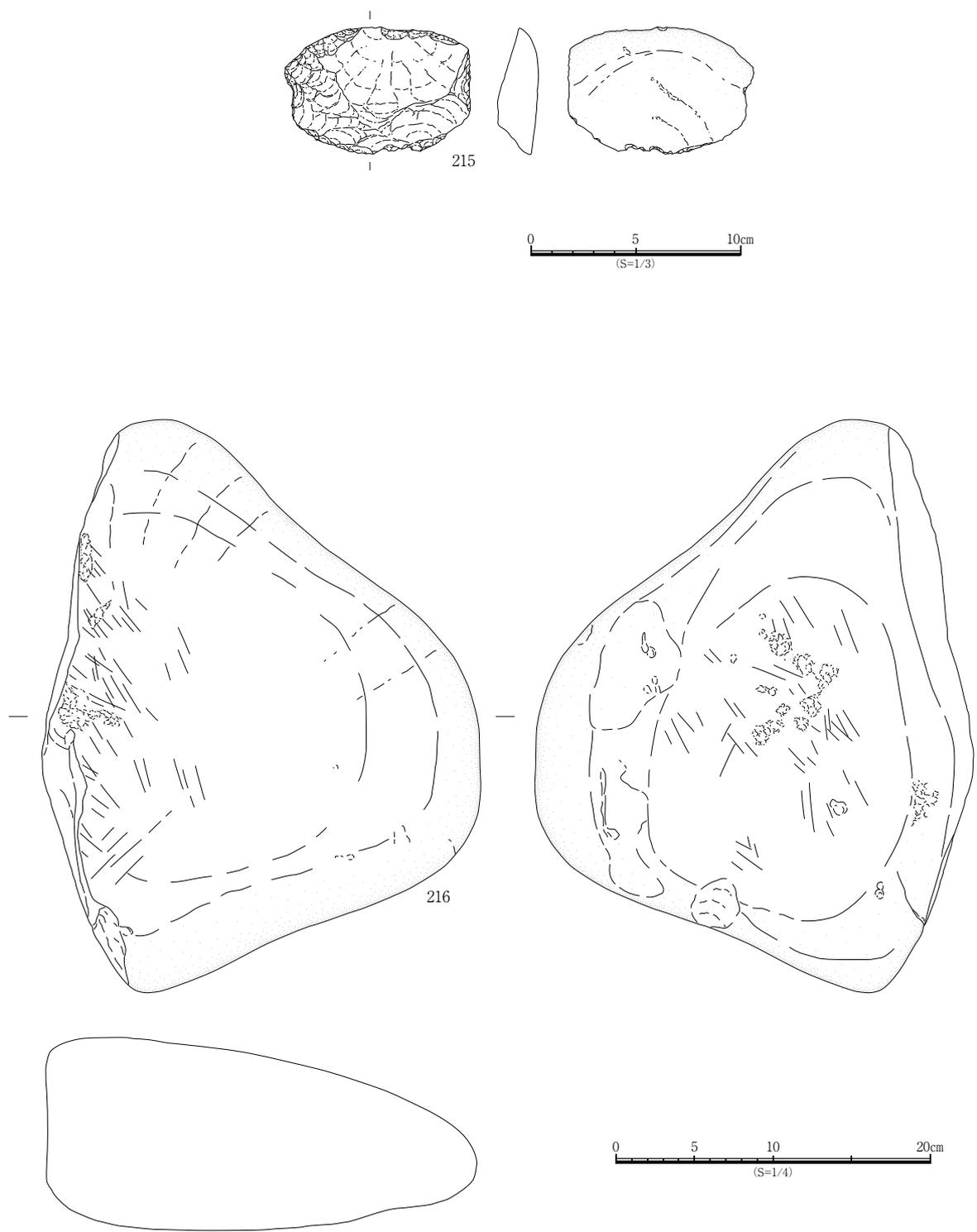


图 I - 44 I - 4 - 1 区 ST1 遗物实测图 10

(2)SB

SB1 (P6・7・13～16・18) (図I-45)

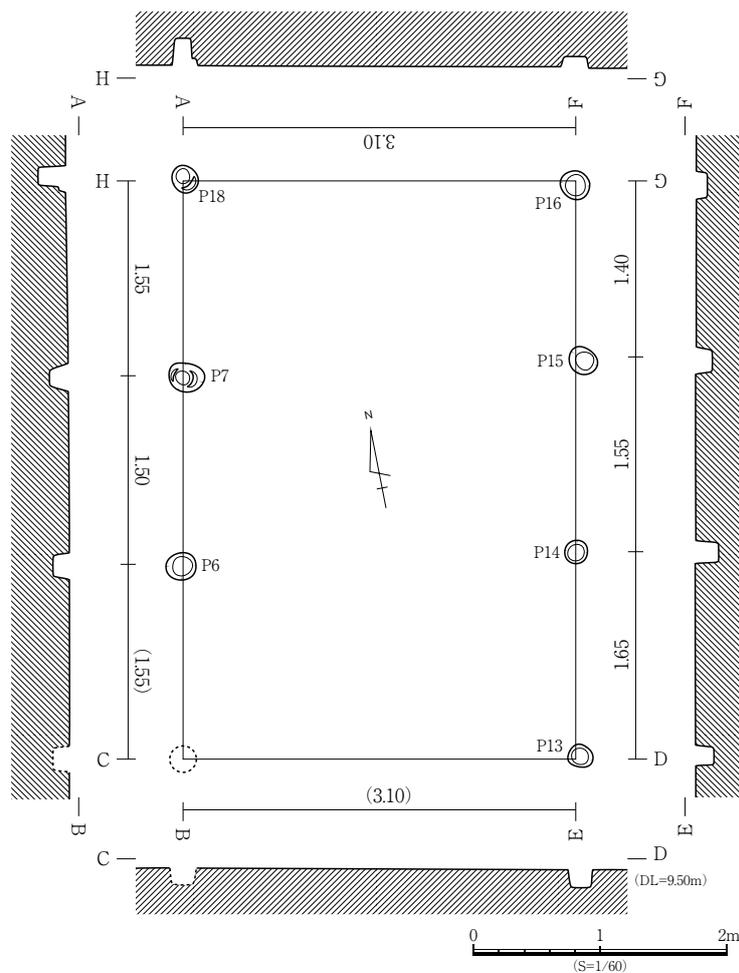
調査区北東部に位置する。桁行3間(4.6m), 梁行1間(3.1m)の南北棟の掘立柱建物跡である。棟方向は、N-11°05'-Eである。詳細な時期は不明である。

(3)SK

SK1 (図I-46)

調査区南東部で検出した土坑である。長軸約1.9m, 短軸約0.4mの溝状を呈する。検出面からの深さは24cmである。埋土は黄灰色砂質シルトである。

図示した出土遺物は弥生土器の壺・甕・鉢である。217は壺である。細い頸部から口縁部は大きく外反する。口唇部は面取りし, 上下にわずかに拡張する。口唇部には櫛描波状文を描く。外面はタテハケ調整, 内面はハケ・ナデ調整である。218は甕である。口縁部は叩き調整後, 折り曲げ, 指頭で調整する。口縁端部外面には亀裂が認められる。体部内面にハケ調整を施す。219は鉢である。尖底状



図I-45 I-4-1区SB1平面図・エレベーション図

の丸底である。磨耗のため、調整等の観察は困難である。被熱により変色する。ほぼ完存である。

(4)SD

SD1

調査区南東部で検出した東西方向の溝跡である。幅約 0.3m，検出長約 4.5m である。検出面からの深さは 8cm である。埋土は灰黄色砂質土である。

SD2

調査区南東部に位置する東西方向の溝跡である。幅 0.3～0.6m，検出長約 6.0m である。検出面からの深さは 16cm であり，埋土は灰黄色砂質土，灰色粘質シルトである。

SD4

調査区南東部に位置する北東方向から南西方向の溝跡である。幅 0.3～0.6m，検出長約 8.5m である。検出面からの深さは 15cm であり，埋土は灰白色砂質土，灰色砂質土である。

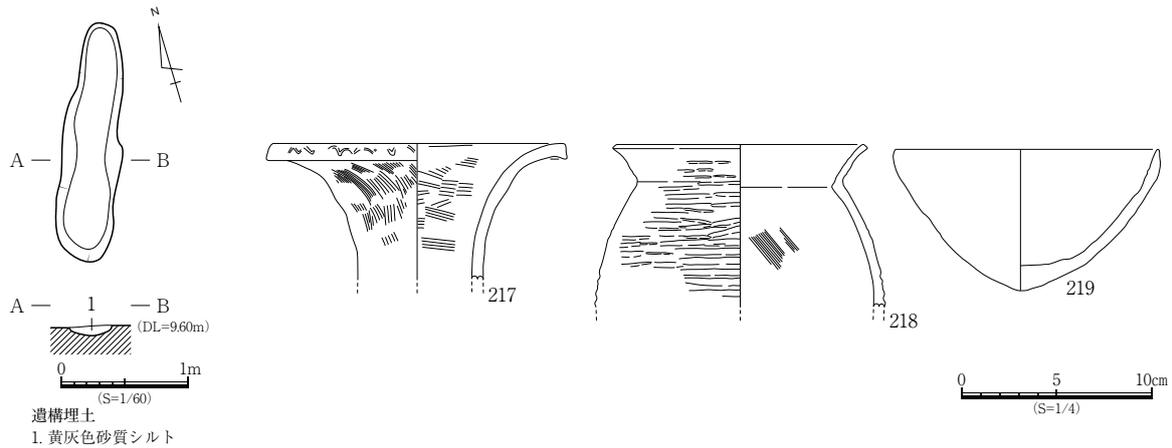
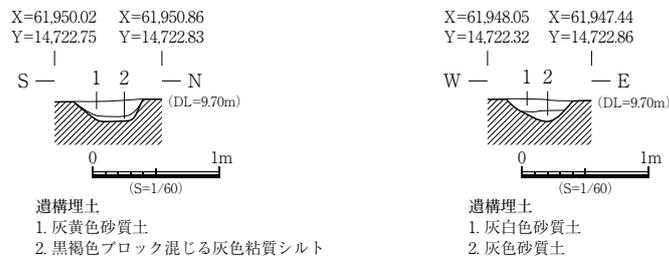


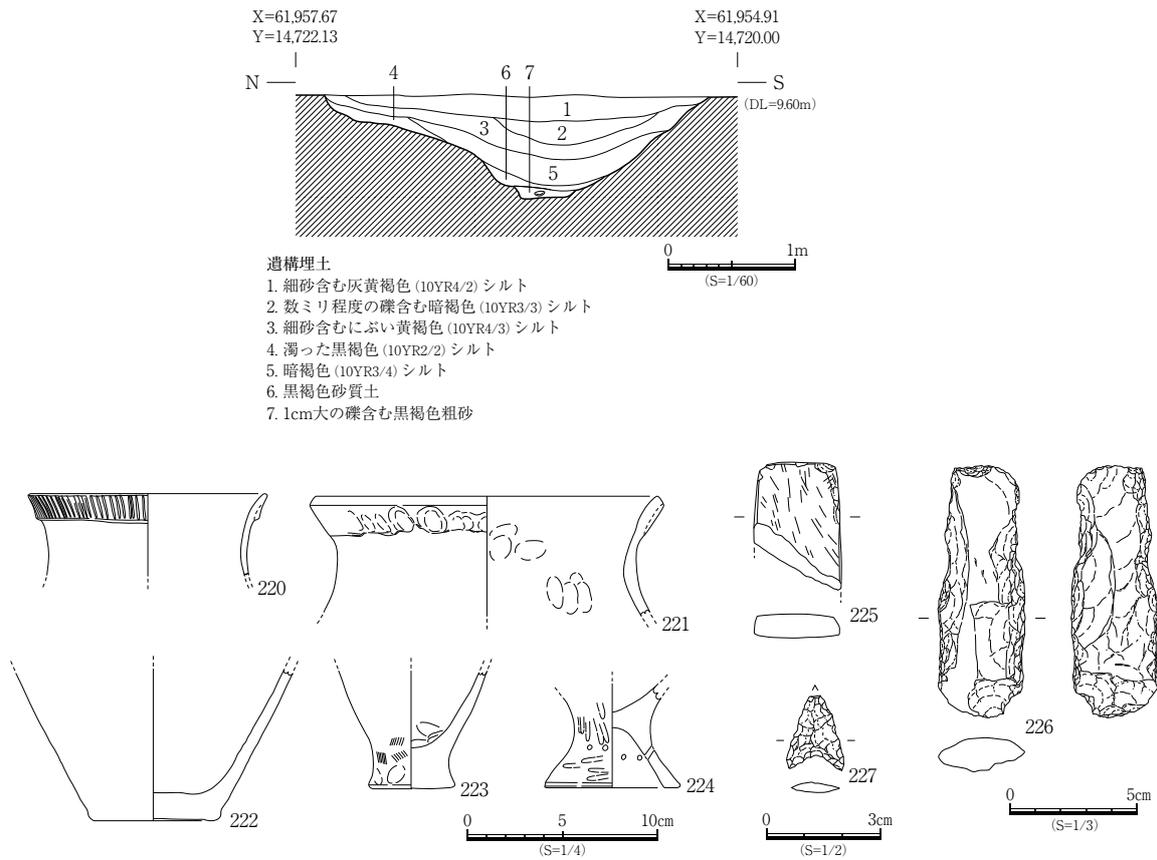
図 I - 46 I - 4 - 1 区 SK1 平面図・断面図・遺物実測図



SD2

SD4

図 I - 47 I - 4 - 1 区 SD2・4 断面図

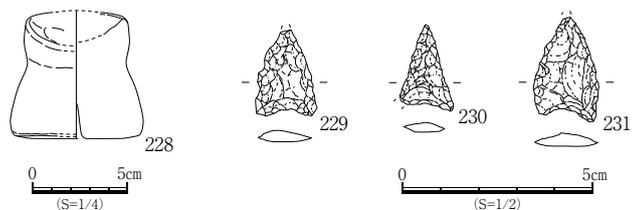


(5)SR

SR1 (図 I - 48)

調査区南半部で検出した自然流路跡である。両隣の調査区においても、この流路の続きを検出した。

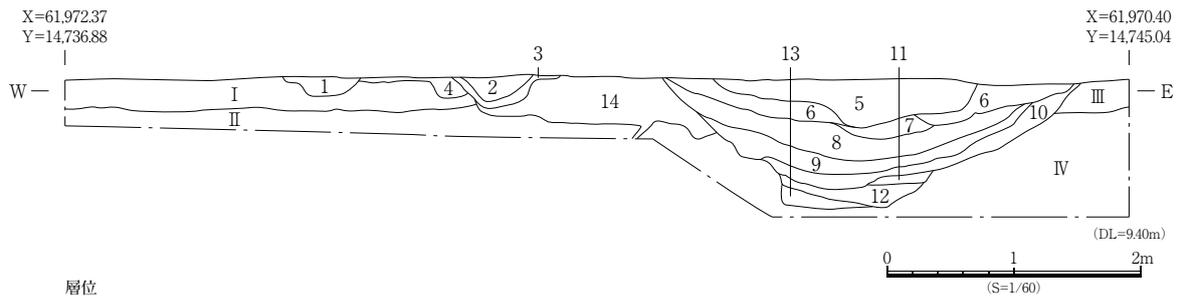
図示した出土遺物は弥生土器の壺・甕・底部・脚部, 石斧, 石鏃である。220は壺である。口縁部はあまりひらかない。貼付口縁であり, 口唇部は面取りする。粘土帯全面に刻目を施す。内外面ともナデ調整か。221は甕か。貼付口縁である。粘土帯外面には指頭圧痕が残存している。口唇部に面取りを施す。磨耗のため調整等は不明瞭であるが, 内外面ともナデ調整と考えられる。222は底部である。磨耗のため, 調整は不明瞭である。外面は砂粒の移動痕跡がみられる。内底面に指頭圧痕が認められる。223は底部である。底部は厚く, 端部は指頭圧痕に



より外方へ突出する。外面はハケ調整である。搬入品か。224は脚部である。裾部は大きくひらき、接地面は平坦面となる。外面はミガキ調整である。脚部内面はナデ調整であり、砂粒の移動痕跡がみられる。また、2個1対の円孔を対面に2ヶ所穿つ。225は扁平片刃石斧である。蛇紋岩製である。先端部は欠損する。基部は丸みを持つ。基部から先端部にむかって幅がひろくなる。横断面形は中央部が膨らんだ長方形である。226は不明石器である。頁岩製である。表面は主要剥離面を大きく残す。上方の両端から抉りを入れる。他方の先端部を片刃状に剥離する。227は打製石鏃である。サヌカイト製で凹基式である。両面とも主要剥離面を残す。縁辺部に調整剥離を施す。調整剥離が中央付近にまで及んでいる部分がある。ほぼ完存である。

(6)遺構外出土遺物(図I-49)

図示した出土遺物は、支脚(228)、石鏃(229~231)である。228は器高の低いタイプである。約半分が欠損する。粘土塊を組み合わせ、手捏ねで製作する。上面は凹み、大きく傾斜する。外底面での孔径1.5cmであり、上方にいくにしたがい孔径は小さくなり、閉じると推測するが、中空の可能性もある。



層位

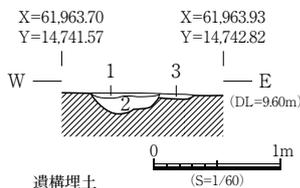
- 第I層 暗褐色(10YR3/3)層
- 第II層 褐色(10YR4/4)層
- 第III層 黒褐色(10YR2/2)シルト層
- 第IV層 褐色(10YR4/6)粘質土層

遺構埋土

- 1. にぶい黄褐色(10YR4/3)(SD2a)
- 2. 褐灰色(10YR4/1)砂質土(SD2b)
- 3. 褐色砂質が混じるにぶい黄褐色(10YR4/3)シルト(SD2b)
- 4. 褐色(10YR3/4)粘質土(SD2b)

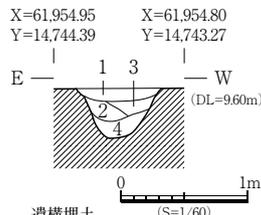
- 5. 灰色シルトが混じる暗褐色(10YR3/3)粘質土(SD3)
- 6. にぶい黄褐色(10YR4/3)粘質土(SD3)
- 7. 暗褐色(10YR3/3)粘質土(SD3)
- 8. 灰色砂質が混じる灰褐色(7.5YR4/2)粘質土(SD3)
- 9. 灰黄褐色(10YR4/2)砂質シルト(SD3)
- 10. 灰褐色(7.5YR4/2)砂質土(SD3)
- 11. にぶい黄褐色(10YR4/3)粘質土(SD3)
- 12. 黒褐色(10YR2/3)粘質土(SD3)
- 13. 褐灰色(10YR4/1)粗砂(SD3)
- 14. 灰色シルトが混じる褐色(7.5YR4/3)粘質土(SD3)

SD2・3



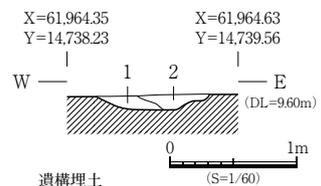
- 遺構埋土
- 1. 灰色粗砂
  - 2. 灰白色シルト
  - 3. 黄灰色シルト

SD2b



- 遺構埋土
- 1. 暗灰色粗砂
  - 2. 黄色シルト
  - 3. 灰色細砂
  - 4. 黄色シルト混じる灰色粗砂

SD2b



- 遺構埋土
- 1. 黄褐色混じる褐灰色粘砂土(SD7)
  - 2. 灰色に黄色粒子混じる砂質土(SD2a)

SD2a・7

図I-50 I-4-2区SD2・3・7断面図

⑦ I-4-2区

(1)SD

SD2a・b

上面で検出した南北方向の溝跡である。I-1-3区の上面で検出した溝跡に接続する。SD2aは幅約0.3m, 検出長約36mである。検出面からの深さは19cmであり, 埋土は灰色砂質土である。SD2bは幅約0.4m, 検出長約38.6mである。検出面からの深さは27cmであり, 埋土は暗灰色粗砂, 黄色シルト等である。SD2a・bは弥生時代後期末～古墳時代初頭か。

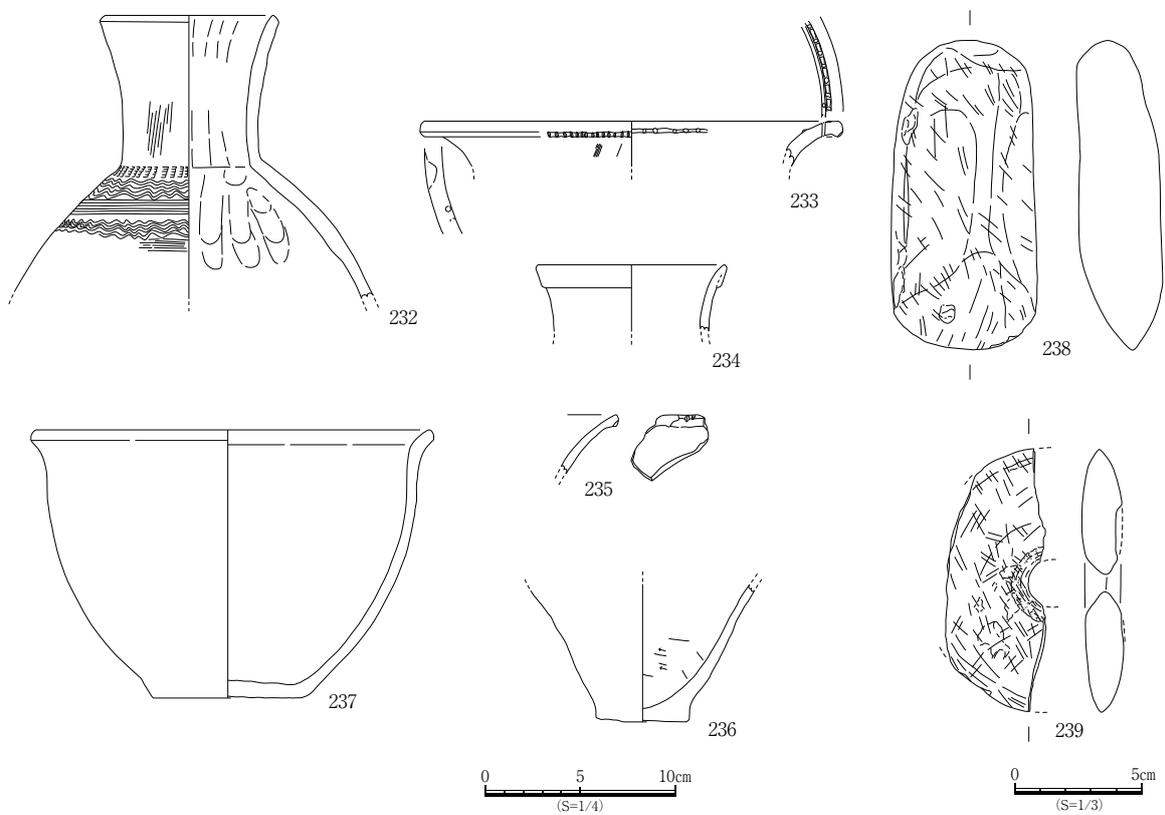
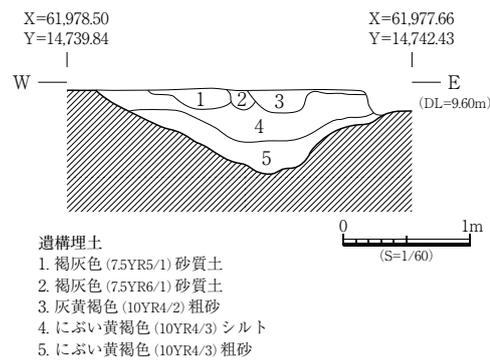


図 I-51 I-4-2区SD3断面図・遺物実測図

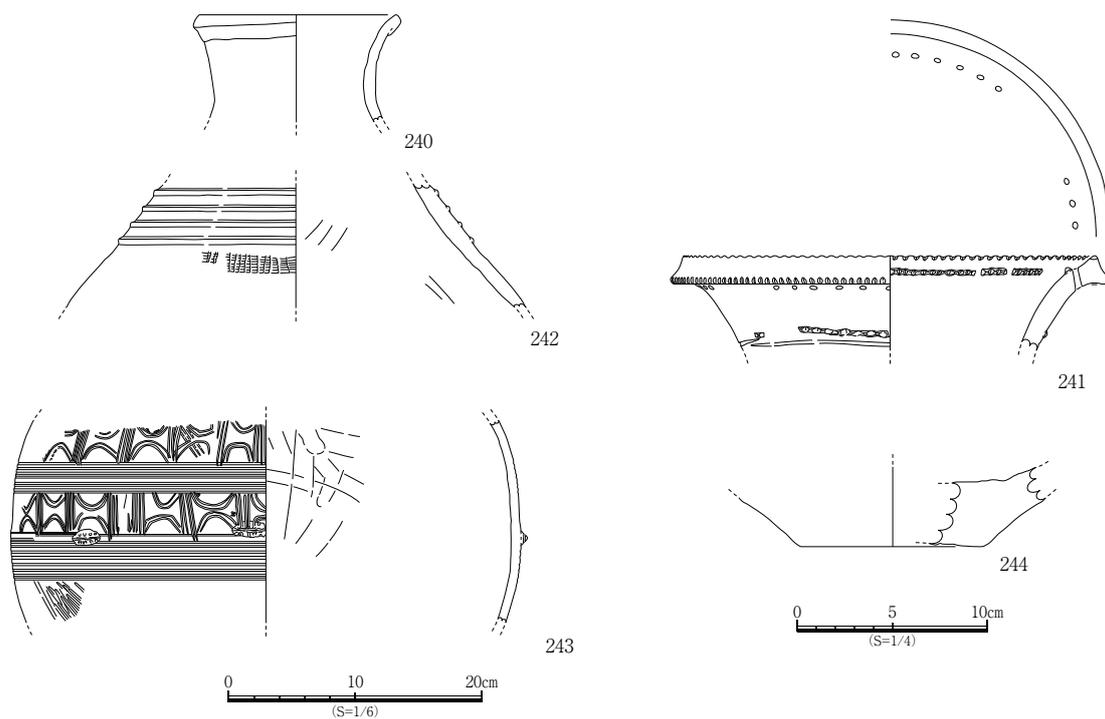


图 I - 52 I - 4 - 2 区 SD10 遗物实测图

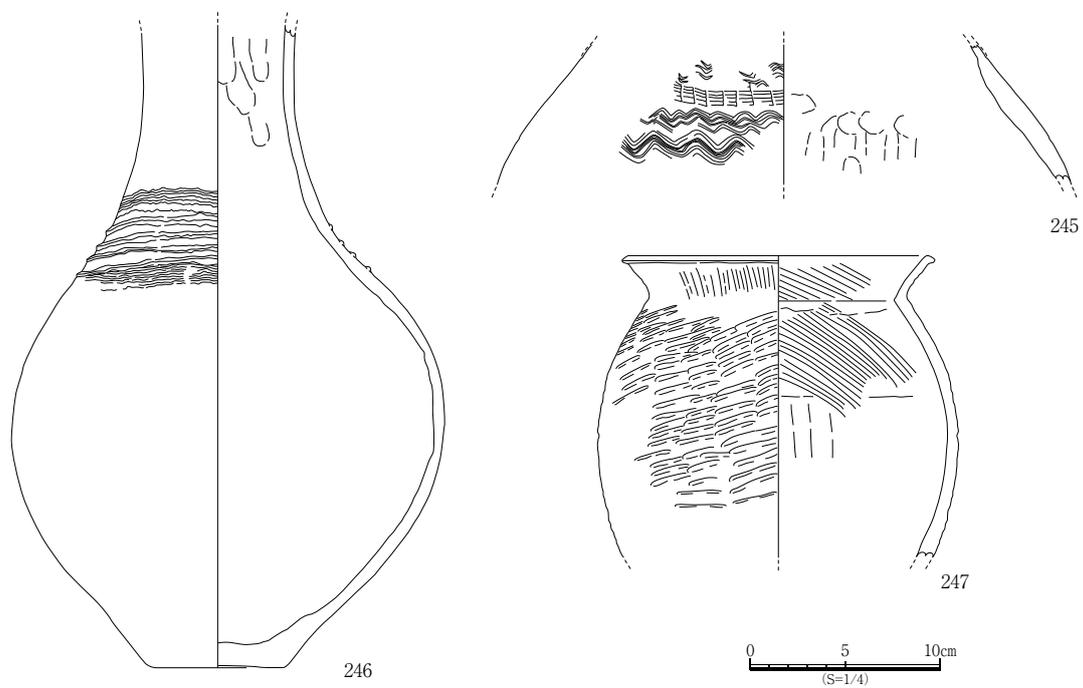


图 I - 53 I - 4 - 2 区 SD16 遗物实测图

## SD3 (図 I - 50・51)

南北方向の溝跡である。幅0.7～1.6m, 検出長は38mであり, 南北とも調査区外へのびる。検出面からの深さは89cmであり, 主な埋土は灰色シルトが混じる暗褐色粘質土, 灰黄褐色砂質シルト, 褐灰色粗砂等である。

図示した出土遺物は弥生土器の壺・甕・底部・鉢, 伐採斧, 環状石斧である。232は直口壺である。上胴部を文様帯とし, 上から櫛描簾状文・櫛描波状文・櫛描直線文・櫛描波状文を配置する。さらに櫛描直線文を施している可能性があるが判然としない。233は壺である。口唇部はヨコナデ調整により凹面状を呈し, 下端は引っ張り出し刻目を施す。口縁部内面には扁平な刻目突帯を2条, 貼付ける。円孔を穿つ。234は壺である。貼付口縁であり, 口唇部は丸くおさめる。磨耗のため, 調整等の観察は困難である。砂粒を非常に多く含む胎土である。235は甕である。貼付口縁であり, 口唇部は面取りされる。口縁部下端に刻目を施す。仁淀川流域からの搬入品である。237は鉢である。器壁の薄い大きめの平底から体部は丸みを持って立ち上がる。口縁部はわずかに外反し, 口唇部は丸くおさめる。238は緑色片岩製の伐採斧である。棒状の川原石を研磨等により調整する。自然面を残す部分は多い。両刃である。239は環状石斧である。研磨により鋭い両刃に仕上げられる。中央部には両面からの敲打等により穿孔する。孔の側面は摩滅する。大部分は欠損する。

## SD7 (図 I - 50)

上面で検出した南北方向の溝跡である。SD2aに切られる。幅約0.2m, 検出長約16.4mである。検出面からの深さは15cmであり, 埋土は褐灰色粘砂土である。

## SD10 (図 I - 52)

中央部で検出した南北方向の溝跡である。幅約0.6m, 検出長は約17mである。検出面からの深さは27cmである。

図示した出土遺物は弥生土器の壺・底部である。240は壺である。頸部は短く直立し口縁部はあまりひらかない。貼付口縁であり, 粘土帯外面には弱い指頭圧痕がみられる。口唇部は丸くおさめる。241は壺である。口縁部上端をつまみ上げ, 下端を引っ張り出し, 上下端に刻目を施す。口唇部は凹面状を呈する。口縁部内面, 頸部外面には本体と異なる粘土の扁平な刻目突帯を貼付ける。頸部の突帯下にも目印と推測されるヘラ描き沈線文を施している。また, 口縁部には6孔1単位の円孔を配置する。242は壺である。上胴部を文様帯とし, 上から4条の突帯・櫛描簾状文を配置する。243は壺である。上半部を文様帯とする。ヘラ描き沈線文帯の間に双線による文様帯を配置する。双線による文様帯は縦方向の4条の沈線文と上下半円の弧文を交互に配置する。また, 3～4個の円孔を穿孔した粘土を貼付ける。施文の順番は横方向のヘラ描き沈線帯, 粘土の貼付, 双線による文様である。

## SD16 (図 I - 53)

南部で検出した東西方向の溝跡である。幅1.0～1.5m, 検出長は約15mである。検出面からの深さは74cmである。上層から弥生時代後期末の土器が出土している。西隣の調査区において, この溝の続きを検出した。

図示した出土遺物は弥生土器の壺・甕である。245は壺である。上胴部を文様帯とし, 上から櫛描波状文・櫛描簾状文・櫛描波状文・櫛描波状文を配置する。ベンガラを塗布か。246は壺である。体部は中位に最大径部を持ち球形に近い形態を呈する。頸部は長くのびる。頸部から上胴部を文様帯とし, 上から繊細な櫛描波状文・4条の断面三角形の突帯・繊細な櫛描波状文を配置する。内面は指頭

による凹凸がみられる。247は甕である。口縁部は「く」の字状を呈し、口唇部には面取りを施す。体部は中位に最大径部を有し、やや張る。口縁部内外面、上胴部内面はハケ調整、体部外面は叩き調整、体部内面の下半部はナデ調整である。肩部内面には粘土紐接合痕跡が認められる。

⑧ I - 5 ~ 10区

(1)SK

SK1

I - 10区の南東部で検出した土坑である。一部、調査区外にひろがる。長軸約1.6m、短軸約1.2mまで検出した。検出面からの深さは84cmであり、埋土は灰黄褐色粘質土、褐灰色粘質土、黄灰色粘質土である。

SK2

I - 10区の南東部で検出した土坑である。一部、調査区外にひろがる。長軸約1.6m、短軸約1.2mまで検出した。検出面からの深さは77cmであり、埋土は暗灰黄色粘質土、黄灰色粘質土である。

SK6

I - 10区の南部で検出した土坑である。長軸約2.1m、短軸約1.7mの不整形な隅丸長方形を呈する。検出面からの深さは54cmであり、埋土は灰黄褐色粘質土シルト、褐灰色粘質土シルト、黒褐色シルト、黄灰色粘質土である。

SK8

I - 10区の東部で検出した土坑である。一部、調査区外にひろがる。SK9を切り、SK3に切られる。長軸約1.8m、短軸1.3m以上の楕円形を呈する。底面には灰色粘土の貼床が認められる。検出面からの深さは63cmであり、埋土は黄灰色粘質土、暗灰黄色粘質土、黄灰色粘質土、黄褐色粘質土である。

SK9

I - 10区の東部で検出した土坑である。一部、調査区外にひろがる。SK8に切られる。長軸1.1m以上、短軸0.8m以上である。検出面からの深さは50cmであり、埋土はにぶい黄褐色粘質土である。

SK10

I - 10区の中央部で検出した土坑である。長軸約1.5m、短軸約0.9mの不整形を呈する。検出面からの深さは約130cmであり、埋土は灰黄褐色粘質土、にぶい黄橙色粘質土である。

SK11

I - 10区の中央部で検出した土坑である。長軸約1.3m、短軸約1.1mの隅丸長方形を呈する。検出面からの深さは22cmであり、埋土は黒褐色粘質土である。

(2)SD

SD1

I - 8区の北部で検出した東西方向の溝跡である。幅約0.6m、検出長約6.7mである。検出面からの深さは6cmであり、埋土は黄褐色粘質土である。近世の溝跡である。

竪穴建物跡計測表(I-1-3区)

遺構名	平面形	規模(m)			床面標高(m)	面積(m <sup>2</sup> )	長軸方向 (NはGN)	時期
		長軸/検出長	短軸/幅	深さ(cm)				
ST1	隅丸方形	5.0	(3.6)	20	9.4	(25.7)	N-1°-E	古墳時代前期初頭
ST1_P1	長楕円形	1.2	0.6	19	9.2	-	-	
ST1_P2	楕円形	(0.3)	(0.2)	(5)	(9.3)	-	-	
ST1_P3	円形	0.3	0.2	9	9.3	-	-	
ST1_P4	楕円形	0.2	0.2	54	8.8	-	-	
ST1_P5	計測不可能							
ST1_P6	欠番							
ST1_P7	〃							
ST1_P8	〃							
ST1_P9	〃							
ST1_P10	円形	0.3	0.3	26	9.1	-	-	
ST1_P11	楕円形	0.2	0.2	17	9.2	-	-	
ST1_P12	円形	0.2	0.2	14	9.3	-	-	
ST1_P13	楕円形	(0.6)	0.6	3	9.4	-	-	
ST1_P14	欠番							
ST1_P15	円形	0.3	0.3	48	8.9	-	-	
ST1_P16	欠番							
ST1_P17	楕円形	0.3	0.3	43	8.8	-	-	
ST1_P18	欠番							
ST2	隅丸方形	2.3	(1.2)	12	9.5	(5.3)	N-14°-E	古墳時代前期初頭
ST2_P1	円形	0.3	0.2	7	9.4	-	-	
ST2_P2	〃	0.2	0.2	10	9.4	-	-	

竪穴建物跡計測表 (I-2-0・1区)

遺構名	平面形	規模 (m)			床面標高 (m)	面積 (㎡)	長軸方向 (NはGN)	時期
		長軸/検出長	短軸/幅	深さ (cm)				
ST1	楕円形	4.9	4.4	26	9.3	22.1	-	弥生時代中期後葉
ST1 _中央P	〃	0.9	0.6	17	9.1	-	-	
ST1_P1	円形	0.2	0.2	18	9.1	-	-	
ST1_P2	〃	0.3	0.3	18	9.1	-	-	
ST1_P3	〃	0.2	0.2	12	9.1	-	-	
ST1_P4	楕円形	0.6	0.5	37	8.9	-	-	
ST1_P5	円形	0.3	0.2	39	8.8	-	-	
ST1_P6	〃	0.2	0.2	39	8.9	-	-	
ST1_P7	〃	0.2	0.1	39	8.8	-	-	
ST1_P8	楕円形	(0.2)	0.2	29	9.0	-	-	
ST1_SD1	-	(1.6)	0.1	2	9.2	-	-	

竪穴建物跡計測表 (I-4-1区)

遺構名	平面形	規模 (m)			床面標高 (m)	面積 (㎡)	長軸方向 (NはGN)	時期
		長軸/検出長	短軸/幅	深さ (cm)				
ST1	隅丸方形	6.4	(4.5)	43	9.1	(41.7)	N-12°-E	古墳時代前期初頭
ST1_P1	長楕円形	1.2	0.7	20	8.9	-	-	
ST1_P2	欠番							
ST1_P3	円形	0.4	0.4	14	9.1	-	-	
ST1_P4	楕円形	0.2	0.2	3	9.2	-	-	
ST1_P5	円形	0.3	0.3	7	9.1	-	-	
ST1_P6	楕円形	1.3	(0.4)	18	9.0	-	-	
ST1_P7	円形	0.3	(0.2)	8	9.1	-	-	
ST1_P8	楕円形	0.4	0.3	35	8.7	-	-	

遺構名	平面形	規 模 (m)			床面標高(m)	面積 (㎡)	長軸方向 (NはGN)	時 期
		長軸/検出長	短軸/幅	深さ (cm)				
ST1_P9	欠番							
ST1_P10	円形	0.4	0.3	31	8.8	-	-	
ST1_P11	欠番							
ST1_P12	楕円形	(0.9)	(0.4)	10	9.1	-	-	
ST1_P13	〃	0.2	0.2	34	8.8	-	-	
ST1_P14	欠番							
ST1_P15	円形	0.3	0.2	32	8.8	-	-	
ST1_P16	楕円形	0.2	0.2	31	8.8	-	-	
ST1_P17	〃	0.3	0.2	37	8.8	-	-	
ST1_SD1	-	0.4	0.1	4	9.1	-	-	
ST1_SD2	-	(0.9)	0.1	4	9.1	-	-	
ST1_SD3	-	(1.2)	0.1	10	9.0	-	-	

土坑計測表 (I-2-0・1区)

遺構名	調査区	平面形	規模			床面標高 (m)	主軸方向 (N は GN)	時期
			長軸 (m)	短軸 (m)	深さ (cm)			
SK1	I-2-1	不整楕円形	1.8	1.3	18	9.2	N-8°-W	弥生時代中期前半か
SK2	〃	隅丸長方形	1.8	(0.7)	16	9.2	N-53°-E	〃
SK3	〃	楕円形	1.8	(1.0)	29	9.1	N-84°-W	〃
SK4	〃	隅丸長方形	0.5	0.4	5	9.3	N-19°-E	〃
SK5	I-2-0	〃	0.9	0.5	3	9.4	N-27°-W	時期不明
SK6	欠番							
SK7	I-2-0	隅丸長方形	3.0	2.3	18	9.3	N-60°-E	弥生時代中期後葉 (中期前半か)
SK8	〃	〃	0.8	0.6	8	9.4	N-66°-W	弥生時代中期前半か
SK9	〃	〃	1.8	1.5	9	9.4	N-26°-E	〃
SK10	〃	楕円形	2.1	1.3	42	9.1	N-85°-E	弥生時代中期後葉
SK11	〃	溝状	1.7	0.4	13	9.3	N-52°-W	弥生時代中期前半か
SK12	〃	隅丸長方形	2.3	1.1	25	9.1	N-57°-E	〃
SK13	欠番							
SK14	I-2-0	楕円形	1.1	0.5	4	9.3	N-53°-E	時期不明

土坑計測表 (I-2-2区)

遺構名	平面形	規模			床面標高 (m)	主軸方向 (N は GN)	時期
		長軸 (m)	短軸 (m)	深さ (cm)			
SK1	隅丸長方形	(1.8)	1.7	17	9.2	N-54°-W	弥生時代中期前半

土坑計測表 (I-2-3区)

遺構名	平面形	規模			床面標高 (m)	主軸方向 (N は GN)	時期
		長軸 (m)	短軸 (m)	深さ (cm)			
SK1	楕円形	1.1	0.6	33	9.0	N - 68° - E	時期不明
SK2	欠番						
SK3	溝状	0.9	0.3	28	9.0	N - 29° - E	弥生時代中期前半か
SK4	隅丸長方形	0.6	0.5	31	9.0	N - 74° - W	時期不明
SK5	楕円形	0.6	0.4	40	8.9	N - 9° - W	弥生時代中期前半か
SK6	溝状	0.9	0.3	35	9.0	N - 44° - W	弥生時代か

土坑計測表 (I-4-1区)

遺構名	平面形	規模			床面標高 (m)	主軸方向 (N は GN)	時期
		長軸 (m)	短軸 (m)	深さ (cm)			
SK1	溝状	1.9	0.4	22	9.2	N - 22° - E	古墳時代前期初頭

土坑計測表 (I-5~10区)

遺構名	調査区	平面形	規模			床面標高 (m)	主軸方向 (N は GN)	時期
			長軸 (m)	短軸 (m)	深さ (cm)			
SK1	I-10	円形	1.6	(1.2)	84	8.9	-	近世
SK2	〃	〃	1.6	(1.2)	77	9.0	-	〃
SK3	〃	不整円形	0.9	0.9	114	8.6	-	〃
SK4	〃	隅丸長方形	1.6	1.1	11	9.7	N - 1° - E	時期不明
SK5	〃	楕円形	0.9	0.8	104	8.7	N - 56° - W	〃
SK6	〃	不整隅丸長方形	2.1	0.7	55	9.3	N - 89° - E	〃
SK7	〃	溝状	3.3	0.7	13	9.7	N - 86° - W	〃
SK8	〃	円形	1.8	(1.3)	66	9.1	-	近世
SK9	〃	〃	(1.1)	(0.8)	51	9.3	-	時期不明
SK10	〃	不整形	1.4	0.9	130	8.5	N - 34° - E	近世
SK11	〃	隅丸長方形	1.2	1.1	25	9.5	N - 24° - E	時期不明

出土遺物(土器)観察表

挿図 番号	図版 番号	調査区	出土場所 (遺構)	器種 器形	法量(cm)			色調(外面)	特徴
					口径	器高	底径		
I-5	1	I-1-3	ST1	弥生甕	15.1	(17.4)		にぶい黄橙色	外面, 叩き。口縁部, 叩き後指押さえ。口縁部内面, ハケ。内面, ナデ・ハケ。粘土紐接合痕跡。煤付着。
〃	2	〃	〃	〃	14.4	(8.2)		〃	外面, 叩き。内面, ナデ。内面, 粘土紐接合痕跡。被熱変色。
〃	3	〃	ST1 床	〃	(17.9)	(10.0)		灰黄褐色	外面, 叩き。内面, ナデ・ケズリか。内面, 粘土紐接合痕跡。
〃	4	〃	ST1	〃	13.0	(7.0)		にぶい黄橙色	外面, 叩き。内面, ハケ。内面, 粘土紐接合痕跡。器壁, 厚い。被熱変色。
〃	5	〃	ST1 下層	〃	14.8	(7.8)		黄灰色	口縁部の外反度合いは弱い。外面, 叩き。内面, ハケ・ナデ。
〃	6	〃	ST1	〃	(16.0)	(15.7)		にぶい黄橙色	外面, 叩き。肩部, 叩き後ハケ。内面, ハケ。
〃	7	〃	〃	弥生鉢	(12.1)	6.5	3.4	灰黄色	平底。外面, 叩き後ナデ。内面, ハケ。外底面は叩き後ナデか。残存率, 良好。
〃	8	〃	ST1_P1	〃	(11.6)	5.8	2.5	灰白色	丸底。外面, 叩き後ナデ。内面, ハケ。内面, 煤付着。残存率, 良好。
〃	9	〃	ST1	〃	12.4	6.5	2.3	灰黄色	丸底。外面, 叩き後ナデ。内面, ナデ・ハケ。残存率, 良好。
〃	10	〃	〃	〃	14.2	6.7	3.2	橙色	外面は右下がり叩き後ナデ。内面, 粗いハケ。大きく歪む。残存率, 良好。
〃	11	〃	〃	〃	16.3	6.5		灰黄色	丸底。外面, 叩き後ナデか。内面, ナデ。黒斑。
〃	12	〃	〃	〃	16.5	7.0	3.3	〃	丸みを持った平底。底端部, 強いナデ。外面, 叩き後ナデか。内面, ハケ。黒斑。
〃	13	〃	〃	弥生 高杯		(4.4)		にぶい黄橙色	脚部, 円孔。外面, ミガキ。内面, ナデ・しぼり目。
〃	14	〃	〃	弥生 支脚		14.4	8.5	〃	器高の高いタイプ。体部から受部が2本付く。前傾。脚部, 中空。体部, 中実。外面, 叩き。内面, ナデ。被熱変色。ほぼ完存。
I-7	15	〃	SD4	弥生 甕	14.0	(10.3)		浅黄橙色	口縁端部, つまみ上げ。体部外面, 叩き調整。内面, ケズリ。接合痕。庄内甕模倣。
〃	16	〃	〃	〃		(19.1)		明赤褐色	丸底。外面, 叩き後ハケ。内面, ハケ・ナデ。接合痕。黒斑。
I-8	17	〃	P28	弥生 鉢	9.2	9.5		橙色	丸底。上胴部に最大径部。口縁部, 短く外反。外面, 叩き後ハケ・ナデ。内面, ナデ。ほぼ完存。
I-10	18	I-2-0・1	ST1_P4	弥生 壺	13.2	(4.7)		〃	貼付口縁。口唇部, 面取り。外面, タテハケ。内面, ナデ。
〃	19	〃	〃	〃	16.0	(3.7)		〃	口唇部, 面取り。磨耗, 調整不明。
〃	20	〃	ST1 SK10	〃	16.6	(3.6)		にぶい橙色	短頸広口壺。口縁, 上方へ拡張。2条の凹線文。頸部, 貼付けの押捺突帯。内外面, ヨコナデ。
〃	21	〃	ST1_P4	〃	12.8	(4.5)		黄灰色	短頸広口壺。口縁, わずかに拡張。凹線文か。頸部, 貼付けの押捺突帯。磨耗, 調整等不明瞭。
〃	22	〃	ST1 SK10	〃	24.0	(3.6)		橙色	貼付口縁。粘土帯外面に明瞭な指頭圧痕。口唇部には斜格子文。内外面, ハケ。赤彩。
〃	23	〃	ST1	〃		(4.1)		にぶい褐色	櫛描直線文, 微隆起突帯, 楕円形浮文。内面, ナデ。仁淀川流域からの搬入品。
〃	24	〃	〃	〃		(13.5)		にぶい橙色	微隆起突帯, 棒状浮文。内外面, ナデ。仁淀川流域からの搬入品。

挿図 番号	図版 番号	調査区	出土場所 (遺構)	器種 器形	法量 (cm)			色調 (外面)	特 徴
					口径	器高	底径		
I-10	25	I-2-0・1	ST1	弥生壺		(7.3)		にぶい黄橙色	6条1単位の櫛描直線文, 3単位。外面, ナデ・ハケ。内面, ナデ・しぼり目。
〃	26	〃	ST1 SK10	弥生脚付壺		(9.4)	10.0	浅黄橙色	脚部, 「ハ」の字状。端部, 面取り。内外面, ナデ。SK10出土破片と接合。
〃	27	〃	ST1_P4	〃		(7.3)	8.5	灰白色	脚部, 「ハ」の字状。端部, ヨコナデ, 凹面状。外面, ミガキ。内面, ナデ。
〃	28	〃	ST1	弥生甕	18.4	(4.3)		にぶい黄橙色	貼付口縁。口唇部, 凹面状。外面, タテハケ。内面, ヨコハケ。
〃	29	〃	ST1_P4	〃	16.8	(6.4)		〃	口唇部, 面取り。下端, 刻目。微隆起突帯。上胴部, 微隆起突帯・浮文。内外面, ナデ。
〃	30	〃	ST1	弥生鉢	20.3	(6.2)		にぶい橙色	貼付口縁。口唇全面, 刻目。内外面, ミガキ。煤付着。
〃	31	〃	〃	弥生底部		(4.4)	6.5	〃	平底。外底面, ナデ。外面, ケズリ。内面, ナデ。
〃	32	〃	〃	〃		(3.9)	5.6	橙色	平底。薄い器壁。仁淀川流域からの搬入品。
〃	33	〃	〃	弥生高杯	21.6	(5.5)		灰黄褐色	口唇部, 強いヨコナデ。内側に拡張。凹面状。凹凸の明瞭な凹線文。外面, ハケ。
〃	34	〃	ST1 SK1	〃		(6.9)		にぶい黄橙色	内面, ミガキ。外面, ハケ後ミガキ。SK1出土破片と接合。
〃	35	〃	ST1	弥生蓋	13.0	5.5		橙色	貼付口縁。粘土帯外面, 指頭圧痕。口唇部, 面取り。外面, ハケ。内面, ナデ。被熱変色。
I-13	38	〃	SK3	弥生壺	8.7	(14.4)		にぶい黄橙色	貼付口縁。粘土帯外面, 弱い指頭圧痕。ヨコナデ。口唇部, 面取り。外面, ミガキ。内面, ナデ。
〃	39	〃	〃	弥生鉢	20.3	(10.0)		灰白色	貼付口縁。粘土帯外面, 弱い指頭圧痕。ヨコナデ。口唇部, 面取り, つまみ上げ。外面, ミガキ。内面, ナデ。
〃	40	〃	〃	〃	25.2	(19.7)		灰黄褐色	貼付口縁。粘土帯外面, 弱い指頭圧痕。ヨコナデ。口唇部, 面取り, つまみ上げ。外面, ミガキ。体部内面, ミガキ。煤付着。
I-14	41	〃	SK4	弥生底部		(24.7)	8.2	にぶい橙色	角に丸みを帯びた平底。磨耗, 調整等不明瞭。被熱変色。
I-15	42	〃	SK7	弥生壺	14.6	(4.7)		〃	貼付口縁。粘土帯外面, 指頭圧痕。ヨコナデ。口唇部, 面取り。外面, タテハケ。口縁部内面, ハケ。
〃	43	〃	〃	〃	14.5	(4.9)		にぶい黄橙色	口縁部外面, 刻目。砂粒を非常に多く含む胎土。磨耗, 調整不明瞭。
〃	44	〃	〃	〃	15.8	(2.2)		浅黄橙色	貼付口縁。粘土帯外面, 弱い指頭圧痕。ヨコナデ。面取り。
〃	45	〃	〃	弥生甕	16.6	(2.5)		にぶい黄褐色	口唇部, 面取り, 下端, 刻目。微隆起突帯。仁淀川流域からの搬入品。
I-16	47	〃	SK9	弥生壺	5.4	(4.1)		にぶい橙色	細頸長頸壺。櫛描直線文。磨耗, 調整不明瞭。
I-18	49	〃	SK10	〃	9.4	(9.5)		にぶい黄橙色	貼付口縁。13条1単位の繊細な櫛描直線文。外面, ミガキ。内面, ナデ。
〃	50	〃	〃	〃	11.6	(21.3)		にぶい橙色	球形の体部。直立の頸部。口縁部, 短く外反。口唇部, 面取り。磨耗, 調整不明瞭。
〃	51	〃	〃	〃	10.8	23.4	5.5	にぶい黄橙色	貼付口縁。粘土帯外面外面, ヨコナデ。口唇部, 面取り。磨耗, 調整不明瞭。黒斑。被熱変色。
〃	52	〃	〃	〃	16.0	(5.7)		橙色	貼付口縁。粘土帯外面, 指頭圧痕。口唇部, ヨコナデ。端部, つまみ上げ。磨耗, 調整不明瞭。
〃	53	〃	〃	〃	20.9	(4.3)		灰黄褐色	貼付口縁。粘土帯外面, 指頭圧痕。ヨコナデ。口唇部, 面取り。外面, タテハケ。煤付着。

挿図 番号	図版 番号	調査区	出土場所 (遺構)	器種 器形	法量 (cm)			色調 (外面)	特 徴
					口径	器高	底径		
I-18	54	I-2-0-1	SK10	弥生壺	18.0	(5.9)		にぶい黄橙色	口縁部,「く」の字状。口唇部,面取り。端部,つまみ出す。頸部,押捺突帯。外面,ミガキ。内面,ナデ。被熱変色。
〃	55	〃	〃	〃	21.6	64.6	12.6	〃	貼付口縁。肥厚。口唇部,斜格子文。頸部,突帯。口頸部内外面,ハケ。体部外面,ミガキ。煤附着。
〃	56	〃	〃	〃		(7.6)		橙色	突帯。内外面,ナデ。外面の一部,ハケメ状。
〃	57	〃	〃	〃		(4.2)		〃	櫛描波状文,突帯,櫛描波状文,流水文。内面,ナデ。
〃	58	〃	〃	弥生甕	20.2	(10.2)		〃	口縁部外面,刻目突帯。微隆起突帯。上胴部,櫛描直線文,4条の突帯,楕円形浮文,櫛描直線文,櫛描波状文。煤附着。
〃	59	〃	〃	〃		(5.1)		にぶい黄橙色	3条の微隆起突帯,楕円形浮文。内外面ともナデ。
〃	60	〃	〃	〃	12.9	(1.7)		〃	口縁部,強く外反。端部,つまみ上げ。口唇部,凹線文。内外面,ヨコナデ。讃岐からの搬入品。
I-19	61	〃	〃	弥生鉢	23.4	(6.6)		橙色	口縁部,強く外反。貼付口縁。粘土帯外面,指頭圧痕。口唇部拡張,ハケ状原体による面取り。内外面,ナデ。
〃	62	〃	〃	〃	10.5	(8.9)	3.3	にぶい橙色	深い形態。外面下半,タテハケ。被熱変色。煤附着。
〃	63	〃	〃	〃	9.2	(3.7)		にぶい黄褐色	口唇部,平坦面,外傾。5条の沈線文。刻目。讃岐からの搬入品。
〃	64	〃	〃	弥生高杯	16.8	(4.0)		灰白色	口唇部,拡張,凹面状。外面,4条の凹線文。
〃	65	〃	〃	弥生脚部		(5.4)	5.5	橙色	脚部,「ハ」の字状。端部,丸くおさめる。磨耗,調整等不明瞭。
〃	66	〃	〃	弥生底部		(4.2)	5.6	褐灰色	平底。外面,ミガキか。内面,ナデ。讃岐からの搬入品。
〃	67	〃	〃	〃		(5.0)	6.2	にぶい赤褐色	平底。外面,ミガキ。内面,ナデ。讃岐からの搬入品。
〃	68	〃	〃	〃		(12.0)	12.8	橙色	大型壺。わずかな上げ底。外面,ハケ・ミガキ。内面,ナデ。粘土の接合部で剥離している。製作工程が復元できる。
〃	69	〃	〃	弥生甕		(7.3)		黒色	金雲母片,含む。断面三角形の突帯,2条。外面,ナデ・ミガキ。内面,ナデ・ハケ。煤附着。南九州からの搬入品の可能性が高い。
〃	70	〃	〃	弥生底部		(8.5)	7.4	にぶい赤褐色	壺。金雲母片,含む。外面,磨耗,調整不明瞭。内面,ナデ。南九州からの搬入品の可能性が高い。
I-21	74	〃	SD8	弥生甕	17.7	(17.3)		にぶい黄褐色	貼付口縁。粘土帯外面,指頭圧痕。口唇部,面取り。外面,ハケ。体部内面,ナデ・ハケ。煤附着。おこげ附着。
〃	75	〃	SD9	〃		(11.2)		オリーブ黒色	櫛描直線文,微隆起突帯,櫛描直線文,楕円形浮文。外面,磨耗,調整不明瞭。内面,ナデ。仁淀川流域からの搬入品。
I-22	76	〃	SR1	弥生壺	21.9	(2.4)		橙色	貼付口縁。粘土帯外面,指頭圧痕。口唇部は凹面状,上下端,刻目。口縁部内面,櫛描波状文。磨耗,調整不明瞭。
〃	77	〃	〃	〃	15.4	(1.2)		灰白色	貼付口縁。粘土帯外面,弱い指頭圧痕。ヨコナデ。口縁部内面,斜格子文。口唇部,面取り,つまみ上げ。斜線文。内外面,ナデ。
〃	78	〃	〃	〃	18.0	(20.9)		橙色	貼付口縁。口縁部外面,ヨコナデ。口唇部,面取り。外面,ハケ後ミガキ。ナデ・ケズリか。煤附着。
〃	79	〃	〃	弥生底部		(4.1)	7.3	にぶい橙色	平底。外面,ナデ・ハケ。内面,ナデ・粗いハケ。粘土紐の接合部で剥離している。
I-26	86	I-2-2	〃	弥生甕	16.1	(3.3)		にぶい黄褐色	「く」の字状口縁。端部,つまみ上げ。内外面,ナデ。被熱変色。讃岐からの搬入品。
〃	87	〃	〃	弥生鉢	20.0	(11.0)		橙色	貼付口縁。粘土帯外面,指頭圧痕。口唇部,面取り。外面,ハケ・ミガキ。内面,ハケ・ナデ。器壁,厚い。

挿図 番号	図版 番号	調査区	出土場所 (遺構)	器種 器形	法 量 (cm)			色 調 (外面)	特 徴
					口径	器高	底径		
I-29	90	I-2-3	SR1 I・II層	弥生 壺	16.2	(9.6)		橙色	貼付口縁。粘土帯外面, 指頭圧痕, ヨコナデ。端部, つまみ出し, 刻目。櫛描波状文。外面, タテハケ, ミガキか。内面, ナデ・ハケ。
〃	91	〃	SR1 I層	弥生 甕		(2.2)		にぶい橙色	口唇部, つまみ上げ。口縁下端, 刻目。微隆起突帯・櫛描直線文。内外面, ナデ。仁淀川流域からの搬入品。
I-31	92	I-3	SR1 上層	弥生 壺	12.5	(4.1)		浅黄橙色	口縁部内面, 2孔1対の刺突文。双線による文様。口縁部, 下方へ拡張。双線による文様。外面, ハケか。内面, ナデ。讃岐からの搬入品。
〃	93	〃	SR1 上・中・下層	〃		(10.4)		にぶい黄色	頸胴部境, 貼付け突帯。櫛描直線文・櫛描波状文。2孔1対の刺突文。外面, ハケ。内面, ナデ。讃岐からの搬入品。92と同一個体か。
〃	94	〃	SR1 最下層	〃		(11.5)		灰黄色	上胴部, 櫛描簾状文・櫛描直線文・櫛描波状文。外面, ハケ・ミガキか。内面, ナデ。
〃	95	〃	SR1 下層	弥生 底部		(5.4)	6.8	橙色	上げ底。外面, ミガキ。内面, 磨耗のため不明。黒斑。
〃	96	〃	〃	弥生 甕		(9.0)		灰黄褐色	頸胴部境, 櫛描直線文・微隆起突帯・楕円形浮文。内外面, ナデ。仁淀川流域からの搬入品。
〃	97	〃	〃	弥生 鉢	20.4	14.7	8.0	橙色	貼付口縁。粘土帯外面, 指頭圧痕。口唇部, 面取り。外面, ミガキ。内面, ナデ。
I-32	99	〃	SR2 最下層	弥生 甕		(1.6)		にぶい黄橙色	貼付口縁。粘土帯外面, ヨコナデ。口縁下端, 刻目。微隆起突帯。櫛描直線文・浮文か。内外面, ナデ。仁淀川流域からの搬入品。
I-35	103	I-4-1	ST1 下層・床	弥生 壺	(14.4)			橙色	口縁, 短く外反。長胴。丸底。外面, 叩き。内面, ナデ。被熱変色。
〃	104	〃	〃	〃	19.4	(21.8)		にぶい黄橙色	口縁部, 短く外反。体部, 球形。外面, 叩き, 下半, 叩き後ハケ。口縁部, 叩き後ハケ。内面, ナデ。粘土紐接合痕跡。煤付着。
〃	105	〃	〃	〃	16.7	(19.9)		橙色	体部, 球形。口縁部, 外反。外面, 叩き調整。内面, 口縁部, ハケ, 体部, ナデ。肩部, 粘土紐接合痕跡。
〃	106	〃	〃	〃	(16.5)	(18.8)		赤橙色	体部, 球形。口縁部, 叩き後ナデ。外面, 叩き。内面, ハケ後ナデ。被熱変色。
〃	107	〃	〃	〃	14.8	31.7	4.6	橙色	内湾気味の口縁部。角のとれた平底。外面, 叩き調整, 下半は叩き調整後タテハケ調整。外底面, 叩き目。内面, ナデ。黒斑。
〃	108	〃	ST1	〃	16.9	30.6	(4.5)	浅黄橙色	口縁部, 水平近くまで外反。丸底。外面, 体部叩き, 下半は叩き後ナデ。肩部から口縁部, ナデ。内面, ナデ。黒斑。
I-36	109	〃	ST1 床	〃	17.5	(6.8)		浅黄色	口縁部, 水平近くまで外反。口唇部, 面取り。外面, タテハケ。内面, ナデ。
〃	110	〃	ST1 下層・床	〃	23.0	(16.9)		にぶい橙色	口縁部, 上下に拡張。外面, 叩き調整後タテハケ。内面, ナデ・ハケ。黒斑。112と同一個体か。
〃	111	〃	ST1	〃		(7.8)		橙色	頸部に押捺突帯。磨耗のため調整不明瞭。外面, 叩きか。
〃	112	〃	ST1 床	〃		(4.6)		淡黄色	外面, 叩き調整後タテハケ。内面, ナデ・ハケ。黒斑。110と同一個体か。
〃	113	〃	〃	〃		(13.4)		橙色	丸底。磨耗のため調整不明瞭。外面, 叩き。内面, ハケ後ナデ。被熱変色。
〃	114	〃	〃	〃	(28.7)	(3.4)		にぶい黄橙色	丸底。外面, 叩き, 下半は叩き後タテハケ。内面, ナデ, 下半はタテハケ。黒斑。
〃	115	〃	ST1 中層	〃	(27.1)	2.7		にぶい橙色	球形の体部。丸底。外面, 叩き調整であり, 下半は叩き後タテハケ。内面, ナデ。黒斑。
I-37	116	〃	ST1 下層	弥生 甕	17.0	25.0		赤褐色	外面, 叩き。下半, 叩き後ハケ。内面, ナデ。口縁部, ハケ。被熱変色。
〃	117	〃	ST1_P13	〃	(14.8)		(9.6)	橙色	外面, 叩き。内面, ナデか。口縁部, ハケ。煤付着。
〃	118	〃	ST1 床他	〃	15.6	(7.4)		にぶい黄橙色	口唇部, 面取り。口縁部, ハケ。外面, 叩き。内面, ナデ。被熱変色。

挿図 番号	図版 番号	調査区	出土場所 (遺構)	器種 器形	法 量 (cm)			色 調 (外面)	特 徴
					口径	器高	底径		
I-37	119	I-4-1	ST1 土器集中1	弥生 甕	18.1	(9.7)		にぶい黄橙色	口唇部, 面取り。外面, 叩き。口縁部, 叩き後ナデ。内面, ハケ・ナデ。煤付着。
〃	120	〃	ST1 床	〃	(15.2)	(11.5)		淡黄色	外面, 叩き (右下がり)。内面, ナデ。
〃	121	〃	ST1	〃	(12.0)	23.2	3.0	灰白色	磨耗のため調整不明瞭。口縁部外面, ハケ。外面, 叩き。内面, ナデ。外底面, 叩き目。煤付着。
〃	122	〃	〃	〃	(17.3)	24.1		にぶい黄橙色	完全な丸底。口縁部, 長め。外面, 叩き。下半, 叩き後ハケ。内面, ハケ後ナデ。黒斑。
〃	123	〃	ST1 土器集中1	〃	(13.9)	(5.6)		灰黄褐色	口縁端部, つまみ上げ。外面, ハケ。内面, ケズリ。搬入品か。
〃	124	〃	ST1	〃	13.3	(7.2)		にぶい黄橙色	外面, 叩き。内面, ナデ。肩部内面, 粘土紐接合痕跡。
〃	125	〃	ST1 土器集中1	〃	15.8	(10.8)		浅黄色	口縁部, 叩き後成形。外面, 叩き。内面, ハケ・ナデ。煤付着。
〃	126	〃	ST1 下層	〃	(15.8)	28.4	2.8	橙色	外面, 叩き。下半, 叩き後タテハケ。内面, ナデ。煤付着。残存率, 良好。
〃	127	〃	〃	〃	15.6	(10.6)		にぶい橙色	外面, 叩き。内面, 口縁部から肩部, ハケ。体部, ナデ。肩部内面, 粘土紐接合痕跡。被熱変色。
〃	128	〃	ST1 中層	〃	(17.6)	(14.8)		〃	外面, 叩き。内面, 口縁部から肩部, ハケ。体部, ナデ。肩部内面, 粘土紐接合痕跡。煤付着。
〃	129	〃	ST1 下層	〃	(14.8)	(8.3)		〃	外面, 叩き。内面, 口縁部から頸部, ハケ。体部, ナデ。煤付着。
〃	130	〃	〃	〃	(15.2)	(6.2)		〃	外面, 叩き。内面, 口縁部から頸部, ハケ。体部, ナデ。頸部内面, 粘土紐接合痕跡。被熱変色。
〃	131	〃	〃	〃	(15.9)	(5.7)		黄灰色	外面, 叩き。肩部, 叩き後ハケ。内面口縁部, ハケ。体部, ナデ。
I-38	132	〃	ST1 上層	〃	(16.4)	(25.4)		橙色	外面, 叩き。下半, 叩き後タテハケ。内面, ナデ。下半, タテハケ。煤付着。
〃	133	〃	ST1 下層・床	〃	(16.1)	22.7	2.6	にぶい黄橙色	外面, 右上がり叩き。内面, 口縁部から肩部, ハケ。体部, ナデ。外底面, 叩き目。内面, 粘土紐接合痕跡。煤付着。
〃	134	〃	〃	〃	(14.4)	25.1	2.7	赤色	外面, 叩き。中位, 叩き後タテハケ。外底面, 叩き目。内面, 口縁から肩部, ハケ。体部, ナデ。被熱変色。
〃	135	〃	〃	〃	18.0	(12.9)		にぶい黄橙色	外面, 叩き。内面口縁部から肩部, ハケ。体部, ナデ。煤付着。
〃	136	〃	ST1 中層	〃	(22.8)	(24.9)		〃	外面, 叩き。口唇部, ハケ状工具による面取り。内面, 口縁部ハケ。体部, ナデ。粘土紐接合痕跡。煤付着。
〃	137	〃	ST1	〃	(15.8)		3.0	赤色	外面, 叩き。下半, 叩き後タテハケ。外底面, 叩き目。内面, 口縁から肩部, ハケ。体部, ナデ。下半, ハケ。被熱変色。
I-39	138	〃	ST1 中層・P3	〃	(15.9)	(22.3)		灰黄色	外面, 叩き。下半, 叩き後タテハケ。内面, ハケ。一部, ナデ。被熱変色。
〃	139	〃	ST1	〃	(18.0)	(15.9)		にぶい黄橙色	口唇部, ルーズな面取り。外面, 叩き。内面, ナデ。磨耗。
〃	140	〃	ST1 床	〃	(15.6)	(13.0)		〃	口縁部, 叩き後ハケ。口唇部, 面取り。外面, 叩き。内面, ハケ。
〃	141	〃	ST1 中層	〃	(18.2)	(13.0)		灰白色	口縁部外面, ナデ。外面, 叩き。内面, ナデ。
〃	142	〃	ST1	〃	(14.6)	(10.6)		にぶい橙色	外面, 叩き。口唇部, 面取り。内面, ハケ。煤付着。
〃	143	〃	〃	〃	(13.8)	(8.4)		淡黄色	口唇部, 丸くおさめる。口縁部, ハケ。外面, 叩き。内面, ハケ。

挿図 番号	図版 番号	調査区	出土場所 (遺構)	器種 器形	法 量 (cm)			色 調 (外面)	特 徴
					口径	器高	底径		
I-39	144	I-4-1	ST1 中・下層	弥生 甕	(15.9)	(8.7)		にぶい黄橙色	口縁部, 叩き後指押さえ。外面, 叩き。内面, ハケ。煤付着。
〃	145	〃	ST1	〃	(13.5)	(7.1)		橙色	磨耗, 調整不明瞭。口縁部, 指押さえ。外面, 叩き。
〃	146	〃	ST1 床	〃	18.2	(3.8)		にぶい橙色	外面, 叩き。口縁部, 叩き後指押さえ。内面, ハケ。煤付着。
〃	147	〃	ST1 上層	〃	(16.8)	(7.2)		褐灰色	外面, 叩き。口縁部, 叩き後指押さえ。口縁部内面, ハケ。内面, ハケ後ナデ。煤付着。
〃	148	〃	〃	〃	(17.0)	(6.9)		にぶい橙色	外面, 叩き。口縁部, 叩き後指押さえ。口縁部内面, ハケ。肩部, ハケ・ナデ。粘土紐接合痕跡。
〃	149	〃	ST1 床	〃	16.4	(4.8)		浅黄色	外面, 叩き。口縁部, 叩き後指押さえ。口縁部内面, ハケ。肩部, ハケ・ナデ。煤付着。
〃	150	〃	ST1 下層	〃	(15.8)	(21.3)		橙色	外面, 叩き。口縁部, 叩き後指押さえ。内面, ハケ・ナデ。被熱変色。
〃	151	〃	ST1 床	〃	12.8	(17.2)		灰黄色	口縁部, 弱い外反度合い。口縁部, 叩き後指押さえ。外面, 叩き。口縁部内面, ハケ。体部, ナデ。粘土紐接合痕跡。煤付着。
〃	152	〃	ST1 土器集中	〃	13.2	(9.1)		にぶい黄橙色	口縁部, 弱い外反度合い。口縁部, 叩き後指押さえ。外面, 叩き。内面, ハケ。煤付着。
I-40	153	〃	ST1 下層	〃		(29.4)		灰黄褐色	丸底。外面, 叩き。下半, 叩き後ハケ。内面, ハケ・ナデ。粘土紐接合痕跡。煤付着。肩部, 2ヶ所の穿孔。
〃	154	〃	ST1	〃		(12.1)		〃	口縁部, 叩き後指押さえ。外面, 叩き。内面, ナデ。上胴部, 粘土紐接合痕跡。煤付着。
〃	155	〃	〃	〃		(14.4)		にぶい黄橙色	外面, 叩き。内面, ハケ・ナデ。器壁, 厚い。
〃	156	〃	ST1 床	弥生 底部		(10.9)	2.5	〃	丸底。外面, 叩き後タテハケ。内面, ナデ。煤付着。
〃	157	〃	ST1	〃		(15.1)	3.1	〃	角のとれた平底。外面, 叩き。内面, タテハケ。煤付着。
〃	158	〃	ST1 下層・床	〃		(15.7)		浅黄橙色	丸底。外面, 叩き。内面, ナデ。黒斑。
〃	159	〃	〃	〃		(9.9)	3.2	橙色	角のとれた平底。磨耗のため調整不明瞭。外面・外底面, 叩き。内面, ハケ。内底面, 指頭圧痕。
〃	160	〃	〃	〃		(12.1)	2.2	にぶい黄橙色	丸底。外面, 叩き後ハケ。内面, ハケ。黒斑。
〃	161	〃	ST1	〃		(4.5)	3.7	明赤褐色	外底面, 指頭圧痕。外面, 叩き。内面, ハケ。
〃	162	〃	ST1 集中他	〃		(6.4)	4.2	橙色	ほぼ丸底。磨耗のため調整不明瞭。外面, 叩き。
〃	163	〃	ST1	〃		(4.6)	2.6	にぶい褐色	丸底。外面, 叩き後ナデ。内面, ナデ。煤付着。
〃	164	〃	ST1 床	〃		(5.3)	3.2	にぶい黄橙色	ほぼ丸底。外面, 叩き後ハケ。外底面, ナデか。内面, ナデ。黒斑。
〃	165	〃	ST1 上層	〃		(5.1)	3.5	橙色	丸底。中央部, 凹む。磨耗のため調整不明瞭。外面, 叩き。
〃	166	〃	ST1 上・下層	〃		(5.0)	4.5	にぶい橙色	突出した底部。一部, つぶれる。外面, 叩き後ナデ。内面, ハケ。被熱変色。
〃	167	〃	ST1 集中他	〃		(2.5)	3.8	浅黄色	ほぼ丸底。磨耗のため調整不明瞭。外面, 叩き。
〃	168	〃	ST1 床	〃		(5.9)		灰白色	丸底。外面, 叩き後ナデ。内面, ハケ。被熱変色。

挿図 番号	図版 番号	調査区	出土場所 (遺構)	器種 器形	法 量 (cm)			色 調 (外面)	特 徴
					口径	器高	底径		
I-40	169	I-4-1	ST1 下層・床	弥生 底部			5.2	にぶい黄橙色	底部, 突出。一部, つぶれる。外面, 叩き後ナデ。内面, ハケ。
〃	170	〃	ST1 土器集中	〃		(2.4)	4.2	灰白色	角のとれた平底。外面, 叩き。内面, ナデ。
I-41	171	〃	ST1 床	弥生 鉢	11.0	6.7	3.5	灰黄褐色	平底。磨耗のため調整不明瞭。内面, ハケ。
〃	172	〃	ST1 上層	〃	16.9	7.6	4.1	にぶい黄橙色	平底。一部, つぶれる。外面, 叩き。内面, ハケ。外底面に圧痕有り。
〃	173	〃	ST1 下層	〃	(14.1)	8.3	3.8	にぶい橙色	突出した平底。一部, つぶれる。外面, 叩き後ナデ。内面, ハケ。被熱変色。
〃	174	〃	ST1	〃	13.9	7.9	3.0	にぶい黄橙色	突出した平底。一部, つぶれる。外面, 叩き後ナデ。内面, ハケ・ナデ。歪む。外底面, 叩き目か。残存率, 良好。
〃	175	〃	ST1 床	〃	(10.3)	6.1	3.0	淡黄色	平底。外面, 叩き後ナデ。内面, 粗いハケ。外底面, 葉脈痕。
〃	176	〃	ST1	〃	10.6	5.7		にぶい黄橙色	外面, 叩き後ナデ。磨耗のため調整不明瞭。内面, ナデ。黒斑。残存率, 良好。
〃	177	〃	ST1 土器集中	〃	14.8	7.1		〃	外面, 叩き後ナデ。外底面, 強いナデ。内面, ハケ・ナデ。黒斑。残存率, 良好。
〃	178	〃	ST1 下層	〃	(16.6)	7.7		にぶい橙色	外面, 叩き後ナデ。外底面, 強いナデ。内面, ハケ・ミガキ。黒斑。残存率, 良好。
〃	179	〃	ST1	〃	(13.4)	6.9	4.0	浅黄橙色	外底面, わずかに上げ底。角のとれた平底。磨耗, 調整不明。
〃	180	〃	ST1 下層・床	〃	(12.5)	6.8	4.0	暗灰黄色	ほぼ丸底。外面, 叩き後ナデ。内面, ハケ。煤付着。
〃	181	〃	ST1	〃	13.1	5.9	4.0	浅黄橙色	磨耗, 調整不明瞭。外面, 叩き後ナデ。内面, ナデか。器壁, 厚い。残存率, 良好。
〃	182	〃	〃	〃	16.6	8.4		淡黄色	外面, ナデ。外底面, 強いナデ。外面, 亀裂。内面, ハケ。ほぼ完存。
〃	183	〃	〃	〃	10.0	4.5		にぶい黄橙色	内外面, 指頭圧痕。黒斑。残存率, 良好。
〃	184	〃	ST1 下層	〃	13.8	4.8		〃	外面, ナデ。内面, ハケ・ナデ。内面には環状に煤付着。被熱変色。残存率, 良好。
〃	185	〃	ST1	〃	13.8	6.5		浅黄橙色	磨耗, 調整不明。
〃	186	〃	ST1 中層	〃	17.4	6.1		黄橙色	磨耗, 調整不明。歪む。ほぼ完存。
〃	187	〃	ST1 下層・床	〃	16.0	6.8		橙色	底部, 一部つぶれる。外面, 叩き調整。磨耗, 調整不明瞭。ほぼ完存。
〃	188	〃	ST1 土器集中	〃	17.7	7.5		淡黄色	丸底。外底面, 強いナデ。外面, 叩き後ナデ。内面, ハケ。黒斑。被熱変色。ほぼ完存。
〃	189	〃	〃	〃	18.2	7.9		にぶい黄橙色	丸底。外底面, ケズリ。外面, 叩き後ナデ。内面, ハケ・ナデ・ミガキ。
〃	190	〃	ST1_P13	〃	16.6	6.6	4.1	橙色	外面, 叩き。上半, 叩き後ナデ。内面, ハケ・ナデ。ほぼ完存。
〃	191	〃	ST1_P3	〃	17.1	7.2	2.2	〃	底部, 突出, 強いナデ。外面, ナデ (ミガキか)。内面, 上半, ハケ。下半~底, ナデ (ミガキか)。黒斑。
〃	192	〃	ST1	〃	17.0	14.3		〃	口縁部, 叩き後指押さえ。外面, 叩き。内面, ハケ・ナデ。粘土紐接合痕跡。黒斑。ほぼ完存。
〃	193	〃	ST1 床	〃	(9.6)	12.7	4.0	〃	平底。腰部に最大径。外面, 叩き。内面, ナデ。外面に接合痕跡。黒斑。

挿 図 番 号	図 版 番 号	調査区	出土場所 (遺構)	器 種 器 形	法 量 (cm)			色 調 (外面)	特 徴
					口径	器高	底径		
I-41	194	I-4-1	ST1 上層・床	弥生 鉢	(36.7)	35.9		黄橙色	口縁部, 叩き後指押さえ。外面, 叩き, 底部, 叩き後ハケ。上胴部, 叩き後ハケ。内面, ハケ・ナデ。黒斑。
I-42	195	〃	ST1 下層	弥生 高杯	18.9	(5.9)		にぶい橙色	外面, ナデ。内面, ハケ。外底面, 脚部の剥離痕跡。被熱変色。
〃	196	〃	ST1 上層他	〃		(4.3)	17.8	橙色	4ヶ所に円孔を均等配置。外面, ミガキ。
〃	197	〃	ST1 土器集中	〃		(11.4)		〃	中実の脚部。深い杯部。磨耗, 調整不明。
〃	198	〃	ST1 下層・床	〃		(6.4)		にぶい橙色	磨耗, 調整不明瞭。外面, ミガキ。杯部内面, ミガキか。脚部内面, ナデか。
〃	199	〃	ST1 上層	〃		(6.8)		橙色	磨耗, 調整不明瞭。杯部内面・脚部内面, ナデか。杯部・脚部外面, ナデか。裾部外面, ハケか。
〃	200	〃	〃	〃		(6.5)		にぶい黄橙色	外面, タテハケ。ミガキか。内面, ナデ。脚部下方, 刺突文, 2条の沈線文, 刺突文。
〃	201	〃	ST1 下層・床	弥生 甕	(15.9)	12.6		赤橙色	外面, 叩き。上半, 叩き後ナデ。内面, ハケ。底部, 穿孔。被熱変色。黒斑。ほぼ完存。
〃	202	〃	ST1 下層	〃	15.8	11.9		橙色	外面, 叩き後ナデ。内面, ハケ・ナデ。底部, 穿孔。煤付着。歪む。ほぼ完存。
〃	203	〃	ST1 上層	弥生 支脚	5.8	7.1	8.0	にぶい黄橙色	器高の低いタイプ。中空。上下端, ひろがる。上面, 傾斜。手捏ね。被熱変色。
〃	204	〃	ST1 下層・床	〃	6.1	6.6	5.9	にぶい赤橙色	器高の低いタイプ。中空。上下端, ひろがる。上面, きつい傾斜。手捏ね。被熱変色。ほぼ完存。
〃	205	〃	ST1 中層	〃	7.2	5.3	7.4	にぶい橙色	器高の低いタイプ。上面, 傾斜。切れ込み。中実。手捏ね。被熱変色。残存率, 良好。
〃	206	〃	ST1 下層・床	〃		15.2	9.4	橙色	器高の高いタイプ。中空。板状の受け部。前傾。手捏ね。被熱変色。黒斑。残存率, 良好。
〃	207	〃	ST1 下層	〃		15.0	8.5	にぶい黄橙色	器高の高いタイプ。体部から受け部は2本付く。前傾。体部, 中実。外面は叩き。裾部内面はハケ。脚部, ナデ。被熱変色。完形。
〃	208	〃	ST1 下層・床	〃		14.6	10.1	橙色	器高の高いタイプ。中空。板状の受け部。前傾。叩き後ナデ。被熱変色。黒斑。残存率, 良好。
〃	209	〃	ST1 下層	弥生 ミニ	(5.2)	(6.7)		灰黄褐色	外面, 叩き後ナデ。口縁内面, ハケ。体部内面, ナデ。
I-43	210	〃	ST1 上層	庄内式 甕	13.2	(3.3)		黒褐色	口縁端部, つまみ上げ。外面, 叩き。内面, ケズリ。煤付着。
〃	211	〃	ST1 上層他	〃	13.3	(5.2)		〃	口縁端部, つまみ上げ。外面, 叩き。内面, ケズリ。煤付着。
〃	212	〃	ST1 下層他	〃	16.9	(5.1)		にぶい黄褐色	口縁端部, つまみ上げ。磨耗, 調整不明瞭。外面, 叩き。
〃	213	〃	〃	〃		(6.8)	2.3	黒色	ほぼ丸底。外面, 叩き後ハケ。内面, ケズリ・ナデ。煤付着。
〃	214	〃	ST1 土器集中	弥生 鉢	27.9	(9.3)		灰黄褐色	体部外面, 叩き, 内面, ケズリ。口縁部, ハケ。搬入品。
I-46	217	〃	SK1	弥生 壺	15.2	(7.3)		橙色	口唇部, 面取り。櫛描波状文。外面, タテハケ。内面, ナデ・ハケ。
〃	218	〃	〃	弥生 甕	13.0	(8.7)		灰黄色	外面, 叩き。口縁部, 叩き後指押さえ。内面, ハケ・ナデ。
〃	219	〃	〃	弥生 鉢	13.8	7.5		橙色	磨耗, 調整不明。被熱変色。ほぼ完存。
I-48	220	〃	SR1 下層	弥生 壺	12.2	(4.4)		〃	貼付口縁。外面, 刻目。内外面, ナデか。

挿図 番号	図版 番号	調査区	出土場所 (遺構)	器種 器形	法量 (cm)			色調 (外面)	特徴
					口径	器高	底径		
I-48	221	I-4-1	SR1 上層	弥生 甕	18.0	(6.4)		にぶい褐色	貼付口縁。口唇, 面取り。内外面, ナデか。被熱変色。
〃	222	〃	SR1 中層	弥生 底部		(8.1)	6.2	にぶい黄橙色	平底。磨耗, 調整不明瞭。内外面ともナデか。
〃	223	〃	SR1 最下層	〃		(6.3)	4.2	にぶい褐色	底部, 厚い。底端部, 突出。外面, ハケ。内面, ナデ。搬入品か。
〃	224	〃	SR1 下層	弥生 脚部		(5.6)	6.9	にぶい橙色	2個1対の円孔を2ヶ所に配置。外面, ミガキ。内面, ナデ。煤附着。搬入品か。
I-49	228	〃	遺構外	弥生 支脚	(5.2)	(6.8)	(6.6)	浅黄色	器高の低いタイプ。上半, 中実。下半, 直径約1.5cmの孔。上面, 凹み, 傾斜。磨耗のため, 調整等不明瞭。ナデ。
I-51	232	I-4-2	SD3 下・最下層	弥生 壺	8.8	(15.1)		にぶい黄橙色	櫛描簾状文・櫛描波状文・櫛描直線文。外面, ハケ。内面, ナデ。
〃	233	〃	SD3 下層	〃	21.8	(2.4)		浅黄橙色	口縁部内面, 2条の扁平な刻目突帯。円孔。口唇部, 凹面状。下端, 刻目。外面, ハケ・ナデ。内面, ナデ。
〃	234	〃	SD3 II層	〃	9.8	(3.5)		にぶい黄橙色	貼付口縁。磨耗, 調整不明。砂粒を非常に多く含む胎土。
〃	235	〃	SD3 最下層	弥生 甕		(3.5)		明褐灰色	貼付口縁。下端, 刻目。磨耗, 調整等不明瞭。仁淀川流域からの搬入品。
〃	236	〃	〃	弥生 底部		(7.3)	4.8	橙色	平底。磨耗, 調整不明瞭。内面, ケズリか。
〃	237	〃	SD3 II・最下層	弥生 鉢	20.8	14.2	8.1	にぶい黄橙色	器壁が薄く大きめの平底。口縁部, 外反。磨耗, 調整等不明瞭。
I-52	240	〃	SD10 ・SD16	弥生 壺	10.3	(5.7)		橙色	頸部, 短く直立。貼付口縁。磨耗, 調整等不明。
〃	241	〃	SD10	〃	21.6	(5.0)		〃	口唇部, 凹面状。上下端, 刻目。口縁部内面, 扁平な刻目突帯。頸部外面, ヘラ描沈線文・扁平な刻目突帯。口縁部, 6孔1単位。内外面, ナデ。
〃	242	〃	SD10 上層	〃		(6.6)		〃	4条の突帯・櫛描簾状文。磨耗, 調整等不明瞭。
〃	243	〃	SD10	〃		(16.0)		浅黄橙色	ヘラ描き直線文, 双線による直線文・半円弧文, 穿孔を施した粘土を貼付。外面, ミガキ。内面, ナデ。
〃	244	〃	〃	弥生 底部		(4.2)	9.6	〃	大型壺。磨耗, 調整等不明瞭。
I-53	245	〃	SD16 最下層	弥生 壺		(7.5)		にぶい橙色	櫛描波状文・櫛描簾状文。ベンガラ塗布か。
〃	246	〃	SD16 中層	〃		(34.0)	7.0	橙色	平底。長頸。櫛描波状文・4条の断面三角形突帯。外面, ミガキか。内面, ナデ。被熱変色。
〃	247	〃	SD16	弥生 甕	15.7	(16.0)		〃	口唇部, 面取り。外面口縁部, ハケ。体部, 叩き。内面口縁から上胴部, ハケ。下半, ナデ。肩部内面, 粘土接合痕。被熱変色。煤附着。

出土遺物(石器)観察表

挿図 番号	図版 番号	調査区	出土場所 (遺構)	器種 器形	法量 (cm/g)				石 材	特 徴
					全長	全幅	全厚	重量		
I-10	36	I-2-0-1	ST1	石鏃	1.8	1.8	0.3	0.5	サヌカイト	凹基式打製石鏃。主要剥離面を残す。縁辺, 調整剥離。完存。
I-12	37	〃	SK1	石包丁	9.5	5.3	1.0	61.0	粘板岩	表面は主要剥離面を大きく残す。裏面は自然面。刃部, 磨く。片刃。短辺, 紐掛け用の抉り。完存。
I-15	46	〃	SK7	石斧	13.1	5.2	2.4	(2540)	緑色片岩	両面とも自然面を多く残す。両刃。刃部, 欠損。基部付近の側面, 凹む。
I-16	48	〃	SK9	石槍	9.3	2.9	1.2	(48.0)	サヌカイト	両側面, 敲打により鋭角に。両端, 欠損。
I-19	71	〃	SK10	石鏃	3.7	1.4	0.4	1.6	〃	有茎式打製石鏃。主要剥離面を残す。縁辺部, 調整剥離。完存。
I-20	72	〃	SK12	〃	2.1	1.4	0.2	0.4	〃	凹基式打製石鏃。主要剥離面を残す。縁辺部, 調整剥離。完存。
I-21	73	〃	SD6	〃	2.6	1.7	0.3	1.1	〃	凹基式打製石鏃。主要剥離面を残す。縁辺部, 調整剥離。完存。
I-23	80	〃	遺構外	石斧	(8.8)	6.7	3.3	(207.0)	緑色岩	両刃。部分的に, 自然面・敲打痕跡。片減り。欠損。
〃	81	〃	〃	〃	11.9	4.2	3.3	(227.0)	〃	両刃の伐採斧。側面, 成形のための敲打痕跡。基部付近の側面, 固定用にわずかに凹む。一部, 欠損。
〃	82	〃	〃	〃	6.6	2.6	0.6	(14.5)	硬質砂岩	基部付近, 幅が狭くなり, その部位の側面は面取りされない。大部分が欠損。
〃	83	〃	〃	石鏃	(3.4)	1.5	0.3	(2.0)	サヌカイト	長い二等辺三角形。凹基式。主要な剥離面を残す。縁辺, 調整剥離。ほぼ完存。
〃	84	〃	〃	〃	2.2	1.4	0.2	(1.0)	〃	凹基式。主要な剥離面を残す。縁辺, 調整剥離。一部, 欠損。風化。
I-25	85	I-2-2	SD3	〃	2.3	1.5	0.5	1.2	〃	打製石鏃。平基式。左右非対称。調整剥離。未成品か。
I-26	88	〃	SR1	石剣	(6.5)	3.5	1.6	(32.2)	頁岩	欠損。先端部はやや丸みを帯びる。鑄は明瞭である。横断面は菱形。
I-27	89	〃	遺構外	石鏃	2.5	2.0	0.4	1.5	赤色チャート	打製石鏃。凹基式。主要剥離面を残す。調整剥離。ほぼ完存。
I-32	100	I-3	SR2 下層	石包丁	11.0	5.3	0.8	56.7	頁岩	磨製石包丁。両面とも研磨を施すが, 剥離による段は残る。片刃。片面からの穿孔。ほぼ完存。
〃	101	〃	〃	石鏃	2.7	1.7	0.4	(1.5)	サヌカイト	打製石鏃。凹基式。両面とも剥離面を残す。縁辺の調整剥離は少ない。左右非対称。ほぼ完存。
〃	102	〃	〃	〃	2.5	1.6	0.4	1.1	〃	打製石鏃。凹基式。両面とも剥離面を残す。縁辺, 調整剥離。完存。
I-44	215	I-4-1	ST1 上層	石包丁	8.9	6.1	2.0	120.6	砂岩	表面, 主要剥離面を残す。裏面, 自然面。片刃。両端に紐掛け用の抉り。完形。
〃	216	〃	ST1 下層・床	台石	36.9	27.9	12.4	14.6 kg	〃	弱い敲打痕。側面, 平滑。
I-48	225	〃	SR1 下層	石斧	(5.1)	3.5	1.0	(33.0)	蛇紋岩	扁平片刃石斧。先端, 欠損。基部から先端に幅がひろくなる。横断面形は中央部が膨らむ長方形。
〃	226	〃	SR1 中層	不明	10.0	3.4	1.4	55.8	頁岩	表面, 主要剥離面を残す。裏面, 自然面を大きく残す。両端, 抉り。先端, 片刃状。
〃	227	〃	〃	石鏃	(2.0)	1.5	0.3	(0.5)	サヌカイト	打製石鏃。凹基式。両面とも, 主要剥離面を残す。縁辺部, 調整剥離。ほぼ完存。
I-49	229	〃	遺構外	〃	(2.3)	1.6	0.3	(1.0)	〃	打製石鏃。凹基式。両面とも主要剥離面を残す。縁辺部, 調整加工。先端部, 欠損。ほぼ完存。

挿図 番号	図版 番号	調査区	出土場所 (遺構)	器種 器形	法量 (cm/g)				石 材	特 徴
					全長	全幅	全厚	重量		
I-49	230	I-4-1	遺構外	石鏃	2.3	1.4	0.3	(0.6)	サヌカイト	打製石鏃。凹基式。両面とも主要剥離面を残す。縁辺部、調整加工。ほぼ完存。
〃	231	〃	〃	〃	(2.8)	1.7	0.3	(1.7)	〃	打製石鏃。凹基式。両面とも主要剥離面を残す。縁辺部、調整加工。先端部、欠損。ほぼ完存。
I-51	238	I-4-2	SD3 下層	石斧	12.4	5.8	3.4	418.0	緑色片岩	伐採斧。両刃。棒状の川原石を成形。完存。
〃	239	〃	SD3 中層	環状 石斧	(10.5)	(4.0)	(1.6)	(94.0)	頁岩	磨製。一部、自然面。鋭い両刃。両面から敲打等により穿孔。孔の側面は磨滅。欠損。

出土遺物(土製品)観察表

挿図 番号	図版 番号	調査区	出土場所 (遺構)	器種 器形	法量 (cm/g)				色 調 (外面)	特 徴
					全長	全幅	全厚	重量		
I-31	98	I-3	SR1 最下層	円盤	4.6	4.3	0.6	13.3	橙色	土器片を楕円形に加工。磨耗、調整等不明。紡錘車の未成品か。

## 2. Ⅱ-1・2区他

### 1. 調査区の概要

検出遺構は、Ⅱ-2区で中世の溝で区画された屋敷地跡を検出した以外は、近世以降のものが多い。古代の明確な遺構は当区を縦断する溝跡以外は限定的で、建物等は柱穴列1組のみ、少数の土坑は後世の遺構による破壊部分があった。古墳時代に位置付けられる遺構はない。

#### ① Ⅱ-1区

##### 1. 小区の概要と基本層準

検出遺構は近世、近現代を主体に、古代の溝跡等がある。2区北壁のSZ群は、壁際トレンチの南側で検出された墓坑群と同様の遺構群の南端が現れたものとみられる。

##### 2. 遺構と遺物

###### (1) 古代

SD1は、後述するⅡ区を縦断する溝跡の一部とみられるが、当区での出土遺物は僅少で、摩耗した須恵器片が出土した。SD2は当区北東隅でSD1に切られることが時期の指標となる。古代Ⅰ-6期(8世紀末～9世紀初。P148参照。以下同じ。)頃の須恵器蓋片が出土した。断面はV字或いはそれに近い形状である。調査前東西道(以下旧道)北側のⅡ-2-3区でも検出された。

###### (2) 近世

図示した土坑墓群の他、各種土坑、性格不明遺構、ピット群の一部または多くが近世に属するとみられるが、出土遺物の少なさおよび状態、先行期の遺物の混入等により、時期の特定が困難なものが多い。

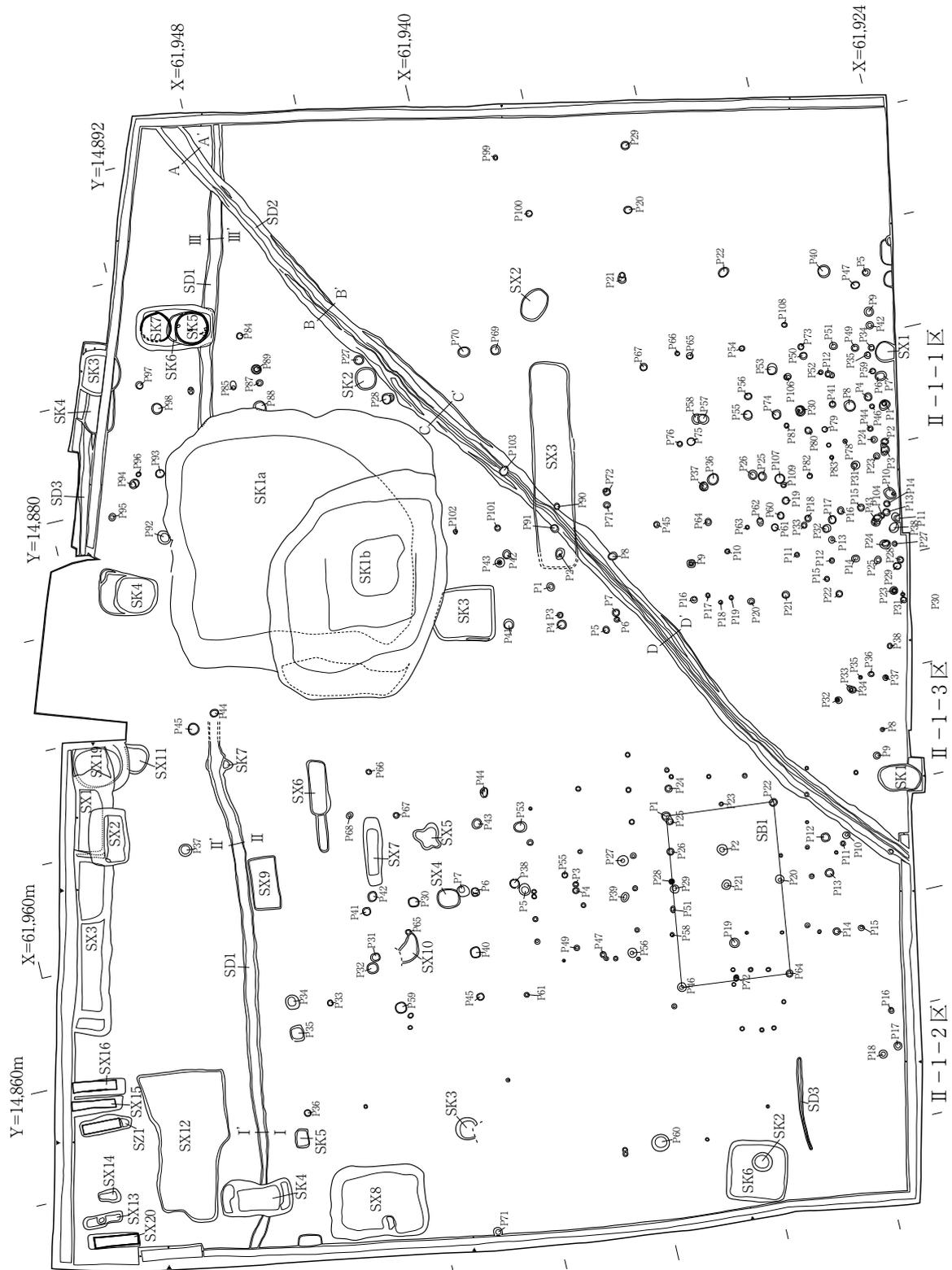
###### (3) 近現代

SK1では、遺物の多くがSK1bから出土している。図表にあげたものの他、樹脂製品(歯ブラシ数点、櫛含む)、金属器類コンテナ2箱、ホーロー容器3点、地下足袋底約10点、瓦、碗皿主体に播鉢、火具、径数十cmの染付大皿1点、その他の各種焼き物、多様なガラス瓶類が出土している。遺物の製造時期は戦前～戦中が中心で、1950年代とみられるものを僅少含む。遺物様相に、Ⅱ-2-2区SX1・2との共通点がある。総量はSK1bがコンテナ13箱、SK1aで取上げられたものは数片である。

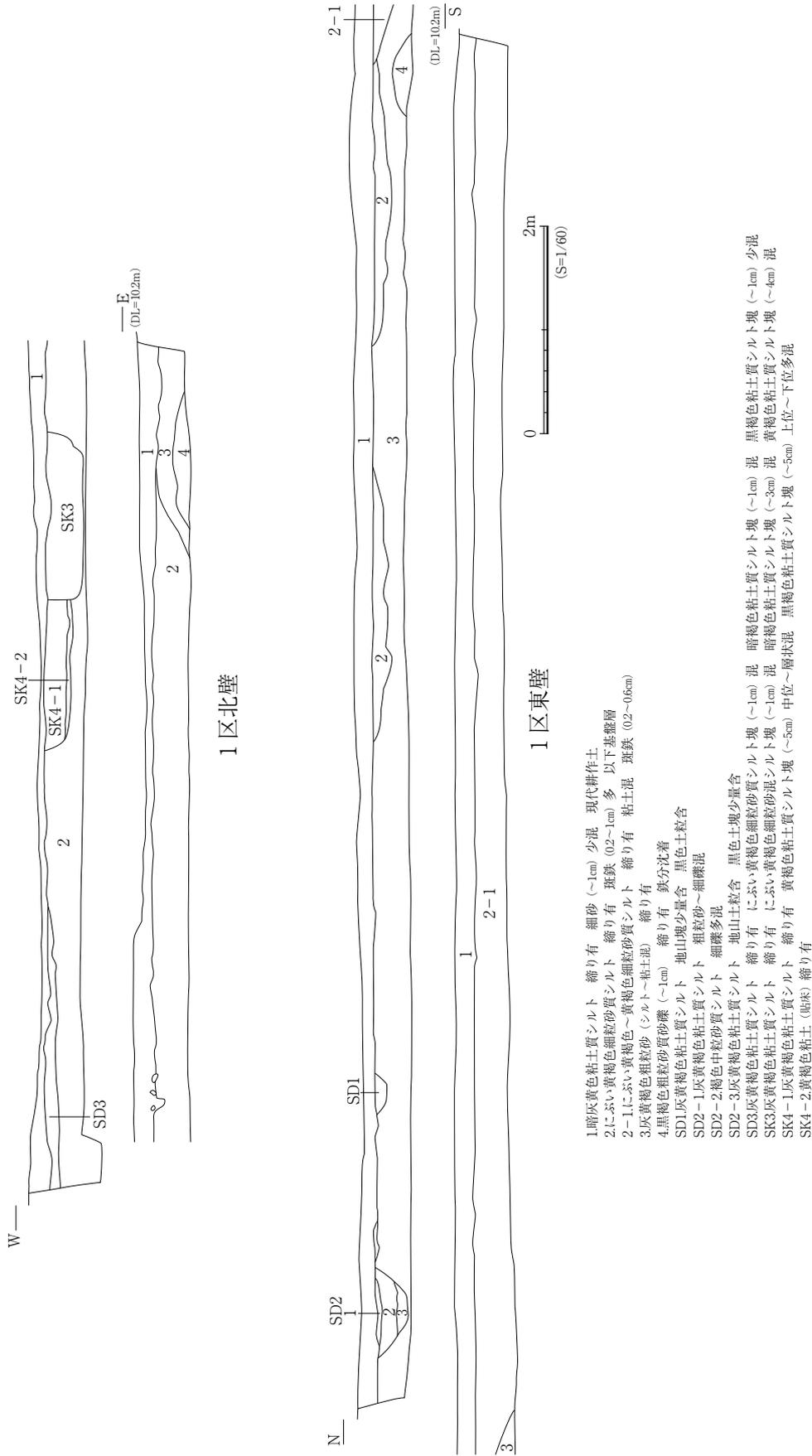
以上の様相と埋土の状態から、SK1aがかなり埋まった後に廃棄土坑としたのがSK1bであり、SK1aの用途については規模・形状と出土遺物の時期から防空壕の可能性も考えられる。

###### (4) その他の遺構

上記以外のSK、SX、Pからの出土遺物は、近世～近代陶磁器を中心に、1～数片の出土がほとんどである。数片の弥生土器や古代～中世の土師質土器、貿易陶磁器のみが出土している遺構もあるが、時期は確定し難い。

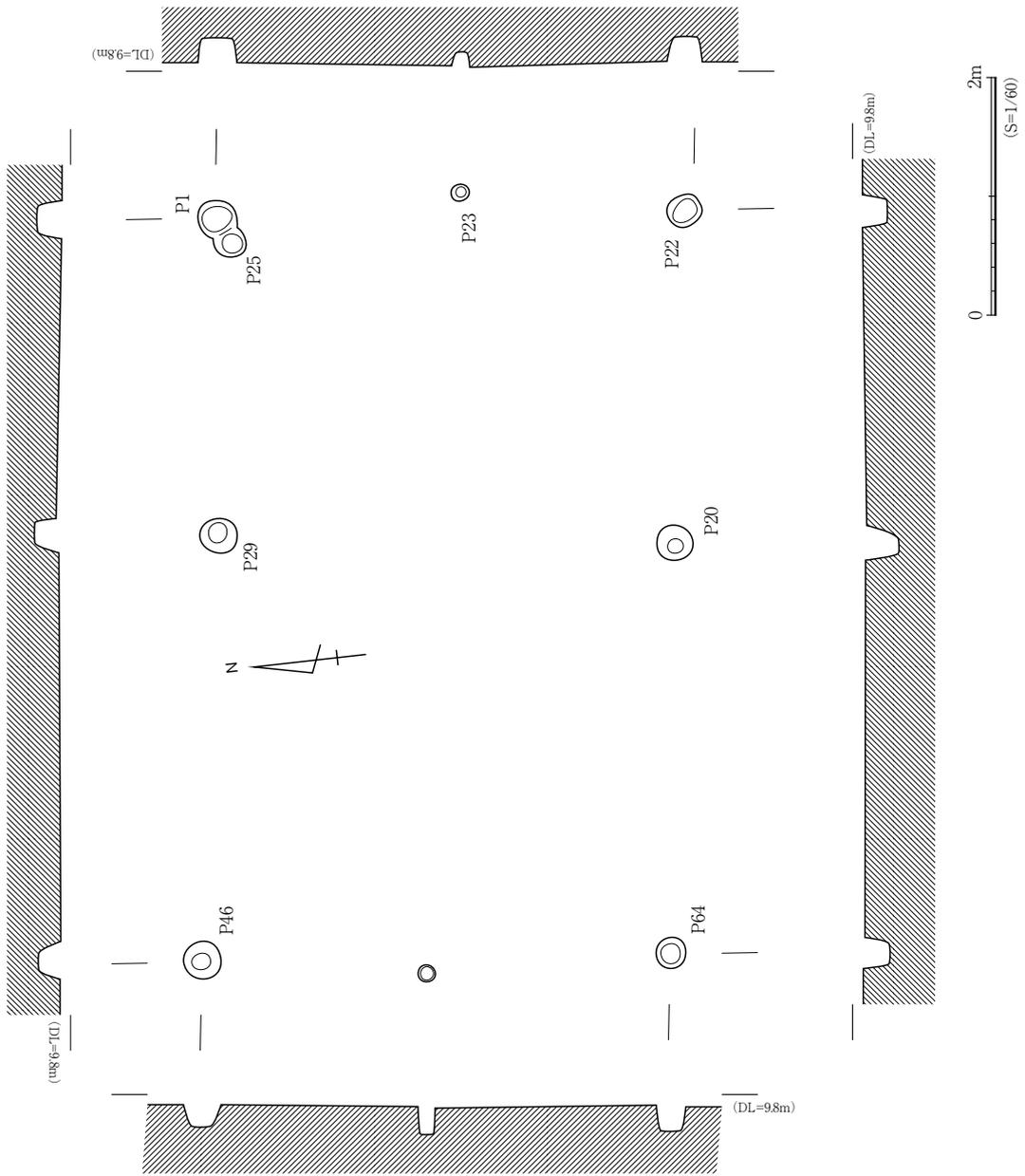


図II-1 1区遺構配置図

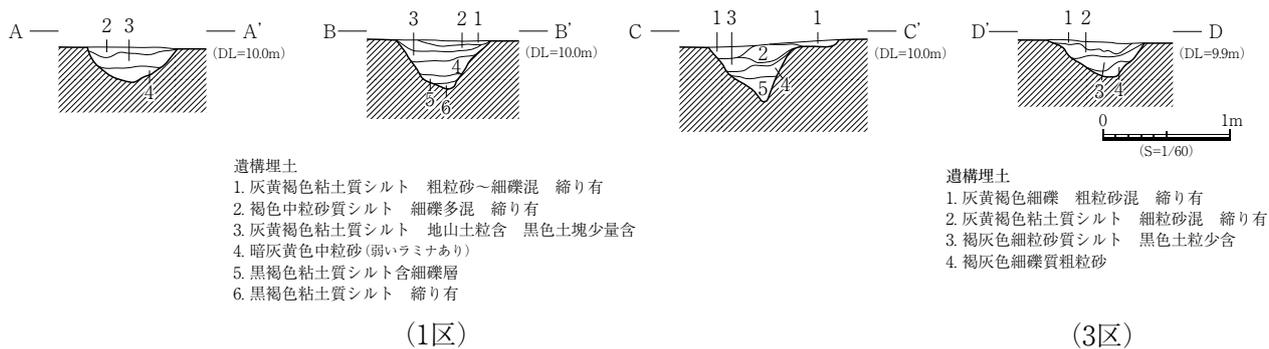


図II-2 1-1-1区基本層準図





图II-4 1-2区 SBI 平面断面图



図Ⅱ-5 1区 SD2断面図

## ②Ⅱ-2-1・4・6区

### 1. 小区の概要と基本層準

方形に区画された屋敷地が中心となる調査区である。溝跡で囲まれた中に建物跡や柱穴列、ピット群が検出された。以下、当3小区を「調査区」と記す。

### 2. 遺構と遺物

遺構規模や出土遺物の内容は後掲の遺構計測表にまとめた。

#### (1)建物跡

調査区南部のピット密度が高い部分では、建物跡を正確に抽出して復元することが難しい。ピットからの遺物は、下記および表4のごとく古代～近世以降のものがある。柱痕を観察できたものが少ない。

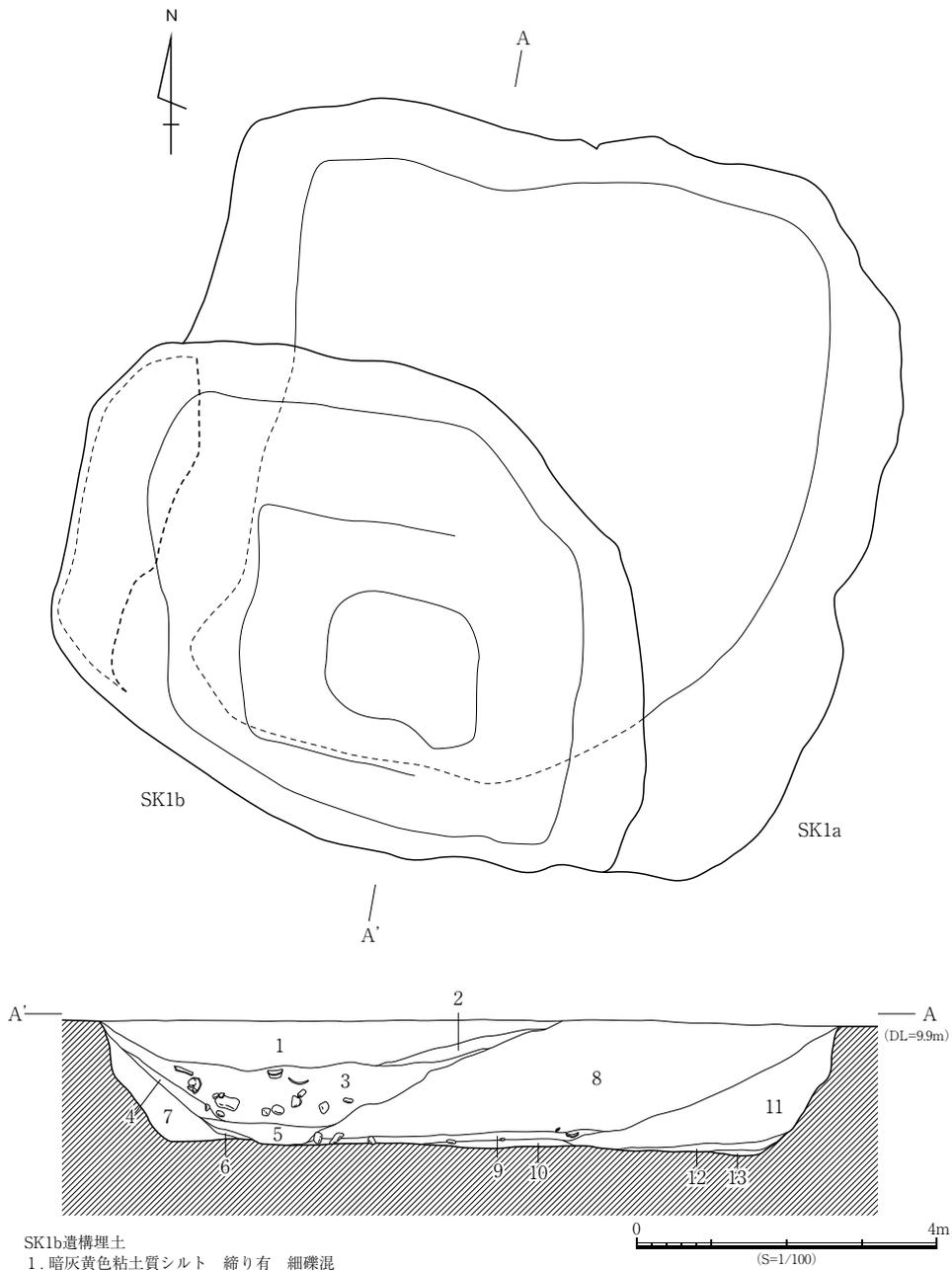
SB5は瓦質鍋が出土したピットを含む。

SB6は土師質小皿の埋納がみられたが、瓦質鍋が出土したP284の帰属に問題を含む。

SB7～9は重複し、調査区隅にあるため全容が不明瞭である。SB10のP212からは近世陶器、P186からは瓦質鍋片が出土している。

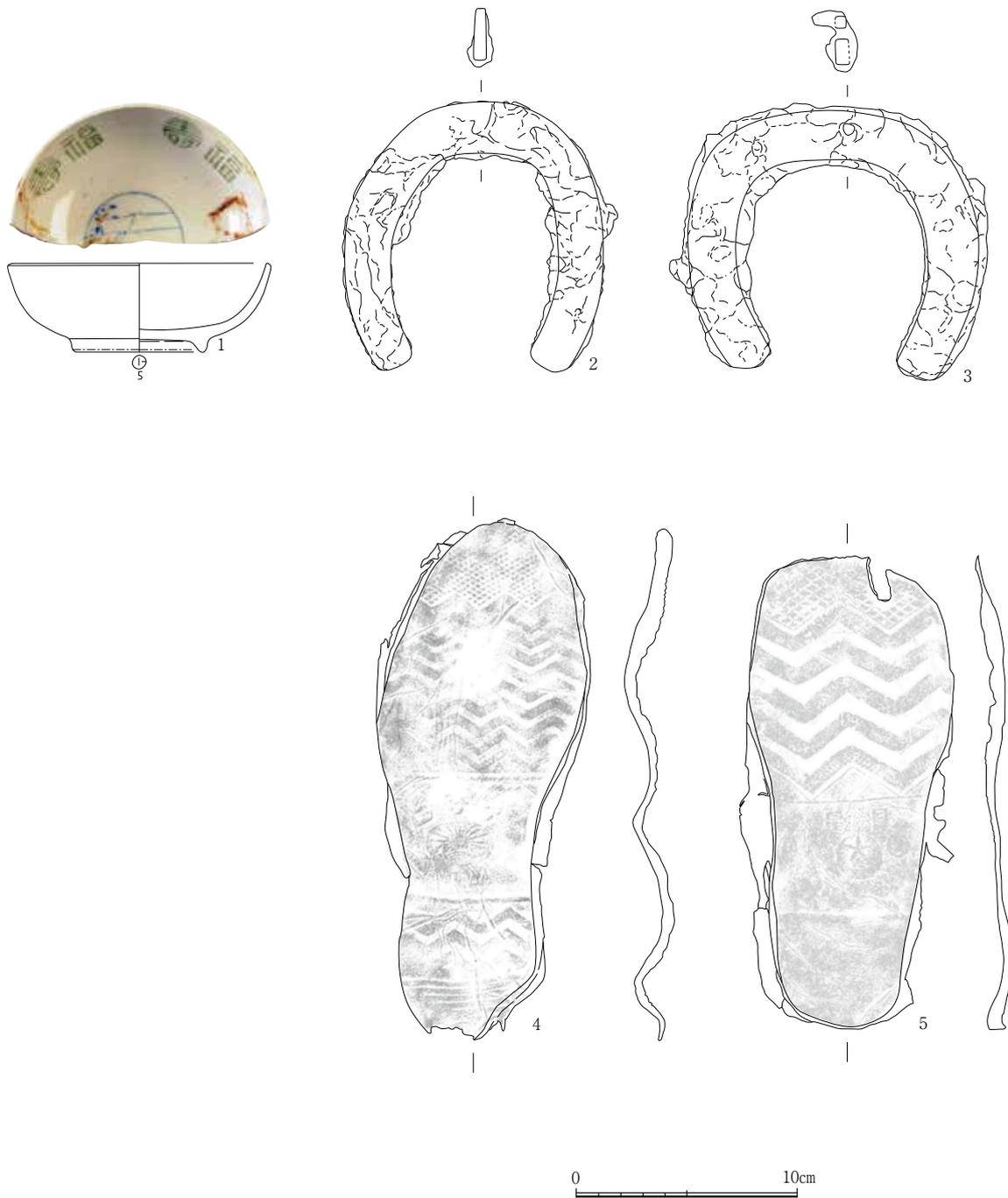
SB15は桁行4間分を抽出したが、東側へ延びる可能性もある。北東隅のP179から近世以降とみられる青磁片が出土している。

SB19は長軸28～42、厚さ10～17cmの石を掘形内に設置しており、礎石建物とみられる。建物の主軸方位は、図および表9から看取できるとおり2.2～6.6°、9～11°、12.2～14.4°、15.9～17.6°の大略4群を認識できる。各群をここでA～D群と仮称すると、古代前期の可能性が高いSB1やSA1がD群、瓦質土器鍋や土師質土器小皿等中世の遺物のみが出土した建物跡がB・C・D群、礎石建物跡SB19がA群、近世陶磁器が出土した掘立柱建物跡がB・C群に属する。B・C・D群はSD1と同調的であるが、その他の建物跡もあわせてみた場合、出土遺物が少ないことと、既述したように柱穴の構成に検討の余地を残すことから、建物跡の共存関係や企画方位と時期の関係について詳細に述べることができない。



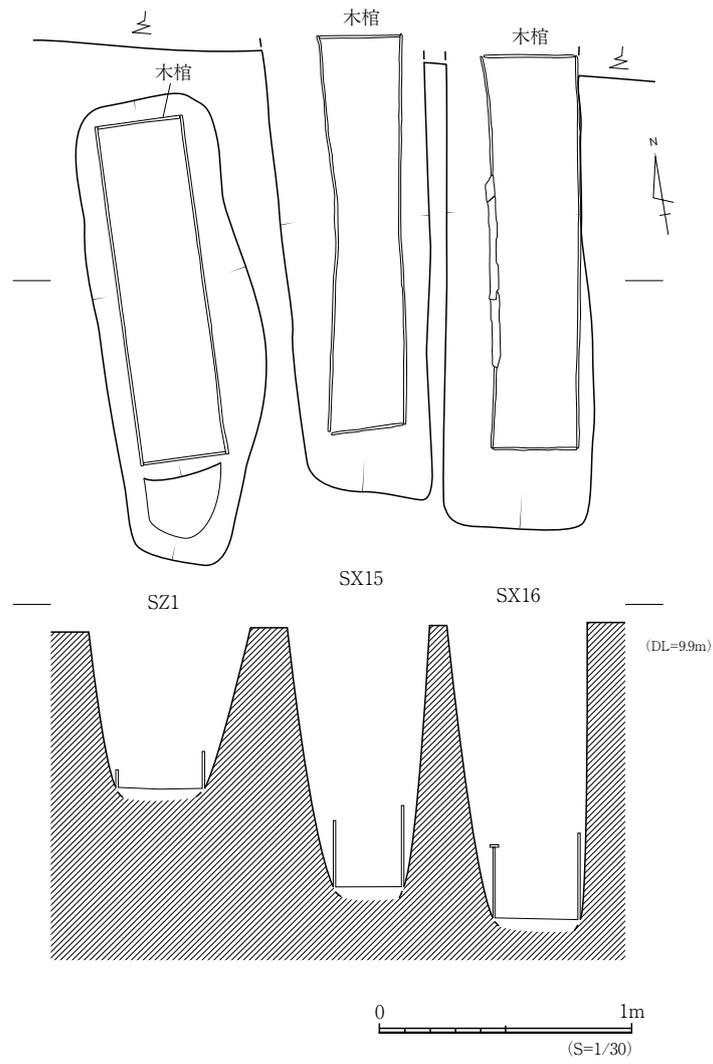
- SK1b遺構埋土
1. 暗灰黄色粘土質シルト 締り有 細礫混
  2. 暗灰黄色粘土質シルト 締り有 細礫多混地山塊含
  3. 黄灰色シルト質粘土～粘土質シルト 中～大礫多混
  4. 黄灰色粘土 締り有 細粒砂含
  5. 黄灰色粘土
  6. 黄灰色中粒砂
- SK1a遺構埋土
7. 灰黄色粘土質シルト 地山塊含
  8. 黄灰色粘土と黒色土の塊を少量含地山の塊
  9. 黄灰色粘土質シルト～シルト質粘土(シルト～粘土の相互層) 地山塊含
  10. 暗オリブ灰色粗粒砂
  11. 褐色粘土質シルト 中～大礫多混
  12. 暗オリブ灰色粗粒砂質シルト 植物片含
  13. 灰黄色シルト質細粒砂

図II-6 1-1区 SK1平断面図



図Ⅱ-7 1-1区 SK1b出土遺物

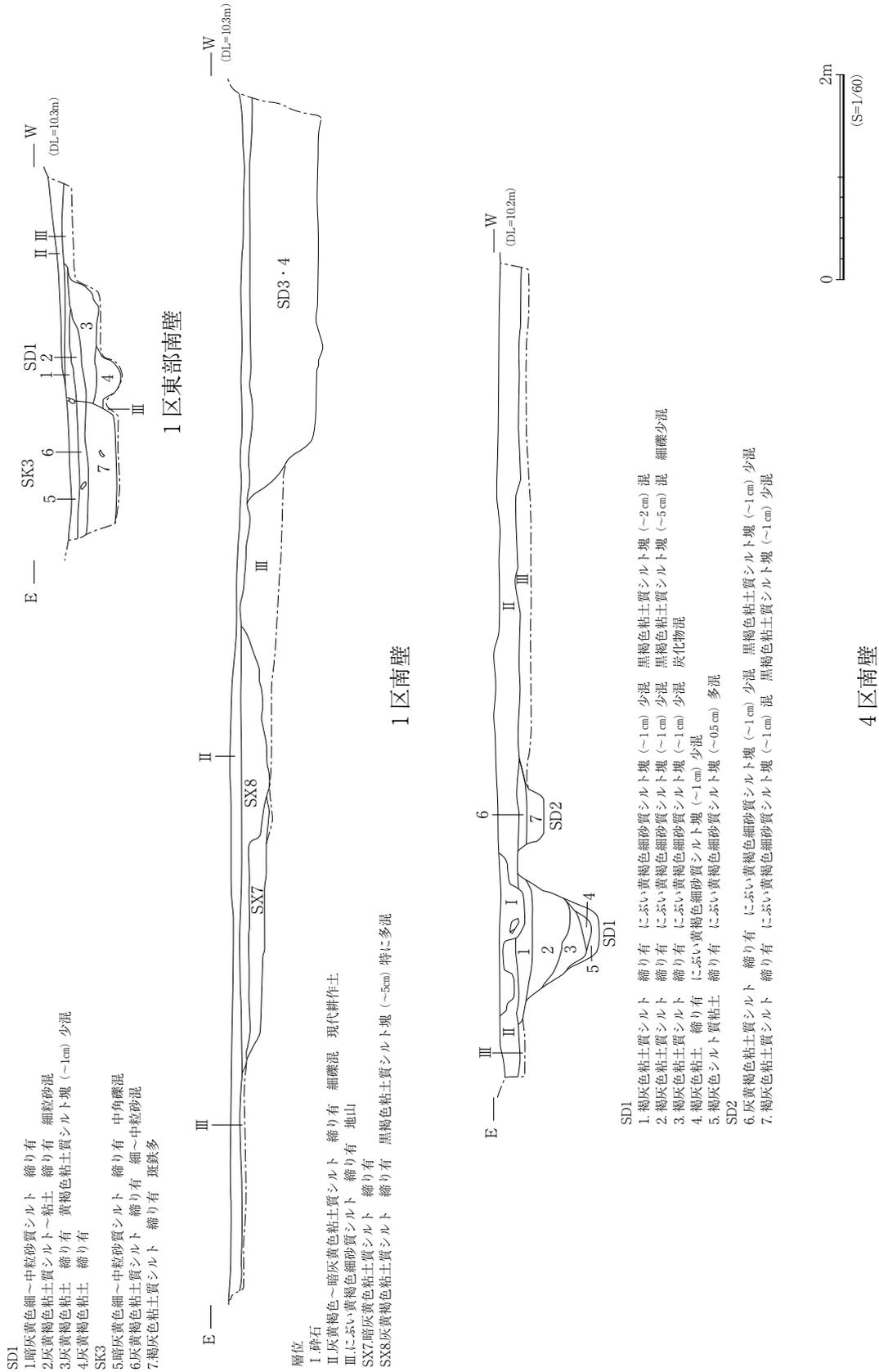
※器種等の特徴について、実測図に適宜略字を添えた。「青」=青磁、「白」=白磁、「緑」=緑釉、「灰」=灰釉、「黒」=黒色土器、「赤」=赤彩、「ス」=須恵器、「瓦」=瓦質。但し添字は選択的に行い、網羅していない。Ⅲ-3-6・7・Ⅲ-4E・Ⅳ-3・4・8区もこれに準ず。



图II-8 1-2区 SX15·16, SZ1平断面图



图 II-9 环濠屋敷区 遺構配置图

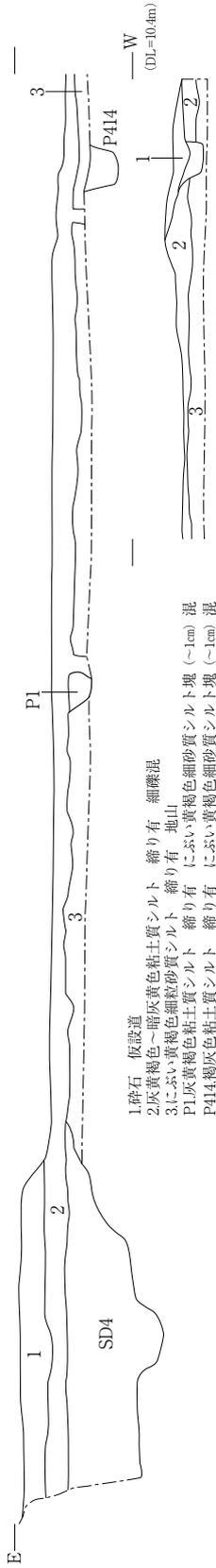


- SD1  
 1.暗灰黄色細～中粒砂質シルト 縮り有 細粒砂混  
 2.灰黄褐色粘土質シルト～粘土 縮り有 細粒砂混  
 3.灰黄褐色粘土 縮り有 黄褐色粘土質シルト塊 (~1cm) 少混  
 4.灰黄褐色粘土 縮り有
- SK3  
 5.暗灰黄色細～中粒砂質シルト 縮り有 中角礫混  
 6.灰黄褐色粘土質シルト 縮り有 細～中粒砂混  
 7.褐灰色粘土質シルト 縮り有 珪鉄多

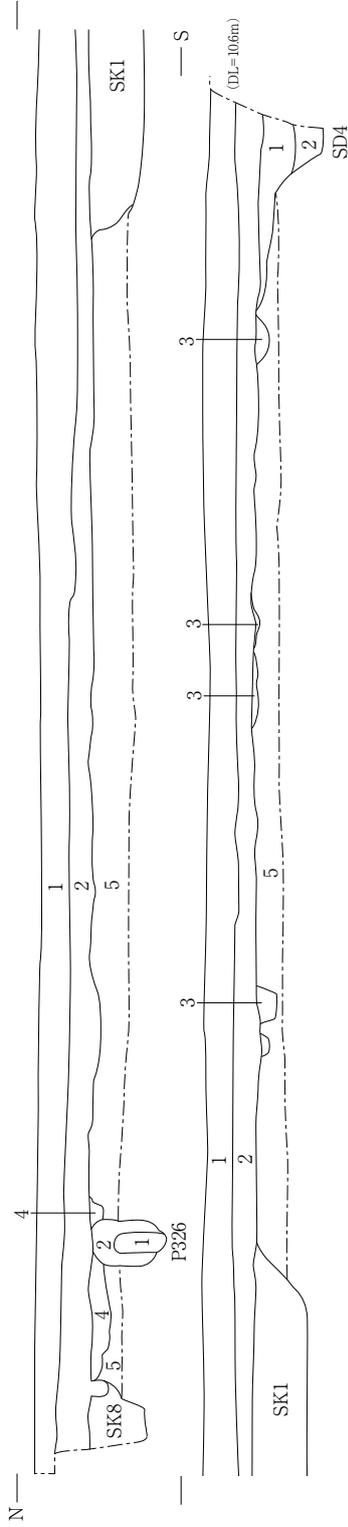
- 層位  
 I.礫石  
 II.灰黄褐色～暗灰黄色粘土質シルト 縮り有 細礫混 現代耕作土  
 III.にぶい、黄褐色細砂質シルト 縮り有 地山  
 SX7.暗灰黄色粘土質シルト 縮り有  
 SX8.灰黄褐色粘土質シルト塊 (~5cm) 特に多混

- SD1  
 1.褐灰色粘土質シルト 縮り有 にぶい、黄褐色細砂質シルト塊 (~1cm) 少混 黒褐色粘土質シルト塊 (~2cm) 混  
 2.褐灰色粘土質シルト 縮り有 にぶい、黄褐色細砂質シルト塊 (~1cm) 少混 黒褐色粘土質シルト塊 (~5cm) 混 細礫少混  
 3.褐灰色粘土質シルト 縮り有 にぶい、黄褐色細砂質シルト塊 (~1cm) 少混 炭化物混  
 4.褐灰色粘土 縮り有 にぶい、黄褐色細砂質シルト塊 (~1cm) 少混  
 5.褐灰色シルト質粘土 縮り有 にぶい、黄褐色細砂質シルト塊 (~0.5cm) 多混
- SD2  
 6.灰黄褐色粘土質シルト 縮り有 にぶい、黄褐色細砂質シルト塊 (~1cm) 少混 黒褐色粘土質シルト塊 (~1cm) 少混  
 7.褐灰色粘土質シルト 縮り有 にぶい、黄褐色細砂質シルト塊 (~1cm) 混 黒褐色粘土質シルト塊 (~1cm) 少混

図II-10 2区基本層準図1



6区南壁



6区東壁



図II-11 2区基本層準図2

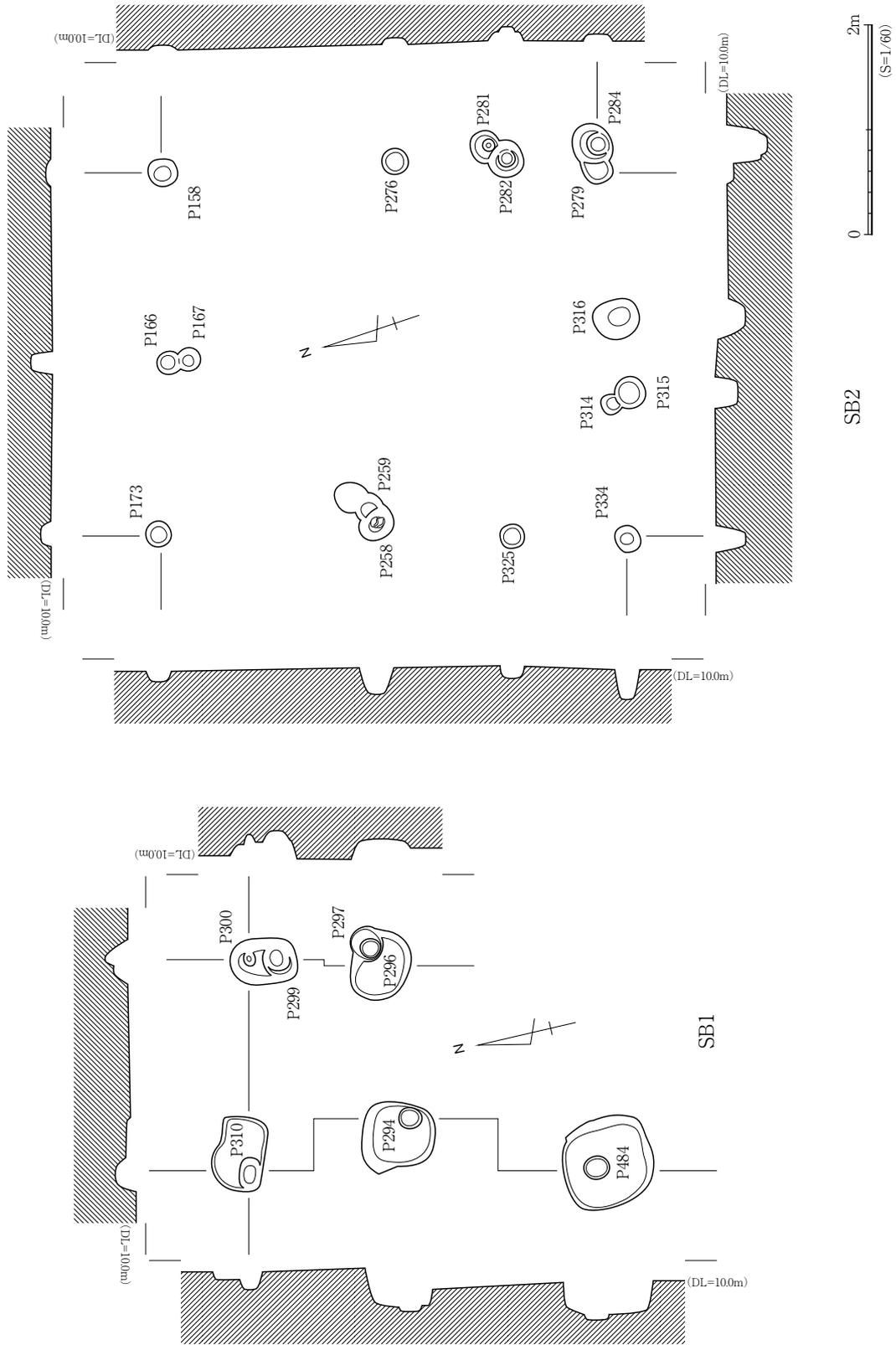


图 II-12 2区 SB1·2 平面断面图



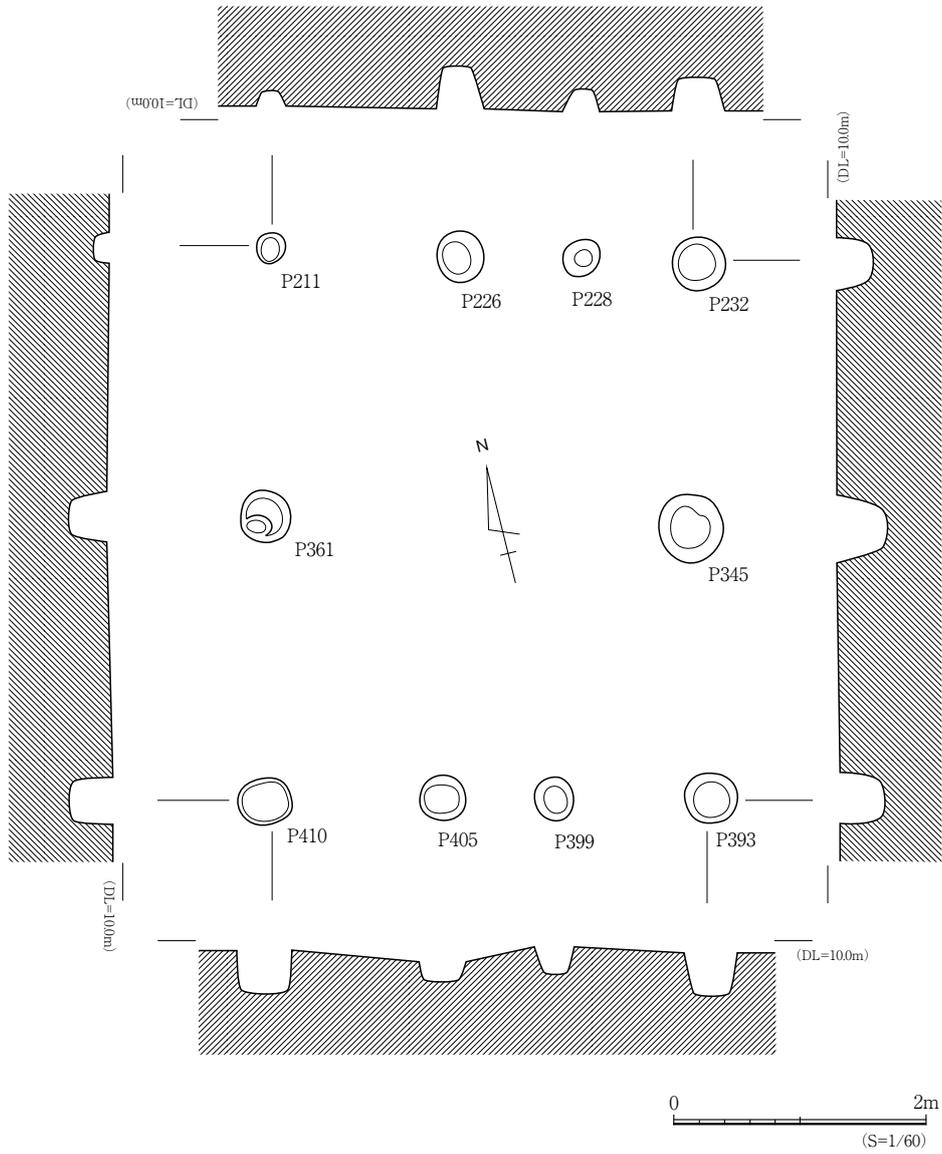


图 II-14 2区 SB5 平断面图

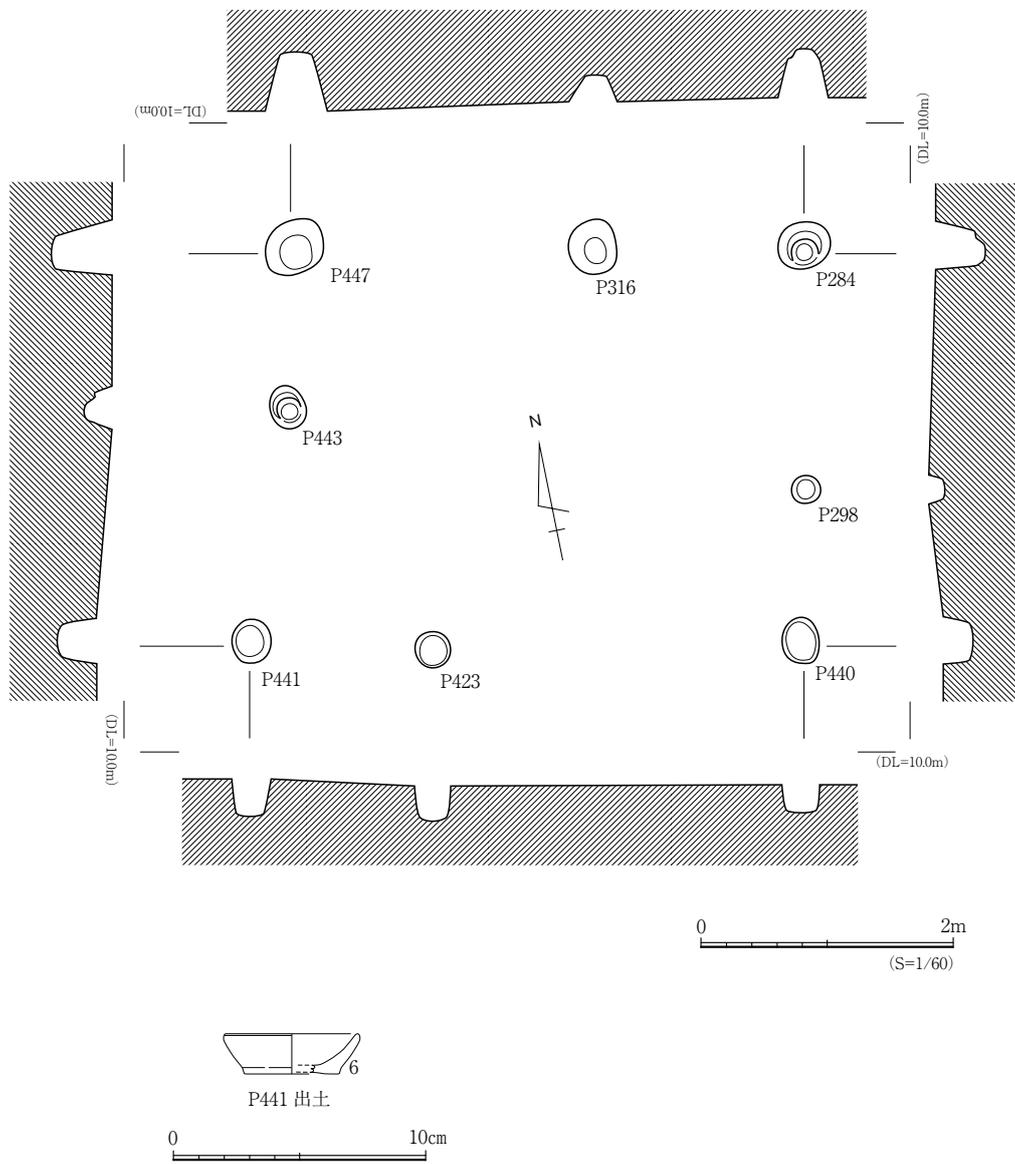
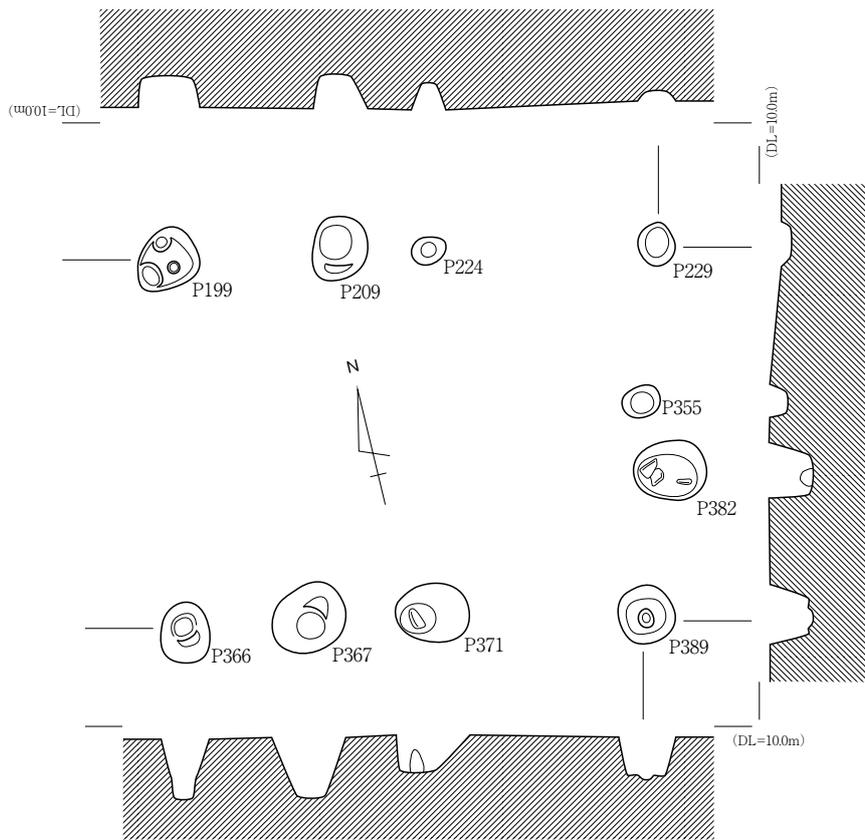
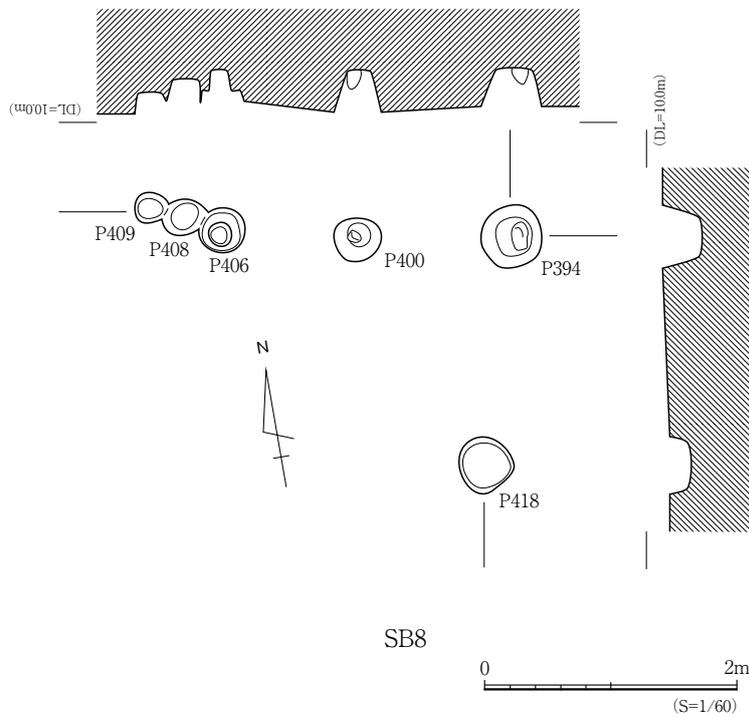


图 II - 15 2区 SB6

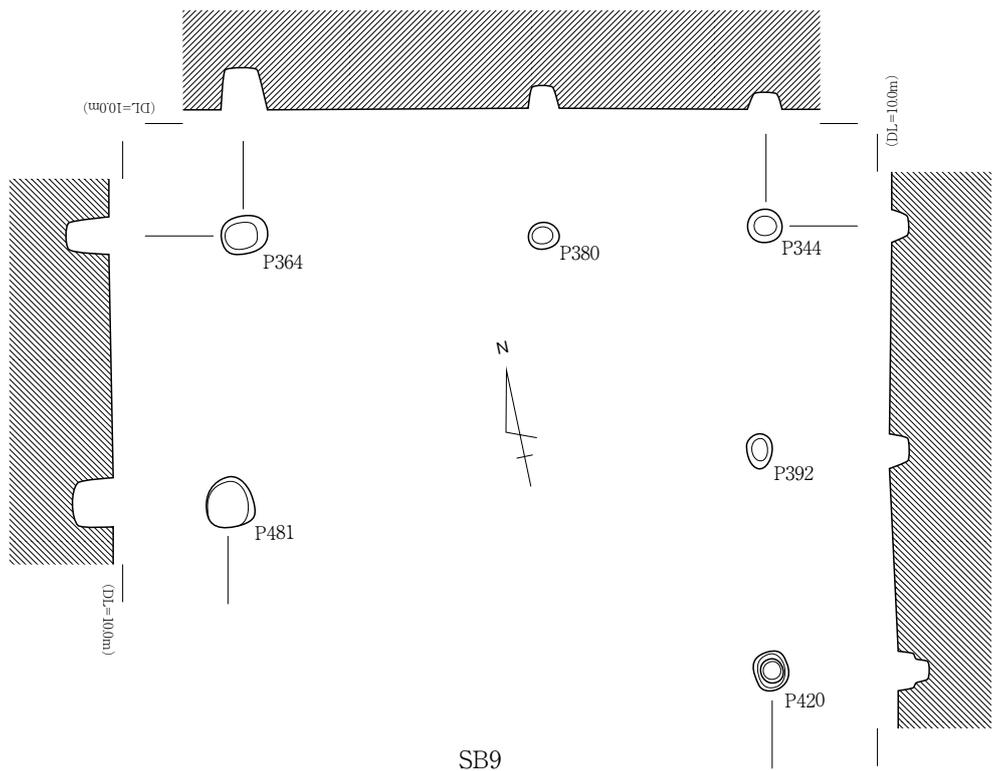


SB7

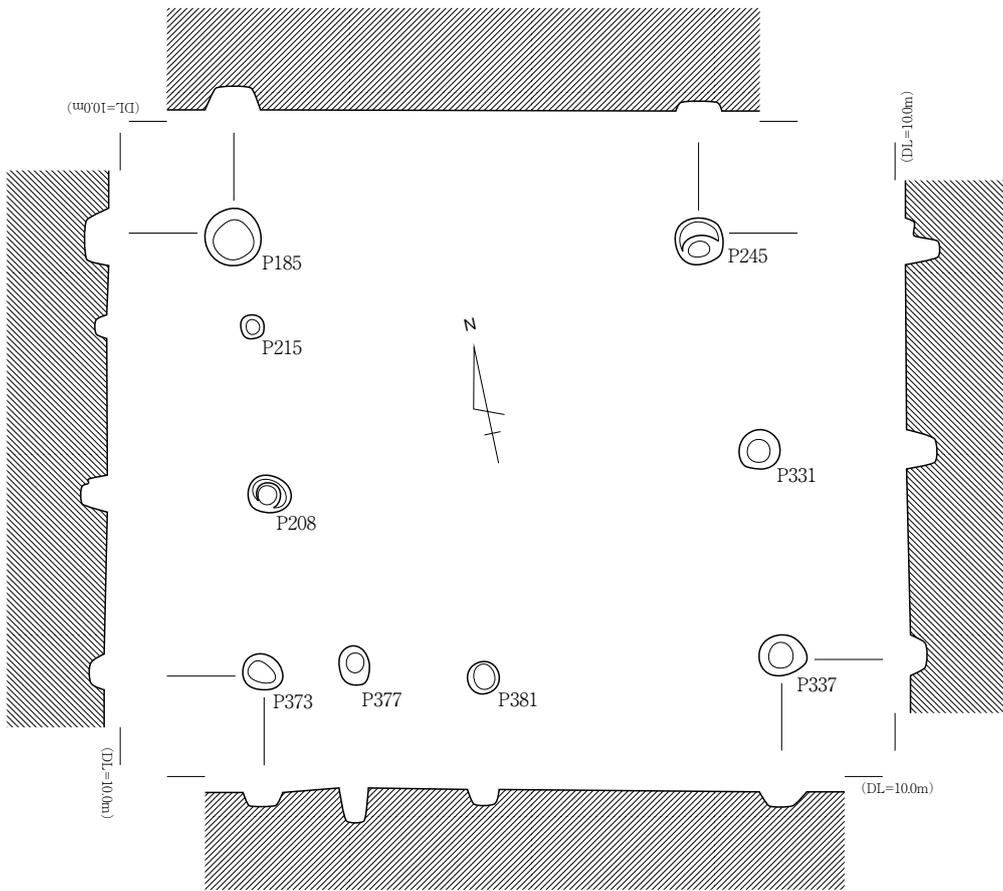


SB8

图 II-16 2区 SB7·8平断面图



SB9



SB11

图 II - 17 2区 SB9·11 平断面图

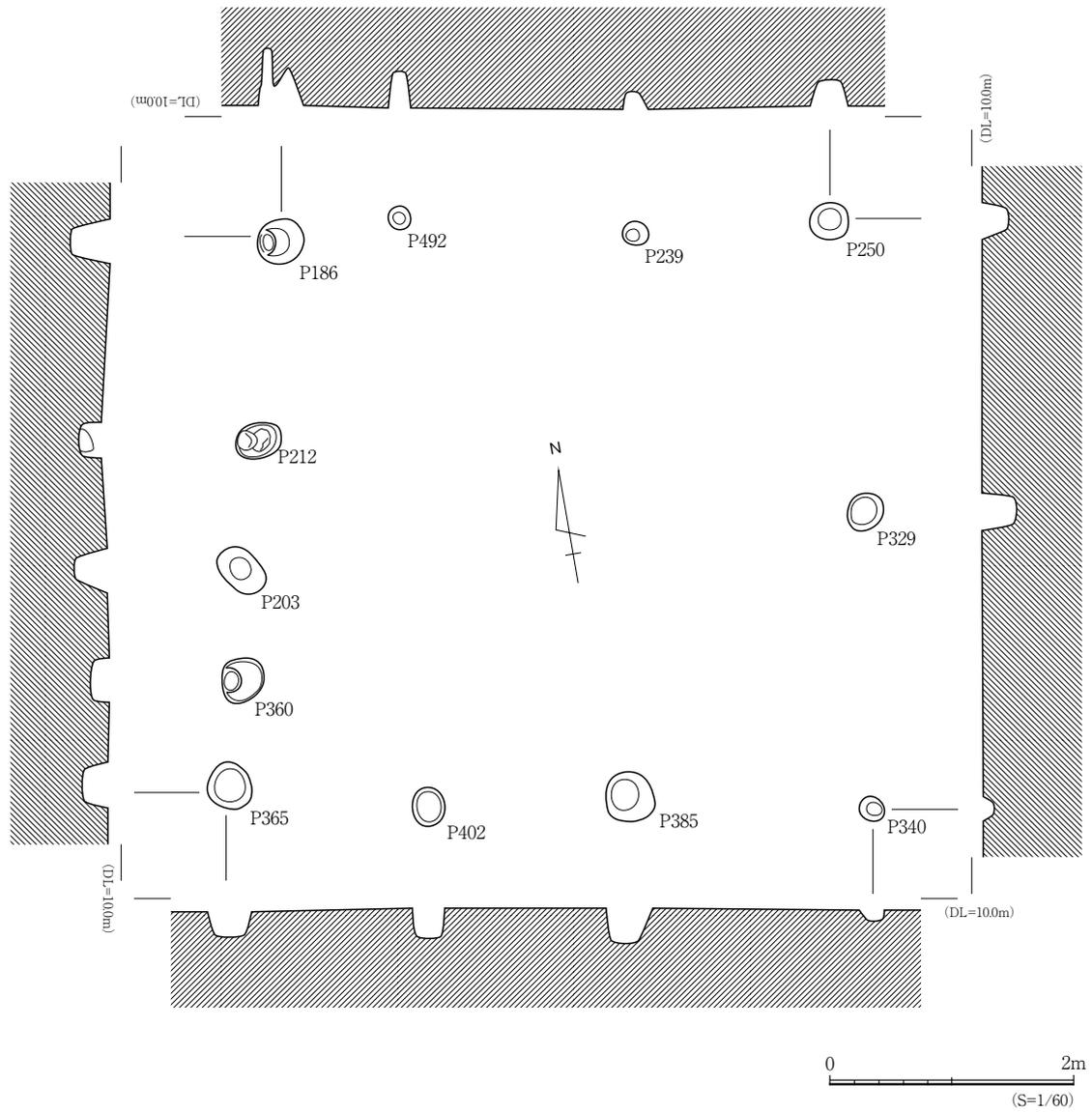


图 II-18 2区 SB10 平面断面图

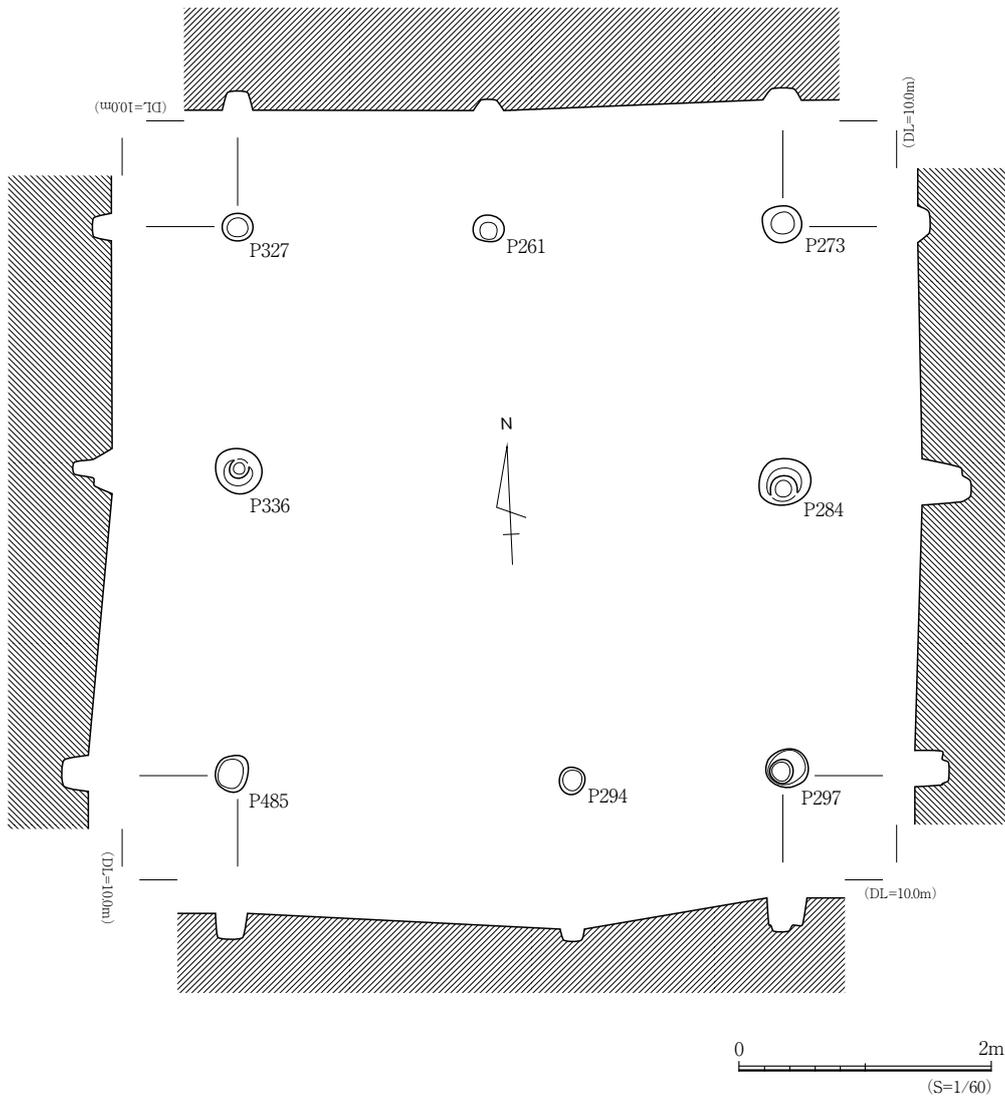
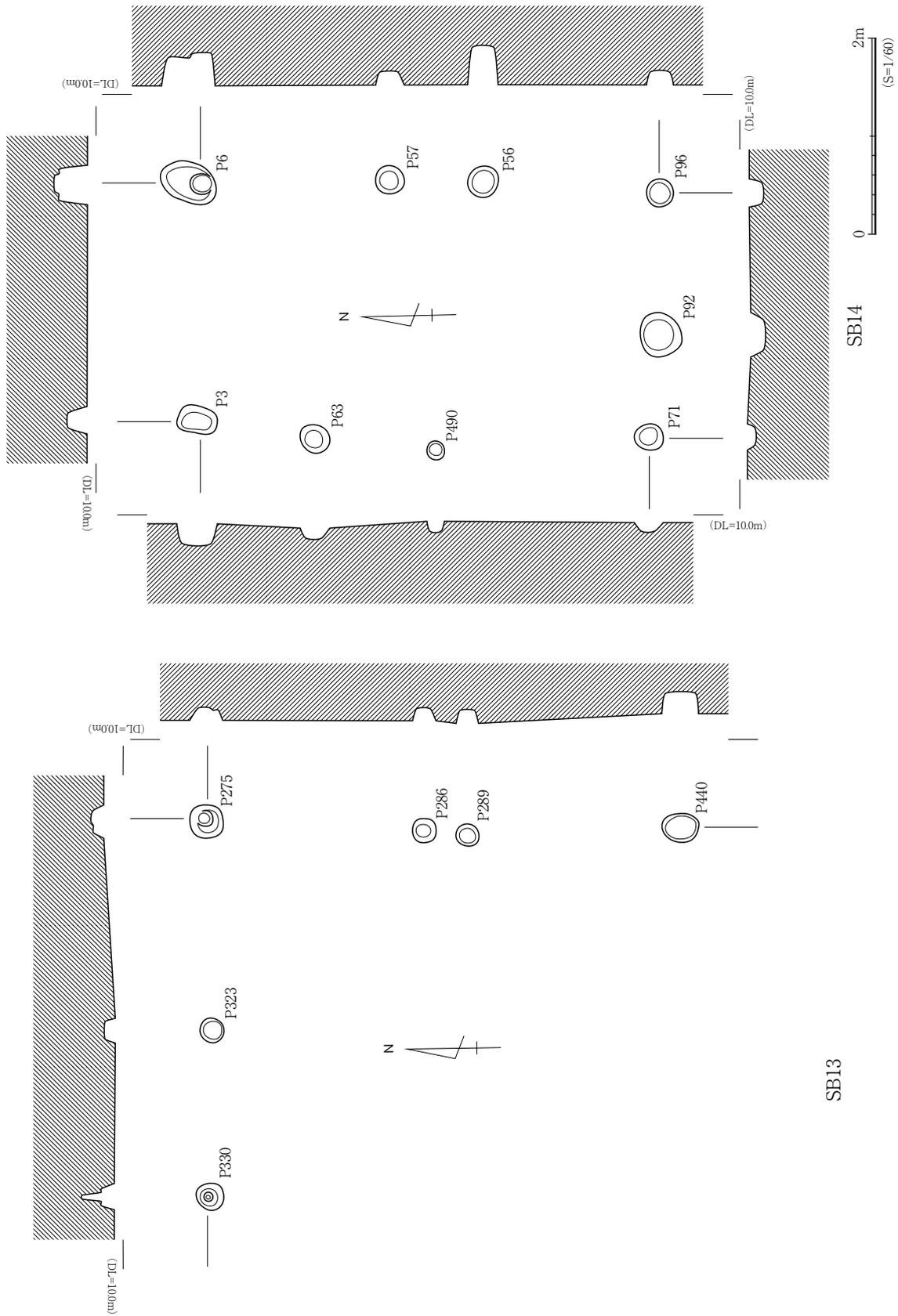
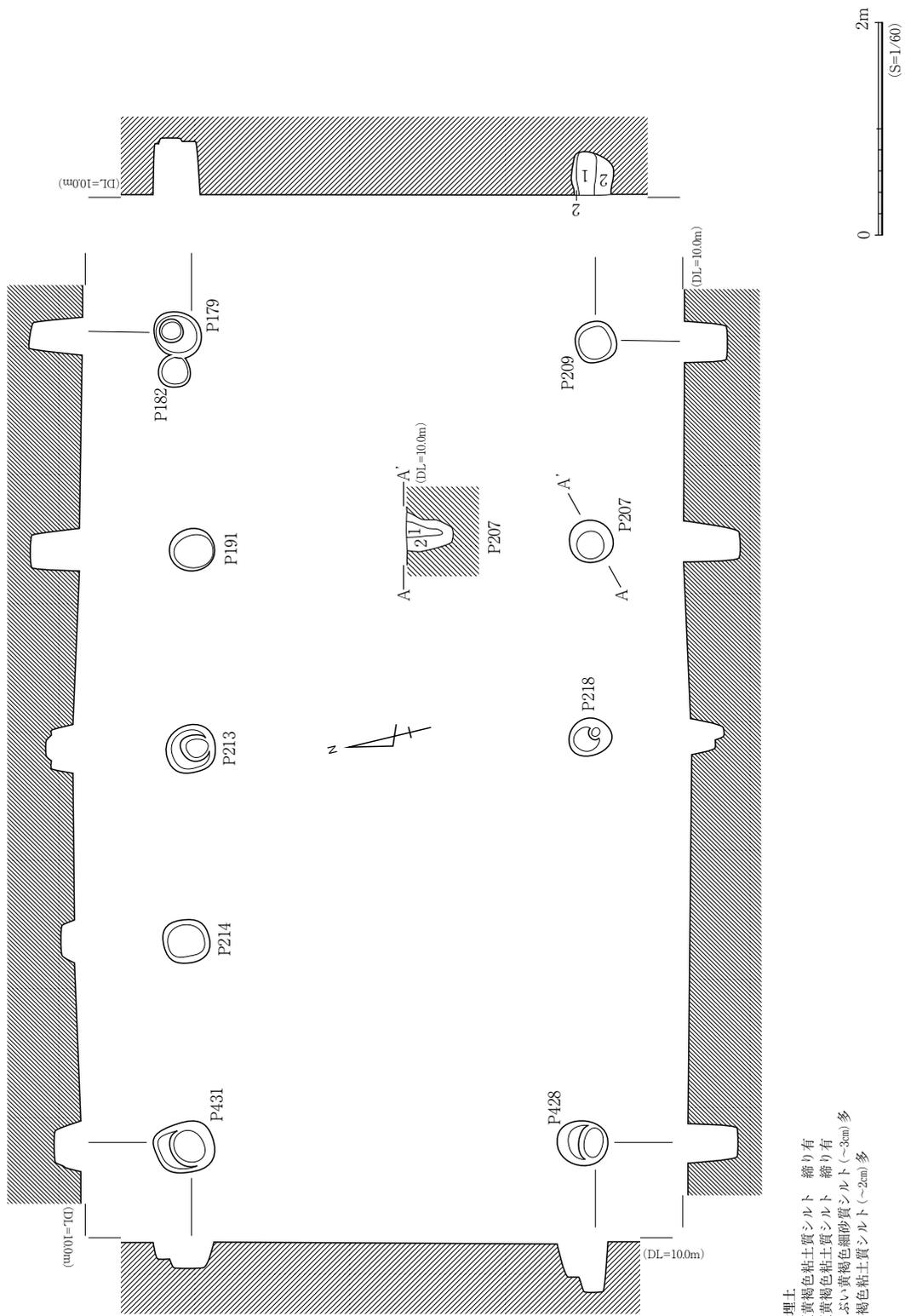


图 II - 19 2区 SB12平断面图



图II-20 2区 SB13·14平面断面图

SB13



遺構埋土  
 1. 灰黄褐色粘土質シルト 締り有  
 2. 灰黄褐色粘土質シルト 締り有  
 に近い黄褐色細砂質シルト (~3m) 多  
 黒褐色粘土質シルト (~3m) 多

図II-21 2-6区SB15平断面図

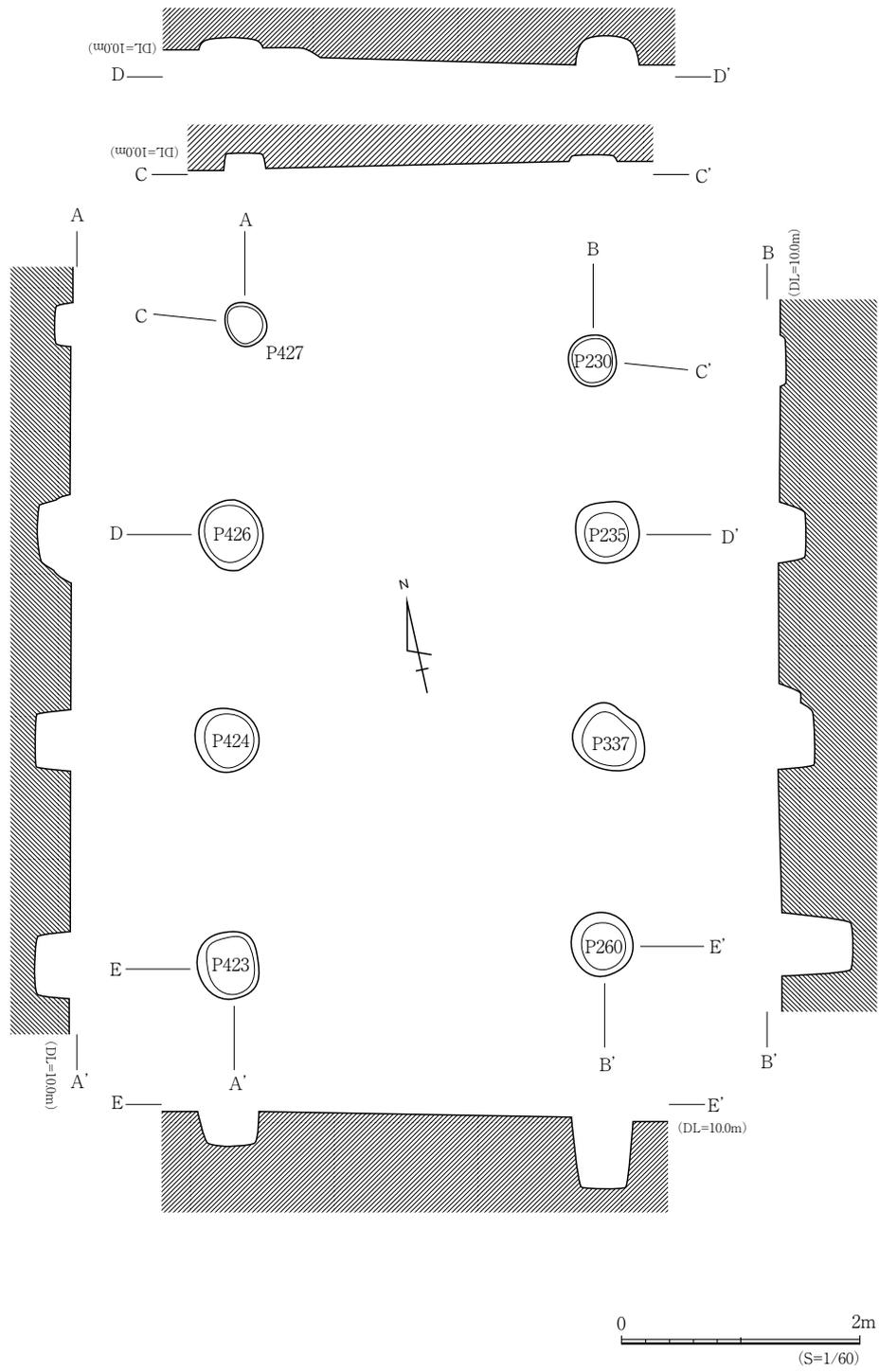
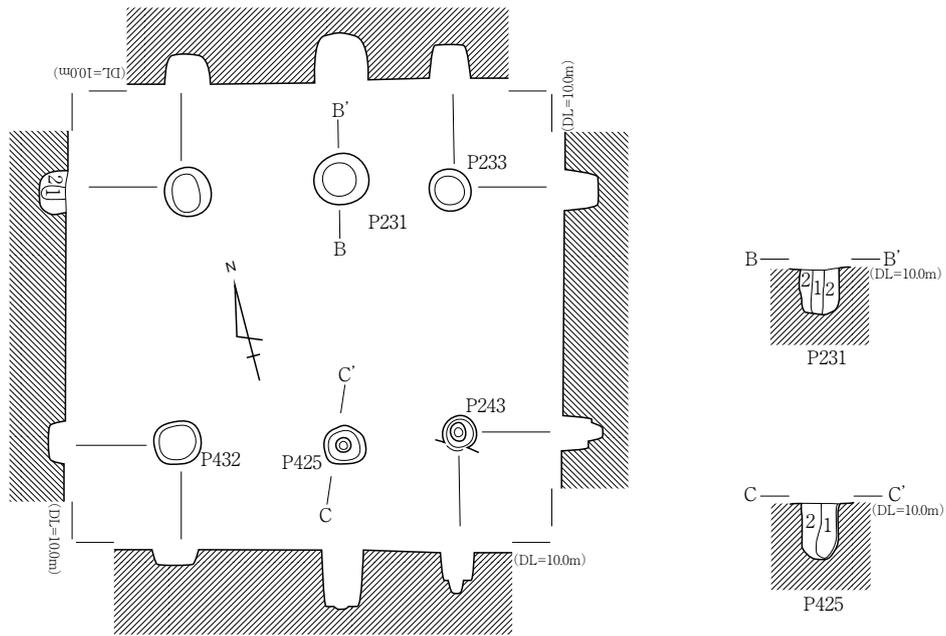


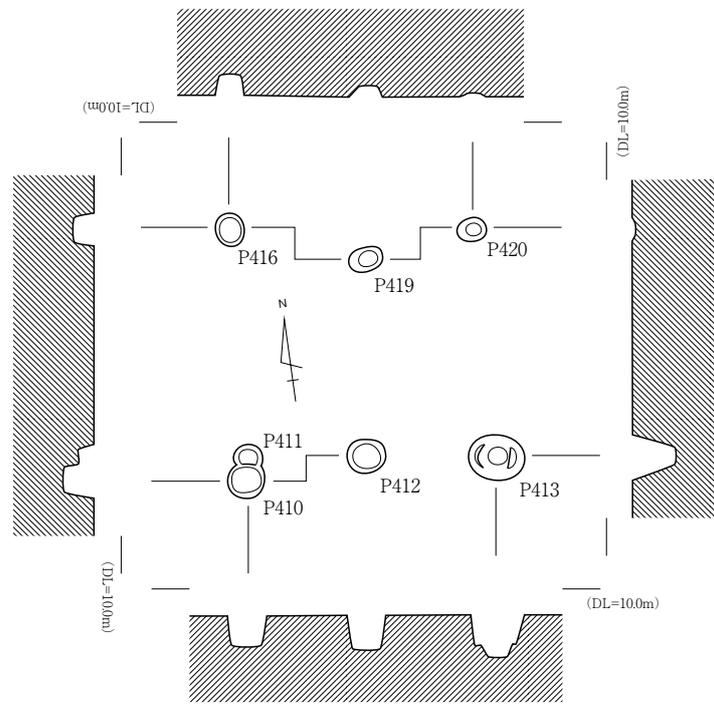
图 II-22 2-6区 SB16 平面图



SB17

遺構埋土

1. 灰黄褐色粘土質シルト 粗粒砂～細礫混
2. 褐色中粒砂質シルト 細礫多混



SB20



図Ⅱ-23 2-6区 SB17・20平面図

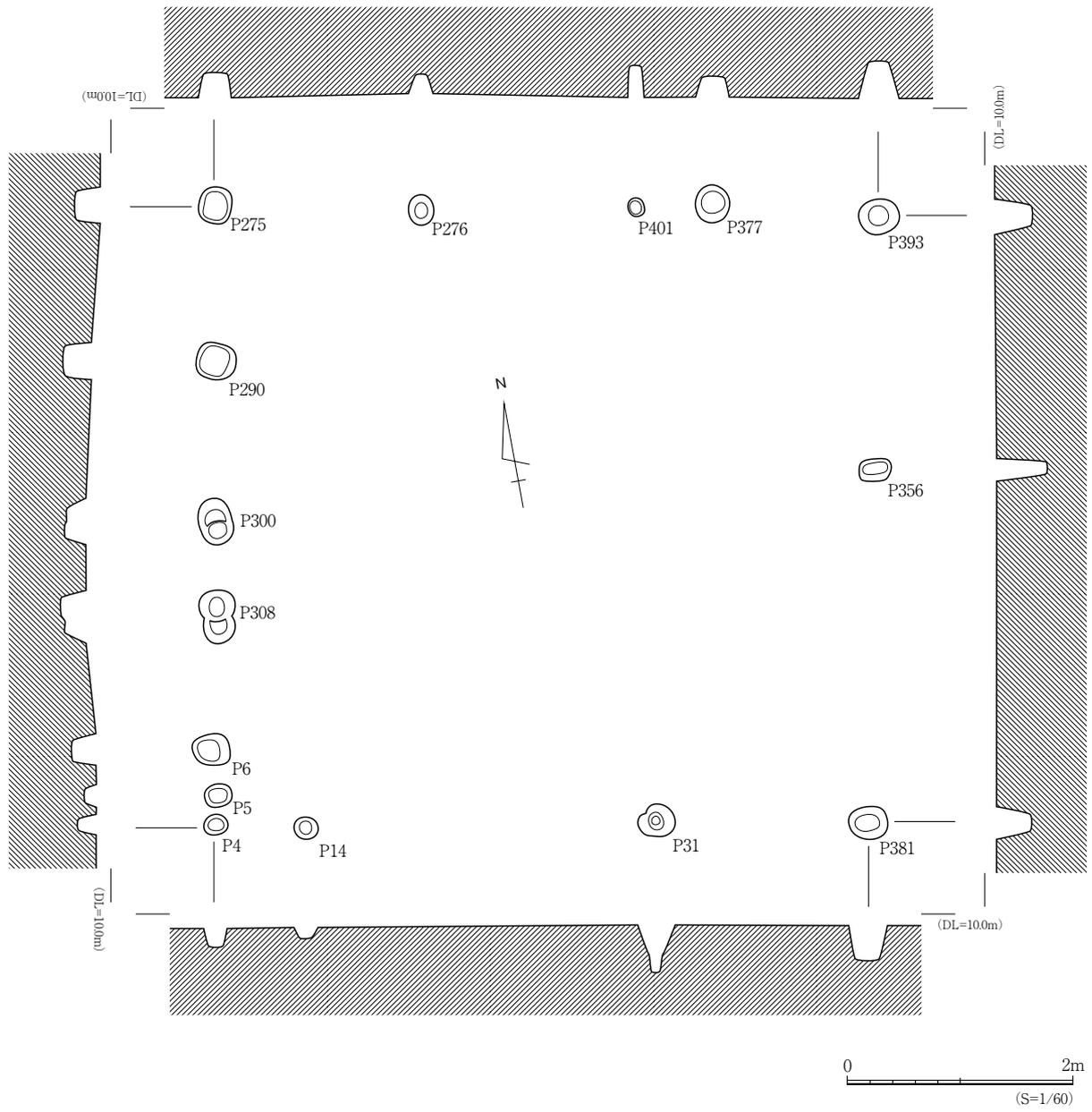


图 II-24 2-6区 SB18平断面图

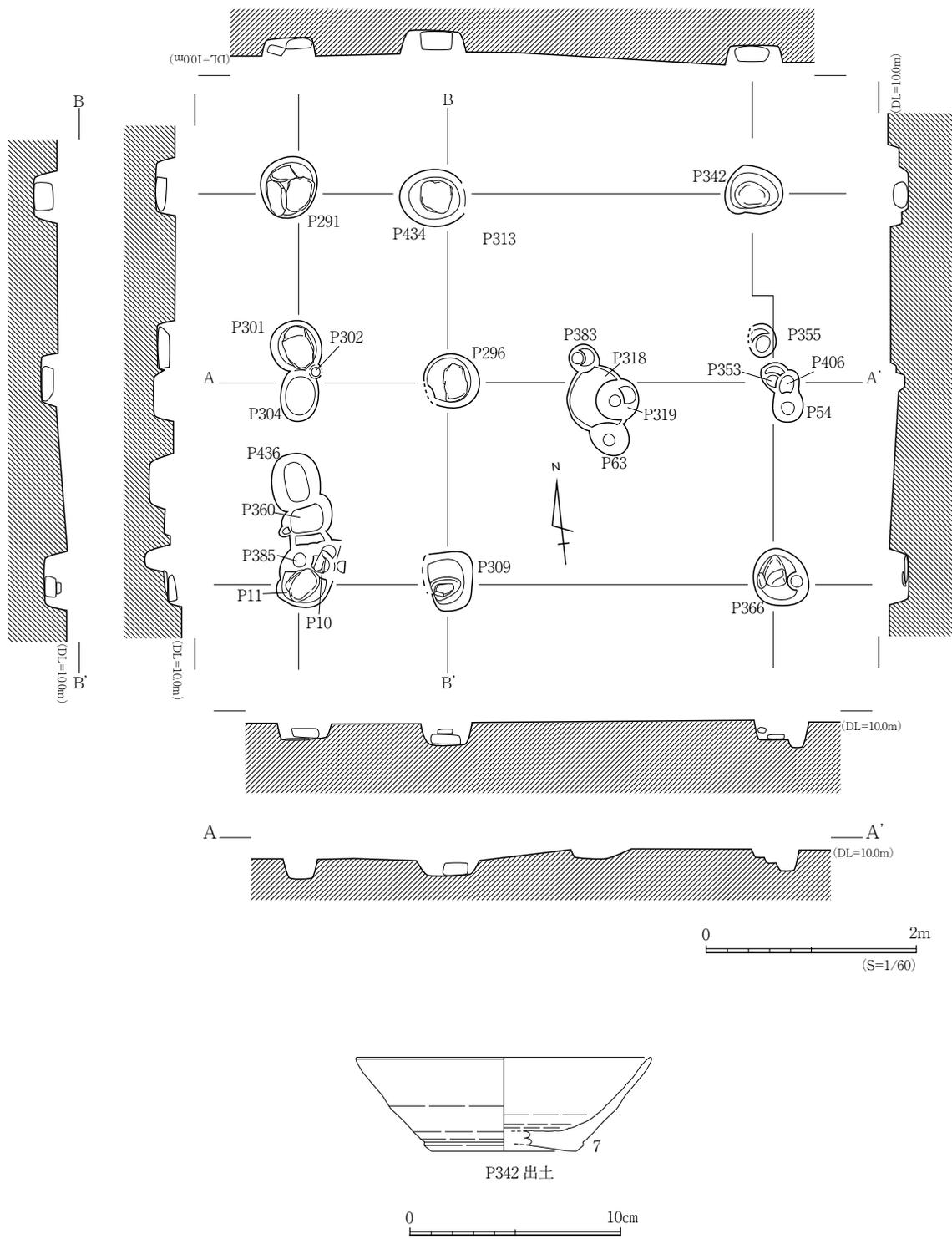
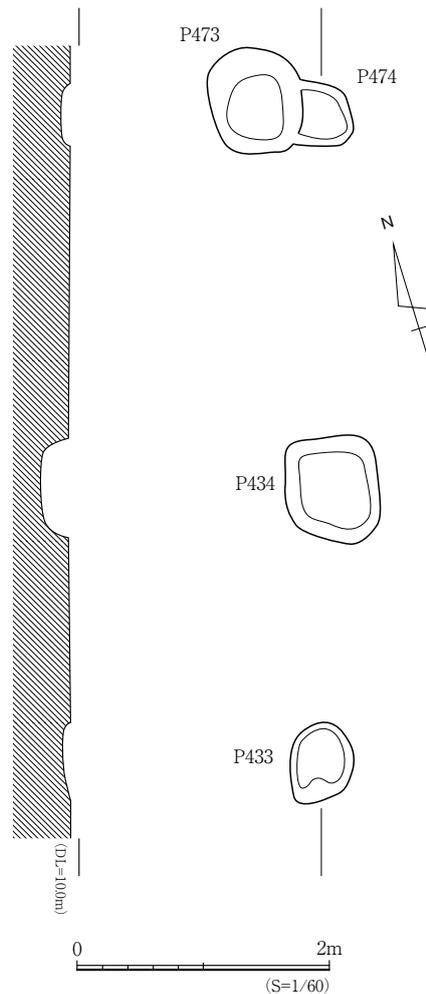


图 II - 25 2 - 6 区 SB19



図II-26 2-6区 SA1平断面図

(2)溝跡

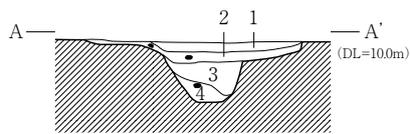
SD1は調査区北西隅で西折する部分が検出され、西部の南北溝とあわせて屋敷地を方形に区画しているとみられる。溝の心々間距離は、東辺SD1と西辺SD1間が調査区北端で39.6m、同調査区南端では36.9m、東辺SD1と西辺SD2間が調査区北端で37.9m、同調査区南端では35.8mを測る。SD1の断面形は底幅の狭い逆台形が基本で、V字に近い場所もある。なお、調査区の北～東辺は調査前の集落内道路および水路の縁で、SD1はそれに沿っていることがわかる。

西部にあつてはほぼSD1に沿うSD2は、SD1との残深差が大きい。

SD1東辺にある切込みSX1は幅・深さとも数cmで、SD1に伴う可能性がある。SX1はSD1東辺の上位に重複する溝状の遺構で、出土遺物は中世に属するが17の所属は北側のSX2と分別できず、かつSD1の破片と接合した。遺構断面は図II-27のとおりである。

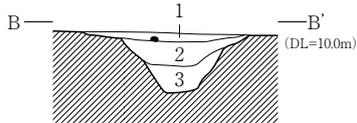
SD3・4は、調査区南縁にあつて全容や性格が不明瞭である。近接しているため、どちらのものか分別できない出土遺物があった。遺物様相にはSD1との明確な差を指摘できない。

調査区をやや蛇行して斜行する溝跡はII区を縦走する古代後期の溝跡で、まとめて後記する。



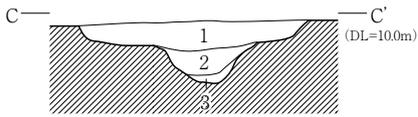
遺構埋土

1. 灰黄褐色粘土質シルト 地山土粒少量含 (SX1)
2. 灰黄褐色粘土質シルト～粘土 細粒砂混 (SX1)
3. 灰黄褐色粘土 (SD1)
4. 灰黄褐色粘土 地山土粒少量含 (SD1)



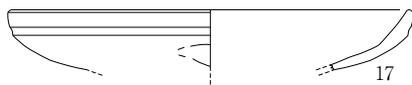
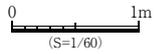
遺構埋土

1. 灰黄褐色粘土質シルト 地山土粒少量含 (SX1)
2. 灰黄褐色粘土質シルト～粘土 細礫少量混 (SD1)
3. 灰黄褐色粘土 地山土粒少量含 (SD1)

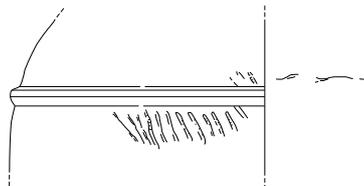
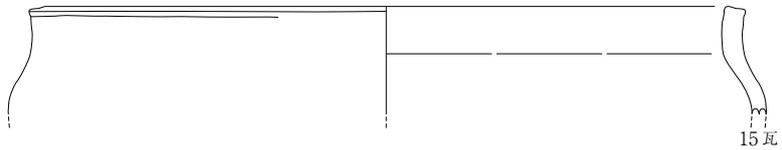
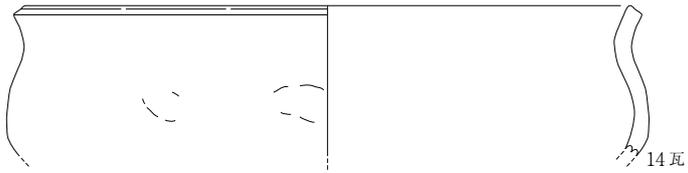
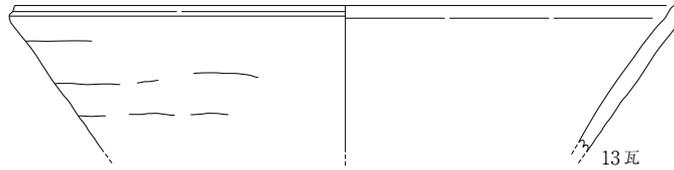
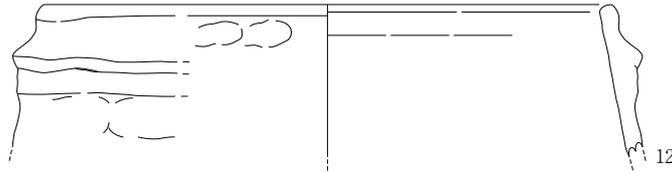
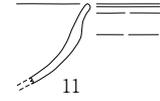
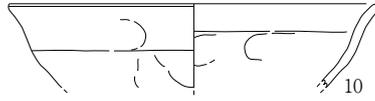


遺構埋土

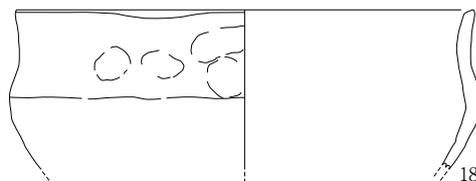
1. 灰黄褐色粘土質シルト 地山土粒少量含 小斑鉄多
2. 灰黄褐色シルト質粘土 地山土粒少量含
3. 灰黄褐色シルト質粘土 地山塊含



TR 出土 (SD1 と SX1 又は 2)



SD1 出土



SX1 出土



19 青



図Ⅱ-27 2-1区 SD1・SX1断面図・出土遺物

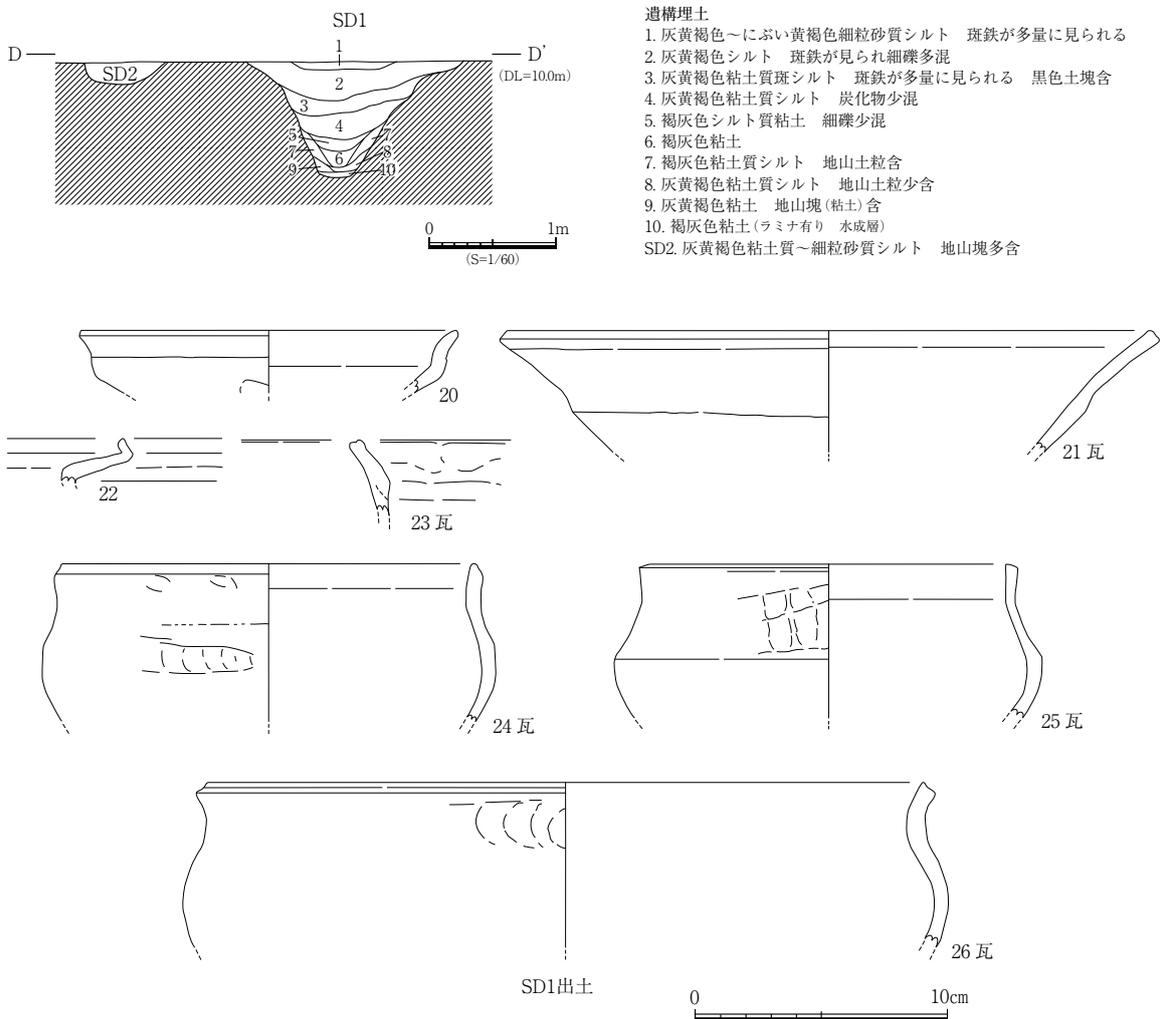
(3)ピット

既述のように、建替えや削平で建物の復元に至らない柱穴が多いとみられる。表4のごとく、杯等を埋納したものがある。近世以降の遺物が出土したものは少ないが、存在する。

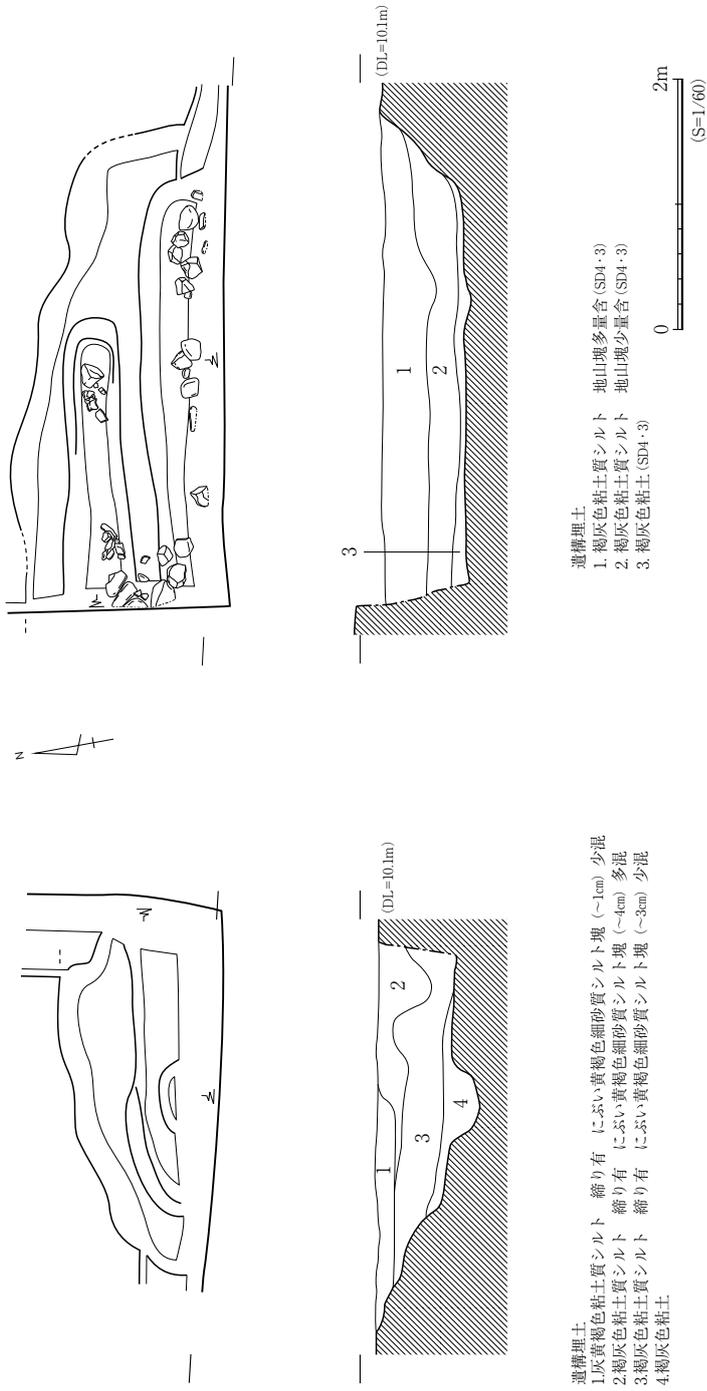
(4)近世等

4区SK2より近世備前水甕、SK7より関西系播鉢と能茶染付皿、6区SK8より焙烙や陶器碗が出土している。その他矩形を基調とするプランの遺構等も、出土遺物は少ないが近世或は近世後期以降に比定される。SD1西辺を切るSE1・2も近世に属する。

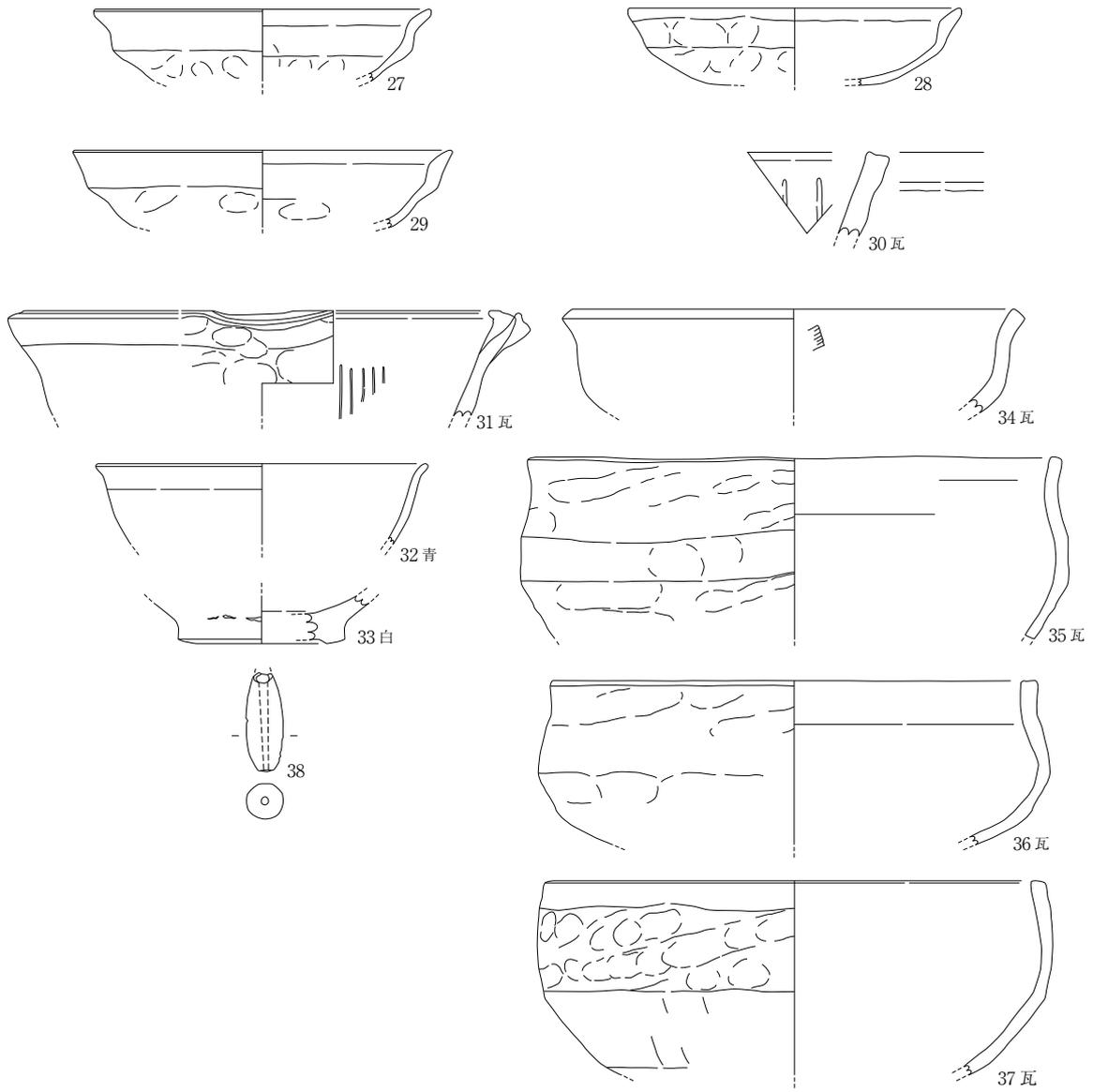
円形のいわゆるハンダ土坑をはじめとするこれら近世遺構からは、各々僅少の近世遺物と最大90片程度までの土師器・土師質土器片等が出土している。



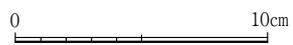
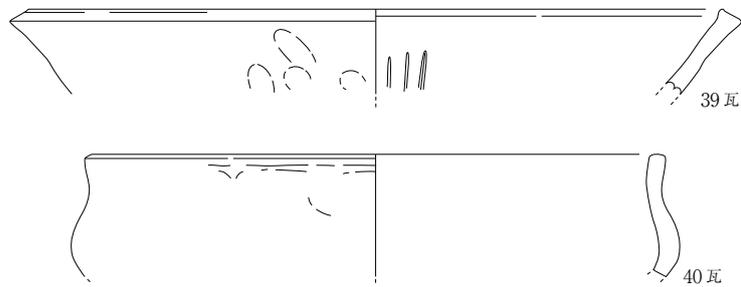
図II-28 2-4区 SD1・2断面図・出土遺物



図Ⅱ-29 2区 SD3・4 平面図



1区SD3·4出土



6区SD4出土

图II-30 2区SD3·4出土遺物

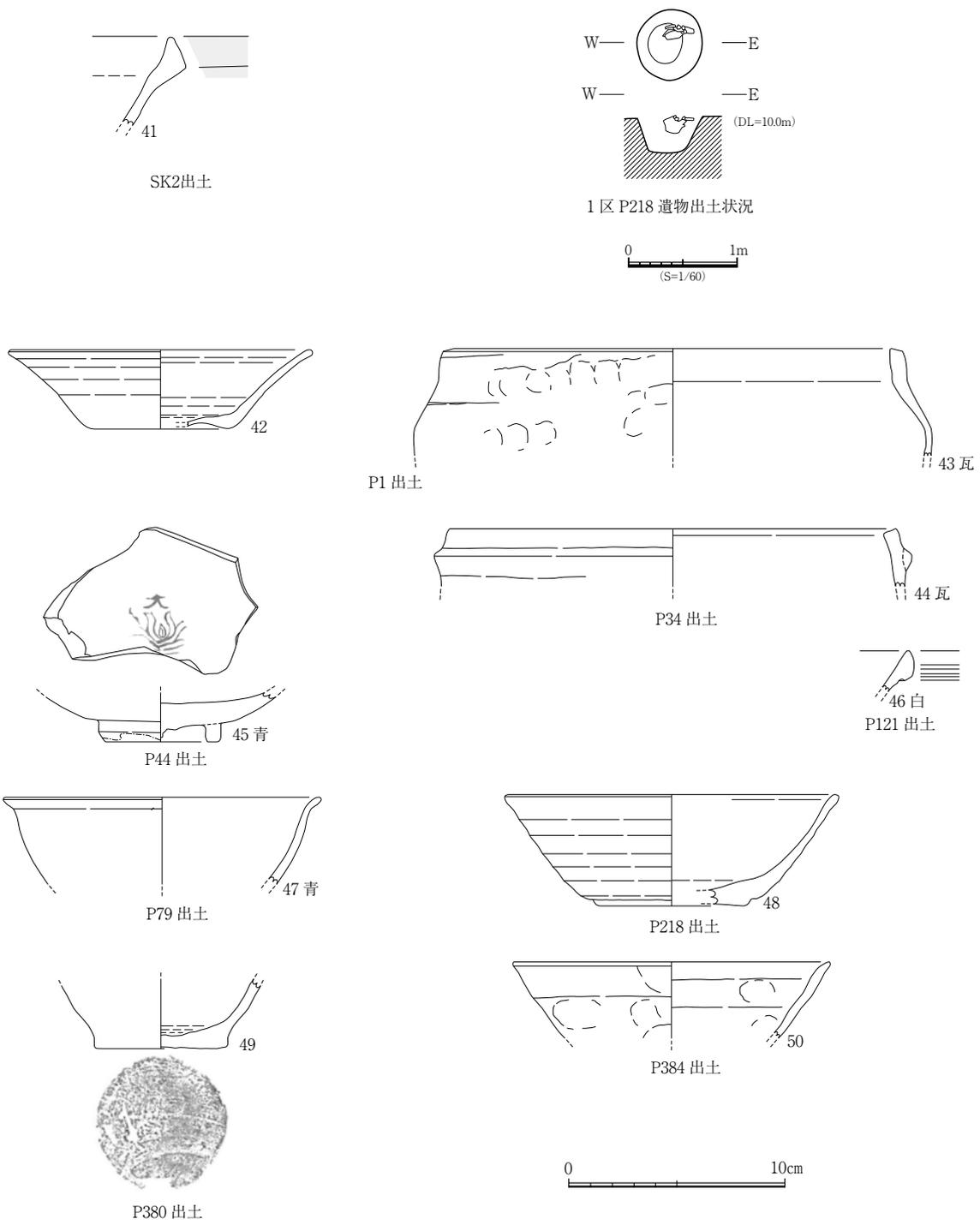


图 II - 31 2区 SK·Pit 出土遺物

## ③Ⅱ-2-2・7区

溝に区画された中世屋敷跡の、旧道を挟んで北側に設定した狭小な調査区で、近世、近代の遺構を中心とする。出土遺物から時期を比定できた遺構のうち、主なものの詳細は表6のとおりである。

## ④Ⅱ-2-2区

## 1. 小区の概要と基本層準

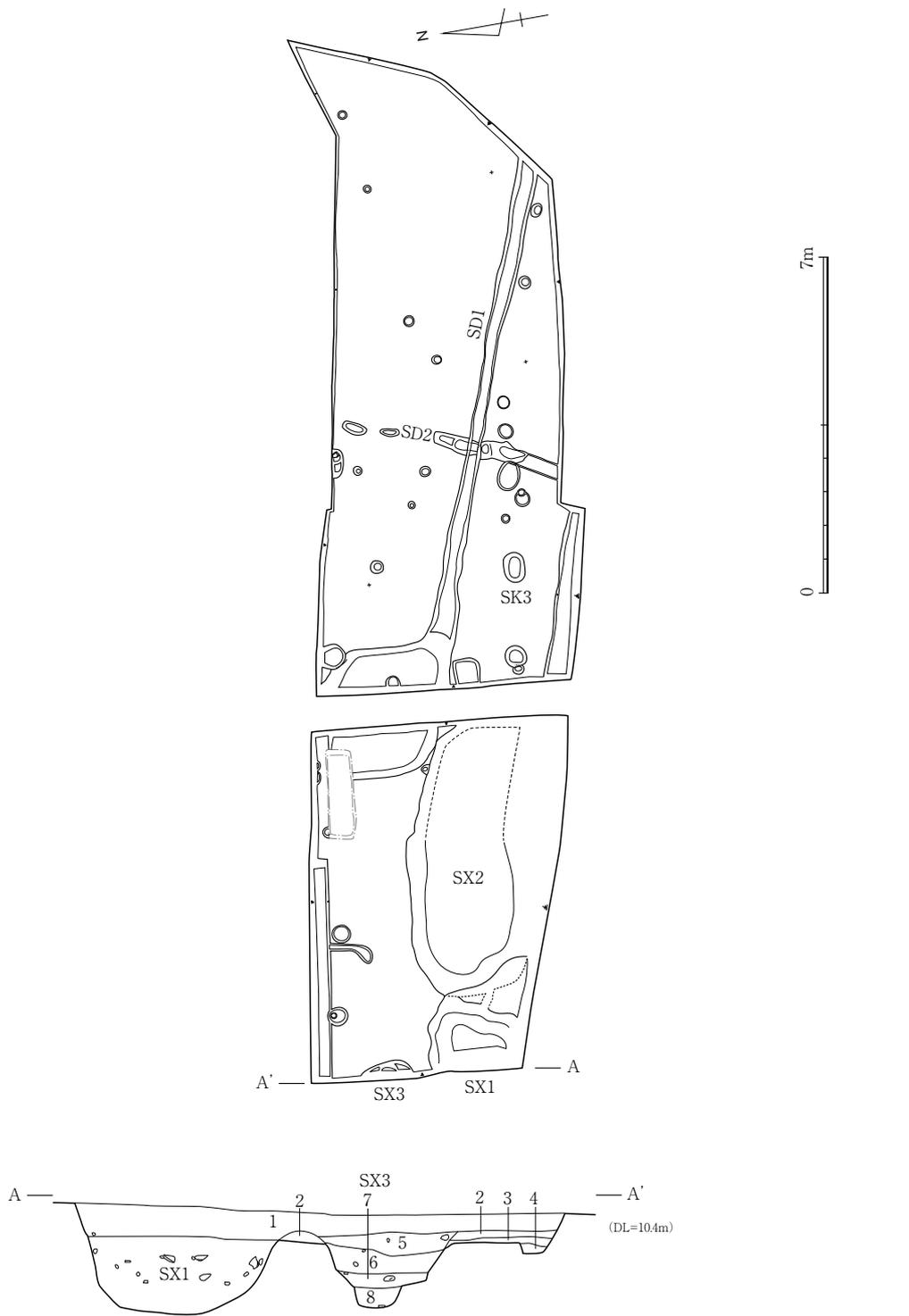
平面図および西壁断面図は図Ⅱ-32のとおりである。

## 2. 遺構と遺物

SX1は当区西端で一部を検出した。出土遺物総量はコンテナ8箱分で、磁器を主体とする食器、飛鉋文の土瓶3個以上、瓦質練炭コンロ、土師質等の火具類、瓦等を含む。小型食器には完品を若干含む。磁器製の表札57は、削られてはいるが文字の一部が判読でき、裏面に「貫々堂」の刻印がある。総じて食器や雑器の他、化粧品や薬品の容器が目立ち、製造期間は戦前～戦中が中心だが、戦後の可能性のあるものを含む。なお、当区出土遺物に記された文字の内容を表2にまとめた。

SX2はSX1の東隣にある。遺物総量はコンテナ2箱分で、時期はSX1に準ずる。図表にあげたものの他、気泡の著しい小瓶もあり、それらは戦中以前に製造された可能性が高い。

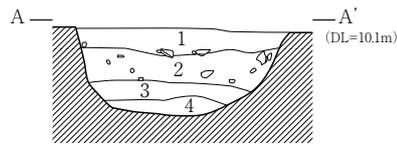
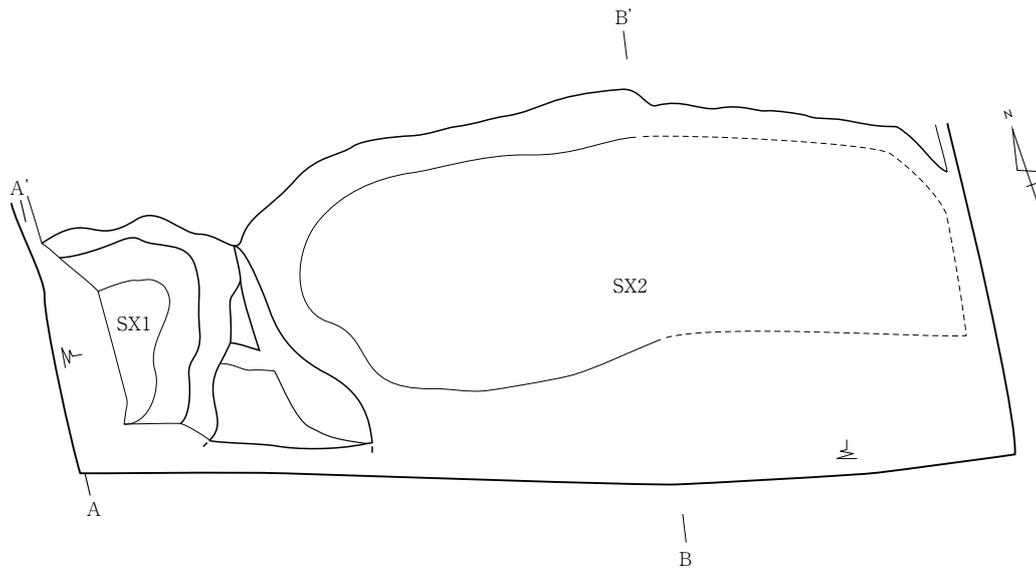
ピット等には、土師質の土器や須恵器片が各々1～10片出土しているものがあるが、遺物は小片で摩耗している。



基本層序

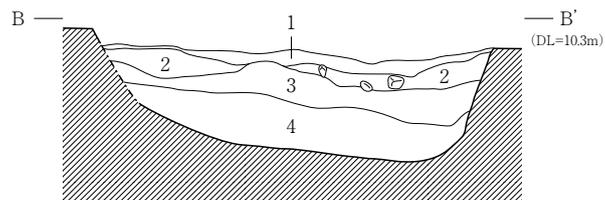
- 1.暗灰黄色細粒砂質シルト 締り有 礫(細礫~1cm)少混 現耕作土
  - 2.黒褐色粘土質シルト 締り有 中~粗砂混 細礫(~0.5cm)混 SR1充填堆積物
  - 3.灰黄褐色細粒砂質シルト 締り有 中~粗砂多 細礫(~1cm)多 SR1充填堆積物
  - 4.にぶい黄褐色細粒砂質シルト 締り有 地山
- SX3
- 5.暗灰黄色粘土質シルト 締り有 細~中礫多(1~10cm) 礫(~1cm)黄褐色少混
  - 6.暗灰黄色シルト 締り有 細礫(~4cm)少混
  - 7.暗灰黄色粘土 締り有 細礫(~4cm) 瓦片
  - 8.黒色 締り無 炭化物 底に材有

図Ⅱ-32 2-2区 遺構配置図・西壁断面図



SX1埋土

- 1.暗灰黄色粘土質シルト 締り有 細～中礫多 (1~10cm) 礫 (~1cm) 黄褐色少混
- 2.黄灰色シルト質粘土 締りやや有 細～中礫多 (1~10cm) ハンダ・瓦片含
- 3.黄灰色粘土 締りあまり無 植物遺体混
- 4.褐灰色粘土 締り有 斑鉄有

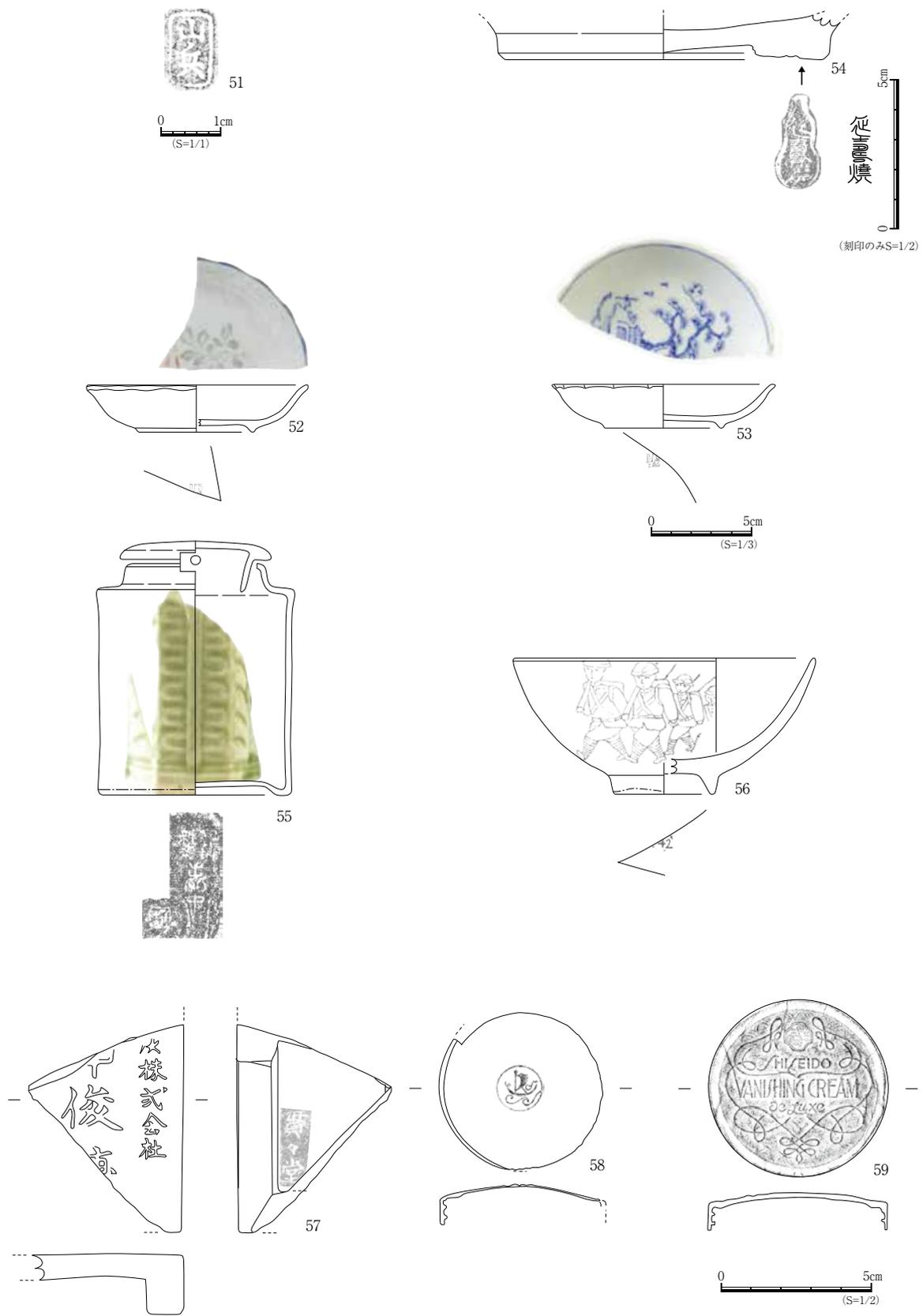


SX2埋土

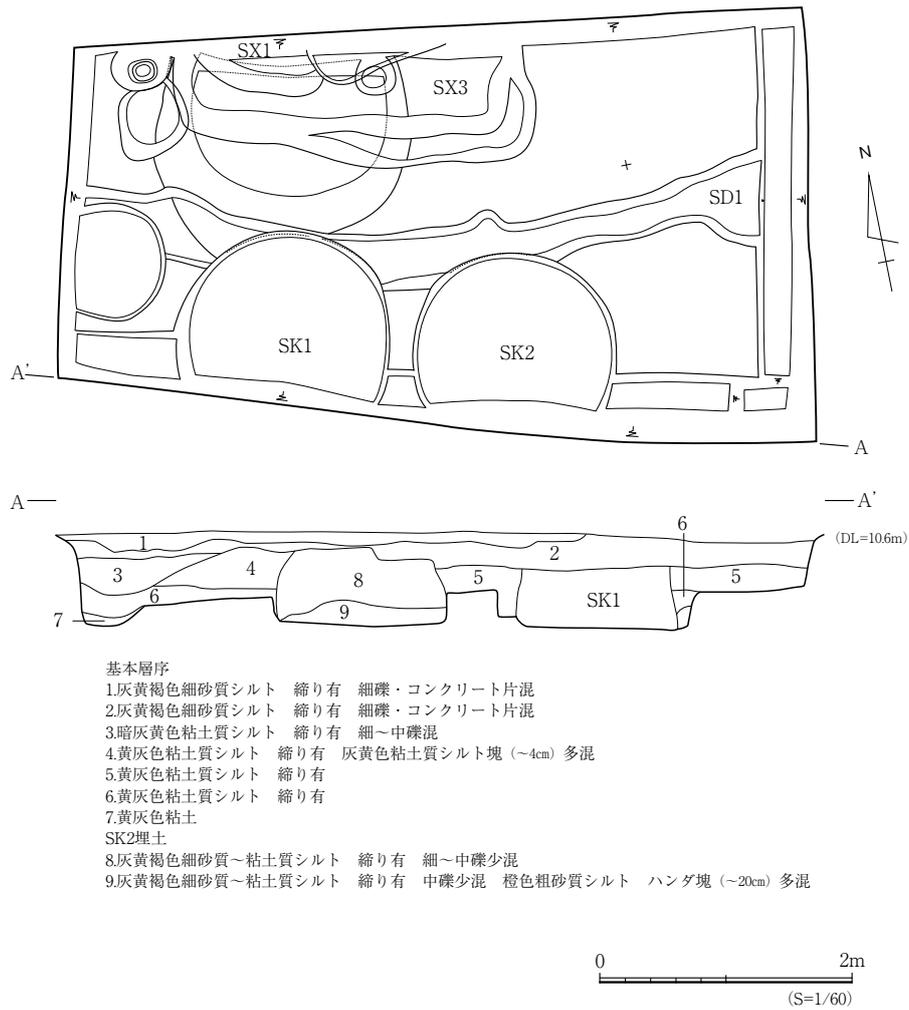
- 1.黄褐色シルト 地山塊含
- 2.暗灰黄色細粒砂質シルト 円礫混
- 3.暗灰黄色細粒砂質シルト 円礫・瓦片・陶磁器片多混
- 4.黒褐色細粒砂質シルト 円礫・陶磁器片多混



図II-33 2-2区 SX1・2平断面図



図Ⅱ-34 2-2区 SX1出土遺物

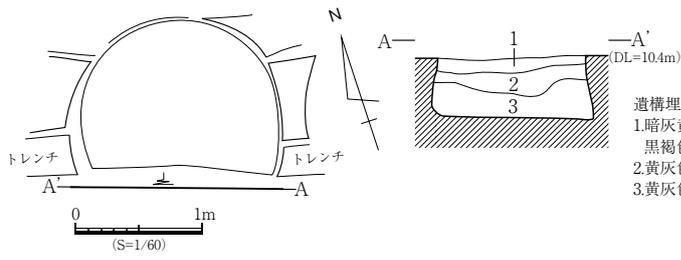


図II-35 2-7区 遺構配置図・南壁断面図

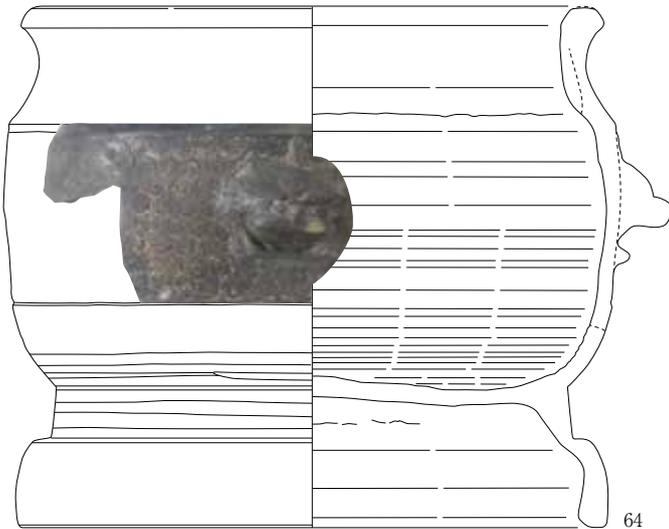
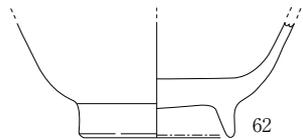
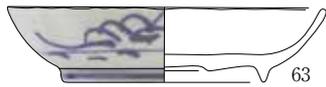
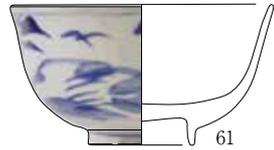
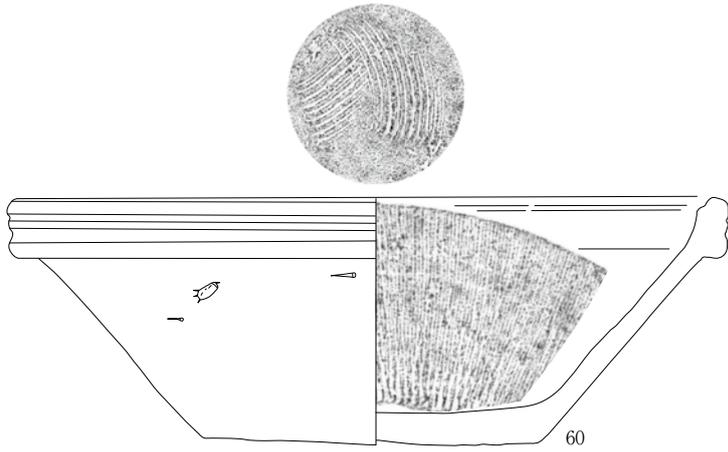
### ⑤ II-2-7区

#### 1. 小区の概要と基本層準

当小区の遺物総量コンテナ6箱中の5箱がSK1出土である。SK1・2のような円形遺構が複数並ぶ例は、当平野の他遺跡にもある。出土遺物は幕末～近世初期とみられる。



- 遺構埋土
- 1. 暗灰黄色粘土質シルト 締り有 にぶい黄褐色細砂質シルト塊 (~1cm) 混  
黒褐色粘土質シルト塊 (~5cm) 少混
  - 2. 黄灰色粘土質シルト 締り有 中礫混
  - 3. 黄灰色粘土質シルト 締り有 橙色粗砂質シルト ハンダ塊 (~20cm) 少混



図Ⅱ-36 2-7区 SK1

## ⑥Ⅱ-3-2・3・5・6区

## 1. 小区の概要と遺構・遺物

青磁碗(145)が、後述のごとくⅡ区全体を縦断する古代後期溝跡の一部である3区SD2から出土している。

その他、Ⅱ-3区で検出された土坑、性格不明遺構、ピットの出土遺物を概観すると、最新の遺物に近世後期以降のものがあるが、確実に近代に下るものはみられない。ピットには、中世頃までの土師質土器や須恵器小片のみが出土したものが一定あり、P1, 10, 11, 16, 18, 20～22, 25～28, 30, 32, 33, 35, 40, 48, 50, 52, 55, 59, 63, 68, 69, 72, 73, 76, 79, 80, 82, 86, 91, 100および東隣の2・5区の2基のピットが該当する。そのうちP59は細蓮弁文碗と土師質の土器片、P53は土錘が出土、2区P2は土師質土器杯が埋納されており、図示した。これらのピットはⅡ-3区では中～東部に多く、中央南寄りにやや集中しており、掘立柱建物の存在も漠然とではあるが想定される。なお、近世以降の遺物を含むピットはP53, 83, 102, 104, 105, 107である。当区出土の近世陶磁器に、大皿や上手のものはみられない。2・5区には近現代遺物が出土した遺構がある。

6区では、大型の土坑等の出土遺物には基本的に近世後期のものを含む。SX3は近世後～末期の陶磁器百数十片と、図示した銭貨等が出土した。コンクリート基礎によって破壊されているが、床面まで及んでいないとみられる。

ハンダ遺構3では底板を検出した。底板設置後に側面のハンダを貼っている。

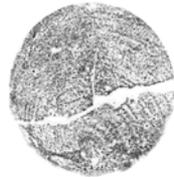
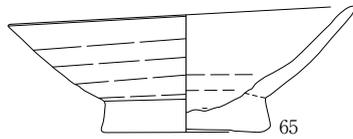
SX1は鍵型の平面形で壁面は垂直に近く、蹄鉄が出土している。近現代に属するとみられる。

SK14は古代の遺物のみが出土しており、他遺構に切られるため全容が不明だが、図示した遺物が廃絶時期を示すとみられる。断面や埋土を精査したが、図示した以外の特記事項は得られなかった。

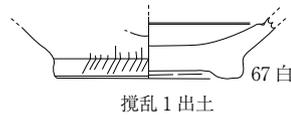
ピット群は、各々数～10数片の須恵器や土師質の土器片が出土したものが多く、P1, 2, 4～8, 10～19, 21, 22, 24～28, 30～32, 35, 37～39, 41, 42, 44がそれに該当する。中世の遺物を含むものは表7参照、近世以降の遺物を含むものはP20, 34, 40, 43であった。当小区南西部では重複した2棟の掘立柱建物跡が認められる。



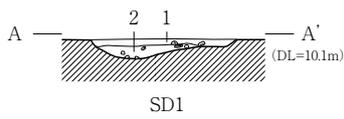
图II-37 3-3区 遺構配置図



P2 出土

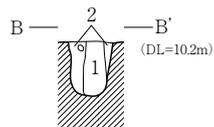


II-3-2区



遺構埋土

1. 褐灰色粘土質シルト 地山の土粒少含 細粒砂混
2. 褐灰色粗粒砂質細礫



P50

遺構埋土

1. 灰黄褐色粘土質シルト 締りあまり無  
黒褐色細砂質シルト少混 炭化物混
2. 灰黄褐色粘土質シルト 締り有  
にぶい黄褐色細砂質シルト少混

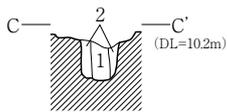


68

P53 出土



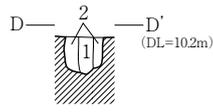
P59 出土



P55

遺構埋土

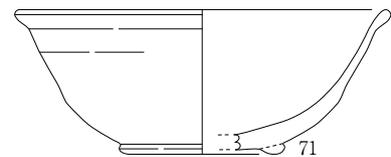
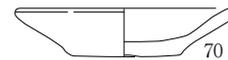
1. 灰褐色粘土質シルト 締り有  
にぶい黄褐色細砂質シルト少混
2. 灰黄褐色粘土質シルト 締り有  
にぶい黄褐色細砂質シルト少混



P59

遺構埋土

1. 灰褐色粘土質シルト 締り有  
にぶい黄褐色細砂質シルト少混
2. 灰黄褐色粘土質シルト 締り有  
にぶい黄褐色細砂質シルト少混  
暗褐色粘土質シルト混

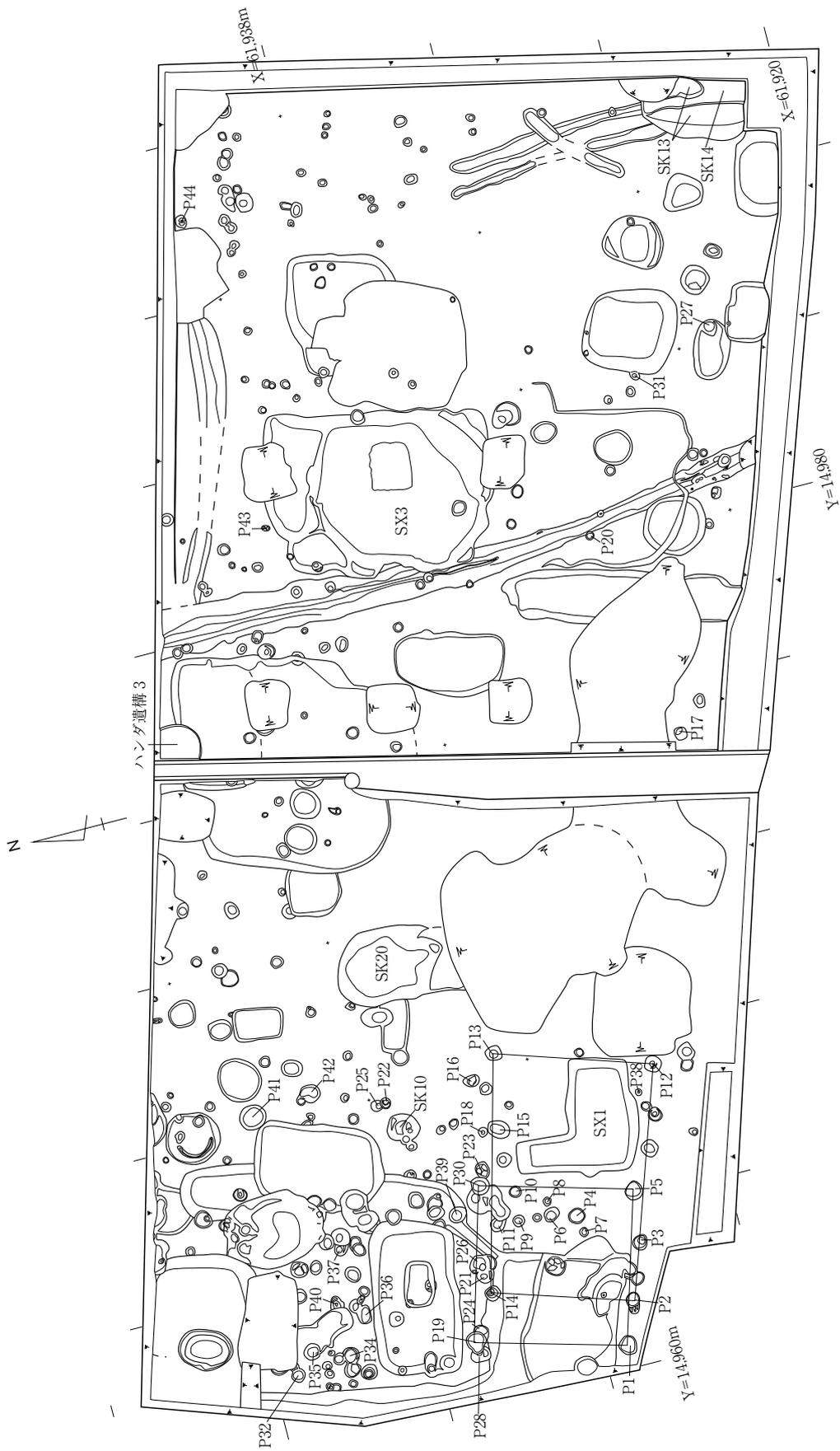


表採

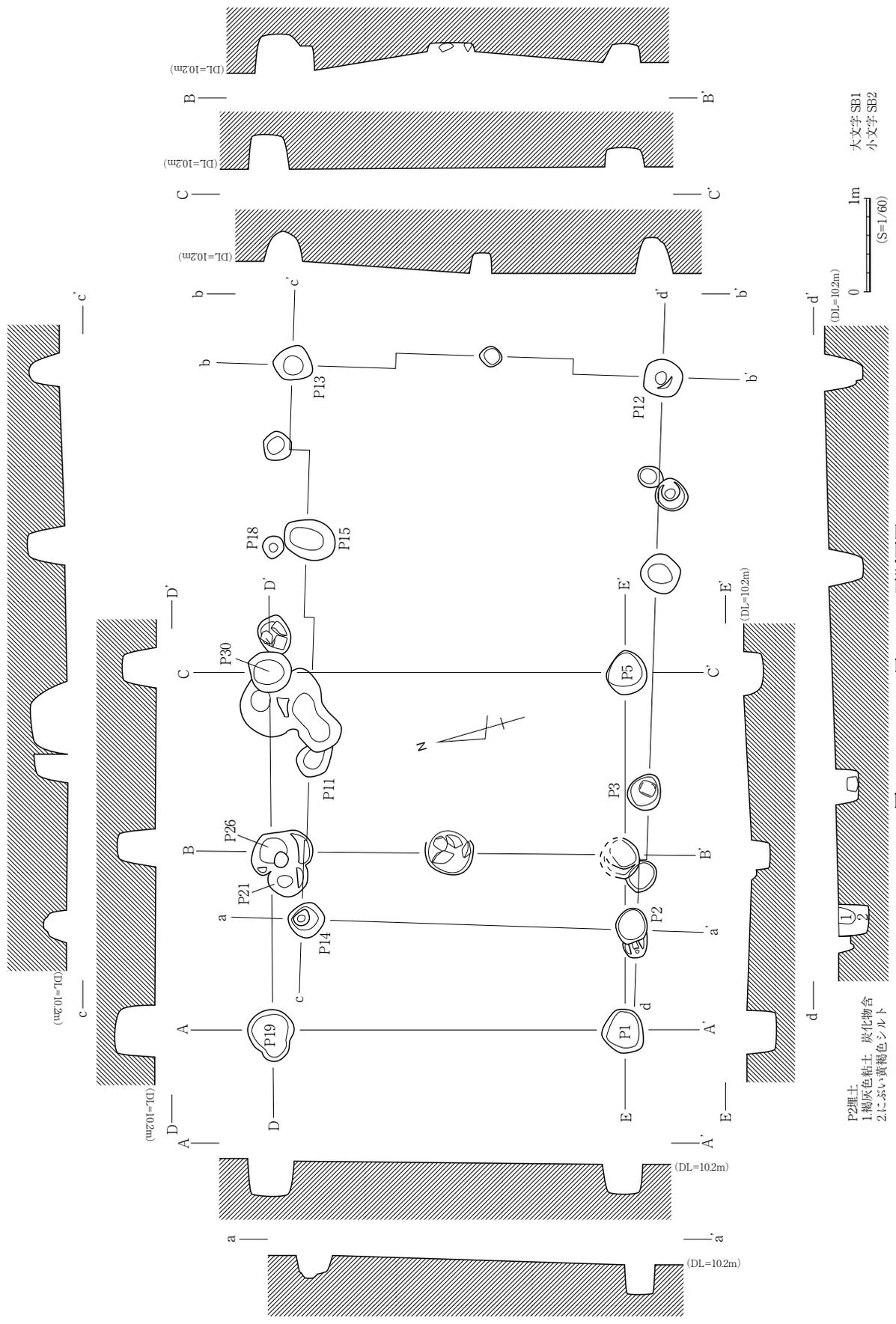
II-3-3区



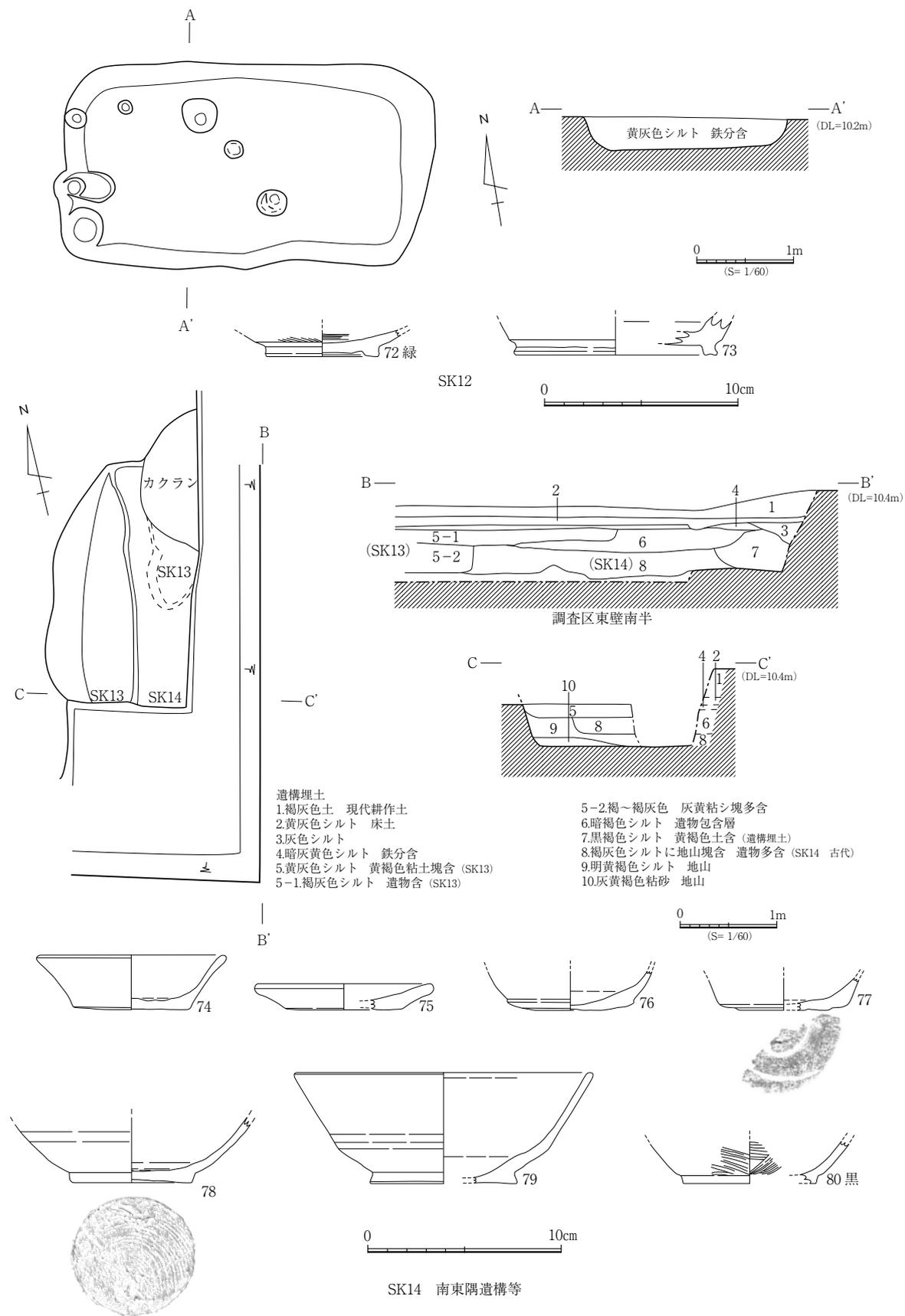
図II-38 3-2・3区 SD・ピット断面図・出土遺物



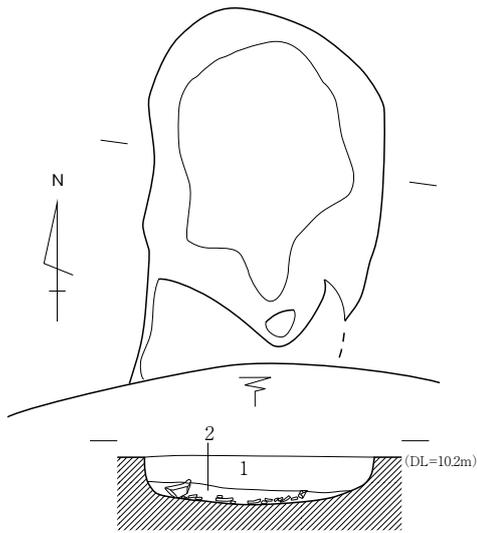
図Ⅱ-39 3-6区遺構配置図



図II-40 3-6区 SBI・2平面図

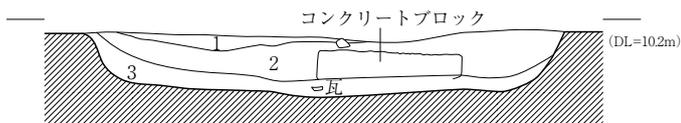
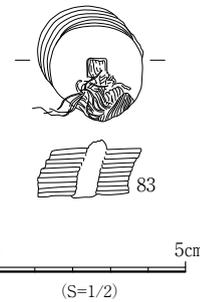
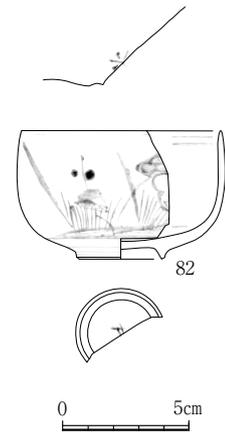
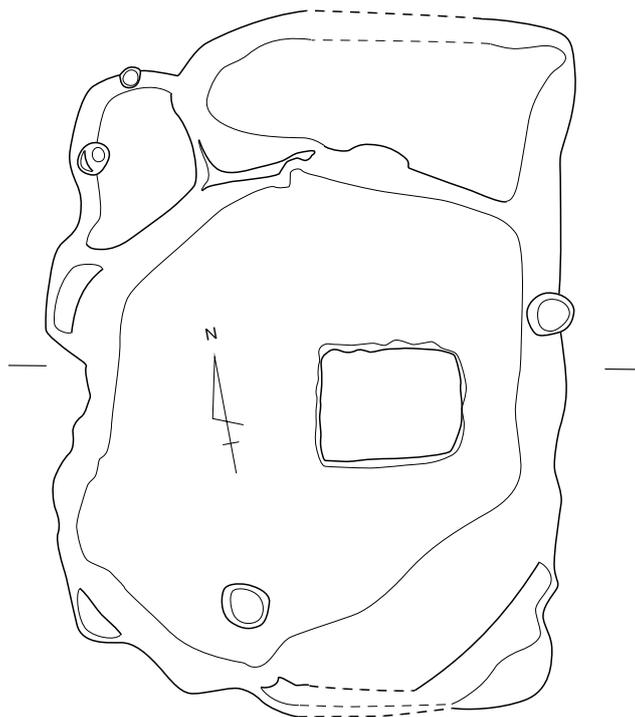
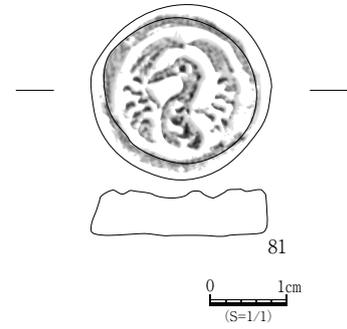


図II-41 3-6区 SK12・14



遺構埋土  
 1. 灰黄褐色土  
 2. にぶい黄褐色シルト 瓦レキ炭化物含

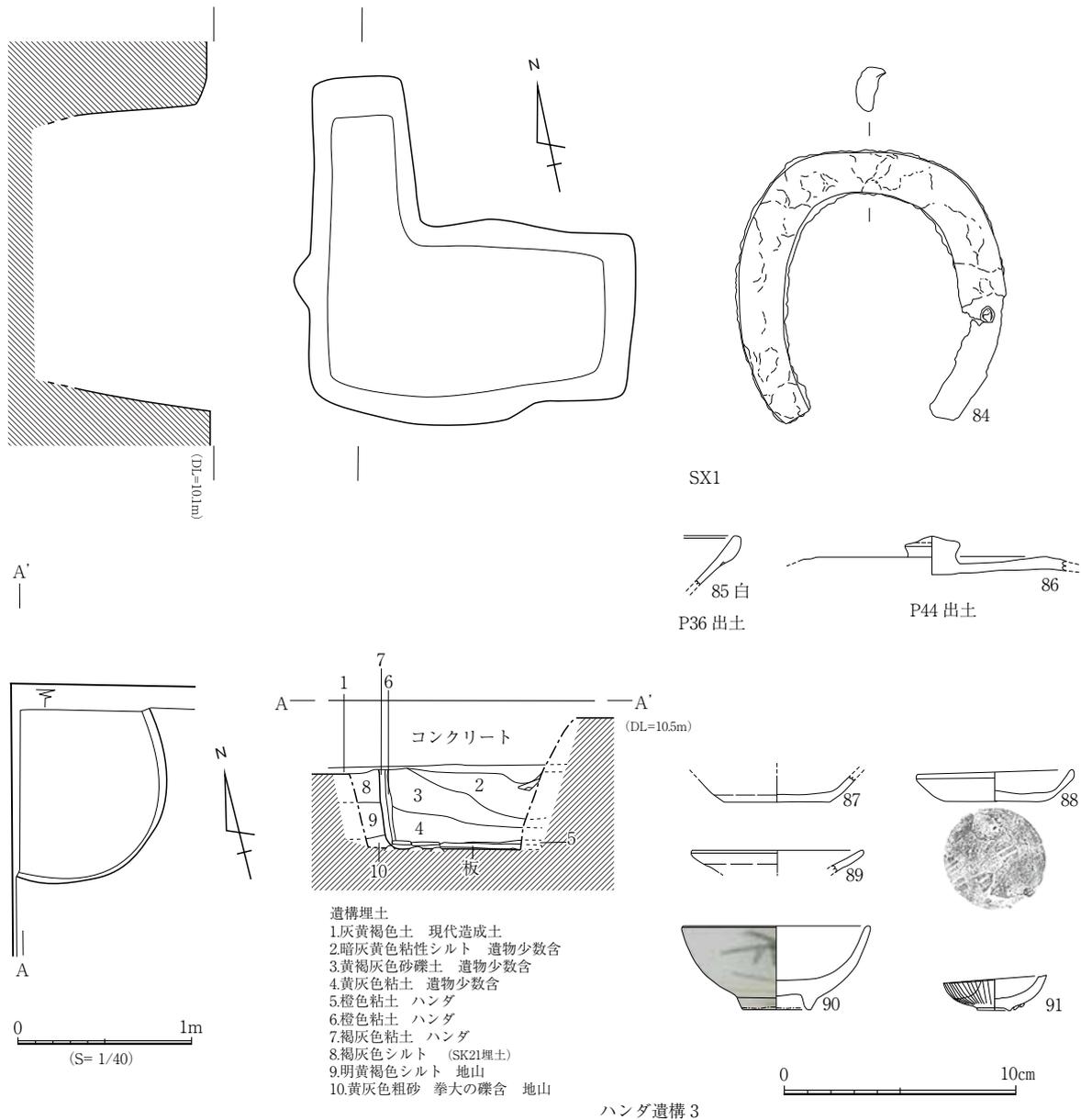
SK20



遺構埋土  
 1. 灰黄褐色土  
 2. にぶい黄褐色土 近世～近代遺物含  
 3. 褐灰色粘土 近世遺物含

SX3

図II-42 3-6区 SK20・SX3



図Ⅱ-43 3-6区 SX1・P36・44・ハンダ遺構3

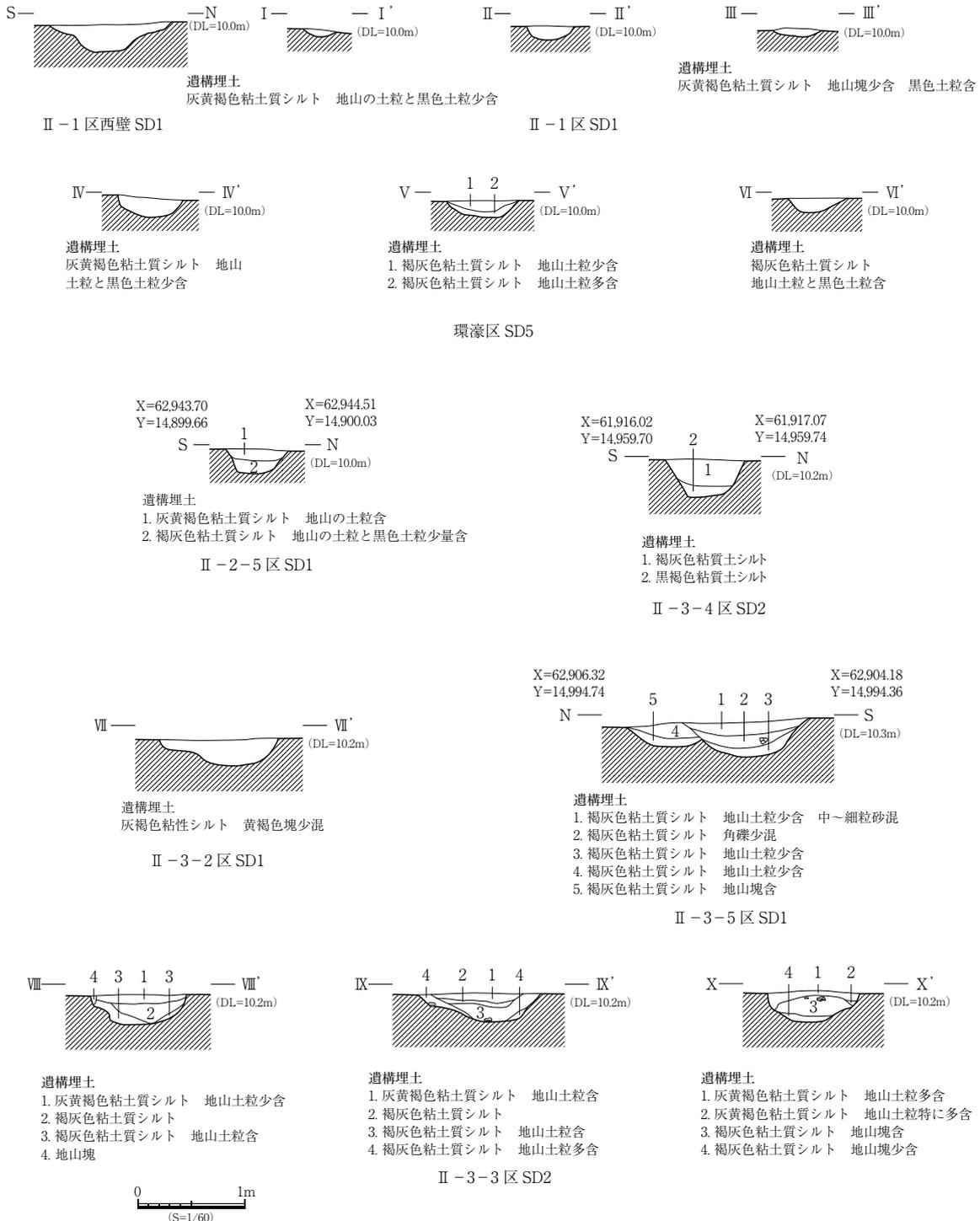
## Ⅱ区を縦断する溝跡

Ⅱ区を東西に縦断する溝跡で、1区、2-5・3-2・5区の各小区でSD1、3-3・4区でSD2、2-1・4・6区でSD5と呼称した。西部ではⅡ-2-4区北端付近で屈曲または分岐しているとみられる。東部はⅢ-4区西端で検出幅が減じ、それより東では検出されていない。各所で計測した規模は表9のとおりである。底面の標高は最高地点と最低地点で約0.3mの差があり、概ね東から西へ下がっている。埋土は各地点とも褐灰～灰黄褐色の粘土質シルトである。

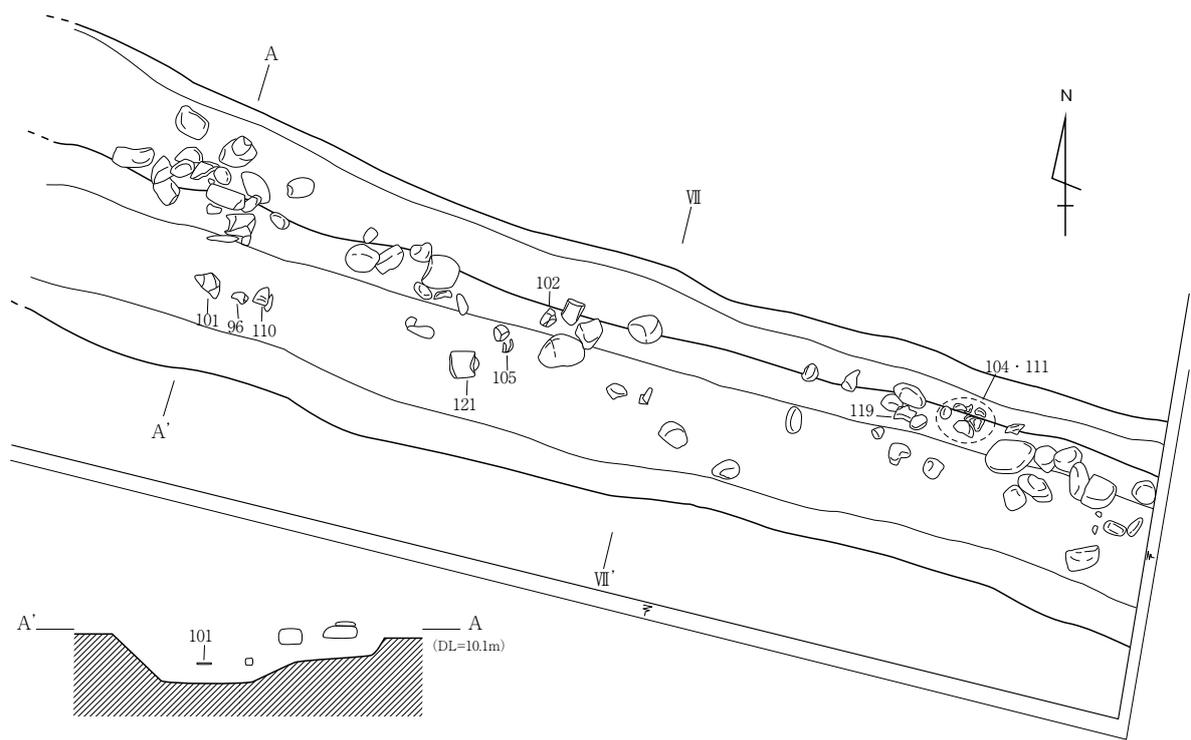
Ⅱ-3-5区では図Ⅱ-44および写真のように2重となっており、掘り直しが考えられる。各所で段部もあり、土層断面は図Ⅱ-68上のごとくである。

青磁碗145は、II-3-3区中央東寄りで出土した。当遺構の出土遺物は同区～5区で最も多く、II区西端部やIII-4区では細片かつ少数である。出土位置は、底面や側面に張り付いていたものもあるが、中層付近が多く、上記の145及びその付近から出土した遺物も例外ではない。

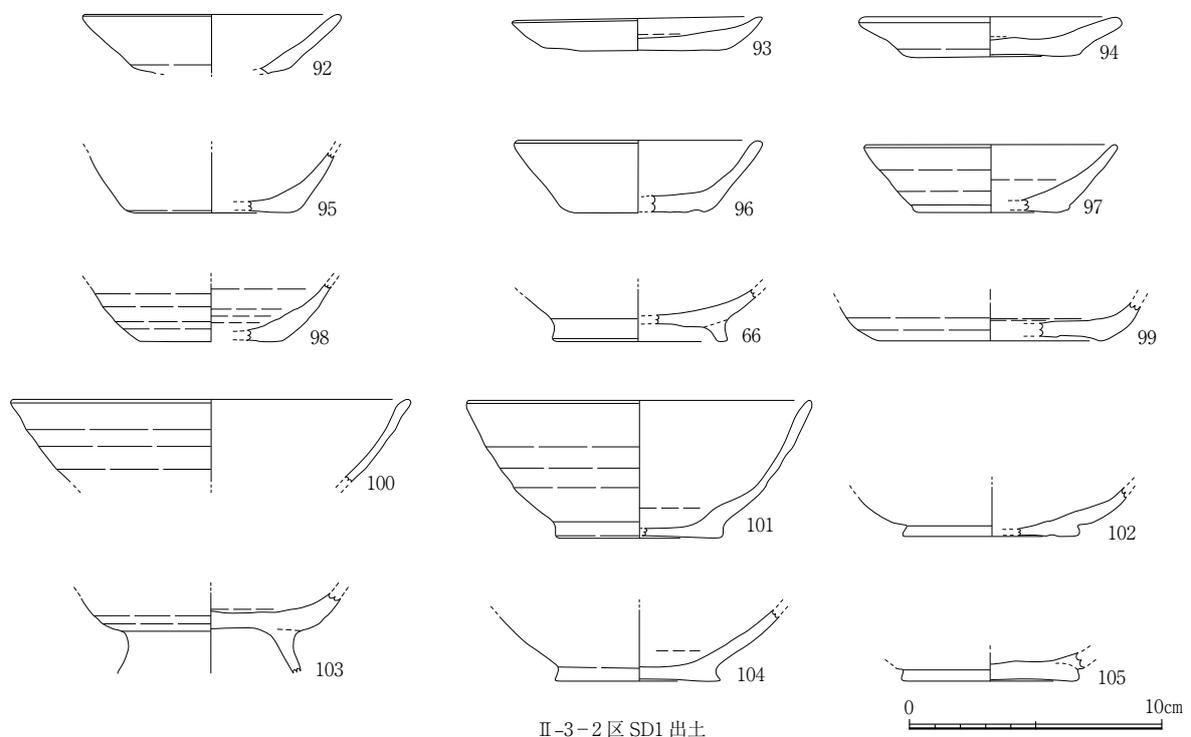
II-3-3区には当溝跡に切られる南北溝II-3-3区SD1があり、古代III期前半(10世紀後葉～11世紀)の須恵器椀、弥生土器等20片が出土している。



図II-44 東西横断SD断面図

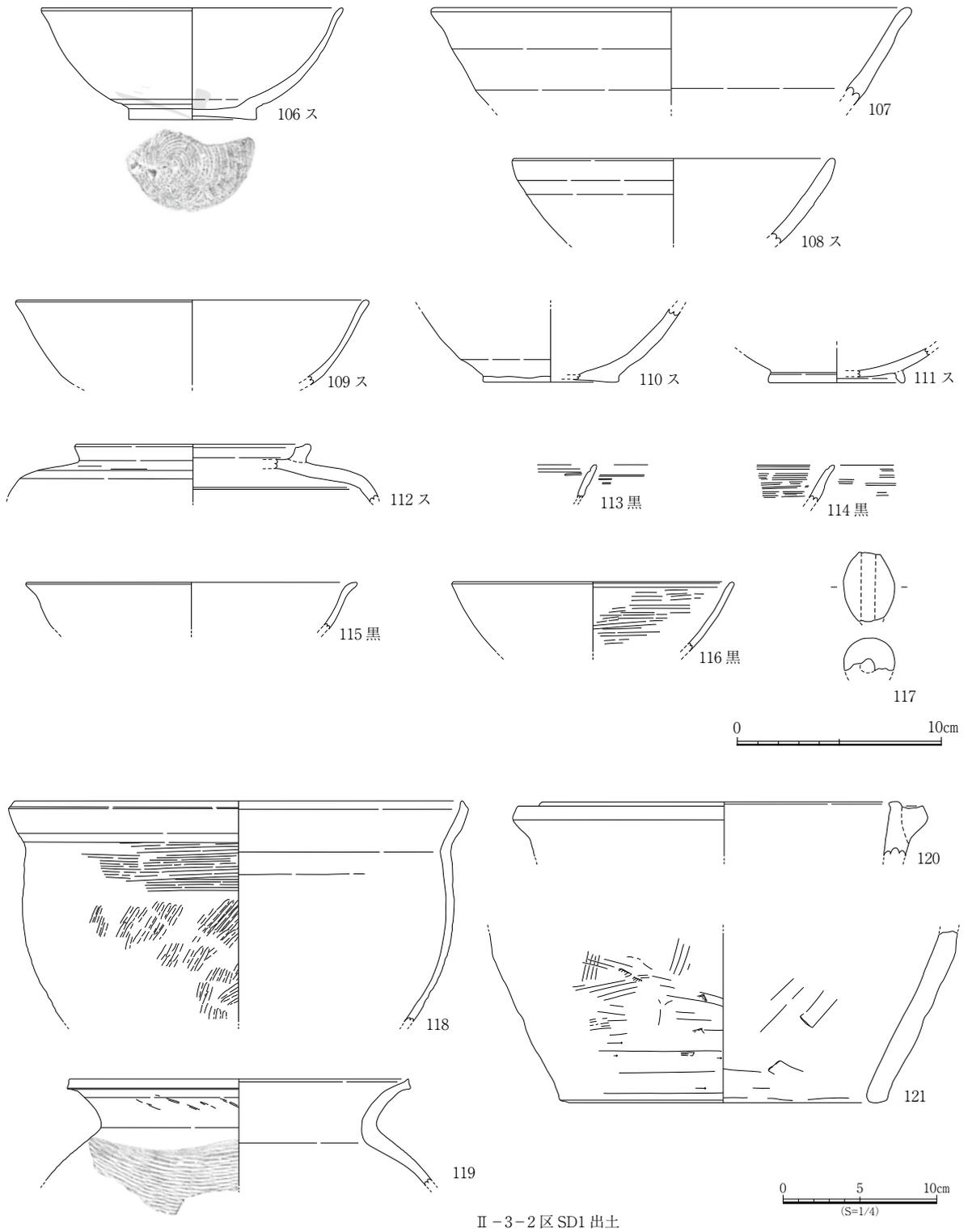


II-3-2区SD1遺物出土状況



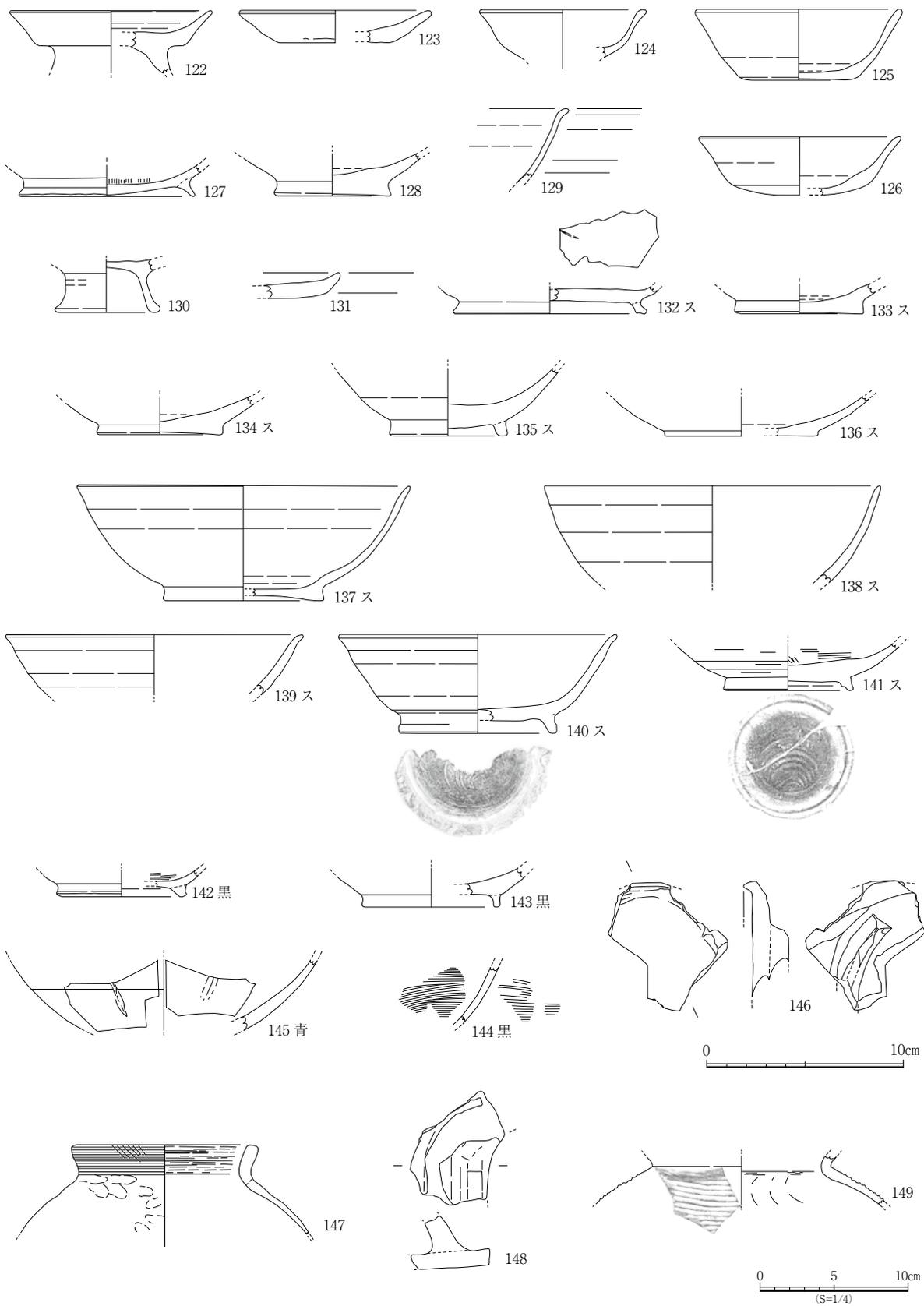
II-3-2区SD1出土

図II-45 東西横断SD遺物出土状況



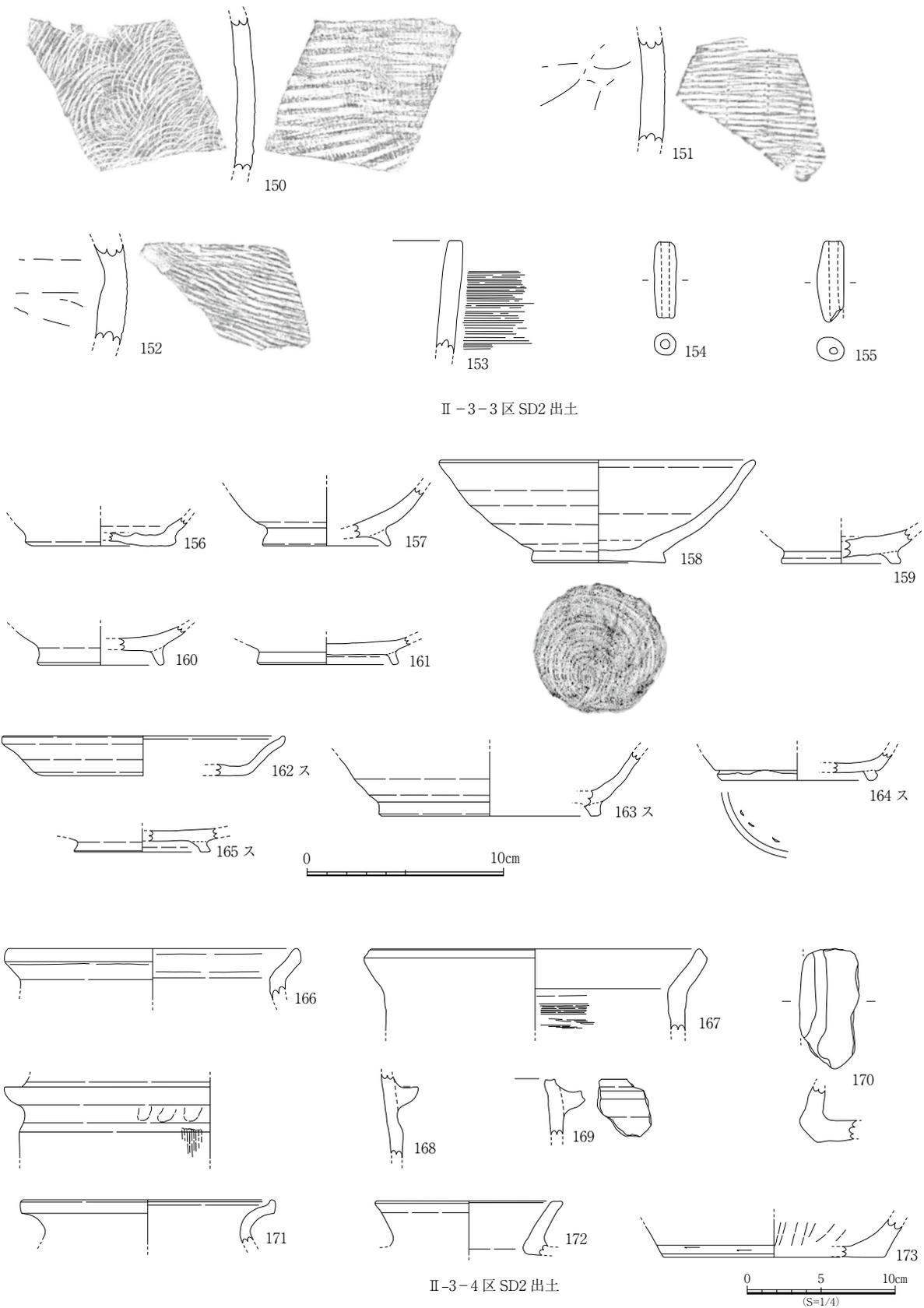
II-3-2区SD1出土

図II-46 東西横断SD出土遺物1

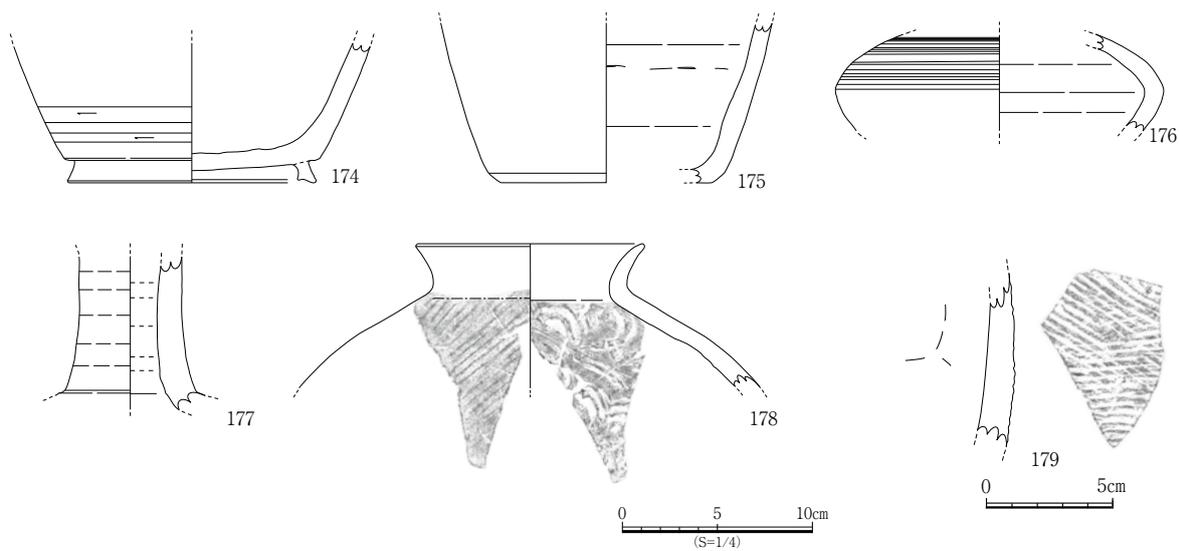


II-3-3区SD2出土

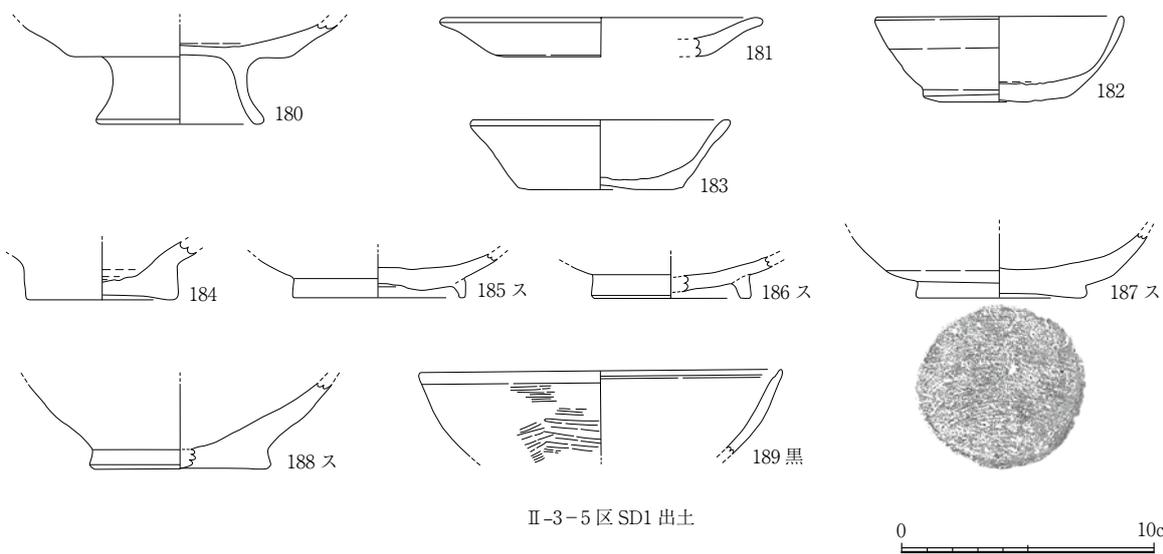
図II-47 東西横断SD出土遺物2



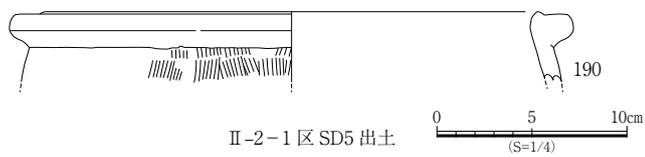
図II-48 東西横断SD出土遺物3



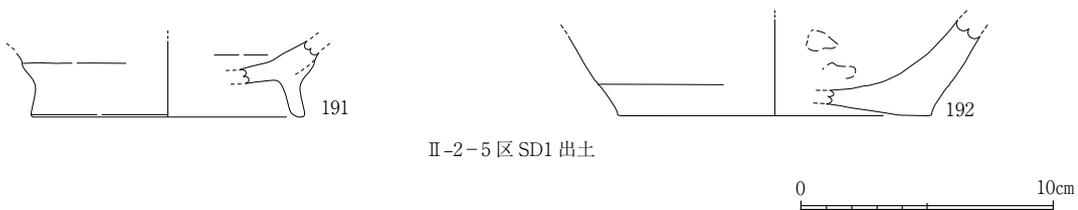
II-3-4区SD2出土



II-3-5区SD1出土

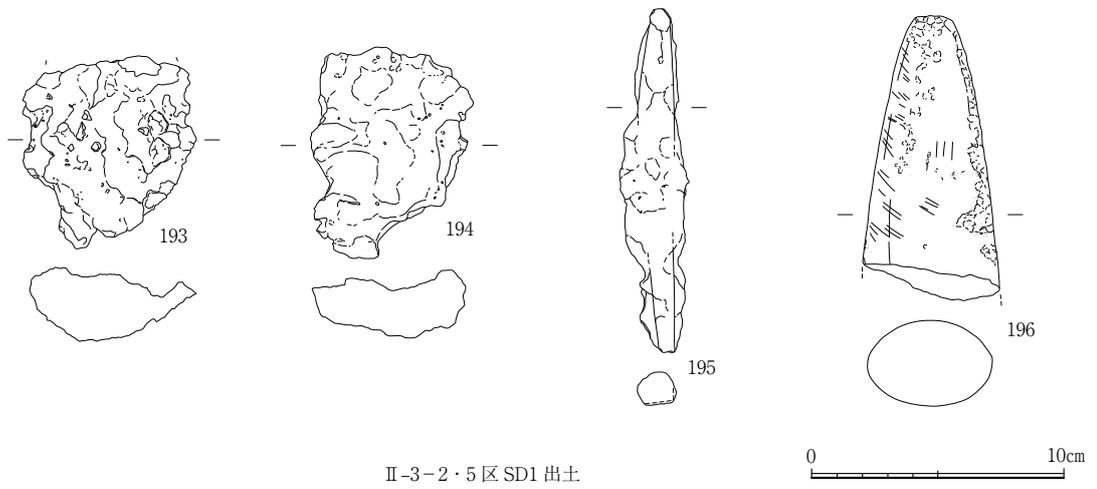


II-2-1区SD5出土



II-2-5区SD1出土

図II-49 東西横断SD出土遺物4



图II-50 东西横断SD出土遺物5

## 遺構計測表・遺物計数表等凡例

当凡例はⅡ-1～3, Ⅲ-1, Ⅲ-3-6・7, Ⅲ-4E, Ⅳ-3・4・8区に適用する。

規模(計測値)の( )は, 不明部分があるもの等。

遺構計測値は長さ(長軸), 幅(短軸), 深さ(残深)で単位は特記しない場合はm。深さやピットは適宜cmを使用。( )は全容不明な場合の確認規模や推定規模。

ピット内の柱痕は, セクションによるものは「柱痕幅」と表記。ピット底面の柱痕状落込みは「柱痕径」と表記。

掘立柱建物の柱穴で「SB\_\_-1」等と記したものは, 原則的に報告書作成段階で, 建物毎に北東隅柱穴より時計回りに付した番号。

出土遺物等の時期を次例のごとく略記する場合がある: 古=古代, 中=中世, 前=前期, 後=後期, ~ =以降(例: 古前~ = 古代前期以降, 古~中 = 古代から中世)。

上面・下面は検出面。

遺構の方位は, 最も近い正方位から時計回り方向への偏角。

「図」は遺物図版番号。

土=土師器又は土師質土器, 土質=土師質土器, 赤=赤彩土師器, 黒=黒色土器, 須=須恵器, (例: 土杯=土師器又は土師質土器杯, 須皿=須恵器皿), 施釉=施釉陶器, 錘=土錘, 塩=焼塩土器, 播=東播系須恵器, Y=弥生土器, 割石=割れた石, 炭=炭化物, 赤=被熱赤変, ナ=ナカト剥片, 不=不明

数字を付さないものは1点。

その他, 遺物観察表凡例に準ず。

表1 II-1区 遺構計測表

遺構名	小区	平面形	長軸	短軸	深さ	出土遺物	備考
SB1	2南	-	6.50	4.20	-	近世陶器碗	柱穴径 14 ~ 32 cm 深さ 12 ~ 27 cm
SB1-1 P1		円形	0.32	0.28	0.20	近世陶器碗	
SB1-2 P23		円形	0.14	0.14	0.12		
SB1-3 P22		楕円形	0.28	0.26	0.21		
SB1-4 P20		円形	0.30	0.30	0.27		
SB1-5 P64		円形	0.26	0.25	0.21		
SB1-6		楕円形	0.24	0.18	0.25		
SB1-7 P46		円形	0.32	0.32	0.18		
SB1-8 P29		楕円形	0.31	0.28	0.20		
SK1	2南	楕円形	1.50	1.00	0.14	集石, 備前甕片	
SK1b	1・3北	不整形	8.40	6.50	0.16	近現代中心に多数	
SK1a	1・3北	方形	9.50	8.90	1.75	数片	
SK4	1中	隅丸方形	2.10	1.50	0.48	同安窯青磁皿	
SD1	北	-	18.7	0.40	0.15	須恵器(摩耗)	
SD2		-	(37.7)	0.80	0.51	須蓋片(I-6期頃)	
SX8	2西	方形	3.40	2.50	1.04	型紙刷染付の他陶磁器, 瓦等 1.5箱	粗朶敷き
SX16	2西	長方形	2.00	0.60	1.25	木葉, 若干木片。SZ1分と混在: 東播系須恵器鉢3, 中甕2, 土鍋, 砥石	木棺内より出土 近世末
SX20	2西	長方形	1.90	0.50	0.65	木片	近世末 木棺墓
SZ1	2西	長方形	1.90	0.60	0.62	残 15・30 cm大の木片, 枝片各々 10片余。鏝・釘各1。陶器小杯(口縁1ヶ所欠く)(SX16参照)	木棺内より出土 近世末
P12	1東	円形	0.24	0.22	0.18	土皿(径約 10 cm)	

計測値は m  
計測表等凡例を参照。以下各表同じ。

表2 II-1・II-2-2区 近現代SK・SX 有文字遺物一覧

種類	文字	備考	色
	II-1区 SK1b 遺物総量コテ計13箱		
陶器 碗・皿	外底に「㊦」[5]	同一品3点。図II-7	
	外底に「東陽軒平八製」	同一銘2点。II-2-2区SK2で同銘品	
	外底に「倍山園」「瀬」? [304]		
	外底に「㊧」[508]		
	外底に「㊨」[598]		
	外底に「㊩」[105]		
	外底に「㊪」[143]		
	外底に「㊫」[343]		
	外底に「㊬」[389]		
	外底に「㊭」[529]		
	外底に「SUPERIOR QUALITY MADE IN JAPAN」		
白磁カップ	外底にスタンプによる上絵付で「極東□□磁器」, 「KYOKUTO T □」, (KとTを合わせた標章)		
陶器 不明	外底に「㊮」[674]		
陶器 おろし板	外底に「㊯」[10]		
ビール瓶	「日本麦酒醸造株式会社」「登録(三ツ矢)商標」		緑
	「DAINIPPON BREWERY CO. LTD.」	外底に15☆3	茶
	「キリンビール」「登録(KB)商標」		茶
薬瓶	「コロダエン」		無
	「仁救堂」「商標登録」「仁長」		無
	「□□製薬局」	上半分欠損	薄緑
	「ZENKOREN」/桜の商標に「共存同栄」	ビタミン系	茶
	「町田病院」	目盛有り	無
	「宮本外科」	目盛有り	無
	「テムム水」「東京薬院」		無

種類	文字	備考	色
薬瓶	「殺虫剤」「強力」「フマキラー」「株式会社大下回春堂」「東京都千代田区神田美倉町 11」「NET300c.c.」		茶
化粧品瓶	「みづほ染料」外底に「20」		無
	「五勺」「蒸気消毒全乳」「野市」「安岡」	スクリュー栓	無
	「宅間謹製」「黒蝴蝶」	白髪染めか	無
	「わかもと」「Wakamoto」外底に「NAGA9」		薄緑
	「KBK TOKYO」	カネボウの化粧品瓶 鐘形	濃紺
	「ノリト」	化粧品か	不透明白
不明	「羽衣」「定量」		無
	「すみれ」「定量」		無
調味料入れ	外底に「AJINOMOTO」		無
保存瓶	「TABLE SALT」	機械栓	緑
インク瓶	「BONTON INK」外底に「倉」		無
	「POPLAR」外底に「P」	インク瓶形	無
	「ATHENA INK」「MARUZEN S」	外底に「M」	無
プラスチック容器	「登録商標」「佐久間製菓株式会社」	樹脂製蓋 商標は菱形に帆船か	茶
	「naris」	ナリス化粧品	緑
	「OCAP」「CLEANSING CREAM」		茶
II-2-2区 SX1 遺物総量コテテ8箱			
白磁 表札	「」株式会社 / 俊（博か）」「貫々堂」	II-34 図	
陶器 調味料注し	「實用新案出願中□」	II-34 図	
磁器 銚子	「旭桜」「旭屋酒□」		
ガラス容器	星製薬株式会社 下痢止		
	ロート	滴下式両口点眼瓶	
	-	コルク栓タイプ目薬容器	
ガラス瓶類	資生堂 神薬 DISPENSARY		青
	低温殺菌全乳 香長ミルクプラント		無

種類	文字	備考	色
ガラス瓶類	コロダエン		無
	安川コロダイン		青
	醤油ツギ		
プラスチック容器	方形箱の身。幅5×長6.8×高2.9。底面に「東京日本橋區橋町三ノ八小川潮華園」,筆記体でSumizomeのロゴ,その他を陽刻		暗オリーブ
II-2-2区 SX2 遺物総量コンテナ2箱			
染付碗	外底に「東陽軒平八製」	II-1区SK1に同銘品	
ガラス小瓶	「君秀代」「定量」	白髪染容器か	

※ ガラス製品の色は基本的に透明色。「無」は無色透明。

表3 II-2-1・4・6区掘立柱建物等計測表

遺構名	小区	間数	規模(m)	柱穴長径	柱穴深さ	方位	出土遺物	備考
SB1	1	-	2.01×3.28	42～86	18～37	15.9°		柱痕径22～24cm
SB2	1	2×3	3.45×4.40	21～43	4～27	17.6°	瓦質鍋	
SB3	1	2×	4.10×5.01	16～42	4～51	14.1°	古代前期 柱痕に須恵器,杯B	
SB4	1	2×	2.81×3.10	28～40	26～33	13.8°		
SB5	1	2×3	3.54×4.39	24～55	12～36	12.2°	瓦質鍋	
SB6	1	2×2	3.15×4.25	22～56	11～45	10.9°	中世 瓦質鍋,土質皿(ミナチヤ)埋納	柱痕径21～25cm
SB7	1	(2×3)	3.00×(3.82)	28～61	7～48	10.1°		柱痕径9～22cm
SB8	1	-	(1.80)×(2.76)	26～48	16～35	14.4°		柱痕径19cm
SB9	1	2×(2)	3.51×(4.07)	24～41	15～33	8.9°		柱痕径19cm
SB10	1	3	4.75×5.28	20～44	9～46	10.0°	近世～ 近世陶器,瓦質鍋	柱痕径19cm
SB11	1	2×2	3.47×4.11	19～45	9～27	10.0°		柱痕径23～34cm
SB12	1	2×2	4.32×4.37	22～39	8～38	2.2°	中世～ 瓦質鍋	柱痕径15～22cm
SB13	1	(2×2)	(3.83)×(4.81)	23～27	4～33	17.6°		柱痕径10cm
SB14	1	2×3	2.48×4.62	19～60	7～38	5.4°	古代前期	柱痕径23cm
SB15	6	1×4+	3.90×7.60	38～55	12～53	13.6°	近世以降の青磁	柱痕径12～28cm
SB16	6	1×3	3.11×5.41	38～62	5～59	12.9°	弥生と土師器杯蓋	

遺構名	小区	間数	規模 (m)	柱穴長径	柱穴深さ	方位	出土遺物	備考
SB17	6	1×2	2.01×2.22	28～43	12～46	12.9°		柱痕径 12～15 cm
SB18	6	3+	5.49×5.83	16～42	9～44	10.6°	土質杯, 角釘, 鉄滓 (小)	
SB19	6	2×2	3.74×4.47	24～62	5～31	6.6°	礎石建物。中世以降。土質小皿	礎石長軸 28～42 cm
SB20	6	1×2	1.98×1.99	22～42	3～33	3.5°		
SA1	1	2	5.15	50～84	5～22	16.0°		
SA2	6	(4)	(5.29)	28～54	11～39	4.9°	須碗 C (Ⅲ-2期)	
SA3	6	(5)	(5.30)	30～44	14～40	4.3°	土杯 2埋納か。瓦質鍋	
SD1	1	-	-	-	-	16.0°		区画溝東辺。僅かに反る。
SD1	4	-	-	-	-	10.2°		区画溝西辺
SD2	4	-	-	-	-	8.7°		詳細は表 5

※ 柱穴計測値はcm

出土遺物詳細は、ピット一覧より該当ピットを参照

表 4 II-2-1・4・6区 ピット一覧

遺構名	小区	長軸	短軸	深さ	出土遺物	備考
P4	1	28	26	12	古代前期	
P13	1	34	30	20	古代～中世	
P18	1	28	26	11	古代前期	
P24	1	30	30	20	古代前期	
P34	1	40	32	20	古代～中世	
P40	1	35	31	6	古代前期か 須	
P136	1	62	60	36	古代前期か 須杯	
P193	1	29	(28)	13	瓦質播鉢	
P196	1	18	18	26	古代後期 土質碗	
P218	1	34	28	16	中世か 土師器甕 or 釜, 土質杯 F か杯埋納	
P352	1	22	22	20	瓦質鍋 (SD1 等と同型)	
P359	1	42	38	30	近世播鉢	

遺構名	小区	長軸	短軸	深さ	出土遺物	備考
P376	1	54	46	39	瓦質鍋	
P384	1	34	34	42	中世前	
P387	1	47	(39)	25	瓦質鍋	
P417	1	32	30	36	瓦質鍋	
P498	1	30	26	17	瓦質鍋	
P10	6	16	14	-	近世～ 染付	
P19	6	43	38	33	須高杯	
P34	6	23	20	19		
P44	6	48	35	45		
P71	6	21	20	7	手捏皿	
P77	6	(24)	24	11	近代～ ガラス瓶	
P92	6	26	19	23	砥石	
P121	6	21	18	47		
P122	6	28	27	13	瓦質土器片	
P192	6	64	62	51	鉄滓, 須杯, 土師質片	
P210	6	61	48	19	焼塩	
P310	6	40	32	44	中世～ 土質小皿	
P320	6	60	48	19	瓦質鍋	
P321	6	44	44	44	瓦質鍋	
P354	6	24	22	17	瓦質片	
P406	6	22	(20)	19	炭片 2	
SB1 - 1P299	1	42	32	26		隅丸長方形
SB1 - 2P296	1	68	55	19		隅丸方形
SB1 - 3P484	1	86	84	37		隅丸方形 柱痕径 24 cm
SB1 - 4P294	1	70	68	34		隅丸方形 柱痕径 22 cm

## 遺構計測表

遺構名	小区	長軸	短軸	深さ	出土遺物	備考
SB1 - 5P310	1	70	46	18		隅丸方形
SB2 - 1P158	1	29	26	4		
SB2 - 2P276	1	24	24	6		
SB2 - 3P279	1	28	(19)	6	瓦質鍋	
SB2 - 4P316	1	43	37	25		
SB2 - 5P334	1	24	22	27		
SB2 - 6P325	1	22	22	10		
SB2 - 7P258	1	36	27	24		川原石 2
SB2 - 8P173	1	24	23	9		
SB2 - 9P166	1	21	21	20		
SB3 - 1P27	1	19	16	10	古代前期	
SB3 - 2P135	1	34	28	22		
SB3 - 3P143	1	32	30	23		
SB3 - 4P120	1	40	38	51		
SB3 - 5P121	1	36	34	26		
SB3 - 6P122	1	29	(23)	9	古代前期か 柱痕に須, 杯 B	
SB3 - 7	1	20	18	6		
SB3 - 8	1	16	(12)	26		
SB3 - 9P98	1	25	24	22		
SB3 - 10P54	1	32	30	27		
SB3 - 11P58	1	21	20	4		
SB3 - 12P47	1	42	42	27		
SB3 - 13P38	1	32	30	20		
SB3 - 14P39	1	30	30	21		
SB4 - 1P23	1	40	33	19		

遺構名	小区	長軸	短軸	深さ	出土遺物	備考
SB4 - 2P139	1	32	28	30		
SB4 - 3P140	1	28	26	20		
SB4 - 4P124	1	32	28	12		
SB4 - 5P37	1	29	28	21		
SB4 - 6P28	1	34	32	21		
SB5 - 1P232	1	42	40	25		
SB5 - 2P345	1	55	50	36	瓦質鍋	
SB5 - 3P393	1	40	38	32		
SB5 - 4P399	1	34	30	20		
SB5 - 5P405	1	36	36	25		
SB5 - 6P410	1	42	37	32		
SB5 - 7P361	1	44	40	34		
SB5 - 8P211	1	24	22	12		
SB5 - 9P226	1	40	36	33		
SB5 - 10P228	1	28	26	17		
SB6 - 1P284	1	39	37	38	瓦質鍋	柱痕径 21 cm
SB6 - 2P298	1	22	22	11		
SB6 - 3P440	1	37	(28)	21		
SB6 - 4P423	1	29	28	25		
SB6 - 5P441	1	34	32	28	中世 土質皿 (ミチナフ) 埋納	
SB6 - 6P443	1	34	(28)	20		柱痕径 25 cm
SB6 - 7P447	1	56	48	45		
SB6 - 8P316	1	44	38	25		
SB7 - 1P229	1	34	28	7		
SB7 - 2P355	1	30	26	13		

## 遺構計測表

遺構名	小区	長軸	短軸	深さ	出土遺物	備考
SB7 - 3P382	1	58	48	32		川原石 3
SB7 - 4P389	1	46	42	34		柱痕径 15 cm
SB7 - 5P371	1	58	46	28		川原石 1
SB7 - 6P367	1	61	52	47		
SB7 - 7P366	1	48	40	48		柱痕径 22 cm
SB7 - 8P199	1	54	44	37		柱痕径 9 cm
SB7 - 9P209	1	52	44	26		
SB7 - 10P224	1	28	22	21		
SB8 - 1P394	1	48	45	32		川原石 1
SB8 - 2P418	1	46	42	24		
SB8 - 3P409	1	26	24	16		
SB8 - 4P408	1	36	28	27		
SB8 - 5P406	1	36	36	35		柱痕径 19 cm
SB8 - 6P400	1	38	34	32		川原石 1
SB9 - 1P344	1	26	26	17		
SB9 - 2P392	1	28	18	15		
SB9 - 3P420	1	32	26	28		柱痕径 19 cm
SB9 - 4P481	1	41	36	30		
SB9 - 5P364	1	38	30	33		
SB9 - 6P380	1	24	20	21		
SB10 - 1P250	1	29	29	20		
SB10 - 2P329	1	(30)	30	26		
SB10 - 3P340	1	20	20	9		
SB10 - 4P385	1	38	34	27		
SB10 - 5P402	1	32	26	23		

遺構名	小区	長軸	短軸	深さ	出土遺物	備考
SB10 - 6P365	1	40	34	21		
SB10 - 7P360	1	38	33	27		
SB10 - 8P203	1	44	20	26		
SB10 - 9P212	1	36	30	19	近世～ 近世陶器	川原石 2
SB10 - 10P186	1	38	36	46	瓦質鍋	柱痕径 19 cm
SB10 - 11P492	1	20	18	29		
SB10 - 12P239	1	22	20	13		
SB11 - 1P245	1	36	32	26		柱痕径 34 cm
SB11 - 2P331	1	30	(28)	24		
SB11 - 3P337	1	33	32	17		
SB11 - 4P381	1	26	26	13		
SB11 - 5P377	1	30	23	27		
SB11 - 6P373	1	32	28	13		
SB11 - 7P208	1	34	28	20		柱痕径 23 cm
SB11 - 8P215	1	19	18	9		
SB11 - 9P185	1	45	44	18		
SB12 - 1P273	1	28	28	9		
SB12 - 2P284	1	39	37	38	中世～ 瓦質鍋	柱痕径 22 cm
SB12 - 3P297	1	32	26	26		柱痕径 19 cm
SB12 - 4P294	1	22	20	34		
SB12 - 5P485	1	30	(22)	36		
SB12 - 6P336	1	37	32	30		柱痕径 15 cm
SB12 - 7P327	1	24	22	14		
SB12 - 8P261	1	24	18	8		
SB13 - 1P275	1	36	34	4		

## 遺構計測表

遺構名	小区	長軸	短軸	深さ	出土遺物	備考
SB13 - 2P286	1	24	24	13		
SB13 - 3P289	1	23	22	14		
SB13 - 4P440	1	37	(28)	21		
SB13 - 5P330	1	(24)	24	33		柱痕径 10 cm
SB13 - 6P323	1	25	(22)	10		
SB14 - 1P6	1	60	40	34		柱痕径 23 cm
SB14 - 2P57	1	28	28	13		
SB14 - 3P56	1	32	31	38		
SB14 - 4P96	1	28	27	12		
SB14 - 5P92	1	42	40	18		
SB14 - 6P71	1	28	25	7		
SB14 - 7P490	1	19	18	10		
SB14 - 8P63	1	29	28	16		
SB14 - 9P3	1	40	27	20	古代前期	
SB15 - 1P179	6	44	42	53	近世以降の青磁	柱痕径 22 cm
SB15 - 2P209	6	38	37	39		
SB15 - 3P207	6	40	39	51		
SB15 - 4P218	6	39	35	30		柱痕径 12 cm
SB15 - 5P428	6	48	42	47		
SB15 - 6P431	6	55	46	24		
SB15 - 7P214	6	44	40	12		
SB15 - 8P213	6	46	44	25		柱痕径 28 cm
SB15 - 9P191	6	42	39	44		
SB16 - 1P230	6	44	40	5		
SB16 - 2P235	6	52	51	22		

遺構名	小区	長軸	短軸	深さ	出土遺物	備考
SB16 - 3P337	6	62	50	30		
SB16 - 4P260	6	52	50	59		
SB16 - 5P423	6	56	50	30		
SB16 - 6P424	6	54	52	30	土師器杯蓋, 弥生	
SB16 - 7P426	6	60	53	28		
SB16 - 8P427	6	38	34	14		
SB17 - 1P233	6	34	34	26		
SB17 - 2P243	6	28	27	32		柱痕径 15 cm
SB17 - 3P425	6	32	31	46		柱痕径 12 cm
SB17 - 4P432	6	38	34	12		
SB17 - 5	6	39	36	23		
SB17 - 6P231	6	43	40	38		
SB18 - 1P393	6	38	34	33	角釘	
SB18 - 2P356	6	34	20	44	鉄滓 (小)	
SB18 - 3P381	6	34	29	30		
SB18 - 4P31	6	32	30	42		
SB18 - 5P14	6	20	20	9		
SB18 - 6P4	6	22	20	16		
SB18 - 7P5	6	24	20	10		
SB18 - 8P6	6	33	28	21		
SB18 - 9P308	6	32	28	22		
SB18 - 10P300	6	42	29	20		
SB18 - 11P290	6	35	32	23		
SB18 - 12P275	6	22	22	24		
SB18 - 13P276	6	27	22	17		

## 遺構計測表

遺構名	小区	長軸	短軸	深さ	出土遺物	備考
SB18 - 14P401	6	16	14	28		
SB18 - 15P377	6	30	28	17	土質杯	
SB19 - 1P342	6	55	48	5	図7	礎石 32×14 cm
SB19 - 2P355	6	32	(23)	14		
SB19 - 3P54	6	28	28	31		
SB19 - 4P366	6	56	50	26		礎石 30×7 cm 川原石 3 柱痕径 18 cm
SB19 - 5P309	6	56	40	21		礎石 28×10 cm 川原石 2
SB19 - 6P11	6	50	(36)	13		礎石 34×10 cm 川原石 2
SB19 - 7P436	6	52	46	27		
SB19 - 8P301	6	48	48	15		礎石 42×13 cm
SB19 - 9P291	6	60	53	18		礎石 34×9 cm 川原石 3
SB19 - 10P434	6	62	54	20		礎石 30×17 cm
SB19 - 11P318	6	62	(60)	10		
SB19 - 12P296	6	52	51	14	中世～ 土質小皿	礎石 36×11 cm
SB20 - 1P420	6	22	19	3		
SB20 - 2P413	6	42	36	33		
SB20 - 3P412	6	30	26	27		
SB20 - 4P410	6	31	26	24		
SB20 - 5P411	6	24	(16)	13		
SB20 - 6P416	6	26	22	16		
SB20 - 7P419	6	28	18	9		
SA1 - 1P474	1	50	(40)	6		
SA1 - 2P434	1	84	74	22		
SA1 - 3P433	1	62	48	5		
SA2 - 1P380	6	54	(43)	25	須椀 C (Ⅲ - 2期)	

遺構名	小区	長軸	短軸	深さ	出土遺物	備考
SA2 - 2P26	6	32	22	39		
SA2 - 3P20	6	28	25	11		川原石 1
SA2 - 4P16	6	(40)	40	15		
SA2 - 5P2	6	50	46	24		川原石 3
SA3 - 1P363	6	36	30	33		
SA3 - 2P365	6	38	32	32		
SA3 - 3P364	6	32	30	40		
SA3 - 4P46	6	30	29	25		
SA3 - 5P22	6	33	28	19		
SA3 - 6P17	6	34	26	33		
SA3 - 7P1	6	44	30	14	土杯 2 埋納か (42), 瓦質鍋 (43)	

計測値はcm

表 5 II - 2 - 1・4・6 区 計測表 (ピット以外)

遺構名	小区	平面形	長軸	短軸	深さ	出土遺物	備考
SK8	1	楕円形	1.2	1.1	0.13	須・土 10 片	古代か
SK13	1	円形	0.8	0.8	0.29	近世 近世陶器,かわらけ	
SK15	1	円形	1.5	(1.4)	0.41	瓦質播鉢, 他土・須 10 片	
SD1	1	断面逆台形~V字	(27.7)	0.8	0.58	陶磁器は白磁Ⅳ類, 青磁各 1 のみ。瓦質鍋の脚片 2。19 点実測。	区画溝
SD3	1	-	(2.3)	(0.4)	0.37	南端の溝状。6 区 SD3 へ。遺物様相は SD1 と大差なし。	
SD4	1	断面逆台形か	(3.4)	0.4	0.41	〃	14 点実測
SX1	1	溝状長方形	(10.8)	1.0	0.57	図 II - 27。SD1 と接合あり。	SD1 の上
SX8	1	不明	1.9	(1.3)	0.16	近世~ 瓦 2 片, 甕 A (古代前期)	
SX10	1	長方形	5.8	1.7	0.19	近世陶器碗, 須・土約 90 片	
SK2	4	不定形	1.2	0.6	0.32	近世備前水甕他	

遺構名	小区	平面形	長軸	短軸	深さ	出土遺物	備考
SK7	4	方形	2.0	1.3	0.31	近世後期 播鉢, 能茶山染付	
SD1	4	断面V字	(20.0)	0.7	0.82	8C一定数, Ⅲ-1~2期須碗, 紀伊型土釜, 瓦質鍋の脚片, 軽石2	区画溝。1区SD1と遺物様相同じ。
SD2	4	断面U字	(21.4)	0.7	0.31	遺物少(約70片)	区画溝。1区SD1と遺物様相同じSD1と僅かにずれる。
SK2	6	方形	1.6	1.3	0.14	東播鉢(41), 瓦質鍋	
SK8	6	不明	(6.4)	(0.5)	0.70	近世 焙烙と陶器碗	一部

計測値はm

表6 II-2-2・7区 遺構一覧

遺構名	小区	平面形	長軸	短軸	深さ	出土遺物等
SK3	2	楕円形	0.6	0.4	0.13	土碗 or 杯, 他10
SD1	2	東西	(9.8)	0.3	0.11	瓦鍋脚片, 近世SX5に連結又は切合い
SD2	2	南北	(4.5)	0.4	0.22	須碗C(Ⅲ-1~2期)
SX1	2	不明	(1.8)	(1.1)	0.60	コテナ8箱。詳細は表2と本文。
SX2	2	隅丸長方形か	(5.5)	3.2	1.06	コテナ2箱。詳細は表2と本文。
SK1	7	円形	1.7	(1.4)	0.46	片口大鉢(完形), 瓦, 火具各形, 陶磁器食器, 漆器, 下駄, 桶底板等, 総量5箱
SK2	7	円形	1.6	(1.4)	0.44	SK1と同相だが35片(丸棒炭1含)
SX1	7	不明	(1.1)	(0.5)	0.12	幕末~近世初期

計測値はm

表7 II-3-2~6区 遺構出土遺物一覧

遺構名	小区	出土遺物等
SX1	II-3-2	近世1片
P2		古代後期 土・杯埋納(図II-38)
攪乱1		近代 白磁IV類(図II-38)
SX1	II-3-5	近現代
P1		土質1片
SD1	II-3-3	南北溝。SD2(平安縦断溝)に切られる。有段, 全幅110・深さ28cm。古代Ⅲ期前葉の須碗, 弥等20片。

遺構名	小区	出土遺物等
SK10	II-3-6	古代 須,土師器のみ 20片
SK14		(図II-41)
SK20		(図II-42)
SX1		近世 陶磁器 13片,蹄鉄
SX3		近世陶磁器百数十(広東碗等),瓦片,銭
ハンダ遺構 3		灰釉中碗等 10片,砥石 1片・底板検出
P9		瓦質 or 瓦器片
P36		白磁Ⅳ類碗(図II-43)
P43		泥面子
P44		古代・弥生 8片

表 8 II-3-6区 掘立柱建物跡一覧

遺構名	規模	柱穴	柱穴長径/深さ(cm)	出土遺物等
SB1	3.77×3.84	P1,5,19,26,30	42 ~ 65/18 ~ 42	P1,5,19,26,30より須,土師又は土質片各数~10数片。SB2と重複。
SB2	3.88×5.89	P2,3,11,12,13,14,15	21 ~ 55/21 ~ 41	P2,11,12,13,14,15より須,土師又は土質片各数~10数片

表 9 II区縦断SD計測表

位置	幅(cm)	深さ	底面標高(m)
II-1-2区 西壁	114.0	27.8	9.63
II-1-1区 東壁	39.8	11.0	9.59
II-2-5区	58.1	23.4	9.73
II-2-6区	59.0	21.0	9.76
II-3-3区	86.1	29.7	9.84
II-3-5区	119.3	36.3	9.90
II-4-1区 東壁	95.2	24.0	9.80



## 観察表凡例

当凡例はⅡ-1~3, Ⅲ-1, Ⅲ-3-6・7, Ⅲ-4E, Ⅳ-3・4・8区に適用する。

精=精選, 選=選ばれた胎土, 赤い=赤色風化礫, 不=不良, 摩=摩耗, 滑=滑らか(な仕上げ)

色調は, 部位未記入のものは原則的に外面。

糸切, ヘラ切は底部切離し法。

在地産土器の型式分類や\_\_期, \_\_C.といった編年・年代観は池澤(池澤 1998・2000・2004)による。貿易陶磁器は太宰府分類等。

残存率は, 基本的に復原円周に対する割合。

その他はP130の凡例に準ず。

---

### 註

池澤俊幸 1998「南四国における古代前期の土器様相-下ノ坪遺跡の成果を中心として-」『下ノ坪遺跡

Ⅱ』 野市町教育委員会

同 2000「土佐からみた平安時代の土器」『中近世土器の基礎研究』Ⅳ 日本中世土器研究会

同 2004「四国における古代後期から中世の土器様相」『中近世土器の基礎研究』Ⅷ 日本中世土器研究会

出土遺物（土製品・容器）観察表

挿図 番号	図版 番号	出土場所 (遺構)	器種 器形	法量 (cm)			色調 (外面) 胎土	特徴	備考
				口径	器高	底径			
II-7	1	II-1-1 SK1b	染付 皿	11.4	4.0	5.8	灰白色	統制陶器	2/3
II-15	6	II-2-1 P 441	土師質 皿	5.2	1.6	3.8	にぶい橙色		摩。1/2
II-25	7	II-2-6 P 342	土師質 杯	14.0	4.5	6.8	にぶい黄橙色		摩。底 2/5
II-27	8	II-2-1 SD1	土師器 皿	13.4	3.0	9.7	橙色	手捏ね成形。ハケ痕。全面押圧痕。薄手。	摩。3/4
〃	9	〃	〃				橙色	手捏ね成形。口縁外面はやや立上げる。	摩
〃	10	〃	土師器 皿か椀	14.6			橙色	手捏ね。薄手。	全摩。1/5
〃	11	〃	土師器 皿				橙色	手捏ね。薄手。	摩
〃	12	〃	土師質 釜	22.4			黒褐色 内面明褐色 焼成不良	花崗岩風化レキ多含。搬入品。胴外強くススケか。	1/15
〃	13	〃	瓦質か 鉢	26.0			灰白色 断面黄灰色 焼成不良	断面灰色	摩著。1/9
〃	14	〃	瓦質 鍋	23.8			灰色 断面黄灰色 胎土選		摩。1/15
〃	15	〃	〃	28.1			灰色 断面灰白色		摩。1/15
〃	16	〃	須恵器 壺				灰色	外面・ハケ状原体を押圧, その後回転ナデ。凸帯貼付。 凸帯上面に降灰。内面に接合痕か。	1/8
〃	17	II-2-1 SD1 SX1or2	土師器 皿	15.7			橙色 胎土選	手捏ね。口縁外沈線。	SD1と上位 遺構が接合。 1/9
〃	18	II-2-1 SX1	瓦質 鍋	18.0			灰白色	外底褐色	摩。1/8
〃	19	〃	青磁 碗				オリーブ灰色	貫入	
II-28	20	II-2-4 SD1	土師器 皿	14.8			浅黄橙色	手捏ね。口縁・ヨコナデにより, 明瞭な段。	1/9
〃	21	〃	瓦質 鉢	25.5			灰白色 胎土選 焼成不良	瓦質土器	摩。1/13
〃	22	〃	土師器 釜				内面にぶい橙色 焼成良	口縁ヨコナデ。紀伊型土釜とみられる。石英等の他, 光る微細片含。僅かに雲母片。口縁外ススケ。	
〃	23	〃	瓦質 釜				灰白色 焼成不良	瓦質土器	摩
〃	24	〃	瓦質 鍋	16.1	胴径 18.0		灰色 断面灰白色	外面・オサエ痕	摩。1/9
〃	25	〃	〃	14.0	胴径 16.9		灰白色	口縁外面・斜位の連続オサエ	摩。1/10
〃	26	〃	〃	28.2			黄灰色 断面灰白色 焼成不良	口縁外面・押圧痕。内面斜位のナデ又はハケか。	摩。1/18

挿図 番号	図版 番号	出土場所 (遺構)	器種 器形	法量 (cm)			色調 (外面) 胎土	特 徴	備 考
				口径	器高	底径			
II-30	27	II-2-1 SD3・4	土師器 皿	14.1			浅黄橙色	口縁ヨコナデ	1/4
〃	28	〃	〃	13.9			橙色 胎土選		摩。1/4
〃	29	〃	〃	15.8			にぶい橙色		摩。1/6
〃	30	〃	瓦質 播鉢				外断面黄灰色	内面播目	
〃	31	〃	〃	19.9			灰白色 胎土選 焼成不良	片口。内面・播目。	摩。1/9
〃	32	〃	青磁 碗	13.8			灰オリーブ色 断面灰色	内外貫入著	
〃	33	〃	白磁 碗			7.0	内断面灰白色	畳付滑。白磁IV類。	1/5
〃	34	〃	瓦質 鍋	18.6			灰白色 内面黄灰色	内面にハケ痕残	摩。1/7
〃	35	〃	〃	21.6			黄灰色	外面・斜位のオサエナデ	摩。1/4
〃	36	〃	〃	20.5	胴径 21.6		灰白色 焼成不良	口縁外面・斜位のオサエナデ。ススケ。	摩。1/5
〃	37	〃	瓦質 鍋	21.0			灰白色 胎土選 焼成不良	外面・上位は斜にオサエ痕並ぶ。外底ススケ。在地産。	摩著。1/3
〃	38	〃	土師質 土錘	全長 4.2	全幅 1.6 全厚 1.5	重量 8.72g	淡黄色		
〃	39	II-2-6 SD4	瓦質 播鉢	27.4			灰白色 胎土選	内面に播目。内滑。	外摩。1/18
〃	40	〃	瓦質 鍋	22.9			灰色	接合面で折損。外面・ススケ。	摩著。1/5
II-31	41	II-2-6 SK2	須恵器 鉢				灰色 胎土選	外面,口縁内面,ヨコナデ。口縁外のみ濃色(重ね焼)。 東播系。	
〃	42	II-2-6 P 1	土師質 杯	14.0	3.7	6.4	にぶい黄橙色	糸切	全摩。底 2/3
〃	43	〃	瓦質 鍋	20.1			灰白色 焼成不良	上半部外面・斜位の連続オサエ	摩。1/5
〃	44	II-2-6 P 34	瓦質 釜	20.6			灰白色 断面灰色	ススケ	摩。1/14
〃	45	II-2-6 P 44	青磁 碗			5.1	灰オリーブ色 断面灰白色	内底に印刻文。底部厚手。外底露胎。	3/5
〃	46	II-2-6 P 121	白磁 碗				灰オリーブ色 断面灰白色	白磁IV類	
〃	47	II-2-6 P 79	青磁 碗	14.4			灰オリーブ色 断面灰白色	細貫入	1/6
〃	48	II-2-1 P 218 検面	土師質 碗	15.0	5.2	7.0	にぶい橙色	内面・滑。糸切。III-3期。	摩。底 1/2
〃	49	II-2-6 P 380	土師質 杯			6.2	にぶい黄橙色	外底静止糸切	摩。底 1/1
〃	50	II-2-1 P 384	土師器 皿	14.6			にぶい橙色 断面橙色 胎土選	手捏ね。口縁ヨコナデ。	摩。1/7

挿図 番号	図版 番号	出土場所 (遺構)	器種 器形	法量 (cm)			色調 (外面) 胎土	特徴	備考
				口径	器高	底径			
II-34	51	II-2-2 SX1	瓦					小口面の刻印のみ図示。キラ粉。	断片
〃	52	〃	染付 皿	10.8	2.4	5.7	灰白色	統制陶器。外底に「岐」か。内表面は油滴状に反射。2彩の上絵は転写。	1/4
〃	53	〃	〃	11.2	2.2	6.0	灰白色	統制陶器。「岐282」。	1/2
〃	54	〃	陶器 鉢か			16.0	黒褐色内面灰白色 断面にぶい橙色 胎土精	外面・褐色。内面・白色の厚い釉。外底露胎，回転ケズリ。畳付に押判。	
〃	55	〃	陶器 調味料 注し		器高 8.6 胴径 6.6	6.4	明緑～淡黄 断面灰白	胴部6角柱形。蓋と身。蓋の受部の基部に4mmの穿孔。薄手，型作り。内外薄色の緑釉。外底・露胎。「實用新案出願中□」の刻印。	2/3
〃	56	〃	染付 碗	10.0	4.6	3.2	灰白色	外面の上絵は痕跡のみ残る。畳付のみ露胎。素地整形はやや雑。	
〃	57	〃	白磁 表札		厚さ 2.1		外断面白色	表～側面施釉。裏面露胎。表面の文字をヤスリ等で削り取っている，「□」株式会社 /□俊（博か）。裏面押印「貫々堂」。	
〃	58	〃	化粧品 容器蓋	(5.5)	1.4		内面黒色	樹脂製。天井外の陽刻はヨット。	口縁一部欠
〃	59	〃	化粧品 容器蓋	6.0	1.25		内面黒色	樹脂製。スクリー式の蓋。「SHISEIDO」「VANISHING CREAM」「De Luxe」	塗装剥落。 完
II-36	60	II-2-7 SK1	陶器 播鉢	27.4	9.9	13.2	暗赤褐色 断面にぶい橙色 胎土レキ多	内面・口縁ヨコナデが擋目を切る。外底・ハナレズナか。平行圧痕。13mmまでの花崗岩風化レキ合。	
〃	61	〃	染付 碗	10.2	5.6	4.0	灰白色	畳付のみ露胎	完
〃	62	〃	〃			5.8	灰白色	能茶山窯	1/1
〃	63	〃	染付 皿	12.5	3.0	8.0	灰白色	蛇目底。口縁輪花。	一部のみ欠
〃	64	〃	瓦質 火鉢	21.6	20.9	23.0	内外面暗灰色 断面灰白及び暗灰 焼成良	獅子頭の把手を貼付。型押による亀甲文，樹木文か。内面・回転ナデ。外面・ミガキ。口縁上端は使用による弱い敲打，畳付摩。	底 1/1
II-38	65	II-3-2 P 2	土師質 杯	13.7	5.1	6.3	浅黄橙色	糸切	摩。口縁一部のみ欠
〃	67	II-3-2 攪乱 1	白磁 碗			7.3	灰白色	内底に沈線。外底削出し。高台外側にカンナ痕。白磁IV類。	1/2
〃	68	II-3-3 P 53	土製品 土錘	全長 3.3	全幅 1.3 孔径 0.4	重量 4.24g			摩。僅かに欠
〃	69	II-3-3 P 59	青磁 碗				暗オリーブ色 断面灰オリーブ色	線描の蓮弁文	
〃	70	II-3-3 表採	土師質 皿	8.4	2.0	4.4	にぶい黄橙色	糸切	摩。底 7/8
〃	71	〃	土師質 椀	14.6	5.8	6.0	浅黄橙色	内滑。III-2～3期。	全摩。底 3/5
II-41	72	II-3-6 SK12	緑釉			5.8	内縁断面灰色 胎土精	素地須恵質，外底削出し。内外ミガキ。内底に沈線。	摩。1/3

挿図 番号	図版 番号	出土場所 (遺構)	器種 器形	法量 (cm)			色調 (外面) 胎土	特 徴	備 考
				口径	器高	底径			
II-41	73	II-3-6 SK12	須恵器 (底部)			10.3	灰色	外底ナデ。内部セピア色。	残 1/5
〃	74	II-3-6 SK14	土師質 皿	9.4	2.8	6.0	橙色 胎土良		全摩。1/1
〃	75	〃	〃	8.9	1.4	6.0	橙色	胎土綺模様	全摩。1/6
〃	76	〃	土師質 杯			6.5	にぶい黄橙色	ハラ切	摩。底 1/1
〃	77	〃	〃			6.6	にぶい黄橙色	ハラ切	摩。2/5
〃	78	〃	須恵器 碗			6.2	灰白色 焼成不良	糸切。Ⅲ期。	摩。底 1/1
〃	79	〃	須恵器 碗	15.1	5.8	7.6	灰白色 内面にぶい黄橙色 胎土選 焼成不良	平高台。糸切。	全摩。1/3
〃	80	〃	黒色 碗			6.8	黄灰色 内面灰色	両黒。雲母片等含。密ミガキ。楠葉型。	摩。1/5
II-42	81	II-3-6 SK20	土師質 泥面子	径 2.4	全厚 0.6	重量 3.81g	橙色	鶴文	完
〃	82	II-3-6 SX3	染付 碗	7.9	5.1	3.5	灰白色	能茶山	2/5
II-43	85	II-3-6 P36	白磁 碗				灰白色	口縁外下に鋭い工具による V 字形の溝。白磁Ⅳ類。	
〃	86	II-3-6 P44 I層	土師器 蓋			摘み径 2.3	橙色 胎土精	軟質。摩により調整等不明。Ⅰ期。	摩著
〃	87	II-3-6 ハンダ3	土師質 皿			4.5	橙色 胎土良	糸切。薄手。	1/5
〃	88	〃	〃	6.6	1.4	4.4	橙色 胎土良	糸切。水挽き。	底 1/1
〃	89	〃	〃	7.4			にぶい橙色 胎土良	水挽き成形	1/5
〃	90	〃	染付 碗	7.9	3.7	3.0	灰白色	畳付のみ露胎	完
〃	91	〃	白磁 紅皿	4.4	1.5	1.5	灰白色	外面露胎部大。外底に小礫付着。	完

## 出土遺物（鉄器等）観察表

挿図 番号	図版 番号	出土場所 (遺構)	器種 器形	法量 (cm・g)				調整 / 手法等	備考
				全長	全幅	全厚	重量		
II-7	2	II-1-1 SK1b	鉄製品 蹄鉄	12.3	11.7	0.6	222		
〃	3	〃	〃	12.3	13.2	0.6	373		
〃	4	〃	ゴム製品 足袋底	23.9	9.7	1.1		「アサヒ」裏面布圧痕。	
〃	5	〃	〃	20.7	9.7	0.9		「月星」先端快部裏にあてゴム。	
II-42	83	II-3-6 SX3下層	銅製品 銭貨	3.1	2.8	1.4	26.2	銅銭一枚は径2.25cm,厚0.9mm,正方形の孔に綿布を通して束ねる。	10枚。錆
II-43	84	II-3-6 SX1	鉄製品 蹄鉄	11.7	11.5	0.9	168	先端が上反。釘穴形4mm。	

## 平安溝跡出土遺物（土製品）観察表

挿図 番号	図版 番号	出土場所 (遺構)	器種 器形	法量 (cm)			色調 (外面) 胎土	特徴	備考
				口径	器高	底径			
II-45	66	II-3-2 SD2	土師質 杯か椀			6.9	明黄褐色		全摩。底1/1
〃	92	II-3-2 SD1	土師質 皿	10.1			内面浅黄橙色		
〃	93	〃	〃	9.9	1.4	7.2	内面浅黄橙色	ハラ切	全摩。3/4
〃	94	〃	〃	10.0	1.6	6.0	橙色 胎土良		摩著。1/4
〃	95	〃	土師質 杯A			6.0	橙色 胎土良	ハラ切とみられる	摩著。1/3
〃	96	〃	土師質 杯	9.5	2.9	5.1	にぶい黄橙色	内面滑。ハラ切。	全摩。1/2
〃	97	〃	〃	9.8	2.7	5.4	浅黄橙色		2/5
〃	98	〃	〃			5.7	にぶい黄橙色		摩。1/3
〃	99	〃	土師質 椀か			9.0	灰黄褐色	高台剥離	摩。1/4
〃	100	〃	土師質 椀	15.7			にぶい黄橙色	内面滑	摩。1/10
〃	101	〃	〃	13.4	5.5	6.4	にぶい橙色 内面にぶい黄橙色	内面と外底は還元色。内滑。	全摩。1/3
〃	102	〃	〃			6.9	浅黄橙色	平高台	全摩。1/3
〃	103	〃	土師質				灰黄褐色	脚付き	摩。2/5
〃	104	〃	土師質 椀			6.6	灰白色 胎土精良	平高台。糸切。	摩著。底1/1
〃	105	〃	〃			7.0	浅黄橙色	平高台。糸切。	摩。1/2
II-46	106	〃	須恵器 椀	14.7	5.5	6.2	灰白色 胎土鉄分 多粒含 焼成不良	平高台。下部の内外に火襷。体部薄手。糸切。 III-1期。	摩。底1/2

挿図 番号	図版 番号	出土場所 (遺構)	器種 器形	法量 (cm)			色調 (外面) 胎土	特 徴	備 考
				口径	器高	底径			
II-46	107	II-3-2 SD1	土師質 鉢	23.2			にぶい橙色	内面滑	摩。1/10
〃	108	〃	須恵器 碗又は 鉢	15.6			灰白色	厚手。内面滑。	1/9
〃	109	〃	須恵器 碗	17.0			灰白色 胎土選 焼成不良		摩。1/8
〃	110	〃	〃			6.6	灰白色 焼成不良		摩。2/5
〃	111	〃	〃			6.4	灰白色 胎土良 焼成不良	高台断面三日月形。内面ミガキ。外下部回転ケズリか。	摩。1/2
〃	112	〃	須恵器 蓋又は 皿B				内外面灰白色 胎土選 焼成不良	天井外・回転ケズリ。外面還元色。内面滑。	摩。1/8
〃	113	〃	黒色 碗				暗灰色,内面灰色, 胎土精	両黒。光る微細片を含む搬入品。口縁内外に沈線(外側は細い)。薄手。両面密ミガキとみられる。	摩
〃	114	〃	〃				内外面オリーブ黒色	両黒。光る微細粒含む搬入品。密ミガキ。口縁内に沈線。	外摩。
〃	115	〃	黒色	16.1			内外面灰色 胎土精	両黒。光る微細粒含む搬入品。摩耗により調整不明。	摩。1/9
〃	116	〃	黒色 碗	13.6			内外面黒色 胎土精	両黒。雲母片等含む搬入品。口縁内に沈線。内面・密ミガキ。	外摩。1/5
〃	117	〃	土師質 土錘	全長 3.4	外径 2.5 孔径 0.7	重量 10.0g	灰白色		
〃	118	〃	土師器 甕	29.0	胴径 28.0		にぶい褐色 胎土円粒他	外面・タタキ。頸部板ナデ。口縁ヨコナデ。古代土師器甕C。	内摩。1/5
〃	119	〃	須恵器 甕	22.0			黄灰色	外面・やや細目のタタキ。口縁に斜ハケ状痕→ヨコナデ。胴内・ナデ仕上。	1/4
〃	120	〃	土師器 羽釜	22.8			内面にぶい黄褐色 断面にぶい黄褐色	金雲母, 花崗岩風化レキを多含する搬入品	鏝摩。1/10
〃	121	〃	土師器			20.2	橙色 胎土粗砂	外面・粗目ハケ, ケズリ。内面・ハケ。	内摩。1/6
II-47	122	II-3-3 SD2	土師質 脚付皿	10.2			にぶい橙色 胎土精	内面平滑だが, 内底に回転調整痕。	全摩。1/4
〃	123	〃	土師質 皿	9.6	1.7	5.8	灰白色		摩。1/5
〃	124	〃	〃	8.4			橙色		摩。1/8
〃	125	〃	土師質 杯	10.3	3.6	5.0	にぶい橙色		摩。1/3
〃	126	〃	〃	10.0	3.0	6.8	橙色		全摩。1/2
〃	127	〃	土師質 碗			8.7	内面にぶい黄褐色	内ミガキ。外底高台内もナデまたはミガキ処理。高台は貼付で外向, 部分的に外折, 端部は丸みをもつ。赤色風化礫や長石細粒, 金雲母微小片を含む。搬入品の可能性。	摩。1/4
〃	128	〃	〃			5.7	浅黄褐色	平高台。内底回転成形痕。	摩著。底 1/1

挿図 番号	図版 番号	出土場所 (遺構)	器種 器形	法量 (cm)			色調 (外面) 胎土	特徴	備考
				口径	器高	底径			
II-47	129	II-3-3 SD2	土師質 椀				灰褐色		摩
〃	130	〃	土師質			5.0	橙色 断面にぶい黄橙色	化粧土か	摩。3/4
〃	131	〃	土師器 高坏か				内面明赤褐色 断面にぶい黄橙色 胎土選 細粒多	化粧土による赤彩。厚手。	
〃	132	〃	須恵器 杯B			9.8	灰白色 胎土選	内外底ナデ。内底平滑、線刻か。外底小さな爪状圧痕。 整美な仕上げ。I期前半。	1/8
〃	133	〃	須恵器 椀			6.2	灰白色 胎土選 焼成不良		摩。1/1
〃	134	〃	〃			6.2	灰白色		全摩。1/1
〃	135	〃	〃			5.8	灰白色 焼成不良	厚手。内面・平滑だが底に回転成形痕残る。	摩。1/1
〃	136	〃	〃			7.7	灰白色 胎土選 焼成不良	III-2~3期	全摩。1/3
〃	137	〃	〃	16.7	5.9	8.2	灰白色	平高台。体部薄手で整美。内底に接合痕か。III-1期。	全摩。1/2
〃	138	〃	〃	17.0			灰白色 焼成不良		摩。1/9
〃	139	〃	〃	15.0			灰白色 胎土選	内外面・回転ナデ痕のみ。ミガキ等なし。口縁外面に 整美なヨコナデが一周。搬入品か。図140と同一個体 の可能性。	1/10
〃	140	〃	〃	14.0	5.1	7.8	灰白色 胎土選	体部・丁寧なヨコナデ。内底は布等を使用して丁寧に ナデ。糸切。素材粘土は水籤によるとみられる。搬入 品か。図139と同一個体の可能性。	1/2
〃	141	〃	〃			6.5	灰白色 焼成不良	外下部・回転ケズリ。外底糸切。高台内側に段。内面 ミガキ。III-1~2期。	1/1
〃	142	〃	黒色 椀			6.0	内外面黒褐色 胎土細粒多	両黒。雲母片含む搬入品。内面・密ミガキ。	摩。1/9
〃	143	〃	黒色 杯			6.8	橙色 内面灰色 胎土選	内黒。内面滑。在地産。	摩。1/7
〃	144	〃	黒色 椀				内外面黒色 胎土精 焼成良	両黒。密ミガキ。光る微細粒含む搬入品。	外摩。体部 片
〃	145	〃	青磁 碗				内外灰オリーブ色 断面灰白~灰黄色 胎土精	外側からのヘラ状工具による押圧縦線文。内外均質な釉。 素地、施釉とも製美・丁寧。素地は肌目細いか焼結 はやや弱。残存部器厚7.0~3.5mm。越州窯系。10C。 後葉頃か。	体部の下部 1/6
〃	146	〃	須恵器 風字硯		残高 2.3		内面黄灰色	脚を貼付。使用による顕著な摩減なし。	部分
〃	147	〃	土師器	12.6			にぶい橙色 内面橙色	口縁・板ナデ状。胴外・オサエ痕。胴部薄手。外ススケ。 雲母、花崗岩風化レキを含む搬入品。	1/6
〃	148	〃	土師器 カマド				褐色	鏝部を貼付。ナデ。ファトや砂岩円粒含。ススケ。	
〃	149	〃	須恵器 甕				外断面灰色	外面・タタキ。胴内・当具痕か。	1/7
II-48	150	〃	〃				灰色	外面・タタキ。内面・当具。	

挿図 番号	図版 番号	出土場所 (遺構)	器種 器形	法量 (cm)			色調 (外面) 胎土	特 徴	備 考
				口径	器高	底径			
II-48	151	II-3-3 SD2	須恵器 甕				黄灰色 焼成やや不良	外面・横長の格子タタキ。内面・大きな押圧痕。	
〃	152	〃	〃				外断面褐灰色	鉄分の多い粒子を含み、それが溶融して器面に噴出。外面はやや鉛色を帯びる。厚手。外面・太めのタタキ。内面・ナデ。川上に所在する窯場の製品とみられる。	
〃	153	〃	須恵器 鉢か				灰色	外面・細目のカキ目状痕。内面ヨコナデ。口縁のみ還元色濃い (重ね焼)。	
〃	154	〃	土師質 土錘	全長 3.9	外径 1.2 孔径 0.5	重量 3.88g	にぶい黄橙色		
〃	155	〃	〃	全長 4.1	外径 1.4 孔径 0.4	重量 5.41g	にぶい黄橙色		
〃	156	II-3-4 SD2 上層	土師質 杯		(1.4)	7.0	内面にぶい黄橙色 外面にぶい橙色 断面にぶい橙色	精土。内外横ナデ, ハラ切り, 内面煤け。	
〃	157	〃	土師質 碗		(3.0)	6.4	内面橙色 外面浅黄橙色 断面浅黄橙色	精土。しっかりした貼付け高台, 内外横ナデ。	
〃	158	〃	〃		5.3	6.7	内外面黄灰色 断面黄灰色	精土。内外横ナデ, 円盤状高台糸切り, 内外摩耗が激しい。	
〃	159	〃	〃		(1.7)	6.0	内外面灰白色 断面灰白色	精土。糸切り, 内面に火摺, 高台内外面横ナデ。	
〃	160	〃	〃		(2.0)	6.4	内面灰色 外面にぶい黄橙色 断面灰色	精土。しっかりした貼付け高台, 内外横ナデ。	
〃	161	〃	〃		(1.4)	7.2	内外面浅黄橙色 断面浅黄橙色	精土。内外横ナデ, 外底に弱いケズリあり。	
〃	162	〃	須恵器 皿	14.1	2.1	10.2	全部灰白色	精土。内外横ナデ, 口縁摘み上げ。	
〃	163	〃	須恵器 杯		(3.3)	11.0	内外面灰色 断面灰色	精土。内外横ナデ。	
〃	164	II-3-4 SD2 下層	〃		(1.4)	7.8	内外面灰色 断面灰黄褐色	精土。内外横ナデ, 外底はケズリ+ナデ, 外底に爪状の圧痕がめぐる。	
〃	165	〃	〃		(1.2)	6.9	内外面灰色 断面灰色	精土。内外横ナデ, 丁寧なつくり, 内面摩耗, 外底ケズリ+ナデ。	
〃	166	II-3-4 SD2 上層	土師質 甕	19.6	(3.6)		内面にぶい黄橙色 外面にぶい橙色 断面にぶい橙色	チャートの粗粒砂を含む。口縁内外横ナデ, 外面は被熱赤変。	
〃	167	II-3-4 SD2 下層	〃	22.2	(5.6)		内面橙色 外面にぶい橙色 断面にぶい黄橙色	チャートの粗粒砂を多く含む。口縁内外強い横方向ナデ, 胴内面横方向ハケ。	

挿図 番号	図版 番号	出土場所 (遺構)	器種 器形	法量 (cm)			色調 (外面) 胎土	特徴	備考
				口径	器高	底径			
II-48	168	II-3-4 SD2 上層	土師質 長胴甕		(5.8)		内面にぶい黄色 外面黄灰色 断面灰黄褐色	石英の細～粗粒砂を多く含む。巾1.5cmの鏝を貼付けし、上・下を強くナデ。	
〃	169	〃	土師質 羽釜		(3.8)		全面にぶい黄橙色	石英粒を多く含む。口唇、鏝端面は強い横ナデ、外面煤け。	
〃	170	II-3-4 SD2	土師器 カマド				明赤褐色	移動式カマド。花崗岩風化レキ多含する搬入品。ハケ痕あり。被熱変色。	摩
〃	171	II-3-4 SD2上層	須恵器 壺	16.8	3.0		内外面灰色 断面にぶい赤褐色	精土。内外横ナデ。	
〃	172	II-3-4 SD2下層	〃	12.5	(3.7)		内外面灰色 断面灰色	精土。内外横ナデ。	
〃	173	II-3-4 SD2上層	〃		(2.6)	15.1	内外面灰白色 断面灰白色	精土。外面横ナデ、内面ハケ状原体による縦方向ナデ。	
II-49	174	〃	〃		(7.5)	13.1	内面灰白色 外面灰色 断面灰白色	精土。内外横ナデ、内面に自然釉。	
〃	175	II-3-4 SD2	〃			11.0	黄灰色 断面灰白	外面・立上り部回転ケズリ。内面・粘土帯接合痕。	底摩。1/8
〃	176	II-3-4 SD2上層	〃		(5.1)	胴径 17.2	内外面灰白色 断面灰白色	精土。内外横ナデ。	
〃	177	〃	〃		(8.2)		内面灰白色 外面灰オリーブ色 断面灰白色	精土。内外横ナデ、外面に自然釉。	
〃	178	II-3-4 SD2	須恵器 甕	11.8			灰黄色 断面黄灰色	頸下に自然釉の境目があり、これより上は降灰していない。蓋と共に焼成された可能性。外面・粗目タタキ。内面・当具痕。	1/4
〃	179	〃	〃				外断面黄灰色	鉄分の多い粒子を含む。外面は鉛色を帯びる。外面・太めのタタキ。内面・弱い当具痕か。川上に所在する窯場の製品とみられる。	
〃	180	II-3-5 SD1	土師質 脚付皿			6.4	灰白色		全摩。1/1
〃	181	〃	土師質 皿	12.3	1.6	8.0	にぶい橙色	厚手	摩。1/9
〃	182	〃	土師質 杯	9.7	3.5	6.0	灰白色	ハ切。内底に細巾の回転成形痕。	摩。底1/1
〃	183	〃	土師質 杯A	10.1	2.8	6.5	浅黄橙色	ハ切	摩。1/4
〃	184	〃	土師質 杯			6.0	橙色		全摩。1/1
〃	185	〃	須恵器 椀			6.8	淡黄色 胎土良 焼成不良	糸切	全摩。1/1
〃	186	〃	〃			6.2	灰白色	糸切	摩。1/4
〃	187	〃	〃			6.6	灰白色 焼成不良	底厚手。静止糸切。	摩。1/1
〃	188	〃	〃			6.8	灰白色	平高台	摩。2/5
〃	189	〃	黒色 椀	14.2			内外面オリーブ 黒色 胎土良選	両黒。雲母他、光る微細粒を含む搬入品。口縁内に沈線。外面・分割ミガキ、密。内面・摩耗のため不明だが平滑。楠葉型。	摩。1/10

挿図 番号	図版 番号	出土場所 (遺構)	器種 器形	法量 (cm)			色調 (外面) 胎土	特 徴	備 考
				口径	器高	底径			
II - 49	190	II - 2 - 1 SD4	土師器 釜	26.0			灰黄褐色 胎土砂粒多	外面・胴部好ハク。花崗岩とみられる細角粒多含。スガ。	全摩。1/8
〃	191	II - 2 - 5 SD1	土師質 杯			10.6	にぶい黄橙色		1/5
〃	192	〃	須恵器 甕又は壺			12.3	灰色		1/5

平安溝跡出土遺物 (鉄器等) 観察表

挿図 番号	図版 番号	出土場所 (遺構)	器種 器形	法量 (cm・g)				調整 / 手法等	備 考
				全長	全幅	全厚	重量		
II - 50	193	II - 3 - 5 SD1	碗状鉄滓	6.9	7.7	2.9	154		欠損
〃	194	II - 3 - 2 SD1	碗状鉄滓	6.5	8.4	2.8	103		完存
〃	195	〃	鉄製品	13.8	2.7	1.4	82.85	断面方形又は多角形か	
〃	196	II - 3 - 2 SD1	石製品	残長 (11.4)	残幅 (5.4)	残厚 3.5	残量 (280)	研磨。敲打痕。肌目細かい。	欠損

### 3. Ⅱ-3-1区

#### 1. 調査区の概要

調査区北半部にはピットが集中し、南部には溝跡、西部には土坑が分布する。ピットは直径約30cmの円形のものが多い。約400基のピットを検出しており、多くの掘立柱建物が存在していたと考えられるが、明確に復元できない。土坑は隅丸方形、隅丸長方形を呈しているものが多い。溝跡の方向は、ほぼ同一である。

#### 2. 検出遺構と遺物

##### (1) SK

###### SK3 (図Ⅱ-51)

調査区の北西部に位置する。長軸約2.4m、短軸約1.5mの楕円形を呈する。検出面からの深さは20cmであり、埋土は灰色砂質シルトである。

###### SK10 (図Ⅱ-51)

調査区の東部に位置する。長軸約2.3m、短軸約2.2mの隅丸方形を呈する。検出面からの深さは35cmであり、埋土は灰色粘土である。

###### SK11 (図Ⅱ-51)

調査区の北部に位置する。長軸約1.8m、短軸約1.5mの隅丸方形を呈する。検出面からの深さは27cmであり、埋土は灰色粘質土である。

###### SK13 (図Ⅱ-52)

調査区の南西部に位置する。調査区外へひろがる。長軸約2.4m、短軸1.8m以上の隅丸方形を呈する。検出面からの深さは75cmであり、埋土は褐灰色粘性シルト、黄色砂質土、暗褐灰色粘性シルトである。

図示した出土遺物は土師器の椀(1)、須恵器の椀(2)、黒色土器の椀(3)、土師器の甑の把手(4)である。1は回転台成形の平高台椀である。外底面には回転糸切り痕跡がみられる。2は回転台成形の平高台椀である。外底面には回転糸切り痕跡がみられる。内底面はわずかに凹む。3は楠葉型B類に該当する。高台は「ハ」の字状を呈する。内外面とも密にミガキ調整を施す。外面は分割ミガキか。内底面は平行ミガキである。胎土に雲母の細片を多く含む。

###### SK16 (図Ⅱ-51)

調査区の西部に位置する。長軸約3.0m、短軸2.3m以上の隅丸方形を呈する。検出面からの深さは51cmであり、埋土は灰色粘質土である。

##### (2) SD

###### SD2 (図Ⅱ-53)

調査区の南部に位置する東西方向の溝跡である。幅0.4～0.9m、検出長約4.4mである。検出面からの深さは32cmである。埋土は灰色粘砂土である。

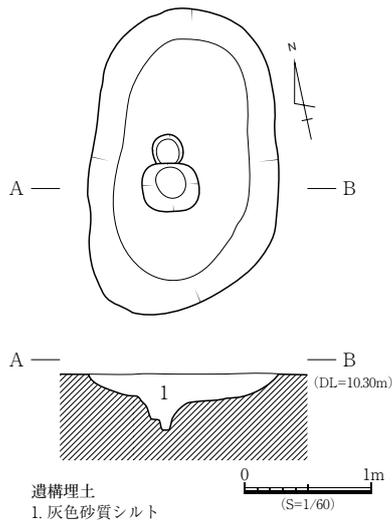
###### SD4 (図Ⅱ-53)

調査区の南部に位置する東西方向の溝跡である。幅0.3～0.5m、検出長約5.7mである。検出面からの深さは6cmである。図示した出土遺物は土師質土器の茶釜(5)である。体部は扁球形を呈し、口縁

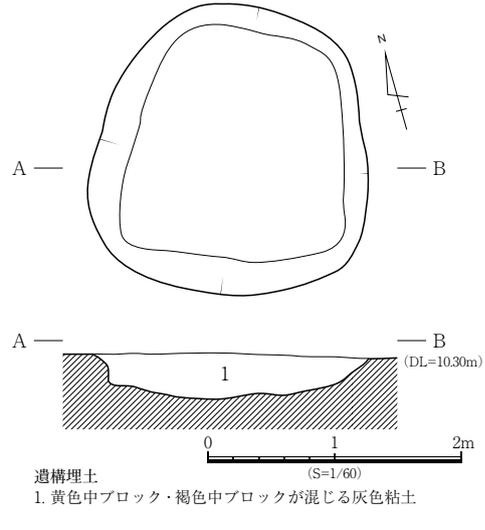
部は短く直立する。体部中位に鑿が付く。外面下半部には格子叩き調整を施す。

SD8 (図II-53)

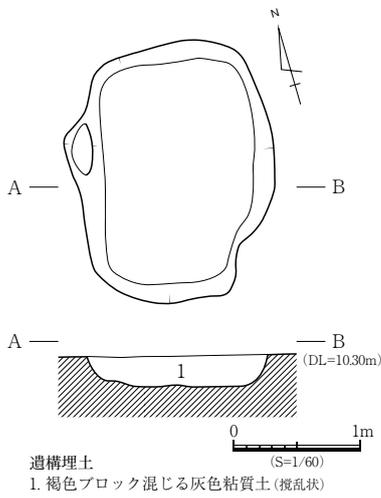
調査区の南部に位置する東西方向の溝跡である。東は調査区外へと伸びる。幅約0.9m, 検出長約3mである。検出面からの深さは37cmである。埋土は灰色粘性シルト, 明黄色砂質土である。



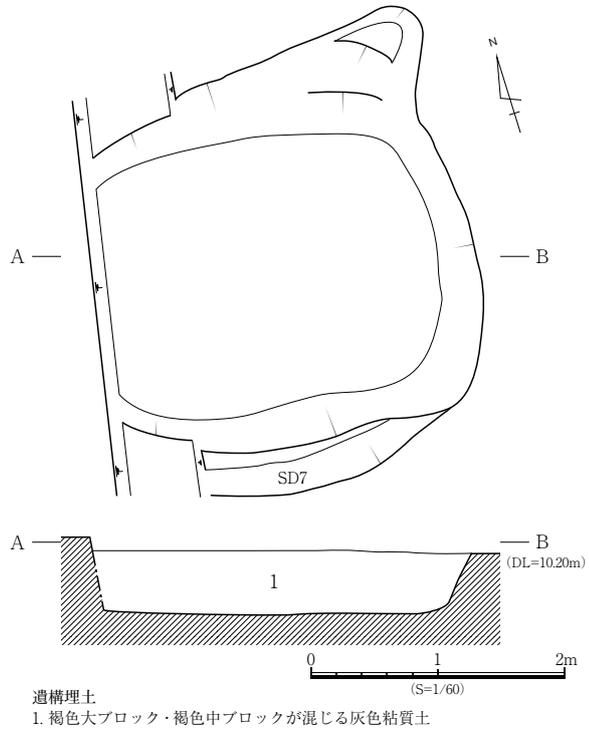
SK3



SK10

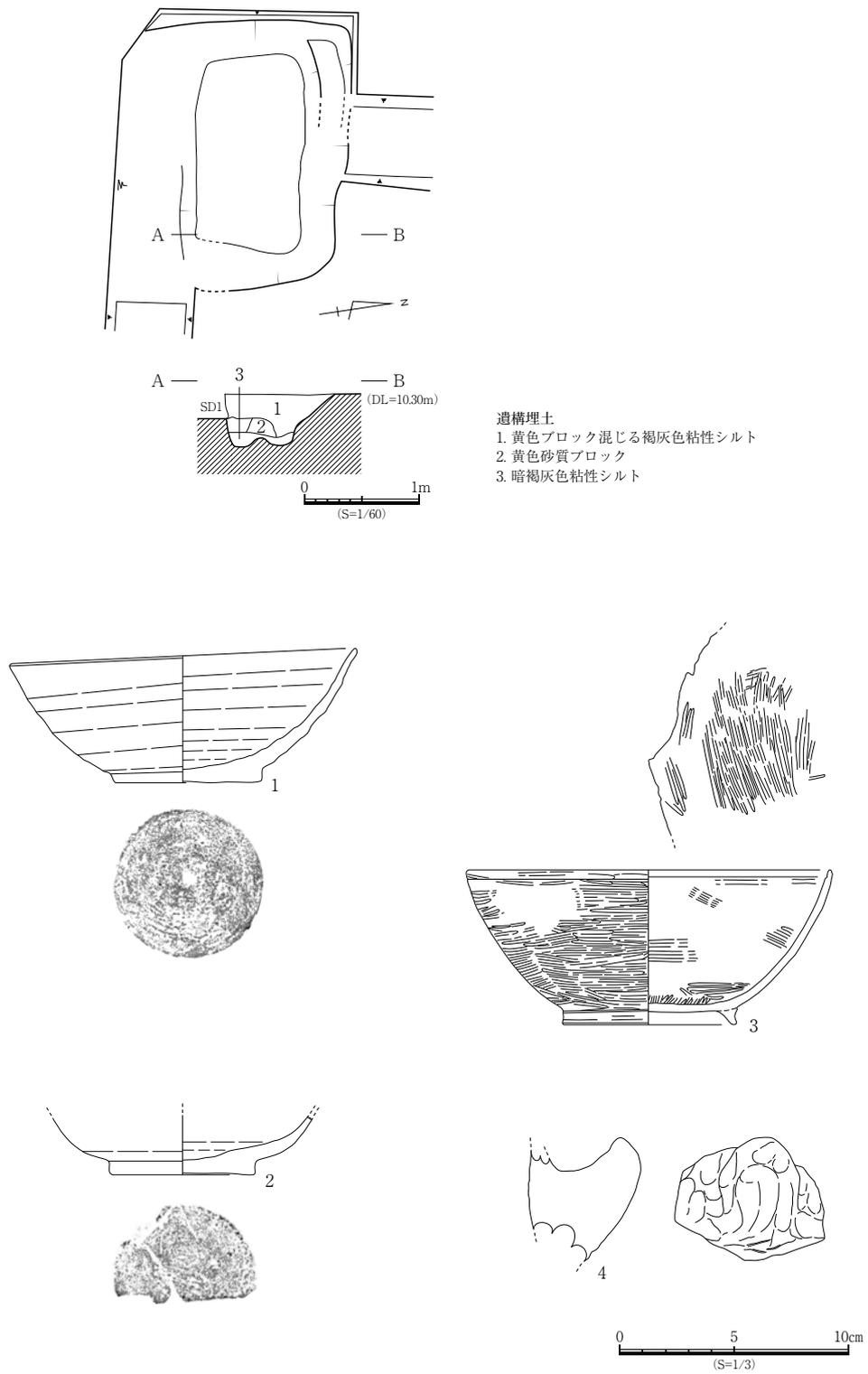


SK11

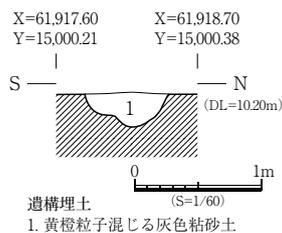


SK16

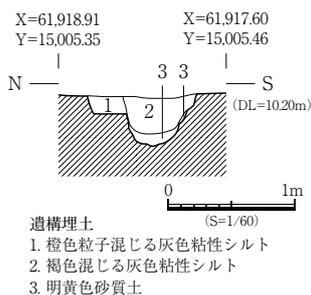
図II-51 SK3・10・11・16平面図・断面図



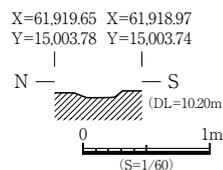
図II-52 SK13平面図・断面図・遺物実測図



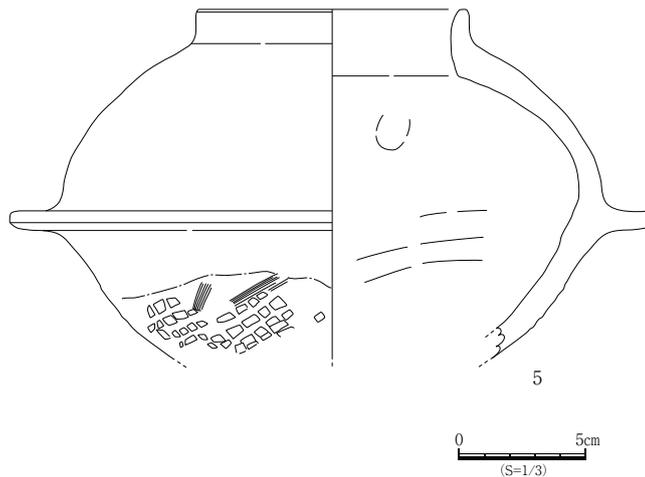
SD2



SD8



SD4



図Ⅱ-53 SD2・4・8断面図・エレベーション図・遺物実測図

### (3)P (ピット)

#### P14 (図Ⅱ-54)

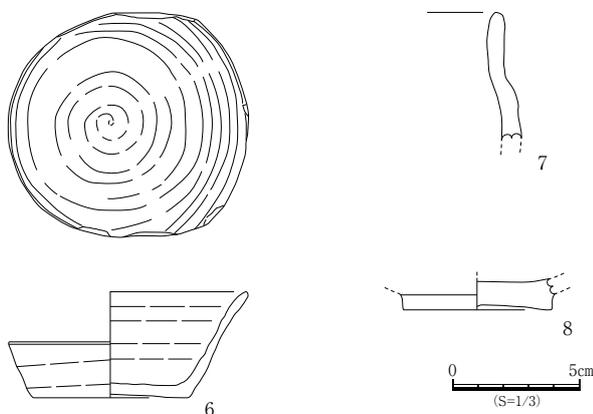
調査区北東部に位置する。長軸0.4m以上、短軸約0.3mの楕円形を呈し、検出面からの深さは24cmである。図示した出土遺物は土師質土器の杯(6)である。口縁部から体部上半を打ち欠いて杓子として使用か。芳原城に類例がある(宅間・出原1984)。

#### P207 (図Ⅱ-54)

調査区北東部に位置する。P30に切られる。長軸約0.4m、短軸0.1m以上の楕円形を呈し、検出面からの深さは14cmである。図示した出土遺物は瓦質土器の鍋(7)である。口縁部は直立し、口唇部は丸くおさめる。外面には指頭圧痕が認められる。

#### P291 (図Ⅱ-54)

調査区北部に位置する。長軸0.2m以上、短軸0.1m以上を測り、検出面からの深さは11cmである。SK11に伴うピットか。図示した出土遺物は

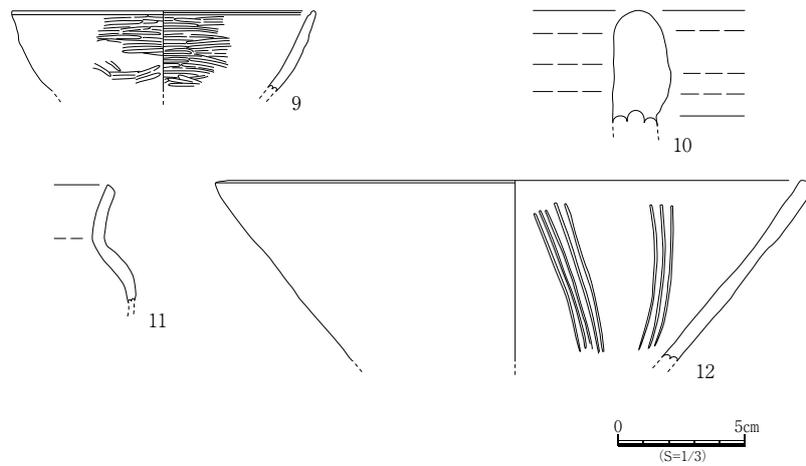


図Ⅱ-54 P14・207・291遺物実測図

緑釉陶器(8)である。平高台であり、外底面にはヘラ切りの痕跡が認められる。内外面にはオリーブ灰色の釉薬がうっすらと残る。

(4)遺構外出土遺物(図Ⅱ-55)

図示した出土遺物は黒色土器の椀(9)、備前焼の甕(10)、瓦質土器の鍋(11)・播鉢(12)である。9は口縁部内面に沈線が認められる。両黒であり、内外面ともヘラミガキ調整を密に施す。楠葉型B類に該当する。10は口縁部を折り曲げ、縁帯とする。口唇部は丸くおさめる。内外面ともヨコナデ調整である。12の体部は直線的にのび、口唇部は平坦面と成す。内面には5条1単位のスリメを施す。



図Ⅱ-55 遺構外出土遺物実測図

引用文献

宅間一之・出原恵三 1984年「芳原城跡発掘調査報告書」高知県教育委員会



土坑計測表 (II-3-1区)

遺構名	平面形	規 模			床面標高 (m)	主軸方向 (NはGN)	時 期
		長軸 (m)	短軸 (m)	深さ (cm)			
SK1	隅丸長方形	0.9	0.8	37	9.8	N-18°-E	時期不明
SK2	溝状	(1.8)	0.5	25	9.9	N-18°-E	〃
SK3	楕円形	2.4	1.5	20	9.9	N-16°-E	〃
SK4	隅丸方形	(0.6)	0.6	11	10.0	N-17°-E	〃
SK5	欠番						
SK6	隅丸方形	(0.7)	0.8	11	10.0	N-15°-E	時期不明
SK7	欠番						
SK8	隅丸長方形	1.1	0.8	11	10.0	N-5°-W	時期不明
SK9	楕円形	0.8	0.7	14	10.0	N-1°-E	〃
SK10	隅丸長方形	2.3	2.2	35	9.8	N-26°-E	中世
SK11	不整形	1.9	1.5	27	9.9	N-13°-E	時期不明
SK12	〃	(0.8)	0.7	16	10.0	N-13°-E	古代
SK13	隅丸長方形	2.4	(1.8)	75	9.6	N-9°-E	古代 (10~11世紀)
SK14	〃	(2.5)	(2.4)	35	9.7	N-6°-E	近世
SK15	隅丸方形	2.4	2.3	22	9.8	N-11°-E	古代/近世か
SK16	〃	3.0	(2.3)	51	9.6	N-8°-E	15~16世紀/近世か
SK17	欠番						
SK18	隅丸方形	1.5	(0.6)	6	10.0	N-15°-E	時期不明
SK19	欠番						
SK20	隅丸方形	1.1	(0.7)	21	10.0	N-28°-E	時期不明

出土遺物(土器)観察表

挿図 番号	図版 番号	出土場所 (遺構)	器種 器形	法 量 (cm)			色 調 (外面)	特 徴
				口径	器高	底径		
Ⅱ- 52	1	SK13	土師 椀	15.0	5.9	6.4	灰白色	平高台。糸切り。磨耗。内外面, 回転台成形。ほぼ完存。
〃	2	〃	須恵 椀		(2.6)	6.3	灰色	平高台。糸切り。磨耗。内外面, 回転台成形。
〃	3	〃	黒色 椀	15.8	6.8	7.5	黒色	口縁内面, 沈線。両黒。内外面, 密にミガキ。外面, 分割ミガキか。内底面, 平行ミガキ。楠葉型B類。
〃	4	〃	土師 甑	-	-	-	橙色	ナデ。搬入品。被熱変色。
Ⅱ- 53	5	SD4	土師質 茶釜	10.3	(14.0)		浅黄橙色	内面, 外面上半, ナデ。外面下半, 格子叩き。煤付着。
Ⅱ- 54	6	P14	土師質 杯	(10.8)	4.2	6.2	〃	ロクロ成形。糸切り。磨耗。口縁部から体部上半を打ち欠き杓子として利用か。煤付着。
〃	7	P207	瓦質 鍋		(5.2)		灰色	口縁部, 直立。口唇部, 丸くおさめる。外面, 指頭圧痕。
〃	8	P291	緑釉 陶器		(1.3)	5.9	オリーブ灰色	平高台。須恵質。ヘラ切り。内底面, ミガキ。釉葉がうっすらと残る。京都産。
Ⅱ- 55	9	遺構外	黒色 椀	11.9	(3.2)		灰色	口縁部内面, 沈線。両黒。内外面, ミガキ。楠葉型B類。
〃	10	〃	備前焼 甕		(4.6)		褐灰色	折り曲げ, 縁帯とする。口唇部, 丸くおさめる。内外面, ヨコナデ。
〃	11	〃	瓦質 鍋		(4.8)		灰色	口縁部内外面, ヨコナデ。体部, 指頭圧痕。
〃	12	〃	瓦質 播鉢	22.6	(7.2)		〃	口唇部, 面取り。内面, 5条1単位のスリメ。磨耗。

## 4. Ⅱ-3-4区

### 1. 調査区の概要

当調査区は現地表面の標高が10.5m前後と調査区全体の中で最も高い地点にある。地目は水田であったが、調査前の時点で耕作土はすべて剥ぎ取られ移動させられていた。遺物包含層はほとんど形成されておらず、現代攪乱も多い。検出遺構は、古代の可能性のある土坑1基、古代の溝1条、近世の溝3条、ピット多数である。

### 2. 基本層序

調査区の西壁と南壁の層序を図示した(図Ⅱ-56)。

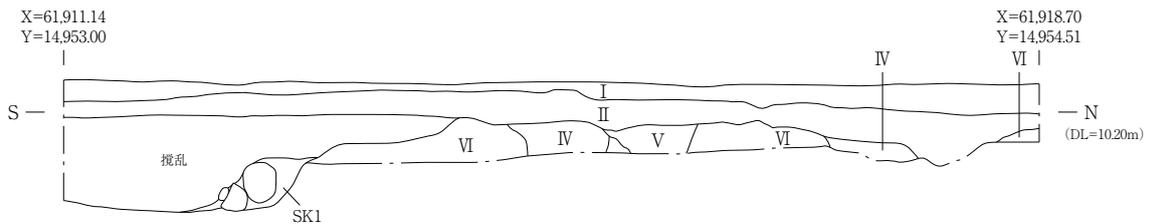
#### 西壁基本層序

第Ⅰ層：水田耕作土を除去した後に入れられた整地層で、層厚5～30cmである。

第Ⅱ層：褐灰色(10YR4/1)砂層で近代以降の堆積である。層厚10～40cmである。

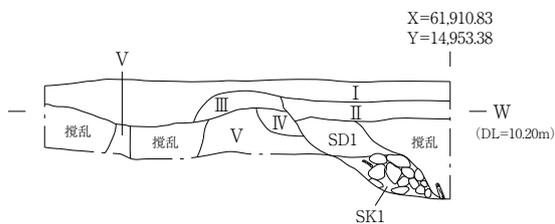
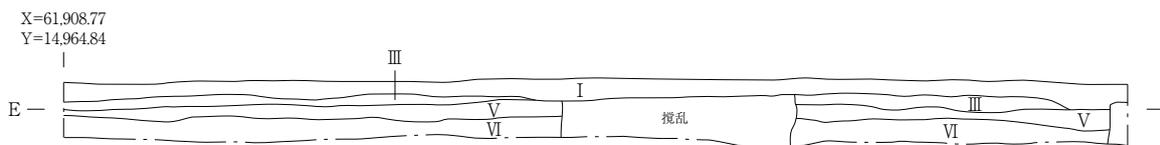
第Ⅳ層：黒褐色(10YR2/3)粘質土で古代の遺構埋土である。

第Ⅴ層：にぶい黄褐色(10YR5/4)砂層で、遺構埋土の可能性がある。

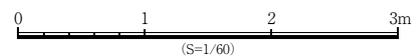


- 層位
- 第Ⅰ層 客土、整地層
  - 第Ⅱ層 褐灰色(10YR4/1)砂層
  - 第Ⅳ層 黒褐色(10YR2/3)粘質土層(古代遺構)
  - 第Ⅴ層 にぶい黄褐色(10YR5/4)砂層
  - 第Ⅵ層 黄褐色(10YR5/6)シルト層(地山)

#### 西壁基本層序

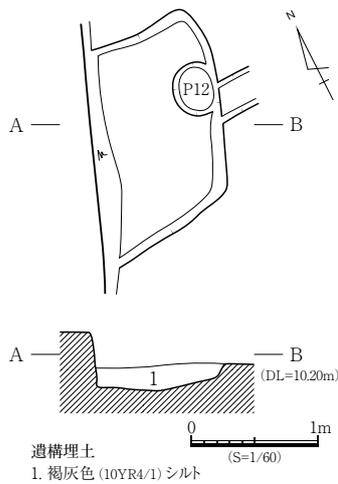


- 層位
- 第Ⅰ層 客土、整地層
  - 第Ⅱ層 褐灰色(10YR4/1)砂層
  - 第Ⅲ層 褐灰色(10YR4/1)粘質土～シルト層(旧耕作土)
  - 第Ⅳ層 Ⅲに地山の黄褐色土がブロック状に入る
  - 第Ⅴ層 黄褐色(10YR5/6)シルト層(地山)
  - 第Ⅵ層 褐灰色(10YR4/1)砂礫層

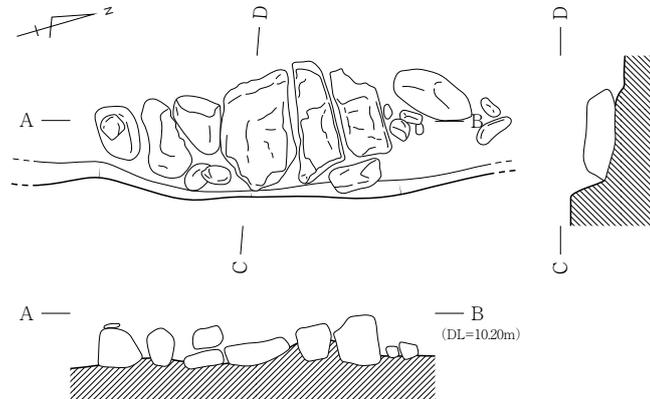


#### 南壁基本層序

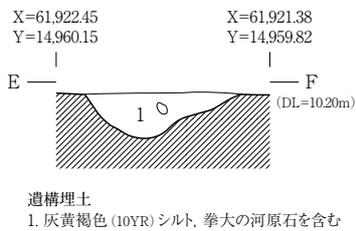
図Ⅱ-56 Ⅱ-3-4区西壁・南壁基本層序



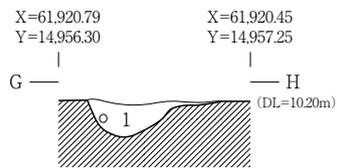
SK2平面図・断面図



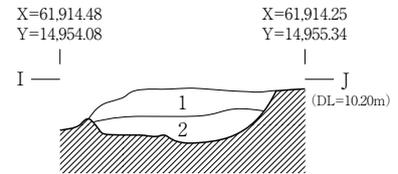
SD1石列出土状況図



遺構埋土  
1. 灰黄褐色 (10YR) シルト, 拳大の河原石を含む

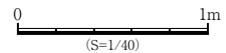


遺構埋土  
1. 灰黄褐色 (10YR) シルト, 拳大の河原石を含む



遺構埋土  
1. にふい黄褐色 (10YR5/4) シルト  
2. 褐灰色 (10YR4/1) シルト, 拳大の河原石を含む

SD1断面図



図Ⅱ-57 Ⅱ-3-4区SK2・SD1平面図・断面図・石列出土状況図

第VI層：黄褐色 (10YR5/6) シルト層で地山である。古代～近世遺構の検出面である。

#### 南壁基本層序

第I層：水田耕作土を除去した後に入れられた整地層で、層厚10～40cmである。

第II層：褐灰色 (10YR4/1) 砂層で近代以降の堆積である。層厚20cm前後で西方の一部にのみ堆積が認められる。

第III層：褐灰色 (10YR4/1) 粘質土～シルト層で旧耕作土である。層厚0～10cmである。西壁には見られない層序である。

第IV層：第III層に地山 (第V層) がブロック状に混入した層序である。西方で僅かに認められ遺構の可能性はある。

第V層：黄褐色 (10YR5/6) シルト層で地山である。層厚5～30cmである。

第VI層：褐灰色 (10YR4/1) 砂礫層である。

### 3. 検出遺構と遺物

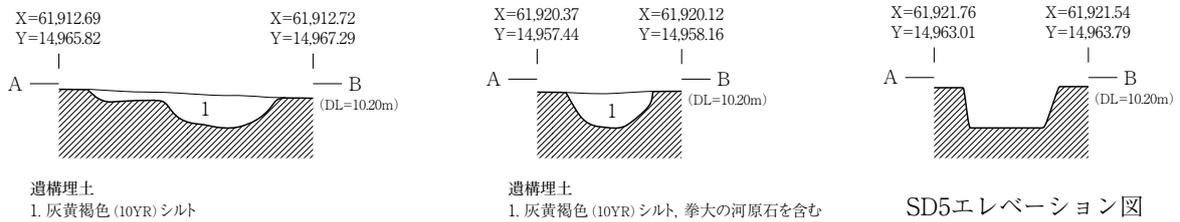
#### (1) 土坑

##### SK1

調査区西南隅に位置する。調査区内では広がりをつかえることができない。西・南壁の断面で確認し得るのみである。SD1と現代攪乱に大きく切られており深さは30～40cmである。埋土は暗青灰色粘質土で人頭大の河原石が詰まっており近世瓦片も認められる。近世遺構であるが性格は不明である。

##### SK2 (図Ⅱ-57)

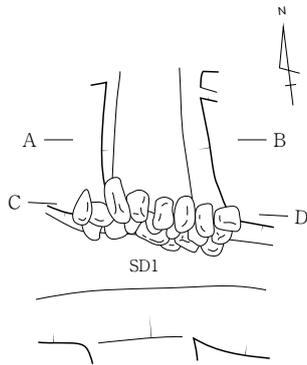
調査区北西隅に位置する。大部分が調査区外に出ている。平面形は平行四辺形状を呈し長軸1.5m、



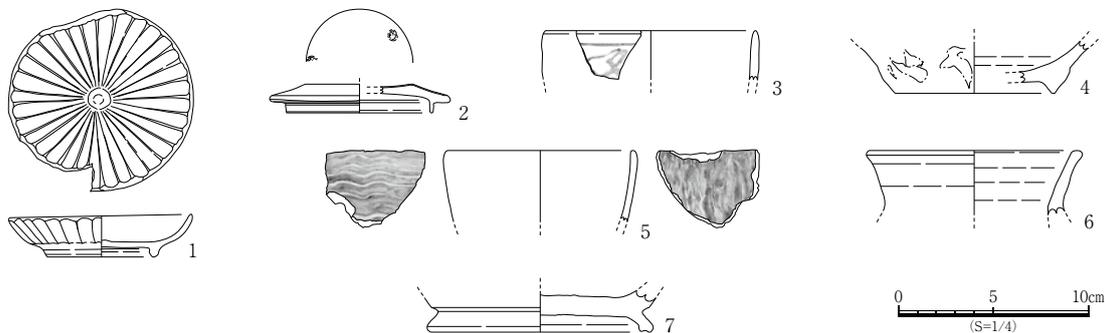
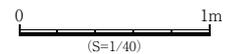
SD3断面図

SD4断面図

SD5エレベーション図



SD6平面図・エレベーション図



SD3～5・P9・12遺物実測図

図Ⅱ-58 Ⅱ-3-4区SD3～6・P9・12平面図・断面図・エレベーション図・遺物実測図

短軸 0.9m, 深さ 17 cmである。埋土は褐灰色シルトで古代の須恵器, 土師器の細片が出土している。古代の遺構の可能性はある。

## (2)溝

### SD1 (図Ⅱ - 57)

調査区の西と北縁を逆L字状に巡り北東隅でSD3と直交している。確認延長は南北方向 12m, 東西方向 10m, 幅は 1.0 ~ 0.5m, 深さ 20 ~ 30 cmである。埋土は概ね灰黄褐色シルトで拳大の河原石を含む1層であるが, 部分的に小礫を含まないシルト層の堆積の見られるところがある。また南北方向の南部の東側肩に沿って図示したような石列が確認された。遺物は近世~近代の陶磁器片が出土している。近代まで機能していた区画溝の可能性はある。

### SD2

調査区中央を東西に走る溝である。東隣の調査区から延びる溝であり出土遺物を含めてⅡ - 3 - 2・3・5区に記載する。

### SD3 (図Ⅱ - 58)

調査区東寄りを南北に走る溝でSD2を切っている。大部分が二段掘りになっており西肩側が浅くなっている。確認延長 11.6m, 幅 1.2m前後, 深さは浅い部分で 5 cm, 深い部分で 20 cm前後である。埋土は灰黄褐色シルトである。遺物は近世陶磁器や瓦片とともに古代の須恵器・土師器細片が出土している。2は陶器蓋, 3は肥前産の陶胎染付碗, 4は外面に鉄釉, 内面白化粧土を施した陶器鉢である。近世の溝である。

### SD4 (図Ⅱ - 58)

SD1の西北隅に位置する。SD1から枝分かれし同時に機能した溝と考えられる。延長 6m, 幅 0.5m, 深さ 20 cm前後である。埋土は灰黄褐色シルトで拳大の河原石を含んでいる。遺物は近世~近代の陶磁器片とともに古代の土器片も出土している。1は磁器で型作りの菊皿である。

### SD5 (図Ⅱ - 58)

調査区北部に位置する。SD1に直交するように5条の短な溝が並んでいる。各溝ともにSD1と接する面にSD6で図示したように円礫が積まれていた。SD5は東端に位置し長さは 1.0m前後, 幅 0.5m前後, 深さは 20 cmである。埋土は褐灰色粘質土である。遺物は埋土中より肥前産の陶器中碗(5)が出土している。

### SD6 (図Ⅱ - 58)

SD1に北から直交する溝である。SD1との直交部には図示したよう河原石が積まれている。長さ 1m, 幅 0.5m, 深さ 20 cmである。埋土は褐灰色粘質土で遺物は認められない。

## (3)ピット出土の遺物(図Ⅱ - 58)

図示できたのは2点である。6はP12出土の須恵器壺口縁部である。7は同壺底部でしっかりした高台がハ字に踏ん張っている。

出土遺物(土器・陶磁器)観察表

挿図 番号	図版 番号	出土場所 (遺構)	器種 器形	法量 (cm)			色調 (外面)	特 徴
				口径	器高	底径		
Ⅱ- 58	1	SD4	磁器 皿	9.5	2.2	5.8	灰白色	菊皿。型作り。内面31花卉あり。
〃	2	SD3	陶器 蓋	9.5	1.5		黄灰色	外面灰釉, 内面無釉。外面に2箇所目跡を認める。
〃	3	〃	陶胎染 付碗	11.0	(2.6)			灰色でやや荒い胎土。肥前産。
〃	4	〃	陶器 鉢		(2.8)	8.5	灰黄色	内面白化粧土, 外面は鉄釉。
〃	5	SD5	陶器 中碗	9.7	(4.8)		灰オリーブ色	白化粧打ハケ, 肥前産。
〃	6	P12	須恵 器壺	11.0	(3.4)		灰色	精土。内外面強い横ナデ。丁寧な作り。
〃	7	P9	〃		(2.2)	11.6	灰白色	精土。内外面横ナデ。しっかりした高台が「ハ」字状に踏ん張る。



## 5. Ⅱ-4区

### 1. 調査の概要と基本層序

Ⅱ-4区は、Ⅱ-4-1区～Ⅱ-4-3区の3小区に細分して調査を実施した。遺構番号は各調査区毎に付した。遺物番号についてはⅡ-4区内で通して付した。

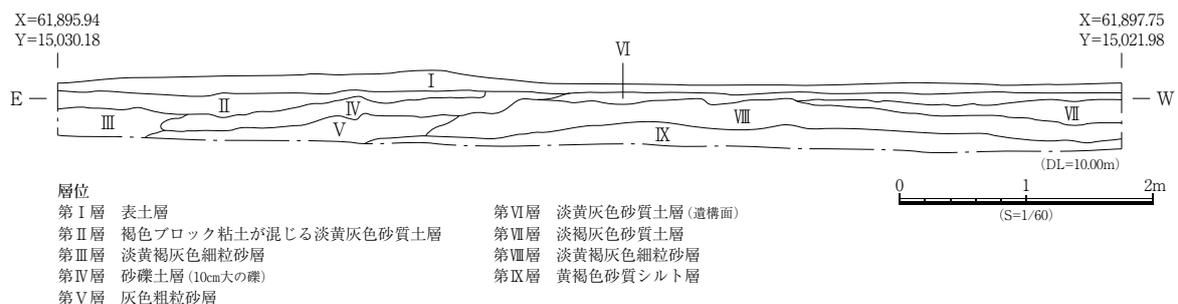
基本層序はⅡ-4-1区の南壁、Ⅱ-4-3区の北壁で確認した。

#### Ⅱ-4-1区の層位

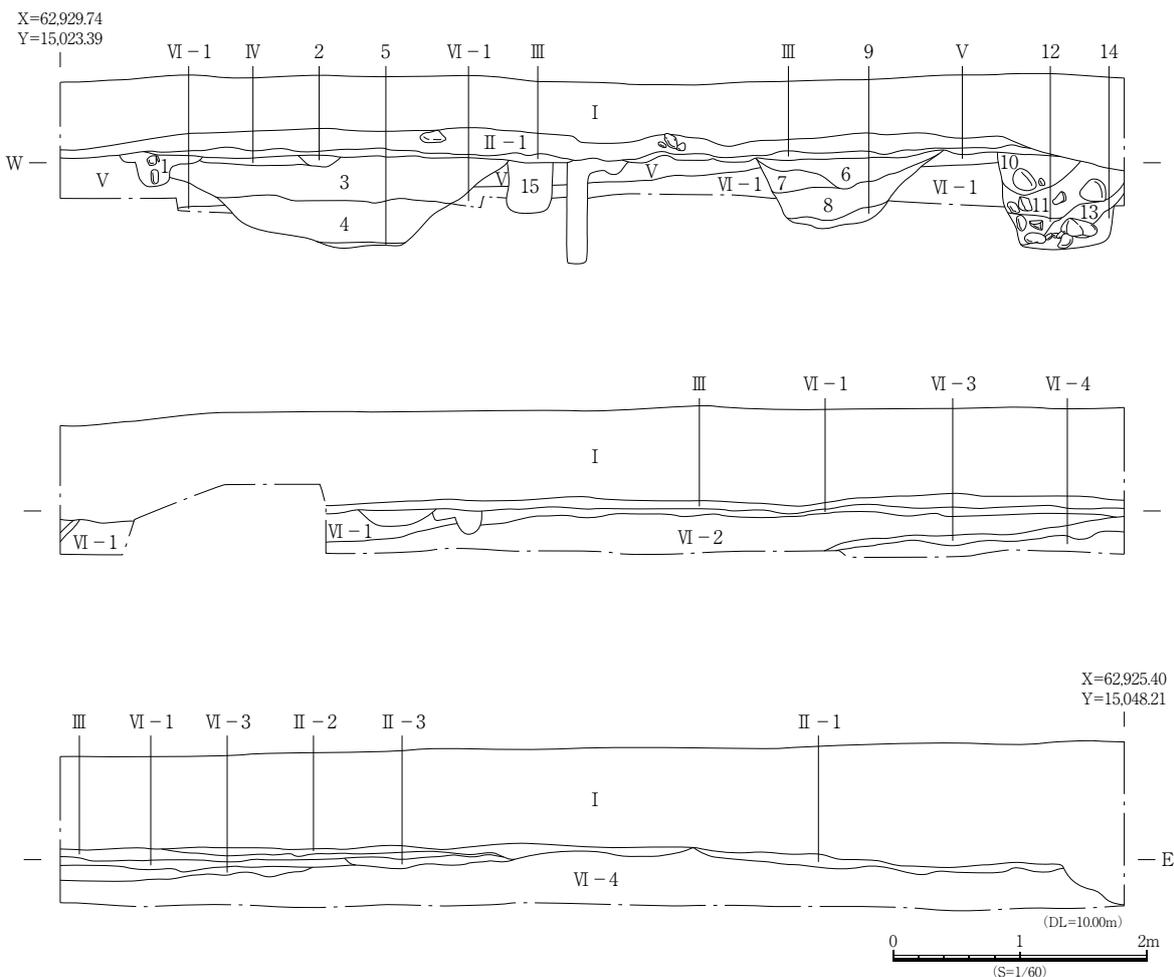
- 第Ⅰ層 表土層
- 第Ⅱ層 褐色ブロック粘土が混じる淡黄灰色砂質土層
- 第Ⅲ層 淡黄褐色細粒砂層
- 第Ⅳ層 砂礫土層(10cm大の礫)
- 第Ⅴ層 灰色粗粒砂層
- 第Ⅵ層 淡黄灰色砂質土層(当該層上面が遺構面)
- 第Ⅶ層 淡褐色砂質土層
- 第Ⅷ層 淡黄褐色細粒砂層
- 第Ⅸ層 黄褐色砂質シルト層

#### Ⅱ-4-3区の層位

- 第Ⅰ層 碎石
- 第Ⅱ-1層 黒色土と地山のブロックを多量に含む暗灰黄色(2.5Y4/2)粘土質シルト層(現代整地層)
- 第Ⅱ-2層 細礫が混じる暗灰黄色(2.5Y4/2)粘土質シルト層
- 第Ⅱ-3層 細礫が少量混じる暗灰黄色(2.5Y4/2)粘土質シルト層
- 第Ⅲ層 細礫が混じる暗灰黄色(2.5Y4/2)シルト層(耕作土)
- 第Ⅳ層 地山の土粒を含む褐色(10YR4/1)粘土質シルト層
- 第Ⅴ層 黒色(10YR1.7/1～2/1)粘土質シルト層(黒ボク土)
- 第Ⅵ-1層 にぶい黄褐色(10YR5/4)粘土質シルト層(基盤層)
- 第Ⅵ-2層 にぶい黄褐色(10YR5/4)細粒砂～粘土質シルト層
- 第Ⅵ-3層 粗粒砂が多量に混じるにぶい黄褐色(10YR5/4)細礫層
- 第Ⅵ-4層 粗粒砂が多量に混じる灰黄褐色(10YR5/2)中礫層



図Ⅱ-59 Ⅱ-4-1区南壁



層位

- 第 I 層 碎石
- 第 II-1層 黒色土と地山のブロックを多量に含む暗灰黄色 (2.5Y4/2) 粘土質シルト層 (現代整地層)
- 第 II-2層 細礫が混じる暗灰黄色 (2.5Y4/2) 粘土質シルト層
- 第 II-3層 細礫が少量混じる暗灰黄色 (2.5Y4/2) 粘土質シルト層
- 第 III 層 細礫が混じる暗灰黄色 (2.5Y4/2) シルト層 (耕作土)
- 第 IV 層 地山の土粒を含む褐灰色 (10YR4/1) 粘土質シルト層
- 第 V 層 黒色 (10YR1.7/1~2/1) 粘土質シルト層 (黒ボク土)
- 第 VI-1層 におい黄褐色 (10YR5/4) 粘土質シルト層 (基盤層)
- 第 VI-2層 におい黄褐色 (10YR5/4) 細粒砂~粘土質シルト層
- 第 VI-3層 粗粒砂が多量に混じるにおい黄褐色 (10YR5/4) 細礫層
- 第 VI-4層 粗粒砂が多量に混じる灰黄褐色 (10YR5/2) 中礫層

遺構埋土

1. 地山の土粒を多量に黒色土粒を少量含む灰黄褐色 (10YR4/2) 粘土質シルト (ピット)
2. 地山の土粒を含む灰黄褐色 (10YR4/2) 粘土質シルト (ピットか)
3. 地山の土粒を少量含む褐灰色 (10YR4/1) 粘土質シルト (SD2)
4. 地山の土粒を多量に含む褐灰色 (10YR4/1) 粘土質シルト (SD2)
5. 黒色土粒を多量に含む地山の土粒を含む褐灰色 (10YR4/1) 粘土質シルト (SD2)
6. 地山の土粒を多量に含む黒色土のブロックを含む灰黄褐色 (10YR4/2) 粘土質シルト (SK3)
7. 地山の土粒を少量含む黒色土粒を多量に含む灰黄褐色 (10YR4/2) 粘土質シルト (SK3)
8. 黒色土のブロックを特に多量に含む灰黄褐色 (10YR4/2) 粘土質シルト (SK3)
9. 黒色土粒を少量含む灰黄褐色 (10YR4/2) 粘土質シルト (SK3)
10. 地山の土粒と黒色土のブロックを少量含む中礫が少量混じる灰黄褐色 (10YR4/2) 粘土質シルト (SK2)
11. 地山の土粒を少量含む黒色土粒を含む灰黄褐色 (10YR4/2) 粘土質シルト (SK2)
12. 地山のブロックを特に多量に含む灰黄褐色 (10YR4/2) 粘土質シルト (SK2)
13. 地山の土粒と黒色土のブロックを多量に含む灰黄褐色 (10YR4/2) 粘土質シルト (SK2)
14. 灰黄褐~褐灰色 (10YR4/2~4/1) 粘土質シルト (SK2)
15. 地山の土粒を少量含む灰黄褐色 (10YR4/2) 粘土質シルト (P45)

図 II-60 II-4-3区北壁

## ①II-4-1区

## (1)SB

## SB1 (図II-61)

調査区南東部に位置する。P32・54・56・59～61・132・135・221・224で構成され、桁行3間(4.20m)、梁行2間(3.30m)の掘立柱建物跡に復元できる。棟方向は南北方向であり、N-12°26'-Wである。柱穴はやや崩れたものもあるが、一辺約0.6mの隅丸方形を指向している。P32・54・56・59～61・132・135・221で柱痕跡を検出した。

## SB2 (図II-62)

調査区南東部に位置する。P3・7・8・12・28・29・31・40・209で構成され、桁行3間(3.60m)、梁行2間(3.00m)の掘立柱建物跡に復元できる。棟方向は南北方向であり、N-2°06'-Eである。柱穴は一辺約0.5mの隅丸方形を指向している。P28・29・209で柱痕跡を検出した。

## SB3 (図II-63)

調査区中央部に位置する。P18・22・(24)・26・280・322で構成される。南東部の柱穴は検出できていないが、桁行3間(6.00m)、梁行2間(3.90m)の掘立柱建物跡と考えられる。棟方向は南北方向であり、N-0°24'-Wである。すべての柱穴で柱痕跡を検出した。P24は柱痕跡のみを検出した。

## SB4 (図II-64)

調査区中央部に位置する。P20・21・143・144・146・321で構成される。南東部の柱穴は検出できていないが、桁行3間(4.80m)、梁行2間(4.20m)の掘立柱建物跡と考えられる。棟方向は南北方向であり、N-5°03'-Eである。柱穴は一辺約0.5～0.8mの隅丸方形を指向している。P20・144・146で柱痕跡を検出した。

## SB5 (図II-65)

調査区中央部に位置する。P1・9・13・112・141・148・150・151・153・293・298で構成される。桁行3間(6.30m)、梁行2間(3.90m)の掘立柱建物跡と考えられる。棟方向は東西方向であり、N-86°07'-Eである。柱穴は一辺約0.5～0.7mの隅丸方形を指向している。P112・141では根石が認められる。P1・141・148・151・153で柱痕跡を検出した。また、P293・298は柱痕跡のみを検出した可能性がある。

## (2)SA

## SA1 (図II-66)

調査区東部に位置する。P186・196・211で構成される。P186は一辺約0.6mの隅丸方形を呈する。P186・211では柱痕跡を検出した。軸方向は南北方向であり、N-4°37'-Eである。

## (3)SK

## SK6 (図II-67)

調査区北西部に位置する。SK7に切られる。長軸約0.9m、短軸約0.8mの不整円形を呈する。埋土は暗褐色粘質シルト、黒褐色粘質シルト、黄褐色砂質シルト、黒褐色粘質土である。底面には根石がみられる。古代の掘立柱建物を構成していた柱穴の可能性はある。

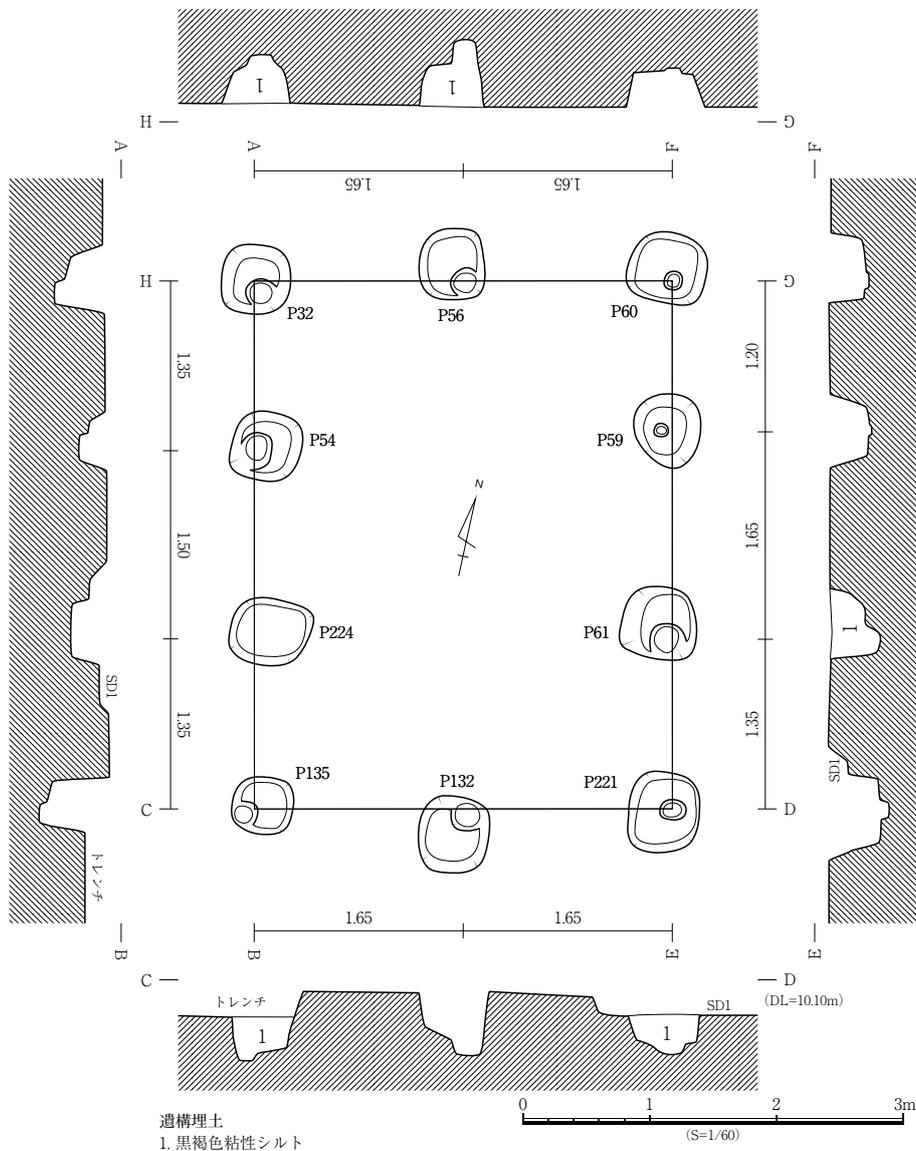
図示した出土遺物は弥生土器の皿状の鉢(1)である。手捏ね成形であり、外面には指頭圧痕が顕著に残る。混入品の可能性がある。

SK8 (図Ⅱ-67)

調査区北東部に位置する。長軸 1.2m 以上、短軸 0.9m 以上の不整形を呈する。埋土は褐灰色粘性シルト、黒褐色粘性土、黄色粘質土である。底面には根石がみられる。古代の掘立柱建物を構成していた柱穴の可能性ある。

SK9 (図Ⅱ-67)

調査区北東部に位置する。一辺約 0.7m の方形を呈する。埋土は黒褐色粘性シルト、黄褐色砂質シルトである。



図Ⅱ-61 Ⅱ-4-1区SB1平面図・断面図・エレベーション図

(4)SD

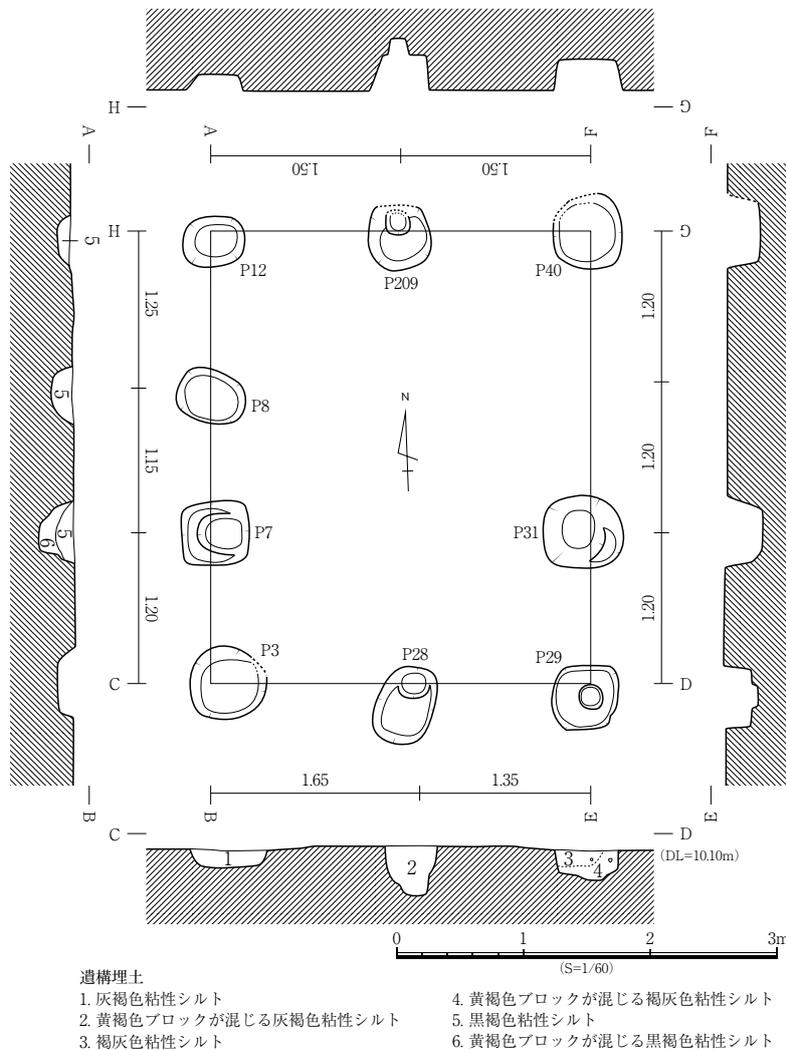
SD1 (図II-68)

調査区南部に位置する東西方向の溝跡である。幅0.7~1.2m, 検出面からの深さは16cmである。埋土は2層に分層でき, 上層は砂質の強い褐灰色粘質シルトであり, 下層は灰褐色粘質シルトである。検出長は約29mであり, 両端は調査区外へのびる。

図示した出土遺物は土師器の椀(2・3)・羽釜(4), 土錘(5)である。2は平高台, 3は輪高台である。4は口縁部からやや下がった位置に鏝を巡らせる。5は全長に比べ幅はひろい。直径6mmの円孔が貫通する。

SD2 (図II-68)

調査区西部に位置する南北方向の溝跡である。幅1.3~1.8m, 検出面からの深さは52cmである。埋土は灰褐色砂質シルト, 褐灰色粘性シルト, 灰褐色粘性シルト, 暗褐灰色粘性シルト, 灰白色砂質シルト等である。検出長は約13.1mである。



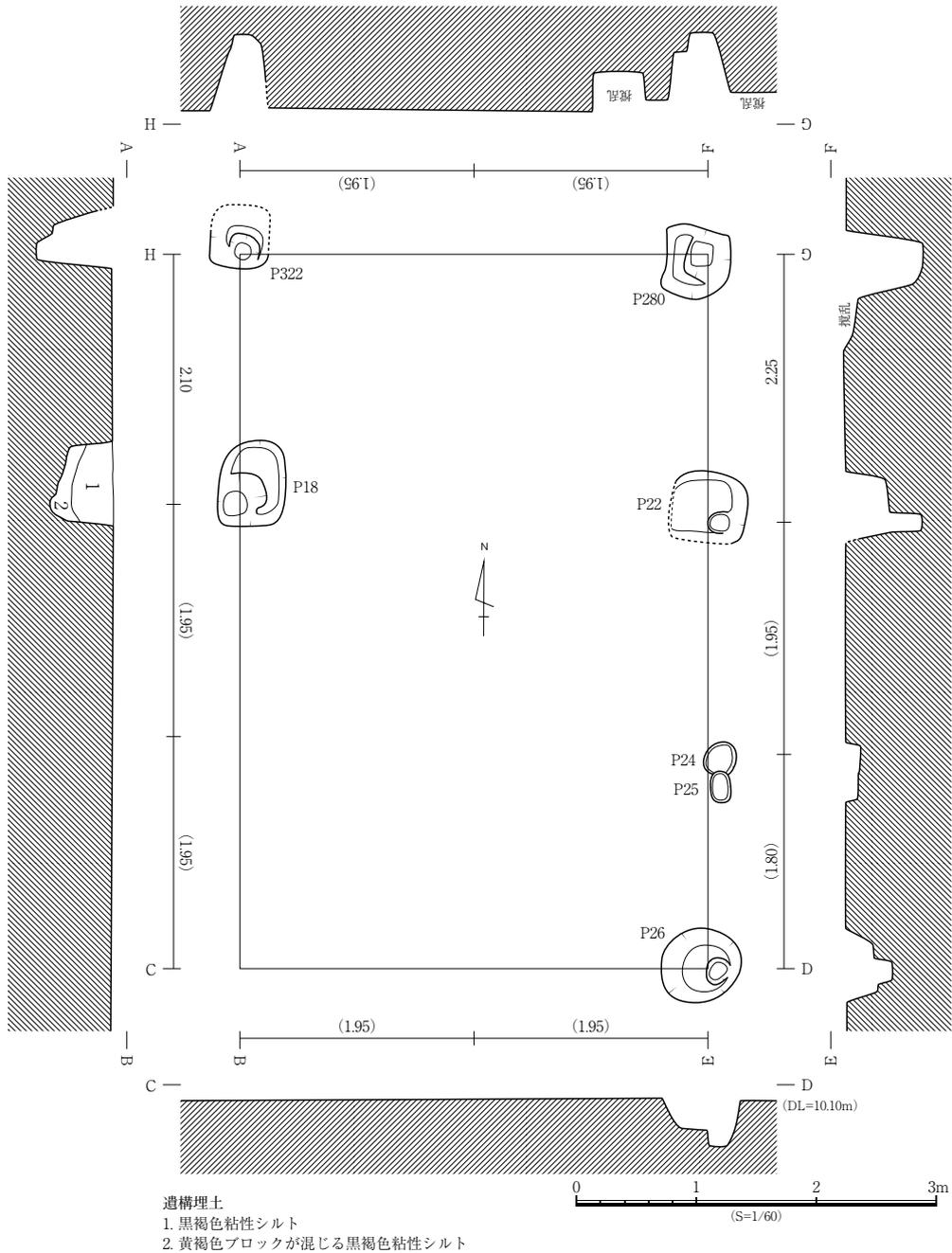
図II-62 II-4-1区SB2平面図・断面図・エレベーション図

図示した出土遺物は石鏃(6)である。有茎式の打製石鏃である。左右非対称である。両面とも主要な剥離面を残し、縁辺部には細かな調整剥離を施す。完存である。サヌカイト製である。

(5)P (ピット)

P286 (図Ⅱ-69)

調査区西部に位置し、SD2を切る。長軸約0.8m、短軸約0.7mの隅丸方形を呈する。検出面からの



図Ⅱ-63 Ⅱ-4-1区SB3平面図・断面図・エレベーション図

深さは44cmであり、埋土は黒褐色粘質シルト、黒褐色粘質土である。掘立柱建物を構成している柱穴の可能性ある。図示した出土遺物は須恵器の高杯(7)である。低脚であり、裾部は大きくひろがる。内外面とも回転ナデ調整である。

P297 (図II-69)

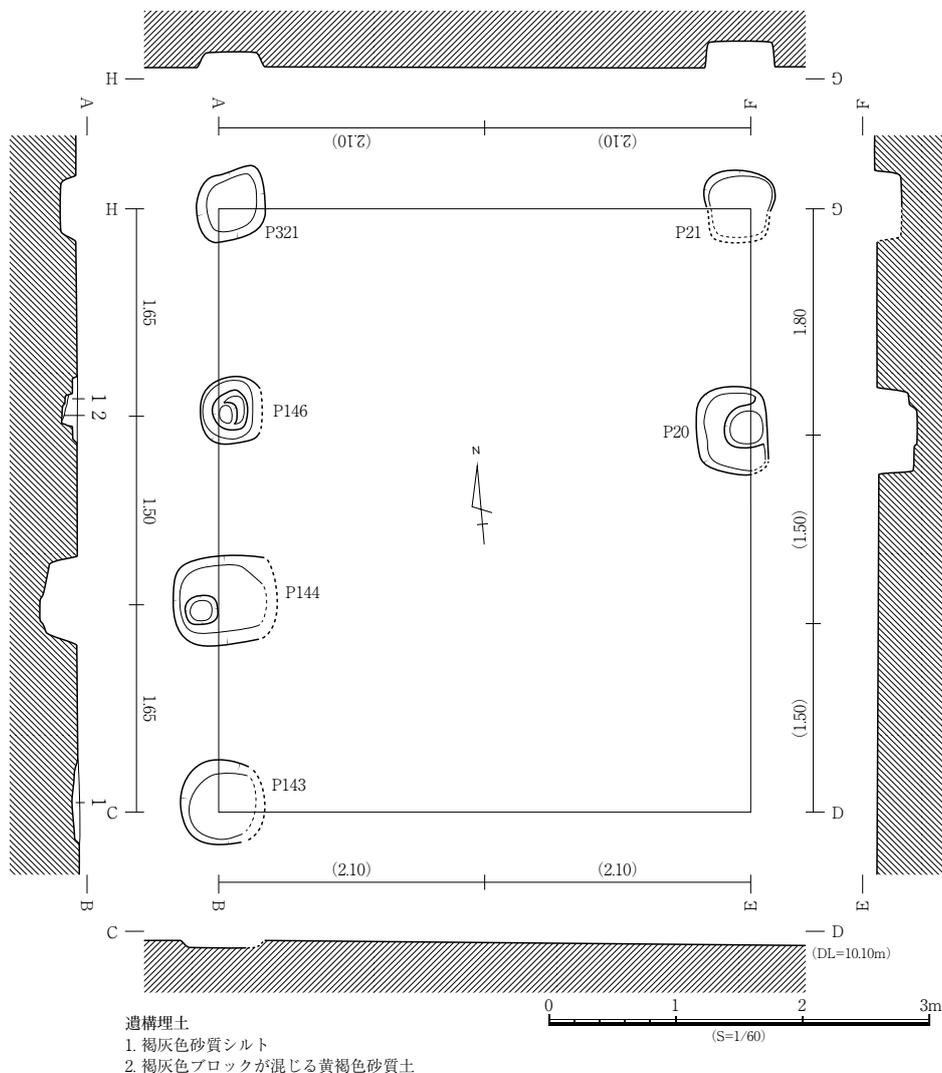
調査区中央部に位置する。直径約0.2mの円形を呈する。検出面からの深さは33cmである。図示した出土遺物は土師器の杯(8)である。回転ナデ調整であり、外底面には回転糸切り痕跡がみられる。

②II-4-2区

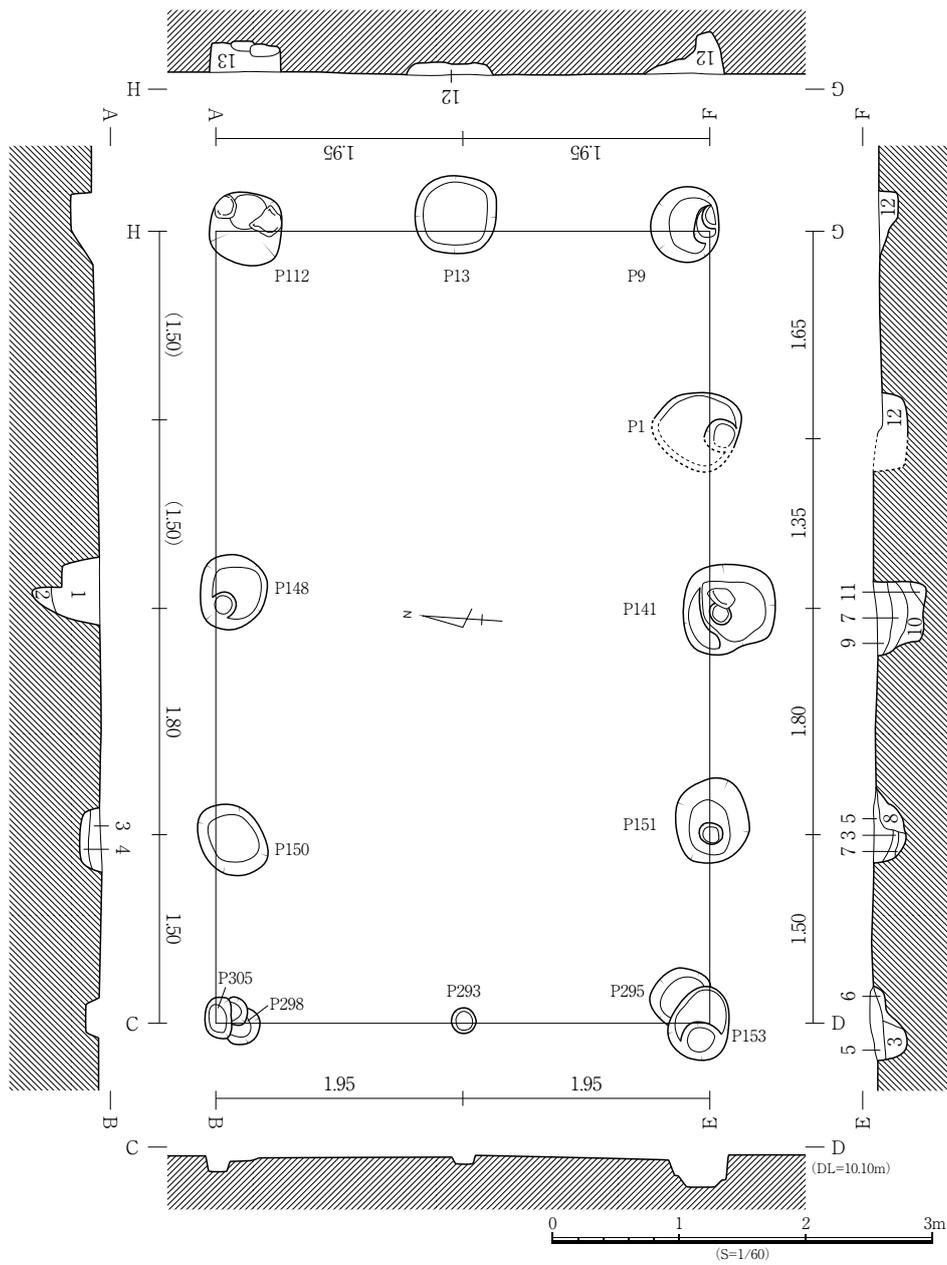
(1)SA

SA1 (図II-70)

南北方向の柵跡である。検出長は5.2mであり、P1～4で構成される。柱穴は直径0.1～0.5mの円



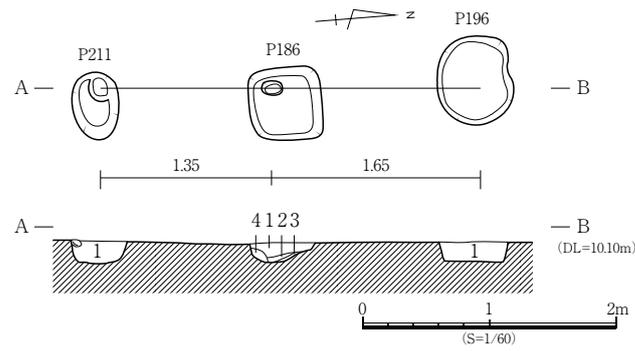
図II-64 II-4-1区SB4平面図・断面図・エレベーション図



遺構埋土

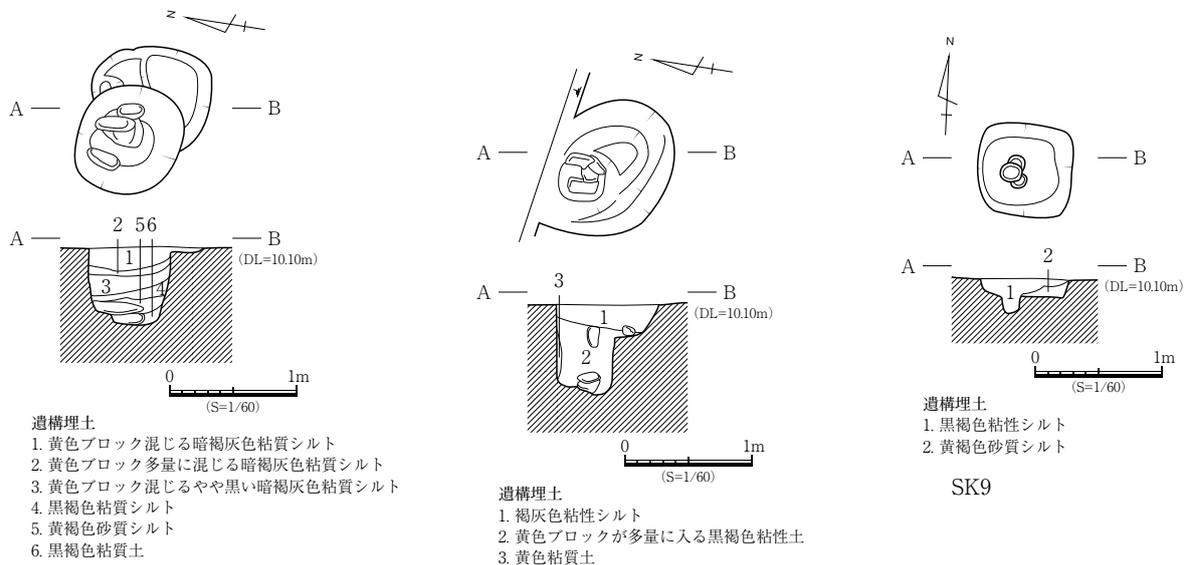
- |                                   |                       |
|-----------------------------------|-----------------------|
| 1. 暗褐色粘質シルト                       | 8. 黄褐色ブロックが混じる褐色粘質シルト |
| 2. 黄褐色ブロックが多く混じる暗褐色粘質シルト          | 9. 褐色シルト              |
| 3. 灰褐色粘質シルト                       | 10. 褐色粘質土             |
| 4. 灰褐色粘質シルトが混じる黄褐色砂質シルト           | 11. ブロックが混じる褐色粘質土     |
| 5. 褐色粘質シルト                        | 12. 黒褐色粘質土            |
| 6. 黄灰色粘質土が混じる褐色粘質シルト(別のピットの可能性あり) | 13. 黒褐色粘性シルト          |
| 7. 褐色粘質シルト                        |                       |

図Ⅱ-65 Ⅱ-4-1区SB5平面図・断面図・エレベーション図



- 遺構埋土
1. 褐灰色粘質シルト
  2. 黄褐色ブロックが混じる暗褐色粘質シルト
  3. 褐灰色粘質シルトが混じる黄褐色粘質シルト
  4. 暗褐色粘質シルト

図II-66 II-4-1区SA1平面図・断面図



- 遺構埋土
1. 黄色ブロック混じる暗褐色粘質シルト
  2. 黄色ブロック多量に混じる暗褐色粘質シルト
  3. 黄色ブロック混じるやや黒い暗褐色粘質シルト
  4. 黒褐色粘質シルト
  5. 黄褐色砂質シルト
  6. 黒褐色粘質土

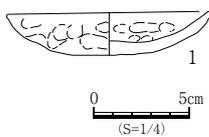
- 遺構埋土
1. 褐灰色粘性シルト
  2. 黄色ブロックが多量に入る黒褐色粘性土
  3. 黄色粘質土

- 遺構埋土
1. 黒褐色粘性シルト
  2. 黄褐色砂質シルト

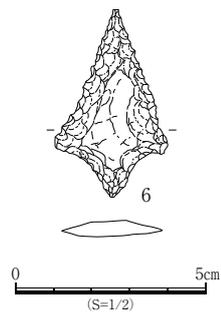
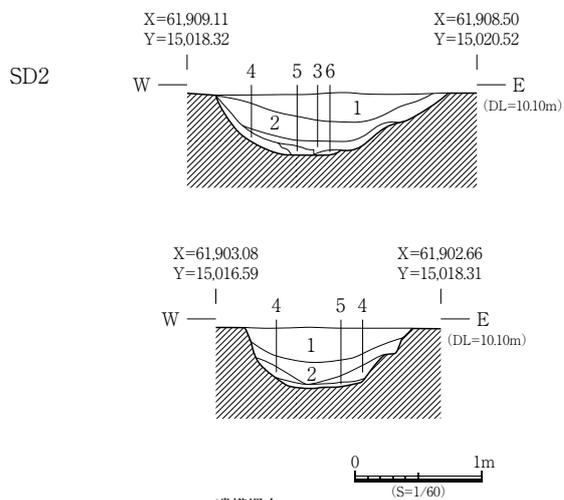
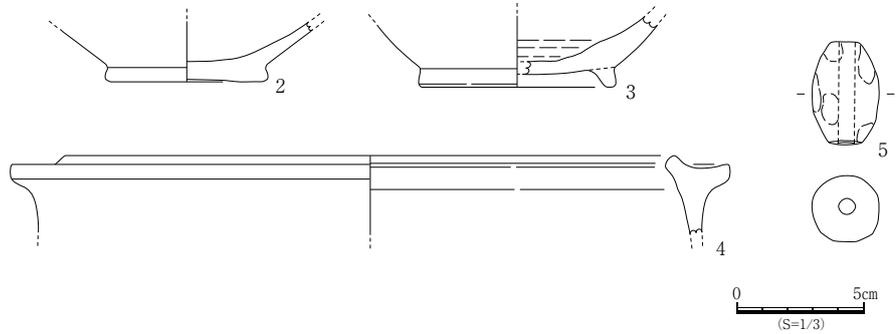
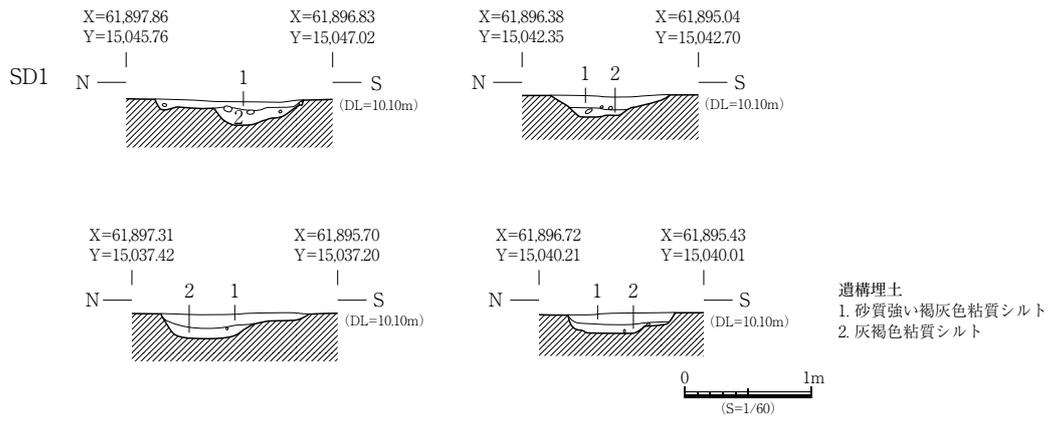
SK6

SK8

SK9



図II-67 II-4-1区SK6・8・9平面図・断面図・遺物実測図



- 遺構埋土
1. 灰褐色砂質シルト
  2. 褐灰色粘性シルト
  3. 灰褐色粘性シルト
  4. 暗褐色粘性シルト
  5. 黄褐色土が混じる暗褐色粘性シルト
  6. 灰白色砂質シルト

図Ⅱ-68 Ⅱ-4-1区SD1・2断面図・遺物実測図

形であり、柱間距離は1.65～1.80mである。主軸方向はN-12°18'-Wである。

SA2 (図II-70)

南北方向の柵跡である。検出長は1.0mであり、P5・6で構成される。柱穴は直径0.3～0.5mの円形である。主軸方向はN-8°50'-Wである。II-4-1区のP303もSA2に含まれる可能性がある。

③II-4-3区

(1)ST

ST1 (図II-71)

調査区中央部南で検出した遺構である。SX3に切られる。一辺約2mの隅丸方形、あるいは短軸約2mの隅丸長方形と推測される。検出面からの深さは12cmである。床面でピットを2基検出した。埋土は黒褐色粘土質シルトである。出土遺物は図示していないが、弥生時代後期末と考えられる。

(2)SB

SB1 (図II-72)

P10・101・103・104で構成される。柵あるいは掘立柱建物跡に復元できる。棟方向は東西方向であり、N-85°56'-Wである。P103は直径約0.30mの円形を呈する。検出面からの深さは15cmであり、埋土は褐灰色粘土質シルトである。

図示した出土遺物は黒色土器の椀(9)である。口縁部内面に沈線が巡る。内外面ともヘラミガキ調整を密に施す。楠葉型である。

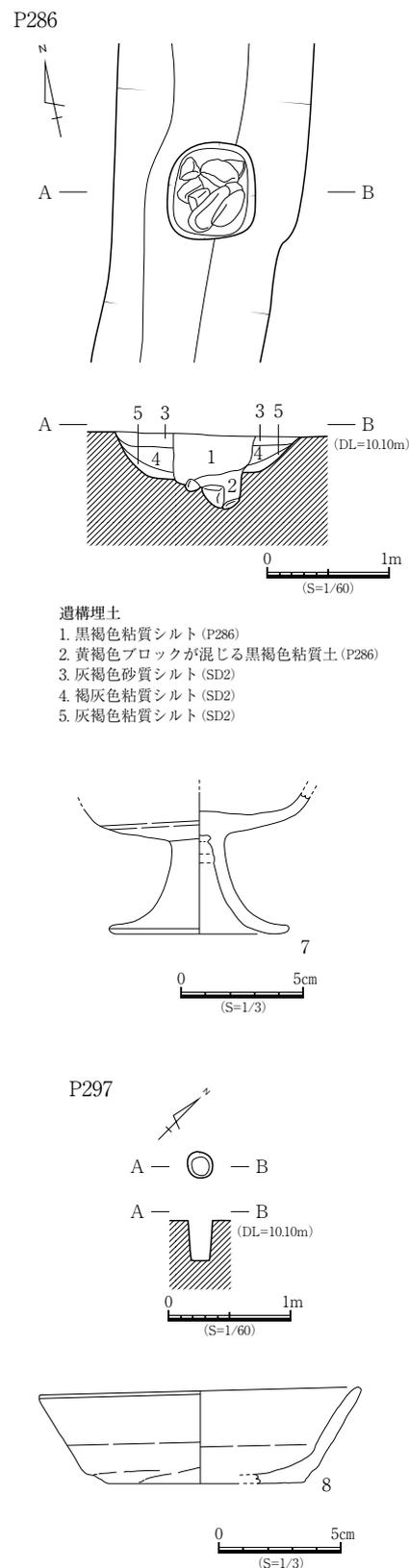
SB2 (図II-73)

P15・45～47・123で構成される掘立柱建物跡である。棟方向は東西方向であり、N-86°33'-Wである。調査区外へ展開すると考えられる。

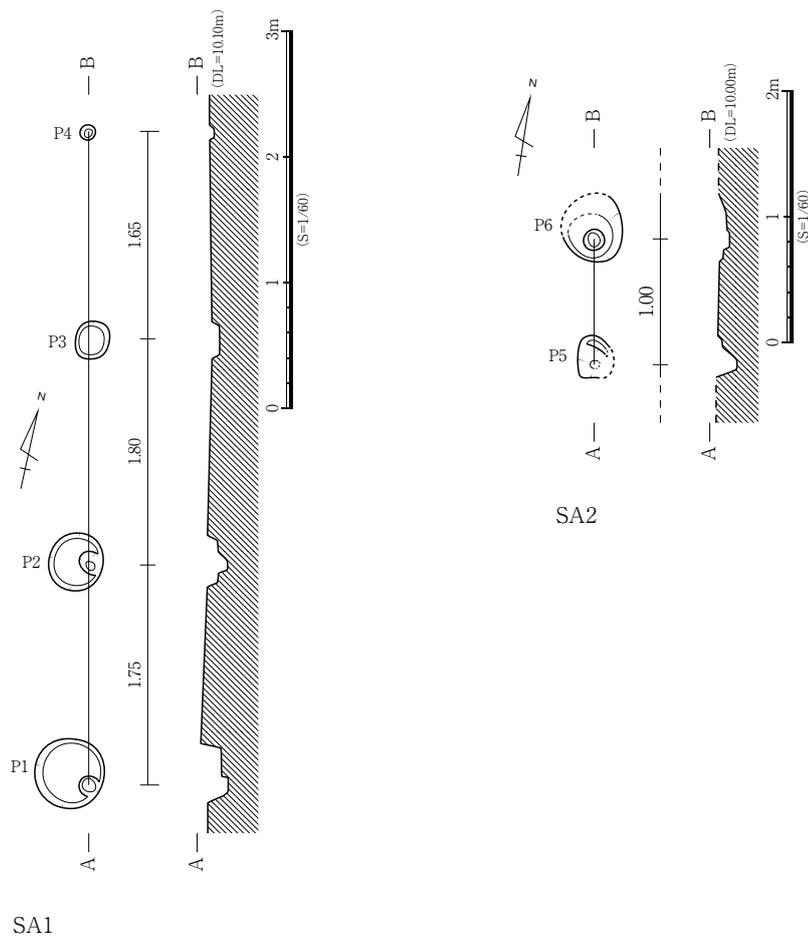
(3)SK

SK2 (図II-74)

調査区北西部で検出した土坑である。調査区



図II-69 II-4-1区P286・297平面図・断面図・エレベーション図・遺物実測図



図Ⅱ-70 Ⅱ-4-2区SA1・2平面図・エレベーション図

外へのび隅丸長方形を呈すると推測される。長軸の検出長は約 1.5m，短軸は約 0.9m である。検出面からの深さは 36cm である。埋土は灰黄褐色粘土質シルトであり，円礫を多く含む。

**SK3** (図Ⅱ-74)

調査区北西部で検出した土坑である。調査区外へのび隅丸長方形を呈すると推測される。長軸の検出長は約 1.5m，短軸は約 1.0m である。埋土は灰黄褐色細粒砂質シルト，黒褐色粘土質シルトである。

**SK5** (図Ⅱ-74)

調査区西部で検出した土坑である。直径約 0.9m の不整円形を呈し，検出面からの深さは 25cm である。埋土は灰黄褐色粘土質シルト，黒褐色粘土質シルトである。桶杵の痕跡が認められる。

**SK6** (図Ⅱ-74)

調査区西部で検出した土坑である。長軸約 1.0m，短軸約 0.9m の楕円形を呈し，検出面からの深さは 17cm である。埋土は灰黄褐色シルトである。桶杵の痕跡が認められる。

(4) SE

**SE1** (図Ⅱ-75)

調査区西部で検出した井戸跡である。直径約 0.7m の不整円形を呈し，検出面からの深さは約 100

cmである。埋土は灰黄褐色シルト, 灰黄褐色粘土質シルトである。

(5)SD

SD1 (図II-76)

調査区東部で検出した溝跡である。攪乱に切られる。幅約0.6m, 検出面からの深さは27cmである。検出長は6.2mである。埋土は灰黄褐色～暗灰黄色粘土質シルトである。

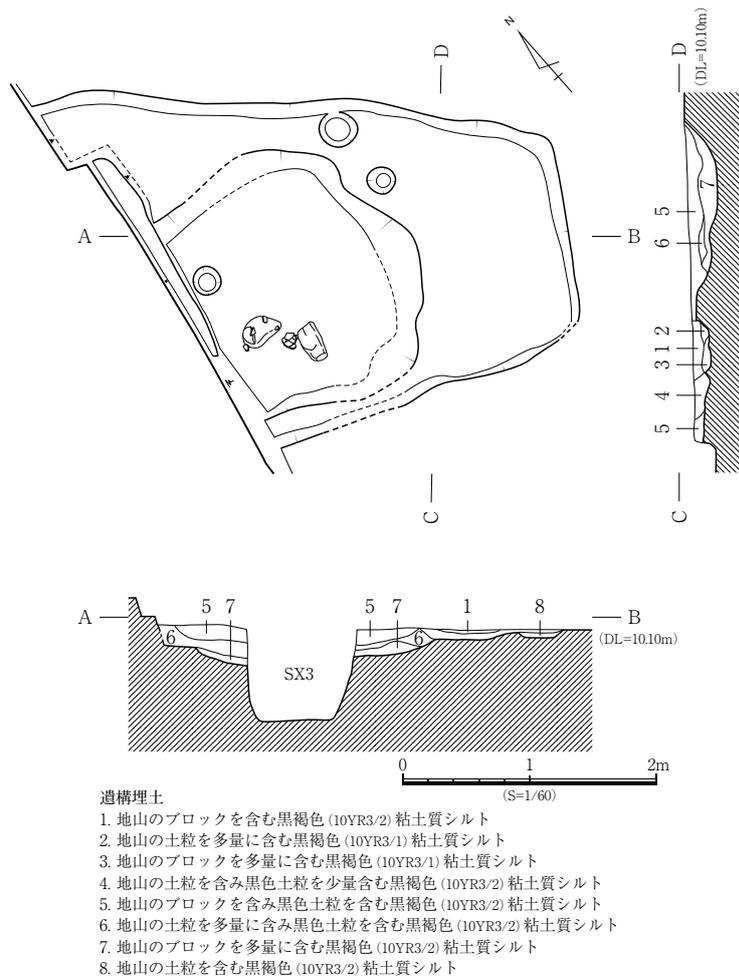
SD2 (図II-76)

調査区西部で検出した南北方向の溝跡である。北は調査区外へのび, 南はII-4-1区に続く。SE1, P15~18・21・47・48・74~86・94・95・99・100・116~119に切られる。幅約1.9m, 検出面からの深さは50cmである。検出長は約8.8mである。埋土は褐灰色粘土質シルトである。

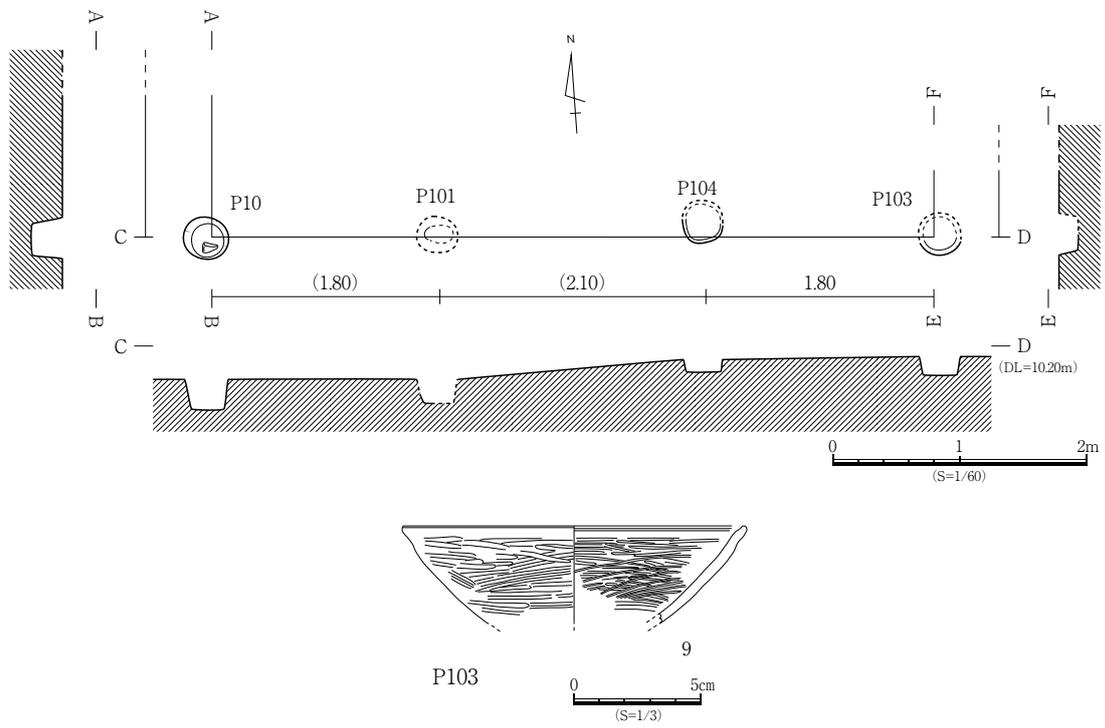
(6)SX

SX1 (図II-77)

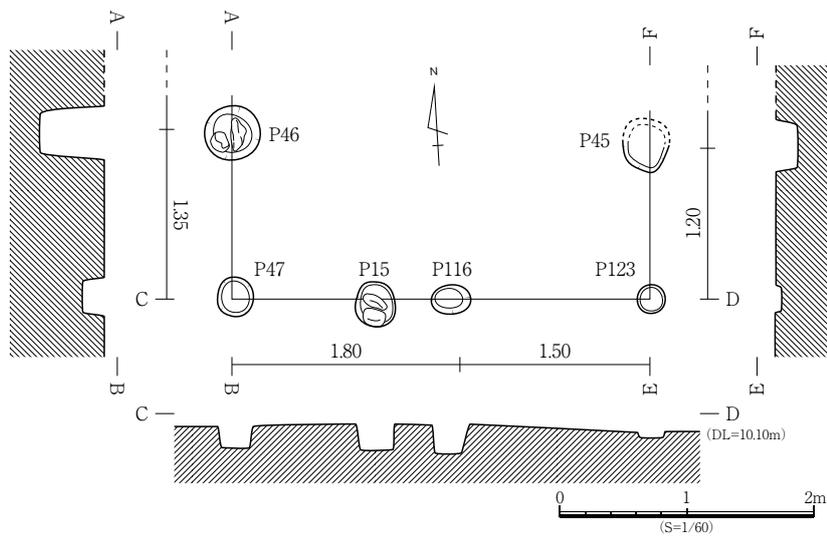
調査区南部で検出した遺構である。隅丸長方形を呈していたと推測される。一辺約2.6m, 検出面からの深さは12cmである。埋土は褐灰色粘土質シルト, 灰黄褐色細粒砂質シルトである。



図II-71 II-4-3区ST1平面図・断面図



図Ⅱ-72 Ⅱ-4-3区SB1平面図・エレベーション図・遺物実測図



図Ⅱ-73 Ⅱ-4-3区SB2平面図・エレベーション図

SX2 (図II-77)

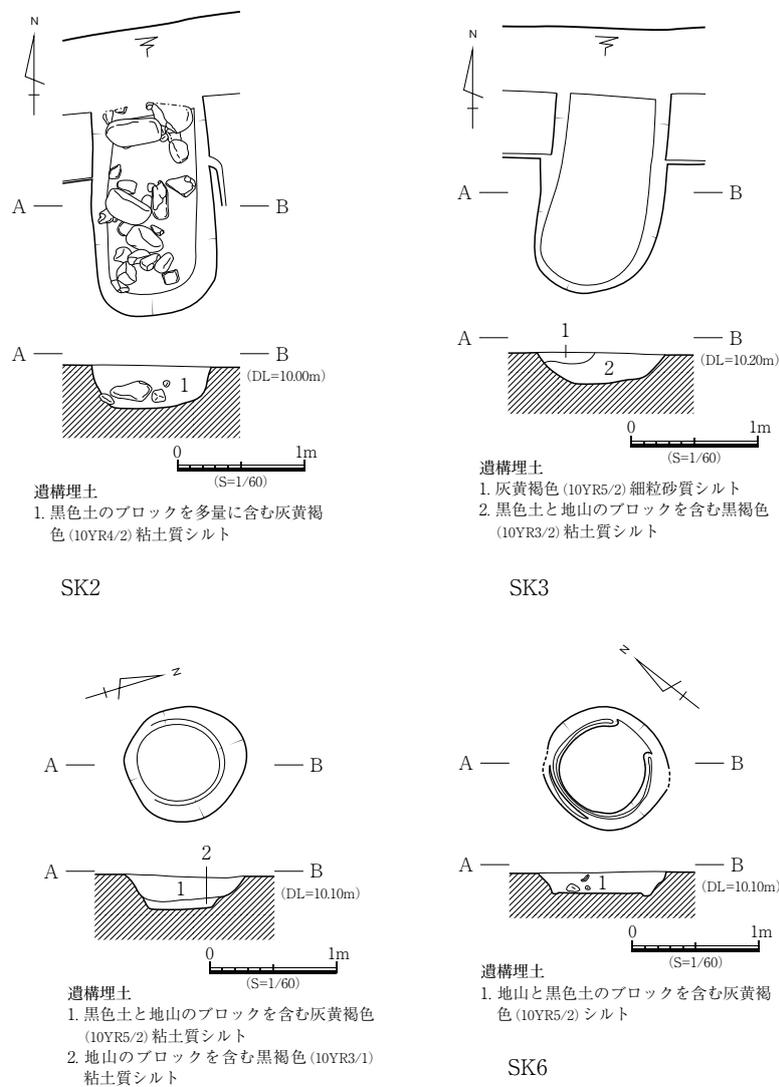
調査区南西部で検出した遺構である。隅丸長方形を呈していたと推測される。長軸約 2.5m, 短軸は 1.5m 以上を検出した。埋土は灰黄褐色粘土質シルトである。

SX3 (図II-78)

調査区南部で検出した遺構である。幅約 0.5m, 深さ 72cm である。弧を描くように 4.4m まで検出した。床面は南から北方向へ標高が下がっていく。埋土は灰黄褐色粘土質シルト, 暗灰黄色粘土質シルトである。太平洋戦争時の陣地跡の可能性はある。

SX4

調査区南部で検出した遺構である。長軸 1.0m 以上, 短軸約 0.5m の楕円形を呈する。検出面からの深さは 20cm である。



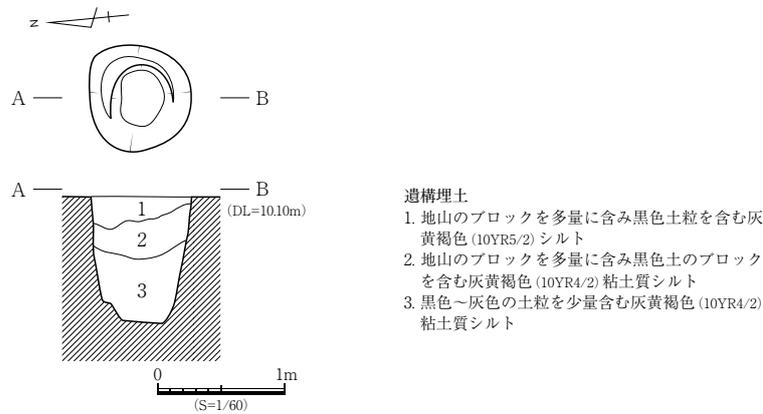
図II-74 II-4-3区SK2・3・5・6平面図・断面図

(7)P (ピット)

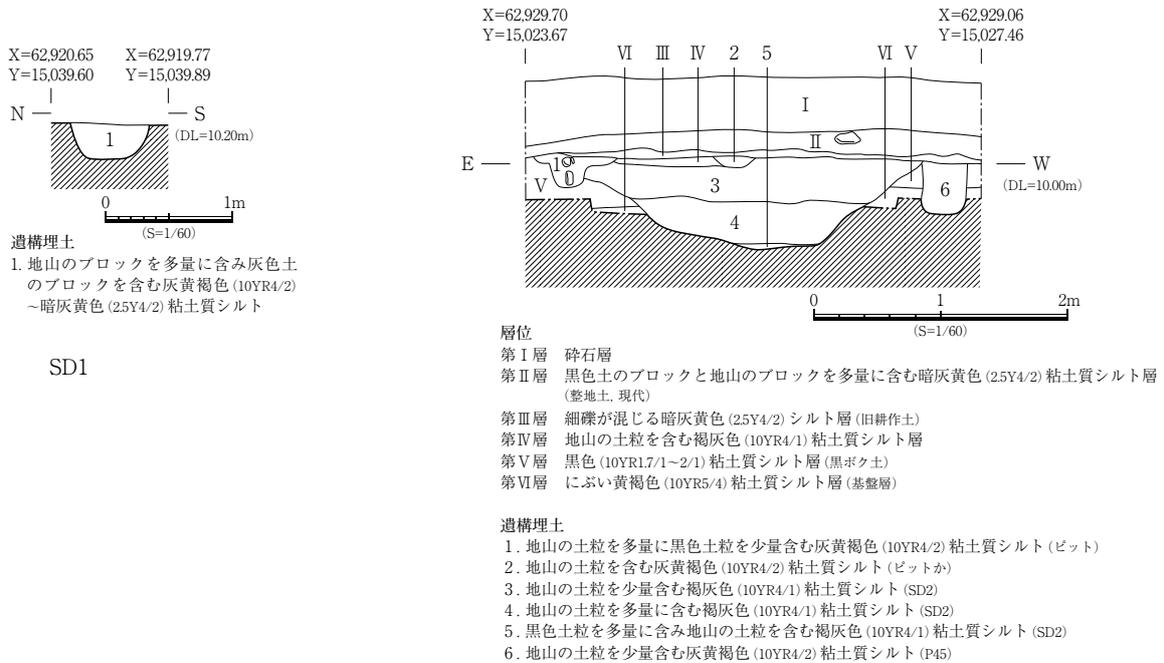
P67 (図Ⅱ-79)

調査区西部に位置する。直径約 0.4m の円形を呈する。検出面からの深さは 30 cm であり、埋土は褐灰色粘土質シルトである。

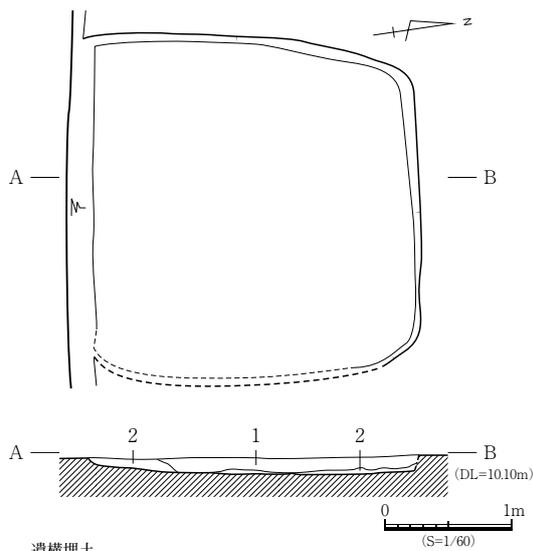
図示した出土遺物は縄文土器の浅鉢(10)である。口唇部は軽く面取りされる。外面には3条の沈線を施す。



図Ⅱ-75 II-4-3区SE1平面図・断面図



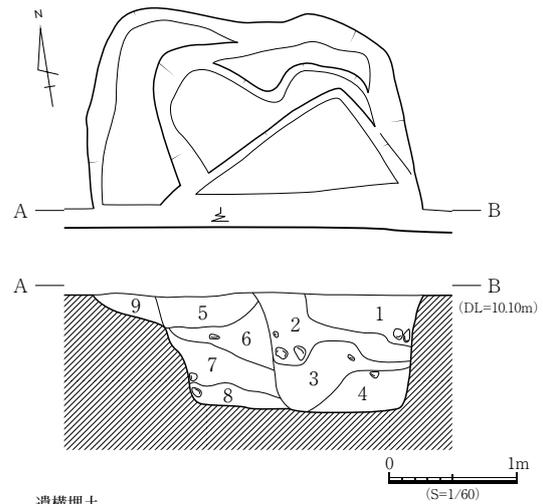
図Ⅱ-76 II-4-3区SD1・2断面図



遺構埋土

1. 地山と黒色土のブロックを多量に含む褐色(10YR4/1)粘土質シルト
2. 灰黄褐色(10YR5/2)細粒砂質シルト

SX1

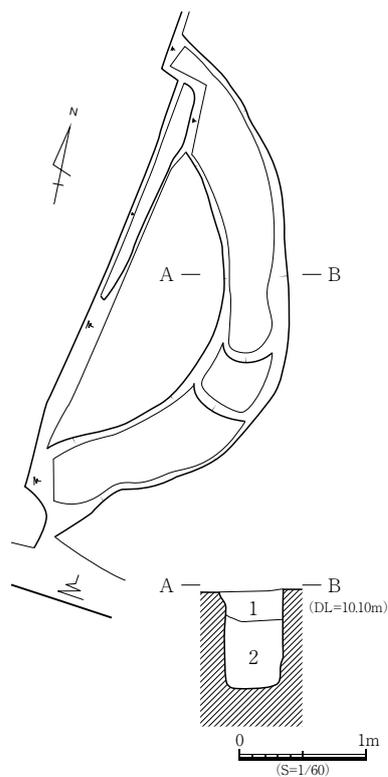


遺構埋土

1. 地山のブロックを多量に含む黒色土のブロックを少量含む灰黄褐色(10YR4/2)粘土質シルト
2. 地山のブロックを少量含む中礫が少量混じる灰黄褐色(10YR4/2)粘土質シルト
3. 地山のブロックを多量に含む黒色土のブロックを少量含む灰黄褐色(10YR4/2)粘土質シルト
4. 地山のブロックを多量に含む灰黄褐色(10YR4/2)粘土質シルト
5. 地山と黒色土のブロックを少量含む灰黄褐色(10YR4/2)粘土質シルト
6. 地山のブロックを多量に含む黒色土のブロックを少量含む中礫が少量混じる灰黄褐色(10YR4/2)粘土質シルト
7. 地山と黒色土のブロックを含む灰黄褐色(10YR4/2)粘土質シルト
8. 地山と黒色土のブロックを少量含む灰黄褐色(10YR4/2)粘土質シルト
9. 地山のブロックと黒色土粒を含む灰黄褐色(10YR4/2)粘土質シルト

SX2

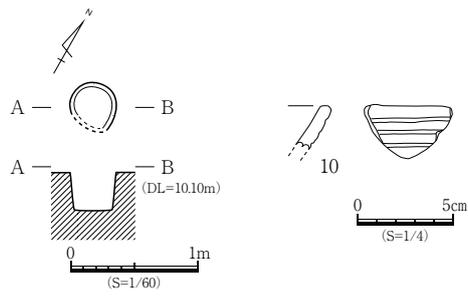
図II-77 II-4-3区SX1・2平面図・断面図



遺構埋土

1. 地山と黒色土のブロックを多量に含む灰黄褐色(10YR4/2)粘土質シルト
2. 地山と黒色土のブロックを多量に密に含む暗灰黄色(2.5Y4/2)粘土質シルト

図II-78 II-4-3区SX3平面図・断面図



図Ⅱ-79 Ⅱ-4-3区\_P67平面図・  
エレベーション図・遺物実測図

竪穴建物跡計測表(II-4-3区)

遺構名	平面形	規模(m)			床面標高(m)	面積(m <sup>2</sup> )	長軸方向 (NはGN)	時期
		長軸/検出長	短軸/幅	深さ(cm)				
ST1	隅丸方形	(4.0)	2.6	36	9.7	(12.0)	N-56°-W	弥生時代後期末

土坑計測表(II-4-1区)

遺構名	平面形	規模			床面標高(m)	主軸方向 (NはGN)	時期
		長軸(m)	短軸(m)	深さ(cm)			
SK1	欠番						
SK2	〃						
SK3	不整形	1.3	1.2	16	9.8	N-16°-E	時期不明
SK4	〃	1.0	0.5	31	9.6	N-15°-W	近世
SK5	〃	1.8	1.0	61	9.3	N-20°-W	〃
SK6	不整形	0.9	0.8	57	9.4	N-37°-W	古代か
SK7	不整形	0.9	0.8	18	9.8	N-0°-E	時期不明
SK8	〃	(1.2)	(0.9)	66	9.3	N-49°-W	古代
SK9	方形	0.7	0.7	17	9.8	N-2°-E	時期不明
SK10	欠番						
SK11	隅丸長方形	2.0	0.8	26	9.7	N-80°-W	近世

土坑計測表(II-4-3区)

遺構名	平面形	規模			床面標高(m)	主軸方向 (NはGN)	時期
		長軸(m)	短軸(m)	深さ(cm)			
SK1	隅丸方形	0.8	0.8	11	9.9	N-3°-E	近世か
SK2	隅丸長方形	(1.7)	0.9	40	9.5	N-14°-E	中世
SK3	〃	(1.6)	1.0	37	9.7	N-16°-E	時期不明
SK4	〃	0.9	0.5	11	9.9	N-81°-W	〃
SK5	不整形	0.9	0.9	25	9.8	-	近世
SK6	円形	1.0	0.9	17	9.8	-	〃

出土遺物(土器)観察表

挿図 番号	図版 番号	調査区	出土場所 (遺構)	器種 器形	法量 (cm)			色調 (外面)	特徴
					口径	器高	底径		
II-67	1	II-4-1	SK6	弥生鉢	10.5	2.3	3.7	浅黄橙色	皿状鉢。手握ね成形。外面、指頭圧痕。
II-68	2	〃	SD1	土師椀		(2.4)	6.1	〃	平高台。糸切り。磨耗。二次被熱。
〃	3	〃	〃	〃		(2.8)	7.6	にぶい黄橙色	断面長方形の輪高台。磨耗。搬入品か。
〃	4	〃	〃	土師羽釜	24.0	(3.1)		にぶい橙色	口縁部からやや下がった位置に鏝。口唇部、軽い面取り。内外面、ヨコナデ。被熱変色。
II-69	7	〃	P286 上層	須恵高杯		(5.8)	7.2	灰白色	内外面、回転ナデ。
〃	8	〃	P297	土師杯	13.1	4.0	8.1	にぶい黄褐色	内外面、回転ナデ。糸切り。
II-72	9	II-4-3	SB1 P103	黒色椀	13.4	(3.9)		灰色	口縁部内面、沈線。両黒。内外面、ミガキ。楠葉型B類。
II-79	10	〃	P67	縄文浅鉢		(2.3)		にぶい黄橙色	外面、3条の沈線。胎土に雲母片を含む。

出土遺物(石器)観察表

挿図 番号	図版 番号	調査区	出土場所 (遺構)	器種 器形	法量 (cm/g)				石材	特徴
					全長	全幅	全厚	重量		
II-68	6	II-4-1	SD2 II層	石鏃	5.0	3.0	0.4	4.5	サヌカイト	有茎式の打製石鏃。両面、主要な剥離面を残す。縁辺、細かな調整剥離。完存。

出土遺物(土製品)観察表

挿図 番号	図版 番号	調査区	出土場所 (遺構)	器種 器形	法量 (cm/g)				色調 (外面)	特徴
					全長	全幅	全厚	重量		
II-68	5	II-4-1	SD1	土錘	4.1	2.6	2.6	26.5	灰白色	内外面、ナデ。直径6mmの円孔。完存。

## 6. Ⅲ-1区

### 1. 調査区の概要

Ⅲ区は田村川を境として東西で様相が異なる。ここでは、田村川より東で旧道の北側に設定したⅢ-1区について述べる。以下、該当範囲を「当区」と呼称し、0～6の小区の表記は「Ⅲ-1」を略す。

### 2. 基本層準

4区では、他区で土層や遺構面把握の鍵層となった「上の黒」層や「下の黒」層が図Ⅲ-3のごとく確認でき、検出面は遺物を含まない「下の黒」層上面である。

1・2区では、これら鍵層と即断できる暗色の層が認められない箇所があるが、遺構は図Ⅲ-1のⅣ層や、地山と考えられる図Ⅲ-2のⅤ層上面で検出されたものが多い。しかし、図のごとく図Ⅲ-2のⅣ層を切るSD2や、それをさらに切る2区北部のSK16が存在する他、2区SK1・2・3も少なくとも図Ⅲ-1西壁Ⅳ層上面以上でおそらくⅢ層を切る可能性がある。

なお、1区北端部では地山が上昇しており、その比高差は10数cmを測る。Ⅲ区やⅣ区の旧道北側の一部で「上の黒」・「下の黒」層と即断できる暗色土層が認められない原因に、このような微地形が関連している可能性がある。

Ⅱ層は今次対象区の各所で認められた灰色シルト層で、少なくとも目視できる混入物が少なく均質的である。本来当地区一帯に堆積していた可能性がある。

### 3. 遺構と遺物

当区で検出された遺構は、後述する出土遺物をはじめ、遺構の諸属性、主軸方位や重複にみる遺構相互の関係、埋土および検出面といった諸観点からみて、ほとんどが弥生時代の所産とみられ、それ以外の時期に明確に比定されるものは認められなかった。

諸遺構の主軸方位は当区を横断する南北溝跡と同調するものが多く、次いで真北を基準とした正方位から数°以内のものがある。その他、いずれにも該当しないものもある。なお、上記2種の遺構方位は、Ⅳ-1・4区や同6・8区を横断する流路や溝跡にも認められる。

各遺構の規模や出土遺物の概要は表1～3にまとめ、以下には出土遺物を掲図した遺構を中心に必要に応じて記述する。なお、1～3区における検出時即ち遺構上層の埋土は、褐灰色シルト質粘土に若干の細砂を含むことを基調とするものが多いという共通性があった。

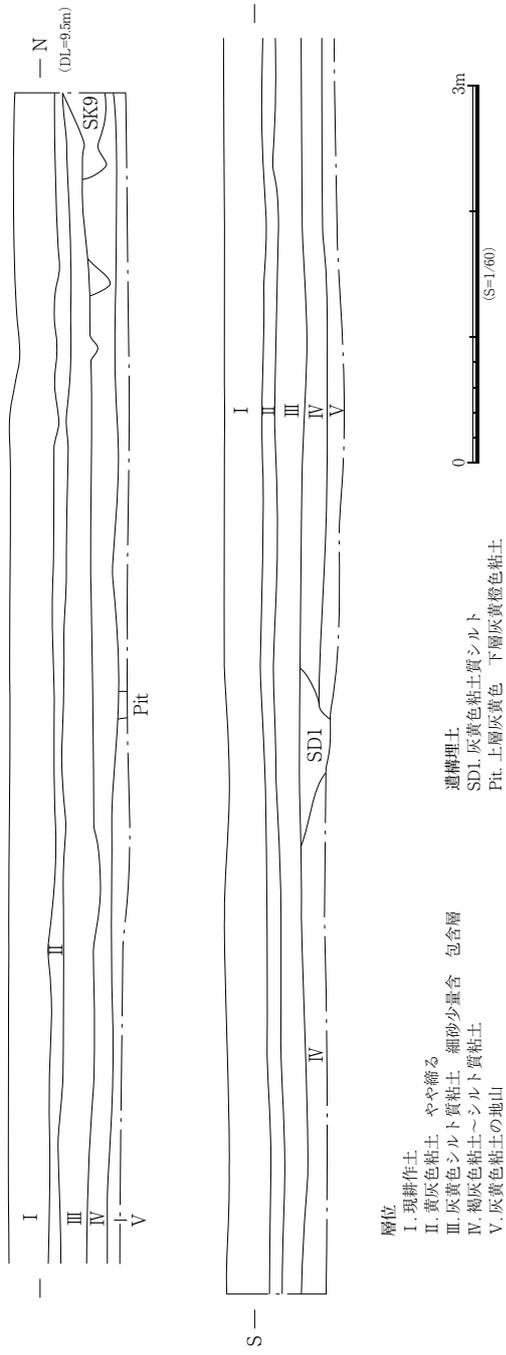
#### (1) 竪穴建物

検出した7基中の6基は円形を基調とする。そのうち全形がわかるものは、いずれも僅かな張出し部分が認められる。また、溝状土坑や一定規模の土坑との切合いでは、基本的にそれらを切っていた。

#### ST1

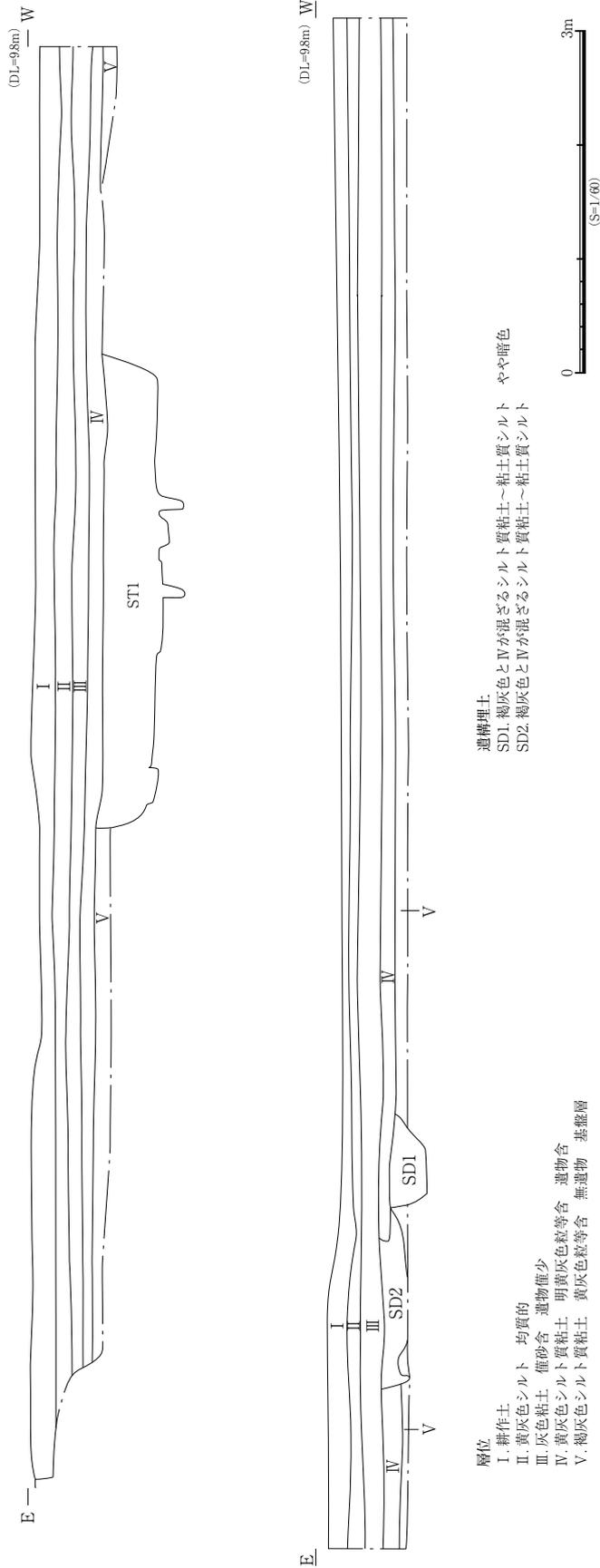
2区南縁で検出した。主柱穴になり得るピットが多く、検出面に小差もあったことから、時期差を想定できる。壁面には直径数～10cm、深さ2～14cmの小ピットが並ぶ。出土した高杯9・11・12はSK14出土遺物と接合した。

図示した出土遺物は弥生土器の壺・甕・鉢・高杯である。1は壺である。上から櫛描波状文1単位、櫛描直線文2単位、櫛描波状文2単位、櫛描直線文2単位、櫛描波状文2単位を配置する。2は甕である。



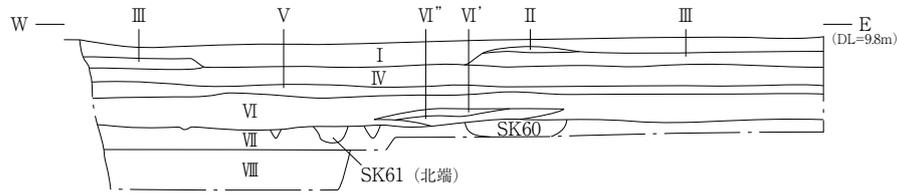
西壁

図III-1 2区 基本層準図



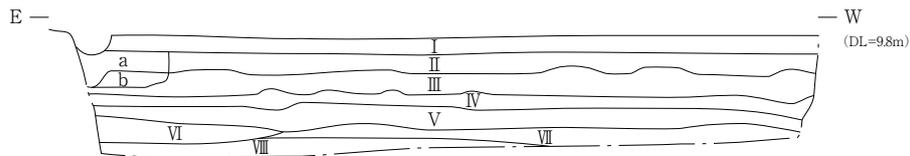
南壁

図III-2 2・3区基本層準図



- |   |   |
|---|---|
| <p>層位</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>I. 耕作土</li> <li>II. 灰色シルト (普遍的にある層)</li> <li>III. 黄灰色シルト質粘土 下層は灰黄色</li> <li>IV. 褐灰色シルト質粘土~粘土</li> <li>V. 暗褐灰色シルト質粘土「上の黒」</li> <li>VI. 黄灰色シルト質粘土 黄橙斑含</li> <li>VI'. VI層に砂利含</li> <li>VI''. VI'層に灰黄色シルト VII層塊含</li> <li>VII. 黒褐色シルト質粘土 土壌化「下の黒」</li> <li>VIII. 灰黄色に褐色粒含粘土質シルト</li> </ul> | <p>遺構埋土</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>SK60. 黄灰色粘土質シルト VII層含</li> <li>SK61. 明褐灰色粘土質シルト (北端上端の1部)</li> </ul> |
|---|---|

4区 北壁

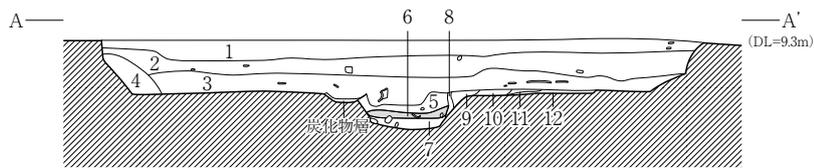
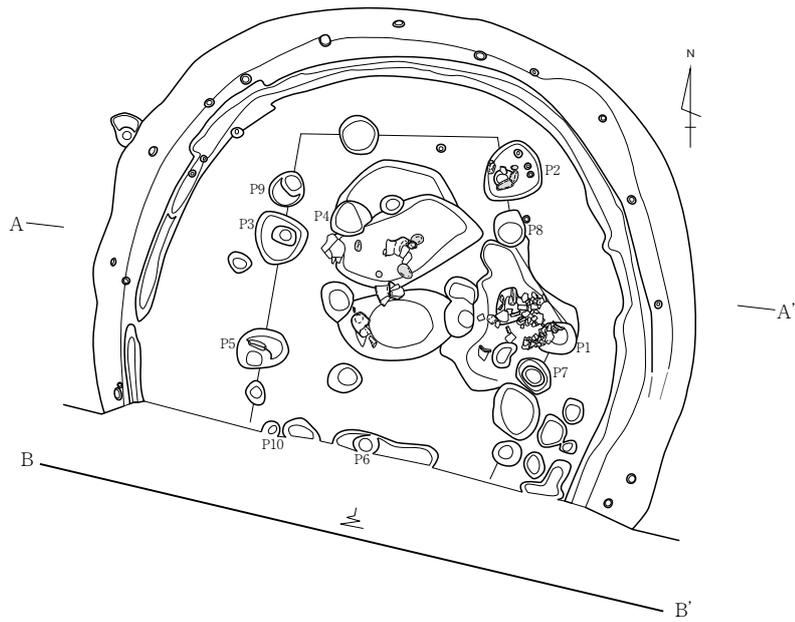


- |   |   |  |
|---|---|--|
| <p>遺構埋土</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>a. 黄灰色シルト質粘土</li> <li>b. 黄灰色粘土 灰黄色含</li> </ul> | <p>層位</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>I. 耕作土</li> <li>II. 黄灰色粘土</li> <li>III. 黄灰色粘土 黄色鉄物斑多含</li> <li>IV. 暗黄灰色粘土</li> <li>V. 黄灰色粘土 黄色鉄物斑多含 土器片僅少含</li> <li>VI. 褐灰色シルト</li> <li>VII. 褐灰色 若干の黄灰色粒・砂含シルト</li> <li>VIII. 黄灰シルト質砂 やや明るめの粘土質シルト含</li> </ul> | <p>} 均質な粘土</p> <p>} シルトや砂 VI・VII上面が遺構検出面</p> |
|---|---|--|

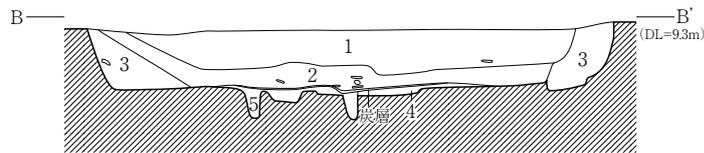


5区 南壁

図III-3 4・5区 基本層準図

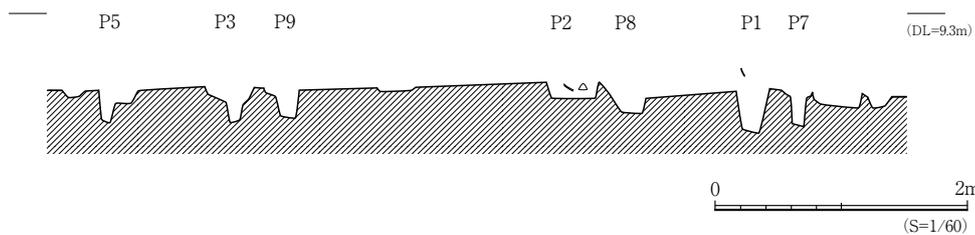


1. 褐灰色シルト質粘土 2~10cm円礫含 やや締る 遺物比較的少
2. 褐灰色シルト質粘土 灰黄色小塊と2~10cm円礫含
3. 褐灰色シルト質粘土 部分的に炭・焼土粒含 2~10cm円礫含 灰黄色小塊と褐色粒含 やや締る 遺物少
4. 褐灰色に灰黄色・褐色含シルト質粘土
5. シルト含黄灰色に灰黄色含粘土
6. 炭層
7. 褐黄色シルト質粘土 地山土に被熱円礫含
8. 褐黄色シルト質粘土
9. 黄灰色粘土
- 10~12. 灰黄色シルトの地山土に黄灰色粘土質シルト 相互間に薄い炭層

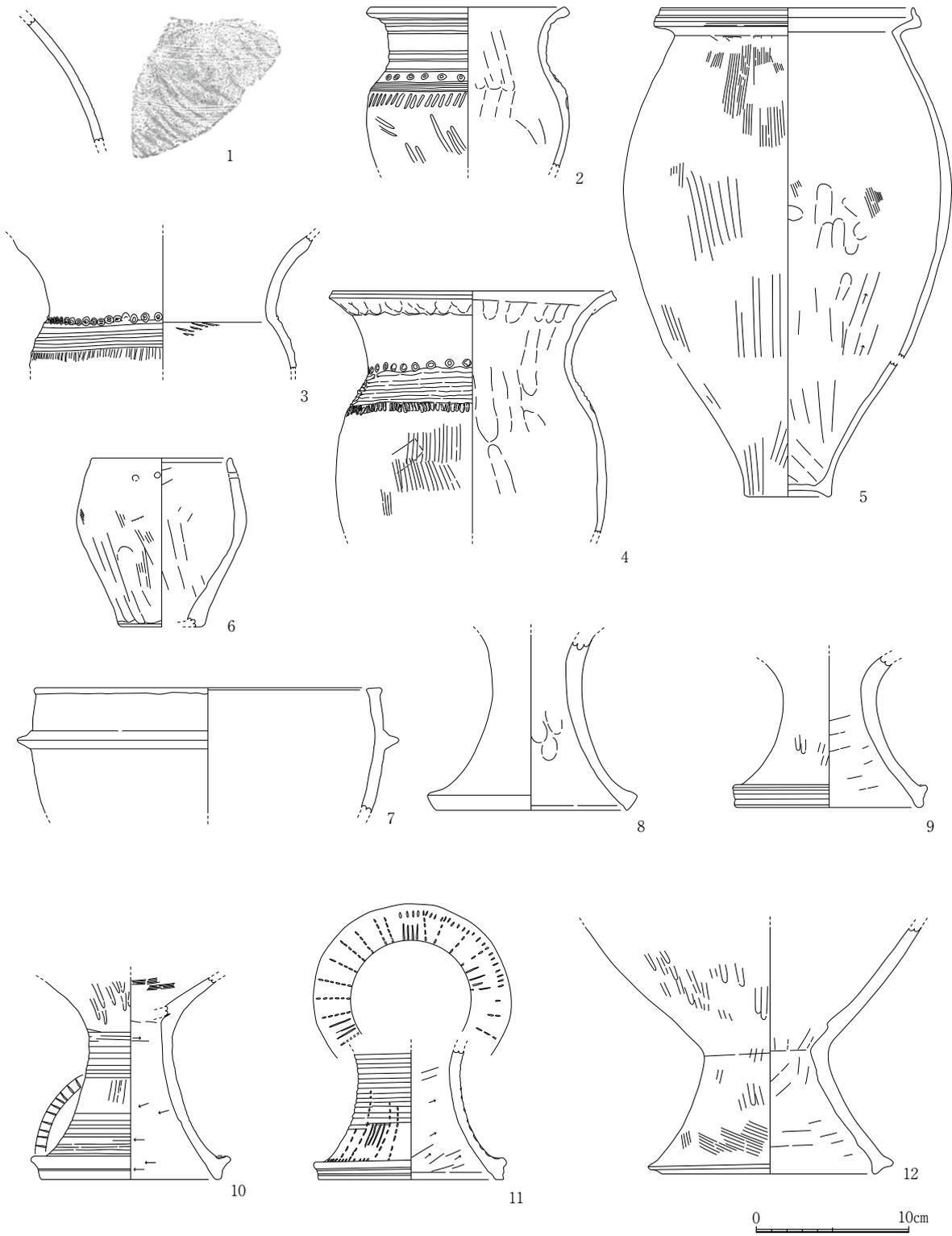


ST1

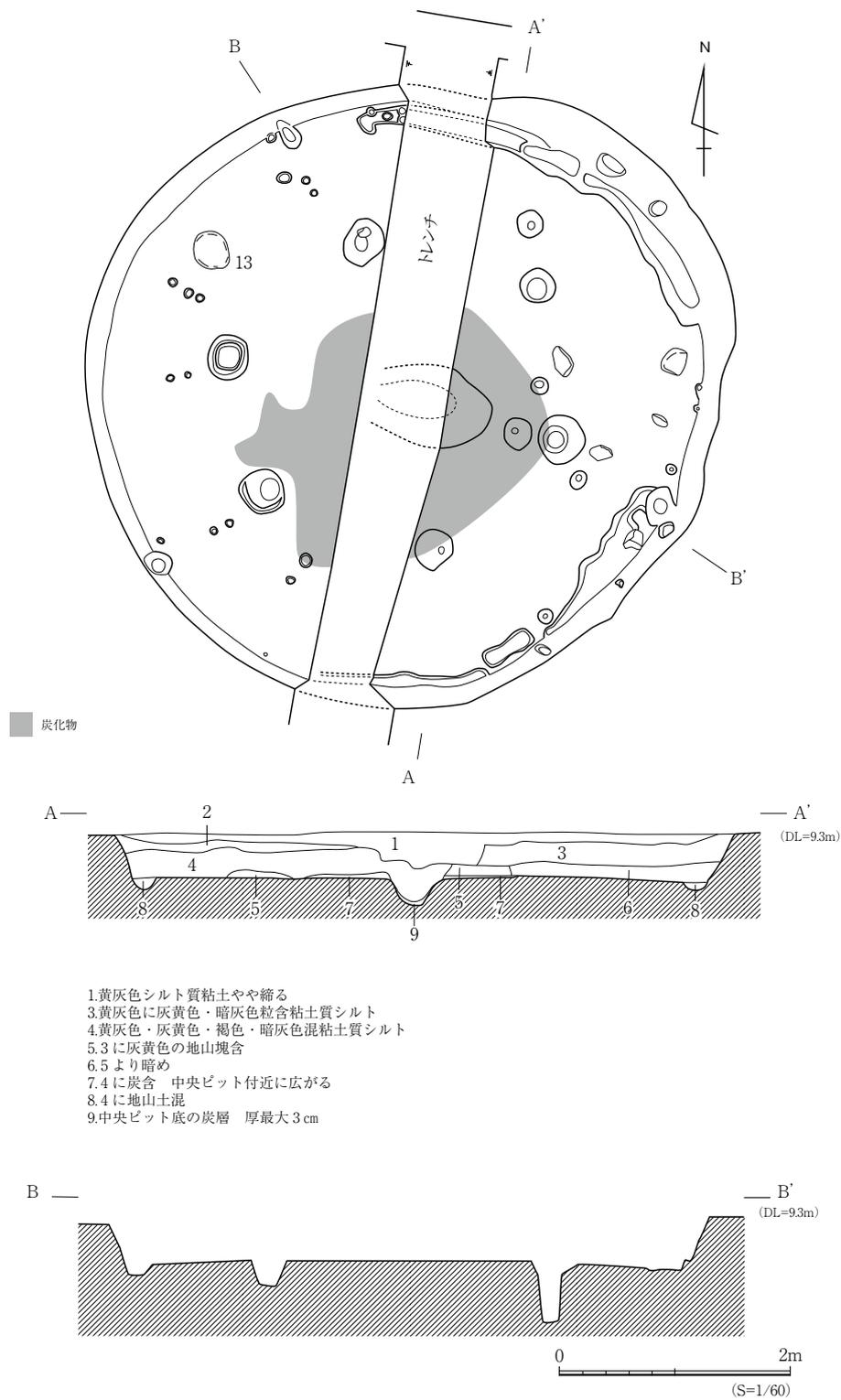
1. 黄灰色シルト質粘土 炭含
2. 1に灰黄(地山)塊含シルト質粘土 炭多含 特に中央Pit上では焼土粒含
3. 黄灰色粘土 褐黄色や灰黄小粒含
4. 地山が塊状に混ざり灰色シルトも混ざる床土
5. 2に炭含



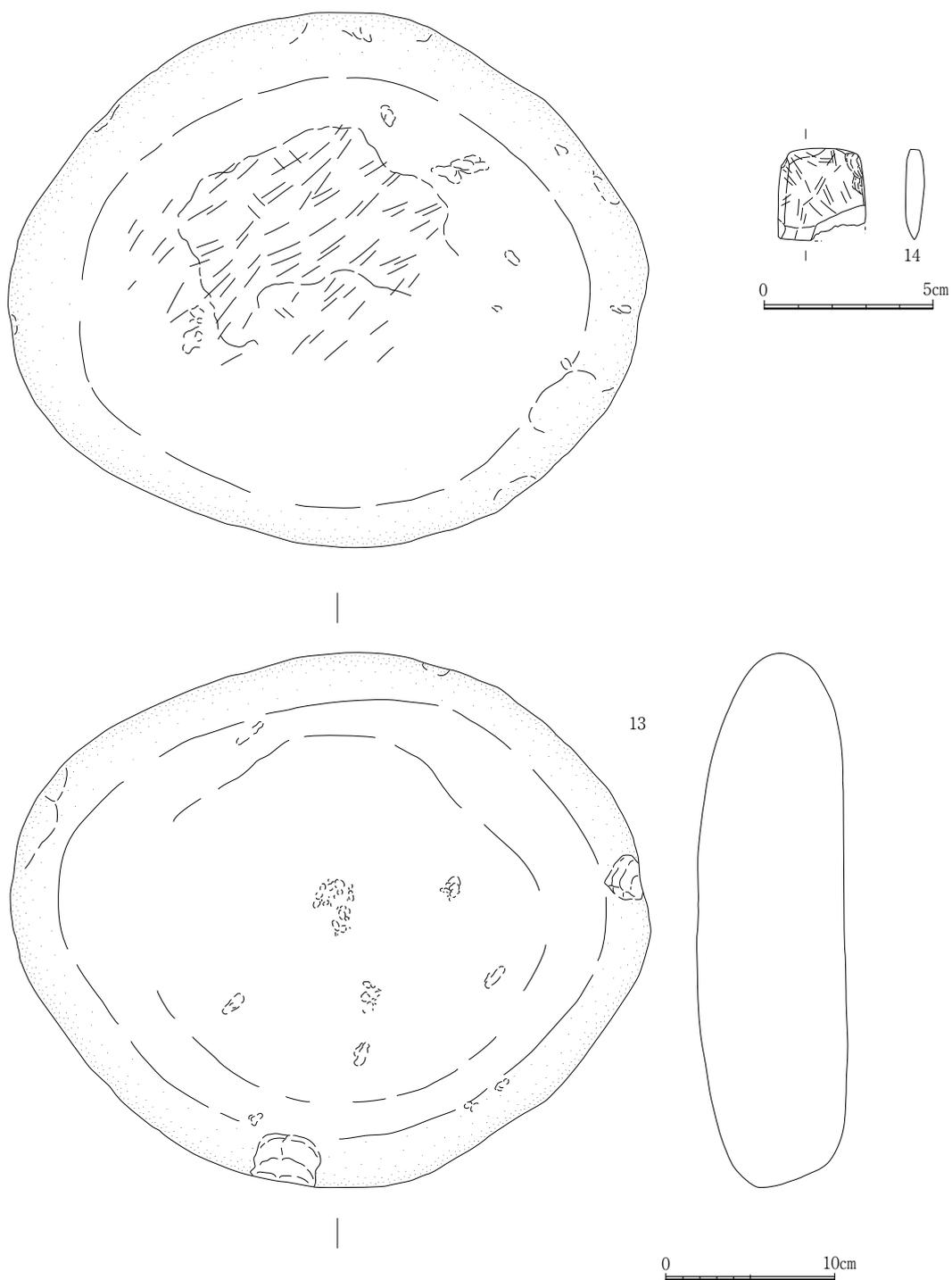
図Ⅲ-4 2・3区 ST1 平断面図



图III-5 2区 ST1出土遺物



図Ⅲ-6 3・4区 ST2平面図



图Ⅲ-7 3·4区 ST2出土遗物

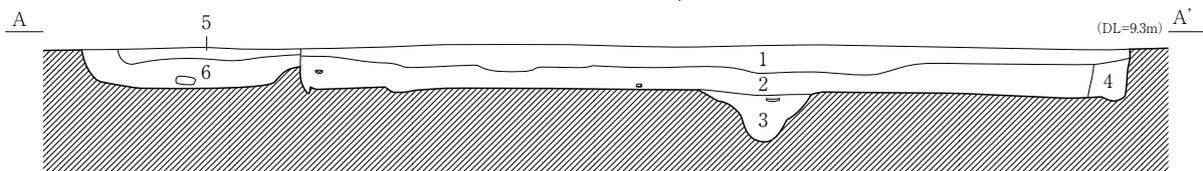
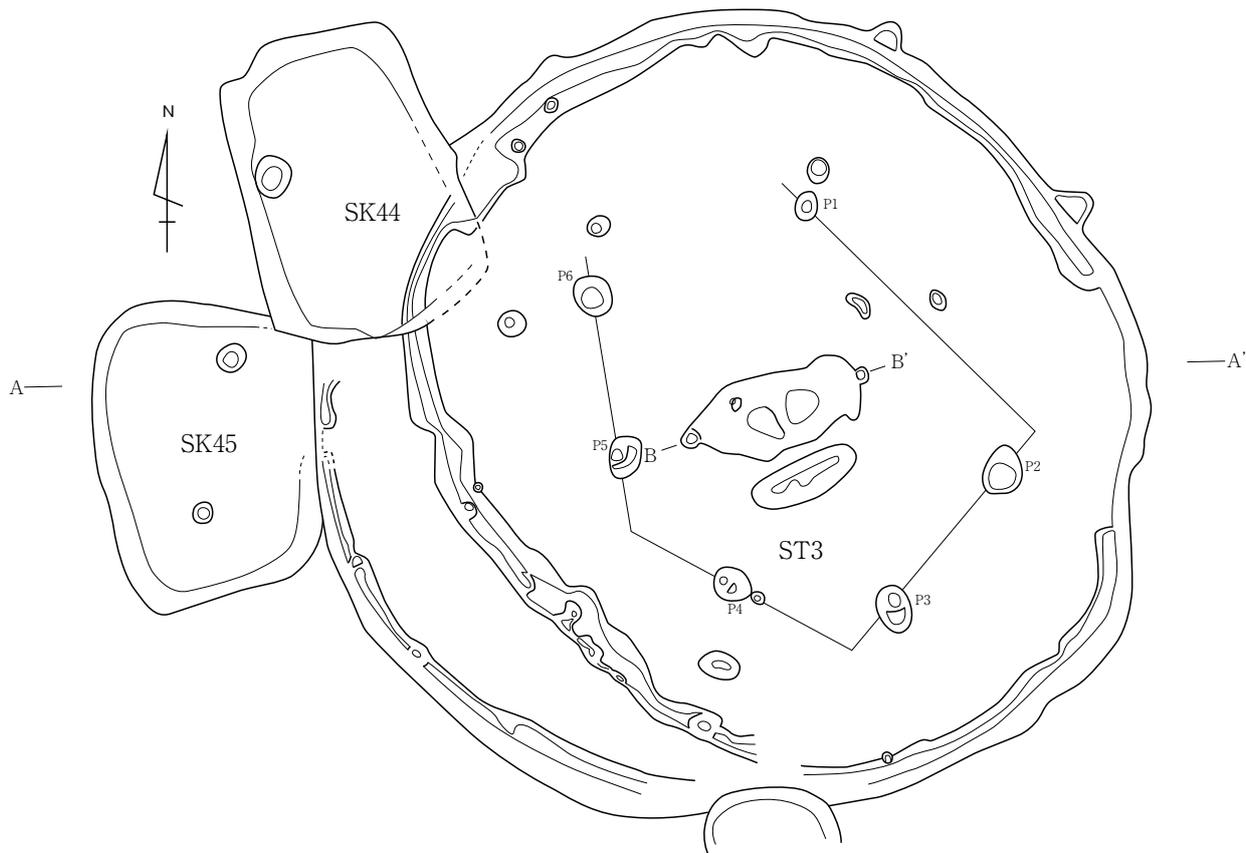
口縁部は緩やかに外反し、口唇部に面取りを施す。口縁部直下に3条のヘラ描き沈線を巡らせる。頸部から上胴部を文様帯とする。上から3条の沈線・竹管文・3条の沈線・刻目を配置する。体部外面はミガキ調整、内面はナデ調整である。3は甕である。頸胴部境から上胴部を文様帯とする。上からドーナツ状浮文・櫛描直線文2単位・刻目を配置する。櫛描直線文の単位境は微隆起突帯となる。仁淀川流域からの搬入品である。4は甕である。貼付口縁であり、粘土帯外面には指頭圧痕がみられる。口唇部は面取りされ、凹線文か。頸胴部から上胴部を文様帯とする。上から竹管文・櫛描直線文2単位・刻目を配置する。5は甕である。口縁部を上方へ拡張し、2条の凹線文を施す。外面下半は縦方向のミガキ調整、上半は縦方向のハケ調整である。内面下半はケズリ調整、上半はナデ調整である。器壁は薄い。上げ底である。6は鉢(壺)である。体部上半を内傾させ口縁部を丸く仕上げる。口縁部よりやや下がった位置に2孔1対の円孔を焼成前に穿つ。口縁部外面はヨコナデ調整、体部外面は縦方向のナデ調整・ハケ調整である。内面はナデ調整である。7は鉢である。体部から口縁部にかけて内湾気味に立ち上がり、口唇部には面取りを施す。外面に断面三角形の突帯を貼付ける。磨耗のため、調整等の観察は困難である。122と同一個体か。9は高杯である。脚端部を拡張し、3条の凹線文を巡らせる。外面は縦方向のミガキ調整、内面は横方向のケズリ調整である。10は高杯である。脚端部を拡張し、凹線文を巡らせる。外面に10条の沈線、7条1単位の沈線、刻目を施す。外面はミガキ調整、内面はケズリ調整である。11は高杯である。脚端部を拡張し、2条の凹線文を施す。外面に14条1単位の沈線、4条1単位の縦方向の沈線を4単位、均等配置か。また、刺突を縦方向に連続的に施し、裾部にも23個1単位の刺突文を配置する。内面は横方向のケズリ調整である。12は高杯である。杯部は深いボール状、脚部は「ハ」の字状を呈する。脚端部をつまみ出す。外面はミガキ調整であり、裾部はハケ調整である。脚部内面はケズリ調整である。

### ST2

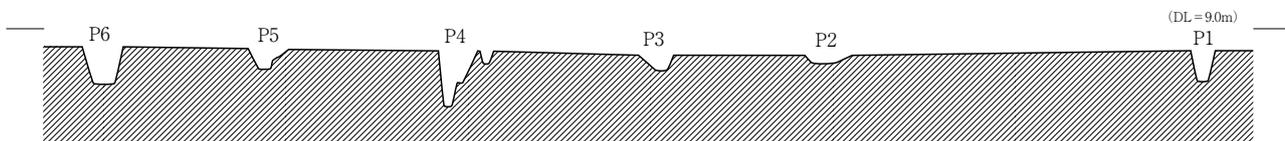
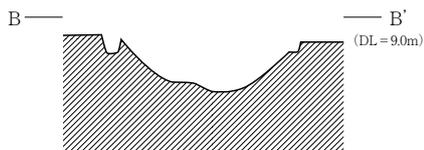
図示した出土遺物は台石(13)、石斧(14)である。13は砂岩製の台石である。扁平な川原石を利用する。使用により平滑になった部分が認められる。14は結晶片岩製の扁平片刃石斧である。刃部の一部を欠損する。基部はわずかに丸みを持つ。基部から刃部にむかって若干ひろがる。横断面形は台形から平行四辺形を呈する。

### ST3

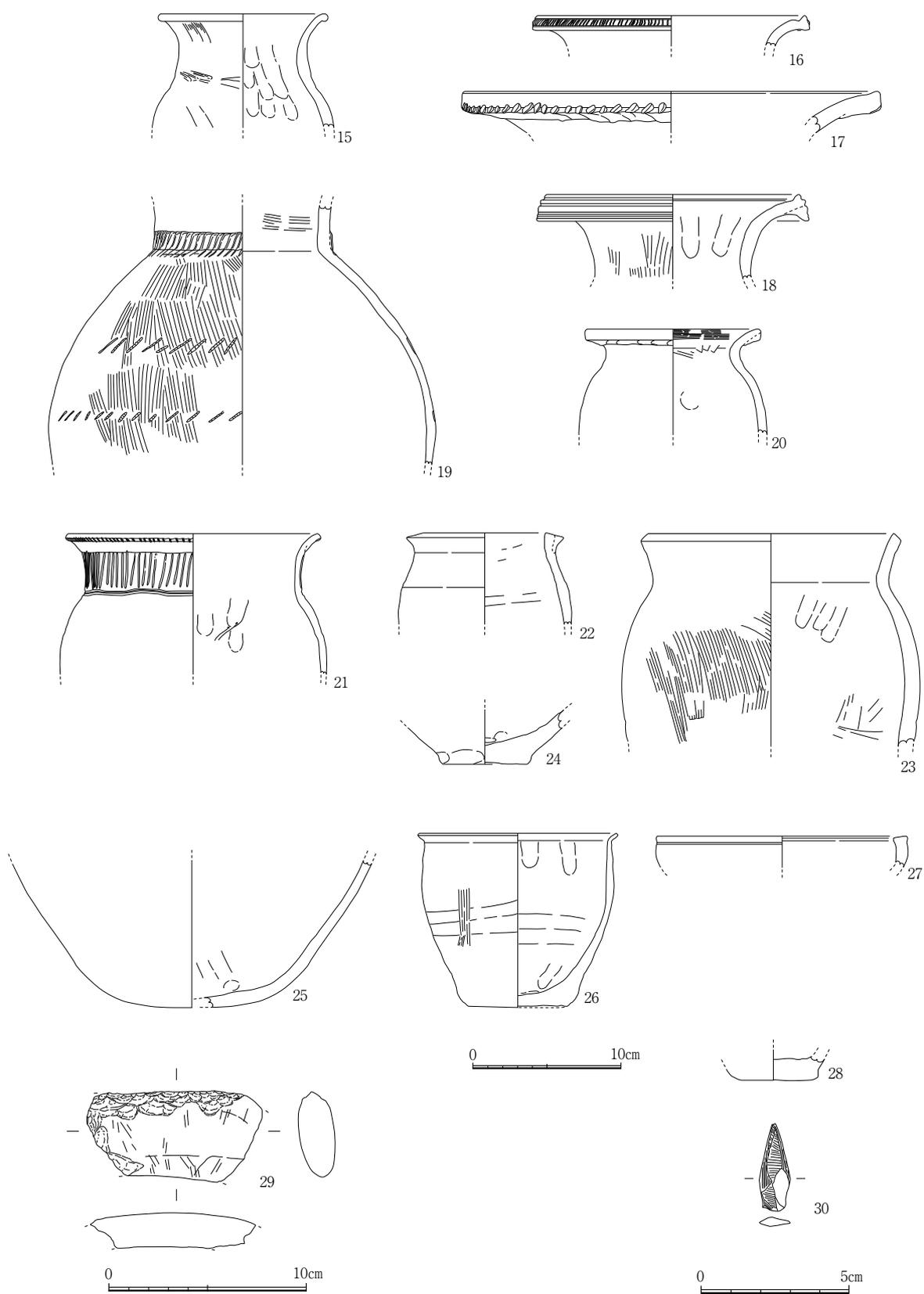
図示した出土遺物は弥生土器の壺・甕・鉢・高杯、石鏃、不明石製品である。15は壺である。頸部はやや長く口縁部は外反する。口唇部は丸くおさめる。内外面ともナデ調整である。16は壺である。口縁部を上方へつまみ上げる。口唇部に2条の凹線文・刻目を施す。17は壺である。貼付口縁であり、粘土帯外面には指頭圧痕が認められる。口縁部上端をつまみ上げ、下端には刻目を施す。18は壺である。口縁部を上下に拡張し、4条の凹線文を巡らせる。外面は縦方向の粗いハケ調整(ミガキ調整か)を施す。被熱により変色する。19は壺である。頸部外面に突帯を貼り付け、刻目を施す。上胴部にハケ状原体による刻目を2段巡らせる。外面は縦方向の粗いハケ調整である。搬入品か。20は甕である。貼付口縁で、大きく外反する。粘土帯を指押え後、ヨコナデ調整を施す。口唇部は面取りする。内外面ともナデ調整である。21は甕である。貼付口縁であり、粘土帯外面にはヨコナデ調整を施す。口唇部は面取りされ、下端には刻目を入れる。頸部は縦方向のヘラ描き沈線を全面に配置する。また、沈線群直下には双線による横方向の沈線文を巡らせる。22は甕である。貼付口縁であり、口唇部は面取りされ、端部をつまみ出す。内外面ともナデ調整である。23は甕である。口唇部にヨコナデ調整を施



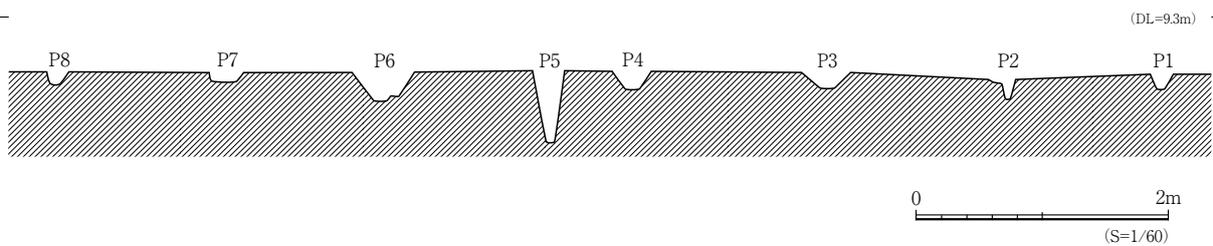
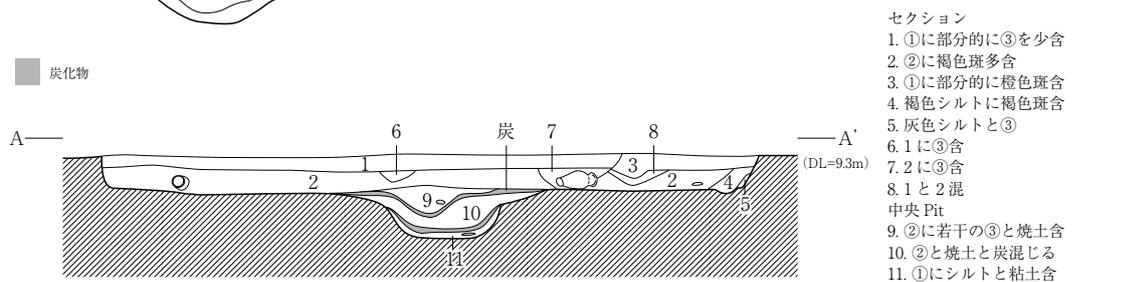
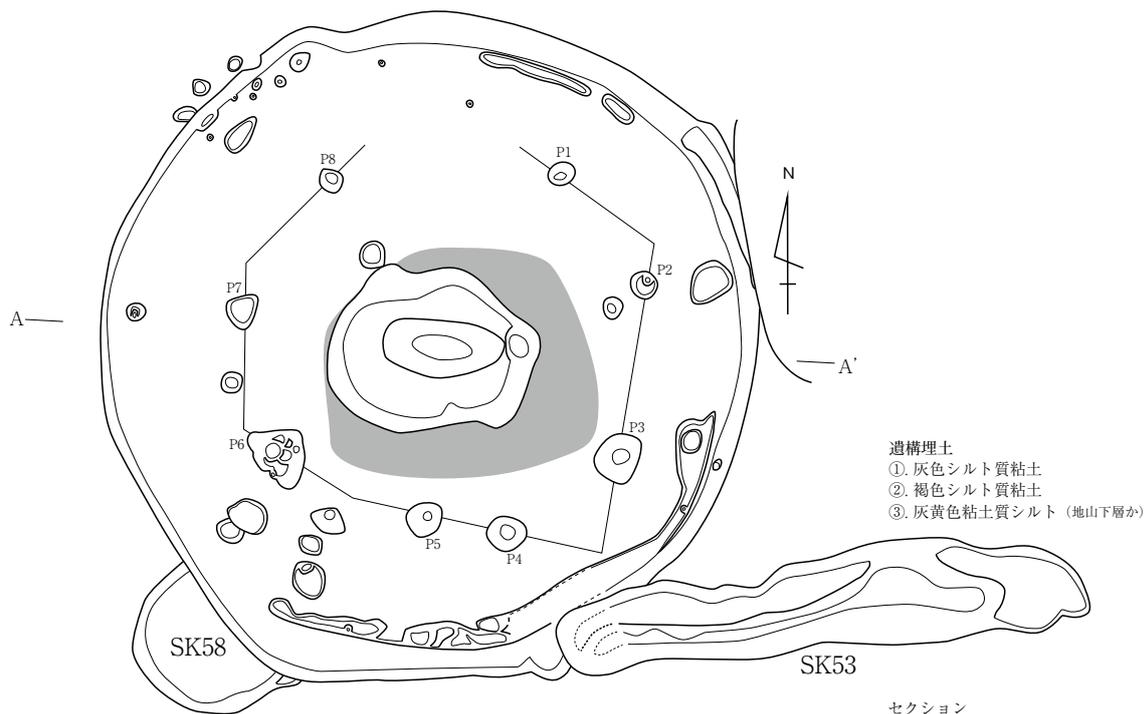
- ST3
1. 褐灰色粘土質シルト
  2. 灰褐色粘土質シルト
  3. 2に若干の炭含
  4. 灰褐色暗め粘土質シルト
- SK45
5. 褐色粘土質シルト
  6. 褐色に暗褐色と黄灰色含シルト質粘土



図Ⅲ-8 1区 ST3平断面図

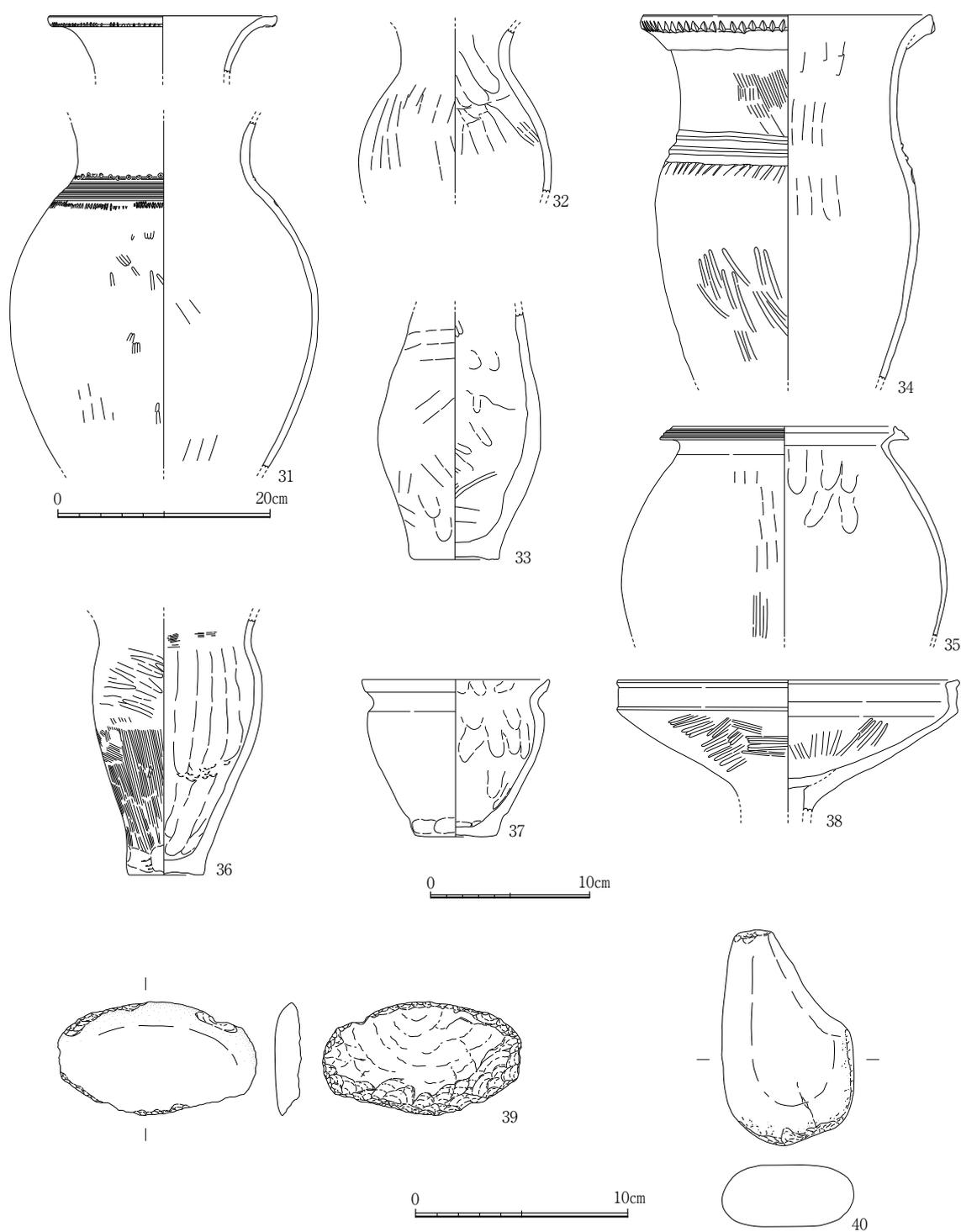


图Ⅲ-9 1区 ST3出土遗物



図III-10 1区 ST4平断面図

し、端部をつまみ上げる。外面は縦方向のハケ調整、内面はナデ調整である。26は鉢である。平底であり、口縁部は短く外反する。被熱により器面は荒れ、調整等の観察は困難である。外面はハケ調整・ナデ調整、内面はナデ調整である。27は高杯である。口縁部は内湾し、口唇部は面取りされる。外面に1条の凹線文を巡らせる。内外面ともナデ調整である。29は不明石製品である。横断面形は長楕円形を呈する。棒状で弧を描く。両面とも研磨するが、一方は敲打痕跡が認められる。両端とも欠損しており全体像は不明である。30は石鏃である。粘板岩製の磨製石鏃である。基部は欠損後、研磨される。縁辺部は研磨され、シャープに仕上げる。中央付近には研磨が及んでいない部分が有る。

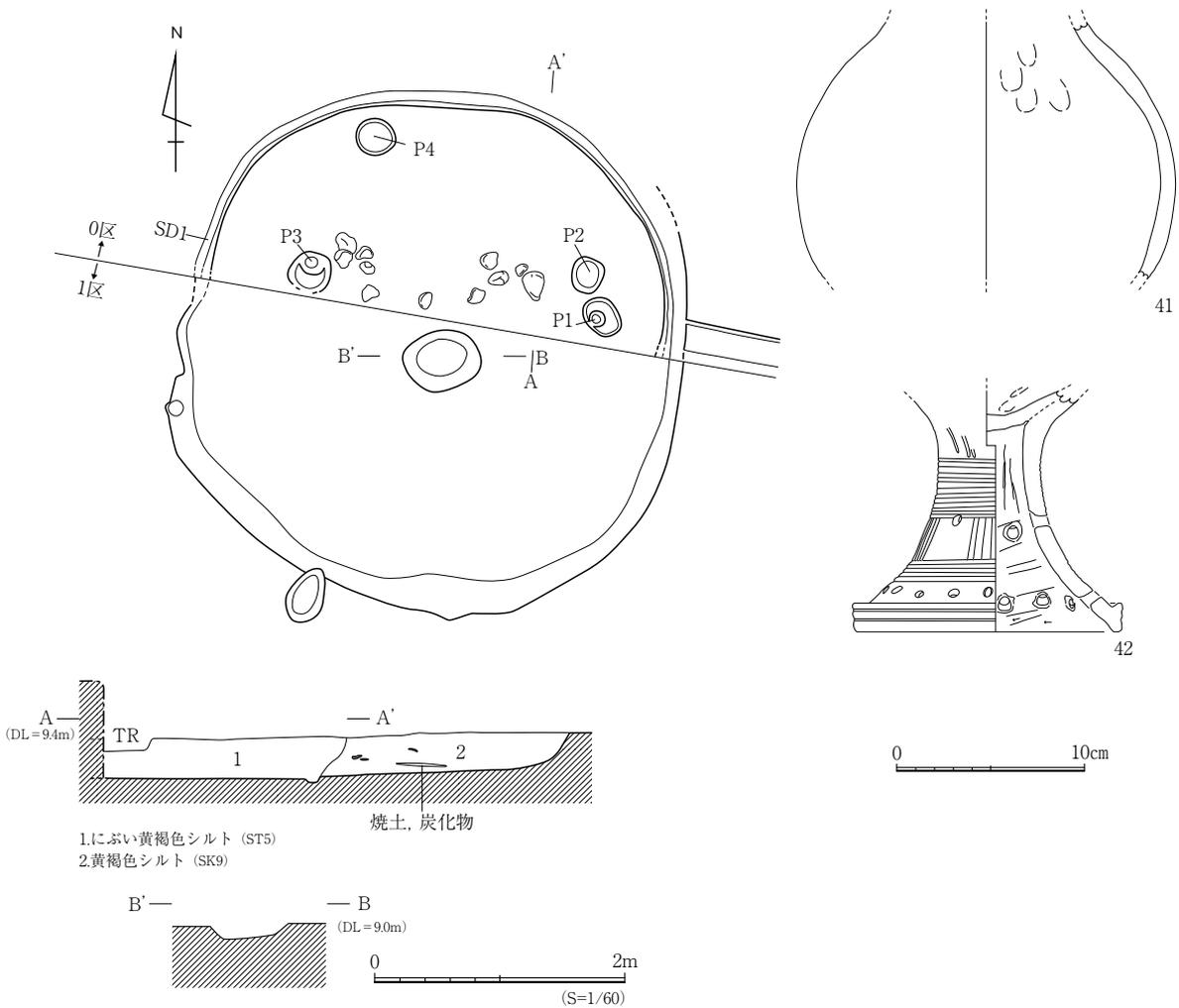


图Ⅲ-11 1区 ST4出土遺物

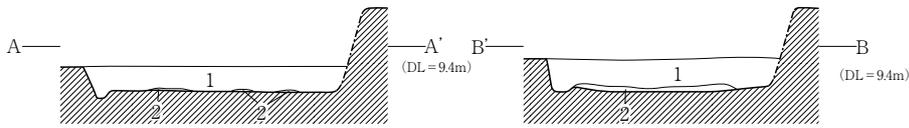
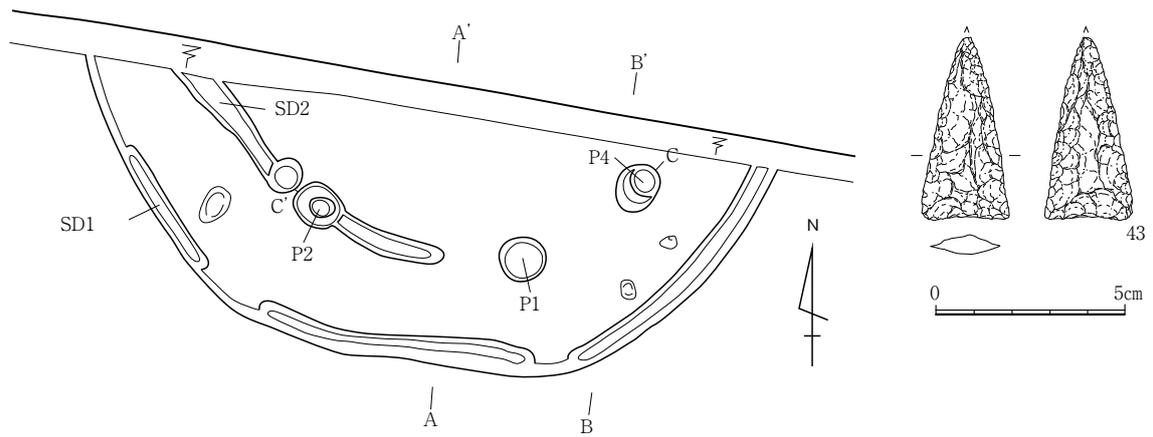
### ST4

南縁に溝状土坑SK53の西端が接しているが、埋土が類似している。検出時には図Ⅲ-42のごとく後者が切る状況であったが、ST4南縁では写真図版66下のような断面が観察された。当区で検出した竪穴建物跡には僅かな張出し部が認められることと併せて、この部分がいずれの遺構に関するものかについて不明瞭さを残す。

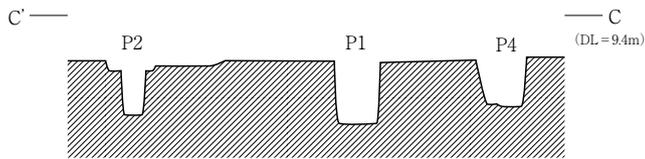
図示した出土遺物は弥生土器の壺・甕・鉢・高杯、石包丁、叩石である。31は壺である。口唇部はヨコナデ調整により面取りされ、端部をつまみ上げる。口縁部下端に刻目を入れる。また、微隆起突帯・櫛描直線文を巡らせる。頸胴部境から上胴部を文様帯とし、上からドーナツ状浮文、4単位の櫛描直線文、刻目を配置する。櫛描直線文の単位境は微隆起突帯となる。内外面ともナデ調整である。煮沸に使用されたと考えられる。34は甕である。スリムな体部、やや長い頸部を持つ。貼付口縁であり、粘土帯外面にはヨコナデ調整を施す。口唇部は面取りされ、端部をつまみ上げる。口縁部下端に刻目を施す。頸胴部境から上胴部に貼付け突帯を2条、刻目を巡らせる。体部外面にはミガキ調整を施す。



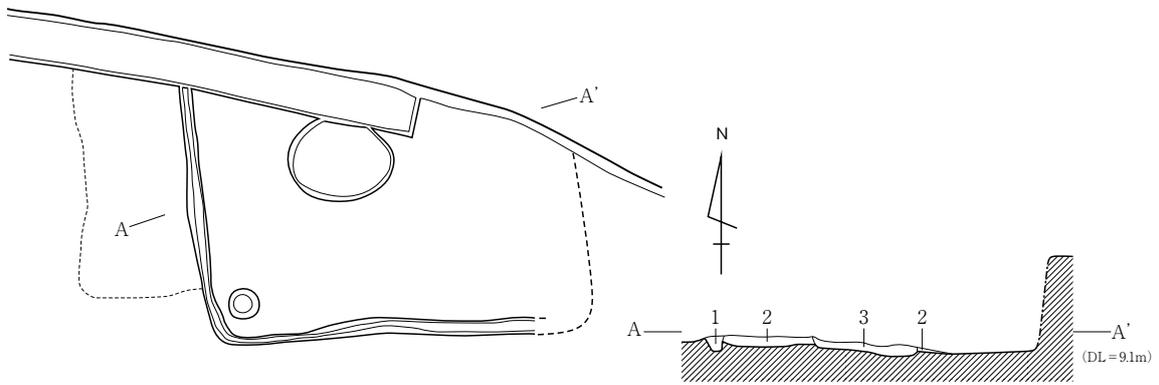
図Ⅲ-12 0区 ST5



1.褐色粘土  
2.褐色粘土 明褐色シルトがラミナ状に堆積する



ST6



1.にぶい褐色粘土質シルト 壁溝  
2.灰黄褐色砂質シルト 褐色粘土質シルトの細かい粒子を斑紋状に含  
3.橙色粘土質シルト にぶい橙色砂質シルト混、混合土(炭化物混)焼土部分



ST7

図III-13 0区 ST6・7

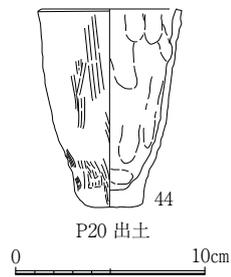
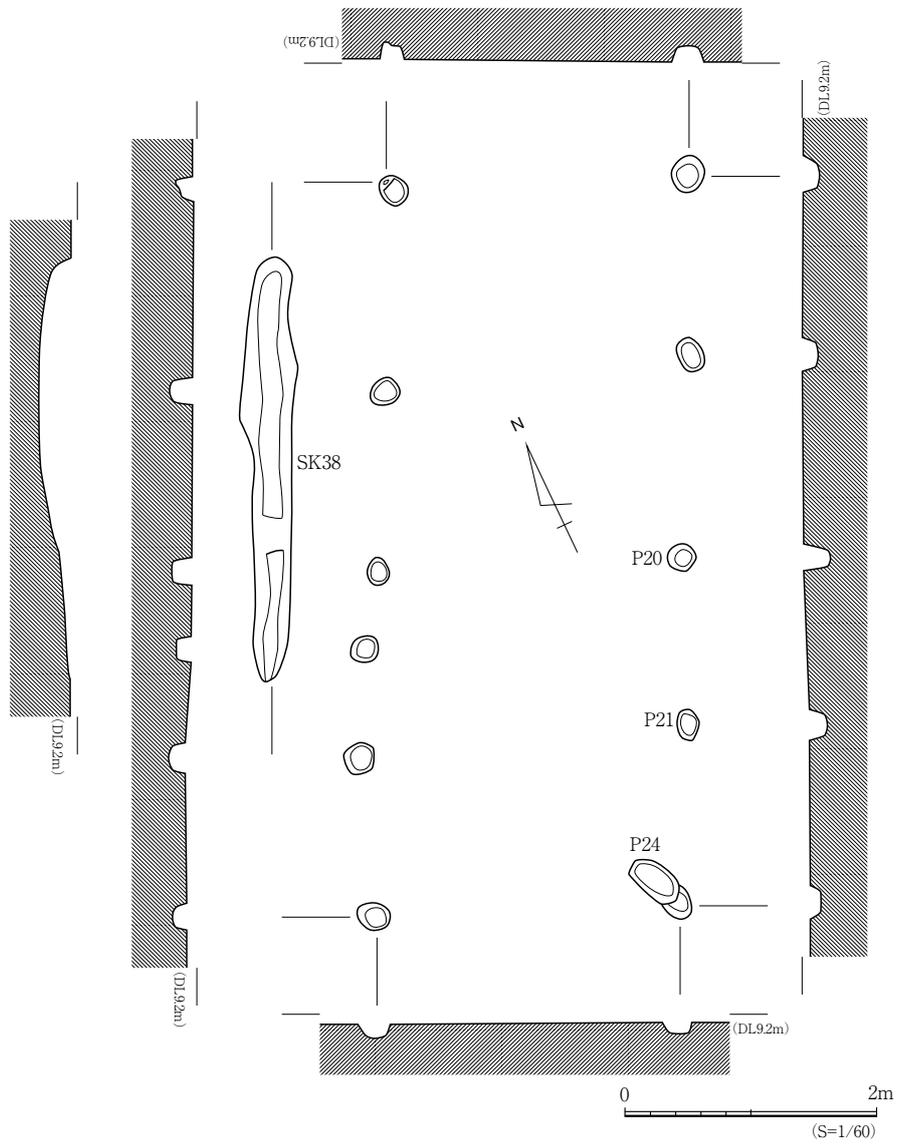
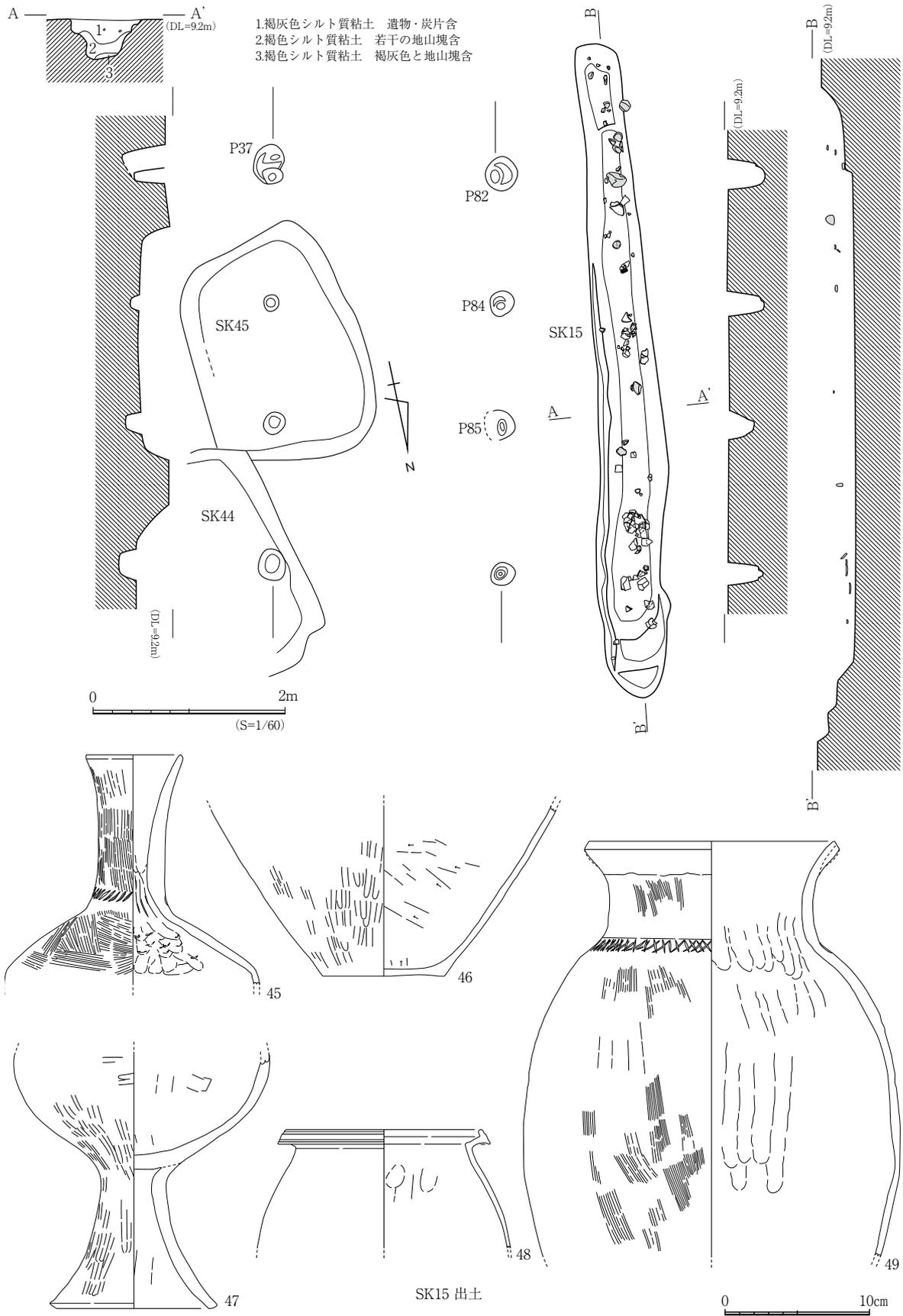
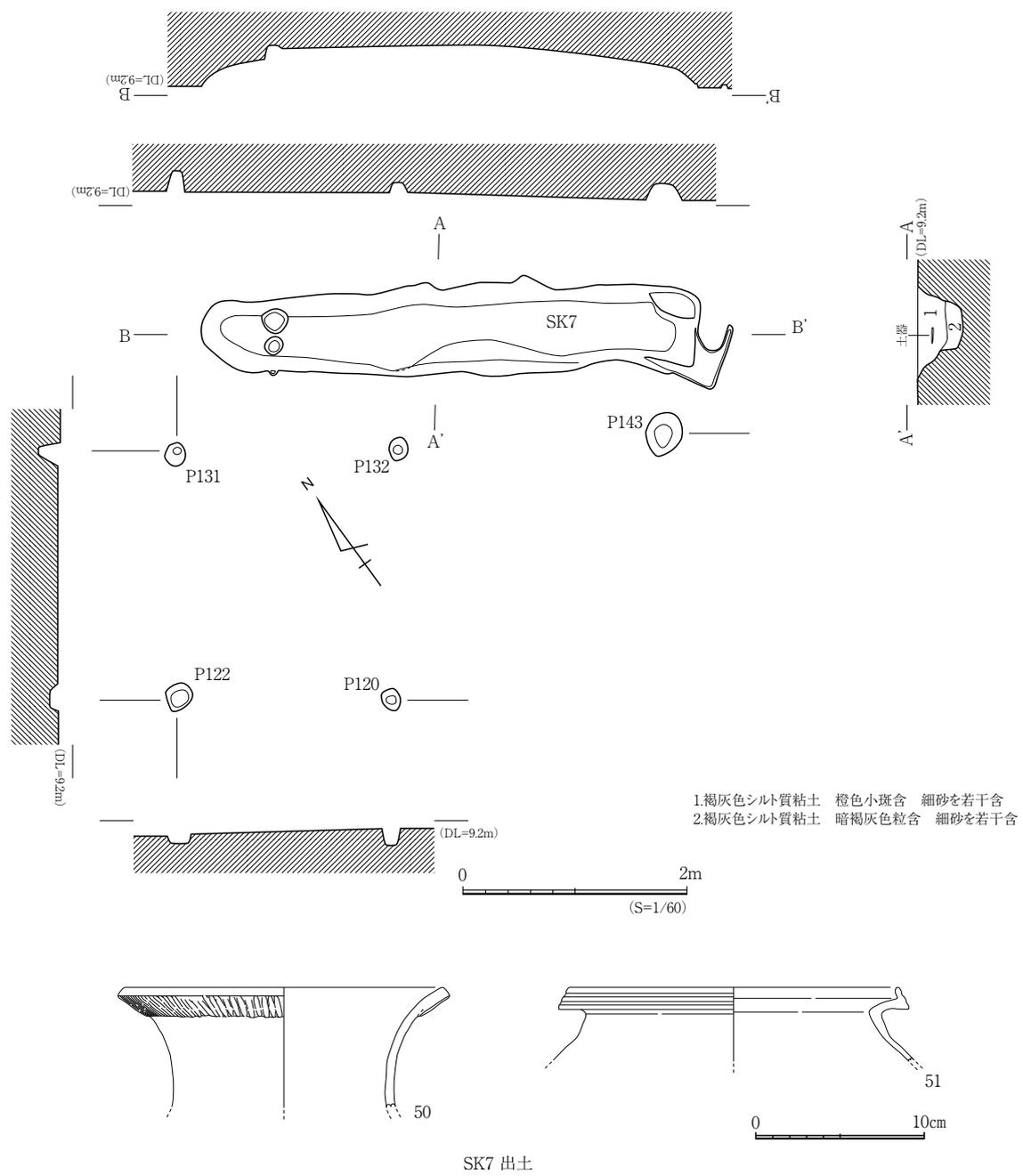


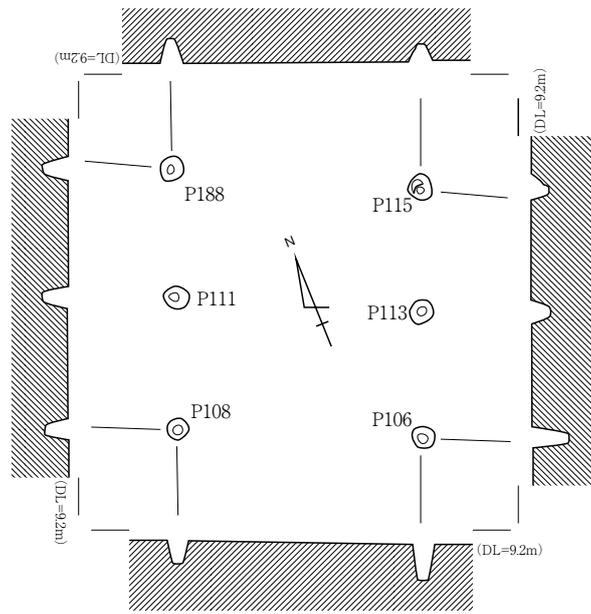
图 III-14 1区 SB2



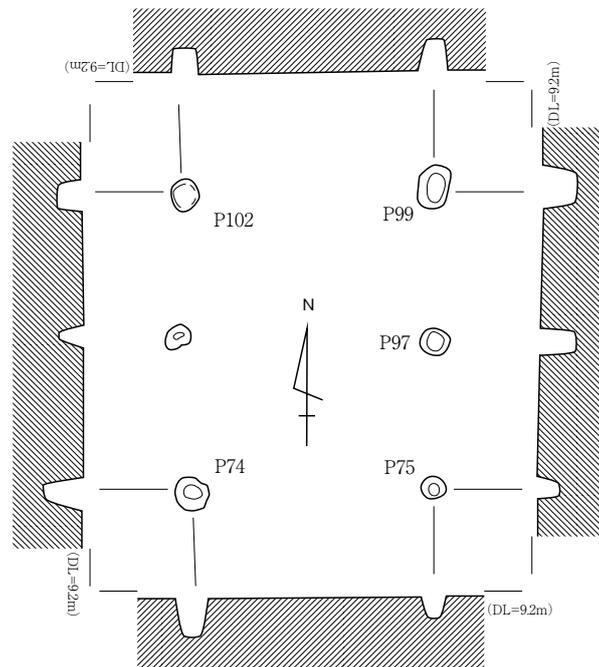
図Ⅲ-15 1・2区 SB3・SK15



図Ⅲ-16 2区 SB4・SK7



SB5



SB6



图Ⅲ-17 2区 SB5·6平断面图

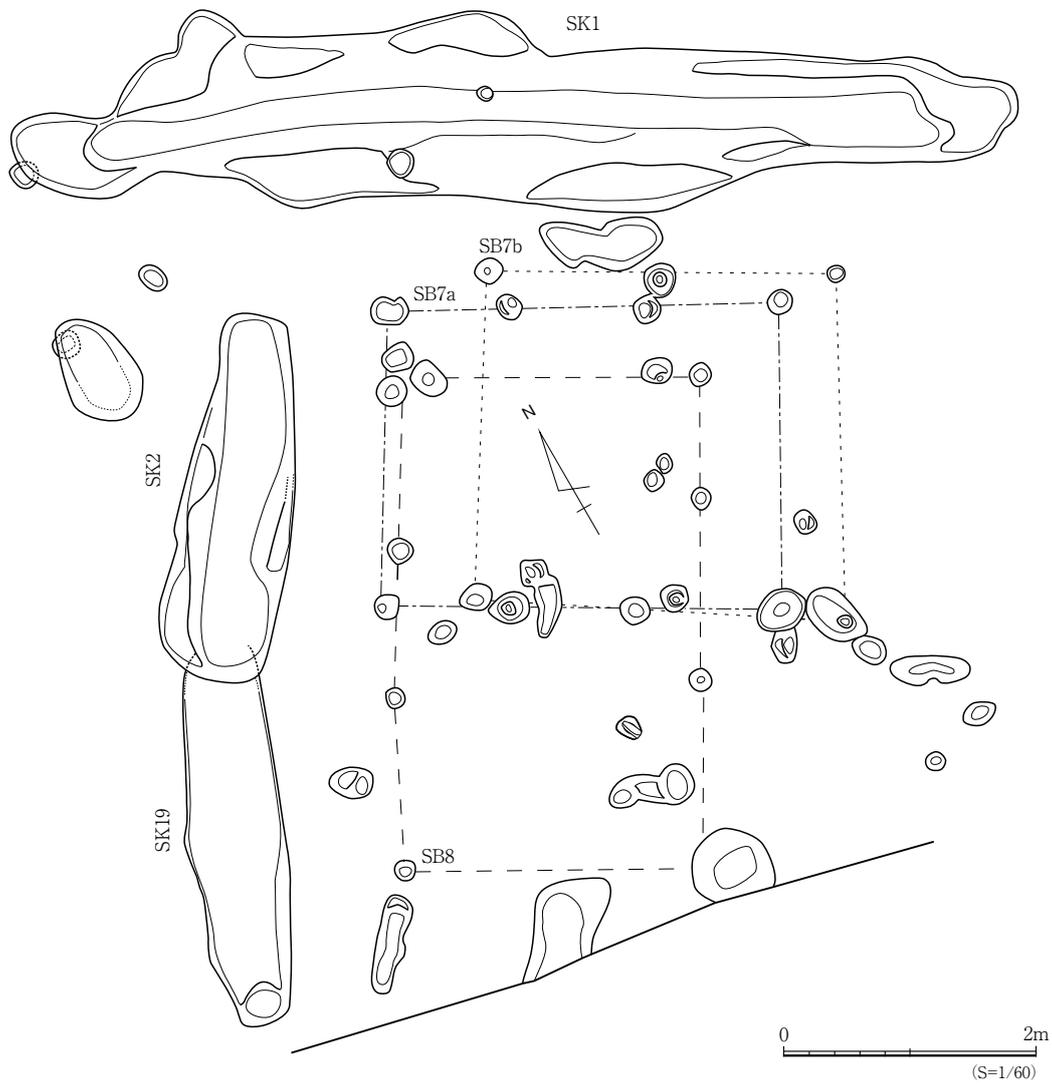
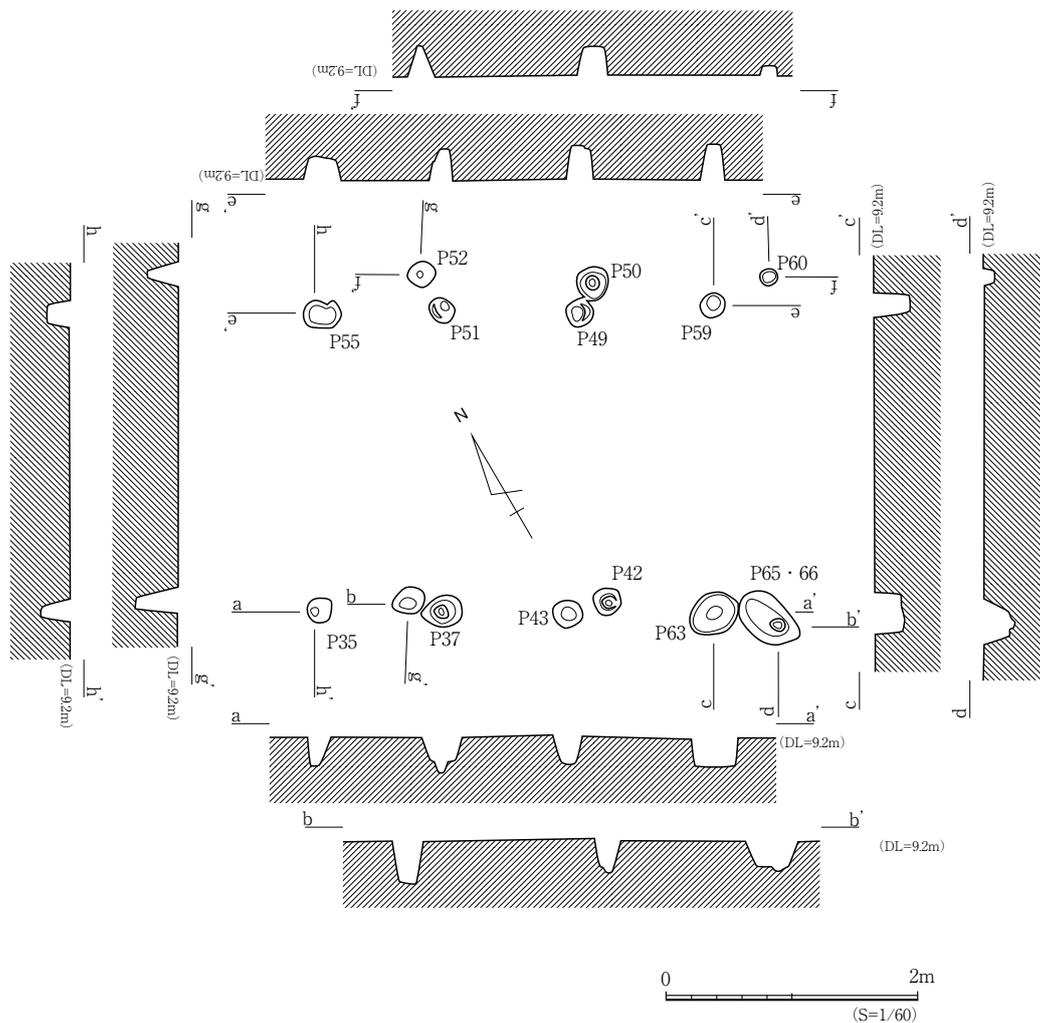
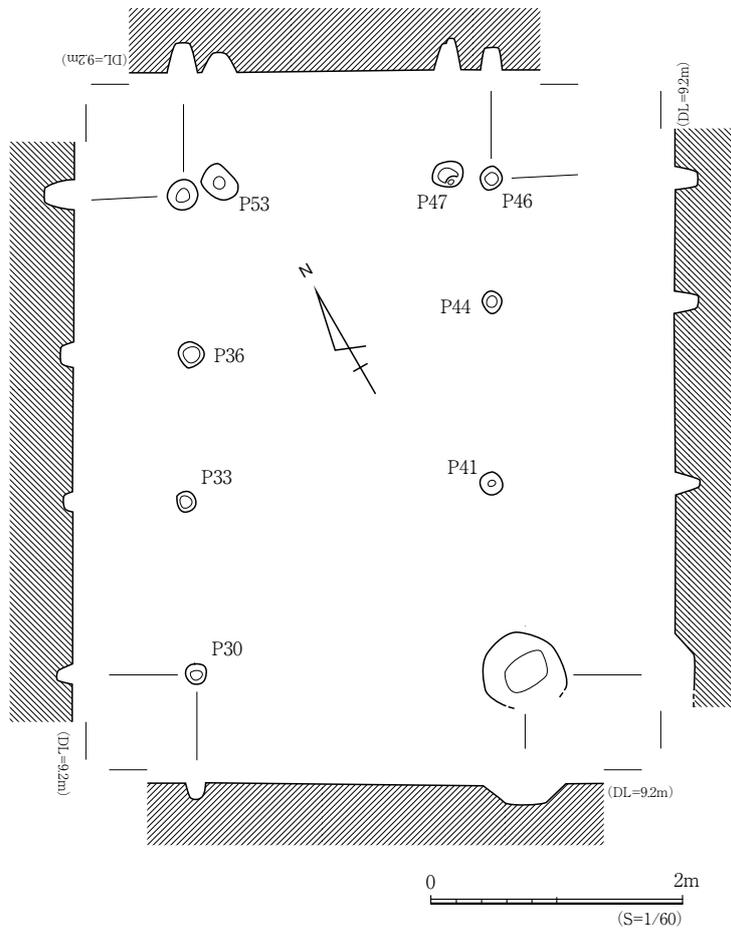


图 III-18 2区 SB7·8 平面图



図Ⅲ-19 2区 SB7a・b平断面図

35は甕である。口縁端部を上方へ拡張し、下端部を横方向へつまみ出す。4条の凹線文を施す。外面の上半部にはナデ調整を施し、下半部はミガキ調整か。内面の上半部にはナデ調整を施し、下半部はケズリ調整か。36は甕である。スリムな胴部である。外底面には凹凸が認められる。外面上半部はミガキ調整、下半は縦方向のハケ調整、底部脇はケズリ調整である。37は鉢である。頸部はわずかにしまり、口縁部は外反する。口縁端部をつまみ上げ尖らせる。内外面ともナデ調整である。38は高杯である。杯部は外上方へのび、口縁部は直立する。口唇部は面取りされる。口縁部外面には2条の凹線文を施す。杯部内外面ともミガキ調整である。円盤充填技法である。39は打製石包丁か。砂岩製である。表面は主要な剥離面を大きく残し、裏面は自然面である。調整剥離によって片刃とする。明瞭な紐掛け用の袢りは認められない。40はチャート製の叩石である。歪な川原石を使用する。一方は細くなっており握りやすい。両端は敲打により欠損する。



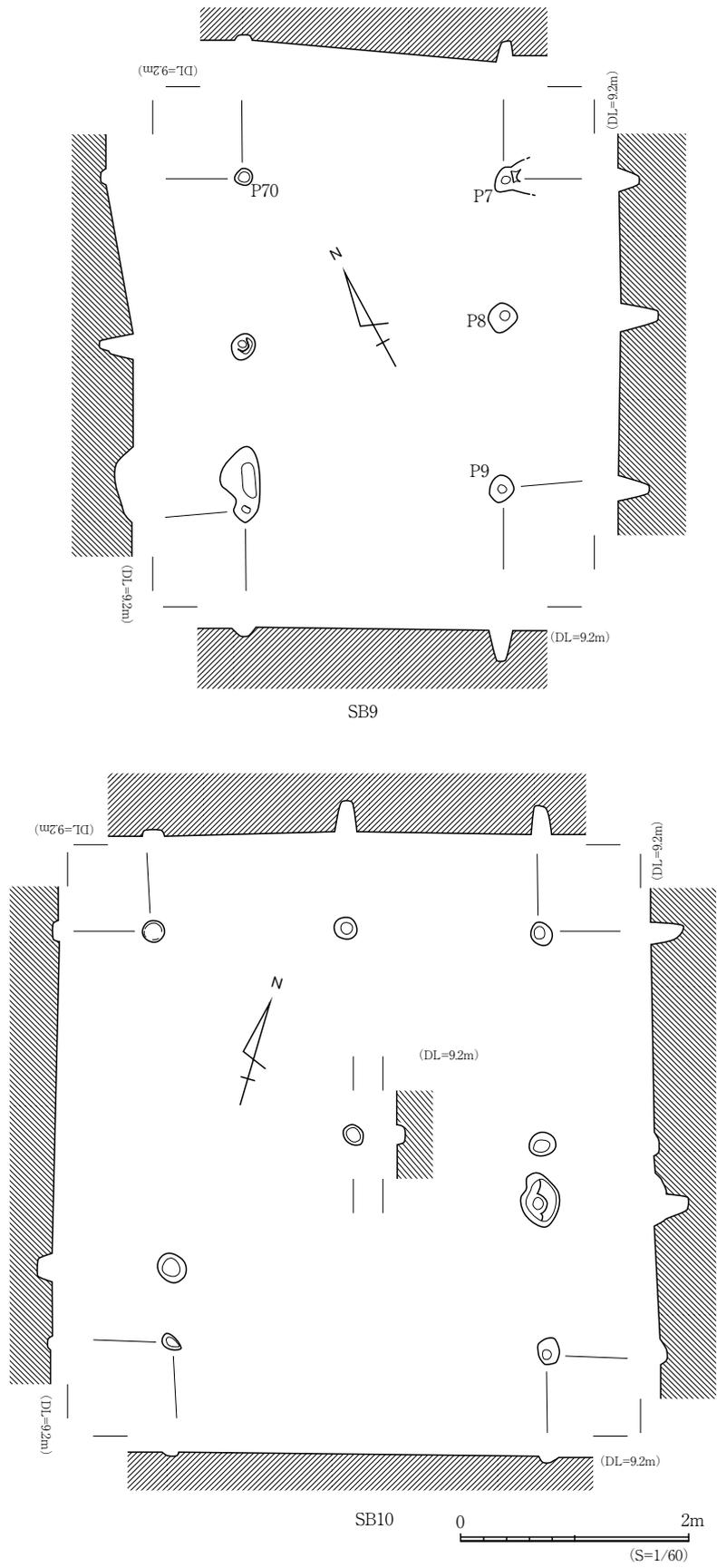
図Ⅲ-20 2区 SB8平断面図

### ST5

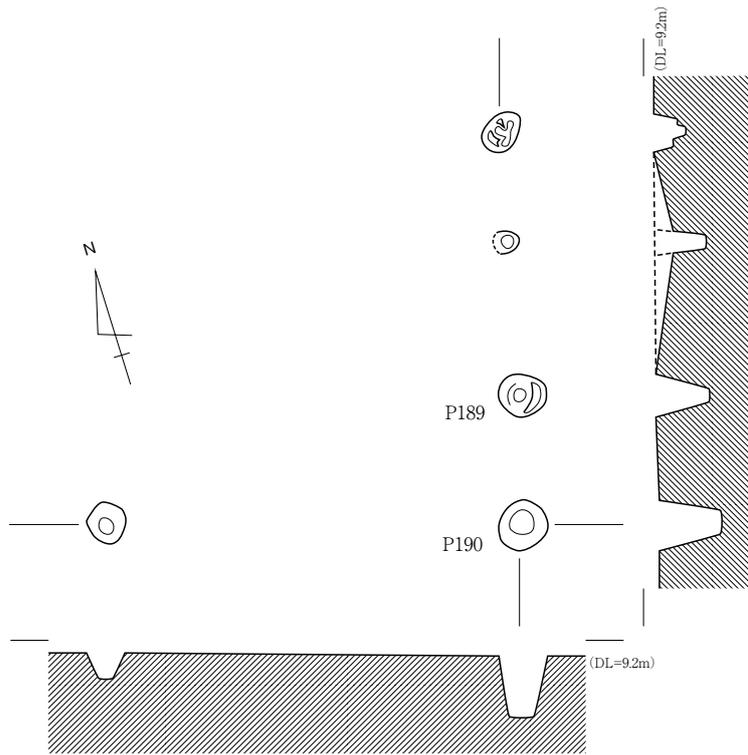
図示した41は弥生土器の壺である。体部は球形を呈する。磨耗のため調整等の観察は困難である。42は高杯である。脚端部を上下に拡張し、2条の凹線文を施す。外面は上から、多条沈線、4条1単位の縦方向の沈線を5単位、均等配置し、沈線間に円孔を1箇所ずつ穿つ。さらに5条1単位の沈線を巡らせ、15ヶ所に円孔を穿つ。外面はミガキ調整を施す。脚柱部内面はナデ調整、裾部はケズリ調整である。また、脚端部のみに煤が付着する。

### ST6

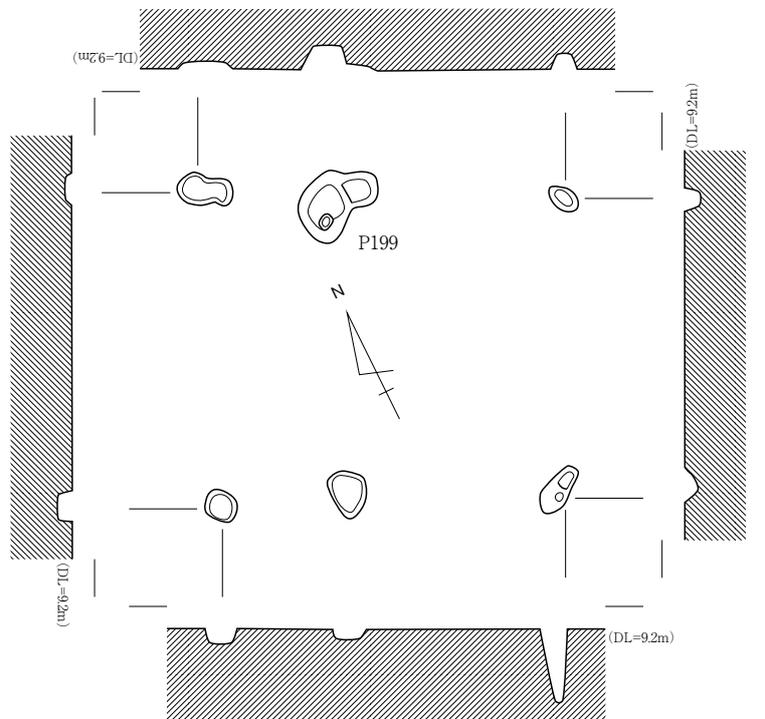
図示した出土遺物は凹基式の打製石鏃(43)である。基部の抉りはきわめて浅い。両面とも剥離面を残し、縁辺部に調整剥離を施す。サヌカイト製である。



图Ⅲ-21 2·3区 SB9·10平断面图



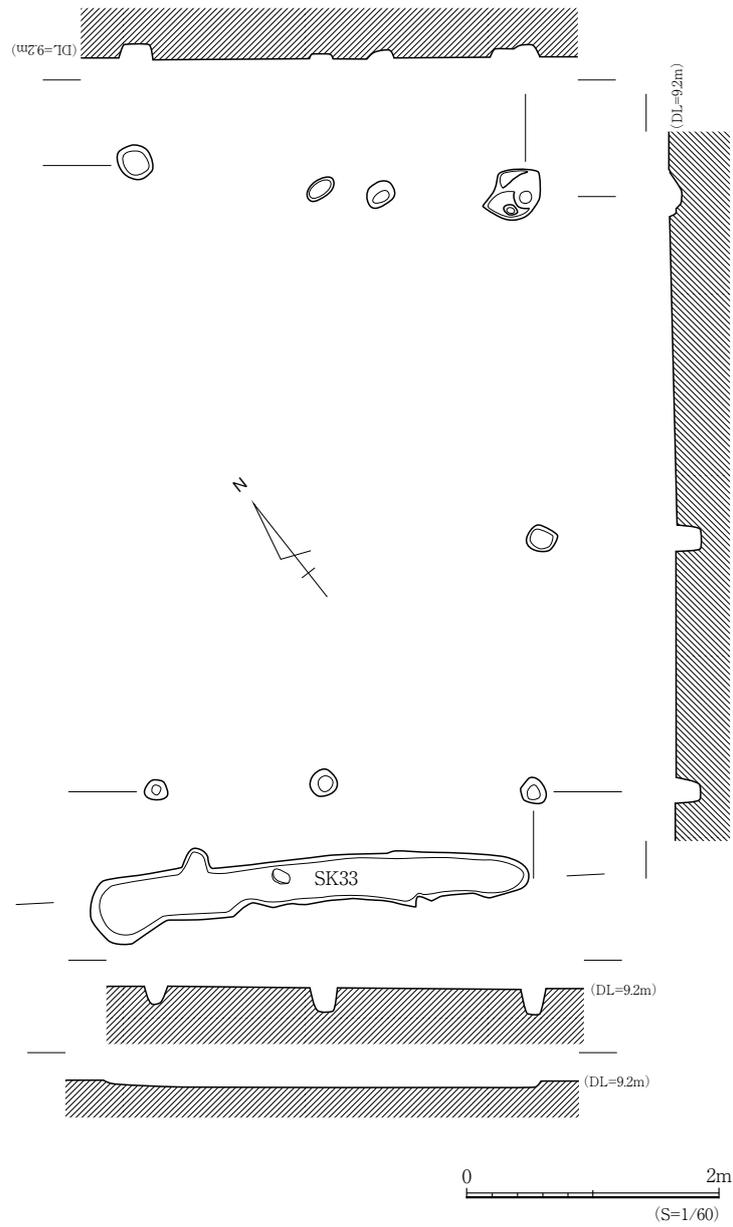
SB11



SB12



图 III-22 3区 SB11·12 平断面图



图Ⅲ-23 3区 SB13·SK33平断面图

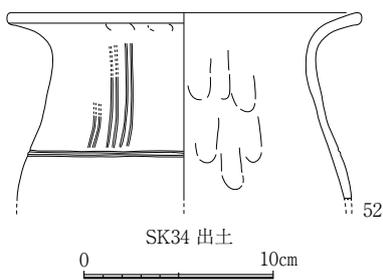
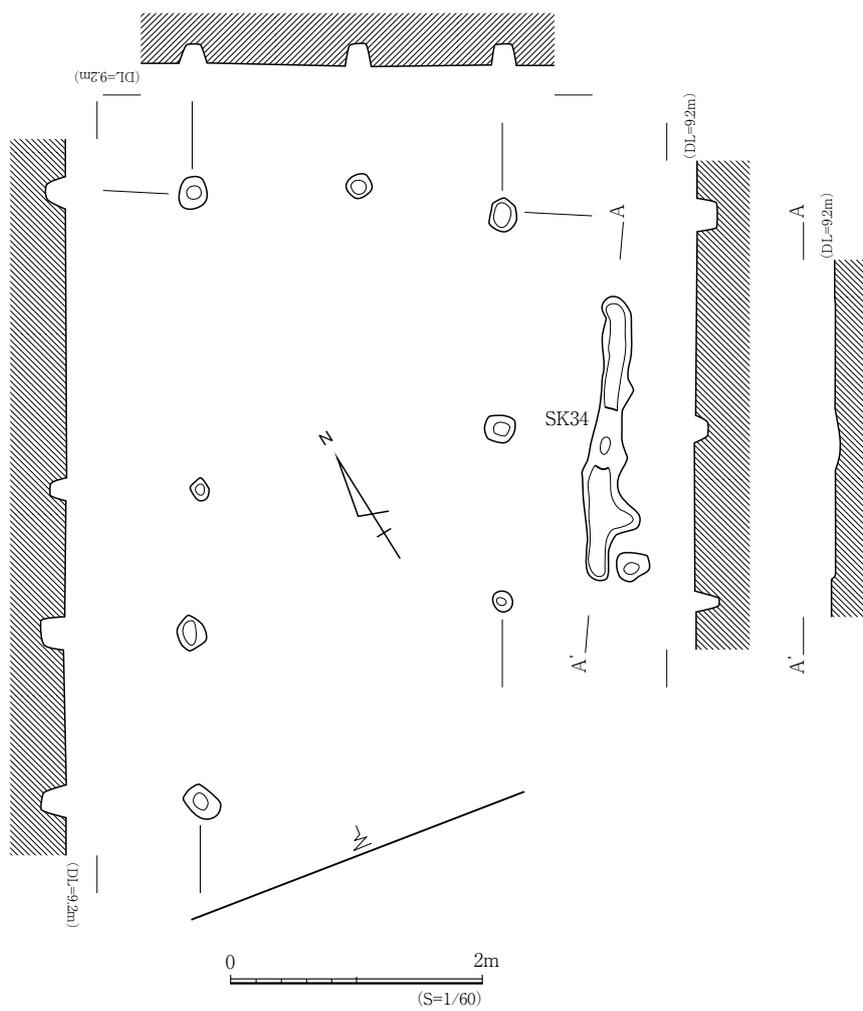
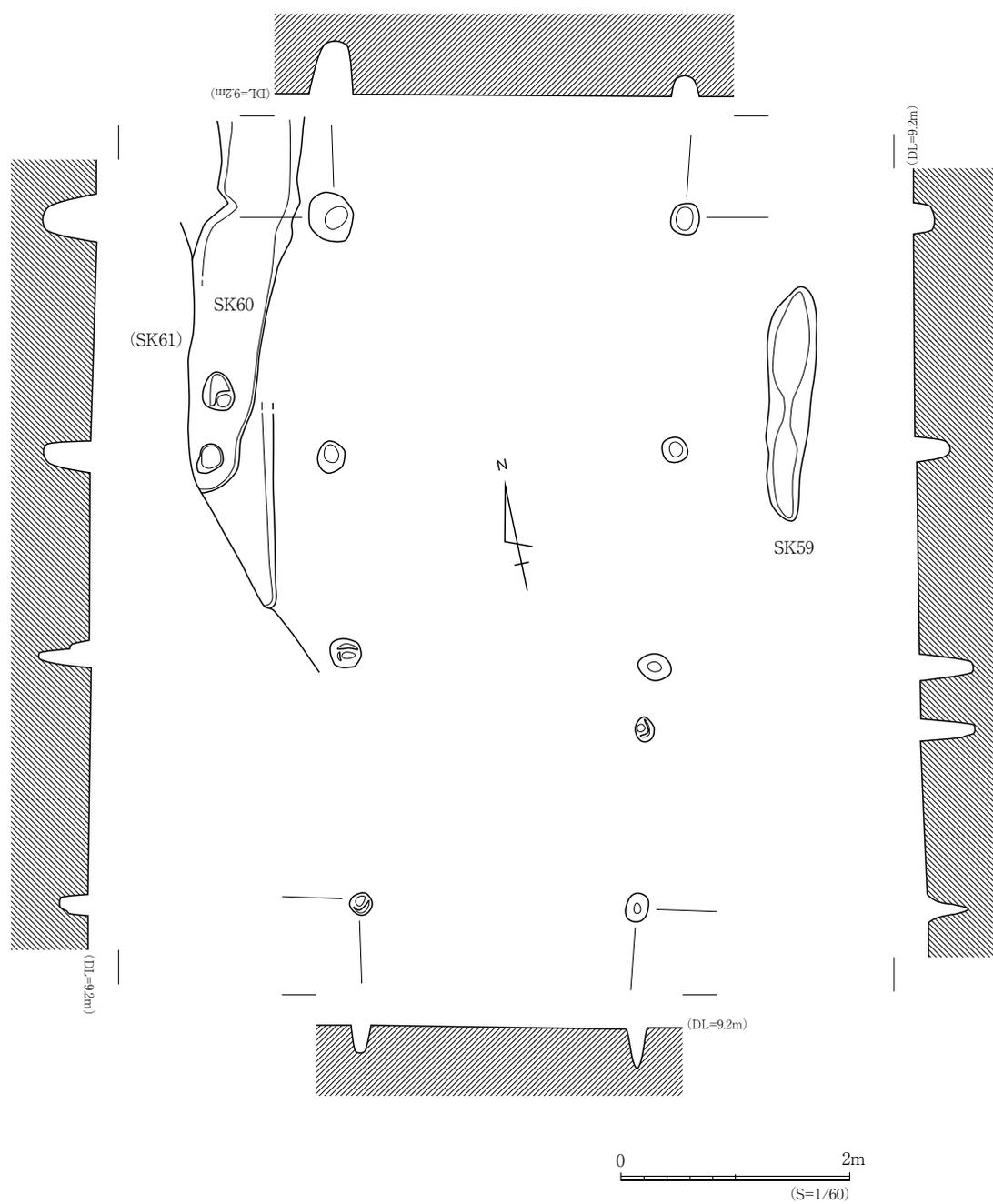


图 III-24 3区 SB14·SK34



图Ⅲ-25 4区 SB15平断面图

## (2)土坑

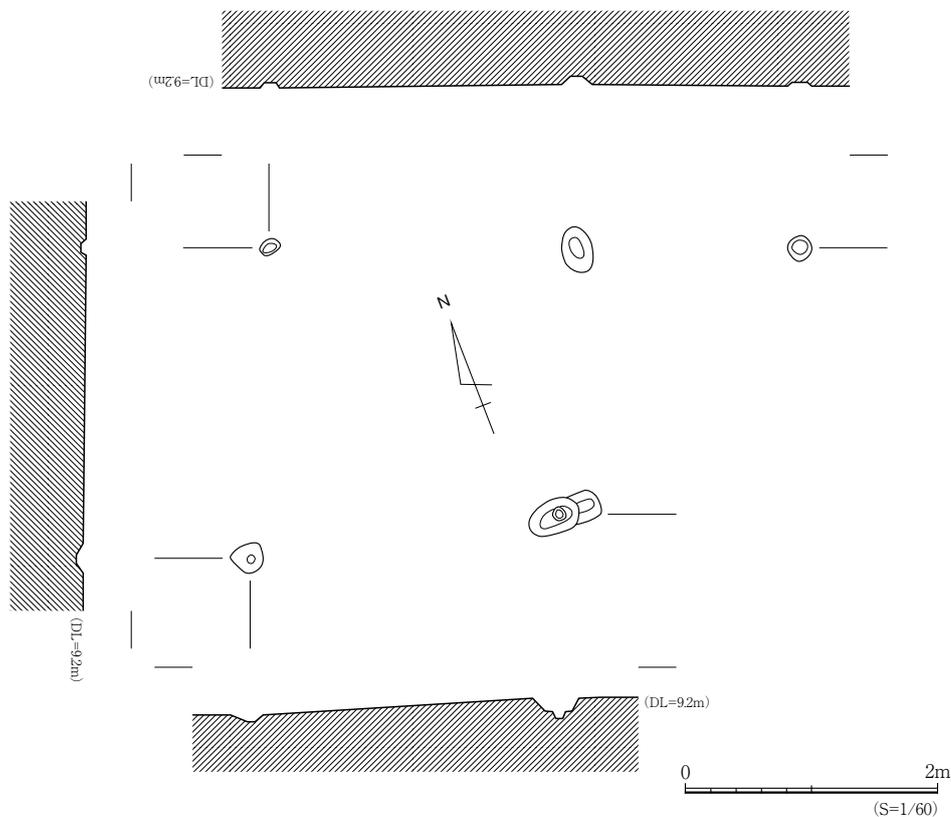
図や表4に表記のないものの出土遺物は、原則的に弥生土器片数片程度である。

### 0区SK1

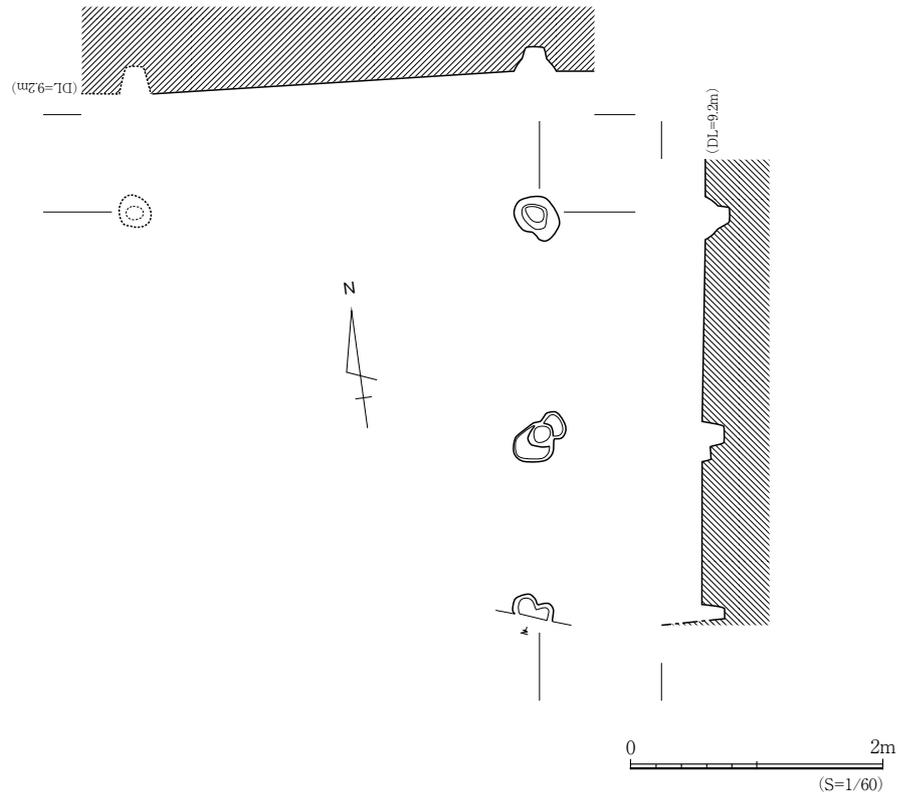
図示した出土遺物は弥生土器の壺(53)である。上胴部から中位に最大径部を持つ。外面の上半部は縦方向のハケ調整であり、下半部はナデ調整か。内面はナデ調整であり、指頭圧痕がみられる。底部付近に穿孔が認められる。

### 0区SK2

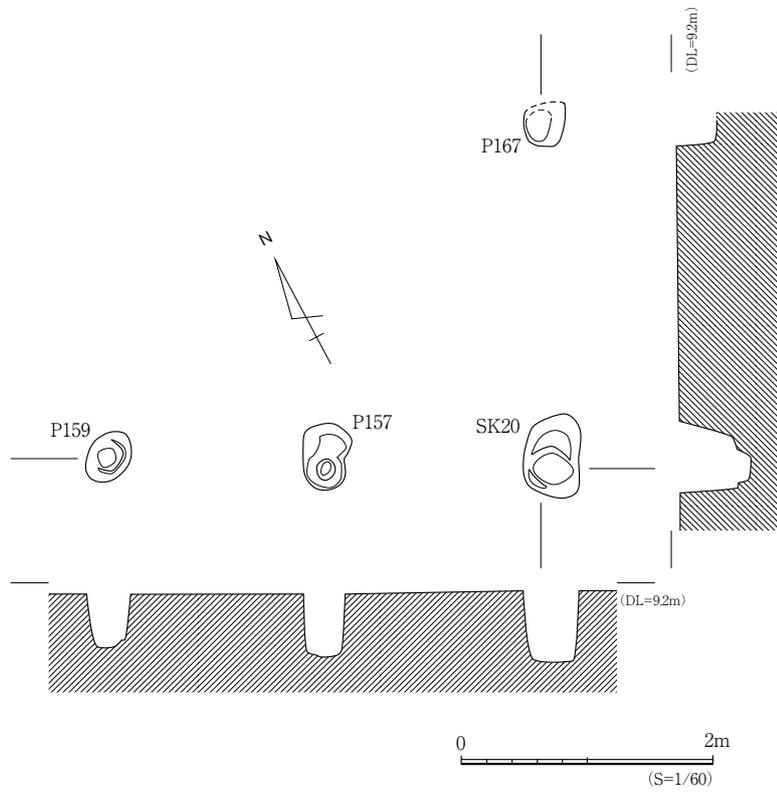
図示した出土遺物は弥生土器の壺・甕・蓋、石錐である。55は壺である。口縁部を上下に拡張する。頸部外面に3条の凹線文を施す。56は甕である。頸部外面には口縁部の接合痕跡が明瞭に残り、貼付口縁状を呈する。口縁部を上下にわずかに拡張させ、2条の凹線文を施す。57は甕である。体部は長胴を呈し、口縁部は外反させ、口唇部は丸くおさめる。貼付口縁であり、内外面には指頭圧痕が見られる。58は甕である。口縁部下端に刻目を施し、微隆起突帯、櫛描直線文を2単位巡らせる。仁淀川流域からの搬入品である。60は蓋である。つまみ部を突出させる。貼付口縁であり、口唇部は丸くおさめる。61はサヌカイト製の打製石錐である。基部は扁平で剥離面を残し、錐部に調整剥離を施す。完存である。



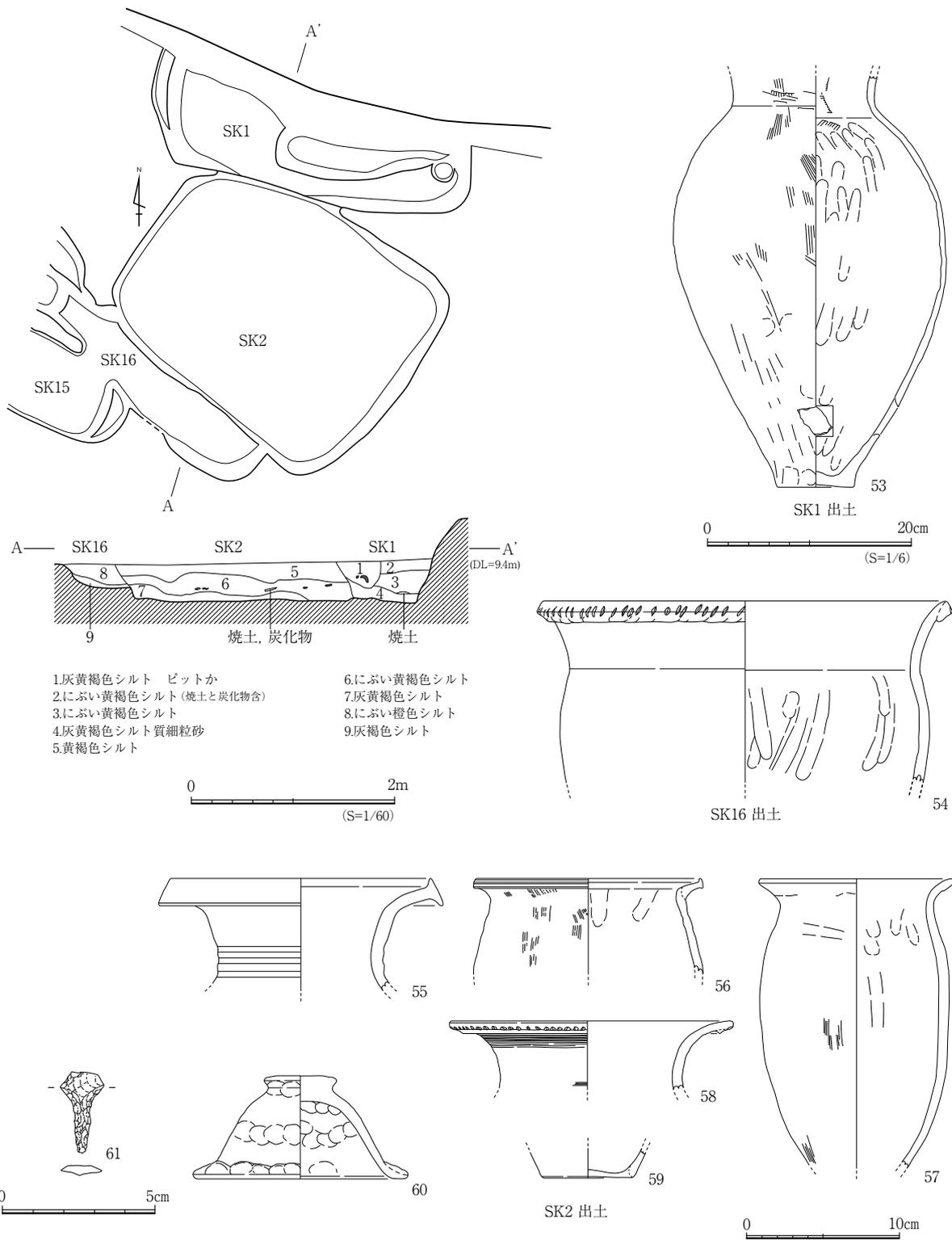
図Ⅲ-26 4区SB16平断面図



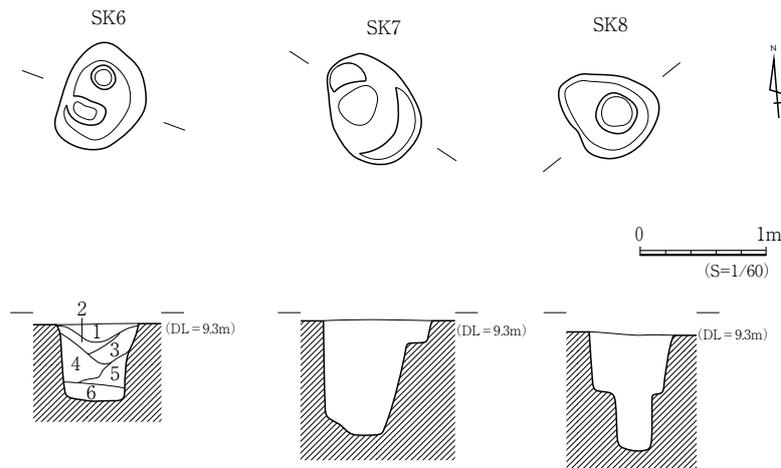
图Ⅲ-27 5区 SB17平断面图



图Ⅲ-28 2区 SA1平断面图

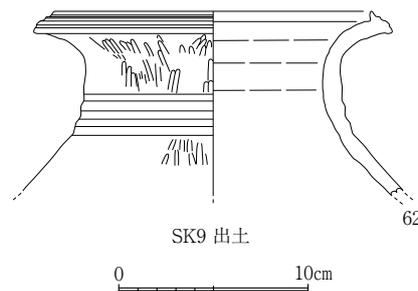


図Ⅲ-29 0区 SK1・2・16



SK6

- 1. 灰褐色粘土質シルト 遺物と炭化物多含 明褐色・灰褐色粘土質砂を斑紋状に含 部分的に焼土(橙色砂質シルト)含
- 2. 灰黄褐色砂質シルト 褐色砂質シルト含
- 3. 灰褐色砂質シルト にぶい褐色砂質シルト含
- 4. 灰黄褐色砂質シルト 褐色砂質シルトの小塊を斑紋状に含
- 5. にぶい黄褐色砂質シルト 灰褐色砂質シルトの小塊含
- 6. 褐色砂質シルト 灰黄褐色砂質シルトを斑紋状に含
- SK7. 灰褐色粘土質砂 明褐色・灰褐色粘土質砂を斑紋状に含 土器片と炭化物多含
- SK8. 灰褐色粘土質砂 明褐色・灰褐色粘土質砂を斑紋状に含 土器片と炭化物多含



図Ⅲ-30 0区 SK6~9

0区SK6・7・8

3基が直線上に等間隔で並ぶ。当区で検出したピット群より明らかに規模が大きい。性格は不明である。

0区SK9

図示した出土遺物は弥生土器の壺(62)である。頸部は短く直立し、口縁部は外反する。口縁部上端をつまみ上げ、下端をつまみ出す。3条の凹線文を施す。頸部外面にも3条の凹線文を巡らせる。外面は縦方向のミガキ調整、内面はナデ調整である。

0区SK12

図示した出土遺物は弥生土器の壺(63)・甕(64)である。63は体部中位に最大径部を持つ長胴である。頸部はあまり締まらず、口縁部は外反する。貼付口縁であり、粘土帯外面には弱い指頭圧痕が見られる。口唇部は尖らせ気味に丸くおさめる。外面は縦方向のミガキ調整であり、内面はナデ調整である。64は長胴であり、口縁部は外反する。貼付口縁であり、ナデ調整により接合痕跡を消し、わずかに残す程度である。体部外面は縦方向のミガキ調整、内面はケズリ調整か。

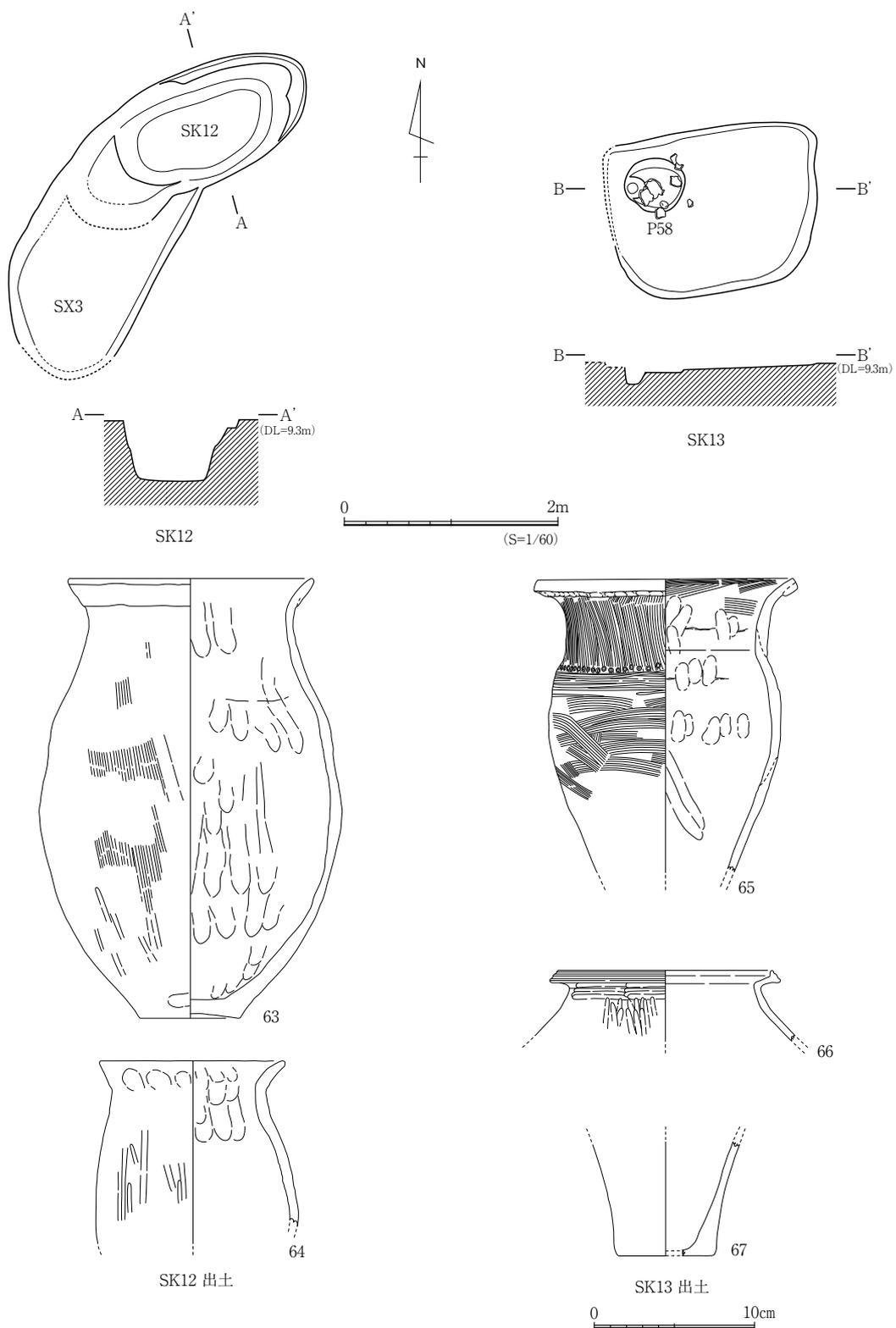
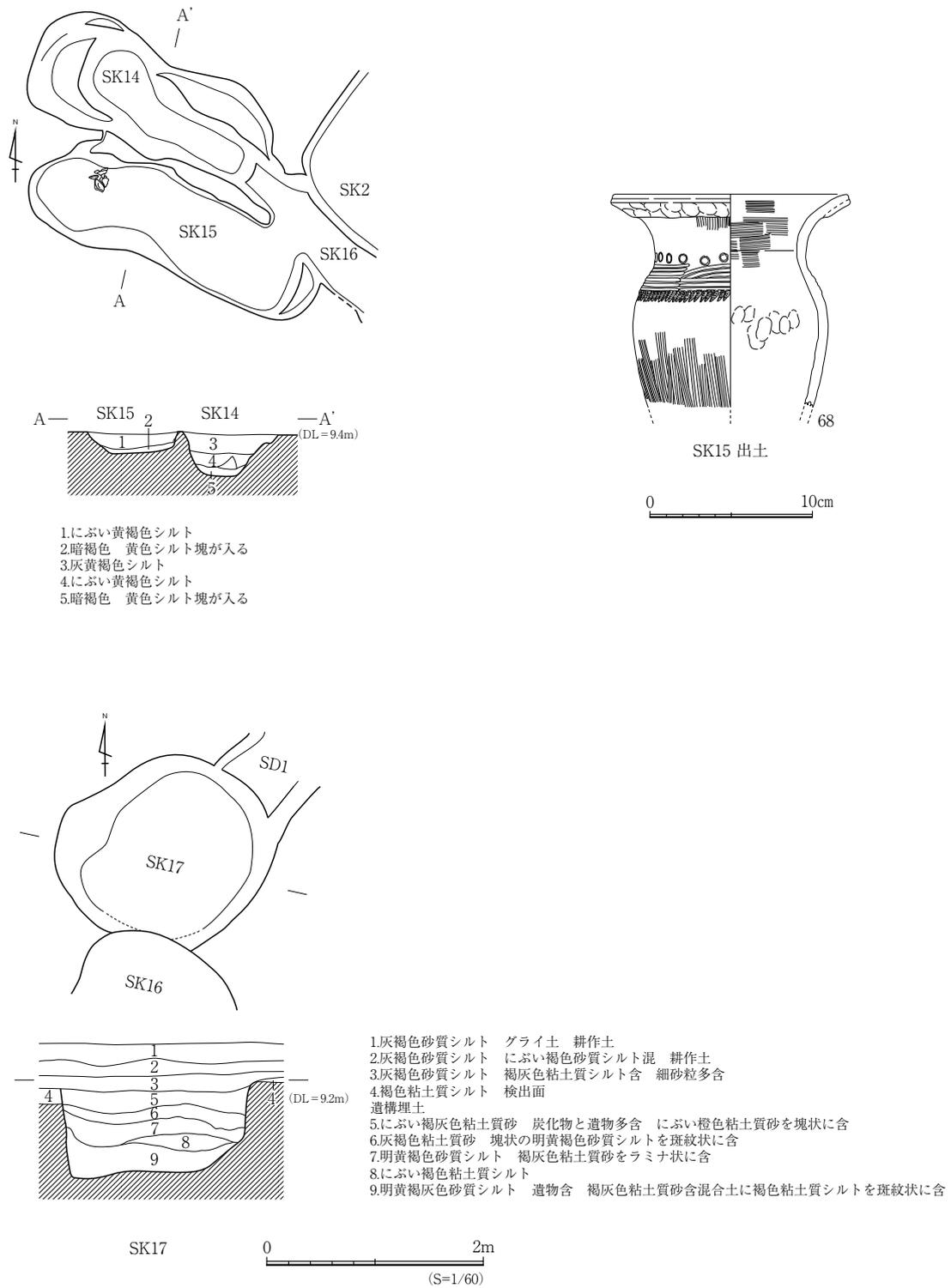
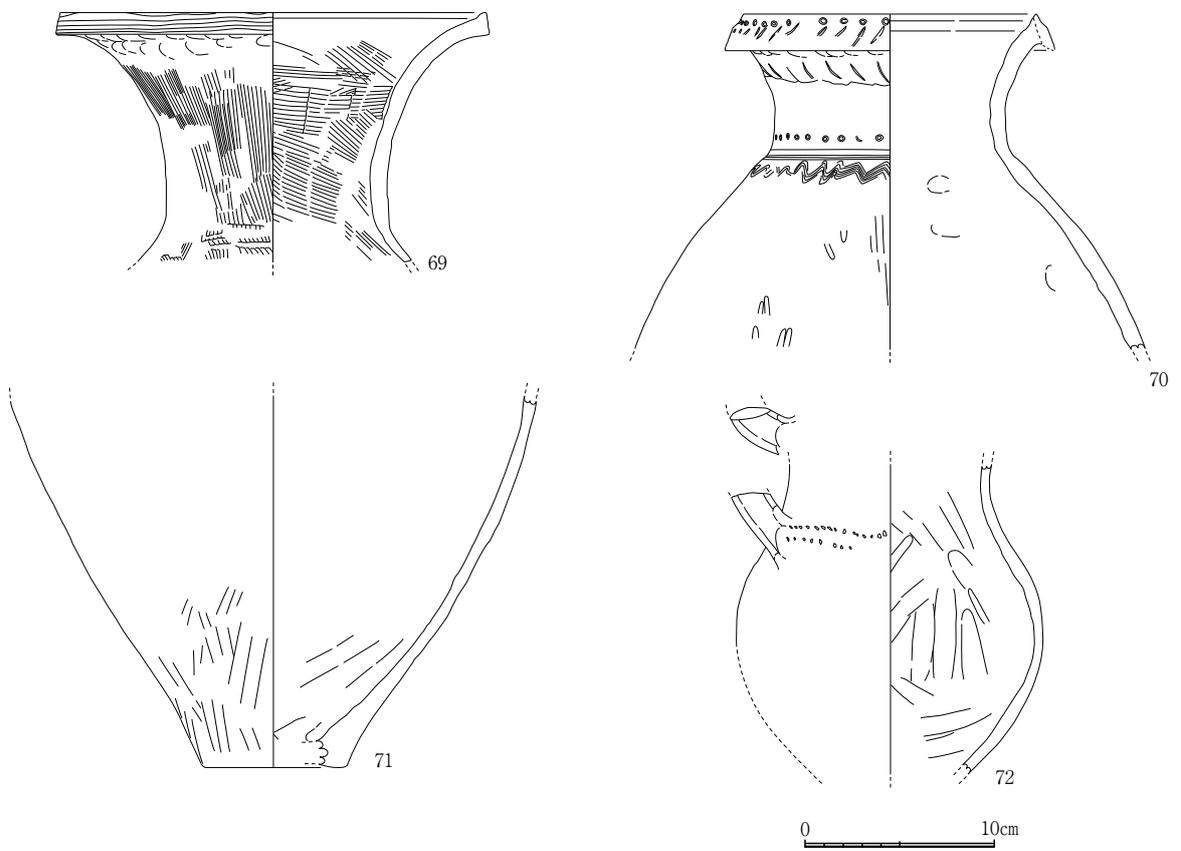
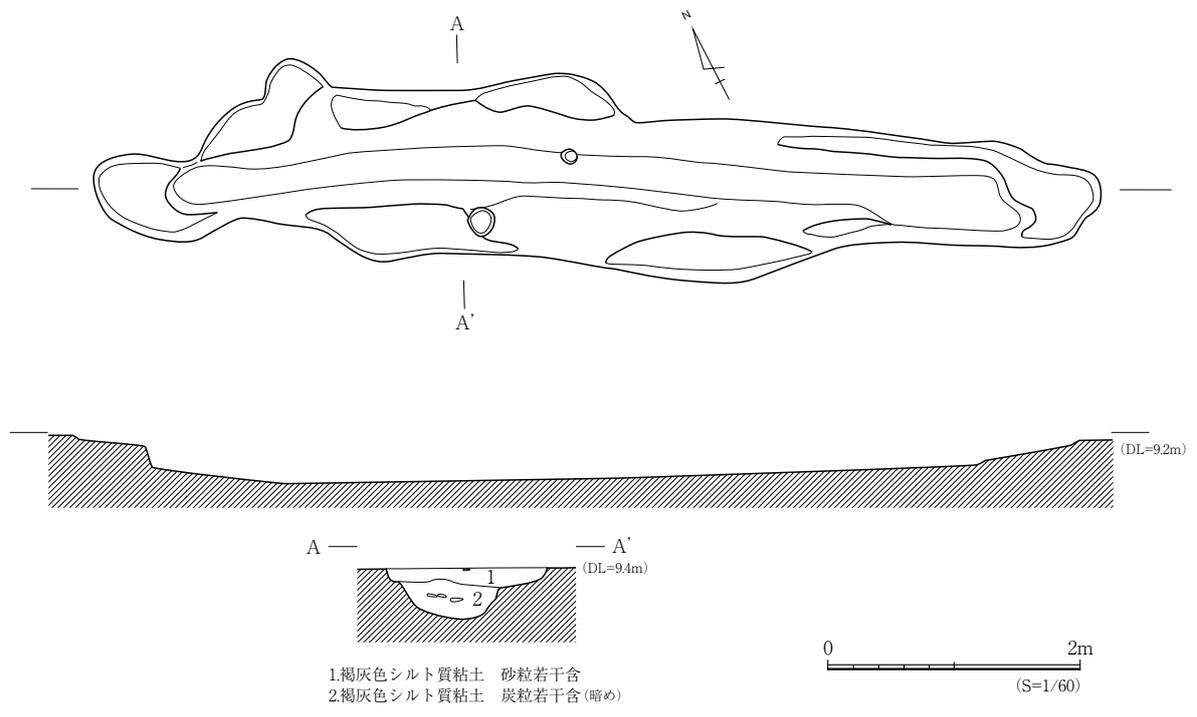


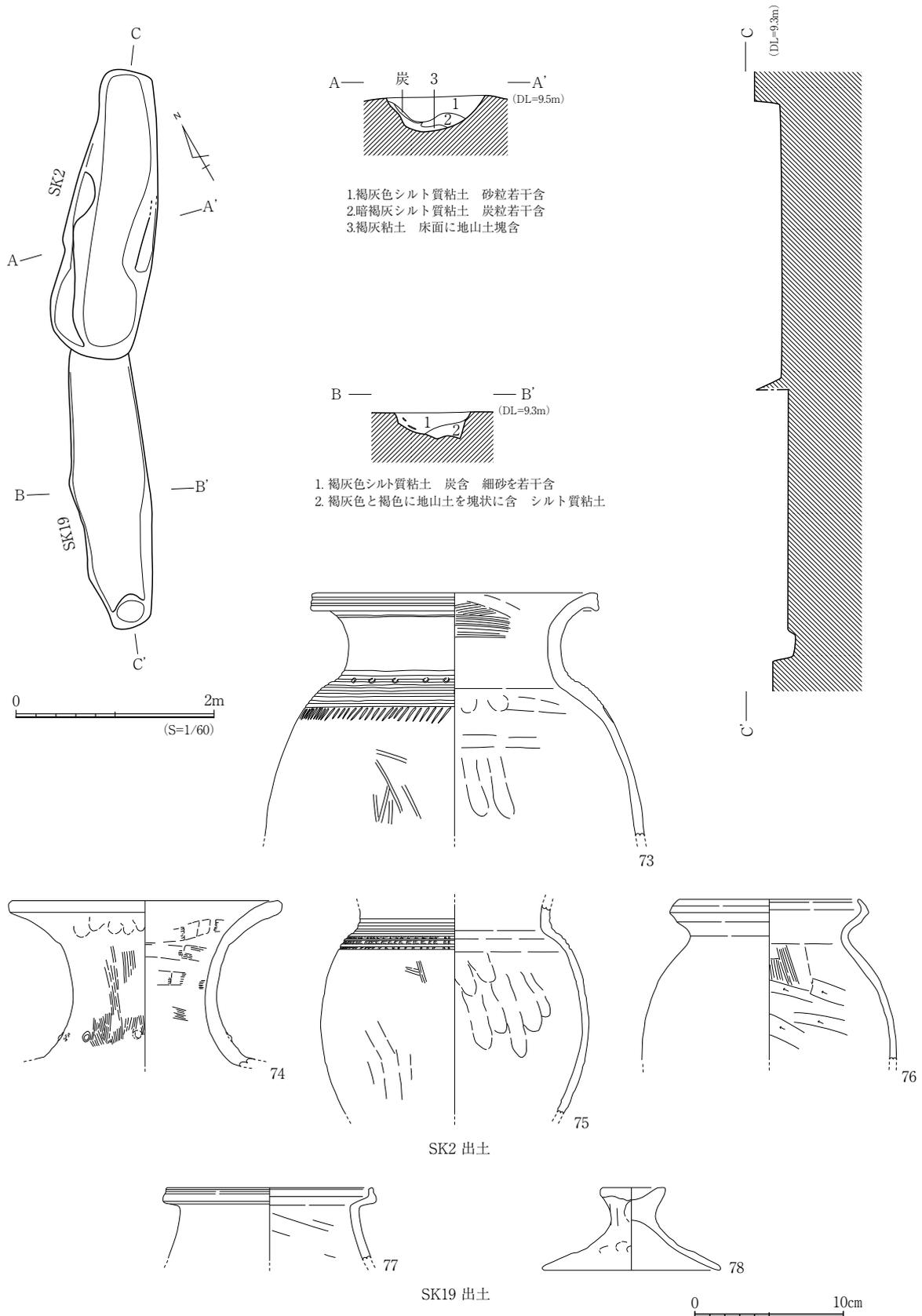
图 III-31 0区 SK12·13



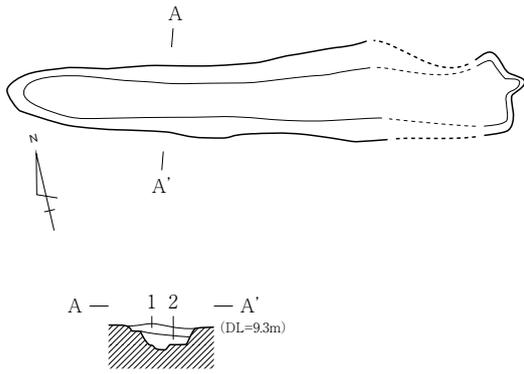
図III-32 0・2区 SK14・15・17



図Ⅲ-33 2区 SK1

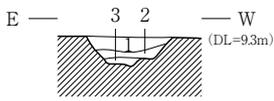


図III-34 2区 SK2・19



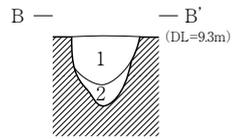
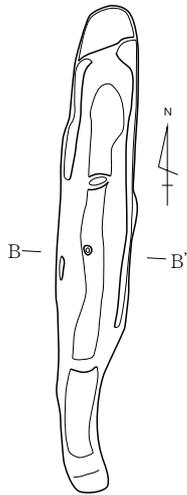
- 1. 細砂若干含 褐灰色シルト質粘土含 褐灰・暗褐灰・褐色が塊状に混
- 2. 褐灰・暗褐灰・褐色が塊状に混

SK4



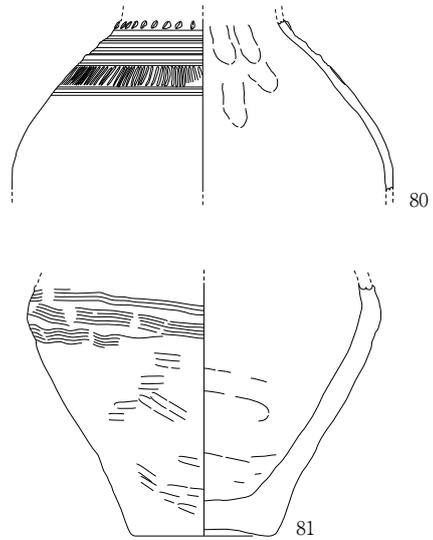
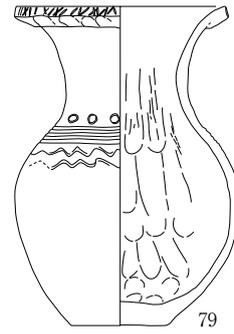
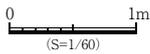
- 1. 褐灰色シルト質粘土 細砂を若干含
- 2. 暗褐灰色 細砂を若干含 褐灰色シルト質粘土含
- 3. 黄灰色シルト質粘土

SK5

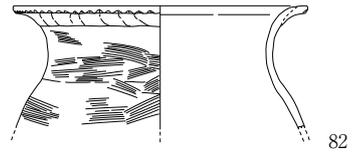


- 1. 褐灰色シルト質粘土
- 2. 褐灰・褐・黄灰色が小塊状に混 炭含

SK13



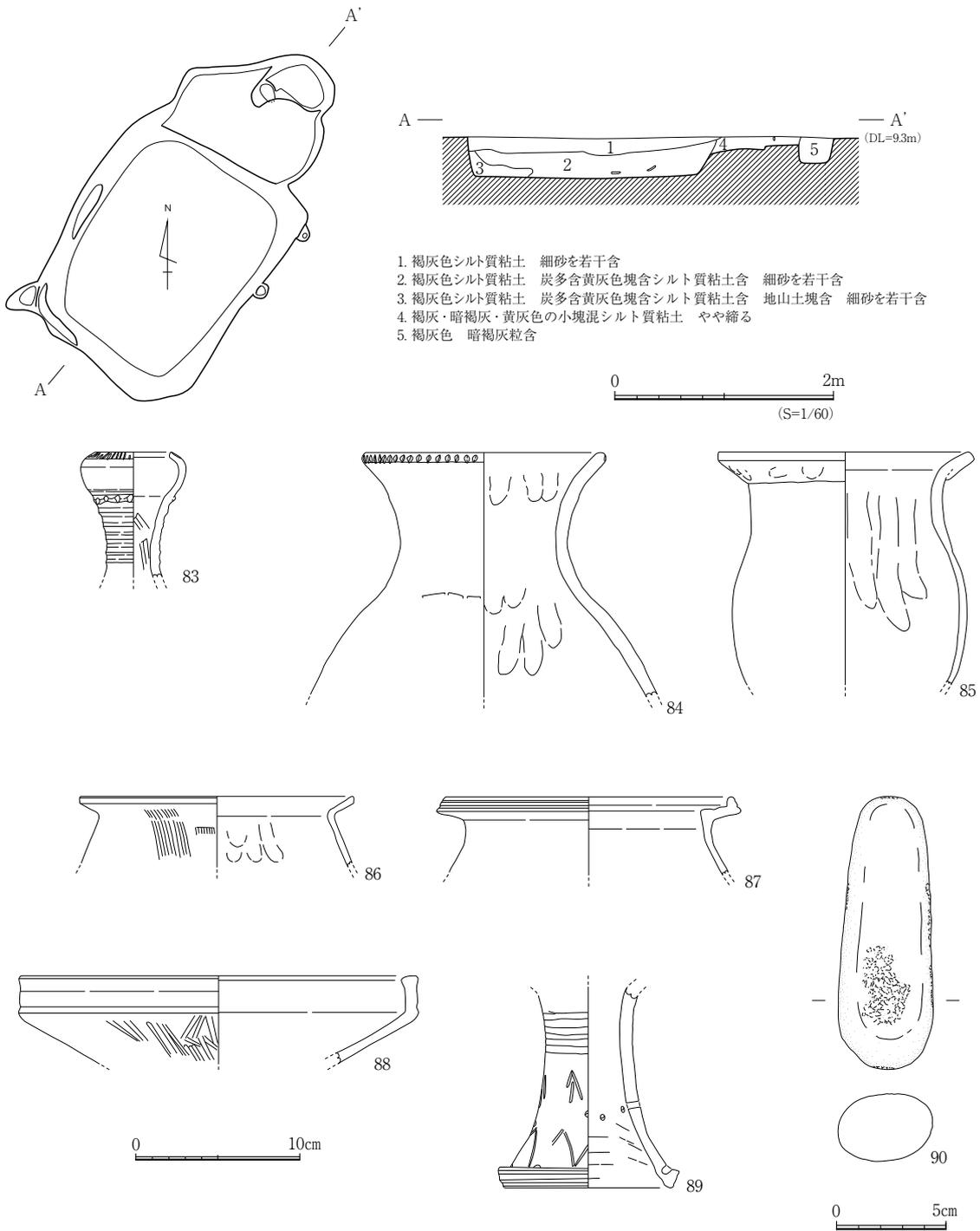
SK4 出土



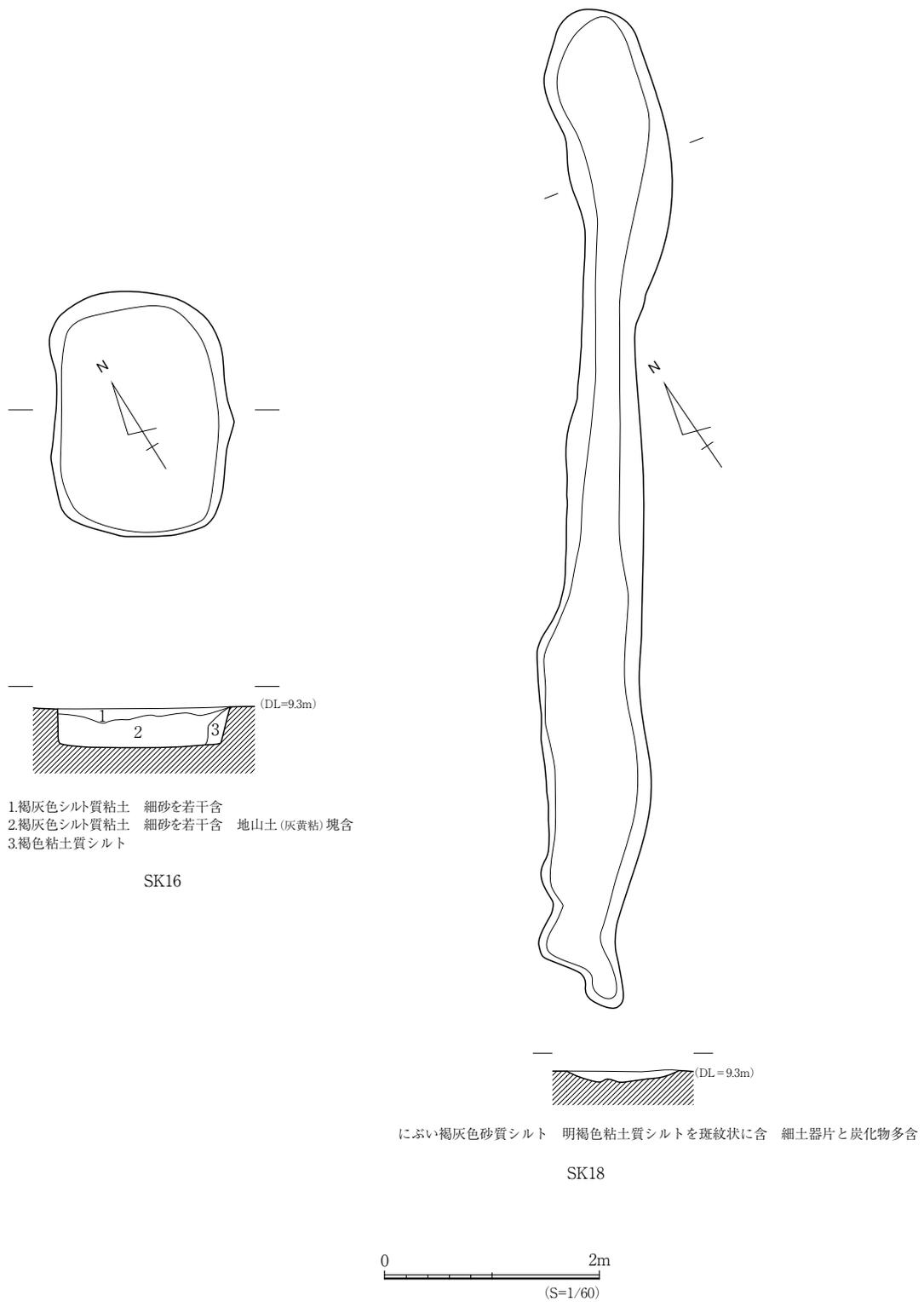
SK13 出土



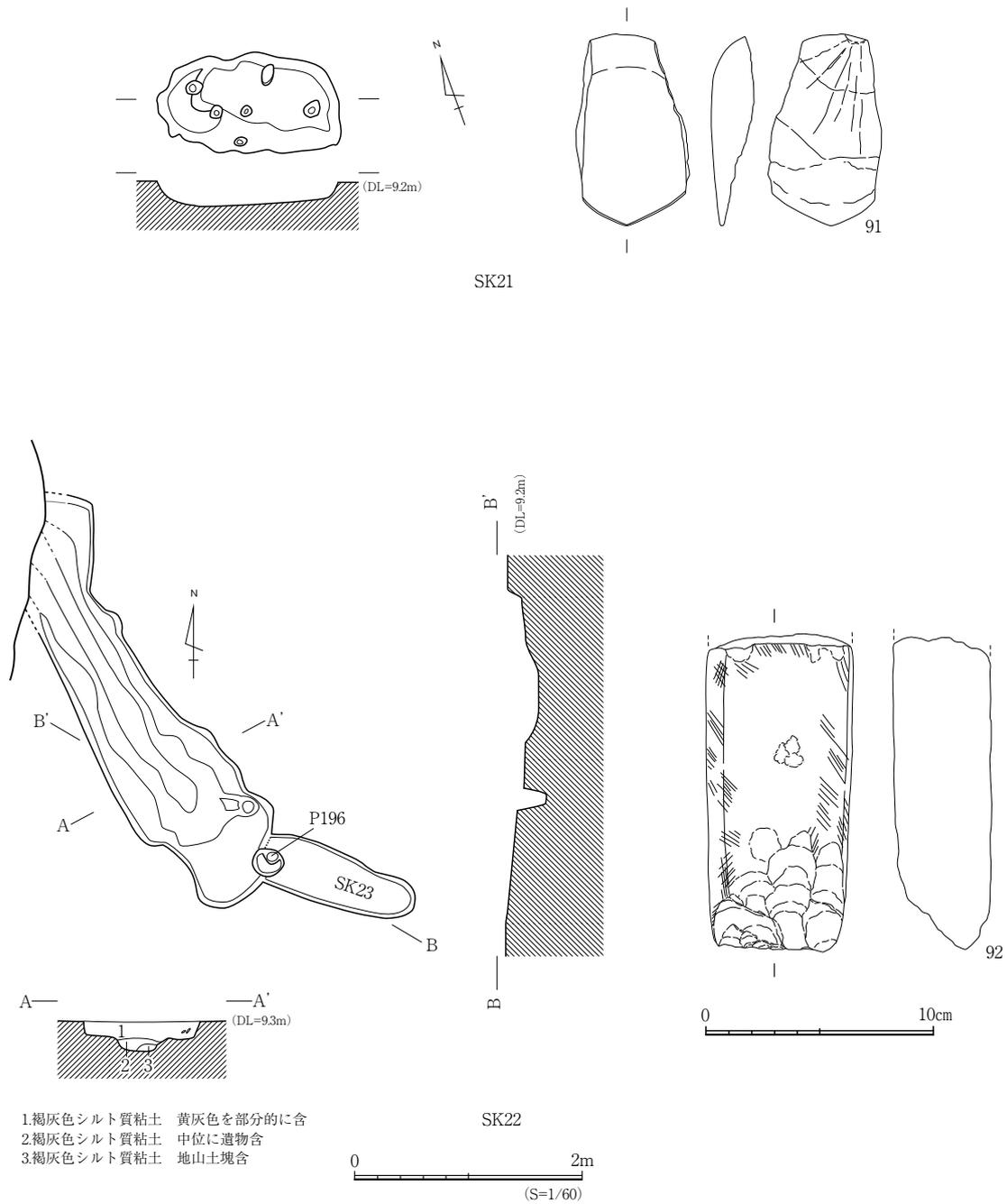
図III-35 2区 SK4・5・13



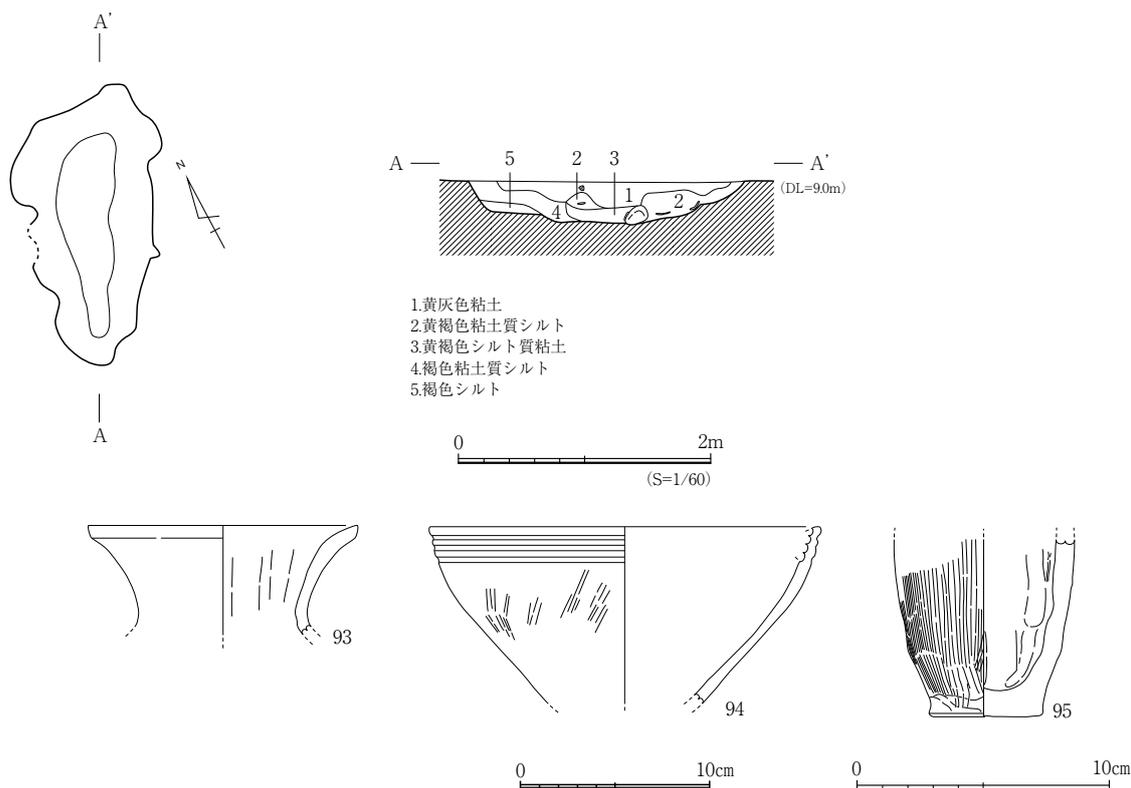
図III-36 2区 SK14



図Ⅲ-37 2区 SK16・18平断面図



図Ⅲ-38 3区 SK21・22



図Ⅲ-39 5区 SK35

### 0区 SK13

図示した出土遺物は弥生土器の甕である。65は上胴部に最大径部を持ち、頸部はやや長く、口縁部は外反する。貼付口縁であり、粘土帯は指押え後ナデ調整を施す。口唇部は面取りされる。頸部外面は縦方向のハケ調整、上胴部は横方向のハケ調整を施す。口縁部内面はハケ調整、それ以外はナデ調整である。頸胴部境には竹管文・稚拙な櫛描直線文を巡らせる。66は口縁端部をつまみ上げ、口唇部には2条の凹線文を施す。外面はミガキ調整、内面はナデ調整である。

### 0区 SK15

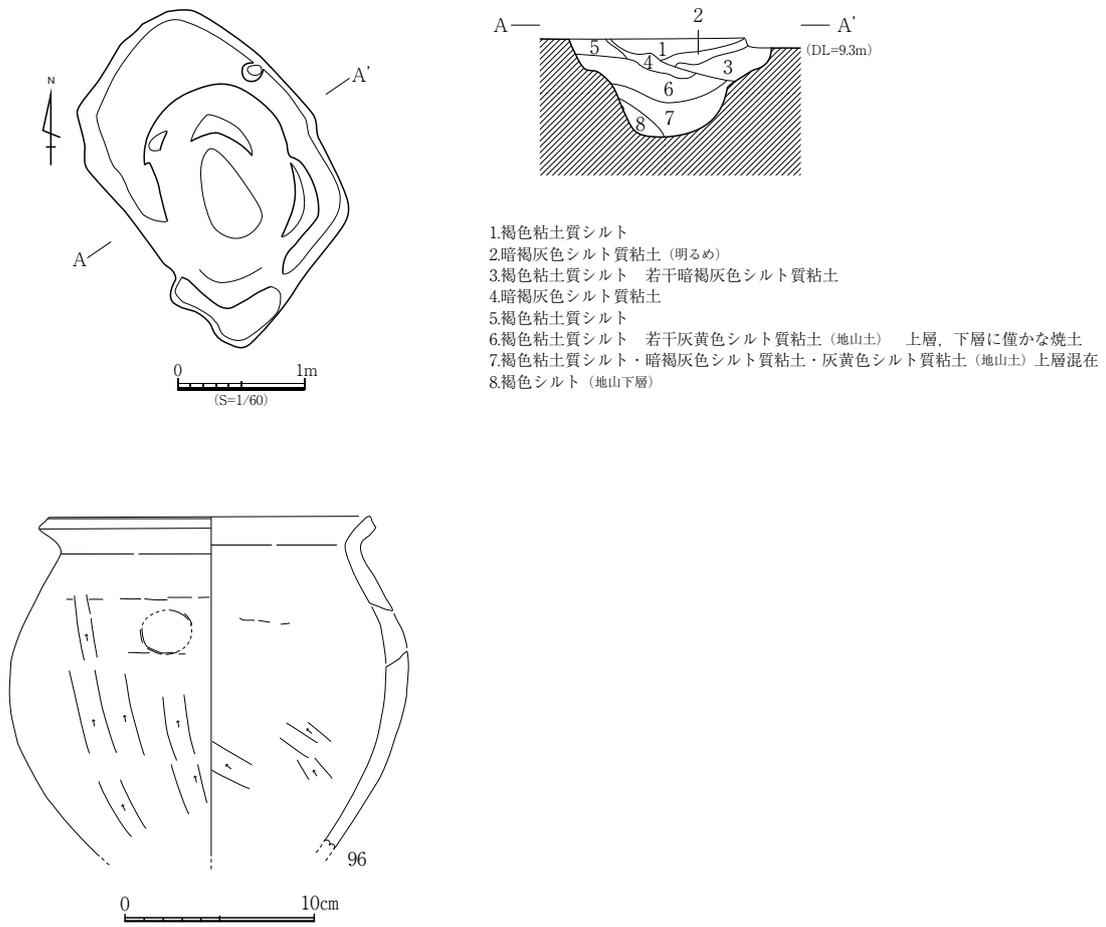
図示した出土遺物は弥生土器の甕(68)である。口縁部は大きく外反し、最大径部となる。貼付口縁であり、粘土帯外面を指押え後ヨコナデ調整を施す。口唇部は面取りされる。頸部から上胴部を文様帯とする。上から竹管文・櫛描直線文・刻目文を配置する。口頸部外面はヨコナデ調整、体部外面は縦方向のハケ調整である。口頸部内面はヨコハケ調整、体部内面はナデ調整である。

### 0区 SK16

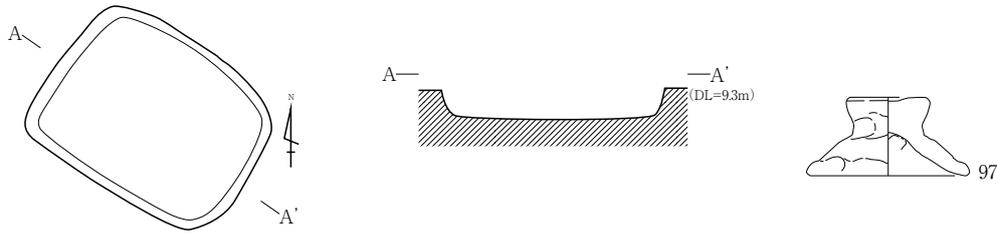
図示した出土遺物は弥生土器の甕(54)である。口縁部は緩やかに外反し、最大径部となる。貼付口縁であり、粘土帯外面には指頭圧痕が見られる。口唇部は面取りされ、下端に刻目を入れる。内外面ともナデ調整である。

### 1区 SK41

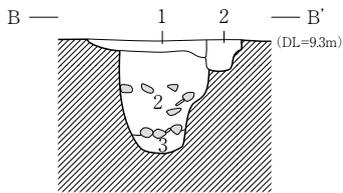
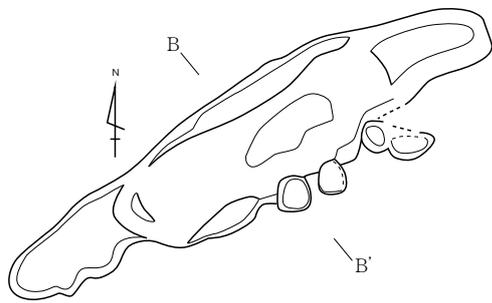
図示した出土遺物は弥生土器の甕(96)である。口縁部は「く」の字状を呈する。つまみ上げ、口唇部を面取りされる。体部外面はケズリ調整であり、上胴部外面は縦方向の工具ナデ調整である。内面下半はケズリ調整、上半はナデ調整である。上胴部に穿孔が認められる。



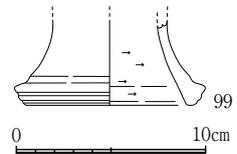
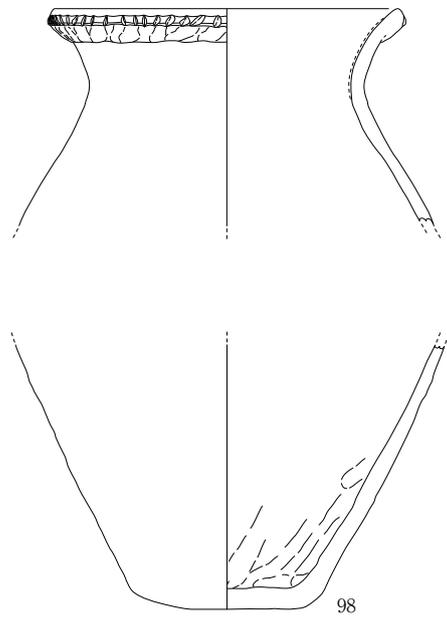
図Ⅲ-40 1区 SK41



SK51

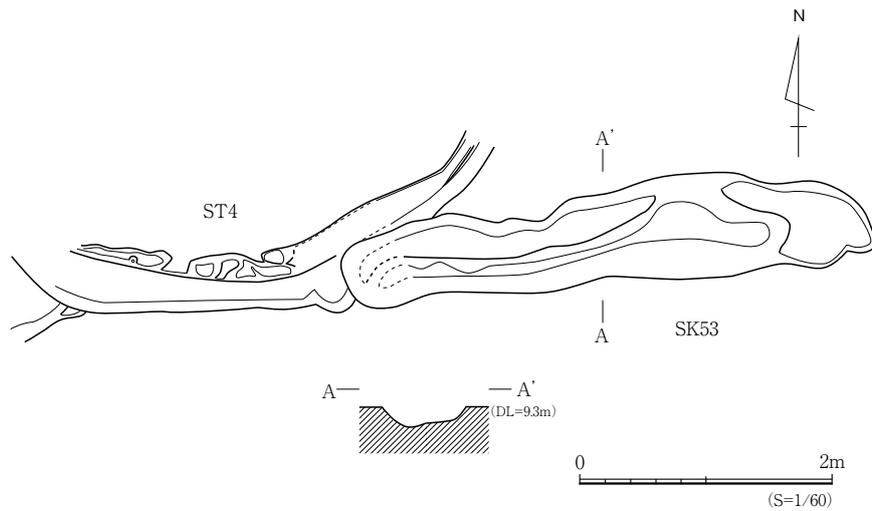


- 1.黄灰色に褐色含シルト質粘土
- 2.灰色に褐色含シルト質粘土(暗め)若干の炭含
- 3.細砂(地山)と褐色シルト



SK52

図III-41 1区 SK51・52



図Ⅲ-42 1区 SK53平断面図

#### 1区SK51

図示した出土遺物は弥生土器の蓋(97)である。笠部は短く「ハ」の字状を呈する。口縁部は丸くおさめる。つまみは円柱状を呈し、中央部はわずかに凹む。口縁部外面に粘土紐接合痕跡がみられる。

#### 1区SK52

1区南東隅で検出した。周辺にピットが多い。

図示した出土遺物は弥生土器の壺(98)・高杯(99)である。98は貼付口縁であり、粘土帯外面には指頭圧痕が認められる。口縁部は面取りされ、上端をつまみ上げる。口縁部下端には刻目を施す。底部は丸みを持った平底である。器面が荒れており、調整等の観察は困難である。99は脚端部をつまみ出し、2条の凹線文を施す。内面は横方向のケズリ調整である。搬入品である。

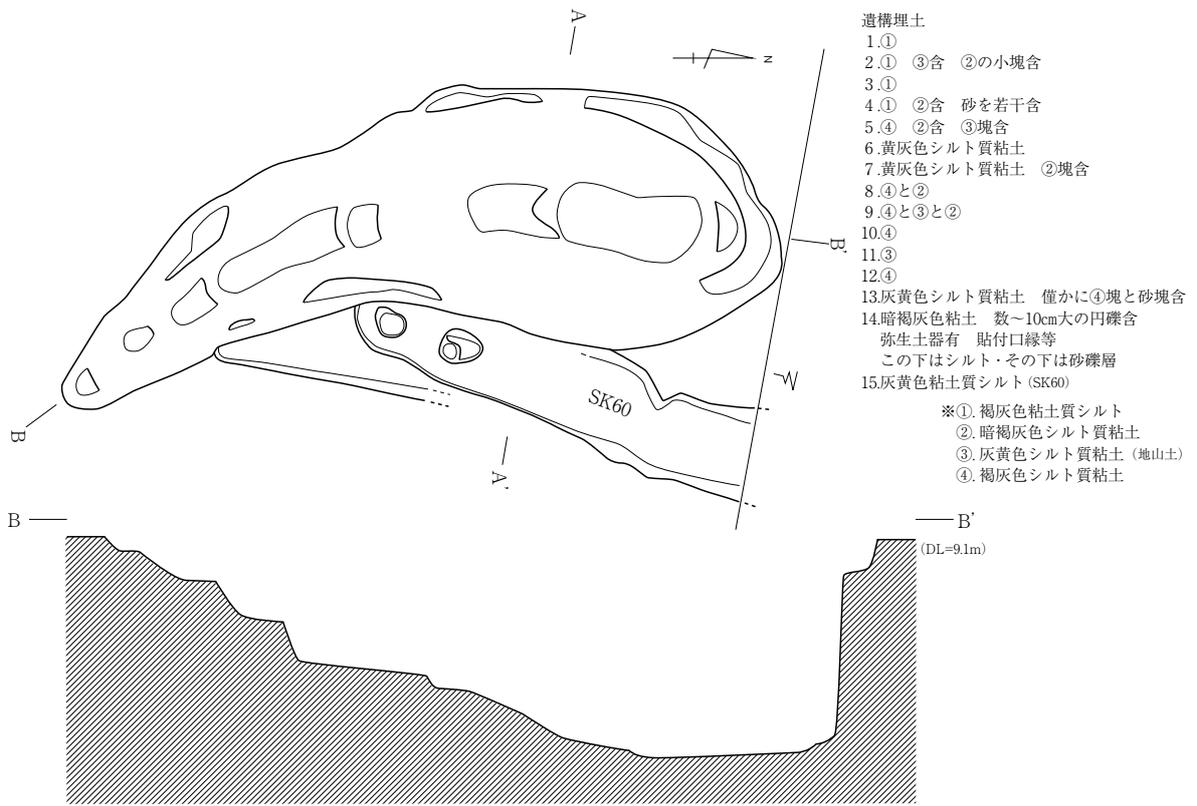
#### 2区SK1

SB7・8に沿う位置にある。断面は、両側にある段部で埋土層が分かれる。遺物は中央部に多いが、全て中層にあった。円礫も多かった。2区SK1～3は既述のごとく、他の遺構群より1層上の面から掘り込まれた可能性がある。

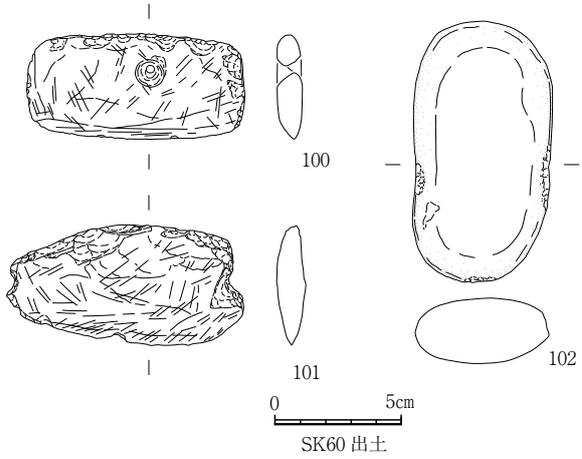
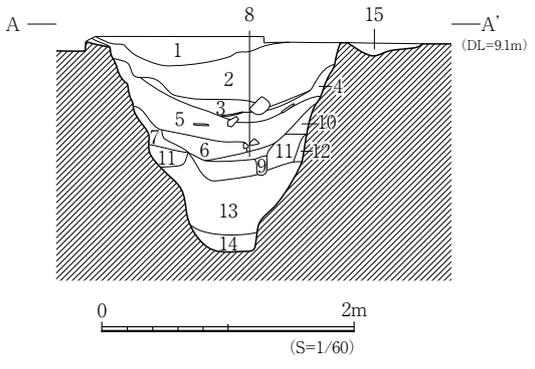
図示した出土遺物は弥生土器の壺・水差形土器である。69は壺である。口縁部は大きく外反し、口縁端部を上方へわずかに拡張する。口唇部はハケ状原体で面取りを施す。外面は縦方向のハケ調整、内面は横方向のハケ調整である。70は壺である。貼付口縁であり、粘土帯外面には指押え後ヨコナデ調整を施す。口縁部を拡張し、竹管文・刻目を施す。頸胴部境から上胴部を文様帯とする。上から竹管文・4条の櫛描直線文・4条の櫛描波状文を配置する。体部外面はミガキ調整、内面はナデ調整である。72は水差形土器である。肩部に横方向の取手を付す。また、2段の刺突文を施すが、全周するかは磨耗のため不明である。内面下半はケズリ調整、上半はナデ調整である。

#### 2区SK2

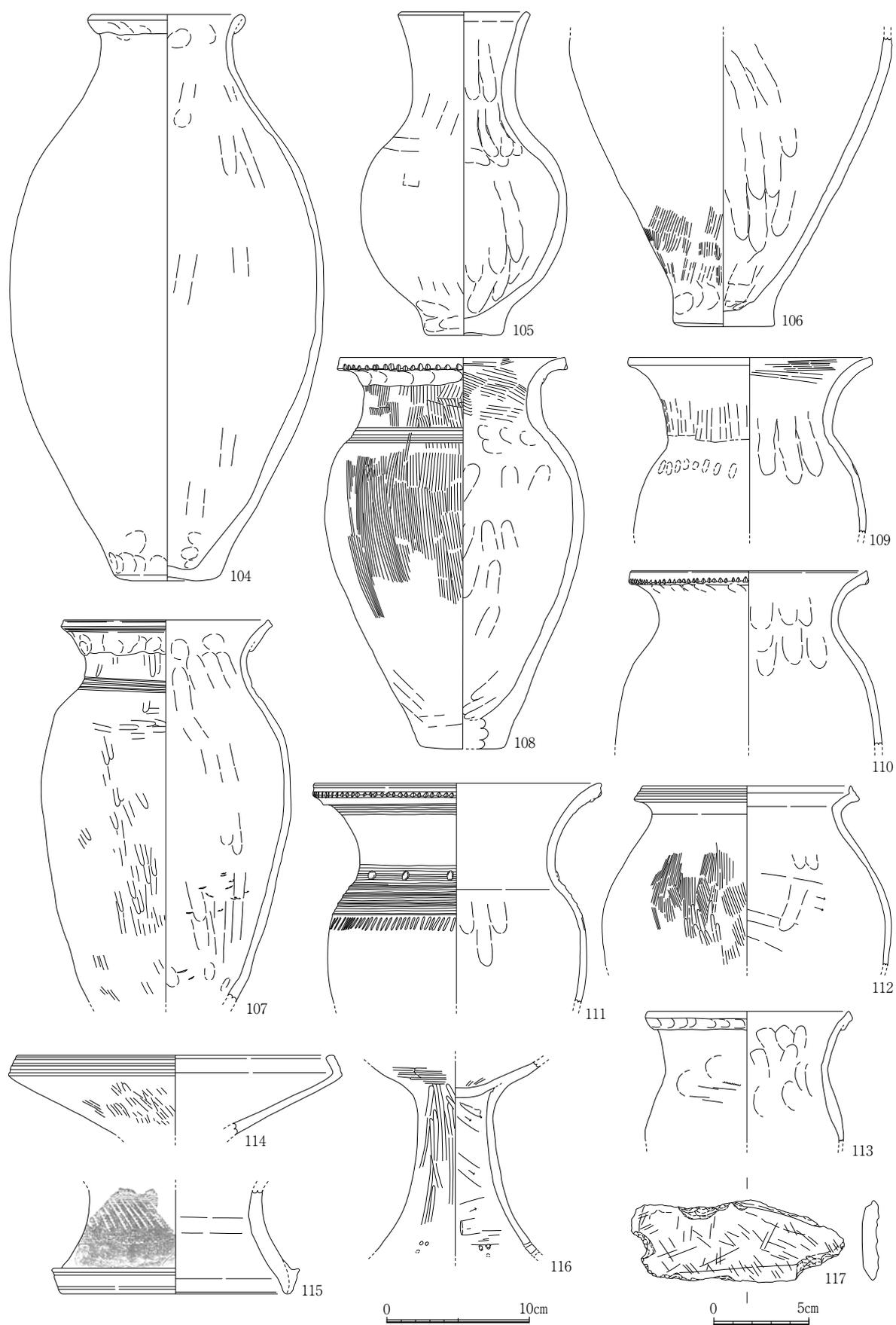
図示した出土遺物は弥生土器の壺・甕である。74は壺である。口縁部はやや肥厚しており、貼付口



- 遺構埋土
- 1.①
  - 2.① ③含 ②の小塊含
  - 3.①
  - 4.① ②含 砂を若干含
  - 5.④ ②含 ③塊含
  - 6.黄灰色シルト質粘土
  - 7.黄灰色シルト質粘土 ②塊含
  - 8.④と②
  - 9.④と③と②
  - 10.④
  - 11.③
  - 12.④
  - 13.灰黄色シルト質粘土 僅かに④塊と砂塊含
  - 14.暗褐色粘土 数~10cm大の円礫含  
弥生土器有 貼付口縁等  
この下はシルト・その下は砂礫層
  - 15.灰黄色粘土質シルト (SK60)
- ※①. 褐灰色粘土質シルト  
 ②. 暗褐色シルト質粘土  
 ③. 灰黄色シルト質粘土 (地山土)  
 ④. 褐灰色シルト質粘土



図III-43 4区 SK60・61



图Ⅲ-44 4区 SK61出土遺物

縁か。頸胴部境に竹管文を施した浮文を貼り付ける。頸部外面は縦方向のハケ調整、内面はナデ調整である。73は甕である。口縁部を下方に拡張し、2条の凹線文を施す。口縁部直下には粗い櫛描直線文を巡らせる。頸胴部境から上胴部に4条1単位の櫛描直線文を3単位・竹管文・刻目を配置する。体部外面は縦方向のミガキ調整である。南四国型甕と凹線文系甕の折衷型である。75は甕である。頸胴部境に3条1単位の櫛描直線文・櫛描簾状文を配置する。外面はヘラナデ調整・ハケ調整を施す。76は甕である。口縁部は上方へ拡張し、内傾させ、2条の凹線文である。内面はケズリ調整であり、肩部はハケ調整である。搬入品である。

#### 2区SK4

図示した出土遺物は弥生土器の壺である。79は小型壺である。貼付口縁であり、粘土帯外面には指頭圧痕がみられる。口唇部は面取りされ、崩れた斜格子文を施す。上胴部を文様帯とし、上から竹管文・3条1単位の櫛描直線文を2単位・櫛描波状文を配置する。80は壺である。上胴部を文様帯とする。上から楕円形浮文・櫛描直線文3単位・刻目・櫛描直線文を配置する。櫛描直線文の単位境は微隆起突帯となる。仁淀川流域からの搬入品である。

#### 2区SK7

図示した出土遺物は弥生土器の壺(50)・甕(51)である。50は貼付口縁であり、口唇部は面取りする。粘土帯外面には刻目を施す。仁淀川流域からの搬入品である。51は口縁部を上方へ拡張し、2条の凹線文を施す。

#### 2区SK13

図示した出土遺物は弥生土器の甕(82)である。貼付口縁であり、粘土帯を指押え後ヨコナデ調整を施す。口縁部下端に刻目を入れる。外面は横方向のハケ調整、内面はナデ調整である。

#### 2区SK14

方形部分が主体とみられるが、北側の浅い部分も埋土に炭化物がみられる等、共通性がある。但し、これらが同時に機能したものか否かは不明である。方形部分の底からやや浮いた位置で比較的まとまった遺物が出土し、炭化物も多い。縁辺や周囲では直径長軸16～36cm、深さ7～34cmのピットが検出された。1区SK52も周辺にピットが多い。

図示した出土遺物は弥生土器の壺・甕・高杯、叩石である。83は壺である。口縁部は袋状を呈し、外面には刻目を施す。頸部には上から楕円形浮文・3条1単位の櫛描直線文を5単位施す。櫛描直線文の単位境は微隆起突帯となる。84は壺である。口縁部はあまりひらかない。口唇部は丸くおさめ、刻目を施す。85は甕である。長めの頸部から口縁部は外反する。貼付口縁であり、粘土帯外面には指頭圧痕がみられる。口唇部は面取りされる。内外面ともナデ調整である。86は甕である。口縁端部をつまみ上げる。外面はハケ調整、内面はナデ調整である。87は甕である。口縁部を上方へ拡張し、2条の凹線文を施す。内外面ともナデ調整である。88は高杯である。口縁部は直立し、口唇部には面取りを施す。口縁部外面には2条の凹線文を巡らせる。外面にはミガキ調整を施す。89は高杯である。外面には6～8条の沈線、ヘラ描きによる矢印状の文様、5箇所円孔、山形文、未貫通の円孔を配置する。脚端部は上方へ拡張し、2条の凹線文を施す。裾部内面にはケズリ調整を施す。90は砂岩製の叩石である。乳棒状を呈する。両端、側面、片面に敲打痕跡が認められる。

## 2区SK15

図示した出土遺物は弥生土器の壺・甕である。45は細頸壺である。頸胴部境に刻目を施す。頸部外面は縦方向のミガキ調整、体部外面はハケ調整である。内面はナデ調整であり、しぼり目・指圧痕が認められる。49は壺である。頸部は太く短い。貼付口縁である。頸胴部境に斜格子文を巡らせる。外面は縦方向のハケ調整、内面はナデ調整である。47は脚付き壺である。脚部は漏斗状にひろがり、端部には面取りを施す。外面はミガキ調整、内面はナデ調整である。円盤充填技法である。48は甕である。口縁部はシャープに外反させる。口縁部上端をつまみ上げ、下端をつまみ出す。2条の凹線文を施す。

## 2区SK19

図示した出土遺物は弥生土器の甕(77)・蓋(78)である。77は口縁部を上方へ拡張し、2条の凹線文を施す。外面はナデ調整、内面はケズリ調整である。78のつまみは円柱状を呈し、中央部は凹み、端部はひろがる。笠部は直線的にひろがり、器高は低い。笠部の先端に煤が付着する。

## 3区SK21

図示した出土遺物は不明石器(91)である。砂岩製である。表面は主要な剥離面を残し、敲打により刃部付近を薄くする。裏面は自然面である。刃部の先端を磨く。被熱により変色する。

## 3区SK22

図示した出土遺物は御荷鉾緑色岩製の石斧(92)である。全面研磨するが、敲打痕跡・自然面が残る部分がある。両端を欠損する。

## 3区SK34

図示した出土遺物は弥生土器の甕(52)である。頸部は長く徐々にすぼまり、口縁部は大きく外反する。頸部には双線3条を1単位とする沈線を4ヶ所に均等配置か。頸胴部境に双線による沈線を巡らせる。内外面ともナデ調整であり、外面はミガキ状を呈する。

## 4区SK60

SK61と接する。図示した出土遺物は石包丁、叩石である。100は頁岩製の磨製石包丁である。平面形は隅丸長方形を呈する。背部・側辺に調整剥離痕跡が見られる。片刃である。中心からややずれた位置に一穴を穿つ。両面からの穿孔であり、敲打痕跡が認められる。101は頁岩製の石包丁である。やや歪な形態である。両面とも軽く研磨するが、剥離面・自然面が残る。両端に紐掛け用の抉りを穿つ。両刃に近い片刃である。102は砂岩製の叩石である。扁平な細長い川原石を使用する。先端部、側面に敲打痕跡が認められる。出土遺物が僅少な中で石器が目立つ。

## 4区SK61

4区北西隅で検出した。南端から階段状に下り、底の深さは検出面から1.89mを測る。北面は検出面直下のステップ状部分からややオーバーハングして下がる。この部分の遺構壁際の中層下位の位置で壺(103)が遺棄されていた(写真図版70)。遺物は最上層から最下層まで出土したが、4層と5層の界面付近が最多である。しかし13層でも残存良好な土器が出土し、最下層からも貼付口縁の土器が出土した。底面の地山はシルト、さらにその下は砂礫層であった。底からは水分が滲む程度で、少なくとも降雨時でなければ水が深く溜まることはなかったが、機能時の状況は不明である。SK60と接するが明確な切合い部分がなく、先後関係は不明瞭である。

図示した出土遺物は弥生土器の壺・甕・高杯、石包丁である。壺(104)は胴部が長く、口縁部はあまり開かない。貼付口縁で、粘土帯外面に指頭圧痕がみられる。壺(105)は口縁部が直立、口唇部は丸くおさめる。体部は球形で、上げ底である。内外面ともナデ調整である。大型壺(103)は貼付口縁の粘土帯外面に指頭圧痕がみられる。口唇部は上下二段のヨコナデによって面取りされ、凹線状を呈する。外面は粗いハケ調整後、ミガキ調整である。甕(107)は貼付口縁の粘土帯外面に指頭圧痕がみられる。口唇部は面取りし、上端をつまみ上げる。頸・胴部境に5条1単位の櫛描直線文を1単位巡らせる。外面はケズリ後ミガキ、内面はナデ調整で、下半に爪圧痕が残る。甕(108)は貼付口縁で、粘土帯を指押え後ヨコナデする。口唇部は面取り、下端に刻目を入れる。頸・胴部境に6条1単位の櫛描直線文を1単位巡らせ、頸部には縦方向のハケ調整を施す。体部外面はハケ、内面はナデである。甕(109)は口縁部が大きく外反し、口唇部に面取りを施す。上胴部に刺突文を巡らせ、頸部外面には縦方向の粗いハケ調整、口縁部内面は横方向のハケ調整である。体部内面はナデである。甕(110)は口唇部を面取りし、上端をつまみ上げる。下端には刻目を入れる。内外面ともナデ調整。甕(111)は口縁部が大きく外反し、最大径部となる。口唇部には強いヨコナデを施し、上端部をつまみ上げ、下端には刻目を入れる。口縁部に微隆起突帯、6条1単位の櫛描直線文を施す。また、頸・胴部境～上胴部を文様帯とし、上から9条1単位の櫛描直線文に楕円形浮文を重ね、3～4条1単位の櫛描直線文を3単位施し、単位境は微隆起突帯となる。さらに刻目を巡らせる。仁淀川流域からの搬入品である。甕(113)は貼付口縁の粘土帯を指オサエ後、ヨコナデ調整を施す。口唇部は面取り、上端をつまみ上げる。頸部外面は縦方向のヘラナデ調整である。甕(112)は上方へ拡張した口縁部に2条の凹線文を施す。調整が最大径部を境として内外面とも異なっており、外面上半はハケ、同下半はハケ後ミガキ、内面上半はナデ、同下半はケズリである。高杯(114)は口縁部を短く内傾させ、口唇部には面取り、口縁部外面に3条の凹線文を施す。内外面ともミガキ調整である。同115は上下に拡張した脚端部に3条の凹線文、外面に櫛描直線文、列点文。内外面ともナデ調整である。同116は、裾部に4孔1単位かとみられる円孔を穿つ。外面はミガキ、内面はケズリ調整。117は打製石包丁未成品あるいは製作放棄品の可能性があり、結晶片岩製で表面に主要な剥離面を残し、裏面は自然面である。短辺の片方に紐掛けとみられる挟りがある。摂理が顕著である。

#### 5区SK35

遺構の希薄な小区の浅い遺構であるが、比較的良好な遺物が出土した。いずれも弥生土器で、93は壺である。高杯(94)は口縁部外面に3条の凹線文を施す。外面はミガキ調整である。内面は磨耗のため、調整等は不明瞭である。口縁部内面の粘土紐は剥離する。ミニチュア土器(95)の外面は縦方向のハケ、内面はナデ調整である。

### (3)溝跡

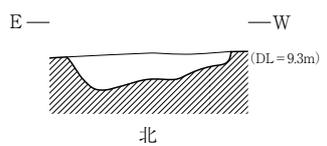
当区を横断する南北溝跡は2区で2条, 6区で2条(重複分を含まず)検出された。互いに主軸方位が平行関係にあるだけでなく, 当区の土坑や溝状土坑の方位もこれらと同調するものが多い。

#### 2・3区SD2

南壁基本層準Ⅳ層を図2のごとく切る。底面の東縁等の床に直径4～15cm, 深さ3～10cmの小穴が多数検出された。

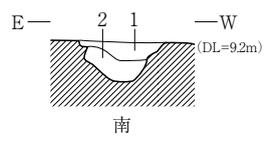
#### 0区SD3

0区西部でSD1と直交する。図示した出土遺物は弥生土器の甕・鉢である。118は甕である。口縁部は緩やかに外反する。貼付口縁であり, 粘土帯外面には指頭圧痕が認められる。口頸部内面には指の圧痕が見られる。口頸部内面は横方向のハケ調整である。頸部外面はヨコナデ調整, 体部は縦方向のハケ調整である。119は甕である。口縁部は緩やかに外反する。貼付口縁であり, 粘土帯外面には指頭圧痕が認められる。口唇部は面取りされ, 下端に刻目を施す。頸部から上胴部を文様帯とする。上から浮文・微隆起突帯・刻目を配置する。120は甕である。口縁部は上方へ拡張し, 2条の凹線文を巡らせる。外面はタテハケ調整後, ミガキ調整を施す。内面はナデ調整である。121は甕である。口縁部を上方へ拡張し, 2条の凹線文を施す。122は鉢である。口縁部は内湾気味に立ち上がり, 口唇部は面取りされる。口縁部から下がった位置に断面三角形の突帯を1条貼り付ける。突帯直下に穿孔が認められるが, 焼成前によるものか焼成後によるものかは磨耗のため不明瞭である。7と同一個体の可能性がある。



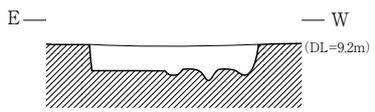
SD1  
 におい褐灰色粘土質シルト 灰褐色塊含 褐灰色細砂塊含  
 全体的に砂質 土器細片と炭化物僅含

SD1



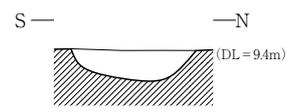
SD1  
 1.褐灰色シルト質粘土 細砂を若干含  
 2.やや暗い粘土質シルト

SD1



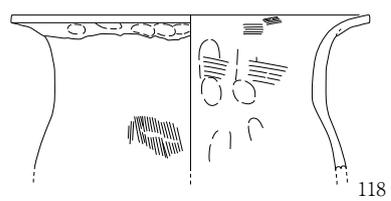
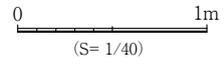
SD2  
 灰褐色シルト質粘土 上層に細砂塊含

SD2

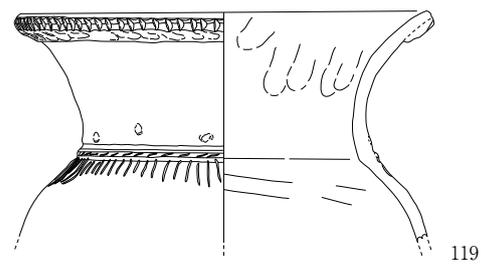


SD3  
 におい褐灰色粘土質砂 明褐色粘土質シルトを斑紋状に含  
 土器片と炭化物多含

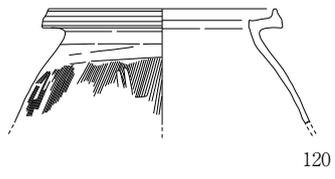
SD3



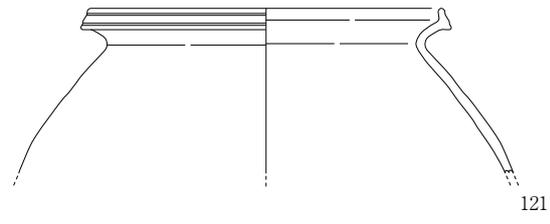
118



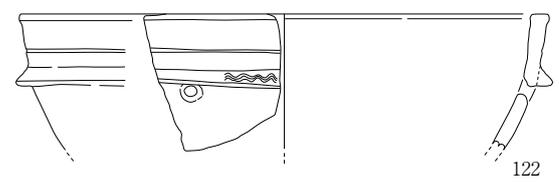
119



120



121



122

SD3 出土



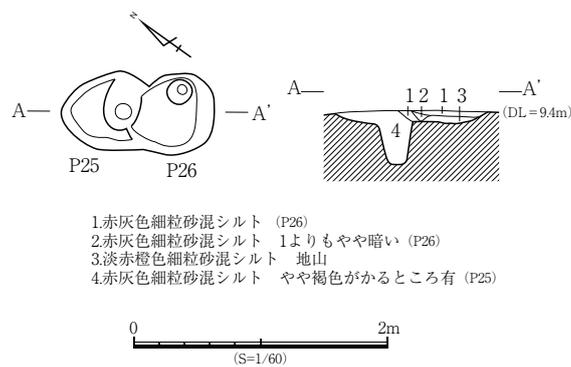
図Ⅲ-45 0・2区 SD1・2・3断面図・出土遺物

(4)その他の遺構等

1区P20・21は1区東端のSB2の一部である。図示した鉢(44)はコップ形で口唇部に面取りを施す。外面は粗い縦方向のハケ調整で、内面はナデ調整である。被熱により変色し、煤が付着する。

5区西壁断面で検出したピットは、埋土に弥生土器片を含んでいた。同小区東寄りで検出した直径18～38cm、深さ6～17cmのピット群は、人為的な遺構ではない可能性もある。

6区の主に溝跡の東側で検出したピット群のうち、やや大きめのものは長軸20～40余cm・深さ数～20数cm程度を測る。長軸10数cm・残深3～5cm程度のは断面U字の凹み状のものが主である。埋土はいずれも黄灰～明褐灰色粘土～シルト質粘土を基本とする。僅かではあるが土器細片が出土したのがあり、それは小さな窪み状のものにもある。なお、窪み状のピットは4区でも少数認められた。



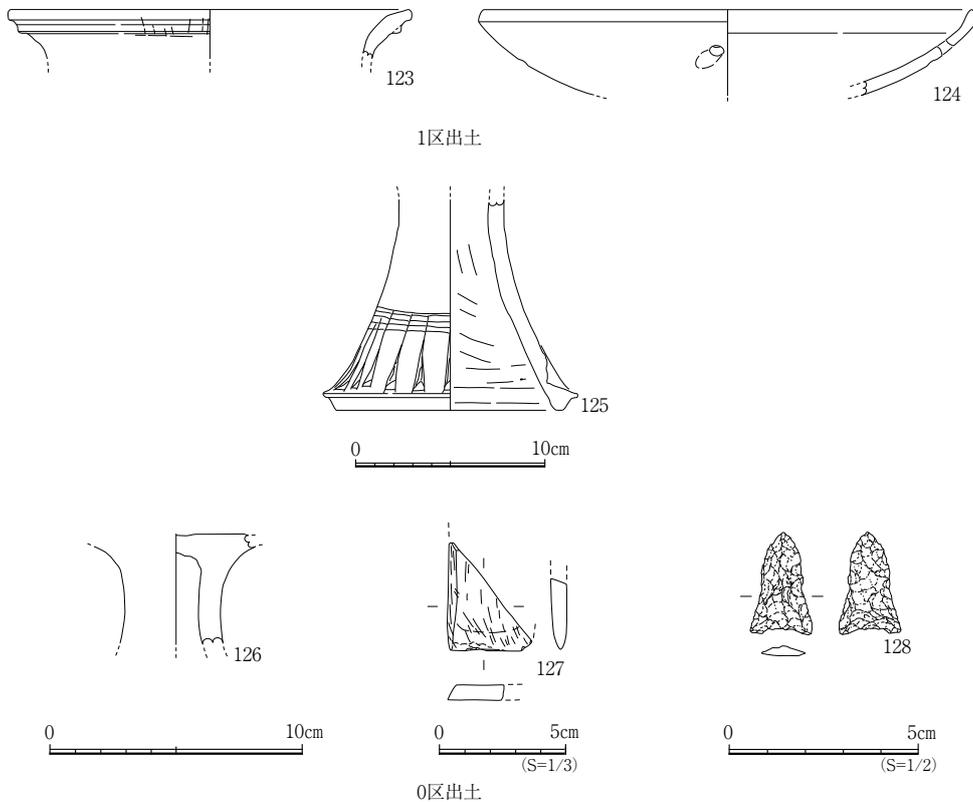
図Ⅲ-46 0区 P25・26 平断面図

(5)その他の出土遺物概要

図示あるいは記述した以外の遺構と出土遺物については、出土遺物がある場合には、ピットは1～数片、土坑・性格不明遺構・溝跡は1～数片ないし10数片で、いずれも弥生土器である。例外的に多いものは土坑で40数片のものがあり、SD2ではコンテナ1箱半であった。遺構配置図に遺構名を記した遺構は、何らかの遺物が出土したものである。5区の包含層からは約100片、6区からは40片が出土した。これらは全て弥生土器で、それ以外の時代の遺物は下記の遺構外出土遺物の一部その他、3区包含層の須恵器甕、中世土師質土器杯があるがいずれも1片で摩耗、6区包含層より近世陶器2片が出土したのみである。

0区遺構外出土遺物で図示したものは弥生土器の高杯、土師器の高杯、石斧、石鏃である。125は弥生土器の高杯である。脚端部は強いヨコナデ調整によりつまみ出され、凹面状を呈する。外面には6条の沈線文、矢羽根を意識した未貫通の三角形の透孔を施す。内面は横方向のケズリ調整である。127は扁平片刃石斧の刃部片である。粘板岩製である。横断面は台形を呈する。刃部は欠損後研磨するがシャープさに欠ける。128は凹基式の打製石鏃である。鏃身中央部は凹み、薄い。両面とも主要な剥離面を残し、縁辺部の一部には調整剥離を施す。完存である。

1区遺構外出土遺物で図示したものは縄文土器の浅鉢(124)、弥生土器の甕(123)である。124の体部は内湾気味に大きくひらき、口縁端部を折り曲げる。外面はミガキ調整である。口縁部のやや下がった位置に焼成後の穿孔が認められる。123の口縁部は外反し、口唇部には面取りを施す。口縁部からやや下がった位置に突帯を貼付ける。口縁部下端から突帯にかけて刻目を施す。



図Ⅲ-47 0・1区 包含層等出土遺物



表1 Ⅲ-1区 竪穴建物跡計測表

全ての表の凡例はⅡ区 (P130・148) に準ず

遺構名	小区	長軸	短軸	深さ	柱穴 (cm)		中央ピット (cm)			備考
					直径	深さ	長軸	深さ	炭・焼土層	
ST1	2南縁	4.76	(361)	0.44	14~52	15~47	(84)	28	中層に炭層	床2面
ST2	3~4	5.5	5.43	0.40	32~42	15~55	100	64		SK22を切る
ST3	1	6.6	6.4	0.36	24~38	6~44	132	43	若干炭含	建替え又は拡張。SK45を切り, SK44・47に切られる。中央ピット南隣の長楕円土坑は深さ4.5cm。両端に直径14cm, 深さ8cmの小ピット。
ST4	1南	5.18	5.16	0.32	18~40	6~59	170	39	上層と下層に炭層	SK47・58を切る
ST5	0~1	4.1	4.1	0.34	28~36	3~20	64	13		SK9を切る
ST6	0	(5.5)	(2)	0.27	38~40	39~49	-	-		
ST7	0北縁	(3.1)	(2.1)	0.23	24	8	76	6		方形

※ 柱穴は推定含む

表2 掘立柱建物跡等計測表

遺構名	小区	間数	規模 (m)	柱穴長径	柱穴深さ	備考
SB2	1	1×4	2.37×5.80	22~30	8~21	柱痕径8cm
SB3	1~2	1×3	2.36×4.15	17~38	9~54	柱痕径9~19cm
SB4	2	1×2	2.18×4.31	20~40	9~20	
SB5	2	1×2	1.97×2.09	17~21	15~30	柱痕径14cm
SB6	2	1×2	1.99×2.04	20~35	17~33	SK13と重複, 軸方位同じ
SB7a	2	1×3	2.44×3.17	20~42	20~30	柱痕幅14cm
SB7b	2	1×2	2.76×2.93	14~54	10~39	柱痕幅11cm
SB8	2	1×3	2.38×3.94	16~68	9~25	
SB9	2~3	1×2	2.28×2.93	16~67	5~33	SK18近在 柱痕径14cm
SB10	3	×2	3.39×3.70	19~48	4~32	柱痕径17cm
SB11	3	(1) × (3)	3.13×3.28	21~41	23~52	柱痕径17cm
SB12	3	1×2	2.55×2.90	26~63	6~58	柱痕径12cm
SB13	3	2×2	3.09×5.02	18~51	4~23	柱痕径11cm

遺構名	小区	間数	規模 (m)	柱穴長径	柱穴深さ	備考
SB14	3	2×(3)	2.43×(4.86)	16～30	12～20	
SB15	4	1×3	3.06×6.07	19～46	18～47	柱痕径 12～17 cm
SB16	4	1×(2)	2.49×4.19	16～42	4～17	柱痕径 12 cm
SB17	5	(1)×(2)	(3.18)×3.20	26～33	21～33	柱痕径 21 cm
SA1	2	(1)×(2)	(2.78)×(3.51)	34～67	33～57	柱痕径 16～20 数cm

※ 柱穴規模はcm。( ) は検出分あるいは推定。

表 3 土坑・溝跡・ピット等計測表

遺構名	小区	平面形	長軸	短軸	深さ	備考
SK1	0	方形か	3.22	(0.84)	0.49	焼土・炭含
SK2	0	方形	2.95	2.28	0.39	SK16を切り、SK1に切られる
SK5	0	不整形	1.46	1.08	0.36	炭多含層あり。SD1を切る。
SK6	0	楕円形	0.86	0.64	0.74	SK6～8が並ぶ。土器片・炭含層あり。柱痕径 20 cm。
SK7	0	楕円形	0.91	0.67	0.93	柱痕径 56 cm
SK8	0	楕円形	0.78	0.67	0.96	柱痕径 32 cm
SK9	0	長方形	(2.95)	2.22	0.35	
SK12	0	楕円形	2.52	1.10	0.59	
SK13	0	方形	2.04	1.55	0.07	
SK15	0	溝状	2.84	(0.79)	0.22	
SK16	0	溝状	(2.16)	(0.65)	0.24	
SK17	0・1	隅丸方形	1.91	1.69	0.86	SD1を切る
SK1	2	溝状	7.95	1.31	0.44	SB7・8に沿う。SK1～3はIV層上面より上位で検出。
SK2	2	溝状	2.93	0.89	0.32	SB7・8に沿う。SK19を切る。遺物は北半に偏る。
SK7	2	溝状	4.70	0.83	0.43	
SK9	2・3	不定形	2.39	(1.44)	0.29	
SK13	2	溝状	3.88	0.59	0.62	

遺構名	小区	平面形	長軸	短軸	深さ	備考
SK14	2	不定形	3.42	1.83	0.38	土器、炭多含
SK15	2	溝状	6.83	0.68	0.46	
SK16	2	隅丸方形	2.29	1.59	0.42	SK17, SD1, 2・3区層準IV層上面のSD2を全て切る
SK18	0・2	溝状	6.18	0.66	0.17	
SK19	2	溝状	(2.98)	0.80	0.30	遺物は上層より出土
SK21	3	不定形	1.64	0.82	0.23	
SK22	3	溝状	(3.92)	0.69	0.33	SK23を切る。ピットに切られる。
SK23	3	溝状	(1.40)	0.50	0.13	
SK24	3	不定形	1.83	0.28	0.13	
SK25	3	不定形	1.13	0.40	0.21	
SK26	3	不定形	1.04	0.48	0.27	
SK32	3	楕円形	0.74	0.35	0.19	柱痕径 12 cm
SK34	3	溝状	2.27	0.21	0.08	
SK35	5	不定形	2.24	1.11	0.36	
SK41	1	長方形	2.30	1.66	0.96	
SK50	1	方形	0.99	0.95	0.64	
SK51	1	長方形	1.76	1.35	0.25	
SK52	1	溝状	4.29	0.91	0.96	
SK53	1	溝状	(4.20)	0.58	0.23	
SK61	4	溝状	5.78	1.85	1.89	
P25	0	楕円形	(0.64)	0.62	0.51	柱痕径 38 cm
P3	4	不定形	(0.66)	0.54	0.45	柱痕径 23 cm
SD2	0・2	-	(17.05)	1.08	0.19	2・3区IV層を切る。SK16に切られる。底面両側等に小穴多数。
SD3	0	-	(9.81)	0.70	0.17	
SD10	6	-	(10.15)	0.69	0.22	

遺構名	小区	平面形	長軸	短軸	深さ	備考
SD11	6	-	(12.23)	12	0.37	溝状土坑に切られる
SX1	0	不定形	8.42	(2.97)	0.11	
SX2	0	溝状	(5.49)	(0.99)	0.32	

※単位はm

表4 Ⅲ-1-0～6区 弥生遺構出土遺物計数表（非掲図分）

遺構	小区	属性	壺	甕	鉢	高杯	その他
ST1	2	貼付	1				
		素	2				
		凹線	2	1			
		底		1			
						1	砥石2, 石鏃(サヌカイト), サヌカイト剥片3, 叩石11, 鉄片
ST2	3	貼付		2			
		素		5			
		凹線	2				
		不明	1	2			
						1	砥石, 石鏃(サヌカイト), 台石(23.5cm)
ST3	1	貼付	1	2			1
		素		2			
		底	1	7			3
						1	紡錘車2, 砥石, 台石, 打製石包丁2, 磨製石包丁2, サヌカイト剥片
ST4	1	貼付	3	3			1
		素	1	3			
		凹線		3			
		底		3			
							サヌカイト剥片2
ST5	0	貼付		1			
		素	1				
		不明	1				
		底	2	4			
						1	弥生土器片50, 石鏃(サヌカイト), サヌカイト剥片

遺構	小区	属性	壺	甕	鉢	高杯	その他
ST6	0	貼付	2				
							弥生土器片 45, 砥石, 台石, サヌカイト剥片 4, 叩石, 軽石
ST7	0						弥生土器片 20
SK1	0	素	1	1			
		底	1	3			
SK2	0	貼付	1				
		素		2			
		底		3			
		不明	1				
SK9	0	凹線	2				
SK12	0	貼付		1			
		不明	1				
		底					
					1		
SK15	0	貼付		1			
		底		2			
						ミニチュア	
SK16	0					弥生土器片 3	
SK1	2	貼付	1				
		素			1		
SK9	2	貼付		1			
		凹線		1			
SK14	2	貼付		2			
		底		1			
							叩石 2

遺構	小区	属性	壺	甕	鉢	高杯	その他
SK21	3	素	1				
		不明		2			
SK22	3	貼付		2			
		底		1			
SK32	3						粗製石包丁
SK61	4	貼付		8			
		素		6			
		凹線		1			
		底	3	13			
SK35	5						掲図以外に 4 個体からの破片
SX1	0	素		1			
		底		4			
SX2	0	貼付		2			
		素		3			
		凹線	1				
		不明					
		底	2	3			

※「貼付」、「素」、「凹線」は口縁部の属性、「底」は底部。  
数字を付さないものは 1 点。

Ⅲ-1区 出土遺物（土製品）観察表

全ての表の凡例はⅡ区（P130・148）に準ず

挿 図 番 号	図 版 番 号	調査区	出土場所 (遺構)	器 種 器 形	法 量 (cm)			色 調 (外面)	特 徴
					口径	器高	底径		
Ⅲ-5	1	Ⅲ-1-2	ST1	弥生壺		(8.3)		明褐色	櫛描波状文・櫛描直線文。内面、ナデ。磨耗、調整等不明瞭。
〃	2	〃	ST1	弥生甕	12.6	(10.6)		にぶい橙色	口唇部、面取り。ヘラ描沈線・竹管文・刻目。体部外面、ミガキ。内面、ナデ。
〃	3	〃	ST1	〃		(8.8)		オリーブ黒色	ドーナツ状浮文・櫛描直線文・刻目。仁淀川流域からの搬入品。
〃	4	〃	ST1 SK7 SK14	〃	18.2	(16.0)		浅黄橙色	貼付口縁。粘土帯外面、指頭圧痕。口唇部、面取り。2条の凹線文か。竹管文・櫛描直線文・刻目。体部外面、ヘラナデ。煤附着。
〃	5	〃	ST1	〃	16.4	(32.1)	5.2	にぶい橙色	上げ底。口縁部、上方へ拡張。2条の凹線文。体部外面上半、ハケ。下半、ミガキ。内面上半、ナデ。下半、ケズリ。黒斑。
〃	6	〃	ST1 中央P	弥生鉢(壺)	9.0	11.1	5.2	〃	口縁部、2孔1対の円孔。外面、ナデ・ハケ、ミガキ状。内面、ナデ。
〃	7	〃	ST1 Ⅲ層	弥生鉢	22.4	(8.3)		橙色	口唇部、面取り。断面三角形の突帯。磨耗、調整等不明瞭。図122と同一個体か。
〃	8	〃	ST1	弥生高杯		(11.6)	12.4	にぶい黄橙色	脚端部、拡張。円盤充填。磨耗、調整等不明瞭。
〃	9	〃	ST1 SK14	〃		(10.0)	12.0	浅黄橙色	脚端部、拡張。3条の凹線文。外面、ミガキ。内面、ケズリ。円盤充填。
〃	10	〃	ST1	〃		(13.3)	11.7	にぶい橙色	脚端部、拡張。凹線文。2単位の多条沈線。刻目。外面、ミガキ。内面、ケズリ。円盤充填。
〃	11	〃	ST1 I層 SK14	〃		(8.5)	12.0	〃	脚端部、拡張。2条の凹線文。多条沈線・短沈線・刺突文。内面、ケズリ。黒斑。
〃	12	〃	ST1 SK14	〃		(16.3)	13.8	橙色	杯部、深いボール状。脚部、「ハ」の字状。脚端部、つまみ出し、凹面状。外面、ミガキ。脚部、ハケ。裾部内面、ケズリ。円盤充填。黒斑。
Ⅲ-9	15	Ⅲ-1-1	ST3 下層	弥生壺	11.2	(7.8)		にぶい黄橙色	やや長めの頸部。口唇部、丸くおさめる。内外面、ナデ。
〃	16	〃	ST3 Ⅱ層	〃	18.0	(2.0)		〃	口縁部、上方へ拡張。2条の凹線文。刻目。搬入品か。
〃	17	〃	ST3 下層	弥生甕	27.6	(2.8)		橙色	貼付口縁。粘土帯外面、指頭圧痕。口縁部、つまみ上げ。口唇部下端、刻目。磨耗、調整等不明瞭。
〃	18	〃	ST3 中央P	弥生壺	16.8	(5.8)		〃	口縁部、上下に拡張。4条の凹線文。外面、粗いハケ。被熱変色。
〃	19	〃	ST3 下層	〃		17.7		にぶい赤褐色	頸部、刻目を施した突帯。ハケ状原体による刻目、2段。外面、ハケ。搬入品か。
〃	20	〃	ST3 下層	弥生甕	11.6	(7.2)		にぶい黄橙色	貼付口縁。粘土帯外面、指押え後ヨコナデ。口唇部、面取り。内外面、ナデ。被熱変色。
〃	21	〃	ST3 中央P	〃	16.8	(9.5)		にぶい橙色	貼付口縁。粘土帯外面、ヨコナデ。口唇部、面取り。下端、刻目。頸部、縦方向の沈線。2条の横方向の沈線。内外面、ナデ。
〃	22	〃	ST3 I層	〃	8.2	(6.2)		にぶい黄橙色	貼付口縁。口唇部、面取り、つまみ出す。内外面、ナデ。外面、ミガキか。煤附着。仁淀川流域からの搬入品か。
〃	23	〃	ST3 I層 下層	〃	16.5	(14.5)		〃	口唇部、ヨコナデ、つまみ上げ。外面、ハケ。内面、ナデ。器壁、厚い。
〃	24	〃	ST3 下層	弥生底部		(3.7)	5.6	灰白色	平底。磨耗、調整等不明瞭。内外面、ナデ。
〃	25	〃	ST3 下層	〃		(10.0)	8.6	橙色	丸底か。内外面、ナデ。
〃	26	〃	ST3 下層	弥生鉢	13.2	11.8	6.7	浅黄橙色	平底。口縁部、外反。被熱により器面、荒れる。外面、ハケ・ナデ。内面、ナデ。被熱変色。

挿図 番号	図版 番号	調査区	出土場所 (遺構)	器種 器形	法量 (cm)			色調 (外面)	特徴
					口径	器高	底径		
Ⅲ-9	27	Ⅲ-1-1	ST3 I層	弥生 高杯	16.8	(2.2)		明褐色	口縁部, 内湾。口唇部, 面取り。外面, 1条の凹線文。内外面, ナデ。
〃	28	〃	ST3 中央P	ミニ チュア		(0.8)	3.0	橙色	平底。外面, ナデ。被熱変色。
Ⅲ-11	31	〃	ST4 下層	弥生 壺	21.2	(38.3)		黄橙色	口唇部, 面取り。つまみ上げる。下端, 刻目。微隆起突帯・櫛描直線文。頸胴部, ドーナツ状浮文・櫛描直線文・刻目。内外面, ナデ。体部外面, ミガキか。黒斑。煤付着。おこげ付着。煮沸に使用。
〃	32	〃	〃	〃		10.2		オリーブ黒色	外面, ミガキ・ナデ。内面, ナデ。黒斑。
〃	33	〃	〃	〃		(15.6)	5.5	浅黄橙色	磨耗, 調整不明瞭。内外面, ナデか。
〃	34	〃	〃	弥生 甕	18.0	(23.0)		にぶい黄褐色	貼付口縁。粘土帯外面, ヨコナデ。口唇部, 面取り, つまみ上げ。下端, 刻目。頸胴部, 突帯・刻目。頸部外面, ハケ。胴部, ミガキ。内面, ナデ。煤付着。
〃	35	〃	〃	〃	13.8	(13.3)		橙色	口縁部, 上方へ拡張。つまみ出す。4条の凹線文。外面上半, ナデ。下半, ミガキか。内面, ナデ・ケズリか。
〃	36	〃	〃	〃		(16.3)	4.7	にぶい黄褐色	外面上半, ミガキ。下半, ハケ。底部脇, ケズリ。内面, ナデ・ハケ。煤付着。
〃	37	〃	〃	弥生 鉢	11.6	9.9	5.1	にぶい橙色	口縁端部, つまみ上げ, 尖らせる。内外面, ナデ。
〃	38	〃	〃	弥生 高杯	21.2	(8.3)		橙色	口縁部, 直立。口唇部, 面取り。口縁部, 2条の凹線文。内外面, ミガキ。円盤充填。黒斑。
Ⅲ-12	41	Ⅲ-1-0	ST5	弥生 壺		(13.8)		にぶい橙色	磨耗, 調整等不明瞭。内面, ナデ。被熱変色。煤付着。
〃	42	Ⅲ-1-1	ST5 下層	弥生 高杯		(12.9)	13.6	浅黄橙色	脚端部を上下に拡張, 2条の凹線文。多条沈線, 円孔。外面, ミガキ。内面, ナデ・ケズリ。円盤充填。煤付着。
Ⅲ-14	44	〃	P20 P21	弥生 鉢	7.0	10.5	3.0	灰白色	コップ形。口唇部, 面取り。外面, 粗いハケ。内面, ナデ。被熱変色。煤付着。
Ⅲ-15	45	Ⅲ-1-2	SK15	弥生 壺	6.5	(16.0)		橙色	頸胴部境, 刻目。頸部外面, ミガキ。体部外面, ハケ。内面, ナデ。
〃	46	〃	〃	弥生 底部		(11.9)	8.4	〃	体部・底部, 器壁薄い。外面, ミガキ。内面, ケズリ。黒斑。
〃	47	〃	〃	弥生 壺		(17.8)	10.4	にぶい黄褐色	脚付き壺。外面, ミガキ。内面, ナデ。円盤充填。
〃	48	〃	〃	弥生 甕	13.4	(8.3)		橙色	口縁上端, つまみ上げ。下端, つまみ出す。2条の凹線文。磨耗, 調整等不明瞭。内面, ナデ。煤付着。
〃	49	〃	〃	弥生 壺	17.0	(28.8)		にぶい橙色	貼付口縁。口唇部, 面取り。頸胴部境, 斜格子文。外面, ハケ。内面, ナデ。
Ⅲ-16	50	〃	SK7 SK14 SK15	〃	18.8	(7.2)		灰黄褐色	貼付口縁。口唇部, 面取り。粘土帯外面, 全面刻み。内外面, ナデ。仁淀川流域からの搬入品。
〃	51	〃	SK7 上層 SK15	弥生 甕	19.4	(4.4)		にぶい黄褐色	上方へ拡張, 2条の凹線文。内外面, ナデ。
Ⅲ-24	52	Ⅲ-1-3	SK34	〃	18.5	(10.0)		暗灰黄色	口縁部, 大きく外反。口唇部, 面取り。頸部, 縦方向の沈線, 横方向の沈線。内外面, ナデ。被熱変色。
Ⅲ-29	53	Ⅲ-1-0	SK1	弥生 壺		(40.4)	7.4	にぶい橙色	平底。外面, ハケ・ナデ。内面, ナデ。穿孔。
〃	54	〃	SK16	弥生 甕	26.0	(12.0)		にぶい黄褐色	貼付口縁。粘土帯外面, 指頭圧痕。口唇部, 面取り, 下端, 刻目。内外面, ナデ。
〃	55	〃	SK2 上層	弥生 壺	16.8	(7.4)		にぶい橙色	口縁部, 上下に拡張。2~3条の凹線文か。頸部, 3条の凹線文。内外面, ナデ。煤付着。

挿図 番号	図版 番号	調査区	出土場所 (遺構)	器種 器形	法量 (cm)			色調 (外面)	特徴
					口径	器高	底径		
Ⅲ-29	56	Ⅲ-1-0	SK2 床	弥生 甕	14.6	(6.3)		にぶい橙色	貼付口縁か。口縁部, 上下にわずかに拡張。2条の凹線文。外面, ハケ。内面, ナデ。被熱変色。
〃	57	〃	〃	〃	12.5	(19.1)		橙色	貼付口縁。外面, ハケ。内面, ナデ。歪む。被熱変色。煤付着。
〃	58	〃	〃	〃	18.2	(4.6)		にぶい褐色	口縁部下端, 刻目。微隆起突帯・櫛描直線文。内外面, ナデ。仁淀川流域からの搬入品。
〃	59	〃	SK2 床	弥生 底部		(2.0)	5.8	〃	やや上げ底。外面, ナデ。内面, 磨耗。煤付着。
〃	60	〃	SK2	弥生 蓋	13.4	6.8	摘み径 4.8	明赤褐色	つまみ, 突出。貼付口縁。粘土帯外面, 指頭圧痕。内外面, ナデ, 指頭圧痕。黒斑。
Ⅲ-30	62	〃	SK9	弥生 壺	16.6	(9.8)		にぶい褐色	口縁部, 上下に拡張。3条の凹線文。頸部, 3条の凹線文。外面, ミガキ。内面, ナデ。
Ⅲ-31	63	〃	SK12 床	〃	15.1	27.6	6.2	にぶい橙色	貼付口縁。粘土帯外面, 弱い指頭圧痕。外面, ミガキ。内面, ナデ。砂粒の移動痕跡有り。被熱変色。
〃	64	〃	〃	弥生 甕	11.3	(11.5)		にぶい黄橙色	貼付口縁。接合痕跡, ナデ消す。外面, ミガキ。内面, ナデ・ケズリか。被熱変色。煤付着。
〃	65	〃	SK13	〃	15.8	(18.5)		にぶい褐色	貼付口縁。粘土帯外面, 弱い指頭圧痕。口唇部, 面取り。頸胴部境, 竹管文・櫛描直線文。頸部外面, 縦方向のハケ。胴部, 横方向のハケ。口縁部内面, ハケ。体部, ナデ。頸部内面, 粘土接合痕。煤付着。
〃	66	〃	〃	〃	13.2	(4.5)		灰褐色	口縁端部, つまみ上げ。2条の凹線文。外面, ミガキ。内面, ナデ。被熱変色。搬入品か。
〃	67	〃	〃	弥生 底部		(7.2)	5.9	にぶい褐色	わずかに上げ底。磨耗, 調整等観不明瞭。被熱変色。
Ⅲ-32	68	〃	SK15 中層	弥生 甕	14.2	(13.3)		〃	貼付口縁。粘土帯外面, 指押さえ後ヨコナデ。口唇部, 面取り。頸部外面, ヨコナデ。体部, ハケ。口縁部内面, ヨコハケ。体部, ナデ。頸胴部, 竹管文・櫛描直線文・刻目。
Ⅲ-33	69	Ⅲ-1-2	SK1 上層 II層	弥生 壺	22.4	(13.3)		浅黄橙色	口唇部, ハケ状原体による面取り。内外面, ハケ。
〃	70	〃	SK1 下層	〃	15.4	(17.8)		にぶい橙色	貼付口縁。粘土帯外面, 指押さえ後ヨコナデ。口唇部, 拡張。竹管文・刻目。竹管文・櫛描直線文・櫛描波状文。外面, ミガキ。内面, ナデ。被熱変色。
〃	71	〃	〃	弥生 底部		(19.8)	7.4	〃	平底。外面, ミガキ。内面, ナデ。
〃	72	〃	SK1 上層	弥生 水差形		(16.5)		浅黄橙色	横方向の取手。2段の刺突文。磨耗, 調整等不明瞭。内面上半, ナデ。下半, ケズリ。
Ⅲ-34	73	〃	SK2 SK7 SK14	弥生 甕	18.5	(16.5)		にぶい橙色	口縁部, 下方へ拡張。2条の凹線文。口縁部外面, 櫛描直線文。頸胴部から上胴部, 竹管文・櫛描直線文・刻目。口縁部外面, ナデ。内面, ハケ。体部外面, ミガキ。内面, ナデ。南四国型と凹線文系の折衷。
〃	74	〃	SK2 下層	弥生 壺	18.2	(11.2)		灰黄褐色	貼付口縁か。外面, ハケ。内面, ナデ。頸胴部境に竹管文を施した浮文。
〃	75	〃	SK2	弥生 甕		(14.2)		黒褐色	頸胴部境, 櫛描直線文・櫛描簾状文。外面, ヘラナデ・ハケ・。内面, ナデ。被熱変色。煤付着。
〃	76	〃	SK2 下層	〃	12.0	(10.9)		にぶい黄橙色	口縁部上方へ拡張, 内傾。2条の凹線文か。外面, ナデか。内面, ケズリ。体部, 穿孔か。煤付着。搬入品。
〃	77	〃	SK19 I層	〃	13.8	(5.0)		にぶい黄褐色	口縁部, 上方へ拡張。2条の凹線文。外面, ナデ。内面, ケズリ。煤付着。
〃	78	〃	〃	弥生 蓋	11.7	5.6	摘み径 4.4	浅黄橙色	つまみ, 上面, 凹む。磨耗, 調整等不明瞭。内外面, ナデか。黒斑。煤付着。

挿図 番号	図版 番号	調査区	出土場所 (遺構)	器種 器形	法量 (cm)			色調 (外面)	特徴
					口径	器高	底径		
Ⅲ-35	79	Ⅲ-1-2	SK4	弥生壺	11.0	17.0	5.1	にぶい橙色	貼付口縁。粘土帯, 指押え後ヨコナデ。口唇部, 面取り, 斜格子文。竹管文・櫛描直線文・櫛描波状文。内外面, ナデ。黒斑。残存率, 良好。
〃	80	〃	〃	〃		(9.2)		黄灰色	楕円形浮文・櫛描直線文・刻目。仁淀川流域からの搬入品。
〃	81	〃	〃	〃		(13.4)	7.0	にぶい黄橙色	上げ底。5条1単位の櫛描直線文, 3単位以上。外面, ミガキ。内面, ナデ。器壁, 厚い。黒斑。
〃	82	〃	SK13	弥生甕	15.4	(6.6)		橙色	貼付口縁。粘土帯, 指押え後ヨコナデ。口縁下端, 刻み。外面, ヨコハケ。内面, ナデ。煤付着。
Ⅲ-36	83	〃	SK14	弥生壺	4.6	(7.7)		灰白色	袋状口縁。口縁端部, 刻目。楕円形浮文・櫛描直線文。内外面, ナデ。煤付着。仁淀川流域からの搬入品か。
〃	84	〃	〃	〃	14.3	(15.0)		橙色	口唇部, 刻目。内外面, ナデ。
〃	85	〃	〃	弥生甕	15.2	(14.3)		にぶい黄橙色	貼付口縁。粘土帯外面, 指頭圧痕。口唇部, 面取り。内外面, ナデ。被熱変色。煤付着。仁淀川流域からの搬入品。
〃	86	〃	〃	〃	16.5	(4.3)		灰褐色	口縁上端, つまみ上げ。外面, ハケ。内面, ナデ。煤付着。
〃	87	〃	〃	〃	17.2	(4.8)		浅黄橙色	口縁部, 上方へ拡張。2条の凹線文。内外面, ナデ。煤付着。
〃	88	〃	〃	弥生高杯	24.0	(5.4)		にぶい橙色	口縁部, 直立。口縁端部, 面取り。口縁部外面, 2条の凹線文。外面, ミガキ。内面, ミガキか。
〃	89	〃	〃	〃		(12.3)	10.0	橙色	脚端部, 上方へ拡張。2条の凹線文。6~8条の沈線。ヘラ描きによる矢印状の文様。山形文。円孔。外面, ミガキか。内面, ケズリ。黒斑。
Ⅲ-39	93	Ⅲ-1-5	SK35 I層	弥生壺	14.2	(5.8)		黄橙色	口縁端部, つまみ上げ尖らせる。磨耗, 調整等不明瞭。内面, ナデ。
〃	94	〃	SK35 II層	弥生高杯	20.6	(9.4)		橙色	口縁部外面, 3条の凹線文。外面, ミガキ。内面, 磨耗。調整等不明瞭。口縁部内面, 剥離。被熱変色。
〃	95	〃	〃	ミニチュア		(6.3)	4.0	灰黄褐色	外面, ハケ。内面, ナデ。黒斑。煤付着。
Ⅲ-40	96	Ⅲ-1-1	SK41	弥生甕	16.8	(18.1)		にぶい黄橙色	口縁部, 「く」の字状。体部外面, ケズリ。内面上半, ナデ。下半, ケズリ。上胴部, 穿孔。黒斑。
Ⅲ-41	97	〃	SK51	弥生蓋	8.2	(4.1)	4.4	黒色	笠部は小さい。つまみ, 円柱状。外面, 粘土接合痕。内外面, ナデ。雑な作り。
〃	98	〃	SK52	弥生壺	18.0	(25.5)	9.8	浅黄橙色	貼付口縁。粘土帯外面, 指頭圧痕。口唇部, 面取り, つまみ上げ。下端, 刻目。底部, 丸みを持った平底。器面が荒れているため, 調整等不明瞭。
〃	99	〃	〃	弥生高杯		(4.5)	8.8	明褐色	脚端部をつまみ出し, 2条の凹線文。外面, 磨耗, 調整等不明瞭。内面, ケズリ。搬入品。
Ⅲ-43	103	Ⅲ-1-4	SK61	弥生壺	27.5	65.7	9.8	橙色	大型壺。貼付口縁。粘土帯外面, 指頭圧痕。口唇部, 面取り。凹線文か。体部外面, ハケ後ミガキ。口縁部内面, ハケ。体部, ナデ。残存率, 良好。
Ⅲ-44	104	〃	〃	〃	10.4	39.9	7.4	にぶい黄橙色	貼付口縁。粘土帯外面, 指頭圧痕。磨耗, 調整等不明瞭。内外面, ナデか。器壁は薄い。黒斑。おこげ付着。
〃	105	〃	SK61 III層	〃	8.8	22.8	5.5	浅黄橙色	上げ底。体部, 球形。内外面, ナデ。煤付着。
〃	106	〃	SK61	弥生底部		(20.5)	7.0	〃	底端部, 直立。平底。外面, ハケ・ナデ。内面, ナデ。黒斑。
〃	107	〃	SK61 III層	弥生甕	14.3	(26.9)		橙色	貼付口縁。粘土帯外面, 指頭圧痕。口唇部, 面取り。端部, つまみ上げ。頸胴部境, 櫛描直線文。外面, ケズリ後ミガキ。内面, ナデ。器面, 凹凸有り。

挿図 番号	図版 番号	調査区	出土場所 (遺構)	器種 器形	法量 (cm)			色調 (外面)	特徴
					口径	器高	底径		
Ⅲ-44	108	Ⅲ-1-4	SK61	弥生甕	15.7	27.7	5.9	にぶい黄橙色	貼付口縁。粘土帯, 指押え後ヨコナデ。口唇部, 面取り。下端, 刻目。頸胴部境, 櫛描直線文。外面, ハケ。口縁部内面, ハケ。体部内面, ナデ。被熱変色。煤付着。
〃	109	〃	SK61 Ⅲ層	〃	16.9	(12.4)		にぶい橙色	口唇部, 面取り。上胴部, 刺突文。磨耗, 調整等不明瞭。頸部外面, ハケ。口縁部内面, ハケか。体部, ナデ。
〃	110	〃	〃	〃	16.4	(12.4)		〃	口縁部, 面取り。口縁上端, つまみ上げ。下端, 刻目。内外面, ナデ。被熱変色。煤付着。
〃	111	〃	〃	〃	20.0	(15.6)		黄褐色	貼付口縁。口唇部, 強いヨコナデ。凹面状。上端, つまみ上げ。下端, 刻目。口縁部, 微隆起突帯・櫛描直線文。頸胴部境~上胴部, 櫛描直線文・楕円形浮文・刻目。内外面, ナデ。煤付着。仁淀川流域からの搬入品。
〃	112	〃	〃	〃	14.4	(12.7)		にぶい黄橙色	口縁部, 上方へ拡張。2条の凹線文。外面, ハケ。下半, ハケ後ミガキ。内面上半, ナデ。下半, ケズリ。煤付着。
〃	113	〃	〃	〃	14.0	(9.3)		橙色	貼付口縁。粘土帯外面, 指押え後ヨコナデ。口唇部, 面取り。上端, つまみ上げる。磨耗, 調整等不明瞭。頸部外面, 縦方向のヘラナデ。内面, ナデ。被熱変色。
〃	114	〃	〃	弥生高杯	22.0	(5.6)		〃	口縁部, 内傾。3条の凹線文。口唇部, 面取り。内外面, ミガキ。黒斑。煤付着。
〃	115	〃	〃	弥生高杯脚		(7.3)	15.7	〃	脚端部, 拡張。3条の凹線文。櫛描直線文・列点文。内外面, ナデ。煤付着。
〃	116	〃	〃	〃		(13.8)		にぶい黄橙色	外面, ミガキ。内面, ケズリ。裾部, 円孔。円盤充填。被熱変色。煤付着。
Ⅲ-45	118	Ⅲ-1-0	SD3	弥生甕	18.8	(8.3)		〃	貼付口縁。粘土帯外面, 指頭圧痕。体部外面, ハケ。口頸部内面, ハケ。体部, ナデ。煤付着。
〃	119	〃	〃	〃	21.4	(12.3)		浅黄橙色	貼付口縁。粘土帯外面, 指頭圧痕。口唇部, 面取り。下端, 刻み。頸胴部, 浮文・突帯・刻目。磨耗, 調整等不明瞭。煤付着。
〃	120	〃	〃	〃	12.0	(6.1)		にぶい褐色	口縁部, 上方へ拡張。2条の凹線文。外面, ハケ後ミガキ。内面, ナデ。煤付着。搬入品。
〃	121	〃	〃	〃	18.5	(8.8)		橙色	口縁部, 上方へ拡張。2条の凹線文。磨耗, 調整等不明瞭。
〃	122	〃	〃	弥生鉢	27.7	(7.2)		にぶい橙色	口唇部, 面取り。断面三角形の貼り付け突帯。穿孔。磨耗, 調整等不明。図7と同一個体か。
Ⅲ-47	123	Ⅲ-1-1	遺構外 (南 TR)	弥生甕か	21.0	(2.6)		灰白色	口縁部, 外反。口唇部, 面取り。口縁部からやや下がった位置に突帯。口唇部下端から突帯に刻目。内外面, ナデ。
〃	124	〃	遺構外 (包含層)	縄文浅鉢	25.7	(4.6)		にぶい黄橙色	外面, ミガキ。内面, ナデ。穿孔。砂粒を多く含む。
〃	125	Ⅲ-1-0	遺構外 (I・Ⅲ層)	弥生高杯		(11.2)	12.0	〃	脚端部, 強いヨコナデ, 凹面状。外面, 6条の沈線文。未貫通の三角形透孔。内面, ケズリ。
〃	126	〃	遺構外 (包含層)	土師器高杯		(4.4)		橙色	磨耗, 調整等不明瞭。

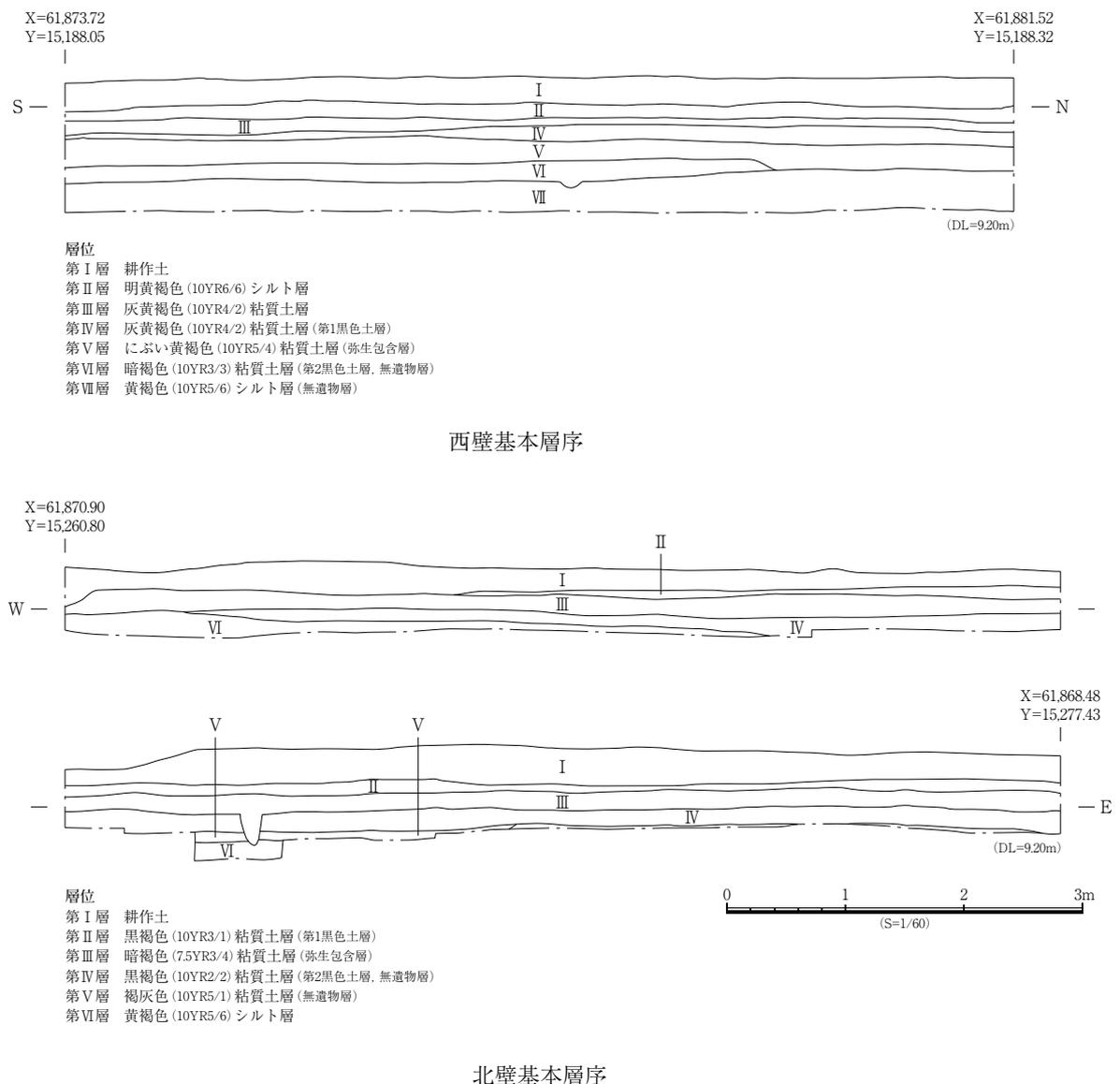
Ⅲ-1区 出土遺物(石器) 観察表

挿図 番号	図版 番号	調査区	出土場所 (遺構)	器種 器形	法量 (cm・g)				石材	特徴
					全長	全幅	全厚	重量		
Ⅲ-7	13	Ⅲ-1-4	ST2 床	台石	37.7	31.6	8.9	14.5kg	砂岩	扁平な不整形の川原石を利用。使用により平滑となった部分がある。完存。
〃	14	〃	〃	石斧	2.7	2.6	0.6	(7.3)	結晶片岩	扁平片刃石斧。刃部の一部、欠損。基部はやや丸みを帯びる。横断面、台形～平行四辺形。
Ⅲ-9	29	Ⅲ-1-1	ST3 床	不明 石製品	8.8	4.7	1.9	(113)	玄武岩/ 石灰岩	欠損。横断面、長楕円形。両面、研磨。敲打痕。石鎌か。
〃	30	〃	ST3 I層	石鎌	3.0	1.1	0.3	(0.87)	粘板岩	磨製石鎌。基部、欠損後、研磨。縁辺、研磨。未研磨部有り。
Ⅲ-11	39	〃	ST4 中央P	石包丁	9.3	5.4	1.2	77.0	砂岩	表面、主要剥離面を残す。裏面、自然面。調整剥離。片刃。完存。
〃	40	〃	〃	叩石	10.2	6.2	2.9	(259)	チャート	歪な川原石を使用。両端、敲打により欠損。
Ⅲ-13	43	Ⅲ-1-0	ST6	石鎌	4.8	2.3	0.5	4.8	サヌカイト	大型。凹基式打製石鎌。基部の扱りはきわめて小さい。両面とも剥離面を残す。縁辺、調整剥離。ほぼ完存。
Ⅲ-29	61	〃	SK2 床	石錐	2.7	1.4	0.3	0.76	〃	打製石錐。調整剥離。完存。
Ⅲ-36	90	Ⅲ-1-2	SK14	叩石	12.6	4.3	3.1	268	砂岩	乳棒状。両端・側面・片面に敲打痕。完存。
Ⅲ-38	91	Ⅲ-1-3	SK21 II層	不明 石器	8.5	5.0	1.9	(84.0)	〃	表面、主要剥離面を残す。裏面、自然面。欠損。被熱変色。
〃	92	〃	SK22 II層	石斧 か	14.0	6.4	4.4	(755)	御荷鉾緑色岩	両端、欠損。研磨するが、一部は敲打痕・自然面。被熱変色。
Ⅲ-43	100	Ⅲ-1-4	SK60	石包丁	8.6	4.2	1.0	61.0	粘板岩	磨製石包丁。隅丸長方形。片刃。1穴。両面から穿孔。背部・側辺、調整剥離痕。完存。
〃	101	〃	〃	〃	9.4	4.8	1.2	65.0	頁岩	打製石包丁か。両面とも軽く磨く。片刃。短辺に紐掛け用の扱ひ。ほぼ完存。
〃	102	〃	〃	叩石	10.4	5.5	2.6	251	砂岩	扁平な細長い川原石を使用。先端部、側面に敲打痕。完存。
Ⅲ-44	117	〃	SK61 III層	石包丁	11.2	4.4	0.9	(61.0)	結晶片岩	打製石包丁か。表面、主要剥離面を残す。裏面、自然面。一方の短辺に紐掛け用の扱ひ。未成品か、製作途中で欠損品か。
Ⅲ-47	127	Ⅲ-1-0	遺構外 (IV層)	石斧	4.3	3.4	0.6	(11.1)	粘板岩	扁平片刃石斧。大部分、欠損。横断面、台形。刃部、欠損後、研磨するがシャープさに欠ける。
〃	128	〃	〃	石鎌	2.7	1.6	0.3	0.9	サヌカイト	凹基式の打製石鎌。鎌身中央、凹む。両面とも、剥離面を残す。縁辺、調整剥離。薄い。完存。

## 7. Ⅲ-2区

### 1. 調査区の概要

調査対象地の東部を南北に流れる田村川の東側に展開する東西に長い調査区である。東西の延長104m、南北は東部で30m、西部で20m程を測る。農道を挟んで北側にはⅢ-1区が位置する。調査前は主に水田であり東北隅に墓地があり改葬の掘削がなされていた。耕作土面の標高は東端で9.6m、西端で9.4m僅かに西に向かって傾斜している。また遺構検出面の標高は、東端で9.0m、西端で8.6mを測る。Ⅲ-2区からは弥生時代の竪穴建物2軒、掘立柱建物5棟、土坑31基、溝2条、ピットが検出されている。中期末に属するものがほとんどである。他の時代の遺構・遺物は認められない。



- 層位
- 第Ⅰ層 耕作土
  - 第Ⅱ層 明黄褐色(10YR6/6)シルト層
  - 第Ⅲ層 灰黄褐色(10YR4/2)粘質土層
  - 第Ⅳ層 灰黄褐色(10YR4/2)粘質土層(第1黒色土層)
  - 第Ⅴ層 にぶい黄褐色(10YR5/4)粘質土層(弥生包含層)
  - 第Ⅵ層 暗褐色(10YR3/3)粘質土層(第2黒色土層、無遺物層)
  - 第Ⅶ層 黄褐色(10YR5/6)シルト層(無遺物層)

- 層位
- 第Ⅰ層 耕作土
  - 第Ⅱ層 黒褐色(10YR3/1)粘質土層(第1黒色土層)
  - 第Ⅲ層 暗褐色(7.5YR3/4)粘質土層(弥生包含層)
  - 第Ⅳ層 黒褐色(10YR2/2)粘質土層(第2黒色土層、無遺物層)
  - 第Ⅴ層 褐灰色(10YR5/1)粘質土層(無遺物層)
  - 第Ⅵ層 黄褐色(10YR5/6)シルト層

## 2. 基本層序

調査区の西端壁と東よりの北壁で観察した層序を図示した(図Ⅲ-48)。

### 西壁基本層序

第Ⅰ層：現耕作土で層厚20～25cmである。

第Ⅱ層：明黄褐色(10YR6/6)シルト層で層厚は10～15cmである。

第Ⅲ層：灰黄褐色(10YR4/2)粘質土層で層厚は6～13cmである。

第Ⅳ層：灰黄褐色(10YR4/2)粘質土層(第1黒色土層)で層厚は5～10cmである。

第Ⅴ層：にぶい黄褐色(10YR5/4)粘質土層で層厚は20cm前後である。弥生土器の包含層である。

第Ⅵ層：暗褐色(10YR3/3)粘質土層(第2黒色土層)で層厚は0～18cmである。弥生時代中期の遺構検出面である。無遺物層である。

第Ⅶ層：黄褐色(10YR5/6)シルト層で層厚は40cm以上である。無遺物層である。

### 北壁基本層序

第Ⅰ層：現耕作土で層厚は15～30cmである。

第Ⅱ層：黒褐色(10YR3/1)粘質土層(第1黒色土層)で層厚は0～10cmである。南壁の第Ⅳ層に対応する。西方では堆積の見られないところもある。

第Ⅲ層：暗褐色(7.5YR3/4)粘質土層で層厚は10～20cmである。弥生土器の包含層で南壁の第Ⅴ層に対応する。

第Ⅳ層：黒褐色(10YR2/2)粘質土層(第2黒色土層)で層厚は0～20cmである。南壁の第Ⅵ層に対応する。無遺物層である。

第Ⅴ層：灰褐色(10YR5/1)粘質土層で層厚は5cm前後である。部分的な堆積である。無遺物層である。

第Ⅵ層：黄褐色(10YR5/6)シルト層で層厚は20cm以上を測る。南壁の第Ⅶ層に対応する。

第Ⅵ層の下層には砂礫層が厚く堆積している。

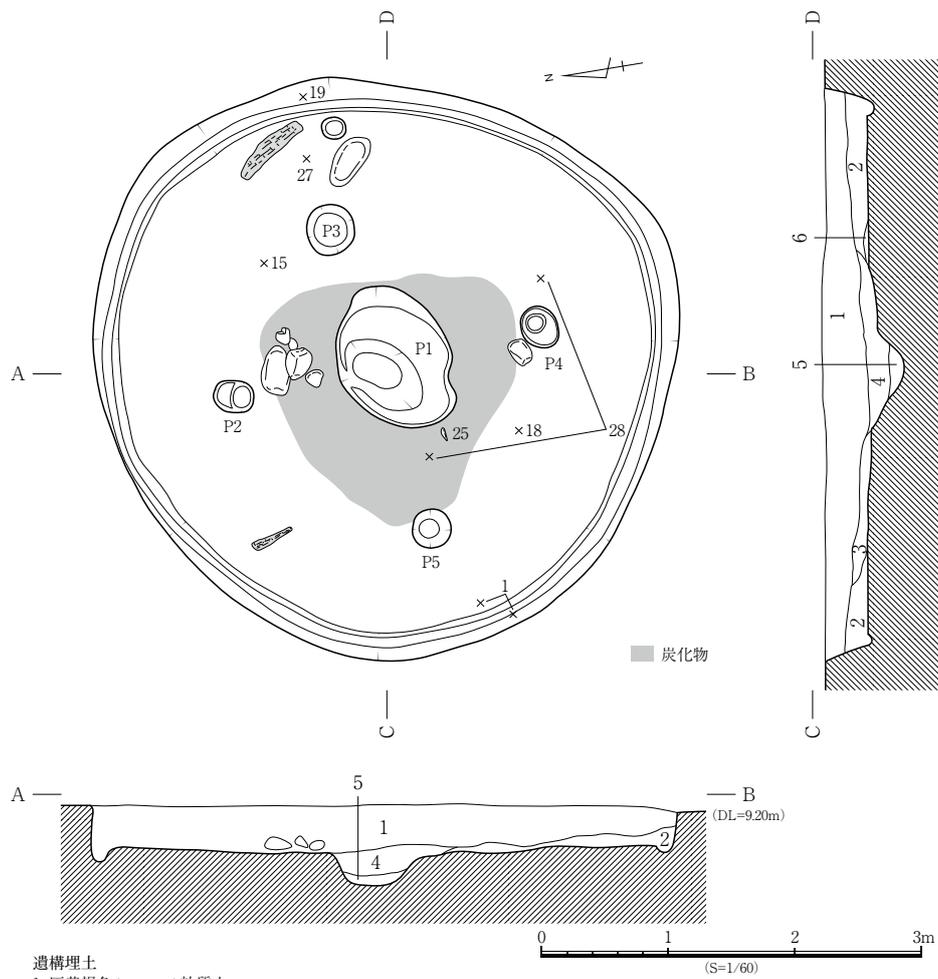
## 3. 検出遺構と遺物

### (1) 竪穴建物

#### ST1 (図Ⅲ-49～51)

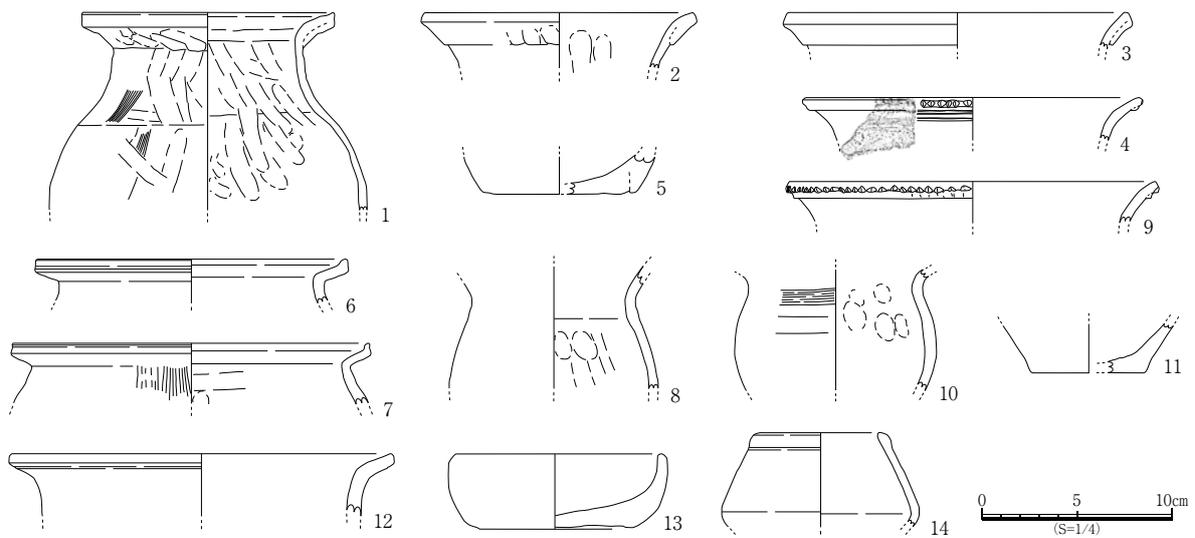
調査区の北東部に位置する。円形の竪穴建物で直径4.6m、面積16.6㎡を測り、床面までの深さは30cm前後である。埋土は図示したように1～6層に分かれるが1層が大半を占める。6層は床面の貼り床の可能性があり、4・5層はP1(中央ピット)埋土で炭化物を多く含んでいる。建物内の遺構は、壁溝、中央ピット(P1)、支柱穴4個(P2～5)を確認することができる。壁溝は幅8～15cm、床面からの深さ5～10cmを測り全周する。中央ピットは楕円形状を呈し二段に掘り込まれている。一段目は長軸1.2m、短軸0.9mで深さ5cm前後と浅く、その中に長軸74cm、短軸43cm、深さ30cmの二段目が掘られている。中央ピットの南北、西部の床面には炭化物の広がりが見られ、中央ピット付近の床面は固く締まっている。支柱穴は円形ないし楕円形を呈し長軸30～40cm、深さは15～30cmを測る。P4は径14cmの柱痕跡を確認することができた。柱穴間はP3-P4-P5-P2は1.8m、P2-P3は1.5mを測る。

遺物は上・中・下層及び床面と人工層位で取り上げた。中層に最も多く次いで下層から出土して



遺構埋土

1. 灰黄褐色(10YR4/2)粘質土
2. におい黄褐色(10YR4/3)粘質土に黄色・茶色粘質土のブロックを含む,マンガン粒を多く含む
3. 褐灰色(10YR5/1)粘質土に黄色シルトのブロックを含む
4. 褐灰色(10YR4/1)シルト,炭化物を含む
5. 褐灰黄色(10YR5/2)シルト-砂,炭化物を含む
6. 灰黄褐色(10YR6/2)シルト



図III-49 ST1 平面図・断面図・遺物実測図1

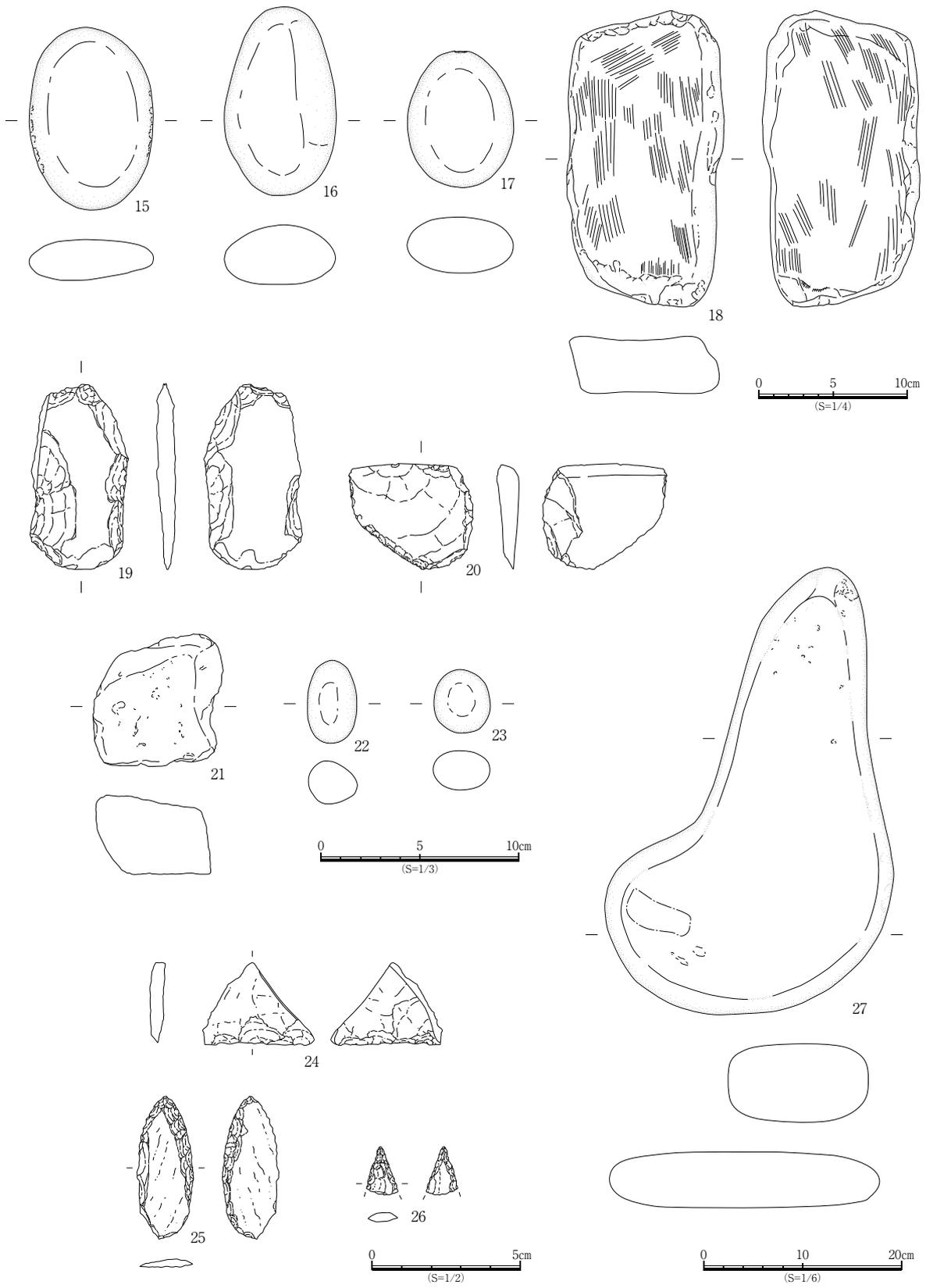
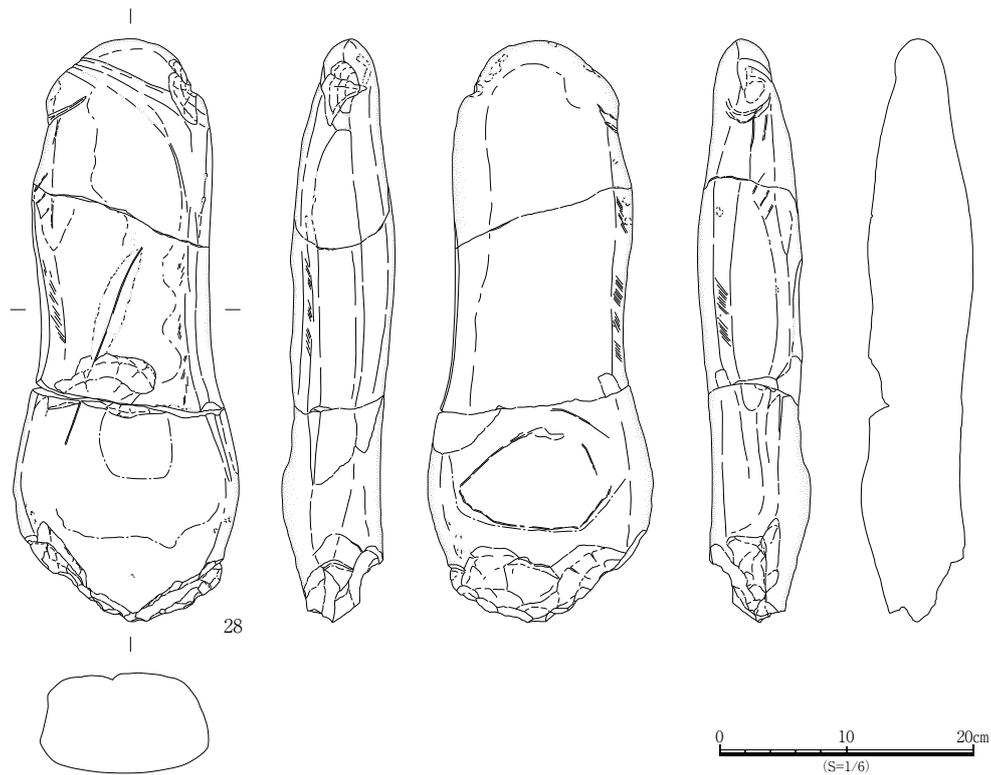


图 III - 50 ST1 遺物実測図 2



図Ⅲ-51 ST1 遺物実測図3

いる。土器は上層から甕(6), 中層から壺(2), 甕(9), 鉢(12), 底部(5・11), 下層から甕(7・8・10), 高杯(14), 床面から壺(1), 鉢(13)が出土している。この他中央ピット埋土から壺の口縁細片(3)が出土している。甕の6・7は瀬戸内タイプ, 4・9・10は南四国タイプである。7は搬入品である。壺の1~3は口縁外面に粘土帯を貼付した南四国タイプである。

石器は用途不明の石製品も含めて床面及び埋土中から比較的多く出土している。28は床面出土の陰陽石で, 図示したように基部と本体部分が1.7m離れて出土し接合したものである。正確には3つに割れているが, 本体側の破損は廃棄後に割れたもので, 基部側の破損は陰部下を強く敲打することによって意図的に割っていることが判る。基部は中央ピット脇, 本体部は南寄りの床面から出土している。扁平な砂岩の河原石を加工したもので全長46.8cm, 幅17.6cm, 厚さ8.5cmを測る。一方の主面に女陰と男根を成形している。前者は中央部に敲打による凹みと沈線で表現し長さ10cm, 最大幅2cm, 凹みの深さは5mmである。後者は敲打で成形後, 研磨でリアルに仕上げている。両側縁は強く研磨し曲線を描いている。基部は左右から敲打により尖らせていることから床面に突き立てて使用した可能性も考えられる。27は床面東部出土のパイプ状の平面形を有する石製品である。扁平な砂岩の河原石を加工したもので全長45.7cm, 最大幅29.8cm, 厚さ8.0cm, 重さ11.7kgを測る。側面の一部を研磨して面を造り出している。18は床面中央部出土のもので両主面及び一方の側面が研磨されている。この他にも特に加工痕は認められないが, 図示したように重さ10kg近い大型の河原石が床面から2点出土している。15~17・22・23は磨石とも考えられる大小の河原石である。図示した以外にも10数点出土している。チャートが一点見られるが他はすべて砂岩の河原石である。この他, 床面から

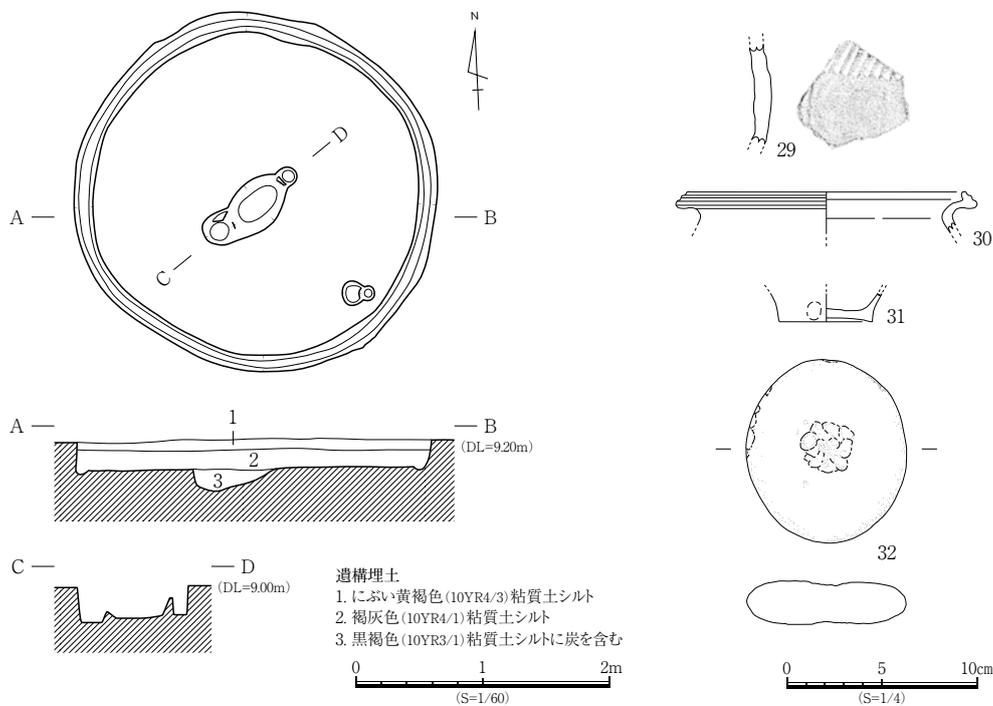
軽石(21), 打製石斧(19), 打製石器の一部(25), 埋土中層から削器(20), 打製石包丁刃部細片(24), P2から石鏃(26)が出土している。24・26はサヌカイト製, 19・20・25は頁岩製である。

ST1 出土遺物で注目されるのは陰陽石である。2つに分かれて出土していることから使用済みの竪穴建物に廃棄されたものと考えられるが, 他の河原石の出土状況などから当竪穴建物で使用された後, 意識的に敲打によって破壊され廃棄された可能性が高い。管見の限りではこのような陰陽石が弥生時代の竪穴建物から出土する例は極めて少ないが, 一般的には増殖, 繁栄などを願う祭祀行為を表す石製品と考えられている。他の用途不明の石製品とともにそのような行為がST1で営まれていたことを示唆している。祭祀的な性格を有した遺構として捉えることができよう。ST1は中期末に属する。

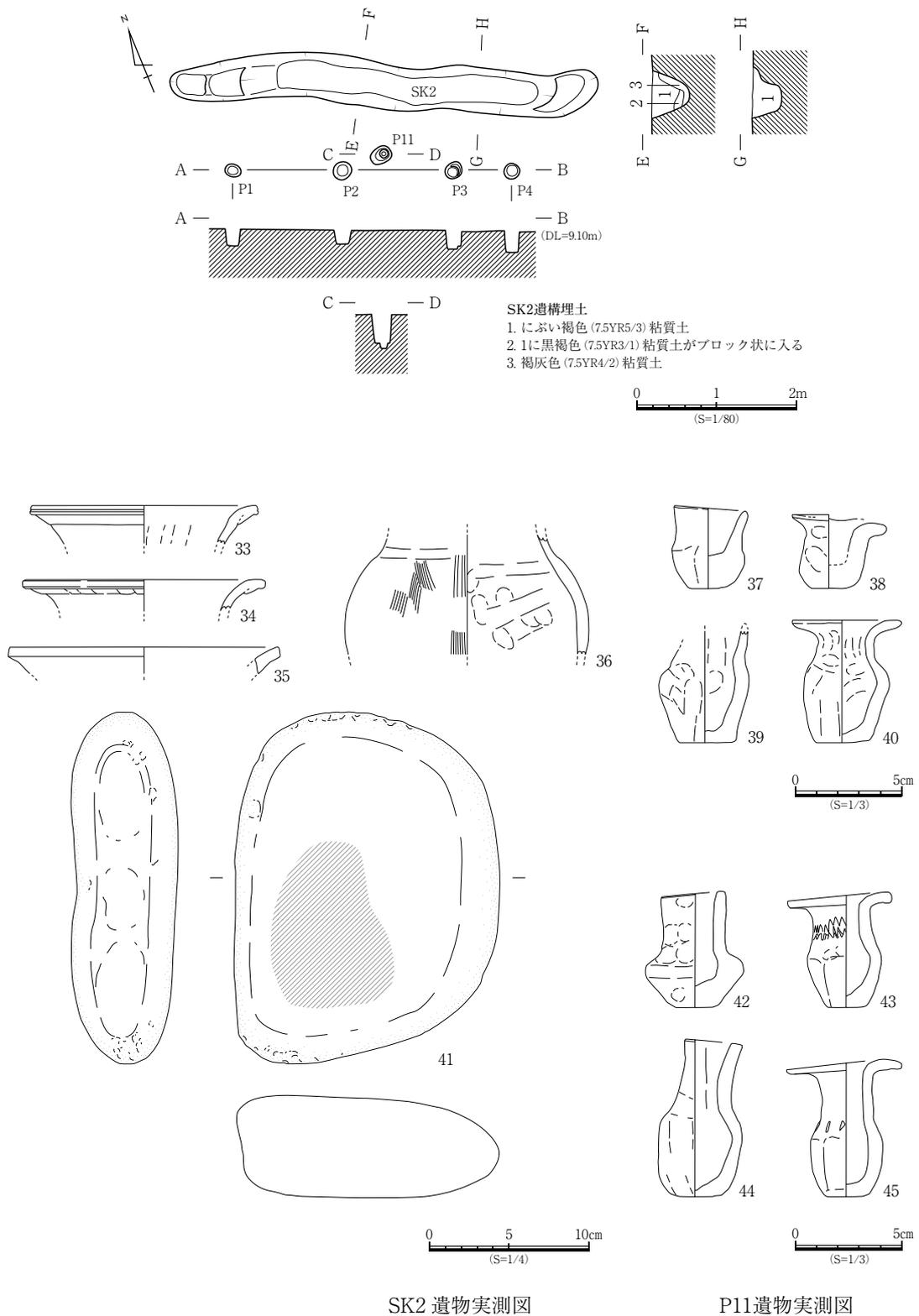
ちなみに, 田村遺跡群の傍らには「正次様」と呼ばれている祠が置かれている。もとは上田村字コギタガ内に鎮座していたものであるが, 空港拡張に伴って移動してきたものである。この祠の中には石製の男茎が御神体として安置されており今も地元の方々によって祭られている。

### ST2 (図Ⅲ-52)

調査区中央部の北壁に接するようにして検出した。円形で直径2.86m, 面積6.4㎡を測り, 床面までの深さは25~30cmを測る。埋土は3層に分かれる。床面には楕円形の中央ピットがあり両脇には小ピットが配されておりいわゆる松菊里型住居に似ている。床面東南部に小ピットが2つ見られる。幅15cm, 深さ5cm前後の壁溝が全周する。中央ピットは楕円形を呈し長軸0.6m, 短軸0.38m, 深さ25cmである。



図Ⅲ-52 ST2 平面図・断面図・エレベーション図・遺物実測図



図Ⅲ-53 SB1・SK2・P11 平面図・断面図・エレベーション図・遺物実測図

遺物は僅少である。土器は埋土中から甕口縁部(30), 同底部(31), 中央ピット埋土から壺胴部(29)が出土している。30は2条の凹線文が施され31の底部内面にはヘラケズリが認められる。32は埋土出土の叩石である。ST2は中期末に属する。

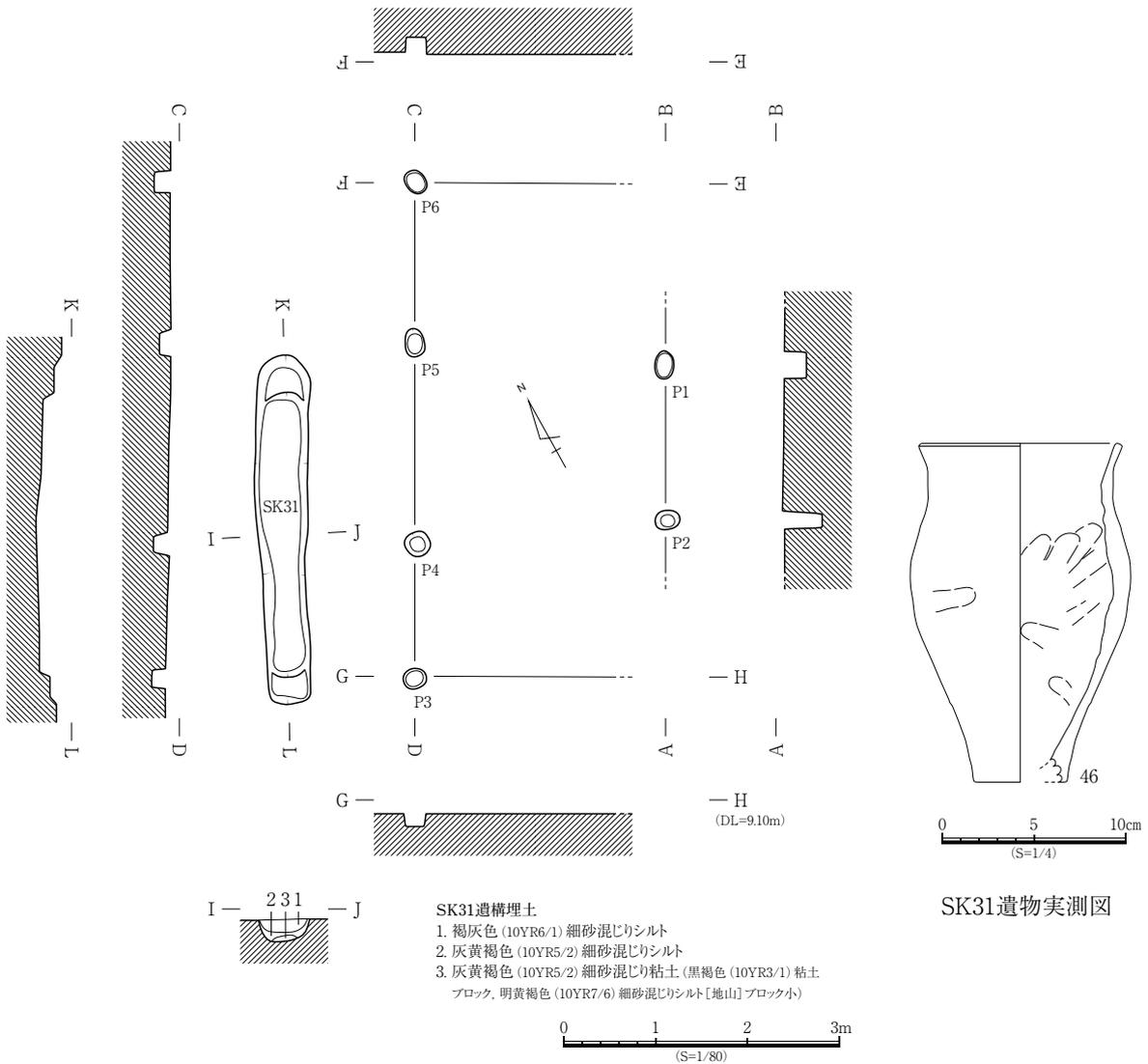
(2)掘立柱建物

SB1 (図Ⅲ-53)

調査区東南端に位置する。SK2に平行する4本の柱穴列をSB1とした。対応する柱穴列を示し得ないが、中期末に盛行する溝状土坑を伴う掘立柱建物として把握した。軸方向はN-22.5°-Eである。柱穴間距離はP1-P2が1.36m, P2-P3が1.4m, P3-P4が0.74mである。柱穴径は20cm前後、深さはP4が25cm, 他は20cm前後を測る。

SK2 (図Ⅲ-53)

SB1に伴う溝状土坑で長さ5.36m, 幅0.6m, 深さは20~40cmで両端が浅く中央部が深くなっている。



図Ⅲ-54 SB2・SK31 平面図・断面図・エレベーション図・遺物実測図

る。埋土は1～3層である。遺物は細片が多いがミニチュア土器が多く出土しているのが特徴である。33～35は壺口縁部で外面には粘土帯を貼付している。36は甕胴部で内面のヘラケズリをナデ消している。外面は激しく煤け被熱赤変している。37～40のミニチュア土器はすべて壺のミニチュアで、37と38の胎土は砂粒を混入していない。ミニチュア土器は下層から出土しており一括性が高い。41は砂岩の河原石である。一方の長側縁は研磨により平坦面をなし一方の主面の一部も激しく磨耗している。3,950gを測る。用途は不明であるが一般的な砥石とは別の用途が考えられる。石製品はこの他に図示し得なかったが500～4,000gを測る砂岩の河原石が出土している。

このSK2の南側肩にSB1と接するような位置にミニチュア土器4点(42～45)が出土したP11がある。SK2と関連があると考えられるのでここに記述する。P11は長軸24cm、短軸20cmの楕円形の小ピットで深さは43cmを測る。床には径10cmの柱痕跡が認められる。4点のミニチュア土器はすべて完形品で下～最下層から出土しており、柱を抜き取った後に意図的に投入されたものと考えられる。42と44は長頸壺、43と45は広口壺のミニチュアで43には櫛描波状文が、45には列点文が施されている。SB1とSK2、P11はそれぞれ有機的な関連を持った祭祀遺構として把握することができよう。

#### SB2 (図III-54)

調査区中央部北に位置し溝状土坑SK31を伴っている。SD2と重複しているが先後関係は不明である。3間(5.5m)×1間(2.7m)で軸方向はN-29°-E、面積は12.15㎡である。柱間はP1-P2が1.72m、P3-P4が1.5m、P4-P5が2.2m、P5-P6が1.8mである。柱穴規模は径20～25cmの円形ないし楕円形を呈し、深さはP2が40cmを測るが他は10～17cmである。

#### SK31 (図III-54)

SB2の西側1.1mに位置する。長軸3.8m、短軸0.6m、深さは10～25cmを測り、両端が浅く掘られている。埋土は1～3層からなり遺物は少ない。甕(46)を図示し得たのみである。南四国型甕であるが口縁部外面の貼付口縁は見られない。外面下半は煤け被熱赤変している。中期前葉の可能性がある。

#### SB3 (図III-55)

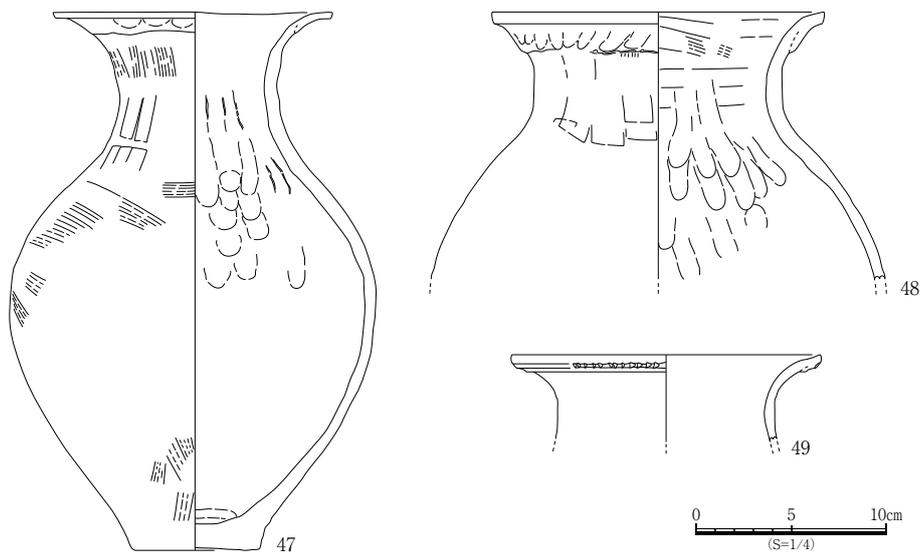
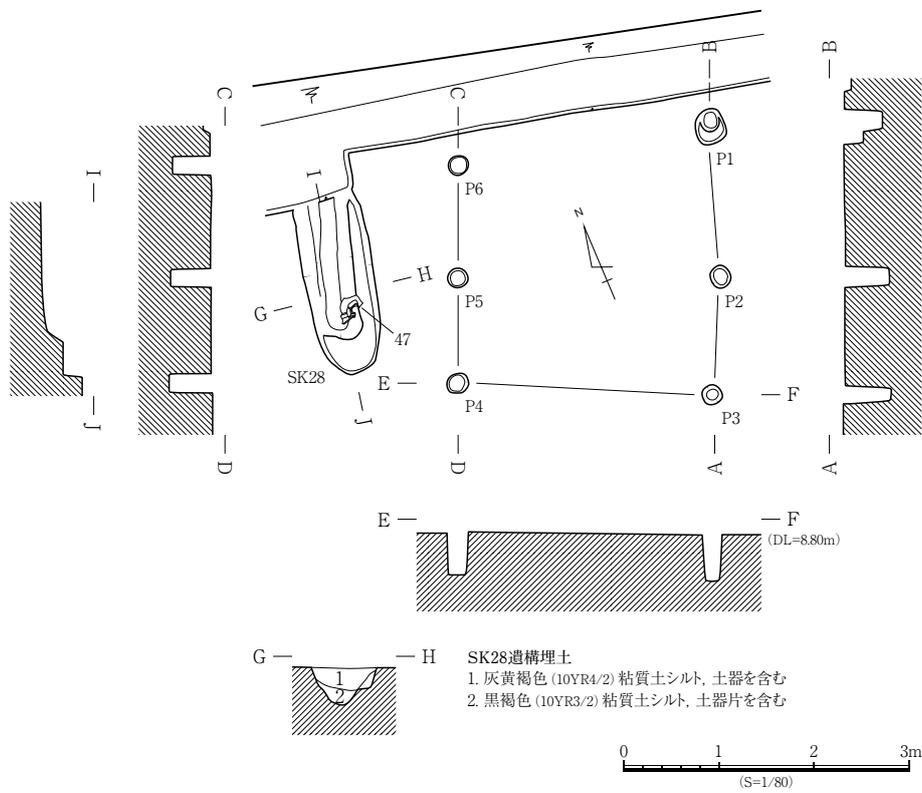
調査区の西北隅に位置し、溝状土坑SK28を伴っている。2間以上(2.4m以上)×1間(2.7m)を確認できるが、大部分は調査区外に出ている。軸方向はN-22°30'-Eである。P1-P2が1.7m、P2-P3が1.3m、P4-P5が1.1m、P5-P6が1.28mである。柱穴はP1が径40cmを測るが他は20cm前後の円形である。深さは何れも40cm前後と深く掘られている。P1は径15cm程の柱痕跡が認められる。

#### SK28 (図III-55)

大部分が調査区外に出ている。確認延長1.7m、幅0.68m、深さは20～40cmで南端部から東側壁が二段に掘られている。埋土は1・2層からなり埋土中から土器を中心に一定量の遺物が出土している。47・48は広口壺で口縁部外面には粘土帯を貼付している。49は甕で口縁部外面に微隆起帯を貼付し口唇部下端にはD字状の刻みを施している。

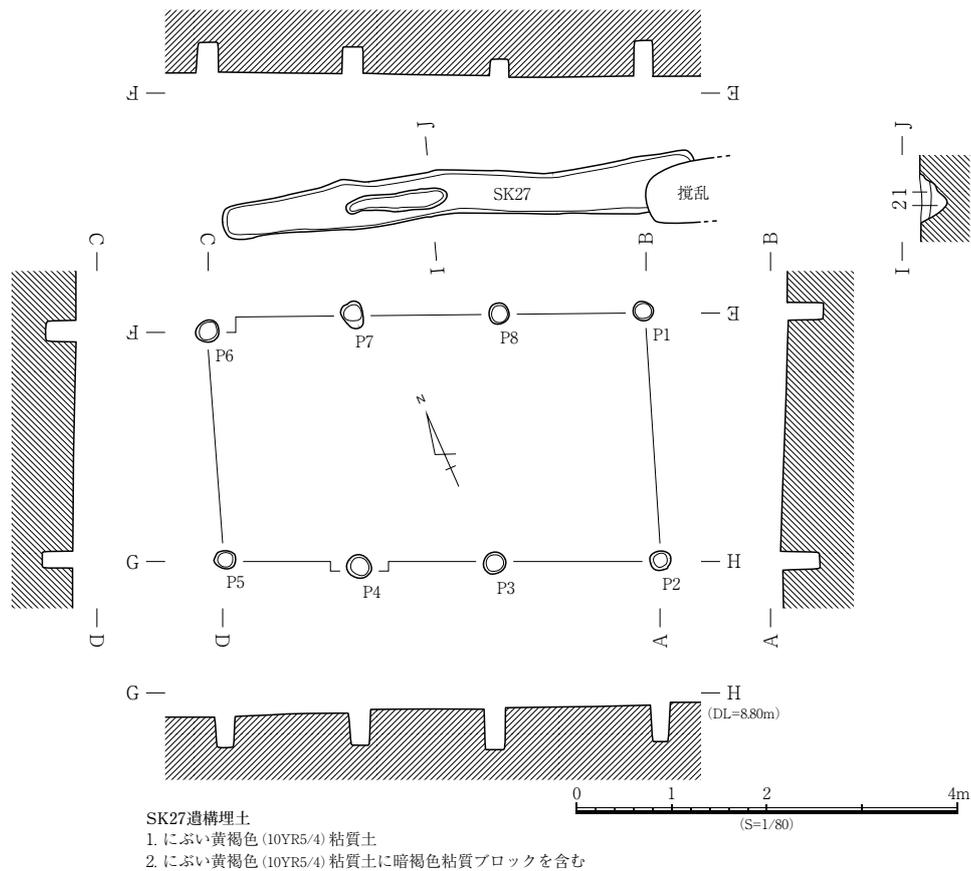
#### SB4 (図III-56)

調査区西南部に位置し溝状土坑SK27を伴っている。3間(4.5m)×1間(2.7m)で軸方向はN-24°-E、面積は12.6㎡である。柱間はP1-P2が2.7m、P2-P3が1.7m、P3-P4-P5が1.4m、P5-P6が2.5m、P6-P7-P8-P1が1.5mである。柱穴は概ね径20cm前後の円形を呈し深さは30～40cmである。



SK28遺物実測図

図Ⅲ-55 SB3・SK28 平面図・断面図・エレベーション図・遺物実測図



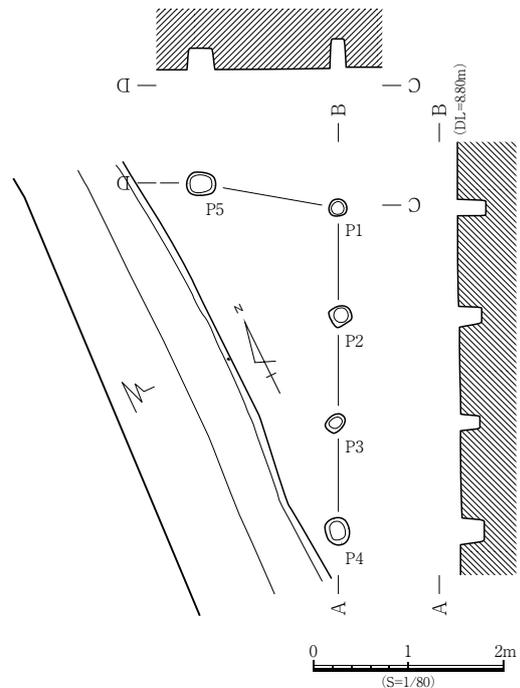
図Ⅲ-56 SB4・SK27 平面図・断面図・エレベーション図

**SK27 (図Ⅲ-56)**

SB4の北側1mに位置する。東端部が攪乱坑に切られているが長軸5.0m、幅0.55m、深さ20cmである。埋土は1・2層で、遺物は認められない。

**SB5 (図Ⅲ-57)**

調査区西端に位置する。大部分が調査区外に出ている。3間(3.42m)×1間(1.4m)分の柱穴列を確認した。軸方向はN-26°-Eを示している。柱間はP1-P2-P3-P4が1.14m、P1-P5が1.4mである。柱穴はP5が長軸30cmの楕円形であるが、他は径20cm内外の円形状を呈する。深さは20~30cmである。

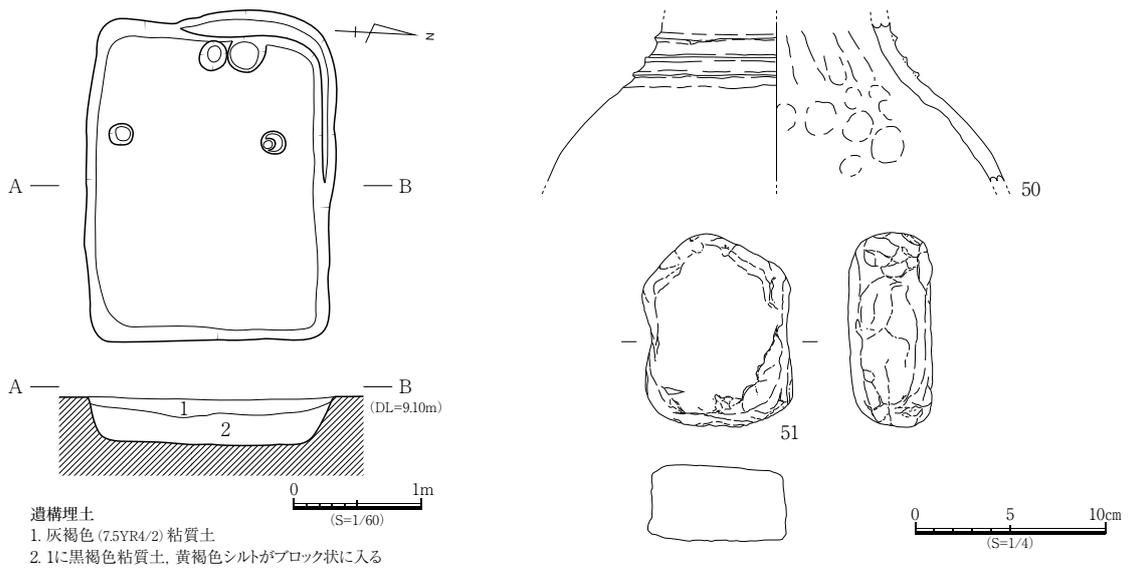


図Ⅲ-57 SB5 平面図・エレベーション図

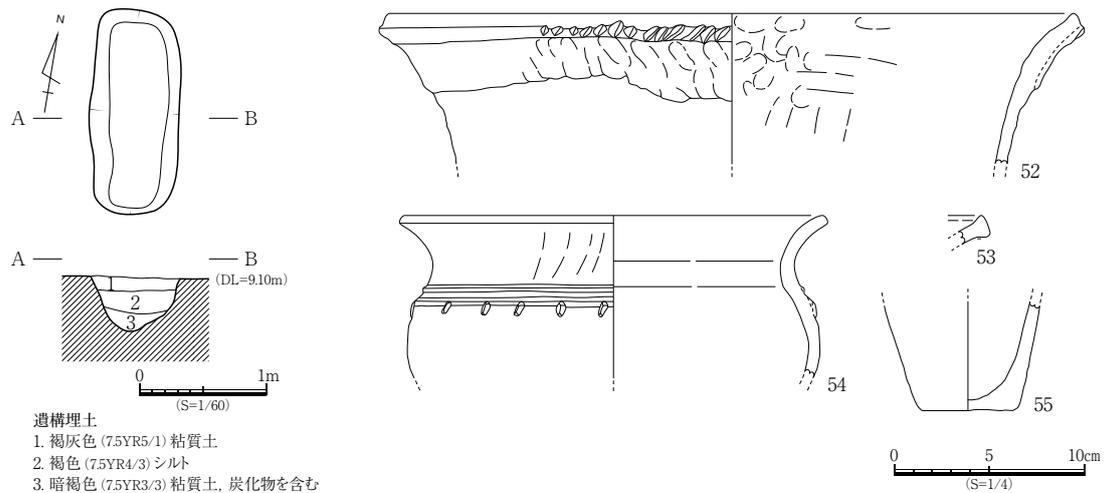
**(3)土坑**

**SK1 (図Ⅲ-58)**

調査区東南部に位置する。平面形は長方形を

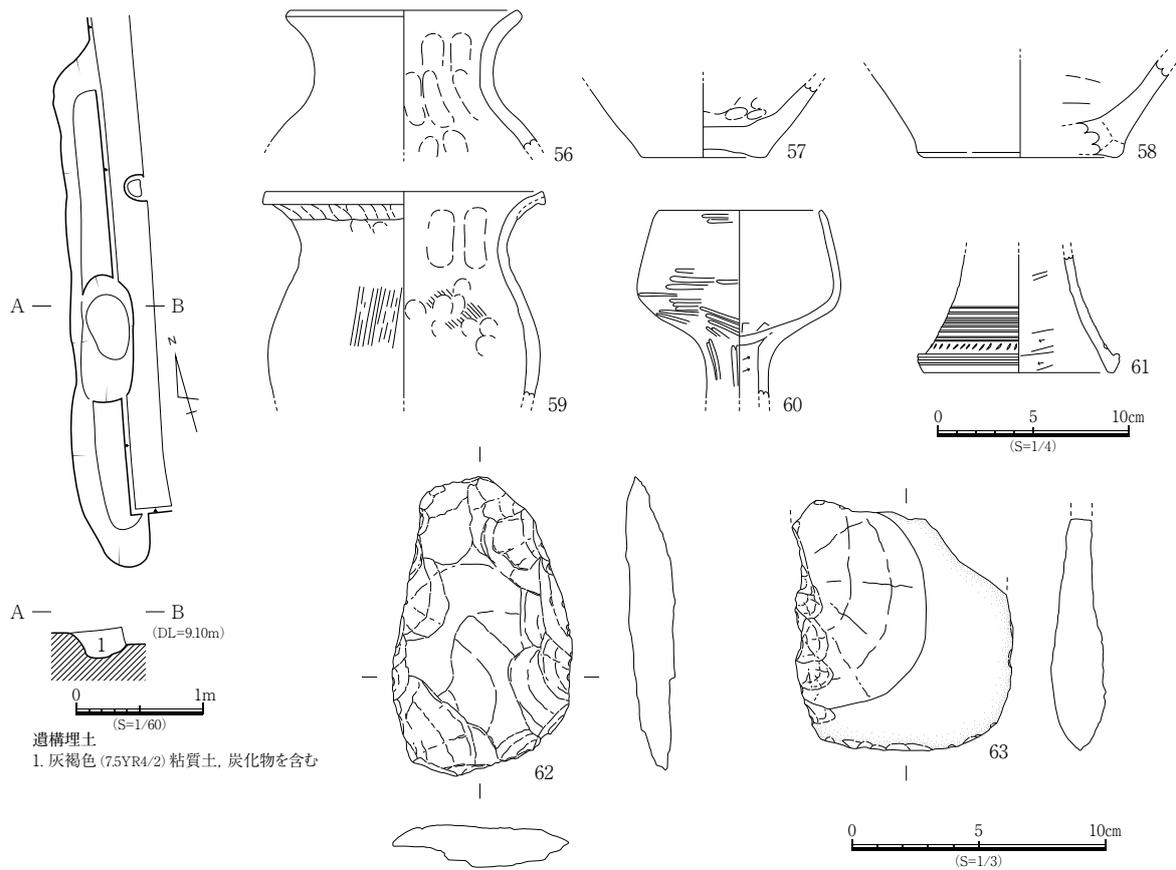


図Ⅲ-58 SK1 平面図・断面図・遺物実測図



図Ⅲ-59 SK3 平面図・断面図・遺物実測図

呈し長軸2.6m, 短軸1.9m, 深さ35cmを測る。西・北の壁の一部に幅4~20cmの平坦面がテラス状に巡る。埋土は1・2層からなる。床面は水平で4個の小ピットが西半分にある。遺物は埋土中から120点程の弥生中期土器片が出土しているが図示し得たのは壺胴部1点(50)である。上胴部に微隆起帯を3条まで確認することができる。51はチャートの石製品である。五角形状の平面形をなし稜線が磨耗によって丸くなっている。用途は不明である。SK1は中期中葉に属する。



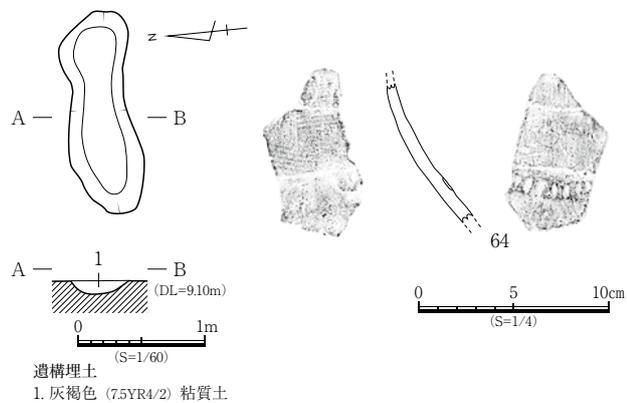
図III-60 SK4 平面図・断面図・遺物実測図

SK2 (図III-53)

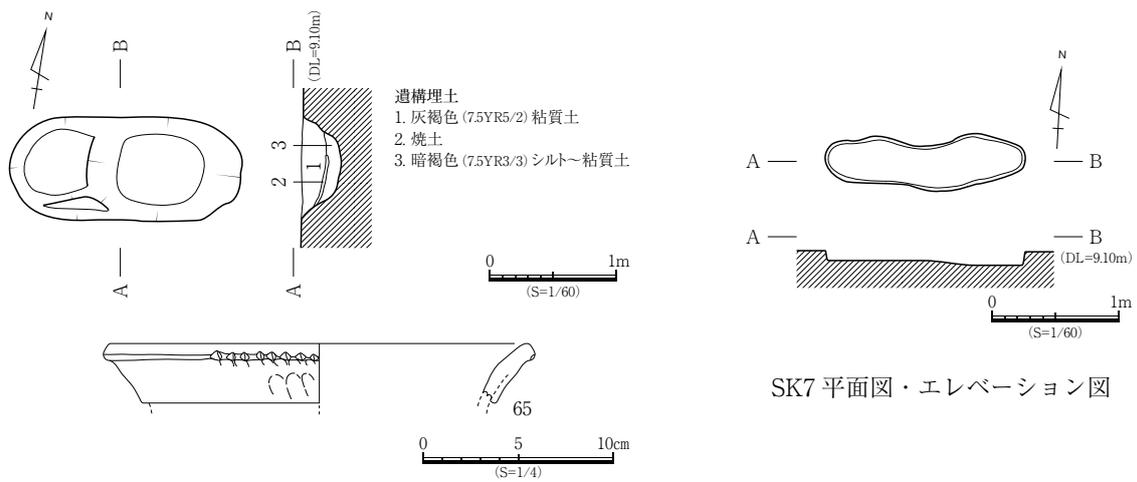
SB1とともに記載。

SK3 (図III-59)

調査区東端に位置する。平面形は隅丸長方形を呈し長軸1.6m, 短軸0.7m, 深さ44cmを測る。断面は船底状を呈する。埋土は1~3層である。遺物は少ないが中期土器4点を図示し得た。52は大型壺の口縁部で外面に幅広い粘土帯を貼付し下端に刻目を施す。53は甕口縁部細片である。54は甕で上胴部外面に2条の微隆起帯と棒状浮文を貼付している。胴部外面は激しく煤けている。55は甕底部で外面は被熱赤変している。52・53は3層, 他は2層出土である。SK3は中期中葉に属する。

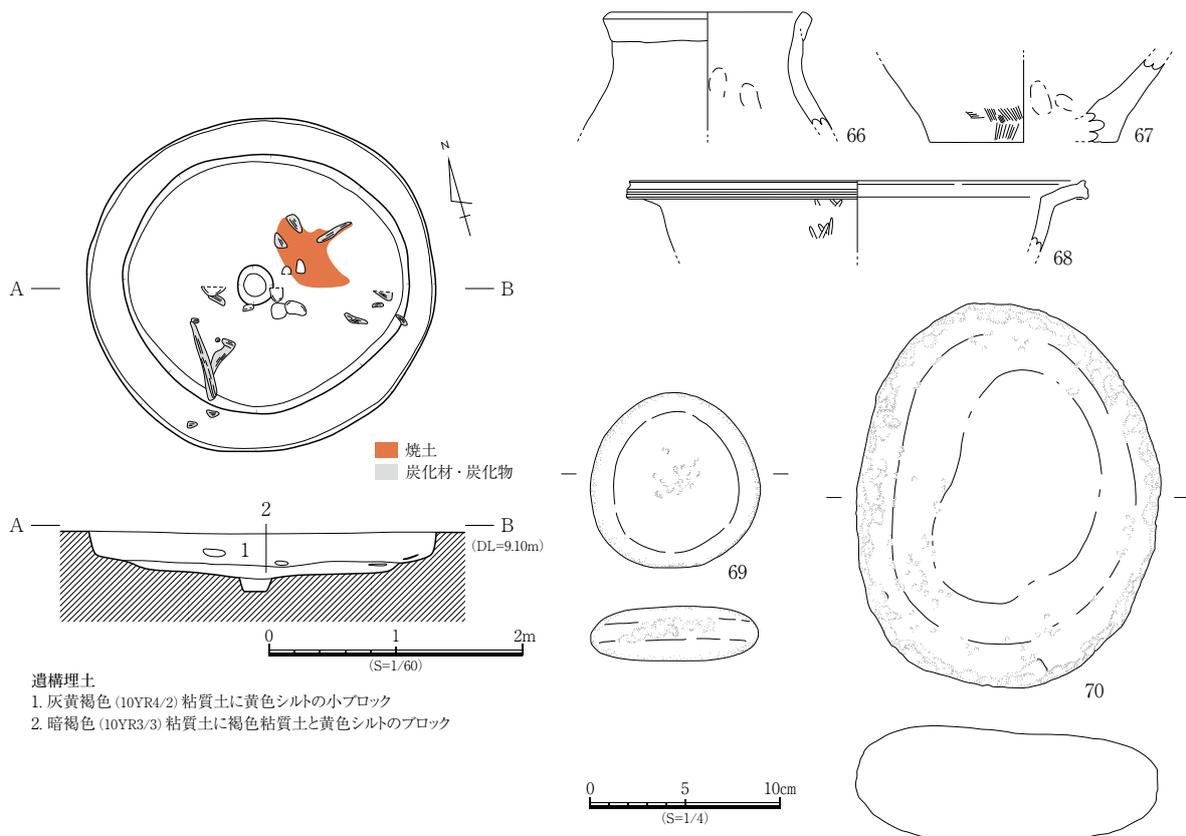


図III-61 SK5 平面図・断面図・遺物実測図

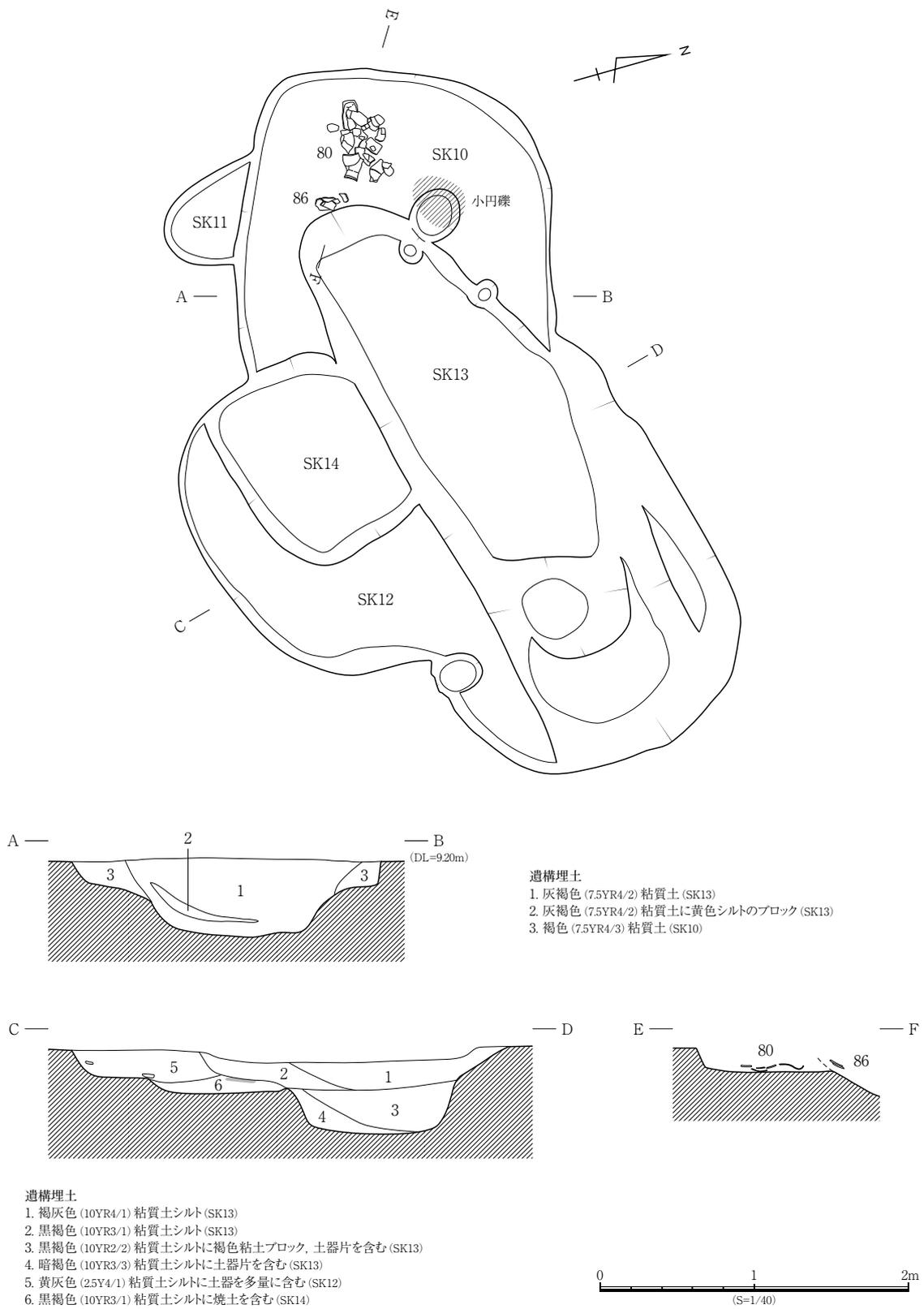


SK6 平面図・断面図・遺物実測図

図Ⅲ-62 SK6・7 平面図・断面図・エレベーション図・遺物実測図



図Ⅲ-63 SK8 平面図・断面図・遺物実測図



図Ⅲ-64 SK10～14平面図・断面図

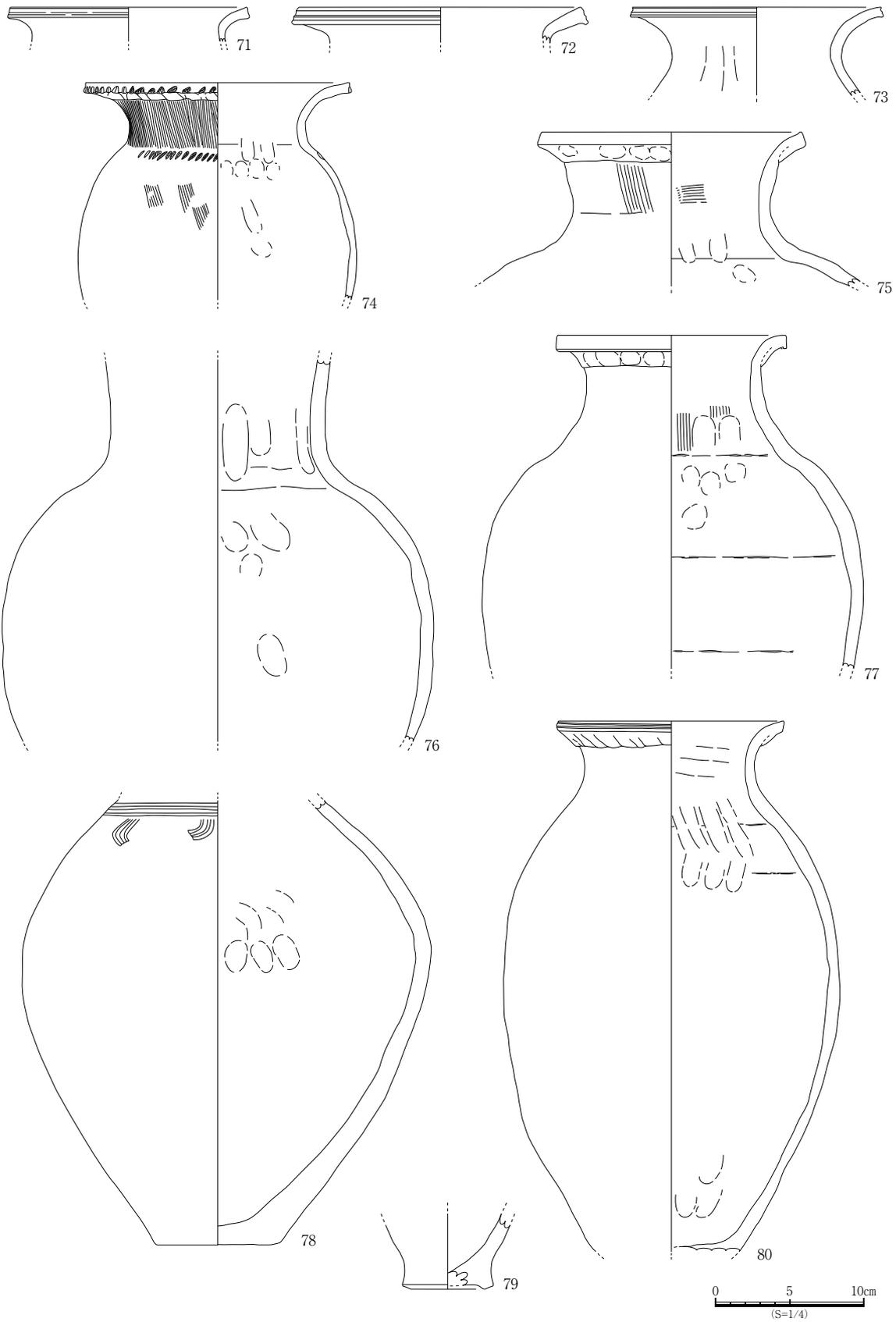
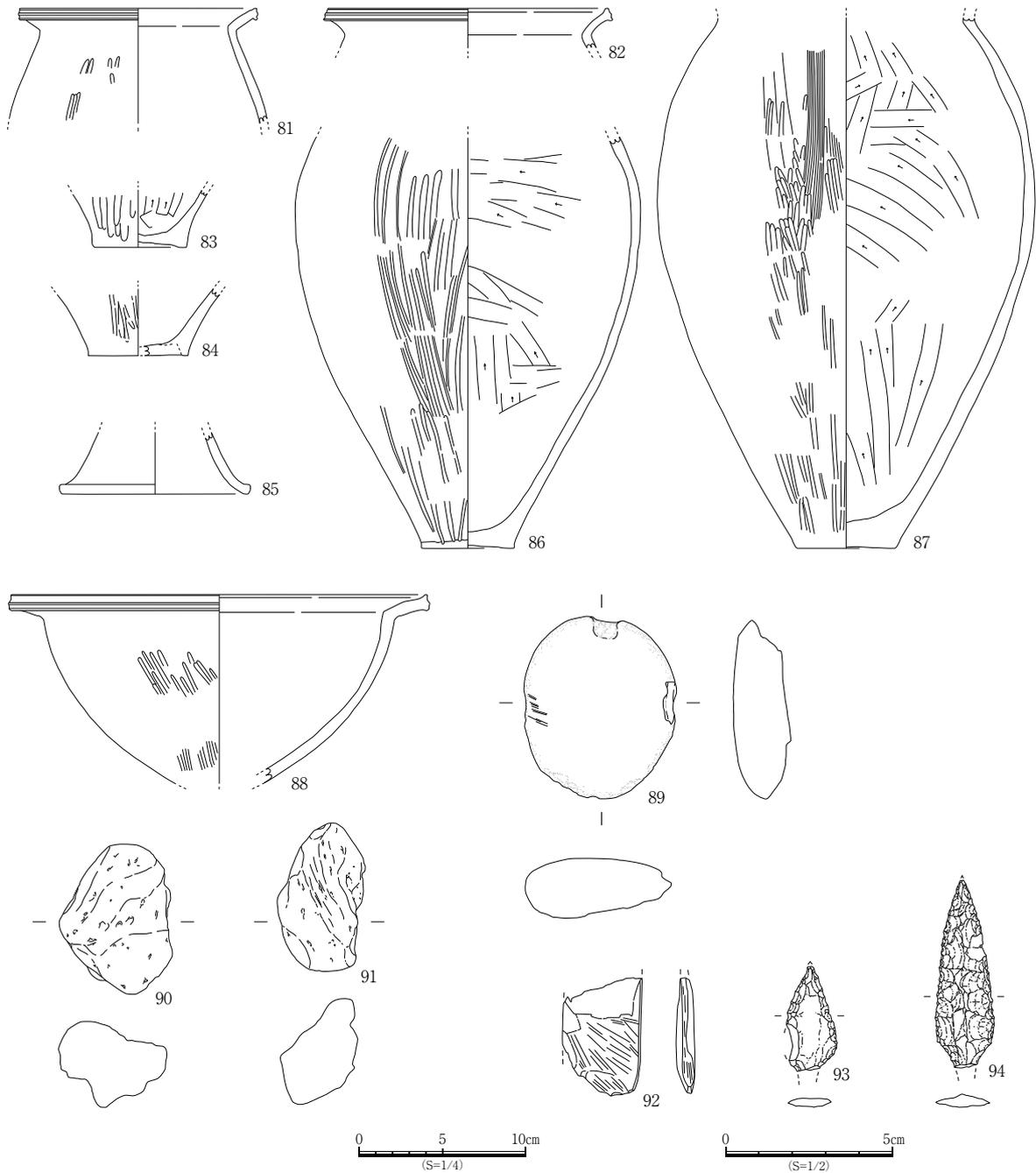


图 III - 65 SK10·12·13 遺物実測図 1

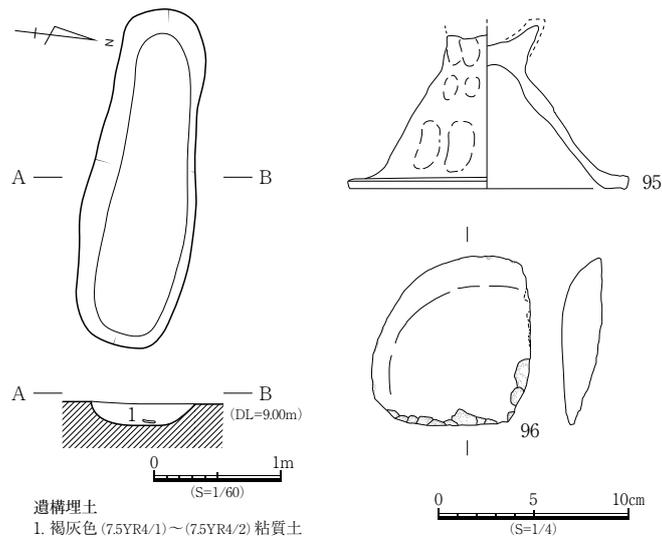
SK4 (図Ⅲ-60)

調査区東端部に位置しかなりの部分が調査区外に出ているが、溝状土坑である。長軸 4.1m, 短軸 0.3m 以上, 深さは 10cm 前後を測るが、床面中央部に 1×0.4m の楕円形プランを持つ深さ 10cm の落ち込みがある。埋土は 1 層で炭化物が多く含まれている。

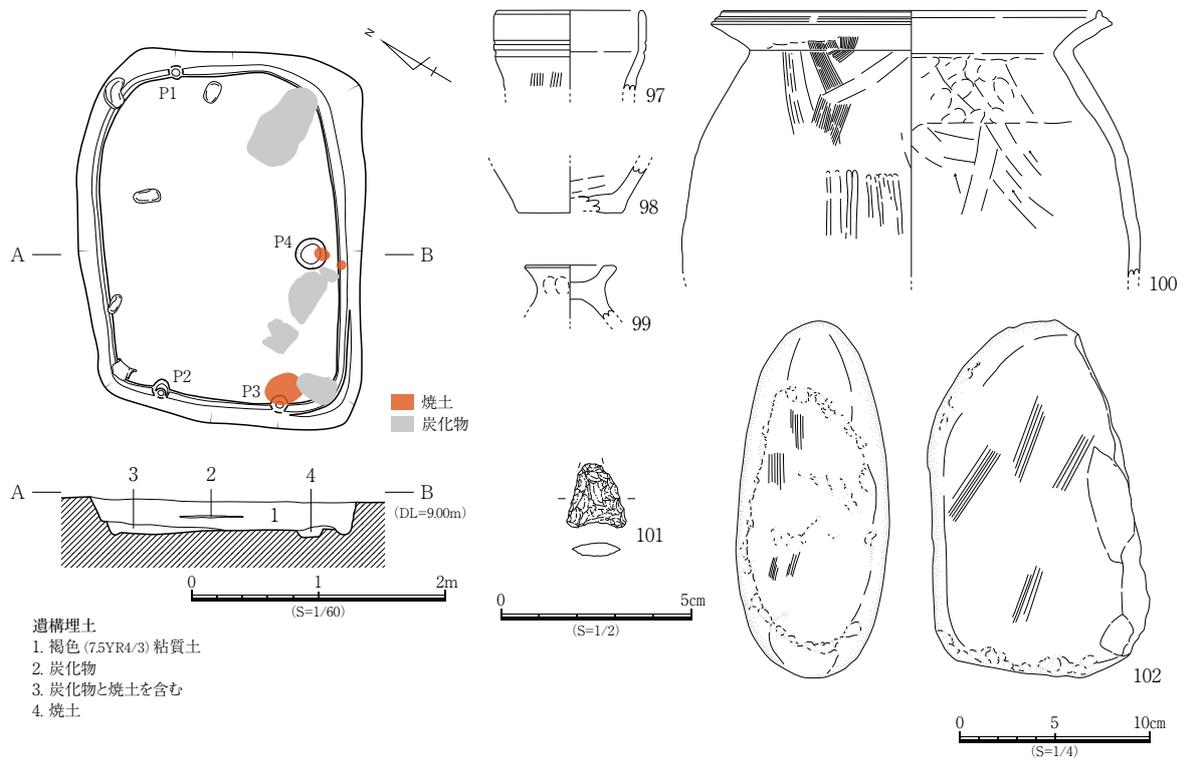
遺物は比較的多く出土している。56～58 は壺, 59 は南四国型甕で口縁部外面に粘土帯を貼付し指頭で押圧している。60 は高杯杯部, 61 は同脚部である。両者とも脚部内面にヘラケズリが認められる。



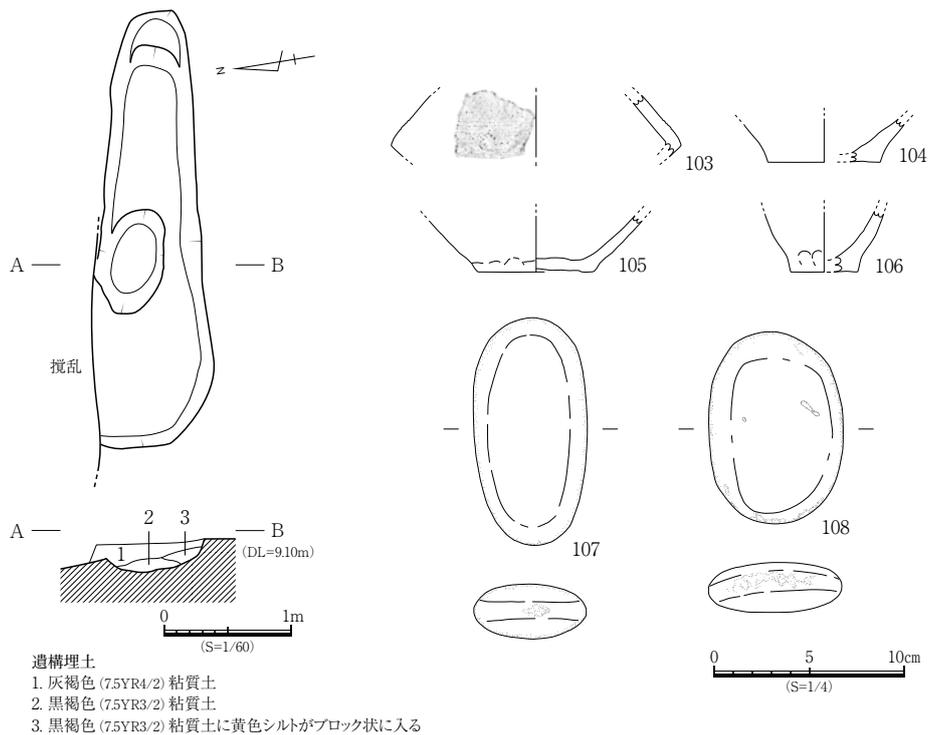
図Ⅲ-66 SK10・12・13 遺物実測図 2



図Ⅲ-67 SK15平面図・断面図・遺物実測図



図Ⅲ-68 SK16平面図・断面図・遺物実測図



図Ⅲ-69 SK17 平面図・断面図・遺物実測図

61は下部に8条の沈線と列点文が見られ、端部にも2条の沈線が施されている。61は搬入品である。62・63は打製石斧で前者は頁岩、後者は砂岩製である。SK4はその形状から掘立柱建物に伴う溝状土坑で対応する建物は東側に存在するものと考えられる。中期後葉に属する。

**SK5 (図Ⅲ-61)**

調査区東部に位置する。不整形の平面形をなし長軸1.6m、短軸0.6m、深さ10cm前後を測る。埋土は1層で遺物は少ない。64は壺胴部片で肩部に列点文を配している。SK5は中期に属する。

**SK6 (図Ⅲ-62)**

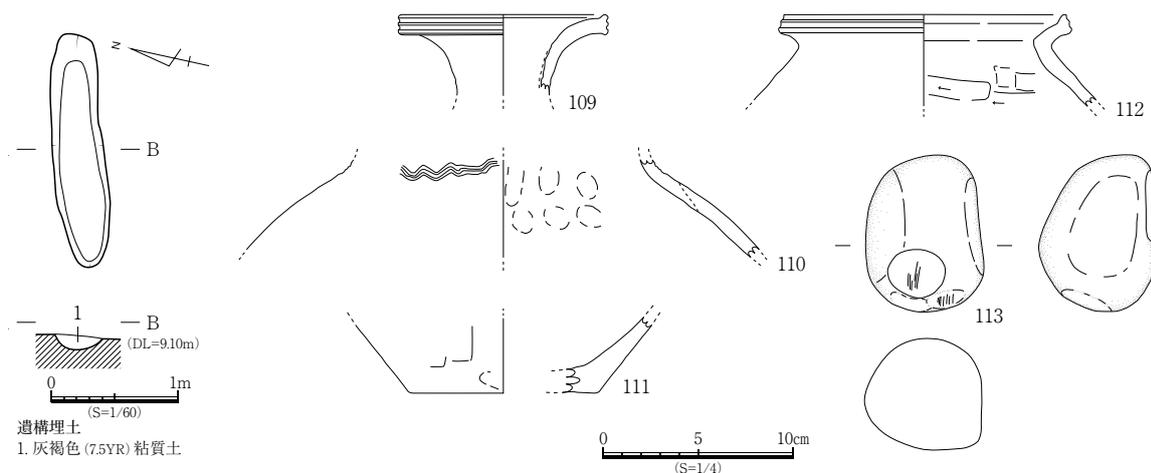
調査区東部に位置する。平面形は楕円形を呈し長軸1.8m、短軸0.82m、深さ15～25cmで、床面は二段に掘られている。埋土は1～3層で1層と3層との間に焼土(2層)を挟んでいる。土器は少ないが円礫や角礫が多く出土している。65は壺口縁部で下端に刻目が施されている。SK6は中期に属する。

**SK7 (図Ⅲ-62)**

調査区東部に位置する。平面形は溝状を呈し長軸1.56m、短軸0.35m、深さ10cmを測る。埋土は1層で遺物は見られない。

**SK8 (図Ⅲ-63)**

調査区東部に位置する。平面形は円形を呈し径2.6m、床面は外縁が一段高くなりドーナツ状に高床部が形成されている。深さは床面中央付近で30cm、高床部は20cmである。床面中央に径30cm、深さ13cmの小ピットがある。埋土は1・2層で、2層上面に炭化物と焼土の広がりが見られる。炭化材の中には建築材と見られるものがあることから覆い屋が想定される。遺物は少ない。66は壺口縁部、67は同底部、68は鉢で口唇部に2条の凹線文が施されている。69と70は砂岩の円礫である。69は中央



図Ⅲ-70 SK18平面図・断面図・遺物実測図

部と側縁部の一部に敲打痕が見られる。70は中央部が磨耗し側縁部は煤けている。

#### SK10 (図Ⅲ-64～66)

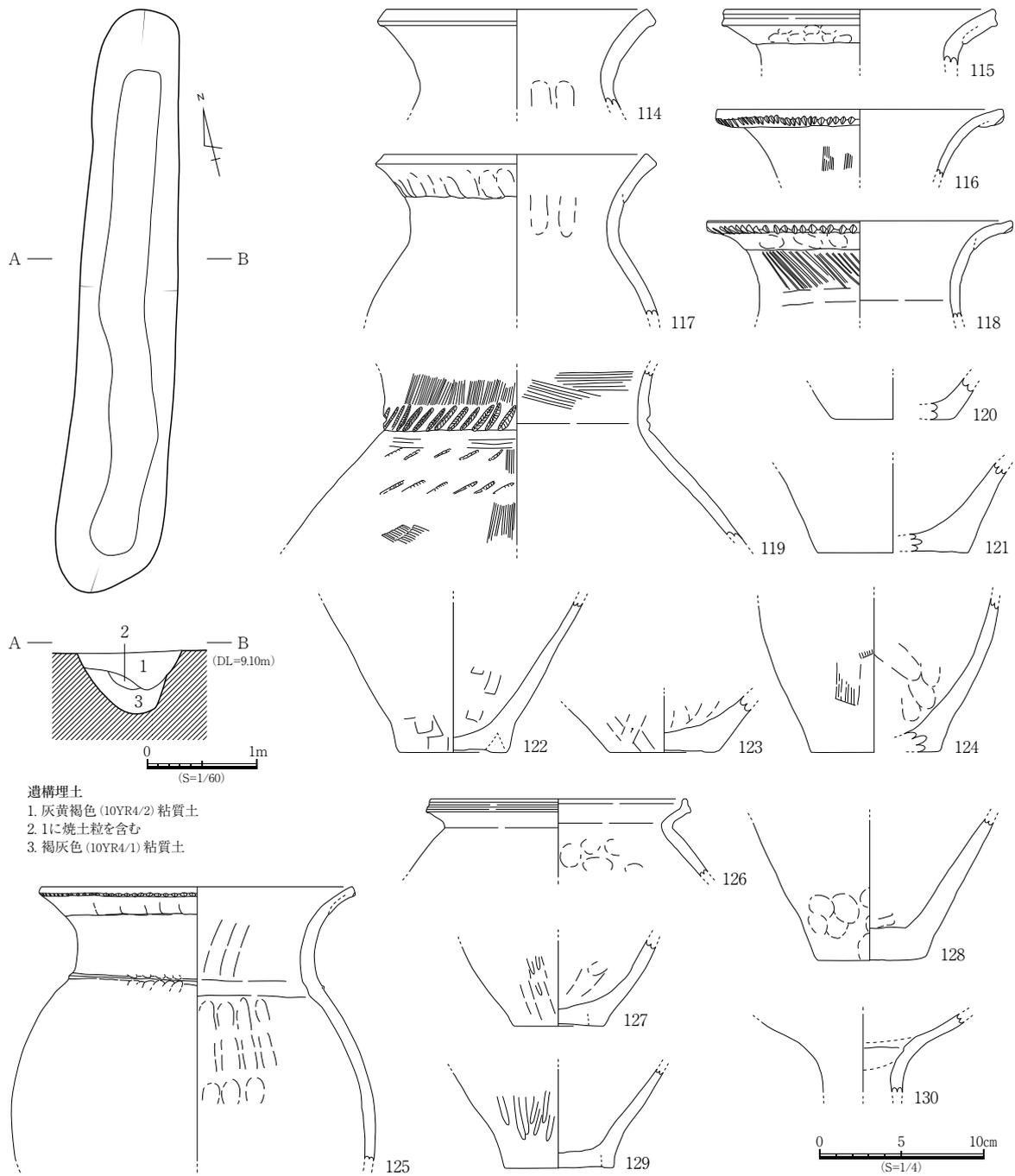
調査区東部北寄りにある。SK11～14の4基の土坑と複雑に切り合っている。先後関係を詳細に掴むことはできないが、SK10はSK11を切っておりSK13に大きく切られている。平面形は隅丸長方形を呈し長軸2.73m、短軸2.1m、深さは壁際で15cmを測る。床面西半分は平坦面をなすが東部は中心部に向かって傾斜しており最深25cmを測る。埋土は1層である。床面北よりには径30cm、深さ30cmの小ピットが設けられている。埋土は灰色砂で2cm～拳大のチャートと砂岩の円礫が詰まっている。これらの円礫はピットの周辺部にも及んでいる。意識的なピットの埋め戻しが行われた可能性がある。遺物は壺(71・80)と石鏃(94)が出土している。80は床面出土でほぼ完形に復元できている。石鏃は基部を欠損するが大形で3.7g、サヌカイト製である。

#### SK12 (図Ⅲ-64～66)

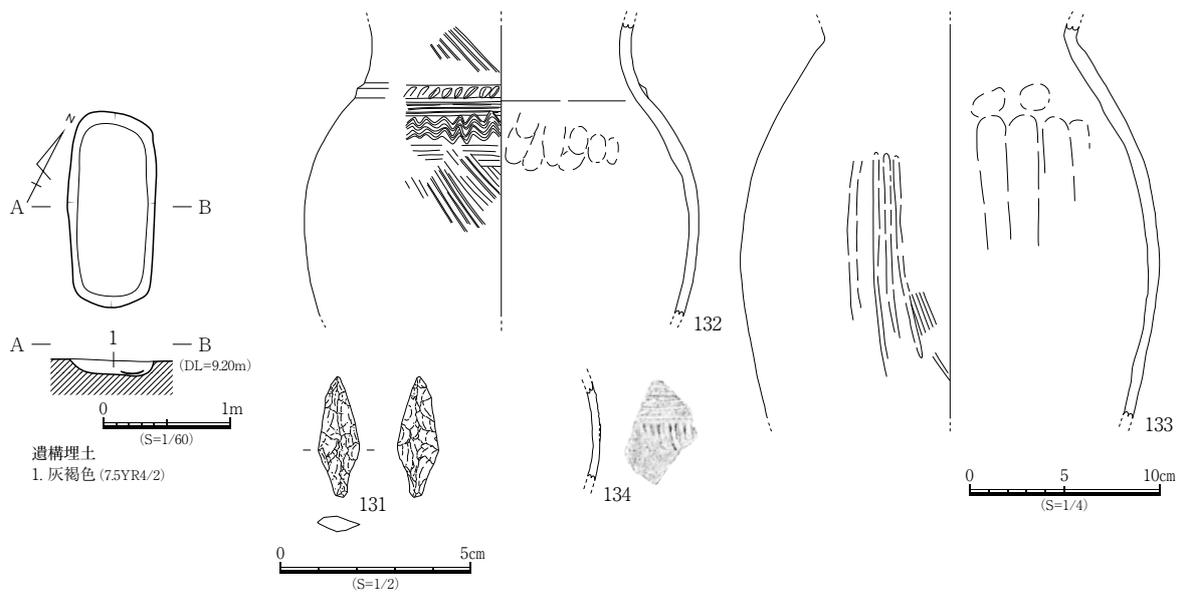
SK14を切りSK13に切られている。残存部から推測すると平面形は隅丸方形を呈し長軸2.1m、短軸1.5m、深さ20cmを測る。埋土は1層である。遺物は壺胴部(78)と甕底部(84)が出土している。78は上胴部に櫛描直線文と扇形文を配している。84は内面と底部内面にヘラケズリが見られる。

#### SK13 (図Ⅲ-64～66)

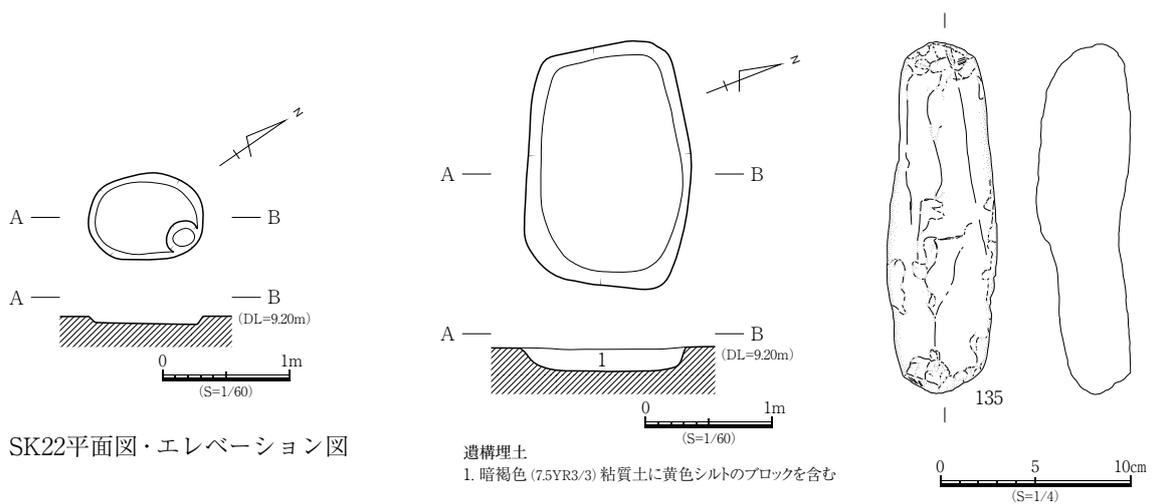
一群の中で最も新しい土坑である。平面形は隅丸長方形を呈し長軸4.1m、短軸1.5m、深さ30～70cmを測る。床面の東部には0.8×0.7m、深さ15cmの楕円形の落ち込みがある。埋土は1～4層である。遺物は中層～床面から多く出土しており接合資料も多く一括資料として捉えることができる。72～77・79は壺である。72・73は口唇部に2条の凹線文を有する。74・75・77は口縁外面に粘土帯を貼付し74は口唇下半に刻目、上胴部に列点文を配する。81～83・86・87は甕である。86は西側壁から投げ込まれたような出土状況を呈しており大部分が上層出土であるが床面の破片とも接合関係がある。87とともに外面はヘラミガキ、内面は上胴部までヘラケズリが施されている。81・82は凹線文を有する。88は鉢で口縁部が水平屈曲し口唇部には2条の凹線文を配する。85は小型の器台か高杯脚である。石製品は軽石や敲打痕のある円礫が多く出土している。軽石(90・91)、円礫(89)、扁平片



図Ⅲ-71 SK19 平面図・断面図・遺物実測図



図Ⅲ-72 SK21 平面図・断面図・遺物実測図



SK22平面図・エレベーション図  
SK23平面図・断面図・遺物実測図

図Ⅲ-73 SK22・23 平面図・断面図・エレベーション図・遺物実測図

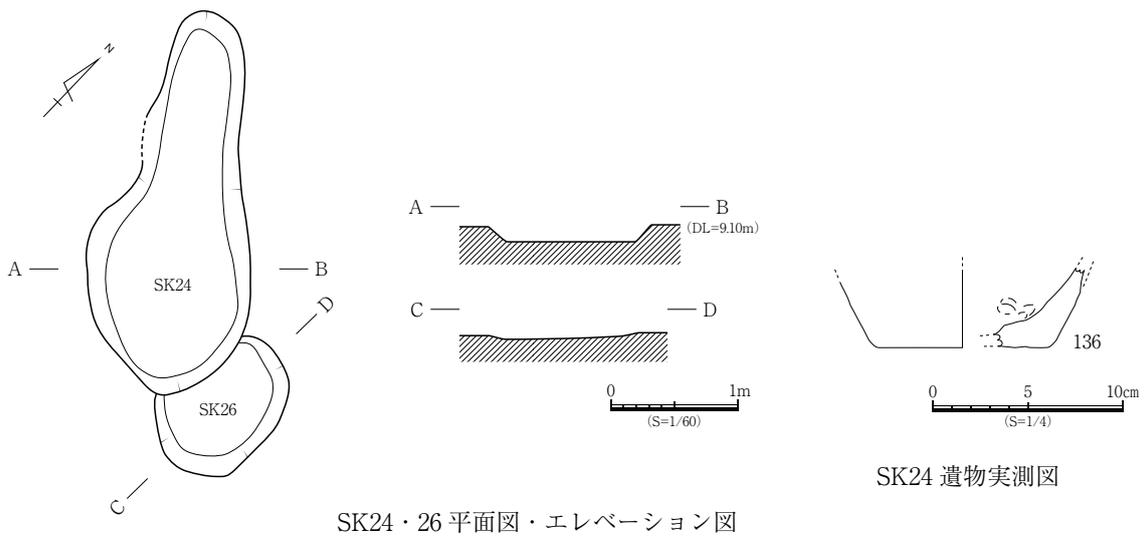
刃石斧片(92), 石鏃(93)を図示した。92は頁岩, 93はサヌカイト製である。SK13は中期後葉に属する。

**SK14** (図Ⅲ-64)

SK12とSK13に切られている。隅丸方形の平面形を呈し長軸1.3m, 短軸1.0m, 深さ30cmを測る。埋土は1層で上面に焼土が薄く載っている。遺物は認められない。

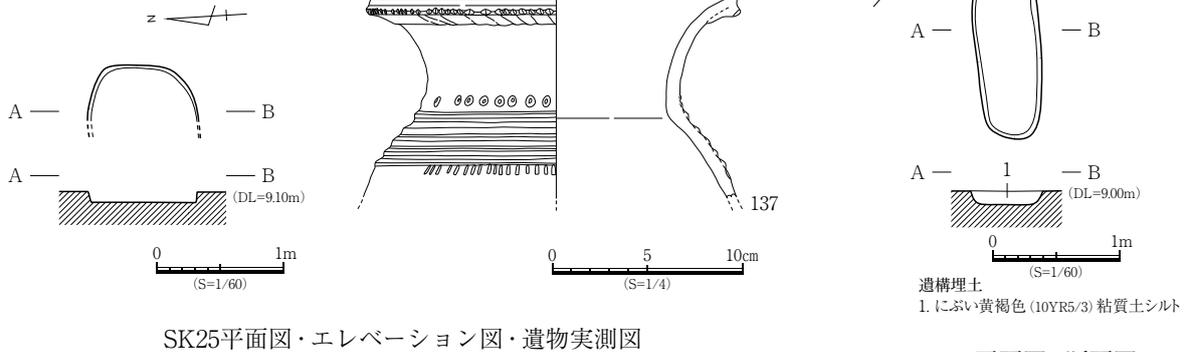
**SK15** (図Ⅲ-67)

調査区南部に位置する。平面形は溝状を呈し長軸2.7m, 短軸0.9m, 深さ18cmを測る。埋土は1層である。遺物は床面から蓋(95)と砂岩剥片(96)が出土している。96は刃部が作られており打製石斧の可能性はある。



SK24・26 平面図・エレベーション図

SK24 遺物実測図



SK25平面図・エレベーション図・遺物実測図

SK29平面図・断面図

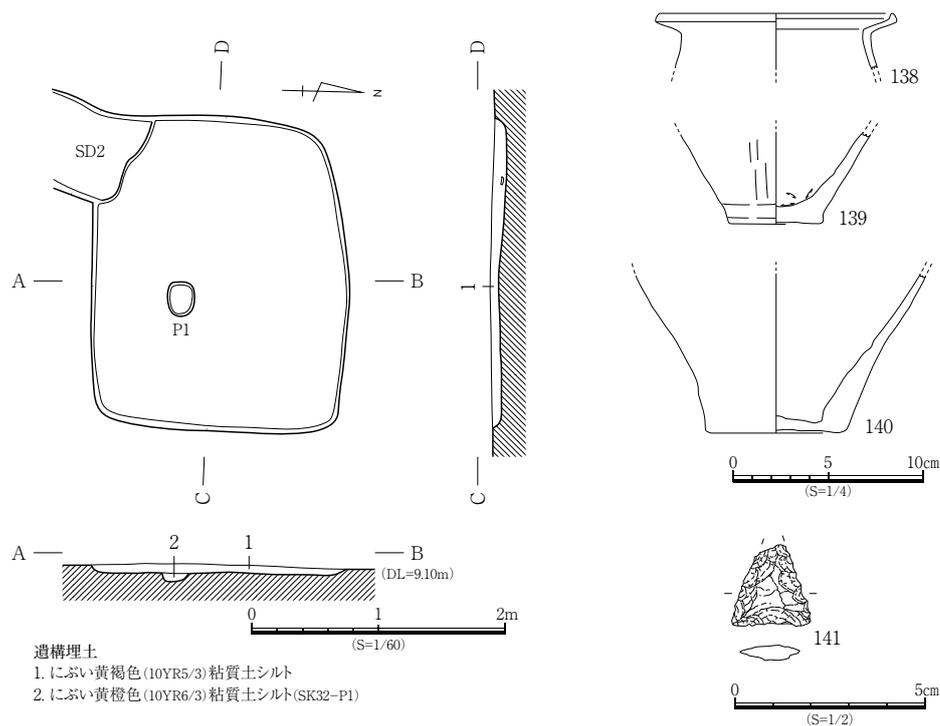
図III-74 SK24～26・29平面図・断面図・エレベーション図・遺物実測図

**SK16** (図III-68)

調査区東部にある。平面形は長方形を呈し長軸3.0m, 短軸2.1m, 深さ25cmを測る。幅10cmの壁溝が巡り, 西壁際に2個(P2・P3), 東壁際に1個(P1), 壁溝と重複して径15cm前後の小ピットが掘られている。P3は深さ20cm, P2は深さ13cmで径8cmの柱痕跡が認められる。また床面南には径25cm, 深さ10cmのピット(P4)が掘られている。これらのピットは覆い屋を支える柱穴である。図示したように床面からは焼土や炭化物が出ており焼失したことが考えられる。遺物は細片が多いが, 土器では壺(97), 甕(98・100), 蓋(99)を, 石器では石鏃(101)と砂岩礫(102)を図示することができた。100は口唇部に2条の凹線が施され内面はヘラケズリ, 外面には黒色物が塗布されている。102は側縁部に研磨痕が見られる。100と102は床面出土である。SK16は中期後葉に属する。

**SK17** (図III-69)

調査区東北隅に位置する。北壁の多くを攪乱で削平されている。平面形は溝状を呈し長軸3.5m, 短軸0.82m, 深さ20cm前後を測るが, 東端は二段に掘られ中央部には床面から深さ10cm程の楕円形の掘り込みが見られる。埋土は1～3層である。遺物は少なく細片が多い。103は算盤玉状をした壺胴



図Ⅲ－75 SK32 平面図・断面図・遺物実測図

部である。104～106は底部である。107・108は砂岩円礫で端部の一部に敲打痕が僅かに見られる。

**SK18** (図Ⅲ－70)

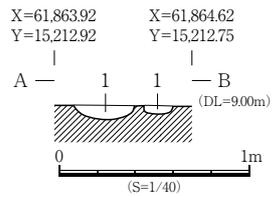
調査区東北隅に位置する。平面形は溝状を呈し長軸1.84m，短軸0.4m，深さ12cmである。埋土は1層である。遺物は検出面から壺(109～111)，甕(112)，磨石(113)が出土している。109と112は口唇部に2条の凹線文が巡り112は内面ヘラケズリが施され，110は上胴部で櫛描波状文が見られる。113は砂岩の河原石で研磨により2箇所平坦面が見られる。SK18は中期後葉に属する。

**SK19** (図Ⅲ－71)

調査区南部に位置する。平面形は溝状を呈し長軸5.4m，短軸0.9m，深さ50～60cmを測り，床面は南端が最も深く北に向かって高くなっている。埋土は1～3層で2層は焼土粒を多く含んでいる。遺物は比較的多く出土している。1層下半から3層に集中しており一括性の高い出土状況を示している。壺(114～124)，甕(125～129)，高杯(130)を図示した。115～118は口縁部外面に粘土帯を貼付，119は頸部と上胴部にハケ状原体による列点文を配している。123は内外面に弱いヘラケズリが認められる。125は南四国型甕，126は瀬戸内型で口縁部に2条の凹線文を施している。129の内面には僅かにヘラケズリが認められる。高杯は充填部が剥離している。SK19は中期後葉に属する。

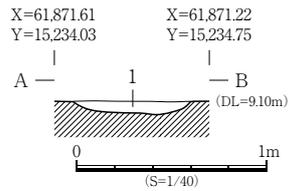
**SK21** (図Ⅲ－72)

調査区東部に位置する。平面形は隅丸長方形を呈し長軸1.56m，短軸0.7m，深さ10cmを測る。埋土は1層である。遺物は壺(132～134)，石鏃(131)が出土している。壺は胴部片で132は頸胴部界に刻目突帯を巡らしその下位に櫛描直線文と同波状文を施している。133の外面にはヘラミガキの下地にヘラケズリが認められる。134は細片であるが櫛描直線文の下位に付加条沈線，さらに棒状浮文



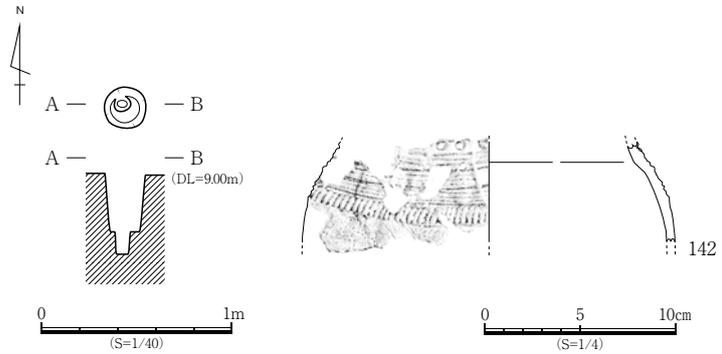
遺構埋土  
1. 褐灰色 (10YR4/1) 粘質土シルト

SD1断面図

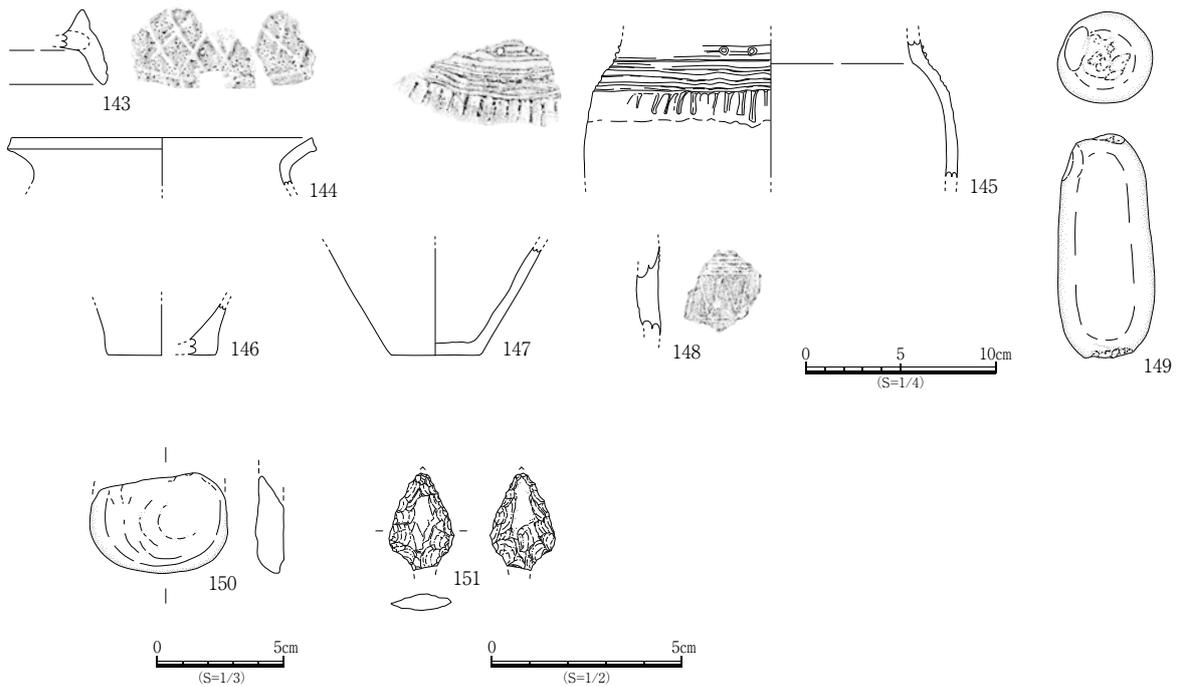


遺構埋土  
1. 灰白色 (10YR7/1) 細砂混じりシルトと黒褐色 (10YR3/2) 細砂混じりシルトが混ざる

SD2断面図



P6平面図・エレベーション図・遺物実測図



包含層遺物実測図

図Ⅲ-76 SD1・2・P6 平面図・断面図・エレベーション図・遺物実測図及び包含層遺物実測図

を貼付し赤色顔料を塗布している。石鏃は有茎式、サヌカイト製である。SK21 は中期中葉～後葉に属する。

**SK22** (図Ⅲ-73)

調査区東部に位置する。平面形は楕円形を呈し長軸 0.9m, 短軸 0.68m, 深さ 5 cmを測る。埋土は 1層である。遺物は中期土器の細片が少量出土している。

**SK23** (図Ⅲ-73)

調査区北部に位置しST2 と接している。平面形は長方形を呈し長軸 1.9m, 短軸 1.1m, 深さ 18 cmを測る。遺物は中期土器細片と叩石(135)が出土している。135は長さ 18.7 cm, 径 5cm前後を測り両端に敲打痕が認められる。石材はチャートである。

**SK24** (図Ⅲ-74)

調査区北部に位置しSK26 を切っている。平面形は不整形を呈し長軸 3.0m, 短軸 1.3m, 深さ 18 cmである。埋土は 1層で遺物は僅少である。壺底部(136)を図示し得たのみである。

**SK25** (図Ⅲ-74)

調査区中央部南寄りに位置する。径 1.0m 足らずの円形土坑と考えられるが西半分が削平されている。深さは 10 cm前後, 埋土は黒褐色粘質土である。埋土中から南四国型壺(137)が出土している。口縁部外面に粘土帯を貼付し胴部外面はドーナツ状の浮文, 微隆起帯, 列点文で飾られている。

**SK26** (図Ⅲ-74)

調査区北部に位置しSK24 に切られている。平面形は楕円を呈し長軸 1.2m, 短軸 0.9m, 深さ 5 cmである。埋土は 1層で遺物は見られない。

**SK27** (図Ⅲ-56)

SB4 とともに記載。

**SK28** (図Ⅲ-55)

SB3 とともに記載。

**SK29** (図Ⅲ-74)

調査区西部に位置する。平面形は楕円形を呈し長軸 1.4m, 短軸 0.54m, 深さ 15 cmである。埋土は 1層で遺物は細片が少量出土している。

**SK31** (図Ⅲ-54)

SB2 とともに記載。

**SK32** (図Ⅲ-75)

調査区中央部に位置しSD2 と切り合っているが先後関係は不明である。平面形は長方形を呈し長軸 2.5m, 短軸 2.0m, 深さ 5 cmである。床面南寄りに 0.3×0.2m, 深さ 15 cmの楕円形状の小ピットが掘られている。埋土は 1層である。遺物は僅少で甕口縁部(138), 同底部(139・140), 石鏃(141)を図示し得た。石鏃は平基式, サヌカイト製である。

#### (4)溝

**SD1** (図Ⅲ-76)

調査区西部に位置する。東西方向に延びる溝で確認延長は 9.2m である。最大幅は 40 cmで西に向かって幅を狭めながら調査区外に出ている。深さは 5 cm前後を測り, 床面の高さは東端で 8.83m, 西

端で8.71mと西に向かって傾斜している。埋土はシルト～粘質土である。遺物は弥生土器細片が少量出土している。

#### SD2 (図Ⅲ-76)

調査区中央部を北東方向から南西方向(N-34°-E)に斜めに走る溝である。部分的に途切れているが総延長27.6m, 幅は北部で最も広く0.8m前後, 深さは5～10cmである。床面の高さは南端北端ともに8.94m前後である。埋土はシルト～細砂である。Ⅲ-1区に続いている。

#### (5)ピット出土の遺物(図Ⅲ-53・76)

調査区東部を中心に300個近いピットが検出されている。このうち50個のピットから土器片などの遺物が出土しているが、図示できるものは先に挙げたP11のミニチュア土器4点とP6の甕胴部(142)のみである。P6は調査区の東南部に位置し、径20cmの円形掘り方と径10cmの柱痕跡を有し深さ40cmを測るしっかりした柱穴である。他のピット出土遺物は全て弥生土器でありその多くは、竪穴建物や土坑などと同様に中期中葉～後葉に属する物と考えられる。

#### (6)包含層出土の遺物(図Ⅲ-76)

包含層出土の遺物は主に弥生時代の包含層である第Ⅲ層から出土しているが僅少である。143は広口壺で拡張口縁部に格子目文を施している。144～147は甕である。145は櫛描文や浮文で加飾されている。南四国型に属する。148は高杯脚部細片で外面に鋭利な原体で鋸歯文を描いている。149は棒状の叩石で砂岩, 150は打製石斧で頁岩, 151は石鏃である。

出土遺物(土器)観察表

挿図 番号	図版 番号	出土場所 (遺構)	器種 器形	法量 (cm)			色調 (外面)	特徴
				口径	器高	底径		
Ⅲ- 49	1	ST1 下層~床	弥生 壺	13.2	(10.5)		にぶい橙色	チャート, 赤色風化礫の粗粒を含む。口縁部に粘土帯貼付, 口唇強い横ナデ, 頸胴部外面縦ハケ+縦ナデ, 内面は指頭によるナデ。
〃	2	ST1 中層	〃	14.0	(3.0)		橙色	チャート, 赤色風化礫の粗粒を含む。口縁部に粘土帯貼付。
〃	3	ST1 中央ビット	〃	17.6	(1.7)		にぶい黄褐色	赤色風化礫を多く含む。口唇面取, 口縁部に粘土帯貼付。
〃	4	ST1	弥生 甕	17.5	(2.3)		黄灰色	チャートの粗粒砂多い。口唇刻み, 口縁部外面に櫛描直線文と微隆起帯。
〃	5	〃	弥生 壺		(2.0)	6.4	にぶい黄色	チャートの粗粒砂多い。
〃	6	〃	弥生 甕	16.0	(2.3)		にぶい黄褐色	チャートの細~粗粒砂多い。内外横方向のナデ, 口唇は凹状を呈す。
〃	7	ST1 下層	〃	18.7	(3.2)		明赤褐色	雲母, 石英砂粒を含む。搬入品。口縁部を上に取り出して強い横ナデ, 外面は縦ハケ。
〃	8	〃	〃		(6.5)		にぶい黄褐色	チャート, 頁岩の粗粒砂。胴部外面右下がりのハケ, 内面は縦方向ナデ。被熱赤変。
〃	9	ST1 中層	〃	19.2	(2.2)		橙色	チャートの粗粒砂多い。口唇面取, 下半刻み。口縁部外面に断面三角の突帯を貼付。
〃	10	ST1 下層	〃		(6.4)		にぶい黄褐色	チャートの粗粒砂多い。外面横方向ハケ+ナデ, 内面縦方向ナデ。外面の一部に煤附着。
〃	11	ST1 中層	〃		(2.5)	6.0	黒褐色	チャートの粗粒砂多い。外面縦ハケ, 内外面煤ける。
〃	12	〃	弥生 鉢	20.0	(3.3)		橙色	チャートの粗粒砂を含む。口縁部外面は強い横ナデにより段状を呈す。口縁部内面は横ハケ, 外面は摩耗。
〃	13	ST1 下層・床	〃	10.9	4.0	8.2	〃	チャートの粗粒砂多い。内外ナデ。
〃	14	ST1 下層	弥生 高杯	6.2	(5.0)		〃	チャート, 他の粗粒砂を含む。口縁部外面が肥厚。内外器表の荒れが激しい。
Ⅲ- 52	29	ST2 中央ビット	弥生 壺		(5.2)		にぶい橙色	チャートの粗粒砂多い。外面横ハケ+縦ヘラミガキ, ハケ状工具による刺突列点文。
〃	30	ST2	弥生 甕	14.5	(2.2)		〃	チャートの粗粒砂を含む。口縁部外面2条の凹線文, 内外横ナデ。
〃	31	〃	〃		(1.5)	4.9	明褐色	チャート, 他の粗粒砂多い。内面下→上ケズリ。外面煤ける。
Ⅲ- 53	33	SK2	弥生 壺	14.0	(2.4)		にぶい黄褐色	チャート, 他の砂粒を多く含む。口縁部外面粘土帯貼付, 口唇に弱い沈線。頸部外面縦ハケ+ナデ。内外面煤ける。
〃	34	〃	〃	14.8	(2.0)		〃	チャート, 他の砂粒を多く含む。口縁部外面粘土帯貼付, 指圧痕。頸部外面縦ハケ+ナデ, 内外面煤ける。
〃	35	〃	〃	16.8	(1.7)		〃	チャート, 他の砂粒を多く含む。口唇面取。接合部で剥離している。
〃	36	SK2 中層	弥生 甕		(7.6)		黄灰色	砂粒を含む。胴部外面縦ハケ+ナデ。内面は下→上のヘラケズリをナデ消す。外面は激しく煤け被熱赤変。
〃	37	SK2	弥生 壺	3.3	3.9	1.8	にぶい橙色	ミニチュア土器。精土。ナデ。
〃	38	〃	〃	4.5	3.5	1.9	橙色	〃
〃	39	SK2 中層	〃		(5.3)	2.7	にぶい黄褐色	ミニチュア土器。チャート, 他の砂粒を含む。ナデ。

挿図 番号	図版 番号	出土場所 (遺構)	器種 器形	法量 (cm)			色調 (外面)	特徴
				口径	器高	底径		
III-53	40	SK2 中層	弥生 壺	5.1	5.8	2.5	にぶい黄色	ミニチュア土器。チャート、他の砂粒を含む。ナデ。
〃	42	P11 最下層	〃	2.6	5.5	2.0	灰黄色	ミニチュア土器。チャートの粗粒砂を含む。板状工具で叩いて成形。
〃	43	P11 下層	〃	4.8	5.5	1.8	にぶい黄橙色	ミニチュア土器。チャートの粗粒砂を含む。頸部に櫛描波状文を意識した文様。体部は板状工具を押し付けて成形。
〃	44	〃	〃	2.7	7.5	2.4	〃	ミニチュア土器。チャートの粗粒砂を含む。体部は板状工具を押し付けて成形。
〃	45	〃	〃	5.5	6.5	2.0	〃	ミニチュア土器。チャート、頁岩砂粒を含む。上胴部に列点文。体部は板状工具を強く当てて成形。
III-54	46	SK31	弥生 甕	10.6	18.6	6.1	にぶい褐色	チャートの粗粒砂を多く含む。内外指ナデ、器面の荒れが激しい。
III-55	47	SK28	弥生 壺	14.7	28.5	6.7	にぶい黄橙色	チャートの粗粒砂を多く含む。口縁部外面粘土帯貼付、口唇面取。頸胴部外面は縦ハケ+ナデ、内面指頭によるナデ。頸部下半に絞り目。
〃	48	〃	〃	17.4	(14.3)		〃	チャート、赤色風化礫の砂粒を含む。口縁部外面粘土帯貼付、口唇面取。外面縦ハケ（消える）、頸胴部内面指頭によるナデ。
〃	49	〃	弥生 甕	16.3	(4.6)		灰黄褐色	チャート、他の砂粒を多く含む。口唇面取、下端にD形刻み。口縁部外面に微隆起帯を貼付。内外ナデ。
III-58	50	SK1 中層	弥生 壺		(8.5)		橙色	チャートの粗粒砂多い。頸部外面に微隆起帯を貼付し強い横ナデを施し凹線状を呈す。頸部内面指ナデ、胴部内面指圧痕顕著。胴部外面縦ハケ。
III-59	52	SK3 Ⅲ層	〃	36.0	(8.0)		〃	チャート、赤色風化礫を多く含む。口唇面取、下端に太い刻み。口縁部外面粘土帯貼付+指圧痕。内外器表の荒れが激しい。
〃	53	SK3	弥生 甕		(1.5)		にぶい赤褐色	精土。強い横ナデ。
〃	54	SK3 中層	〃	22.0	(8.7)		灰黄褐色	チャートの粗粒砂を多く含む。上胴部に隆帯2条、下帯に棒状浮文を貼付。内外ナデ。胴部外面激しく煤ける。
〃	55	〃	〃		(5.8)	4.8	にぶい褐色	チャート、赤色風化礫、頁岩の砂粒を多く含む。外面被熱赤変。器表の荒れが激しい。
III-60	56	SK4 中層	弥生 壺	12.0	(7.4)		橙色	チャート、他の砂粒を多く含む。内面指ナデ、外面ナデ。
〃	57	SK4	〃		(4.0)	6.4	にぶい褐色	チャートの粗粒砂を多く含む。外面縦ハケ+ナデ。底部内外面は指圧痕が顕著。
〃	58	〃	〃		(5.2)	10.1	橙色	チャート、赤色風化礫、石英粒を含む。内外ナデ。
〃	59	SK4 中層	弥生 甕	14.6	(11.0)		にぶい橙色	チャート、他の砂粒を多く含む。口唇強い横ナデ、面をなす。口縁部外面粘土帯貼付。胴部外面僅かに縦ハケを認む、全体的に丁寧なナデ。
〃	60	〃	弥生 高杯	8.5	(10.0)		褐灰色	石英粒を多く含む。外面ヘラミガキ、脚部内面ヘラケズリ。搬入品。
〃	61	〃	〃		(6.3)	10.0	にぶい褐色	石英粒を多く含む。外面に8条の細い沈線帯を配しその下に列点文を巡らす。内面は左←右のヘラケズリ。搬入品。
III-61	64	SK5	弥生 壺		(7.0)		にぶい橙色	チャートの粗粒砂を多く含む。内面ナデ、外面縦ハケ+ナデ、弧状の列点文を配する。
III-62	65	SK6	〃	22.0	(3.2)		明黄褐色	チャート、赤色風化礫の粗粒を含む。口唇面取、下端をしっかりと刻む。口縁部に粘土帯貼付、ナデ。
III-63	66	SK8 上層	〃	10.0	(6.3)		にぶい橙色	チャート、赤色風化礫を多く含む。口縁部外面粘土帯貼付。頸部外面縦ハケ。
〃	67	〃	〃		(4.4)	9.8	にぶい黄橙色	チャートの粗粒砂を多く含む。外面縦ハケ、内面ナデ。
〃	68	SK8	弥生 鉢	23.8	(3.8)		灰黄褐色	チャート、他の砂粒を多く含む。口縁部上下強い横ナデ、口唇は上下に拡張し2条の凹線文を配する。体部内外横ハケ+ナデ。外面煤ける。

挿図 番号	図版 番号	出土場所 (遺構)	器種 器形	法量 (cm)			色調 (外面)	特徴
				口径	器高	底径		
Ⅲ-65	71	SK10 上層	弥生 壺	16.0	(23)		にぶい黄橙色	赤色風化礫を含む。口唇・口縁部横ナデ、頸部外面縦ハケ。
〃	72	SK13 下層	〃	18.9	(25)		灰黄褐色	チャートの粗粒砂を多く含む。口縁部内外強い横ナデ、下地に横ハケ。口唇部2条の凹線文。
〃	73	SK13 床	〃	16.8	(6.0)		にぶい黄橙色	チャートの粗粒を多く含む。口縁部内外横ナデ、口唇2条の凹線文。頸部外面縦ハケ。
〃	74	SK13 下層	〃	17.7	(14.8)		暗灰色	チャート、他の砂粒を多く含む。口唇強い横ナデにより凹状をなし下半に太い刻み。頸部外面縦ハケ、肩に列点文。胴部外面縦ハケ+ナデ。
〃	75	SK13 中・下層	〃	17.3	(10.5)		橙色	チャートの細～粗粒砂を多く含む。口縁部外面粘土帯貼付、口唇面取。頸部外面縦、内面横方向ハケ、ベンガラ塗布。
〃	76	〃	〃		(26.1)		〃	チャートの粗粒砂を多く含む。内外面器表の荒れが激しい。上胴部に大きな黒斑。
〃	77	SK13上・ 中・下層	〃	15.4	(22.7)		にぶい橙色	チャートの砂粒を多く含む。口唇強い横ナデ。口縁部外面粘土帯貼付+押圧、頸部外面はナデ、下地に縦ハケ。頸部内面縦ハケ。
〃	78	SK12	〃		(30.3)	8.1	橙色	石英粒を多く含む。上胴部に櫛描直線文1帯と扇形文を配する。内外面器表の荒れが激しい。胴部中位から下部にかけて大きな黒斑あり。
〃	79	SK13 中層	〃		(5.0)	6.0	にぶい黄橙色	チャートの小礫、粗粒砂を多く含む。上げ底。
〃	80	SK10 上層	〃	15.3	36.0		橙色	チャート及び赤色風化礫を多く含む。口唇外面2条の沈線、口縁部外面粘土帯貼付。外面縦ハケ+縦ヘラミガキ、上胴部に大きな黒斑。
Ⅲ-66	81	SK13 下層	弥生 甕	14.1	(7.0)		にぶい黄橙色	チャート、頁岩などの砂粒を含む。口唇に2条の凹線文、口縁部内外横ナデ、胴部外面縦ヘラミガキ、内面右下がりハケ調整。
〃	82	SK13 最下層	〃	16.6	(2.4)		〃	チャート、頁岩の砂粒を含む。口唇は上下に拡張し2条の凹線文。口縁部内外面横ナデ。
〃	83	SK13 下層	〃		(3.5)	5.6	〃	チャートの砂粒を多く含む。外面縦ヘラミガキ、内面下→上にヘラケズリ。外面煤ける。
〃	84	SK12	〃		(4.1)	6.0	にぶい褐色	頁岩、チャートの砂粒を含む。外面縦ハケ+ヘラミガキ、内面・内底ヘラケズリ。
〃	85	SK13 下層	弥生 高杯		(3.8)	11.1	灰黄色	チャートの砂粒多い。内外面ナデ調整。
〃	86	SK13 上層～床	弥生 甕		(32.1)	6.0	褐灰色	チャート、他の砂粒を多く含む。外面縦ハケ+縦ヘラミガキ、内面中位以下下→上ヘラケズリ、中位付近左上がりヘラケズリ。外面煤ける。
〃	87	SK13 床・埋土	〃		(24.9)	5.5	灰黄褐色	チャート、他の砂粒を多く含む。外面ヘラミガキ、内面下位は下→上ヘラケズリ、中位左上がり、上位右→左のヘラケズリ。
〃	88	SK13 中層	弥生 鉢	24.8	(11.5)		にぶい橙色	チャートの砂粒を多く含む。シャーモットを含む。口唇2条の凹線文、口縁部内外面強い横ナデ、胴部外面縦ヘラミガキ、下位に縦ハケ。
Ⅲ-67	95	SK15	弥生 蓋	14.5	(8.6)		にぶい黄橙色	チャートの粗粒砂多い。外面指圧痕顕著。口唇面取。
Ⅲ-68	97	SK16	弥生 壺	7.5	(4.2)		橙色	チャートを含まない、石英粒多い。口縁部に2条の凹線、口縁部内外面横方向ナデ、頸部外面縦ハケ。
〃	98	〃	弥生 甕		(2.5)	5.4	褐灰色	チャート、他の粗粒砂を多く含む。内外ナデ。
〃	99	〃	弥生 蓋		(2.9)	摘径 4.7	にぶい橙色	チャートの粗粒砂を多く含む。摘み外面に指圧痕。被熱赤変。
〃	100	SK16 床	弥生 甕	19.7	(14.2)		にぶい黄褐色	チャート粗粒砂を多く含む。口縁部は上に摘み上げて拡張、2条の凹線文を有す。胴外面上位は縦ハケ、下半ヘラミガキ。内面ヘラケズリ。
Ⅲ-69	103	SK17	弥生 壺		(3.3)		橙色	チャート、頁岩の粗粒砂を含む。算盤玉状の胴部、外面に櫛描直線文。内面はハケ+ナデ。
〃	104	〃	弥生 甕		(2.3)	5.9	灰褐色	チャート、シャーモットを含む。内外器表の荒れが激しい。外面激しく煤ける。

挿図 番号	図版 番号	出土場所 (遺構)	器種 器形	法量 (cm)			色調 (外面)	特徴
				口径	器高	底径		
III-69	105	SK17	弥生壺		(3.0)	6.1	灰黄色	チャートの粗粒砂を多く含む。外面煤ける。
〃	106	〃	〃		(3.2)	3.5	灰褐色	チャート, 赤色風化礫を含む。外面ナデ。外面煤ける。
III-70	109	SK18	〃	10.8	(4.3)		橙色	チャート, 他の粗粒砂を多く含む。口縁部上下に拡張, 口唇2条の凹線文。内外横ナデ。
〃	110	〃	〃		(4.8)		〃	チャート, 他の砂粒を多く含む。胴部外面に歪な櫛描波状文。内面ナデ, 指圧痕あり。
〃	111	〃	〃		(4.0)	10.0	〃	チャートの粗粒砂を多く含む。外面縦ハケ, 内面ナデ。
〃	112	SK18 検出面	弥生甕	14.6	(4.9)		にぶい黄橙色	頁岩, 他の砂粒を含む。口縁部上方に拡張し2条の凹線文。胴部外面縦ハケ, 内面右→左のヘラケズリ。
III-71	114	SK19 中層	弥生壺	15.8	(6.2)		灰黄褐色	チャートの粗粒砂を多く含む。内外ナデ仕上げ。口唇面取。
〃	115	〃	〃	16.2	(3.4)		にぶい黄褐色	赤色風化礫を多く含む。口唇凹状を呈する。口縁部外面粘土帯貼付。一部煤ける。
〃	116	SK19	〃	17.4	(4.2)		灰色	チャート, 灰色風化礫を多く含む。口縁部外面粘土帯貼付, 口唇下端に刻目。
〃	117	〃	〃	15.9	(10.0)		橙色	赤色風化礫を多く含む。口縁部外面粘土帯貼付, 口唇面取。器表の荒れが激しい。
〃	118	SK19 中層	〃	18.4	(6.0)		灰黄褐色	細粗粒砂を多く含む。口縁部外面に粘土帯貼付, 端部下半に太い刻目。頸部外面木目の粗い原体によるハケ。
〃	119	〃	〃		(10.8)		にぶい赤褐色	赤色風化礫を含む。頸部外面縦ハケ, 下端にハケ原体による列点文。上胴部外面にも2列の列点文。器表の荒れが激しい。
〃	120	〃	〃		(2.6)	7.1	にぶい黄橙色	チャート, 風化礫を多く含む。内外ナデ。
〃	121	SK19 上層	〃		(6.1)	9.2	橙色	〃
〃	122	SK19 中層	〃		(9.3)	6.5	にぶい黄褐色	チャート, 結晶片岩, 赤色風化礫の粗粒砂を含む。外面ナデ, 内面ヘラケズリ+ナデ。底部全体に黒斑。
〃	123	〃	〃		(3.5)	6.4	〃	チャートの粗粒砂を多く含む。外底, 胴部外面にケズリ。内面ケズリ+ナデ。底部脇に平行叩き痕跡を認める。
〃	124	SK19 下層	〃		(9.5)	7.8	橙色	チャートの粗粒砂, 赤色風化礫の細粗粒砂を含む。内外面縦ハケ+ナデ。
〃	125	SK19 上・中層	弥生甕	19.0	(16.9)		にぶい黄褐色	チャート, 赤色風化礫砂粒を多く含む。口縁部外面に粘土帯貼付, 口唇面取, 頸胴部界に微隆起帯貼付指で握む。内外ナデ, 胴部外面煤ける。
〃	126	SK19 中・下層	〃	15.3	(4.8)		〃	チャートの粗粒砂多く含む。口縁部を上方に拡張し外面2条の凹線文。胴部外面縦ハケ+ナデ, 内面指圧痕顕著。
〃	127	SK19	〃		(5.3)	5.4	にぶい黄褐色	チャート, 他の砂粒を多く含む。外面ケズリ+縦ハケ+縦ヘラミガキ, 内面ケズリ+ナデ。内面に腐食物付着。
〃	128	SK19 上層	〃		(8.7)	6.6	にぶい橙色	チャート, 赤色風化礫の粗粒砂を多く含む。器表の荒れが激しい。外面煤ける。
〃	129	SK19 中層	〃		(6.1)	6.6	にぶい黄褐色	チャートの粗粒砂を多く含む。外面縦ハケ+縦ヘラミガキ。内面下→上のヘラケズリが僅かに見られる。底部外面に黒斑。
〃	130	SK19	弥生高杯		(4.8)		にぶい橙色	チャート, 頁岩など細粒砂を含む。充填部剥離, 器表の荒れが激しい。
III-72	132	SK21 上層	弥生壺		(15.5)		灰黄褐色	チャートの細~粗粒砂を多く含む。頸胴部界に三角刻目突帯貼付, 櫛描直線文・波状文を配する。外面木目の荒い原体によるハケ。
〃	133	SK21 床・埋土	〃		(21.0)		〃	チャート, 他の砂粒を多く含む。外面下→上ケズリ+縦ハケ+ヘラミガキ, 内面指ナデ。頸胴部界強い横ナデ。

挿 番 号	図 版 番 号	出土場所 (遺構)	器 種 形	法量 (cm)			色 調 (外面)	特 徴
				口径	器高	底径		
Ⅲ-72	134	SK21	弥生壺		(4.6)		黒褐色	チャート, 他の細~粗粒砂を多く含む。櫛描直線文2帯の下に付加条沈線, さらに下位に棒状浮文を貼付。外面赤色顔料塗布。
Ⅲ-74	136	SK24	〃		(4.2)	9.0	橙色	チャート, 他の粗粒砂を多く含む。外面下→上の弱いケズリ, 内底指圧痕。底部外面植物繊維圧痕。擬口縁(外傾接合)で剥離。
〃	137	SK25	〃	18.8	(10.7)		にぶい橙色	チャート, 赤色風化礫の砂粒を多く含む。口縁部外面粘土帯貼付, 口唇は凹状, 下半に刻目。上胴部に5条の微隆起帯, 上下に浮文。
Ⅲ-75	138	SK32	弥生甕	12.2	(3.0)		にぶい褐色	結晶片岩を含む。口縁部は上方に拡張し強い横ナデ。内外面被熱赤変, 器表の荒れが激しい。
〃	139	〃	〃		(4.9)	4.9	にぶい黄橙色	チャートの粗粒砂を多く含む。内面ナデ, 外面ハケ。器表の荒れが激しい。
〃	140	〃	〃		(8.4)	7.5	にぶい橙色	チャート, 赤色風化礫の粗粒砂を多く含む。器表の荒れが激しい。
Ⅲ-76	142	P6	〃		(5.2)		灰黄褐色	チャート, 他の細~粗粒砂を含む。櫛描直線文を3~4帯施文, その上にドーナツ状の浮文, 下に連続刺突文を配する。
〃	143	包含層	弥生壺		(4.0)		にぶい黄橙色	チャート, 赤色風化礫を多く含む。口縁部を上下に大きく拡張, 外面に格子目文を施す。
〃	144	〃	弥生甕	15.8	(2.5)		〃	チャート, 頁岩, 赤色風化礫, シャーモットを含む。口縁部・口唇強い横ナデ。
〃	145	〃	〃		(7.4)		黄灰色	チャート, 砂岩, 風化礫を多く含む。上胴部に櫛描直線文3帯, その上にドーナツ状の浮文, 下には棒状浮文を列状に配する。
〃	146	〃	〃		(2.7)	5.7	にぶい黄橙色	チャート, 他の砂粒を多く含む。内外面ナデ。内面煤ける。
〃	147	〃	〃		(5.7)	4.6	褐灰色	チャート, 風化礫の粗粒砂を多く含む。内外面器表の剥離が激しい。
〃	148	〃	弥生高杯		(4.5)		にぶい黄橙色	チャート, 頁岩, 赤色風化礫の砂粒を含む。外面鋭利な工具で鋸歯文, 上下に沈線帯を描く。

### 出土遺物(石器)観察表

挿 番 号	図 版 番 号	出土場所 (遺構)	器 種	法量 (cm/g)				石 材	特 徴
				長さ	幅	厚さ	重さ		
Ⅲ-50	15	ST1 下層~床	叩石	12.4	8.3	2.8	433	砂岩	河原石。長側縁に僅かに敲打痕を認める。
〃	16	ST1 中層	円礫	12.9	7.6	4.0	562	〃	河原石。特に使用痕跡を認めない。
〃	17	ST1 下層	〃	9.3	7.2	3.8	355	〃	河原石。先端に1箇所小さな敲打痕を認める。
〃	18	ST1 床	砥石か	20.2	10.5	3.8	1,200	〃	両主面及び一方の側縁は著しく摩耗。砥石として使用したものであろうか。
〃	19	〃	打製石斧	9.5	5.0	0.9	58	頁岩	前・後主面に大きな剥離痕が見られる。先端(刃部)の一部が摩耗している。
〃	20	ST1 中層	削器	6.0	5.4	1.1	39	〃	扁平な剥片の剥離面に押圧剥離を施し刃部を成形。
〃	21	ST1 床	不明	6.7	6.5	4.1	34	軽石	平面形, 断面形ともに平行四辺形をなす。使用痕を特に認めず。
〃	22	ST1	円礫	4.2	2.5	2.2	32	砂岩	特に使用痕を認めず。
〃	23	〃	〃	3.3	2.9	2.0	26	〃	〃
〃	24	ST1 中層	石包丁	(3.7)	(2.5)	0.55	6	サヌカイト	石包丁の刃部細片。

挿図 番号	図版 番号	出土場所 (遺構)	器種	法量 (cm/g)				石材	特徴
				長さ	幅	厚さ	重さ		
Ⅲ-50	25	ST1 床	削器	4.9	1.9	0.3	3.3	頁岩	扁平な剥片の一方の側縁に押圧剥離を施し刃部を成形。
〃	26	ST1 P2	石鏃	(1.7)	(1.1)	0.3	44	サヌカイト	基を欠く。
〃	27	ST1 床	不明	45.7	29.8	8.0	11.700	砂岩	扁平なパイプ状の平面形を呈する。側縁の一部を面取している。
Ⅲ-51	28	〃	陰陽 石	46.8	17.6	8.5	7.740	〃	扁平な河原石を加工して男根と女陰を表現。両側縁は特に強く研磨。陽痕先端は敲打と研磨、陰部は敲打と沈線で造形。
Ⅲ-52	32	ST2 上層	叩石	9.8	8.4	2.3	296	〃	両主面の中央部に敲打痕。
Ⅲ-53	41	SK2	砥石	22.3	16.6	6.5	3.950	〃	一方の主面の半分と一方の側縁が特に磨耗している。側縁は平坦面を呈する。
Ⅲ-58	51	SK1 中層	磨石 か	10.2	7.9	4.1	600	チャート	稜線部が磨耗している。
Ⅲ-60	62	SK4 中層	打製 石斧	12.0	7.0	1.8	165	頁岩	大きな剥離痕が見られる。特に使用痕は認めず。
〃	63	〃	〃	(10.0)	8.7	2.2	184	砂岩	河原石の剥片を加工。
Ⅲ-63	69	SK8 下層	叩石	9.3	9.0	2.9	363	〃	一方の主面中央と縁部の一部に敲打痕を僅かに認める。
〃	70	〃	砥石 か	20.4	16.0	6.2	2,900	〃	縁辺は敲打痕が巡り煤けている。一方の主面中央部が著しく磨耗。
Ⅲ-66	89	SK13 中層	石錘	11.1	9.2	3.6	462	〃	河原石。縁部に大きな敲打痕が見られる。
〃	90	SK13	不明	9.1	6.8	5.2	37	軽石	特に使用痕を認めず。
〃	91	〃	〃	9.0	5.3	6.4	47	〃	〃
〃	92	〃	石斧	(3.6)	2.4	0.6	6	頁岩	扁平片刃石斧。基部と刃部の大部分が欠損。全面研磨条痕が見られる。
〃	93	〃	石鏃	(3.1)	1.5	0.3	1.5	サヌカイト	両面に主剥離面が大きく残る。茎部と側縁の一部が欠落。
〃	94	SK10	〃	(5.7)	1.8	0.4	3.7	〃	茎部が欠損。裏面に主剥離面が大きく残る。
Ⅲ-67	96	SK15	打製 石斧	9.0	7.9	2.1	194	砂岩	河原石の剥片を利用。側縁の一部に刃部を付ける。
Ⅲ-68	101	SK16	石鏃	(1.6)	1.5	0.4	1	サヌカイト	凹基。先端部欠損。
〃	102	SK16 床	砥石	19.0	11.7	8.0	2,220	砂岩	一方の主面と側縁に使用による磨耗。
Ⅲ-69	107	SK17 上層	不明	12.1	6.0	2.9	323	〃	先端部に僅かに敲打痕が見られる。
〃	108	〃	叩石 か	10.2	7.1	2.7	303	〃	短側縁部に敲打痕と磨耗痕跡が見られる。
Ⅲ-70	113	SK18	磨石	8.3	6.2	6.0	444	〃	2個所に強い磨耗による面ができています。
Ⅲ-72	131	SK21	石鏃	3.2	1.1	0.4	1	サヌカイト	有茎鏃。
Ⅲ-73	135	SK23 上層	叩石	18.7	5.8	5.0	740	チャート	上下両端に敲打痕あり。

挿図 番号	図版 番号	出土場所 (遺構)	器種	法量 (cm/g)				石材	特徴
				長さ	幅	厚さ	重さ		
Ⅲ- 75	141	SK32 下層	石鏃	(2.2)	2.1	0.4	1.4	サヌカイト	先端欠損。平基式。
Ⅲ- 76	149	包含層	叩石	11.9	5.1	5.0	422	砂岩	上下両端に敲打痕あり。
〃	150	〃	打製 石斧	(4.1)	5.5	1.1	33	頁岩	基部側が大きく欠損。
〃	151	〃	石鏃	(2.0)	1.7	0.4	1.6	サヌカイト	茎部欠損。凸基式。

## 8. Ⅲ-3-1～5区

### 1. 調査区の概要

1～5区の小区に細分し、調査を実施した。遺構番号は各小調査区ごとに連番を付したもので、Ⅲ-3区内で連番のもの等やや変則となっている。煩雑さを避けるため、基本的には調査時に付した遺構番号をそのまま踏襲している。なお、STはⅢ-3-1区とⅢ-3-2区で連番となっている。

### 2. 基本層序(図Ⅲ-77)

基本層序はⅢ-3-2区・Ⅲ-3-3区・Ⅲ-3-5区の北壁で確認した。検出面の標高は西から東にむけて徐々に高くなりⅢ-3-5区が最も高い。Ⅲ-3-2区・Ⅲ-3-3区では遺構検出面の上層で18～19世紀の整地土層を確認した。

#### Ⅲ-3-2区の層位

- 第Ⅰ層 細礫が少量混じる灰黄褐色(10YR4/2)粘土質シルト層(現耕作土)
- 第Ⅱ層 細礫が混じる灰黄褐色(10YR4/2)粘土質シルト層(旧耕作土か)
- 第Ⅲ層 地山の土粒を多量に含むにぶい黄褐色(10YR4/3)粘土質シルト層(18～19cの整地層)
- 第Ⅳ層 灰黄褐色～にぶい黄褐色(10YR5/2～5/4)中粒砂～細粒砂質シルト層(基盤層)

#### Ⅲ-3-3区の層位

- 第Ⅰ層 灰黄褐色(10YR4/2)粘土質シルト層(現耕作土)
- 第Ⅱ層 暗灰黄色(2.5Y4/2)粘土質シルト層(旧耕作土)
- 第Ⅲ層 地山の土粒を多量に含む灰黄褐色(10YR4/2)粘土質シルト層(18～19cの整地層)
- 第Ⅳ層 黒褐色(10YR2/2)粘土質シルト層(黒ボク土\_基盤層)
- 第Ⅴ層 黄褐色(10YR5/6)細粒砂質～粘土質シルト層(基盤層)

#### Ⅲ-3-5区の層位

- 第Ⅰ層 細礫が混じる灰黄褐色(10YR5/2)シルト層(耕作土)
- 第Ⅱ層 褐色(10YR5/4)細粒砂質シルト層(基盤層)

### 3. 検出遺構と遺物

#### (1)ST(調査区ごとに連番)

##### ST1(Ⅲ-3-1区)(図Ⅲ-78)

調査区北西部で検出した竪穴建物跡である。大部分は調査区外である。円形を呈していたと推測される。検出面からの深さは16cmである。壁溝は幅14cm、深さ5cmである。埋土は暗灰黄色粘土質シルト、にぶい黄褐色粘土質シルト、黒褐色粘土質シルト等である。

##### ST2(Ⅲ-3-1区)(図Ⅲ-79)

調査区西部で検出した竪穴建物跡である。SB2-P77・109、P111、攪乱に切られる。長軸約4.7m、短軸約3.3mのややいびつな隅丸長方形を呈する。検出面からの深さは25cmであり、埋土は黒褐色粘土質シルトである。東側には張り出し部が認められ、煙道の可能性がある。貼床が認められ、床面で

13基のピットを検出した。そのうちP125・132が支柱穴と考えられる。

図示した出土遺物はサヌカイト製の打製石鏃(1)である。抉りの深い凹基式である。調整剥離は中央部付近まで施される。混入品である。古墳時代後期の竪穴建物跡か。

#### ST3(Ⅲ-3-1・2区)(図Ⅲ-80)

調査区北部で検出した竪穴建物跡である。一部は調査区外である。SD3, P93~95・116, Ⅲ-3-2区\_SK1等に切られる。長軸約3.7m, 短軸3.7m以上の隅丸長方形か隅丸方形を呈していたと推測される。検出面からの深さは14cm, 埋土は黒色土である。貼床が認められ, 床面では6基のピットを検出した。

図示した出土遺物は須恵器の杯身(2)である。内外面とも回転ナデ調整である。外底面はヘラ切り後ナデ調整を施す。7世紀の竪穴建物跡である。

#### ST4(Ⅲ-3-1区)(図Ⅲ-81)

調査区南東部で検出した竪穴建物跡である。大部分が調査区外である。SU10等に切られる。一辺2.4m以上の隅丸長方形か隅丸方形を呈していたと推測される。検出面からの深さは25cmであり, 埋土は黒褐色粘土質シルトである。北西方向には煙道がみられる。床面では4基のピットを検出した。そのうちP138・139は埋土に焼土を多く含み, カマド内に位置することから支脚孔と考えられる。

図示した出土遺物は須恵器の壺(3)である。外面はカキ目調整であり, 内面には当て具痕跡が認められる。7世紀の竪穴建物跡である。

#### ST1(Ⅲ-3-3区)(図Ⅲ-82)

調査区西部で検出した竪穴建物跡である。残存状態は悪く, 貼床が認められる程度であった。長軸約5.0m, 短軸約2.9mの不整形を呈しており, 規模・形状から複数の遺構が重複している可能性がある。検出面からの深さは7cmであり, 埋土は黒褐色粘土質シルトである。床面では9基のピットを検出した。

図示した出土遺物は須恵器の杯蓋(4)・杯身(5)・高杯(6)である。4は口縁部内面にかえりを付し, 口唇部は丸くおさめる。天井部外面は回転ケズリ調整である。口縁部は内外面とも回転ナデ調整である。5の立ち上がりは短く, 端部は尖らせる。内外面とも回転ナデ調整である。6は内外面とも回転ナデ調整である。焼成はやや不良である。7世紀の竪穴建物跡である。

#### ST2(Ⅲ-3-3区)(図Ⅲ-83)

調査区南部で検出した竪穴建物跡である。SK9に切られる。大部分が調査区外であり, 平面形・規模は不明瞭である。検出面からの深さは10cmであり, 埋土は黒褐色粘土質シルトである。

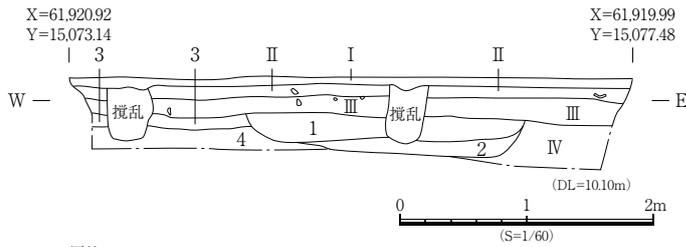
図示した出土遺物は須恵器の杯(7)である。外底面のやや内側に高台を付す。高台外端部をつまみ出す。内外面とも回転ナデ調整である。古代の土坑の可能性はある。

#### (2)SB(Ⅲ-3-1~5区で一連の番号)

##### SB1(図Ⅲ-84)

Ⅲ-3-1区の北西部で検出した掘立柱建物跡である。西側は調査区外である。東側柱列はSB2の東側柱列と一致する。P49・53・59・69・70で構成される。桁行4.05m, 梁行1.8m以上であり, 棟方向はN-3°31'-Eである。柱穴は1辺約70cmの隅丸方形のものと直径約30cmの円形のものである。

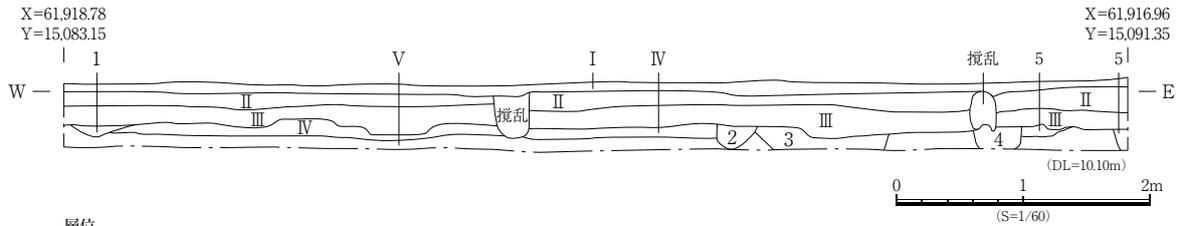
図示した出土遺物はP49から出土した土師器の杯(8)である。磨耗により調整等の観察は困難である。



- 層位
- 第I層 細礫が少量混じる灰黄褐色 (10YR4/2) 粘土質シルト層 (現耕作土)
  - 第II層 細礫が混じる灰黄褐色 (10YR4/2) 粘土質シルト層 (旧耕作土か)
  - 第III層 地山の土粒を多量に含む黄褐色 (10YR4/3) 粘土質シルト層 (18~19cの整地層)
  - 第IV層 灰黄褐色~にぶい黄褐色 (10YR5/2~5/4) 中粒砂~細粒砂質シルト層 (基盤層)

- 遺構埋土
- 1. 地山の土粒を少量含む黒褐色 (10YR3/2) 粘土質シルト (SK1)
  - 2. 地山の土粒と黒色土粒を含む黒褐色 (10YR3/2) 粘土質シルト (SK1)
  - 3. 地山の土粒を少量含む黒褐色 (10YR3/2) 粘土質シルト (ST3埋土)
  - 4. 地山の土粒を含む黒褐色 (10YR2/3) 粘土質シルト (ST3貼床)

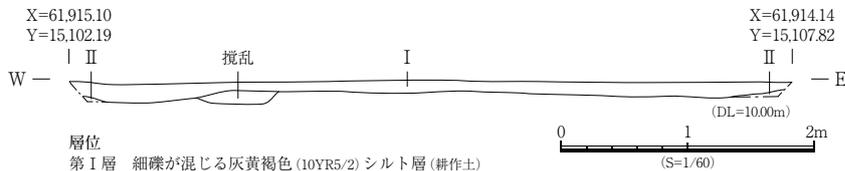
III-3-2区調査区北壁



- 層位
- 第I層 灰黄褐色 (10YR4/2) 粘土質シルト層 (現耕作土)
  - 第II層 暗灰黄色 (2.5Y4/2) 粘土質シルト層 (旧耕作土)
  - 第III層 地山の土粒を多量に含む灰黄褐色 (10YR4/2) 粘土質シルト層 (18~19cの整地層)
  - 第IV層 黒褐色 (10YR2/2) 粘土質シルト層 (黒ボク土\_基盤層)
  - 第V層 黄褐色 (10YR5/6) 細粒砂質~粘土質シルト層 (基盤層)

- 遺構埋土
- 1. 地山の土粒を含む黒褐色 (10YR3/2) 粘土質シルト
  - 2. 地山のブロックを含む黒褐色 (10YR3/2) 粘土質シルト
  - 3. 地山のブロックを少量含む黒褐色 (10YR3/2) 粘土質シルト
  - 4. 地山の土粒を少量含む黒褐色 (10YR3/2) 粘土質シルト
  - 5. 地山の土粒を多量に含む黒褐色 (10YR3/2) 粘土質シルト

III-3-3区調査区北壁



- 層位
- 第I層 細礫が混じる灰黄褐色 (10YR5/2) シルト層 (耕作土)
  - 第II層 褐色 (10YR5/4) 細粒砂質シルト層 (基盤層)

III-3-5区調査区北壁

図III-77 III-3-2・3・5区北壁

SB2 (図Ⅲ-85)

Ⅲ-3-1区の南西部で検出した掘立柱建物跡である。大部分は調査区外である。東側柱列はSB1の東側柱列と一致する。P61・77・109で構成される。棟方向はN-1°23'-Eである。柱穴は1辺約60cmの隅丸方形のものである。

SB3 (図Ⅲ-86)

Ⅲ-3-1区とⅢ-3-2区にまたがって検出した。2間×3間の東西棟の掘立柱建物跡である。P3~8・79・85・88で構成される。桁行5.7m, 梁行4.5mであり, 棟方向はN-88°4'-Wである。柱穴は1辺60~80cmの隅丸方形のものである。

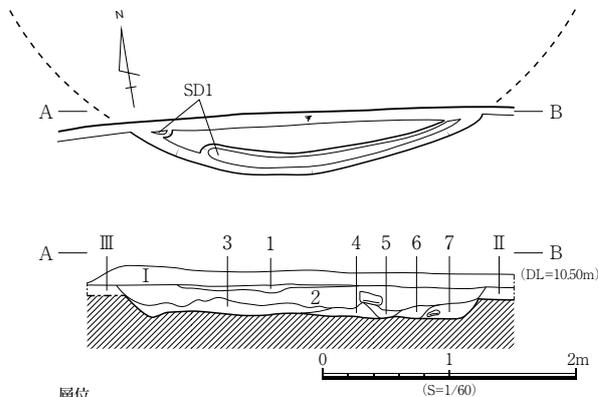
図示した出土遺物はP5から出土した須恵器の杯(9)である。外底面には断面方形の高台を付す。内外面とも回転ナデ調整である。

SB4 (図Ⅲ-87)

Ⅲ-3-1区とⅢ-3-2区にまたがって検出した南北棟の掘立柱建物跡である。P1・2・13・23・80・104で構成される。桁行4.2m, 梁行1.8m以上であり, 棟方向はN-54°56'-Wである。柱穴は1辺50~70cmの隅丸方形のものと直径30~60cmの円形のものである。

SB5 (図Ⅲ-88)

Ⅲ-3-2区の中央部で検出した2間×3間の南北棟の掘立柱建物跡である。Ⅲ-3-2区\_P2/Ⅲ-3-3区\_P86・Ⅲ-3-2区\_P3・Ⅲ-3-2区\_P7/Ⅲ-3-3区\_P96・Ⅲ-3-2区\_P12・Ⅲ-3-2区\_P40/Ⅲ-3-3区\_P99・Ⅲ-3-2区\_P96・Ⅲ-3-2区\_P97・Ⅲ-3-2区\_P98・Ⅲ-3-2



層位

- 第Ⅰ層 細礫が混じる灰黄褐色(10YR4/2)粘土質シルト層(現耕作土)
- 第Ⅱ層 斑鉄がみられる灰色ブロックを多量に含む灰黄褐色(10YR4/2)粘土質シルト層
- 第Ⅲ層 黄褐色(10YR5/6)細粒砂質シルト層(基盤層)

遺構埋土

- 1. にぶい黄褐色(10YR4/3)粘土質シルトブロックを含む暗灰黄色(2.5Y5/2)粘土質シルト
- 2. 地山の土粒を含むにぶい黄褐色(10YR4/3)粘土質シルト
- 3. 地山の土粒を含む黒褐色(10YR3/2)粘土質シルト
- 4. 地山の土粒を少量含む褐灰色(10YR4/1)粘土質シルト(貼床)
- 5. 地山のブロックを多量に含むにぶい黄褐色(10YR4/3)粘土質シルト(貼床)
- 6. 灰黄褐色(10YR5/2)細粒砂質シルト~細粒砂のブロックを多量に含む褐灰色(10YR4/1)粘土質シルト(貼床)
- 7. 灰黄褐色(10YR5/2)粘土質~細粒砂質シルトの土粒を少量含む褐灰色(10YR4/1)粘土質~細粒砂質シルト(貼床)

図Ⅲ-78 Ⅲ-3-1区ST1平面図・断面図

区\_P99で構成される。桁行5.25m，梁行3.6m以上であり，棟方向はN-8°53'-Eである。柱穴は1辺65~90cmの隅丸方形のものである。

SB6 (図III-89)

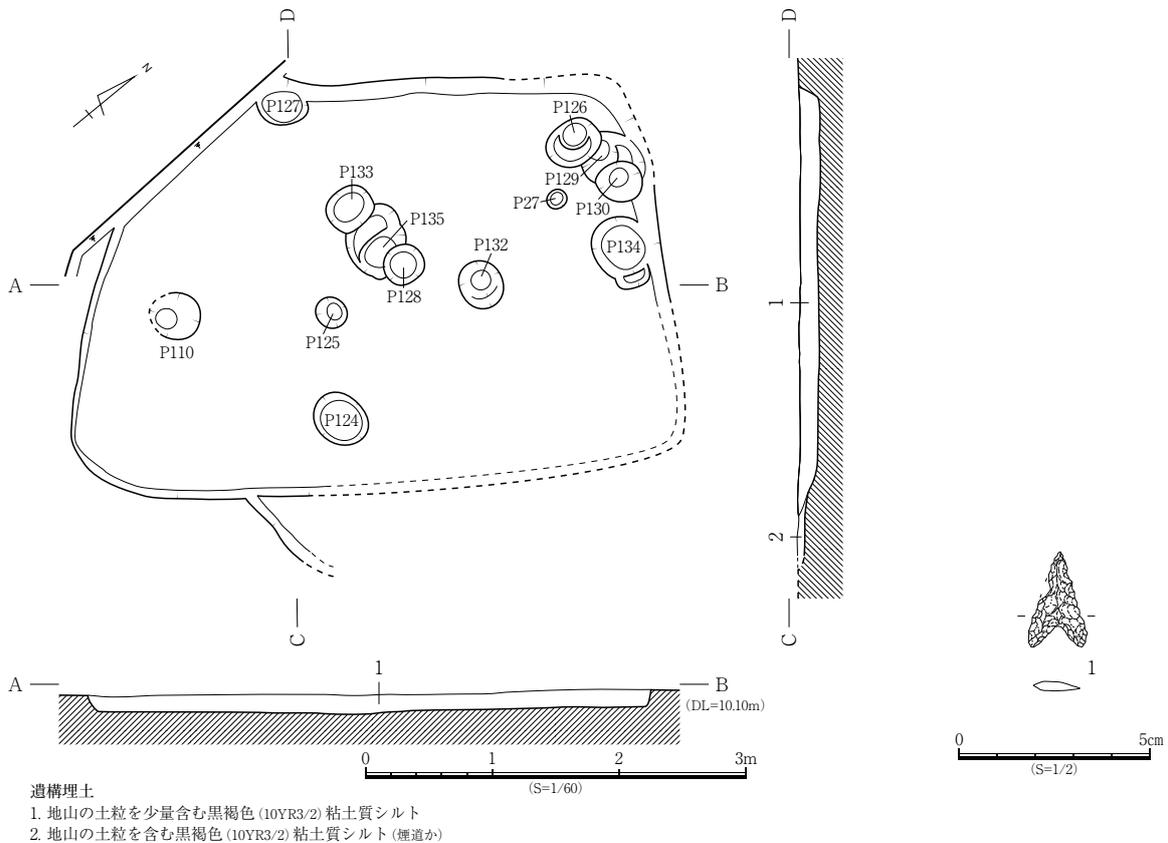
III-3-2区とIII-3-3区にまたがって検出した東西棟の掘立柱建物跡である。P6・11・13・48・71・72で構成される。桁行6.3m，梁行2.1m以上であり，棟方向はN-79°33'-Wである。柱穴は1辺65~100cmの隅丸方形のものである。

図示した出土遺物はIII-3-3区\_P13から出土した須恵器の蓋(10)である。器高は低く，口縁部を屈曲させる。天井部外面はヘラ切り後，ナデ調整である。それ以外の部位は回転ナデ調整である。

SB7 (図III-90)

III-3-2区とIII-3-3区にまたがって検出した東西棟の掘立柱建物跡である。P19・40・49・66・71・114で構成される。桁行6.6m，梁行2.7m以上であり，棟方向はN-83°29'-Wである。柱穴は1辺55~85cmの隅丸方形のものを基本とするが不整形のものも含む。

図示した出土遺物はIII-3-3区\_P49から出土した土師器の杯(11)，III-3-3区\_P66から出土した須恵器の提瓶(12)である。11は折り込み口縁である。外底面は回転ヘラ切り後，ナデ調整を施す。内外面とも回転ナデ調整であり，一部にミガキ調整を施す。12の口縁部は内外面ともヨコナデ調整を施し，口唇部には面取りを施す。外面には1条の凹線を巡らせる。体部外面には同心円状にカキ目



図III-79 III-3-1区 ST2 平面図・断面図・遺物実測図

調整を施す。

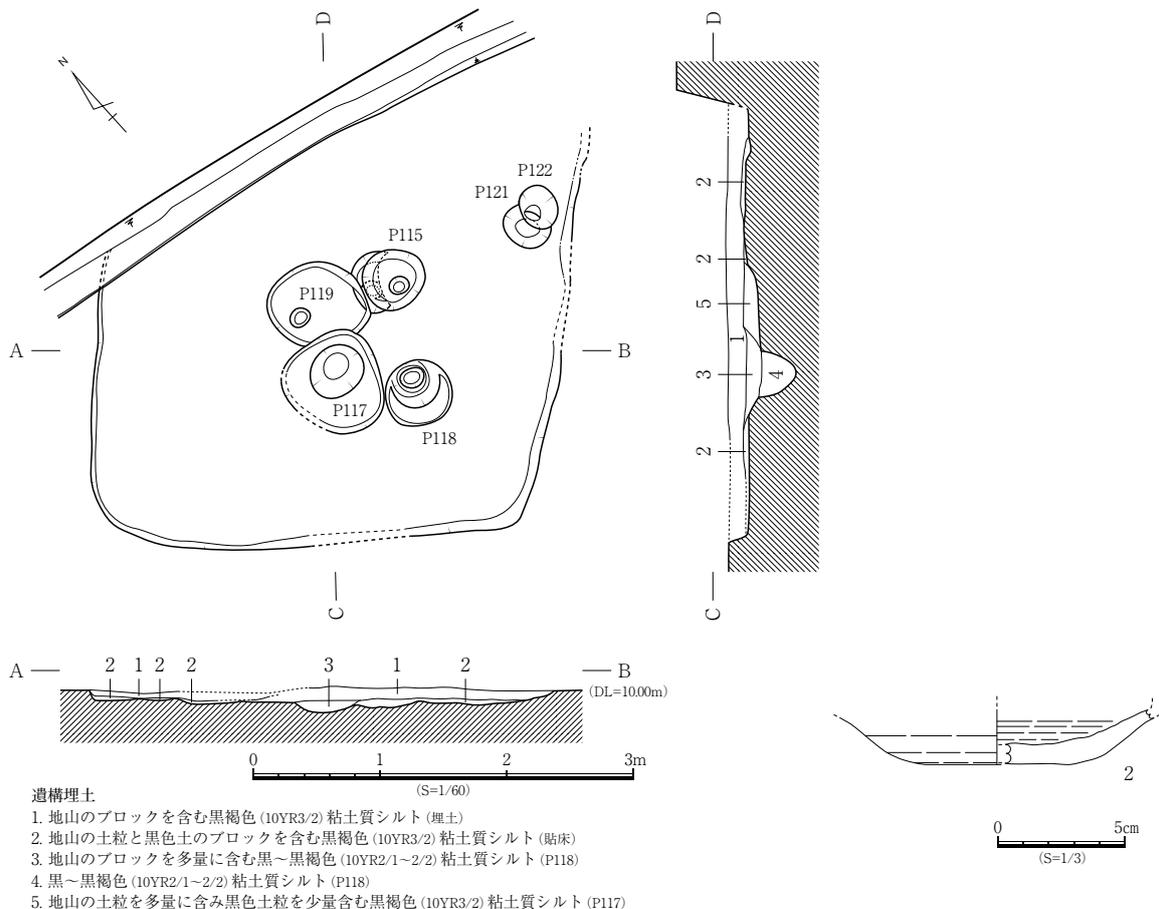
**SB8 (図Ⅲ-91)**

Ⅲ-3-3区の中央部で検出した2間×3間の東西棟の掘立柱建物跡である。P3・12・17・18・22・34・54・57～59・93で構成される。桁行6.3m，梁行4.5mであり，棟方向はN-82°4'-Wである。柱穴は1辺65～105cmの隅丸方形のものである。

図示した出土遺物はⅢ-3-3区\_P3から出土した土師器の皿(13)，Ⅲ-3-3区\_P22から出土した須恵器の杯(14)，Ⅲ-3-3区\_P59から出土した須恵器の蓋(15)，Ⅲ-3-3区\_P93から出土した土師器の杯(16)・甕(17)である。14は焼成不良，磨耗のため調整等の観察は困難であるが，外底面にはヘラ切り痕跡がみられる。15は天井部に扁平な擬宝珠形をつまみを付す。天井部は平らであり，口縁部はわずかに屈曲してひろがる。天井部外面は回転ヘラ切り後，ナデ調整を施す。口縁部内外面は回転ナデ調整である。天井部内面には仕上げナデ調整を施す。16の外底面に断面長方形のしっかりとした高台を付す。磨耗のため調整等の観察は困難である。17は口縁部を折り曲げ，口唇部には面取りを施す。口縁部・外面にはヨコナデ調整，体部内面には横方向のハケ調整を施す。

**SB9 (図Ⅲ-92)**

Ⅲ-3-3区の中央部で検出した東西方向の柱穴列である。P5・35・56で構成される。棟方向はN



図Ⅲ-80 Ⅲ-3-1区 ST3 平面図・断面図・遺物実測図

-80°2'-Wである。柱穴は1辺60~65cmの隅丸方形のものである。柱穴間は2.40~2.70mとややひろい。

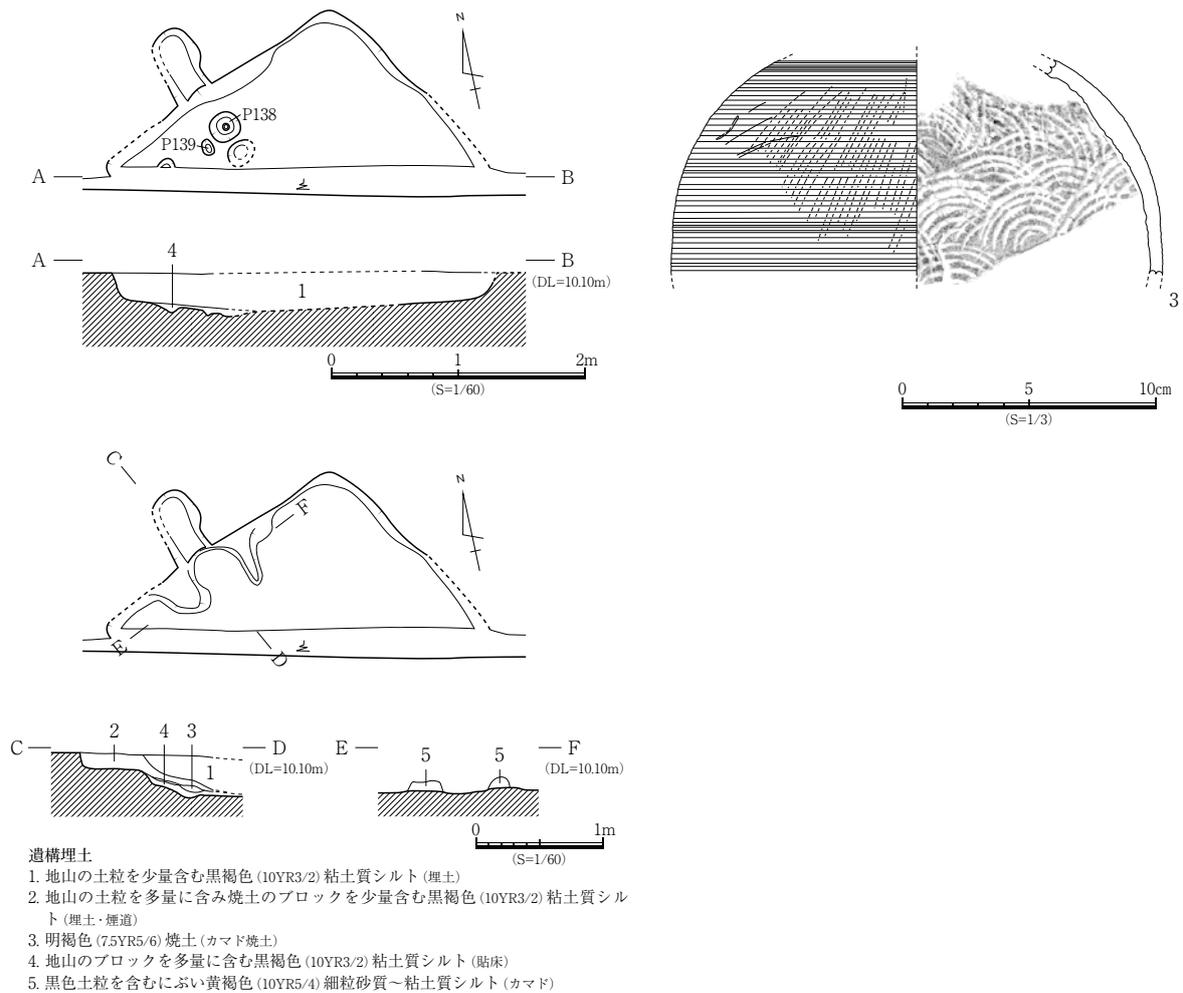
SB10 (図III-93)

III-3-3区の北部で検出した南北棟の掘立柱建物跡である。P8・10・20・26・39・50・51で構成される。桁行4.5m以上、梁行4.2mであり、棟方向はN-0°36'-Eである。柱穴は1辺60~70cmの隅丸方形のものである。

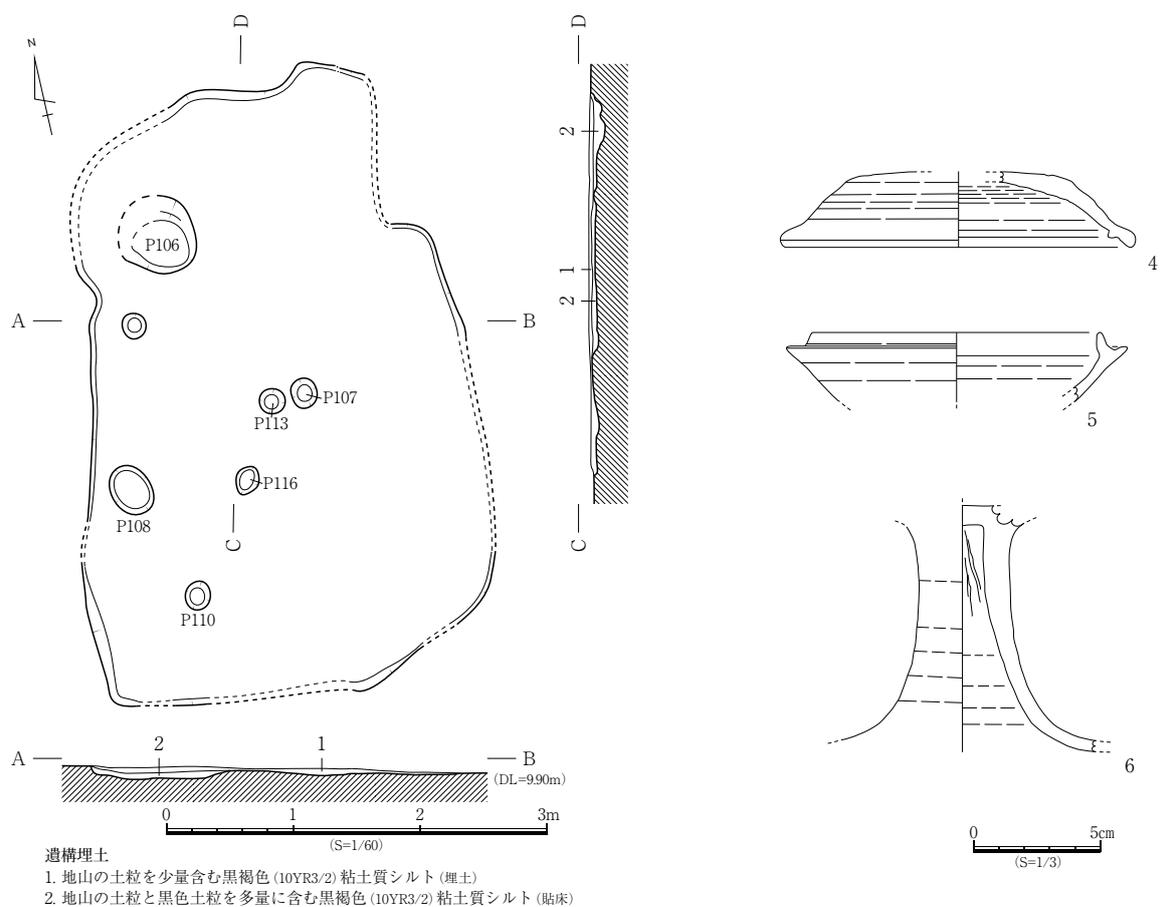
図示した出土遺物はP8から出土した土師器の甕(18)、P20から出土した須恵器の蓋(19)、P39から出土した須恵器の杯(20)である。18の口縁部は内湾し、口唇部は凹面状を呈する。内外面ともヨコナデ調整である。胎土に花崗岩由来の砂粒を含む。搬入品である。19は口縁端部をわずかに曲げる。焼成不良、磨耗のため調整等の観察は困難であるが、口縁部に重ね焼きの痕跡が認められる。20の体部はやや丸みを持って立ち上がり、口唇部は丸くおさめる。内外面とも回転ナデ調整である。

SB11 (図III-94)

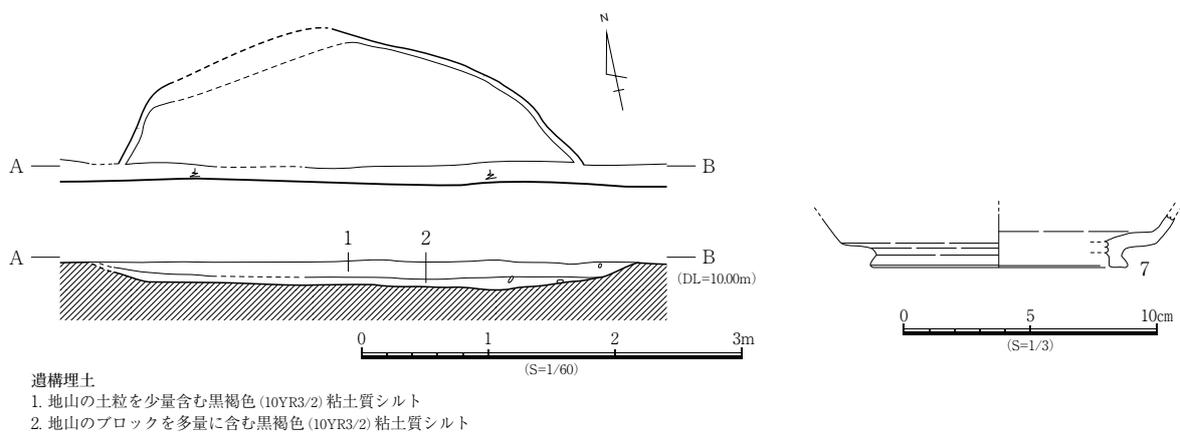
III-3-4区とIII-3-5区にまたがって検出した2間×3間の南北棟の掘立柱建物跡である。P4~7・11・14・15・17・28で構成される。桁行4.6m、梁行3.3mであり、棟方向はN-33°30'-Eである。柱穴は直径40~50cmの楕円形のものである。



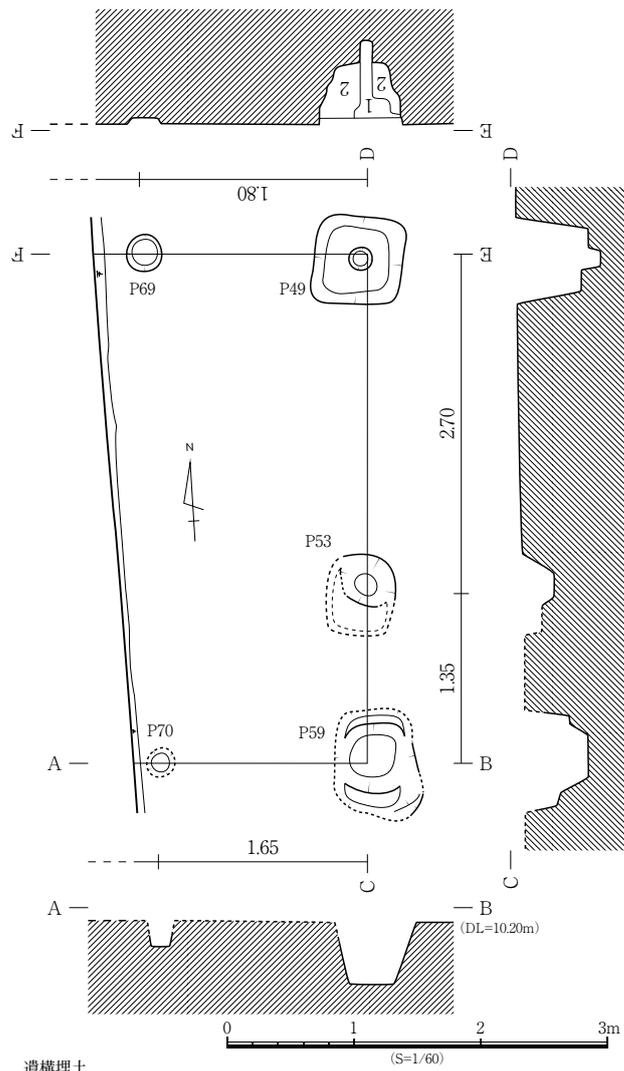
図III-81 III-3-1区ST4平面図・断面図・遺物実測図



図Ⅲ-82 III-3-3区ST1平面図・断面図・遺物実測図

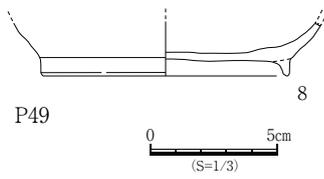


図Ⅲ-83 III-3-3区ST2平面図・断面図・遺物実測図



遺構埋土

1. 地山の土粒が少量混じる黒褐色 (10YR3/2) 粘土質シルト (柱状)
2. 地山のブロックが多量に混じる黒褐色 (10YR3/2) 粘土質シルト



図Ⅲ-84 SB1 平面図・断面図・エレベーション図・遺物実測図

**SB12 (図Ⅲ-95)**

Ⅲ-3-4区とⅢ-3-5区にまたがって検出した南北方向の柱穴列である。Ⅲ-3-4区\_SK3/Ⅲ-3-5区\_P16・Ⅲ-3-4区\_P41/Ⅲ-3-5区\_P17/Ⅲ-3-5区\_P18・Ⅲ-3-4区\_SK4で構成される。本来は掘立柱建物跡を構成していたものと推測される。棟方向はN-7°55'-Eである。柱穴は1辺65~85cmの隅丸方形のもの、直径約80cmの円形のものである。

**(3)SA (Ⅲ-3-1~5区で一連の番号)**

**SA1 (図Ⅲ-96)**

Ⅲ-3-2区の中央部で検出した南北方向の柵跡である。検出長は5.15mであり、P3・30・34・35で構成される。柱穴は直径30~45cmの円形であり、柱間距離は1.35~2.20mである。主軸方向はN-7°39'-Eである。

**SA2 (図Ⅲ-96)**

Ⅲ-3-2区の中央部で検出した南北方向の柵跡である。検出長は5.20mであり、P76・89・94・95で構成される。柱穴は直径35~40cmの円形であり、P95のみ長軸35cm、短軸30cmの隅丸方形である。柱間距離は1.60~1.80mであり、主軸方向はN-8°4'-Eである。

**SA3 (図Ⅲ-96)**

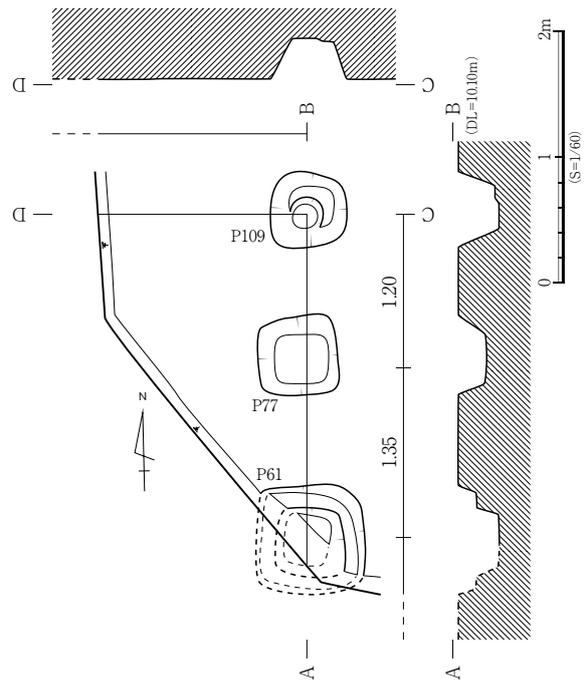
Ⅲ-3-3区の北部で検出した南北方向の柵跡である。検出長は7.20mであり、P9・21・37・118で構成される。柱穴は直径55~65cmの円形または楕円形である。柱間距離は2.10~2.70mであり、主軸方向はN-14°44'-Wである。

**SA4 (図Ⅲ-97)**

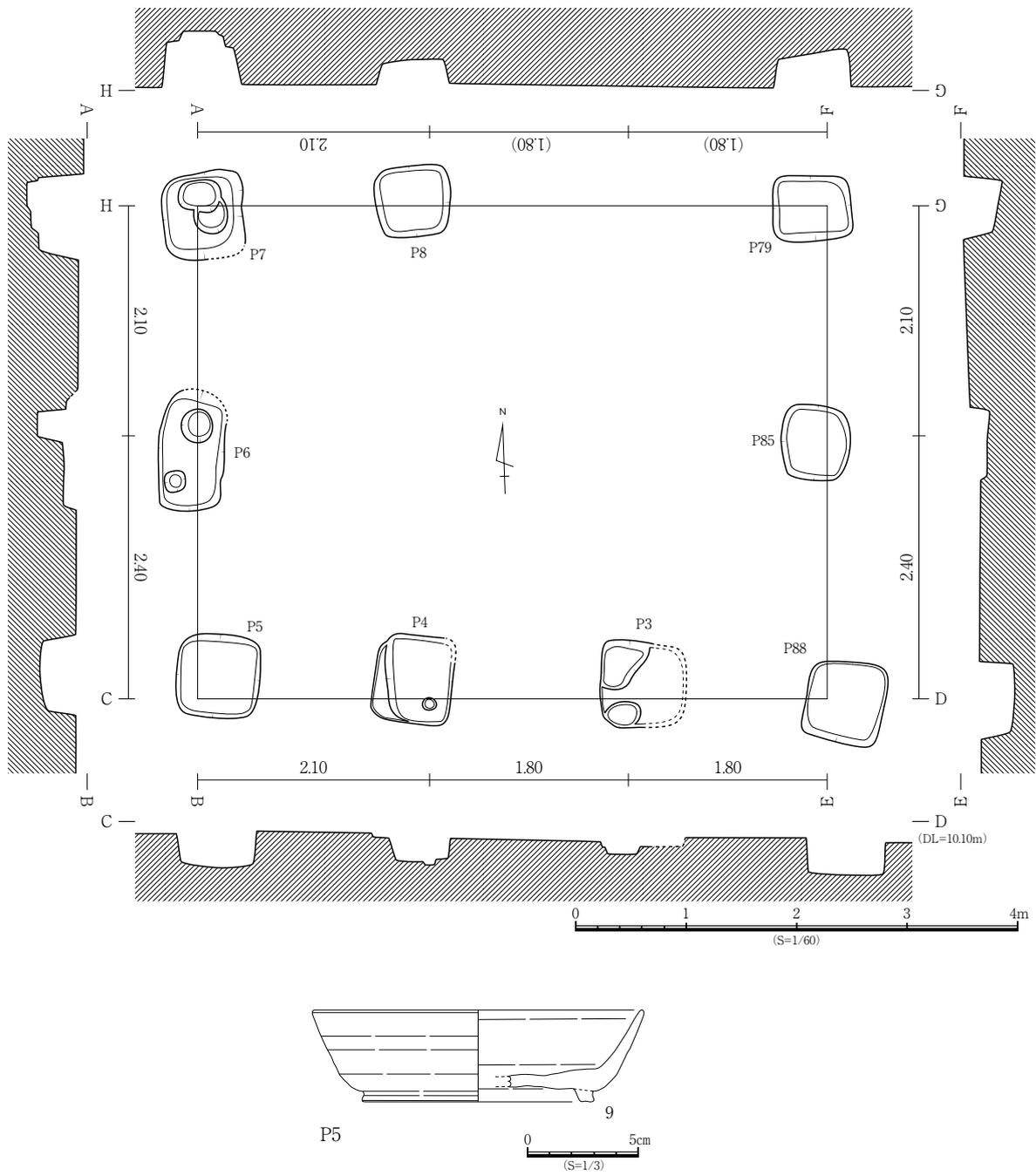
Ⅲ-3-4区の東部で検出した南北方向の柵跡である。検出長は6.00mであり、P2・12・13・37で構成される。柱穴は直径25~40cmの円形であり、柱間距離は1.60~2.30mである。主軸方向はN-19°4'-Eである。

**SA5 (図Ⅲ-97)**

Ⅲ-3-5区の北東部で検出した南北方向の柵跡である。検出長は5.10mであり、P10・19・26・47で構成される。柱穴は直径20~30cmの円形であり、柱間距離は1.40~1.90mである。主軸方向はN-26°12'-Eである。



図Ⅲ-95 SB2 平面図・エレベーション図



図Ⅲ-86 SB3 平面図・エレベーション図・遺物実測図

(4)SK (調査区ごとに連番)

SK2 (Ⅲ-3-1区)

Ⅲ-3-1区北部に位置する。北は調査区外へのびる。長軸約1.3m、短軸約0.8mの隅丸方形を呈する。検出面からの深さは35cmである。

SK3 (Ⅲ-3-1区)

Ⅲ-3-2区南西部に位置する。SU11を切る。長軸約1.1m、短軸約0.8mの隅丸長方形を呈する。検出面からの深さは42cmである。埋土は灰黄褐色粘土質シルトである。

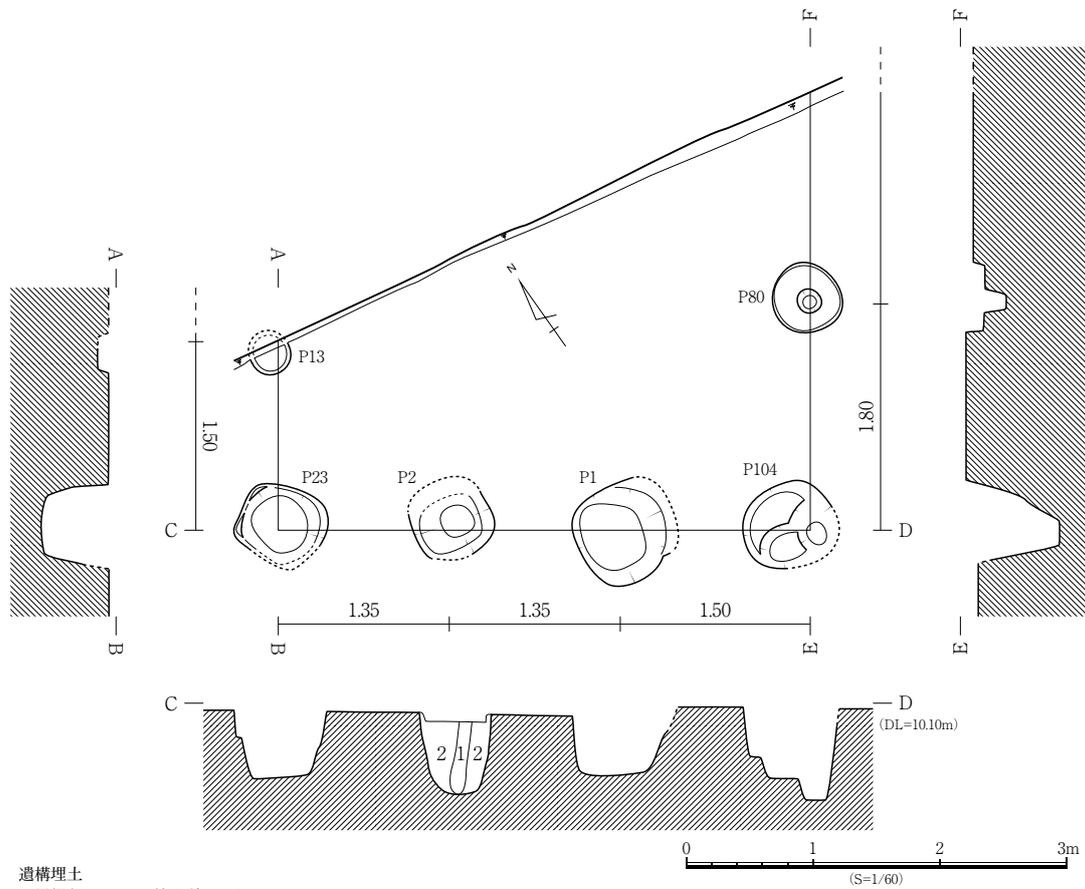
SK1 (Ⅲ-3-3区) (図Ⅲ-98)

Ⅲ-3-3区東部に位置する。SD4を切る。長軸約4.3m、短軸約2.6mの不整形を呈する。検出面からの深さは57cmである。埋土は灰黄褐色粘土質シルトである。複数の遺構が重複している可能性がある。近世廃棄土坑である。

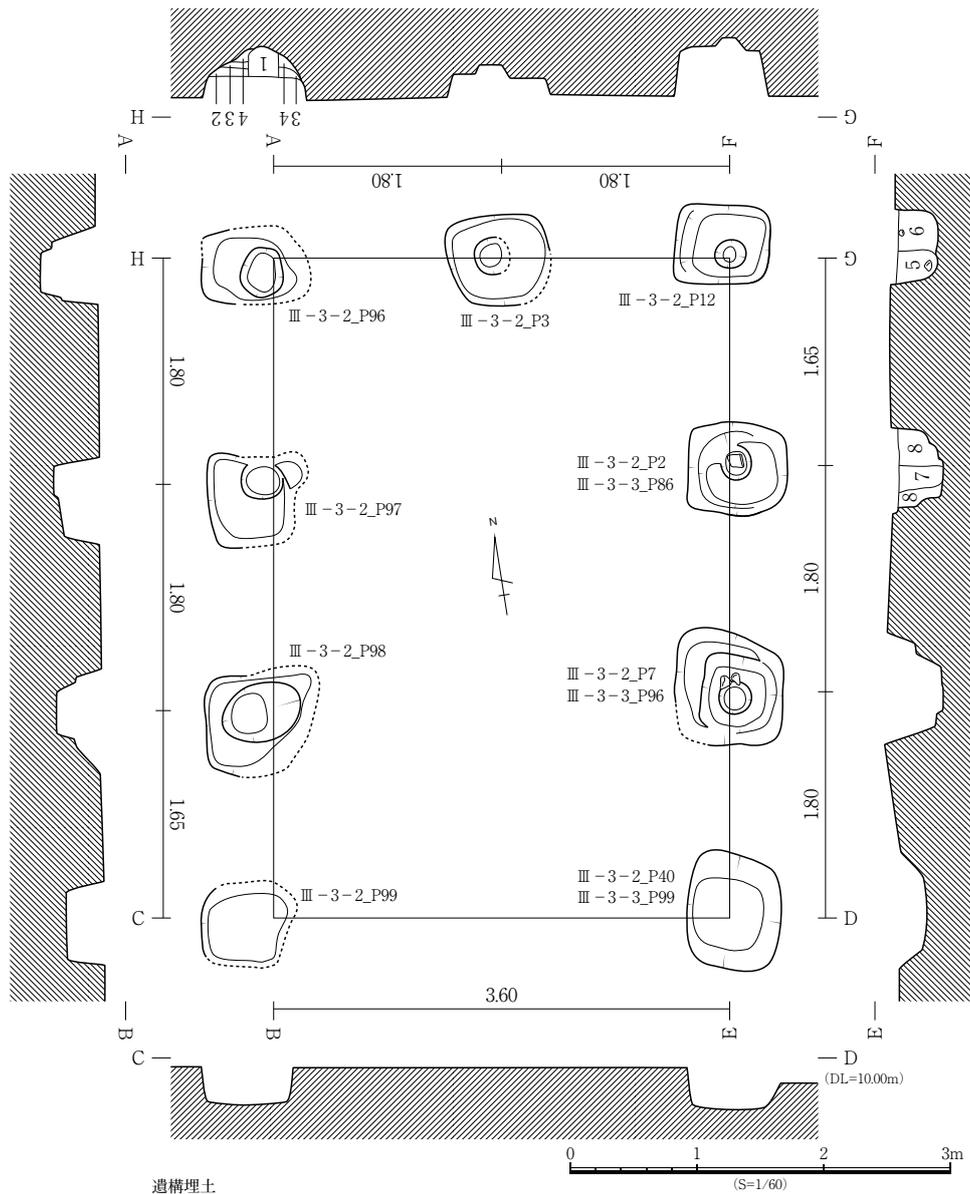
図示した出土遺物は磁器の皿(21)、陶器の鉢(22)である。21の内外面には染付けを施す。見込みには五弁花のコンニャク印判、外底面には渦「福」を施す。22の高台内には墨書が認められる。

SK2 (Ⅲ-3-3区)

Ⅲ-3-3区南東部に位置する。長軸約1.8m、短軸約1.7mの不整形を呈する。検出面からの深さ



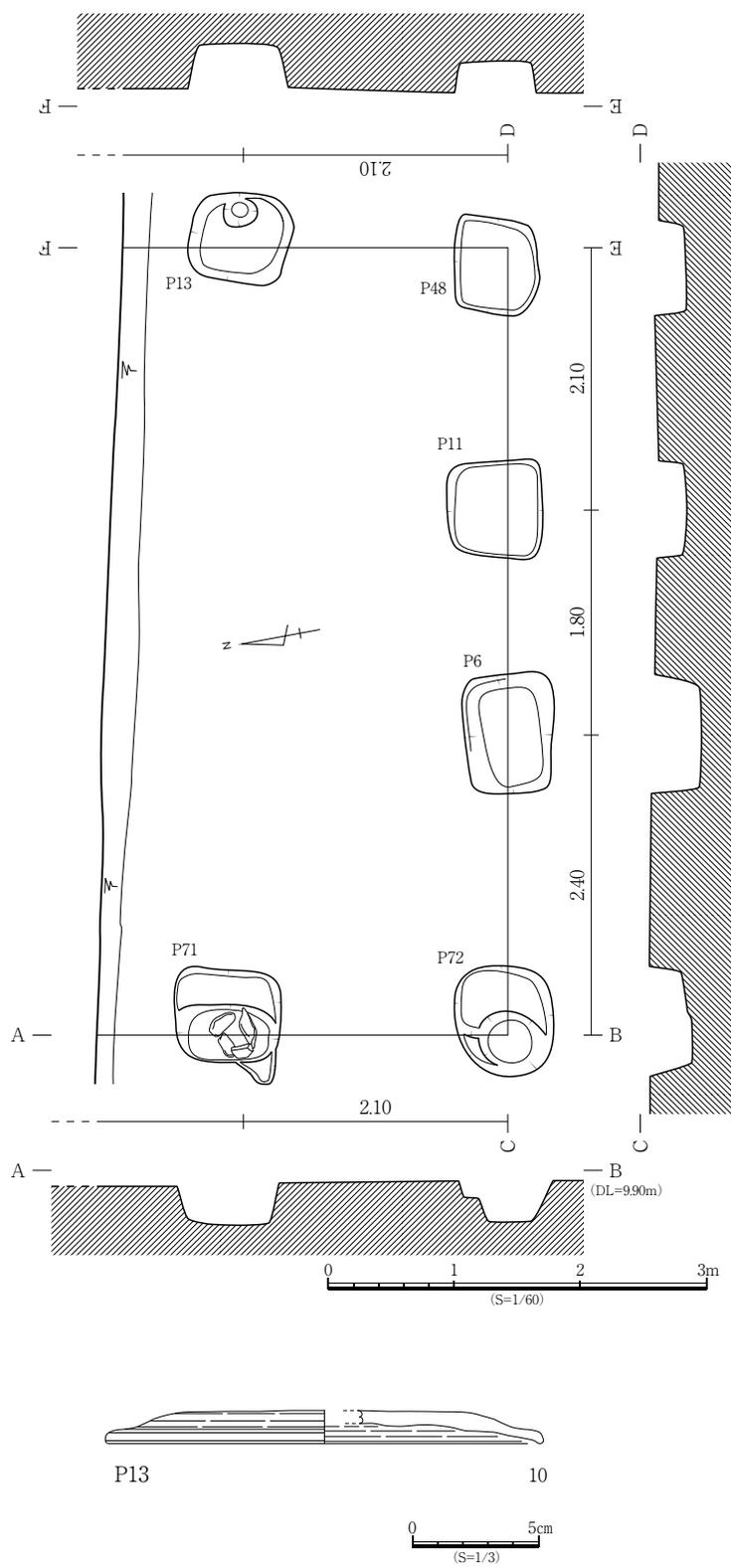
図Ⅲ-87 SB4 平面図・断面図・エレベーション図



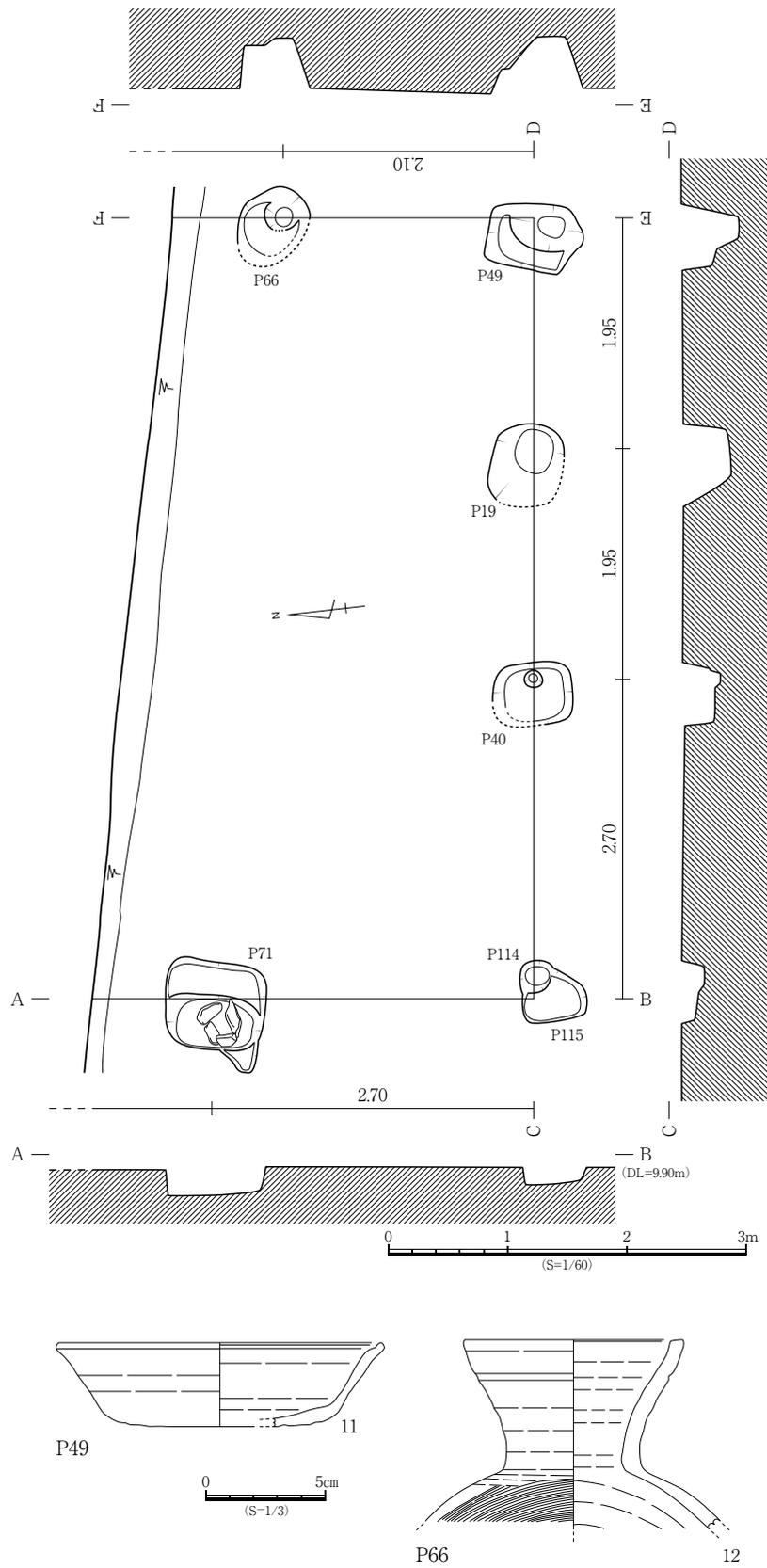
遺構埋土

1. 黒色土粒が少量混じる黒褐色(10YR3/2)粘土質シルト
2. 黒色土のブロックが特に多量に混じる黒褐色(10YR3/2)粘土質シルト
3. 黒褐色(10YR3/2)粘土質シルト
4. 黒色土のブロックが多量に混じる黒褐色(10YR3/2)粘土質シルト
5. 地山の土粒が少量混じる黒褐色(10YR3/2)粘土質シルト(掘抜き痕)
6. 地山のブロックと黒色土粒が混じる黒褐色(10YR3/2)粘土質シルト
7. 地山の土粒が少量混じる黒褐色(10YR3/2)粘土質シルト(掘抜き痕)
8. 地山のブロックが多量に混じり黒色土のブロックが混じる黒褐色(10YR3/2)粘土質シルト

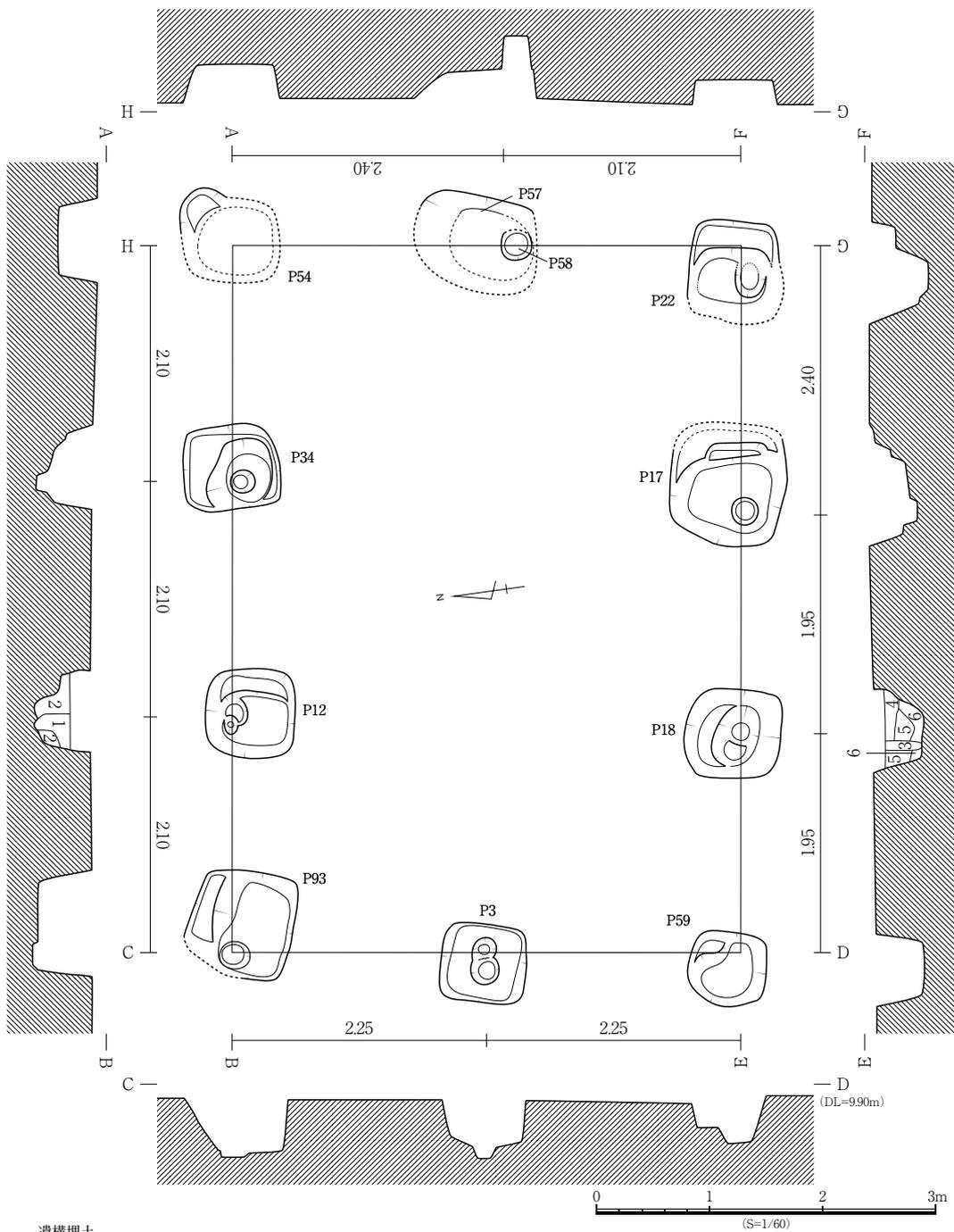
図Ⅲ-88 SB5 平面図・断面図・エレベーション図



図Ⅲ-89 SB6 平面図・エレベーション図・遺物実測図

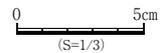
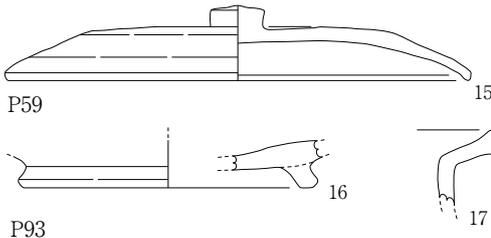
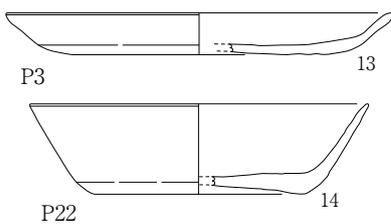


図Ⅲ-90 SB7 平面図・エレベーション図・遺物実測図

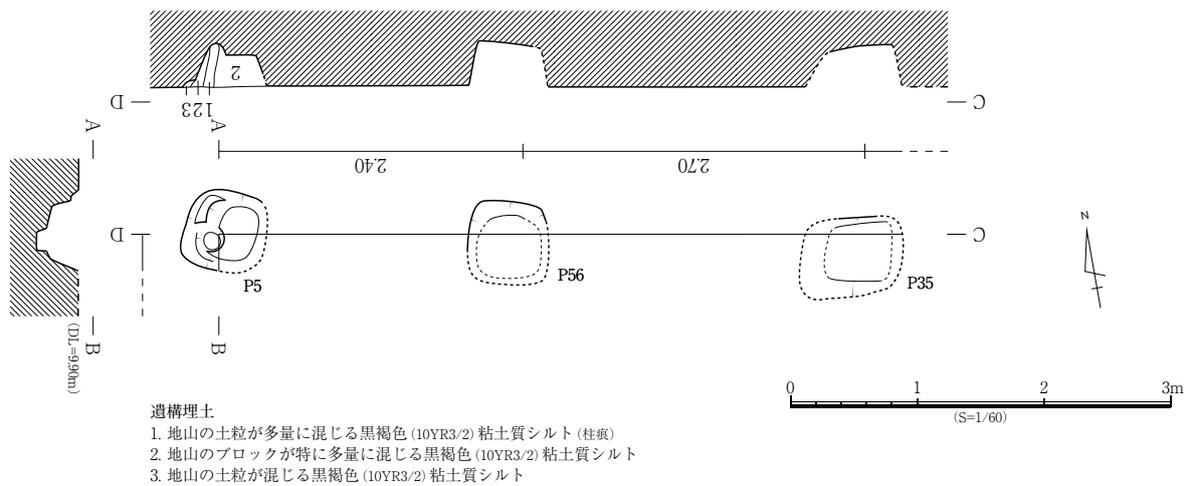


遺構埋土

- |   |   |
|---|---|
| 1. 地山のブロックが混じる黒褐色 (10YR3/2) 粘土質シルト (掘抜き痕) | 4. 地山のブロックが特に多量に混じる黒褐色 (10YR3/2) 粘土質シルト |
| 2. 地山のブロックが多量に混じる黒褐色 (10YR3/2) 粘土質シルト     | 5. 地山のブロックが多量に混じる黒褐色 (10YR3/2) 粘土質シルト   |
| 3. 地山の土粒が少量混じる黒褐色 (10YR3/2) 粘土質シルト (柱痕)   | 6. 地山のブロックが特に多量に混じる黒褐色 (10YR3/2) 粘土質シルト |



図Ⅲ-91 SB8 平面図・断面図・エレベーション図・遺物実測図



図Ⅲ-92 SB9 平面図・断面図・エレベーション図

は35cmである。埋土は灰黄褐色粘土質シルトである。近世土坑である。

**SK3 (Ⅲ-3-3区)**

Ⅲ-3-3区南東部に位置する。南は調査区外である。SD2・5を切る。長軸約1.4m, 短軸0.8m以上の不整形を呈する。検出面からの深さは35cmである。埋土は灰黄褐色粘土質シルトである。近世土坑である。

**SK8 (Ⅲ-3-3区) (図Ⅲ-98)**

Ⅲ-3-3区南西部に位置するハンダ土坑である。SD1を切る。直径約1.4mの円形を呈する。検出面からの深さは49cmである。埋土は灰黄褐色粘土質シルトである。SK9と対となる。

**SK9 (Ⅲ-3-3区) (図Ⅲ-98)**

Ⅲ-3-3区南西部に位置するハンダ土坑である。ST2を切る。直径約1.4mの円形を呈する。検出面からの深さは65cmである。埋土は灰黄褐色粘土質シルトである。SK8と対となる。

図示した出土遺物は陶器の土瓶の蓋(23)・土瓶(24)・甕(25)である。23と24はセットである。外面には緑灰色の釉薬を施す。蓋の外面, 土瓶の上半部に文様を描くが剥落しており, 本来の図柄は不明である。土瓶の下半部には化粧土が塗られている。煤が付着する。25は口縁部を平坦面とし, 外方へ拡張する。内外面に鉄釉を施す。外底面は露胎とし, 砂が付着する。肩部外面には2条の櫛描波状文を施し, 黒色の鉄釉を流し掛けする。

**SK10 (Ⅲ-3-3区) (図Ⅲ-99)**

Ⅲ-3-3区西部に位置する。長軸約1.2m, 短軸約1.0mの隅丸方形を呈する。検出面からの深さは10cmである。埋土は黒褐色粘土質シルトである。

図示した出土遺物は土師器の高杯(26)である。外底面には筒状の脚部が付く。外面下半部はケズリ調整, 上半部はミガキ調整か。内面はヘラミガキ調整後, 放射状の暗文を施す。

**SK12 (Ⅲ-3-3区)**

Ⅲ-3-3区中央部に位置する。ST1, SD1を切る。長軸約1.5m, 短軸約0.9mの不整隅丸長方形

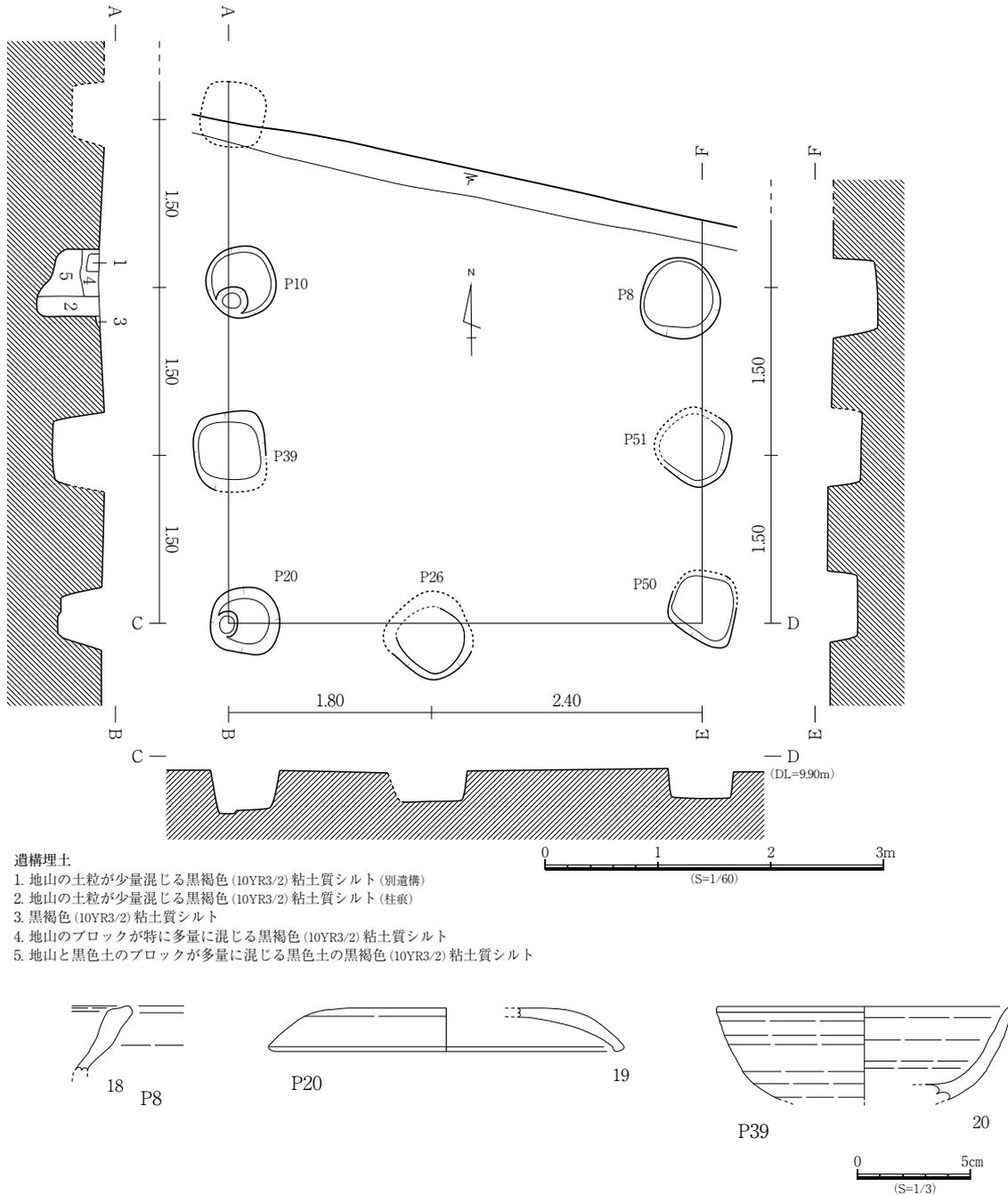
を呈する。検出面からの深さは20cmである。埋土は黒褐色粘土質シルトである。

**SK13 (Ⅲ-3-3区)**

Ⅲ-3-3区中央部に位置する。ST1, SD1を切る。長軸約1.2m, 短軸約0.7mの隅丸長方形を呈する。検出面からの深さは22cmである。埋土は黒褐色粘土質シルトである。

**SK14 (Ⅲ-3-3区)**

Ⅲ-3-3区中央部に位置する。ST1を切り、SD1に切られる。長軸約0.7m, 短軸約0.4mの不整



図Ⅲ-93 SB10 平面図・断面図・エレベーション図・遺物実測図

形を呈する。検出面からの深さは24cmである。埋土は黒褐色粘土質シルトである。

**SK1 (Ⅲ-3-4区) (図Ⅲ-100)**

Ⅲ-3-4区北部に位置する。SU6・7を切る。長軸約1.1m, 短軸0.9m以上の隅丸方形を呈する。検出面からの深さは20cmである。埋土は暗灰黄色粘土質シルトである。

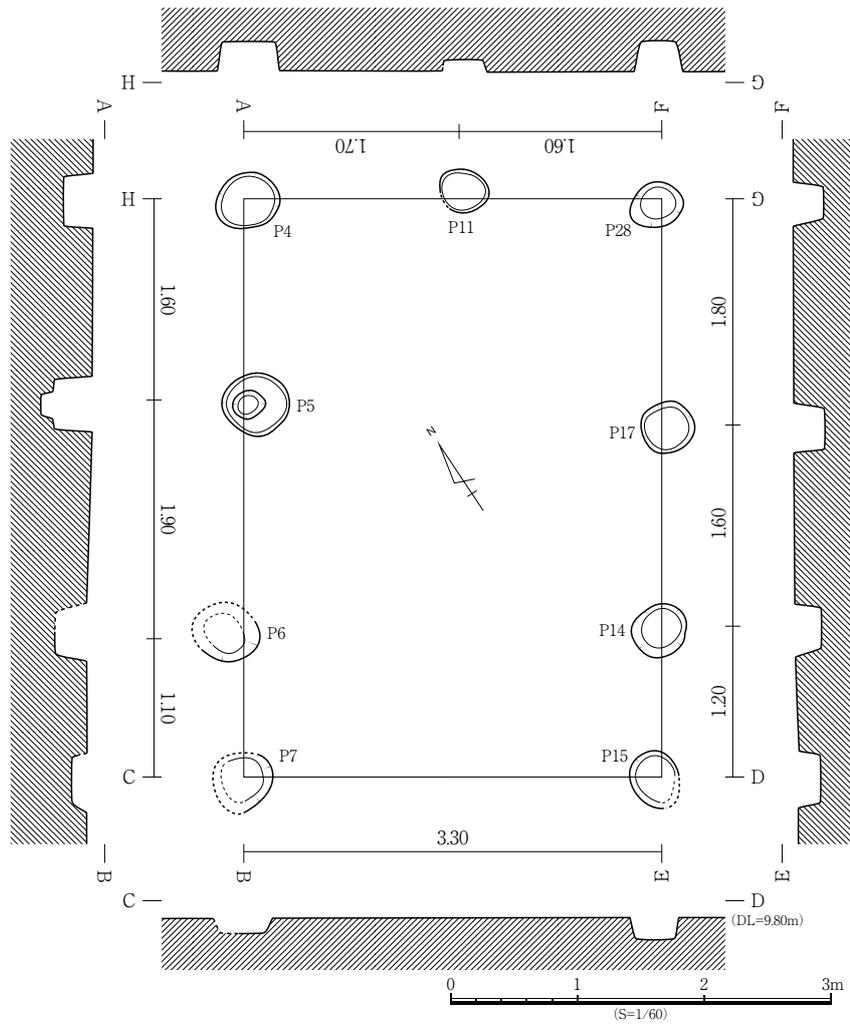
図示した出土遺物は平瓦(27)である。小口面に「山兵」の刻印が認められる。

**SK2 (Ⅲ-3-4区)**

Ⅲ-3-4区北西部に位置する。攪乱に切られる。長軸約1.0m, 短軸約0.8mの隅丸方形を呈する。検出面からの深さは17cmである。埋土は灰黄褐色粘土質シルトである。

**SK6 (Ⅲ-3-4区)**

Ⅲ-3-4区北西部に位置する。攪乱に切られる。西は調査区外である。長軸0.7m以上, 短軸約0.5mの隅丸方形を呈する。検出面からの深さは23cmである。埋土は灰黄褐色粘土質シルトである。



図Ⅲ-94 SB11 平面図・エレベーション図

SK7 (Ⅲ-3-4区)

Ⅲ-3-4区西部に位置する。SB11-P6を切る。一辺約0.5mの隅丸方形を呈する。検出面からの深さは42cmである。埋土は灰黄褐色粘土質シルトである。

SK9 (Ⅲ-3-4区)

Ⅲ-3-4区西部に位置する。長軸約1.2m, 短軸約0.9mの隅丸長方形を呈する。検出面からの深さは21cmである。埋土は灰黄褐色中粒砂質シルトである。

SK10 (Ⅲ-3-4区) (図Ⅲ-100)

Ⅲ-3-4区西部に位置する。SK11に切られる。西は調査区外である。長軸1.1m以上, 短軸0.9m以上の不整形を呈する。検出面からの深さは7cmである。埋土は灰黄褐色粘土質シルトである。

図示した出土遺物は台付き灯明皿(28)である。褐釉を施すが, 外底面は露胎となる。外底面には回転糸切り痕跡が認められる。ほぼ完存である。

SK11 (Ⅲ-3-4区) (図Ⅲ-100)

Ⅲ-3-4区南西部に位置する。SK10を切り, SK12に切られる。西は調査区外である。長軸約1.3m, 短軸0.9m以上の隅丸方形を呈する。検出面からの深さは23cmである。埋土は灰黄褐色粘土質シルトである。

図示した出土遺物は台付き灯明皿(29), 平瓦(30)である。29は褐釉を施すが, 外底面は露胎となる。外底面には回転糸切り痕跡が認められる。完存である。30の下端には面取りを施す。小口面に「片佐」の刻印が認められる。

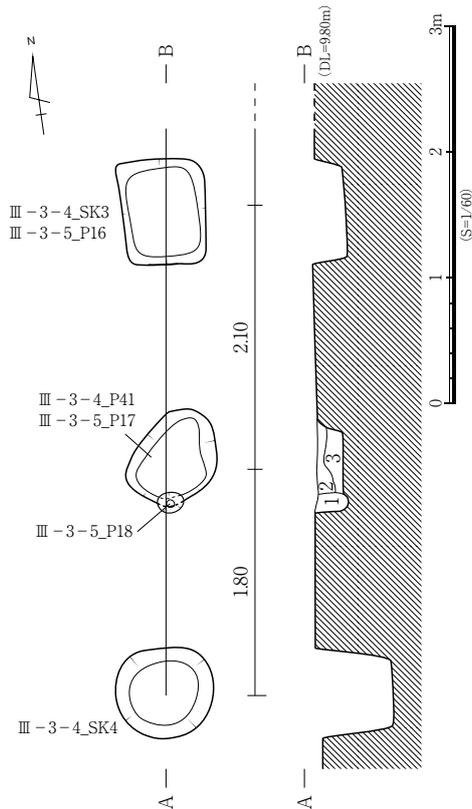
SK12 (Ⅲ-3-4区) (図Ⅲ-101)

Ⅲ-3-4区南西部に位置する。SK11を切る。直径約1.3mの円形を呈する。検出面からの深さは46cmである。埋土は灰黄褐色粘土質シルト, 暗灰黄色粘土質シルトである。SK13と対となる。近代土坑である。

図示した出土遺物は瓦質土器の火鉢(31)である。脚は外底面に粘土を3ヶ所均等に貼付ける。外面はミガキ調整, 内面はナデ調整である。完存である。

SK13 (Ⅲ-3-4区) (図Ⅲ-100)

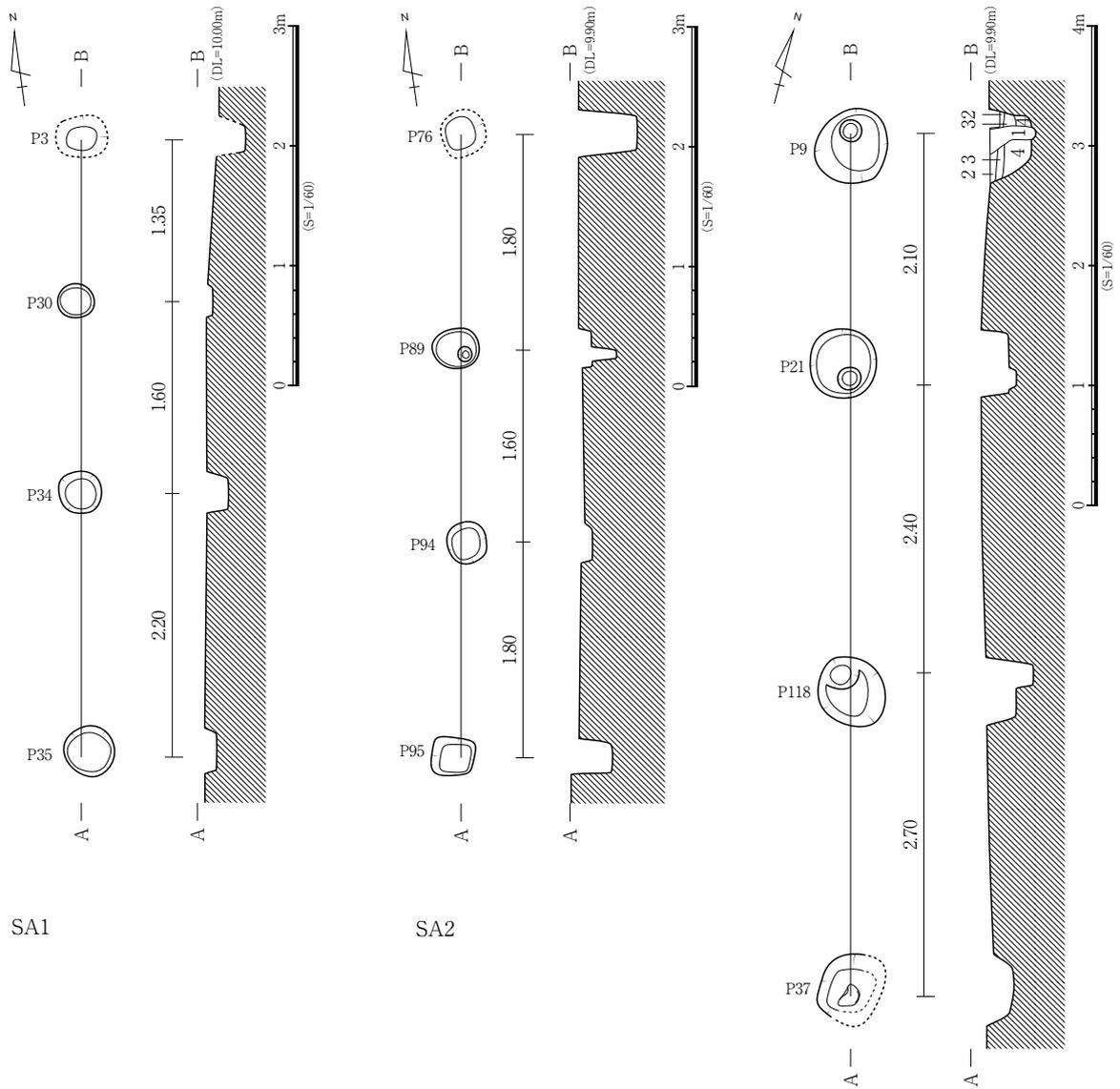
Ⅲ-3-4区南西部に位置する。直径約1.4mの円形を呈する。検出面からの深さは49cmである。埋土は暗灰黄色粘土質シルトである。SK12と対とな



遺構埋土

1. 地山の土粒と黒色土粒が混じる黒褐色(10YR3/2)粘土質シルト
2. 地山の土粒が混じる黒褐色(10YR3/2)粘土質シルト
3. 地山のブロックが特に多量に混じる黒褐色(10YR3/2)粘土質シルト

図Ⅲ-95 SB12平面図・断面図・エレベーション図



遺構埋土

1. 地山の土粒が混じる黒褐色(10YR3/2)粘土質シルト(柱痕)
2. 地山の土粒が多量に混じり黒色土粒が混じる黒褐色(10YR3/2)粘土質シルト
3. 黒色土粒が混じる黒褐色(10YR3/2)粘土質シルト
4. 地山のブロックが多量に混じり黒色土のブロックが混じる黒褐色(10YR3/2)粘土質シルト

図Ⅲ-96 SA1~3平面図・断面図・エレベーション図

る。近代土坑である。

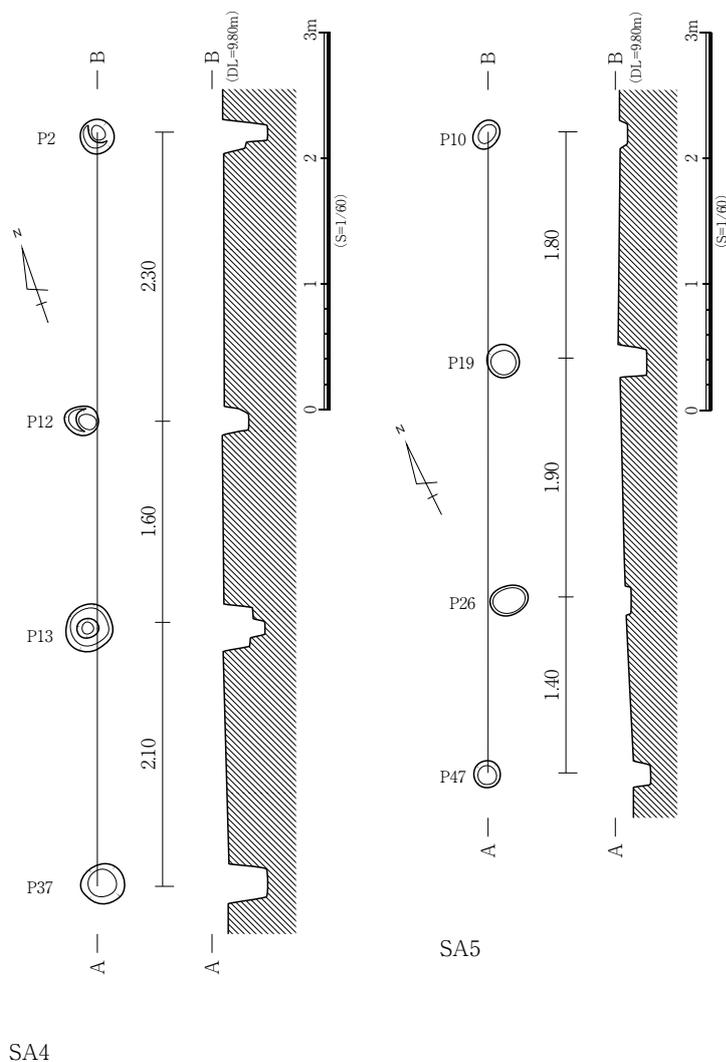
SK15 (Ⅲ-3-4区)

Ⅲ-3-4区北西部に位置する。大部分は調査区外である。長軸約0.7m、短軸0.1m以上の隅丸方形を呈する。検出面からの深さは28cmである。埋土は灰黄褐色粘土質シルトである。

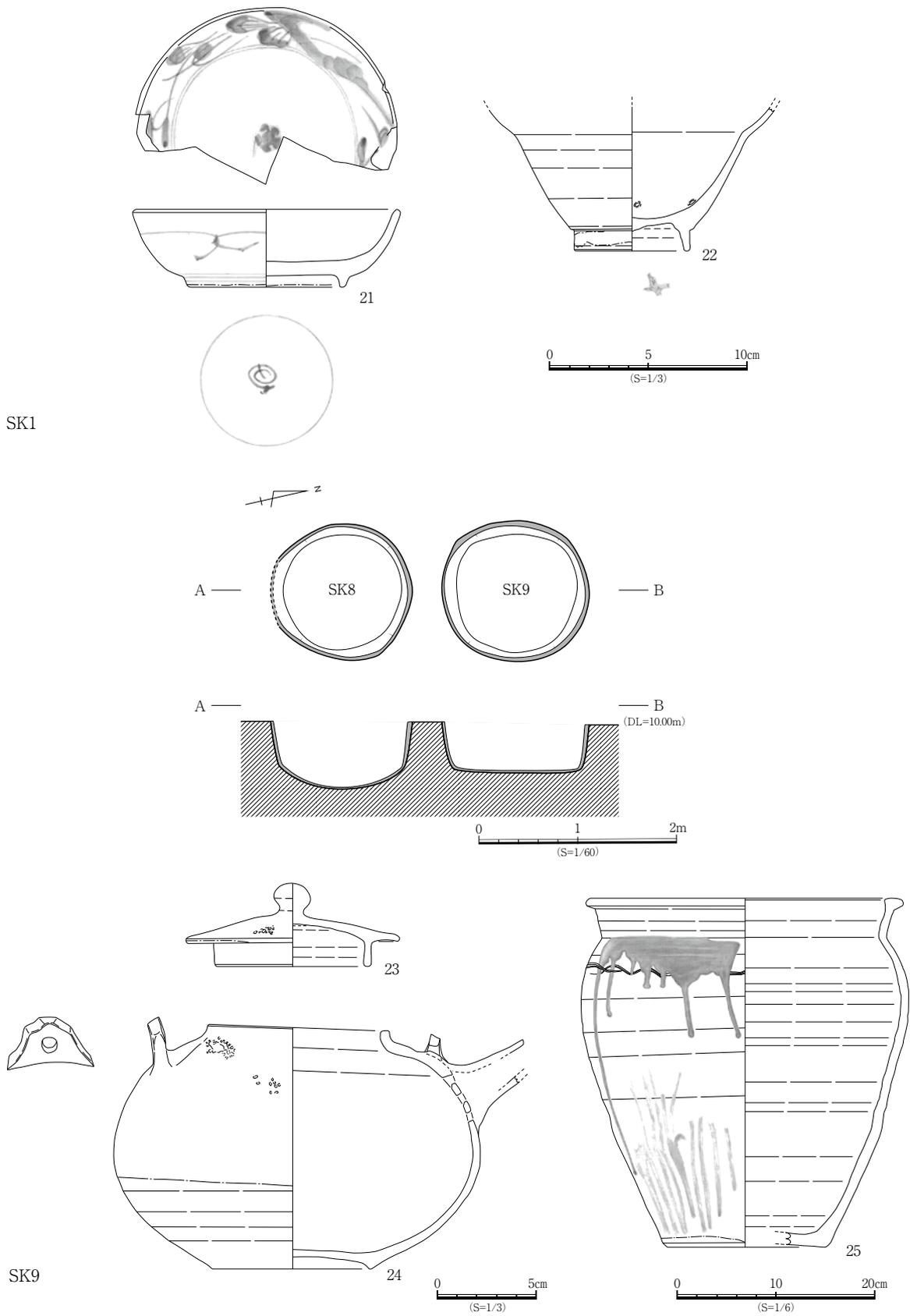
SK2 (Ⅲ-3-5区) (図Ⅲ-102)

Ⅲ-3-5区東部に位置する。東は調査区外である。SK3を切る。長軸約1.4m、短軸1.1m以上の隅丸方形を呈する。検出面からの深さは51cmである。埋土は灰黄褐色シルト、礫で埋められていた。湧水が認められ、井戸の可能性はある。

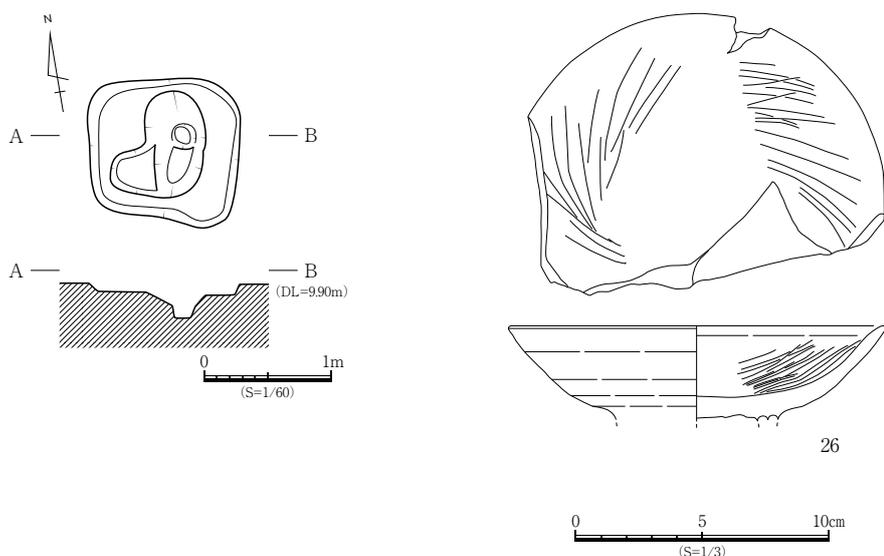
図示した出土遺物は磁器の碗、陶器の碗、磁器の皿、陶器の皿、磁器の瓶、白磁の紅皿、土師質土器の焜炉である。32・33は端反りの小碗である。口縁部内面に圈線、見込みに染付けを施す。33の高台内には枠内に「サ」が描かれる。34は磁器の碗である。外面には風景を描く。35は磁器の碗である。外面には「寿」を描く。呉須は滲む。36は磁器の碗である。見込みに蛇ノ目釉剥ぎを施す。内外面に染



図Ⅲ-97 SA4・5平面図・エレベーション図



図Ⅲ-98 Ⅲ-3-3区SK1・8・9平面図・エレベーション図・遺物実測図



図Ⅲ－99 Ⅲ－3－3区SK10平面図・エレベーション図・遺物実測図

付を施す。ほぼ完存である。37は広東形の碗である。畳付けには釉剥ぎを施す。外面には鳥・花を描き、見込みには岩・波を描く。ほぼ完存である。38は陶器の皿である。褐釉を施し、外面下半部は露胎である。見込みには蛇ノ目釉剥ぎ後、アルミナ砂を塗布する。39は磁器の皿である。畳付けには釉剥ぎを施す。見込みには蛇ノ目釉剥ぎ後、アルミナ砂を塗布する。内面には染付けがみられる。ほぼ完存である。40は磁器の瓶である。頸部に蛸唐草文、体部には草花文を描く。41は白磁の紅皿である。型押し成形である。高台は露胎である。42は土師質土器の焜炉である。箱形の焜炉と考えられ、四隅に脚が付く。外面はミガキ調整、内面は粗いハケ調整である。

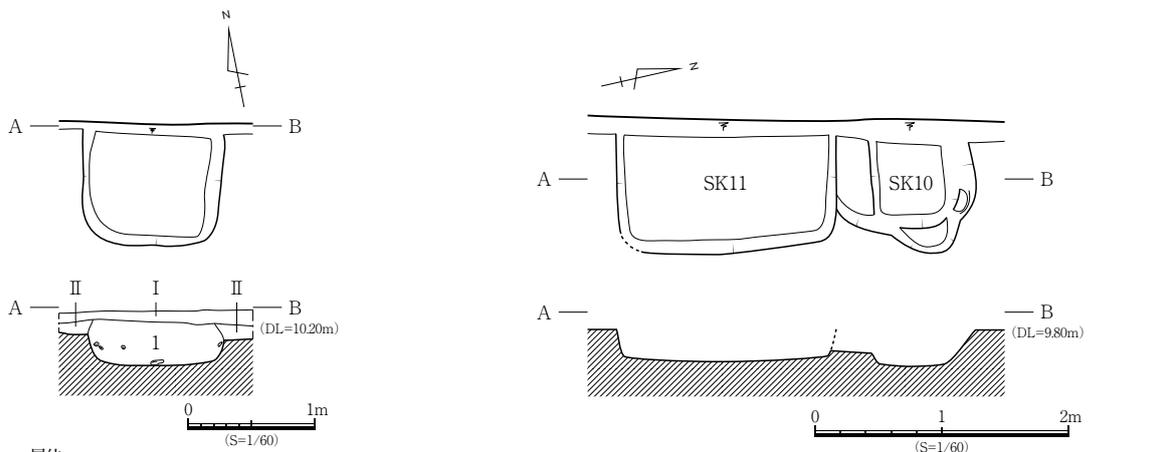
#### SK3(Ⅲ－3－5区)(図Ⅲ－103)

Ⅲ－3－5区東部に位置する。SD1, SK2を切る。長軸約2.7m, 短軸約1.4mの不整形を呈する。検出面からの深さは28cmである。埋土は灰黄褐色粘土質シルト, 暗灰黄色粘土質シルトである。

図示した出土遺物は磁器の碗(43), 陶器の碗(44), 土師質土器の小皿(45)である。43は広東形である。外面に染付け, 高台内の枠内には「茶」を描く。能茶山産である。44の高台は露胎である。見込みには目跡がみられる。高台内には墨書が認められる。45は口縁端部にタールが付着しており, 灯明皿として使用されていたとみられる。

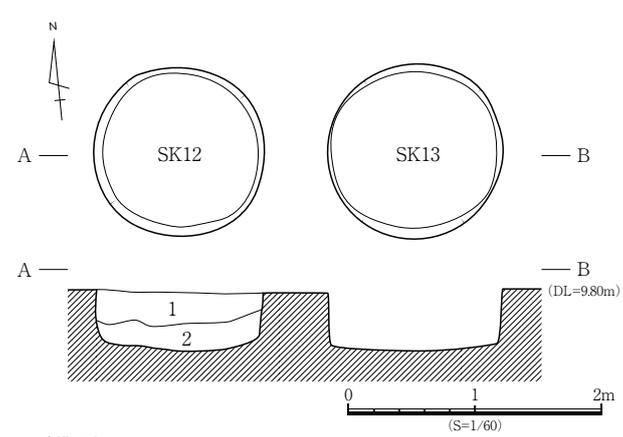
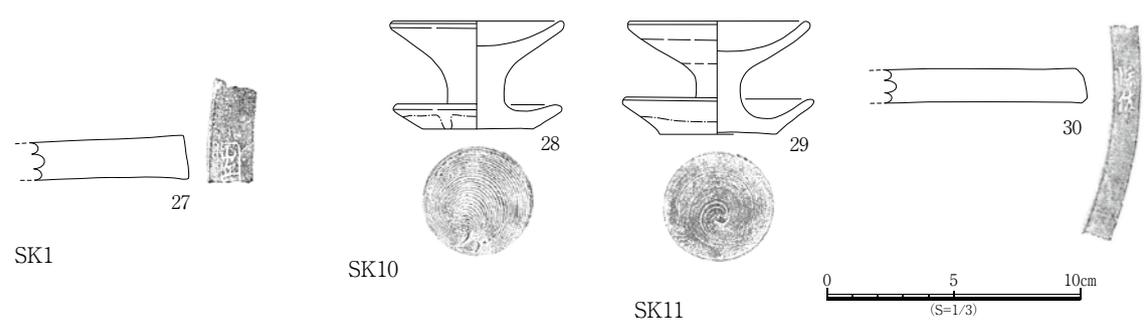
#### SK6(Ⅲ－3－5区)(図Ⅲ－104)

Ⅲ－3－5区南東部に位置する。大部分が調査区外である。SD1を切る。長軸約1.5m, 短軸0.4m以上の隅丸方形を呈する。検出面からの深さは19cmである。埋土は黄褐色細粒砂質シルト, 灰黄褐色粘土質シルトである。



層位  
 第Ⅰ層 細礫が混じる灰黄褐色(10YR4/2)粘土質シルト層(耕作土)  
 第Ⅱ層 地山のブロックを含む灰黄褐色(10YR4/2)粘土質シルト層(整地層)

遺構埋土  
 1. 地山のブロックを多量に含み細礫が混じる暗灰黄色(2.5Y4/2)粘土質シルト



遺構埋土  
 1. 地山のブロックを含む灰黄褐色(10YR4/2)粘土質シルト  
 2. 暗灰黄色(2.5Y4/2)粘土質シルト

図Ⅲ-100 Ⅲ-3-4区SK1・10~13平面図・断面図・エレベーション図・遺物実測図

(5)SD (調査区ごとに連番)

SD1 (Ⅲ-3-1区) (図Ⅲ-105)

調査区南部で検出した東西方向の溝跡である。幅約 0.4m, 全長約 3.3m である。検出面からの深さは 20cm である。埋土は黒褐色粘土質シルトである。

SD2 (Ⅲ-3-1区) (図Ⅲ-105)

調査区中央部で検出した東西方向の溝跡である。攪乱に切られる。幅約 0.4m, 検出長約 2.0m である。検出面からの深さは 12cm である。埋土は黒褐色粘土質シルトである。

SD3 (Ⅲ-3-1区) (図Ⅲ-105)

調査区東部で検出した南北方向の溝跡である。ST3, SB5-P96~99 を切る。SU1・3・5・6, 攪乱に切られる。両端は調査区外へのびる。幅約 0.7m, 検出長約 12.2m である。検出面からの深さは 14cm である。埋土は黒褐色粘土質シルトである。

SD1 (Ⅲ-3-3区) (図Ⅲ-105)

北東方向から南西方向へのびる溝跡である。SK14 を切り, SK7・8・12・13, SU2 に切られる。両端は調査区外へと続き, 南はⅢ-4-W区でも検出されている。幅 0.6~0.9m, 当調査区での検出長は約 15m である。検出面からの深さは 54cm である。埋土は黒褐色粘土質シルトである。SD4 は同一の溝跡の可能性がある。

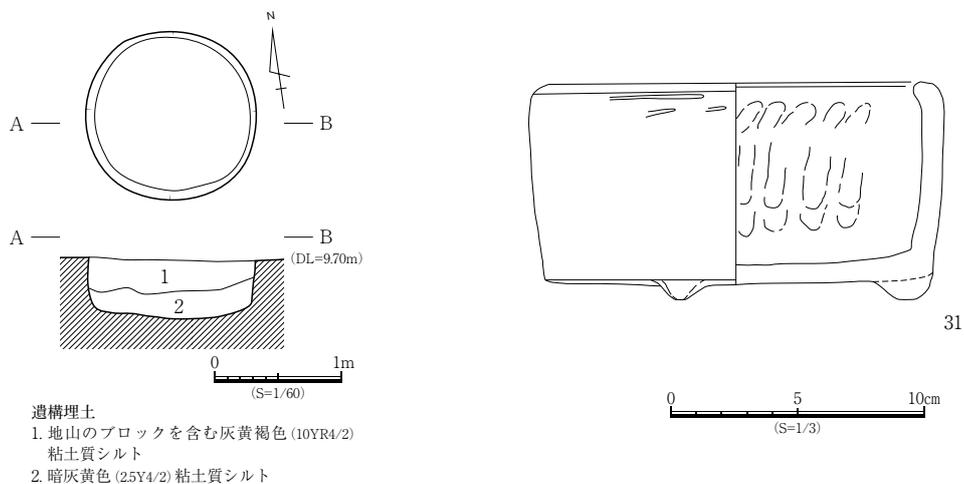
図示した出土遺物は須恵器の蓋(46~49), 備前焼の播鉢(50), 管状土錘(51)である。46・47の天井部は平らであり, 48・49の天井部は丸みを帯びる。天井部外面には回転ヘラケズリ調整が認められるが, その範囲に違いがある。その他の部位には回転ナデ調整を施す。50の断面は三角形を呈する。外面には1条の凹線を巡らせる。混入品である。

SD2 (Ⅲ-3-3区) (図Ⅲ-105)

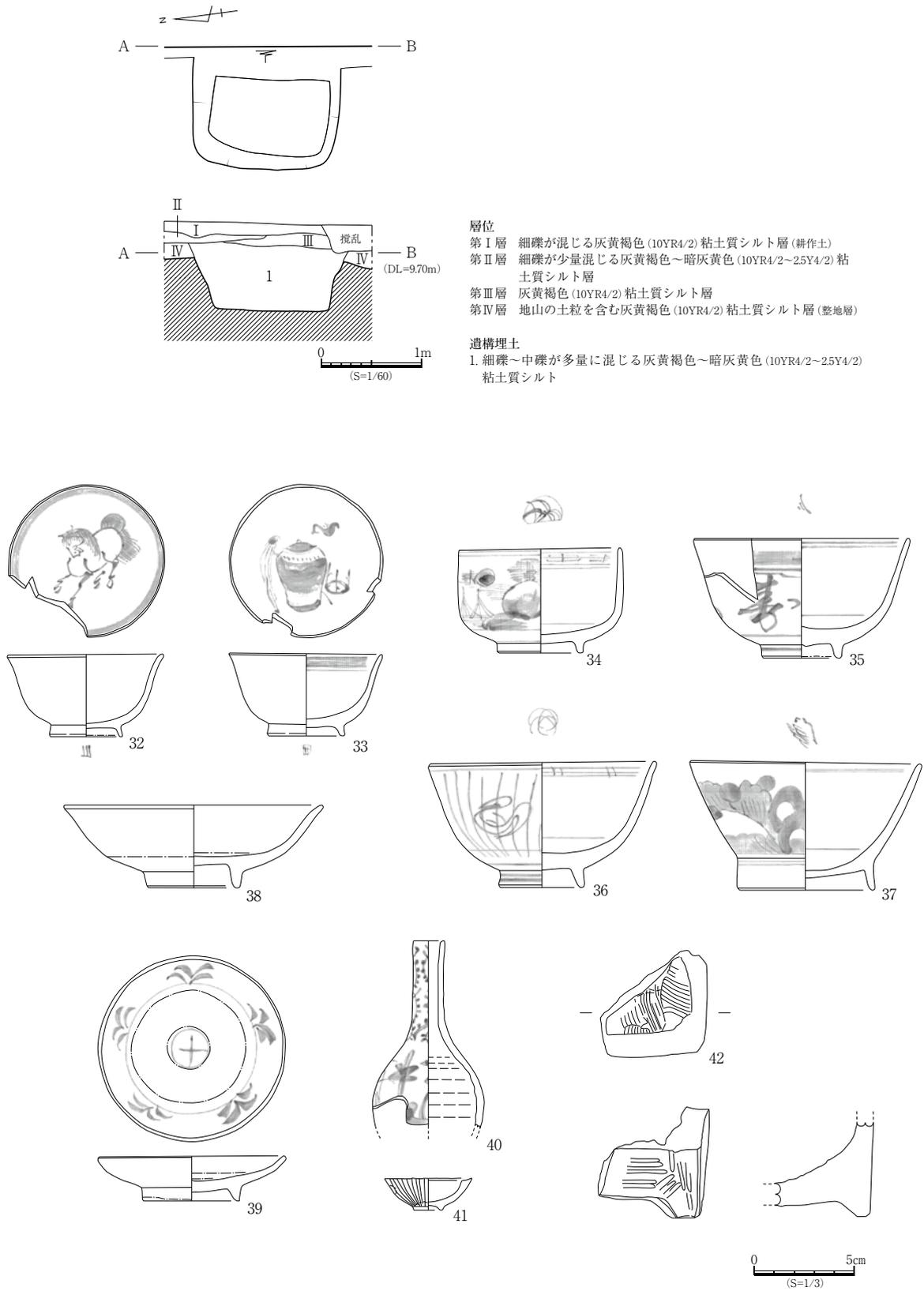
南東部で検出した溝跡である。SD3, SX6 を切り, SK3, SD5 に切られる。幅 0.6~0.8m, 検出長は約 3m である。検出面からの深さは 23cm であり, 埋土は灰黄褐色シルト質中粒砂である。

SD1 (Ⅲ-3-5区) (図Ⅲ-105)

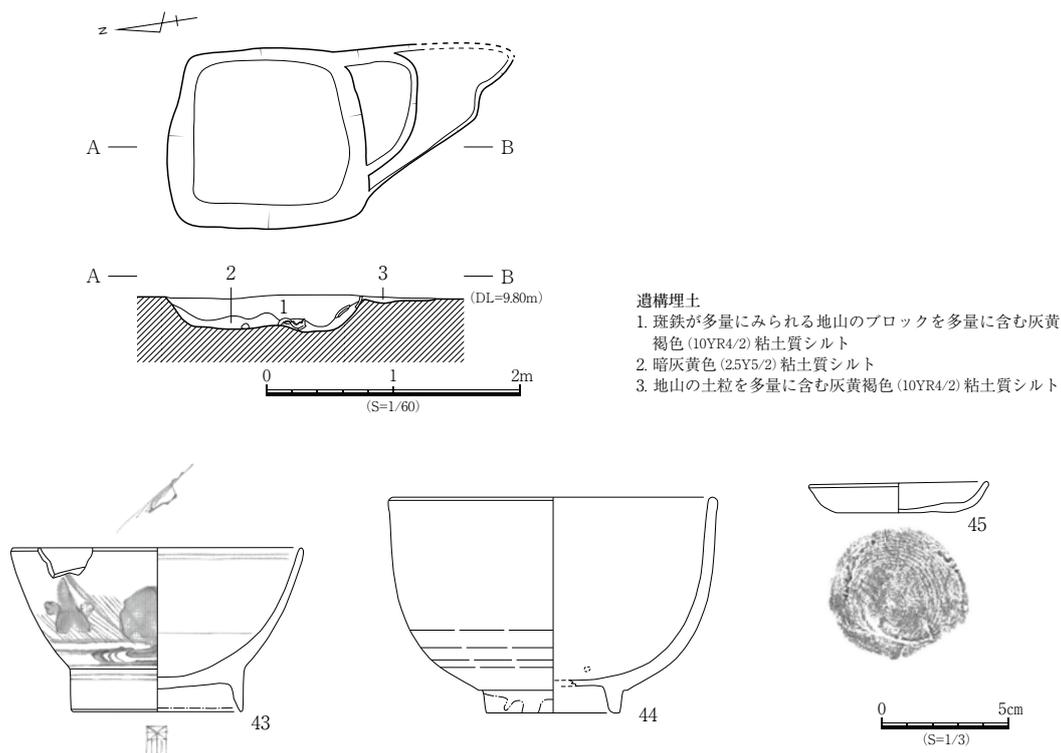
調査区東部で検出した溝跡である。SD2 を切り, SK3・6 に切られる。幅 0.3~0.6m, 検出長は約 6.8m である。検出面からの深さは 19cm であり, 埋土は暗褐色シルトである。



図Ⅲ-101 Ⅲ-3-4区 SK12 平面図・断面図・遺物実測図



図Ⅲ-102 Ⅲ-3-5区 SK2 平面図・断面図・遺物実測図



図Ⅲ-103 Ⅲ-3-5区SK3平面図・断面図・遺物実測図

(5)SU (調査区ごとに連番)

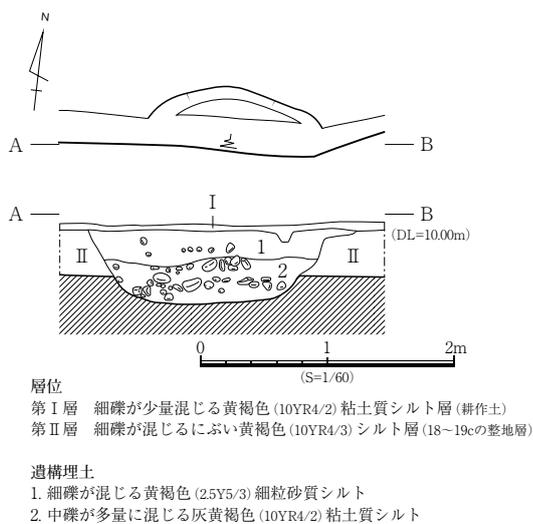
畝状遺構はⅢ-3-1区では11条、Ⅲ-3-2区では1条、Ⅲ-3-3区では3条、Ⅲ-3-4区では12条、Ⅲ-3-5区では1条を検出しており、Ⅲ-3-1区・2区及び3区の西端部に集中する。幅は0.1~0.5m、検出面からの深さは1~13cmである。埋土は黒褐色~灰黄褐色粘土質シルトである。東西方向のものと南北方向のものに分けることができる。東西方向のものの畝間は約1.2m、南北方向のものは約2.5mである。東西方向のⅢ-3-2区\_SU3は南北方向のⅢ-3-2区\_SU2に切られていることから、東西方向のものが古く、南北方向のものが新しい。

(6)SX (調査区ごとに連番)

SX1 (Ⅲ-3-5区) (図Ⅲ-106)

調査区南部で検出した。SX2に切られる。長軸約4.5m、短軸3.0m以上の不整形を呈する。

図示した出土遺物は陶器の火鉢(52)、土師質土器の焙烙(53)である。52には緑釉を施す。外底面には鉄錆をハケ塗りする。口縁外面に柵状文、脚部外面には雷文帯

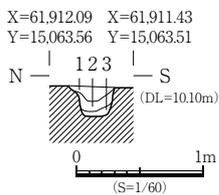


図Ⅲ-104 Ⅲ-3-5区SK6平面図・断面図

を施す。底部付近の内面には布目がみられる。53の口縁部には強いヨコナデを施す。口唇部は丸くおさめる。外面には煤がうっすらと付着する。

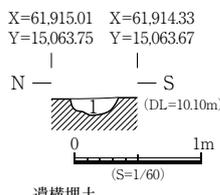
SX2 (Ⅲ-3-5区) (図Ⅲ-106)

調査区南部で検出した。SX1を切る。長軸約2.8m, 短軸約2.5mの長方形を呈する部分と通路部分から構成される。長方形部分は検出面からの深さは113cmである。東部には一辺約0.8mの柱状に掘り残している。南西隅に幅0.7~1.0m, 検出長約6.2mの通路状の遺構が付される。通路状遺構は西方向にのび、直角に向きを変え緩やかに東に曲がる。長方形部分に向かって徐々に標高が下がっていく。入り口部分の標高は9.7mであり、長方形部分の床面の標高は8.6mである。太平洋戦争中の陣地跡と考えられる。



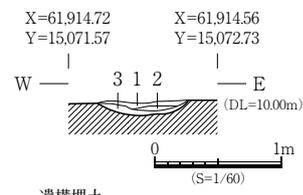
- 遺構埋土
1. 黒褐色 (10YR2/3) 粘土質シルト
  2. 黒褐色 (10YR3/2) 粘土質シルト
  3. 地山の土粒を多量に含む黒褐色 (10YR3/2) 粘土質シルト

Ⅲ-3-1区SD1



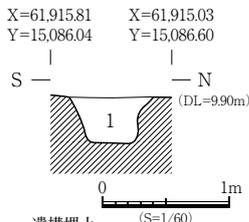
- 遺構埋土
1. 黒色土粒を含む黒褐色 (10YR3/2) 粘土質シルト

Ⅲ-3-1区SD2



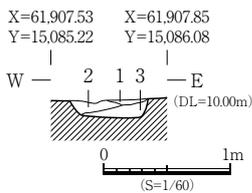
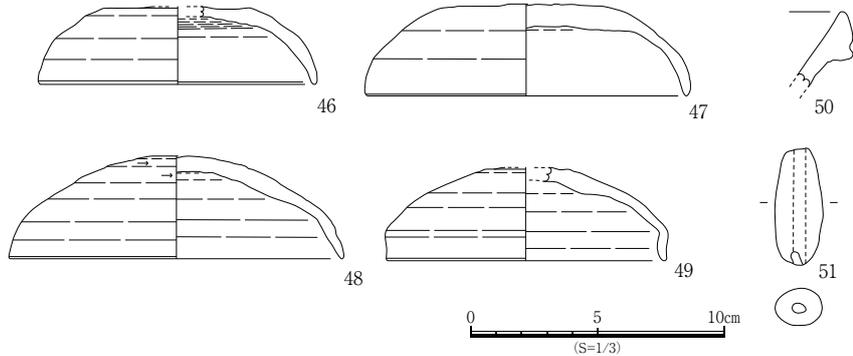
- 遺構埋土
1. 黒色土粒を含む黒褐色 (10YR3/2) 粘土質シルト
  2. 黒色土粒を少量含む黒褐色 (10YR3/2) シルト質細粒砂
  3. 黒色土粒を含む黒褐色 (10YR3/2) 粘土質シルト

Ⅲ-3-1区SD3



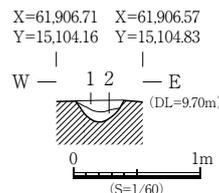
- 遺構埋土
1. 地山の土粒を少量含む黒褐色 (10YR3/2) 粘土質シルト

Ⅲ-3-3区SD1



- 遺構埋土
1. 灰黄褐色 (10YR4/2) 細粒砂質シルト
  2. 細礫が多量に混じる褐灰色 (10YR4/1) 中粒~粗粒砂
  3. 地山のブロックを含む灰黄褐色 (10YR4/2) シルト質中粒砂

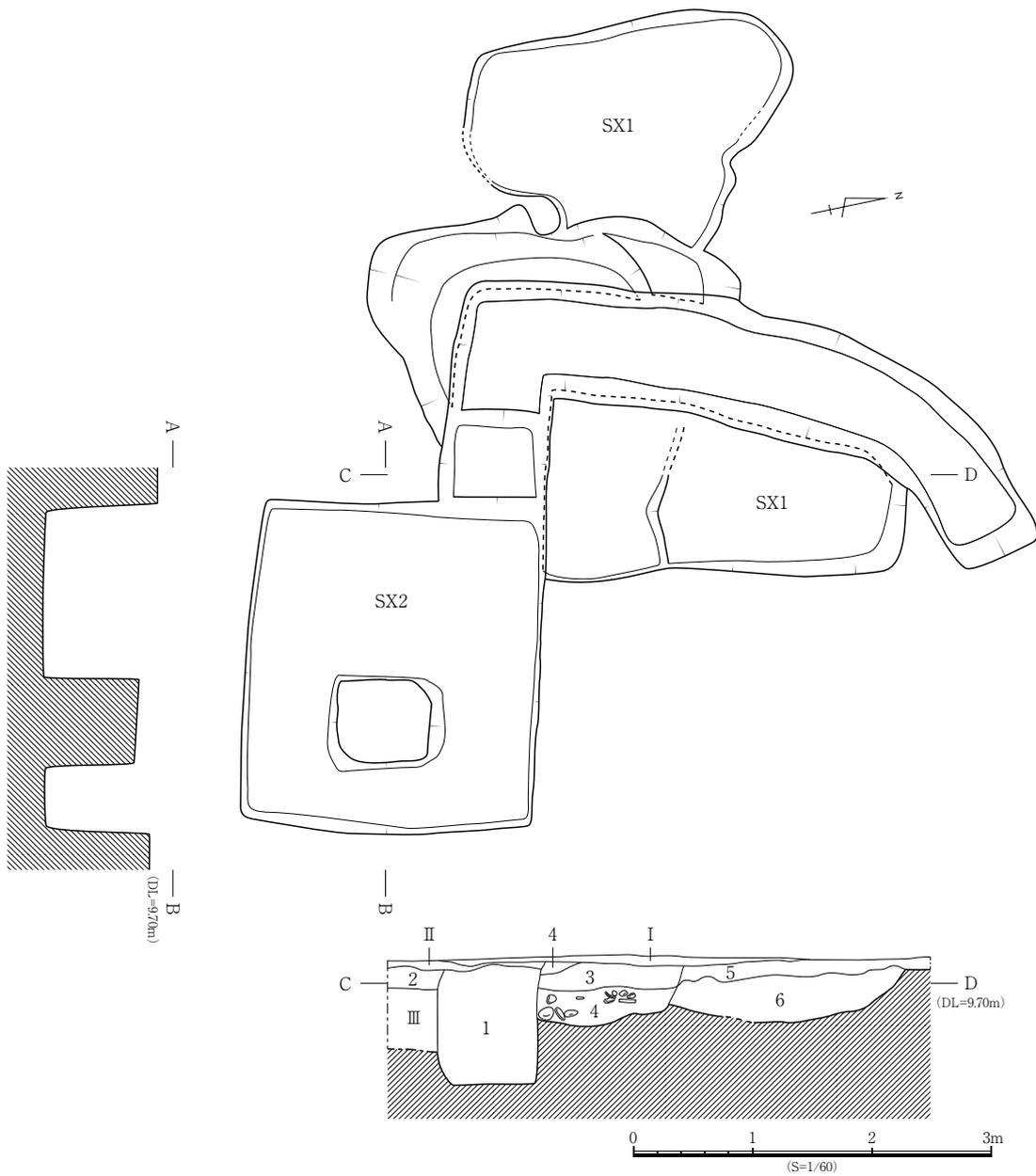
Ⅲ-3-3区SD2



- 遺構埋土
1. 地山の土粒を多量に含む暗褐色 (10YR3/3) シルト
  2. 地山の土粒を多量に含む暗褐色 (10YR3/3) シルト (礫痕が)

Ⅲ-3-5区SD1

図Ⅲ-105 Ⅲ-3区SD断面図・遺物実測図

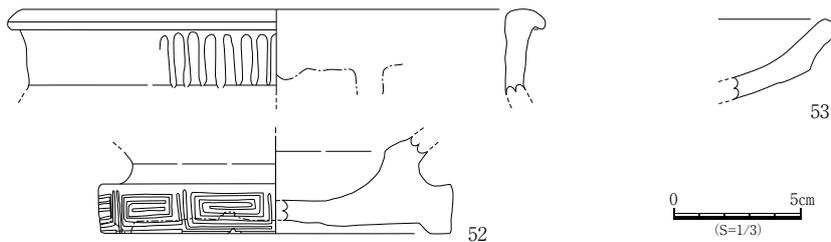


層位

- 第Ⅰ層 細礫が混じる灰黄褐色 (10YR4/2) 粘土質シルト層
- 第Ⅱ層 細礫が少量混じる暗灰黄色 (2.5Y4/2) 粘土質シルト層
- 第Ⅲ層 灰黄褐色 (10YR4/2) 中粒砂層 (基盤層)

遺構埋土

- 1. 地山のブロックを多量に含み礫が混じる暗灰黄色 (2.5Y5/2) シルト (SX2)
- 2. 細礫が混じる暗灰黄色 (2.5Y4/2) シルト (SX1)
- 3. 細礫が少量混じるにぶい黄褐色 (10YR5/4) 粘土質シルト (SX1)
- 4. 中礫が混じる暗灰黄色 (2.5Y4/2) 粘土 (SX1)
- 5. 細礫が混じる灰黄褐色 (10YR4/2) 粘土質シルト (SX1)
- 6. 中礫が多量に混じる灰黄褐色 (10YR4/2) 細粒砂質シルト (SX1)



図Ⅲ-106 Ⅲ-3-5区SX1・2平面図・断面図・エレベーション図・遺物実測図

(7)P (ピット)

Ⅲ-3-1区\_P112 (図Ⅲ-107)

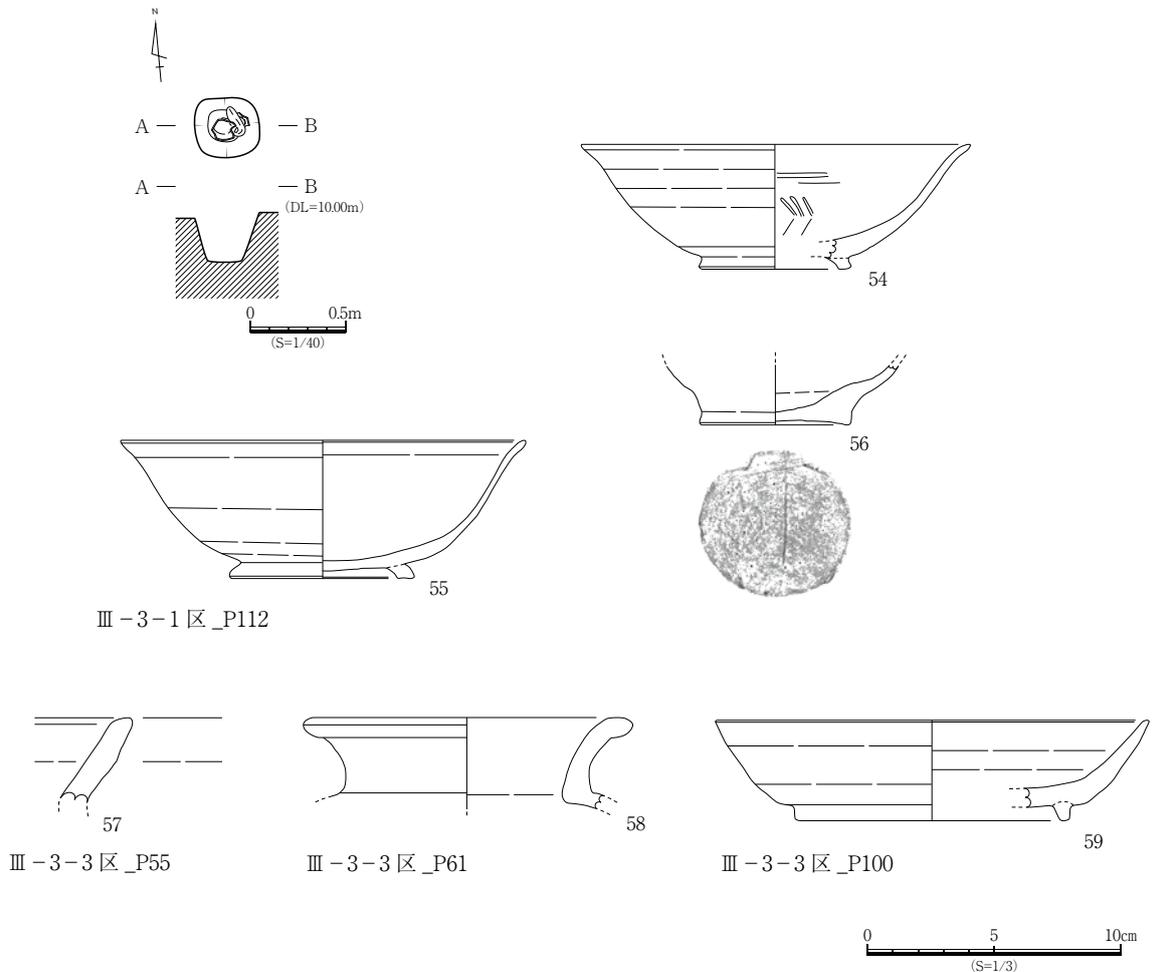
調査区南東部で検出した。直径約 0.3m の円形を呈する。検出面からの深さは 22 cm であり、埋土は黒褐色 (10YR3/2) 粘土質シルトである。

図示した出土遺物は土師器の椀 (54~56) である。54は輪高台である。外面腰部はヘラケズリ調整、内面はミガキ調整である。口縁部は内外面ともヨコナデ調整である。内底面には工具の静止痕跡が認められる。55は輪高台である。外底面には回転糸切り痕跡が認められる。腰部外面はヘラケズリ調整であり、内面及び外面上半部にはヘラミガキ調整を施す。56は平高台である。外底面には回転糸切り痕跡が認められる。

Ⅲ-3-3区\_P55 (図Ⅲ-107)

調査区北部で検出した。直径約 0.8m の円形を呈する。検出面からの深さは 10 cm であり、埋土は黒褐色粘土質シルトである。

図示した出土遺物は土師器の甕 (57) である。口縁部は内湾気味であり、口唇部には面取りを施す。内外面ともヨコナデ調整である。胎土に花崗岩由来の砂粒を含む。搬入品である。



図Ⅲ-107 Ⅲ-3区ピット平面図・エレベーション図・遺物実測図

Ⅲ-3-3区\_P61 (図Ⅲ-107)

調査区中央部で検出した。長軸約 0.4m，短軸約 0.3m の不整円形を呈する。埋土は黒褐色粘土質シルトである。

図示した出土遺物は須恵器の壺(58)である。口縁端部で折り曲げ，外面には折り曲げた痕跡がみられる。肩部内面には当て具痕跡が認められる。

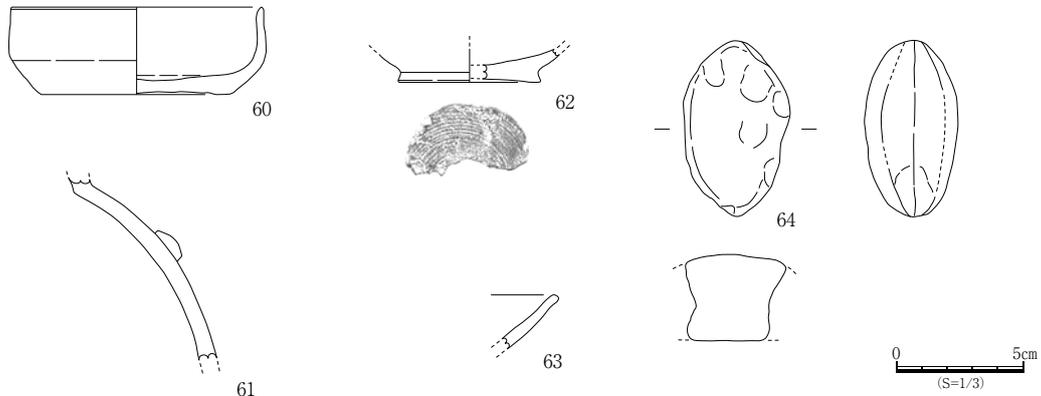
Ⅲ-3-3区\_P100 (図Ⅲ-107)

調査区南西部で検出した。長軸約 1.0m，短軸約 0.6m の隅丸長方形を呈する。検出面からの深さは 44cm である。埋土は黒褐色粘土質シルトである。

図示した出土遺物は須恵器の杯(59)である。外底面に断面長方形の高台を付す。内外面とも回転ナデ調整である。

(8)遺構外出土遺物(図Ⅲ-108)

Ⅲ-3-3区で図示した出土遺物は須恵器の杯身(60)・提瓶(61)，緑釉陶器(62)である。Ⅲ-3-5区で図示した出土遺物は緑釉陶器(63)，土錘(64)である。



図Ⅲ-108 遺構外出土遺物実測図

竪穴建物跡計測表(Ⅲ-3-1区)

遺構名	平面形	規 模 (m)			床面標高(m)	面積 (㎡)	長軸方向 (NはGN)	時 期
		長軸/検出長	短軸/幅	深さ (cm)				
ST1	円形	(2.7)	(0.5)	16	10.0	(19.6)	-	弥生時代
ST1_SD1	-	(2.1)	(0.1)	6	9.9	-	-	
ST2	隅丸長方形	4.7	(3.3)	25	9.8	15.9	N - 39° - E	古墳時代後期
P27	円形	0.1	0.1	8	9.7	-	-	
P110	楕円形	(0.4)	0.3	37	9.5	-	-	
P124	〃	0.4	0.3	5	9.7	-	-	
P125	〃	0.2	0.2	22	9.6	-	-	
P126	〃	0.4	0.3	37	9.5	-	-	
P127	〃	0.4	(0.3)	16	9.7	-	-	
P128	円形	0.3	0.3	33	9.5	-	-	
P129	楕円形	(0.5)	0.4	18	9.7	-	-	
P130	〃	0.3	0.3	16	9.6	-	-	
P132	〃	0.4	0.3	34	9.5	-	-	
P133	〃	0.3	0.3	13	9.7	-	-	
P134	〃	0.5	0.4	18	9.6	-	-	
P135	不整楕円形	0.5	0.5	27	9.5	-	-	
煙道か	-	(0.5)	(0.4)	7	9.9	-	N - 87° - E	
ST3	隅丸方形	(3.7)	(3.7)	15	9.7	(15.2)	N - 43° - E	弥生時代後期末
P115	不整円形	0.5	0.4	22	9.5	-	-	
P117	不整隅丸方形	0.8	0.7	53	9.2	-	-	
P118	円形	0.5	0.5	48	9.3	-	-	
P119	不整隅丸方形	0.7	0.7	12	9.5	-	-	
P121	楕円形	0.3	(0.3)	10	9.6	-	-	
P122	〃	0.3	0.3	5	9.6	-	-	

遺構名	平面形	規模 (m)			床面標高 (m)	面積 (㎡)	長軸方向 (NはGN)	時期
		長軸/検出長	短軸/幅	深さ (cm)				
P142	楕円形	0.4	(0.3)	18	9.5	-	-	
ST4	隅丸方形	(2.4)	(1.9)	25	9.7	(6.2)	N - 24° - W	古墳時代後期
P138	円形	0.2	0.2	13	9.5	-	-	
P139	楕円形	0.1	0.1	4	9.6	-	-	
P140	円形	0.1	(0.1)	3	9.7	-	-	
P141	楕円形	(0.2)	(0.1)	9	9.5	-	-	
煙道	-	(0.5)	0.3	13	9.8	-	N - 19° - W	
カマド	-	1.2	0.5	10	9.7	-	-	

竪穴建物跡計測表(Ⅲ-3-3区)

遺構名	平面形	規模 (m)			床面標高 (m)	面積 (㎡)	長軸方向 (NはGN)	時期
		長軸/検出長	短軸/幅	深さ (cm)				
ST1	不整長方形	5.1	2.9	7	9.7	15.1	N - 12° - E	古墳時代後期
P106	不整円形	0.6	(0.5)	14	9.6	-	-	
P107	楕円形	0.2	0.2	6	9.6	-	-	
P108	〃	0.4	0.3	6	9.7	-	-	
P110	〃	0.2	0.2	16	9.6	-	-	
P113	円形	0.2	0.2	11	9.6	-	-	
P114	不整円形	0.3	0.3	10	9.6	-	-	
P115	不整長方形	0.5	0.4	6	9.6	-	-	
P116	不整楕円形	0.2	0.2	10	9.6	-	-	
P119	円形	0.2	0.2	5	9.7	-	-	
ST2	不整形	(3.6)	(1.1)	10	9.7	(16.0)	N - 19° - E	古代

土坑計測表（Ⅲ-3-1区）

遺構名	平面形	規模			床面標高 (m)	主軸方向 (NはGN)	時期
		長軸 (m)	短軸 (m)	深さ (cm)			
SK1	欠番						
SK2	隅丸方形	(1.3)	(0.8)	35	9.7	N - 14° - E	弥生時代中期
SK3	隅丸長方形	1.1	0.8	42	9.5	N - 16° - E	時期不明

土坑計測表（Ⅲ-3-2区）

遺構名	平面形	規模			床面標高 (m)	主軸方向 (NはGN)	時期
		長軸 (m)	短軸 (m)	深さ (cm)			
SK1	不整形	(1.4)	(1.4)	25	9.6	N - 25° - W	古代か

土坑計測表（Ⅲ-3-3区）

遺構名	平面形	規模			床面標高 (m)	主軸方向 (NはGN)	時期
		長軸 (m)	短軸 (m)	深さ (cm)			
SK1	不整形	4.3	2.6	57	9.3	N - 14° - E	近世
SK2	〃	1.8	1.7	11	9.7	N - 1° - E	〃
SK3	隅丸方形	1.4	0.8	35	9.5	N - 17° - E	〃
SK4	不整形	1.2	(1.1)	7	9.7	N - 63° - W	弥生時代か
SK5	欠番						
SK6	円形	0.7	(0.6)	5	9.7	-	時期不明
SK7	不整形	1.4	(1.3)	11	9.6	N - 21° - E	古代か
SK8	円形	1.4	1.4	49	9.3	-	近代
SK9	〃	1.4	1.4	65	9.1	-	〃
SK10	隅丸方形	1.2	1.0	10	9.7	N - 14° - E	古代か
SK11	隅丸長方形	1.0	0.8	11	9.7	N - 28° - E	〃
SK12	不整隅丸長方形	1.5	0.9	20	9.5	N - 0° - E	〃
SK13	隅丸長方形	1.2	0.7	22	9.5	N - 9° - W	〃
SK14	不整形	0.7	(0.4)	24	9.5	N - 28° - W	〃
SK15	欠番						

土坑計測表 (Ⅲ-3-4区)

遺構名	平面形	規模			床面標高 (m)	主軸方向 (NはGN)	時期
		長軸 (m)	短軸 (m)	深さ (cm)			
SK1	隅丸方形	1.1	(0.9)	20	9.5	N - 14° - E	近世
SK2	隅丸長方形	1.0	0.8	17	9.5	N - 81° - W	古代か
SK3	欠番						
SK4	円形	0.7	0.7	55	9.1	-	近世か
SK5	欠番						
SK6	隅丸長方形	(0.7)	0.5	23	9.4	N - 84° - E	時期不明
SK7	隅丸方形	0.5	0.5	42	9.2	N - 10° - W	近世
SK8	隅丸長方形	0.8	0.6	7	9.6	N - 74° - W	時期不明
SK9	〃	1.2	0.9	21	9.4	N - 16° - E	近世
SK10	不整形	(1.1)	(0.9)	30	9.3	N - 12° - E	近世～近代
SK11	隅丸方形	1.3	(0.9)	23	9.4	N - 11° - E	〃
SK12	円形	1.3	1.3	46	9.1	-	〃
SK13	〃	1.4	1.4	49	9.1	-	〃
SK14	欠番						
SK15	隅丸方形	(0.7)	(0.1)	28	9.4	N - 13° - E	時期不明
SK16	欠番						

土坑計測表（Ⅲ-3-5区）

遺構名	平面形	規 模			床面標高 (m)	主軸方向 (NはGN)	時 期
		長軸 (m)	短軸 (m)	深さ (cm)			
SK1	隅丸方形	0.7	(0.3)	7	9.6	N - 9° - E	近世
SK2	〃	1.4	(1.1)	51	9.1	N - 10° - E	〃
SK3	不整形	2.7	1.4	28	9.3	N - 7° - E	〃
SK4	欠番						
SK5	〃						
SK6	円形	(1.4)	(0.2)	19	9.3	-	近世
SK7	隅丸方形	(1.5)	(0.4)	28	9.5	N - 82° - W	〃

出土遺物(土器)観察表

挿図 番号	図版 番号	調査区	出土場所 (遺構)	器種 器形	法量 (cm)			色調 (外面)	特 徴
					口径	器高	底径		
Ⅲ-80	2	Ⅲ-3-2	ST3 床	須恵 杯		(2.2)	6.6	灰白色	内外面, 回転ナデ。外底面, ヘラ切り後ナデ。
Ⅲ-81	3	Ⅲ-3-1	ST4	須恵 壺		(8.6)		灰色	外面, カキ目。内面, 当て具痕。
Ⅲ-82	4	Ⅲ-3-3	ST1 床	須恵 蓋	13.7	3.0		灰白色	平らな天井部。かえり。天井部外面, 回転ケズリ。内外面, 回転ナデ。
〃	5	〃	〃	須恵 杯身	11.4	(2.8)		灰色	立ち上がりは短い。内外面, 回転ナデ。
〃	6	〃	〃	須恵 高杯		(9.9)		灰白色	内外面, 回転ナデ。焼成やや不良。
Ⅲ-83	7	〃	ST2	須恵 杯		(2.2)	10.2	〃	底部のやや内側に高台を付す。内外面, 回転ナデ。混入品。
Ⅲ-84	8	Ⅲ-3-1	SB1 P49	土師 杯		(2.1)	9.6	橙色	磨耗, 調整等不明瞭。
Ⅲ-86	9	〃	SB3 P5	須恵 杯	14.8	4.2	10.4	灰白色	外底面, 断面方形の貼付け高台。内外面, 回転ナデ。
Ⅲ-89	10	Ⅲ-3-3	SB6 P13	須恵 蓋	17.1	(1.3)		灰色	器高, 低い。天井部外面, ヘラ切り後ナデ。回転ナデ。
Ⅲ-90	11	〃	SB7 P49	土師 杯	13.6	(3.6)	9.0	にぶい橙色	折り込み口縁。外底面, 回転ヘラ切り後, ナデ。内外面, 回転ナデ。ミガキか。
〃	12	〃	SB7 P66	須恵 提瓶	9.2	(8.0)		灰色	口唇部, 面取り。口縁部, 1条の凹線文。口縁部内外面, 回転ナデ。体部外面, カキ目。内面, ナデ。
Ⅲ-91	13	〃	SB8 P3	土師 皿	15.2	1.7	10.0	橙色	磨耗, 調整等不明瞭。内外面, 回転ナデか。
〃	14	〃	SB8 P22	須恵 杯	13.4	3.7	8.1	灰白色	焼成不良。磨耗, 調整等不明瞭。外底面, ヘラ切り痕。
〃	15	〃	SB8 P59	須恵 蓋	18.2	3.0	つまみ径 2.2	〃	扁平な擬宝珠形つまみ。天井部外面, ヘラ切り後回転ナデ。口縁部内外面, 回転ナデ。天井部内面, 仕上げナデ。
〃	16	〃	SB8 P93	土師 杯		(1.9)	11.5	橙色	断面長方形の高台。磨耗, 調整等不明瞭。
〃	17	〃	〃	土師 甕		(3.0)		にぶい黄褐色	口唇部, 面取り。口縁部・外面, ヨコナデ。体部内面, ヨコハケ。煤附着。
Ⅲ-93	18	〃	SB10 P8	〃		(2.9)		にぶい黄橙色	口縁部, 内湾。口唇部, 凹面状。内外面, ヨコナデ。胎土に花崗岩由来の砂粒を含む。搬入品。
〃	19	〃	SB10 P20	須恵 蓋	15.1	(1.9)		灰白色	焼成不良。磨耗, 調整等不明瞭。回転ナデ。重ね焼き痕。
〃	20	〃	SB10 P39	須恵 杯	13.1	(4.2)		にぶい黄色	内外面, 回転ナデ。被熱変色。
Ⅲ-98	21	〃	SK1	磁器 皿	13.2	4.0	7.9	灰白色	畳付け, 釉剥ぎ。内外面, 染付け。見込み, 五弁花のコンニャク印判。外底面, 圏線・渦「福」。
〃	22	〃	〃	陶器 鉢		(7.3)	5.6	灰黄色	灰黄色の釉薬。高台内, 露胎。内底面, 目跡有り。高台内, 墨書。
〃	23	〃	SK9	陶器 蓋	7.9	4.3	つまみ径 1.9	緑灰色	扁球形つまみ。外面, 文様有り。緑灰色の釉薬。内面, 露胎。ほぼ完存。24とセット。
〃	24	〃	〃	陶器 土瓶	8.8	12.5	8.1	〃	上半, 緑灰色の釉薬, 文様有り。口縁部・内面, 露胎。下半, 化粧土塗布。煤附着。23とセット。
〃	25	〃	〃	陶器 甕	30.3	35.5	16.0	灰褐色	内外面, 鉄釉。外底面, 露胎。外面肩部, 2条の櫛描波状文。黒色の鉄釉流し掛け。外底面, 砂附着。

挿 図 番 号	図 版 番 号	調査区	出土場所 (遺構)	器 種 器 形	法 量 (cm)			色 調 (外面)	特 徴
					口径	器高	底径		
III-99	26	III-3-3	SK10	土師 高杯	14.8	(3.8)		にぶい橙色	外面上半, ミガキか。下半, ケズリ。内面, ミガキ。放射状の暗文。外底面, 筒状の脚部を付す。
III-100	28	III-3-4	SK10	陶器 灯明皿	6.7	4.3	4.4	黒褐色	褐釉。外底面, 露胎・回転糸切り痕。ほぼ完存。
〃	29	〃	SK11	〃	7.0	4.5	4.7	〃	褐釉。外底面, 露胎・回転糸切り痕。完存。
III-101	31	〃	SK12	瓦質 火鉢	14.8	8.7	15.3	黄灰色	脚は外底面に3ヶ所粘土を均等配置する。外面, ミガキ。内面, ナデ。煤付着。完存。
III-102	32	III-3-5	SK2	陶器 碗	7.8	4.2	3.6	灰白色	小碗。畳付け釉剥ぎ。口縁部内面, 太い圏線。見込み, 馬。外底面, 染付け。
〃	33	〃	〃	磁器 碗	7.6	4.2	3.8	〃	小碗。畳付け釉剥ぎ。口縁部内面, 多条圏線。見込み, 染付け。高台内, 枠内「サ」。能茶山産。
〃	34	〃	〃	〃	8.1	5.3	4.1	〃	畳付け釉剥ぎ。外面, 風景・圏線。内面, 雷文帯。見込み, 圏線・水か。
〃	35	〃	〃	〃	10.7	6.1	3.8	〃	畳付け釉剥ぎ。外面, 「寿」・圏線。内面, 圏線。見込み, 水。具須, 滲む。
〃	36	〃	〃	〃	11.2	6.4	4.2	明オリーブ 灰色	畳付け釉剥ぎ。見込み, 蛇ノ目釉剥ぎ。内外面, 染付。ほぼ完存。
〃	37	〃	〃	〃	11.5	6.6	6.7	灰白色	広東形。畳付け釉剥ぎ。外面, 鳥・花・圏線。口縁部内面, 圏線。見込み, 岩・波。ほぼ完存。
〃	38	〃	〃	陶器 皿	12.8	4.2	4.4	極暗赤褐色	褐釉。外面下半, 露胎。見込み, 蛇ノ目釉剥ぎ, アルミナ砂塗布。
〃	39	〃	〃	磁器 皿	9.2	2.3	4.8	灰白色	畳付け釉剥ぎ。見込み, 蛇ノ目釉剥ぎ, アルミナ砂塗布。内面, 染付け。見込み, 十字文。ほぼ完存。
〃	40	〃	〃	磁器 瓶	1.6	(9.5)		〃	外面, 蛸唐草文・草花文。内面, 露胎。
〃	41	〃	〃	白磁 紅皿	4.4	1.6	1.5	〃	型押し成形。菊弁文。高台, 露胎。
〃	42	〃	〃	土師質 焔炉		(5.6)		オリーブ黒色	隅部に脚。接地面は使用により磨耗。外面, ミガキ。内面, 粗いハケ。
III-103	43	〃	SK3	磁器 碗	11.4	6.6	6.7	灰白色	広東形。畳付け, 釉剥ぎ。外面, 染付け。口縁部内面, 二重圏線。見込み, 岩・波。高台内, 枠内に「茶」。能茶山産。
〃	44	〃	〃	陶器 碗	12.8	8.6	5.3	にぶい黄橙色	灰釉。高台, 露胎。見込み, 目跡。高台内, 墨書。
〃	45	〃	〃	土師質 小皿	7.0	1.3	4.7	にぶい橙色	糸切り。口縁部にタールが付着。灯明皿。
III-105	46	III-3-3	SD1	須恵 蓋	10.8	(3.1)		黄灰色	天井部, 平ら。内外面, 回転ナデ。
〃	47	〃	〃	〃	12.6	3.6		灰白色	天井部, 平ら。磨耗, 調整等不明瞭。天井部外面, ヘラ切り痕。内外面, 回転ナデ。
〃	48	〃	〃	〃	13.1	4.1		〃	天井部, 丸味を帯びる。天井部外面, 回転ヘラケズリ。口縁部・内面, 回転ナデ。
〃	49	〃	〃	〃	11.0	(3.7)		灰色	天井部, 丸味を帯びる。天井部外面, 回転ヘラケズリ。口縁部・内面, 回転ナデ。口縁部, わずかに屈曲させる。
〃	50	〃	〃	備前焼 播鉢		(3.0)		〃	内外面, ロクロナデ。外面, 1条の凹線。混入品。
III-106	52	III-3-5	SX1	陶器 火鉢	19.9		13.8	暗オリーブ色	緑釉。外底面, 口縁部内面, 鉄錆塗布。口縁部外面, 柵状文。脚部外面, 雷文帯。
〃	53	〃	〃	土師質 焙烙		(3.2)		橙色	口縁部内外面, ヨコナデ。体部外面, ナデ。うっすらと煤付着。

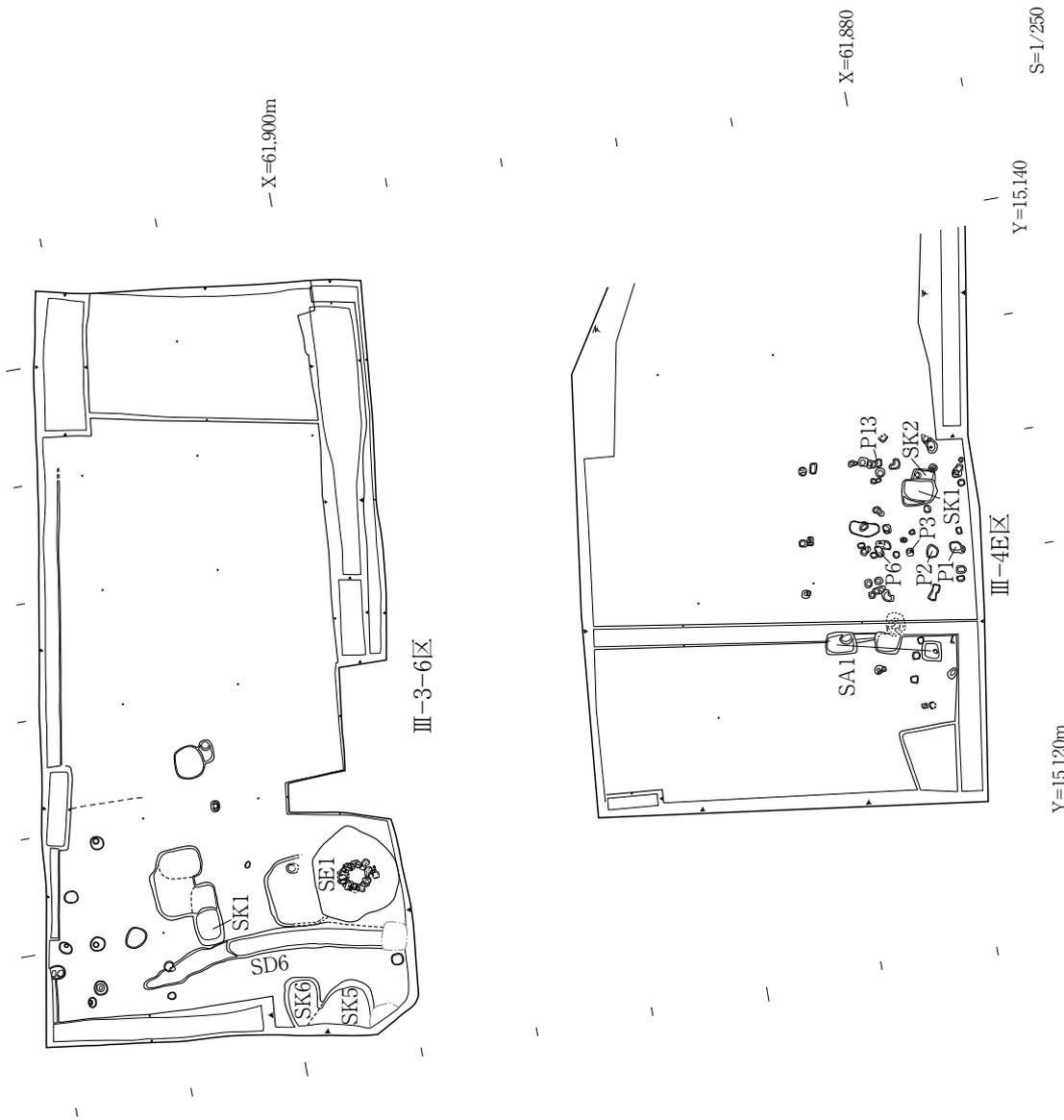
挿図 番号	図版 番号	調査区	出土場所 (遺構)	器種 器形	法量 (cm)			色調 (外面)	特徴
					口径	器高	底径		
Ⅲ-107	54	Ⅲ-3-1	P112	土師 椀	15.4	5.0	5.8	灰白色	輪高台。磨耗, 調整等不明瞭。外面腰部, ケズリ。口縁部, ヨコナデ。内面, ミガキ。工具の静止痕。被熱変色。
〃	55	〃	〃	〃	15.9	5.5	7.1	浅黄色	輪高台。磨耗, 調整等不明瞭。糸切り。外面腰部, ケズリ。上半, ミガキ。口縁部, ヨコナデ。内面, ミガキ。被熱変色。
〃	56	〃	〃	〃		(2.4)	5.8	橙色	平高台。磨耗, 調整等不明瞭。糸切り。被熱変色か。
〃	57	Ⅲ-3-3	P55	土師 甕		(3.4)		明赤褐色	口縁部, 内湾気味。内外面, ヨコナデ。内面, ハケか。胎土に花崗岩由来の砂粒を含む。搬入品。
〃	58	〃	P61	須恵 壺	12.2	(3.6)		灰色	口縁部内外面, 回転ナデ。肩部内面, 当て具痕。
〃	59	〃	P100	須恵 杯	17.0	4.1	10.7	黄灰色	外底面, 断面長方形の高台。内外面, 回転ナデ。
Ⅲ-108	60	〃	遺構外	〃	9.8	3.5	7.5	灰白色	底部, 平ら。口縁部, 直立。内面・体部外面, 回転ナデ。外底面, ヘラ切り後ナデ。
〃	61	〃	〃	須恵 提瓶		(7.3)		黄灰色	肩部外面, ボタン状。外面, カキ目。内面, ナデ。
〃	62	〃	〃	緑釉 皿		(1.3)	5.5	灰白色	素地, 須恵質。回転糸切り。オリーブ黄色の釉薬。精良な胎土。
〃	63	Ⅲ-3-5	〃	緑釉		(2.2)		〃	素地, 土師質。わずかに釉薬が残る。

#### 出土遺物(石器)観察表

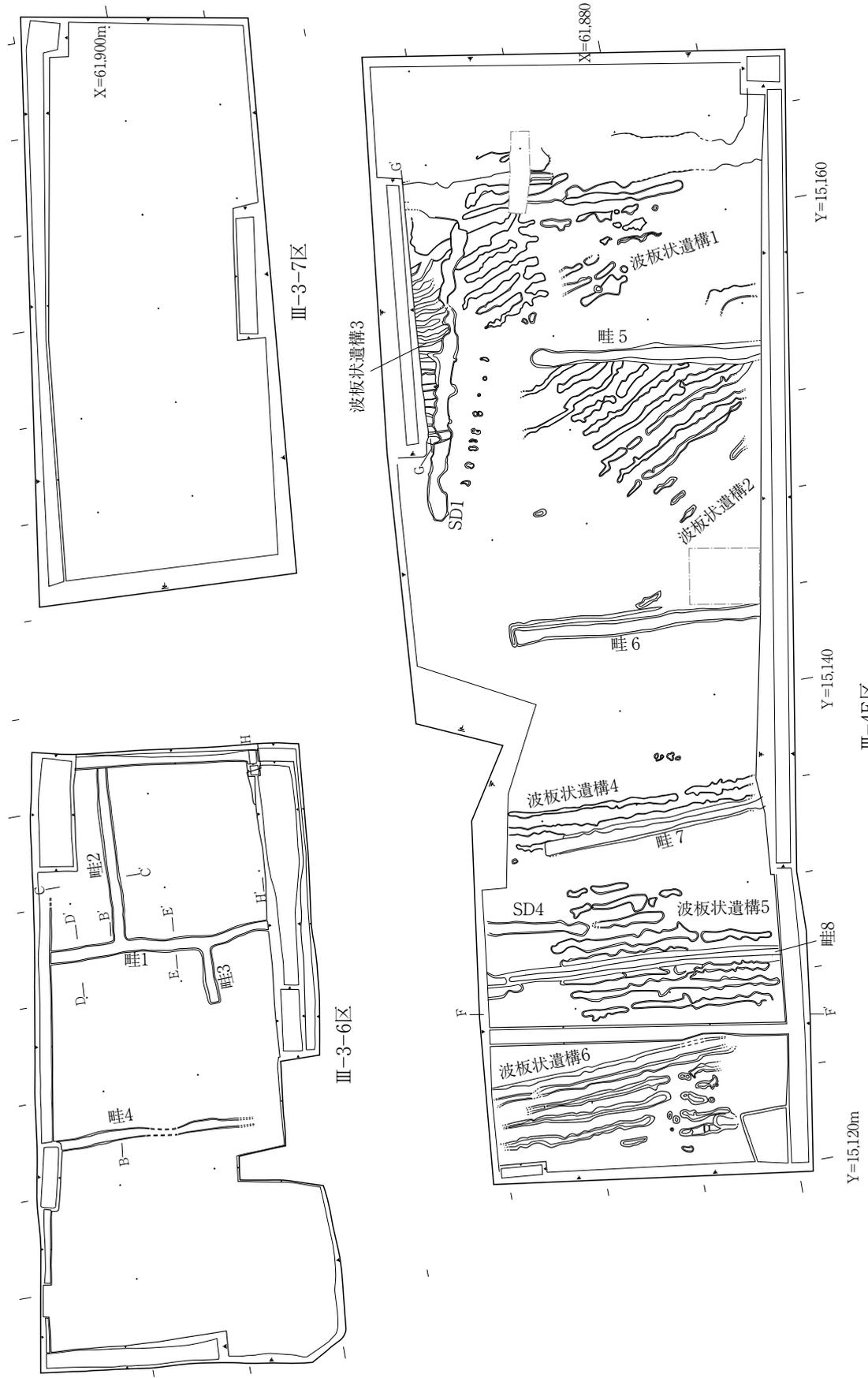
挿図 番号	図版 番号	調査区	出土場所 (遺構)	器種 器形	法量 (cm/g)				石材	特徴
					全長	全幅	全厚	重量		
Ⅲ-79	1	Ⅲ-3-1	ST2	石鏃	2.5	1.5	0.2	(0.6)	サヌカイト	打製石鏃。挟りの深い凹基式。調整剥離は中央付近まで施す。ほぼ完存。混入品。

#### 出土遺物(土製品)観察表

挿図 番号	図版 番号	調査区	出土場所 (遺構)	器種 器形	法量 (cm/g)				色調 (外面)	特徴
					全長	全幅	全厚	重量		
Ⅲ-100	27	Ⅲ-3-4	SK1	平瓦	(6.3)	(1.8)			褐灰色	キラ粉。小口面, 「山兵」の刻印。
〃	30	〃	SK11	〃	(8.0)	(1.4)			灰色	下端, 面取り。キラ粉。小口面, 「片佐」の刻印。
Ⅲ-105	51	Ⅲ-3-3	SD1	土錘	4.7	1.9	1.5	(11.3)	橙色	管状土錘。被熱変色。孔径0.5cm。欠損。
Ⅲ-108	64	Ⅲ-3-5	遺構外	〃	7.0	3.8	3.5	(95.0)	明赤褐色	有溝土錘。搬入品。

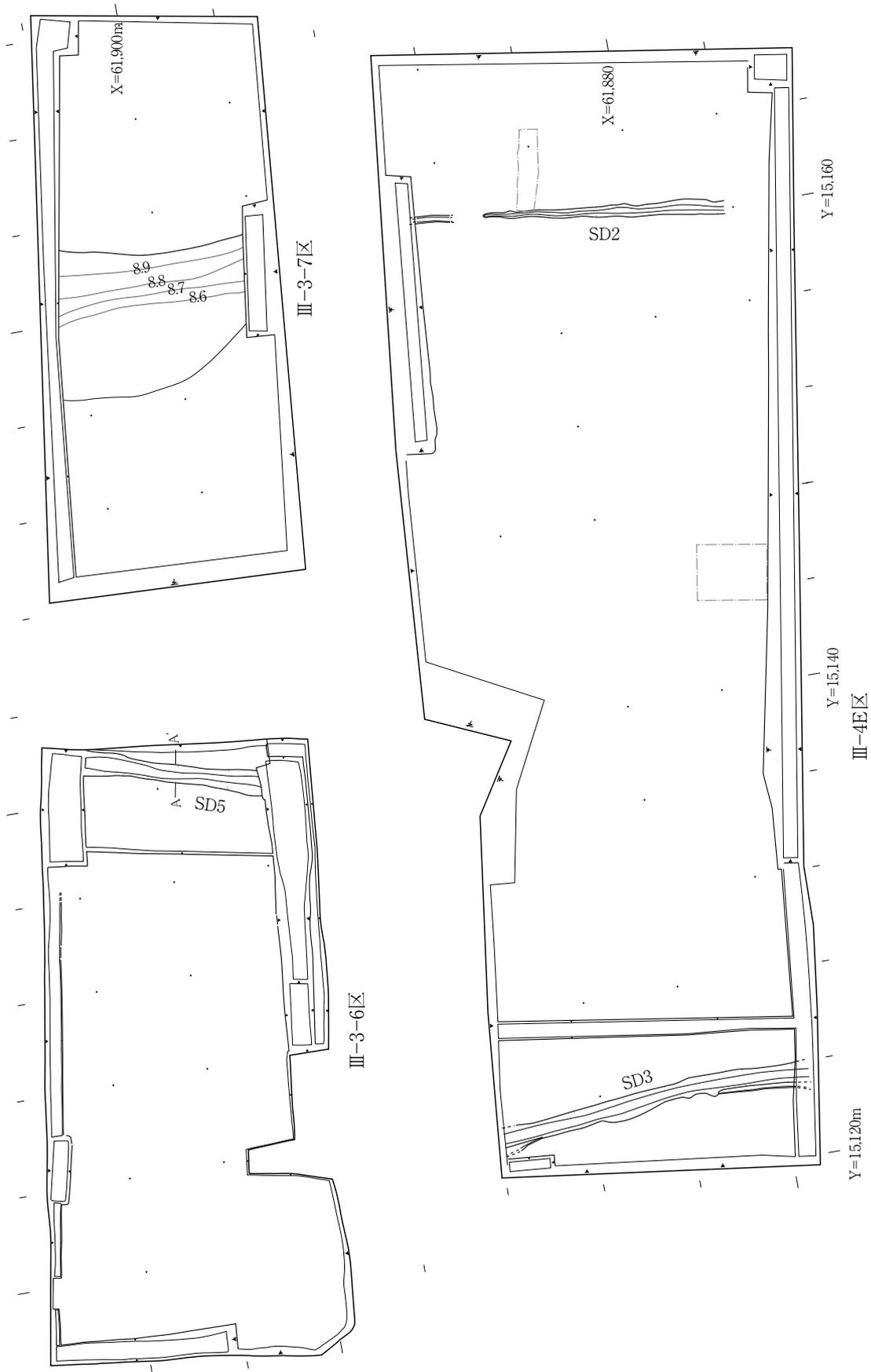


图Ⅲ-109 3-6.7 / 4E区上面遺構配置図



S=1/250

図III-110 3-6・7/4E区 中面遺構配置図



图Ⅲ-111 3-6·7/4E区下面遺構配置図

S=1/250

## 9. Ⅲ－3－6・7区・Ⅲ－4E区

### 1. 調査区概要

畦跡や波板状の遺構を検出した。旧道を挟んで北半のⅢ－3－6ならびにⅢ－3－7区，南半のⅢ－4E区を以下当区と呼称する。遺物密度は全調査区の中では低く，Ⅲ－4E区では総量約200片，コナテナ1箱半程度である。

### 2. 基本層準

#### Ⅲ－3－6・7区

畦1～4は図Ⅲ－112のごとく，各区で「上の黒」と呼んできた黒褐色粘性土の立上がりとして検出された。

当区の東西両端部では，諸層が当区へ向かって傾斜していることが認められる。後述のⅢ－4E区も同様で，換言すれば当区が凹地となっていることがわかる。「上の黒」層も東端や北西隅で途切れる(図Ⅲ－112・119)。このような当区の状況との比較により，西方のⅢ－3区やⅢ－4W区における建物群の継続の前提条件もよりよく理解される。また，南半西部の基本層準南北断面(図Ⅲ－117)では下層基盤層が南へ高まっており，その南部では後述のとおり掘立柱建物跡とみられるピット群が検出されている。

西端部の14層，東部のⅧ層やⅩ層には弥生土器片を含む。

#### Ⅲ－4E区

Ⅱ層：Ⅳ区やⅢ区中央部以西の広範囲に存在する灰色粘土質シルト層で，夾雑物が少なく，少なくとも肉眼観察では他層に比べて均質に見える。

Ⅲ層：東部や西部では，波板状遺構の埋土は当層とみられる。出土遺物に緑釉陶器(20)がある。

Ⅳ層：畦跡とその間の水田と想定される部分を覆う。包含遺物は破片が多いが，古代初期前後の須恵器等が中心である。

Ⅴ層：黒褐色粘土で締りがある。Ⅲ－3－6・7区と同様，畦跡を形成している層である。各区の「上の黒」層に該当。

Ⅵ層：26と須恵器甕片(24)が出土。

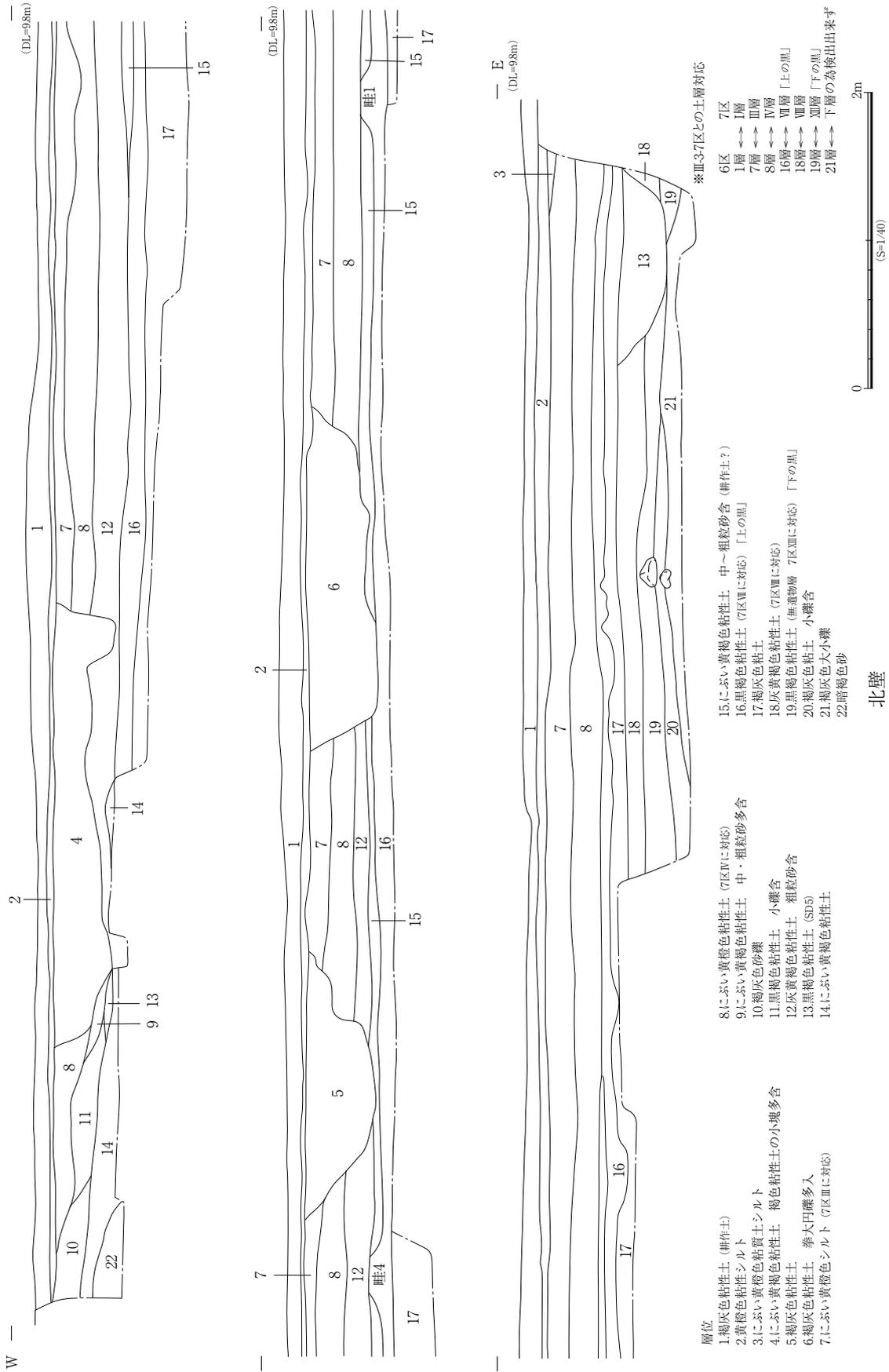
Ⅶ層：南壁の2カ所で計6片の弥生土器片を検出した。当区で最下の遺物包含層である。

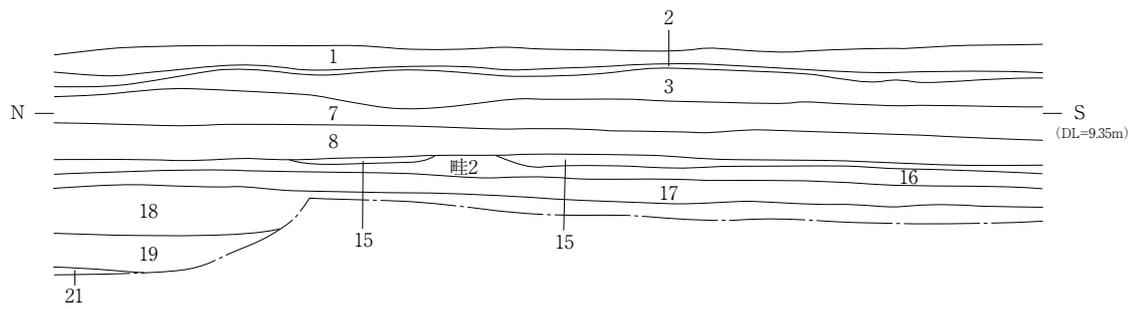
Ⅷ層：以下は無遺物層。

Ⅸ・Ⅹ層：両層のいずれか或いは両方が，各区で記した「下の黒」層に該当するとみられる。

Ⅺ層：地山。各区でみる地山とも共通的。

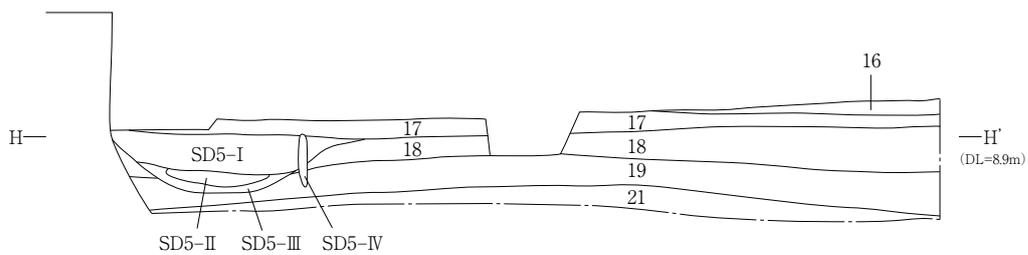
東・西から当区中央部へ向かって土層の落込みがみられる点は北部のⅢ－3－6・7区と同様で，下位の層ほど顕著である。当小区中央部での波板状遺構や畦跡の検出面の標高は8.9余～9.1m，諸層がせり上がる西端部では9.15m前後を測る。北東隅では波板状遺構検出面からの連続面(図Ⅲ－119Ⅲ層下面)が9.2mを測り，さらに調査区外へ上昇しているとみられる。



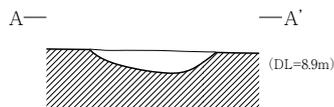


- 層位
- 1. 褐灰色粘性土 (耕作土)
  - 2. 黄橙色粘性シルト
  - 3. にぶい黄橙色粘質土シルト
  - 7. にぶい黄橙色シルト
  - 8. にぶい黄橙色粘性土
  - 15. にぶい黄褐色粘性土 中～粗粒砂含
  - 16. 黒褐色粘性土
  - 17. 褐灰色粘土
  - 18. 灰黄褐色粘性土
  - 19. 黒褐色粘性土 (無遺物層)
  - 21. 褐灰色大小礫層

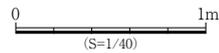
東壁



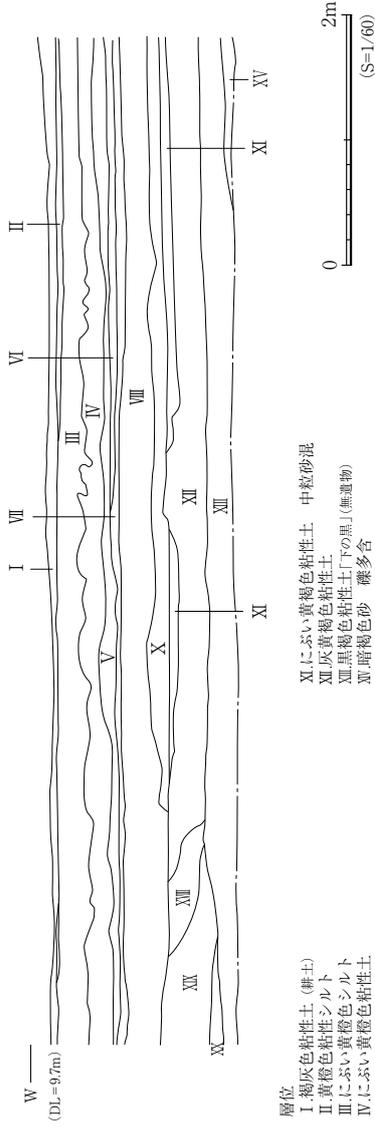
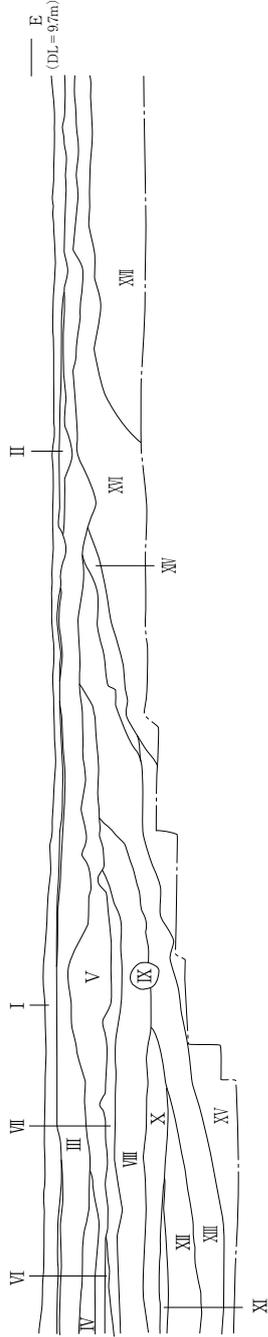
- 層位
- SD5-I 灰黄褐色粘性土
  - SD5-II 褐灰色砂
  - SD5-III 褐灰色粘土～砂
  - SD5-IV. にぶい黄褐色シルト (杭痕)
  - 16. 黒褐色粘性土 (上の黒か)
  - 17. 褐灰色粘土
  - 18. 灰黄褐色粘性土
  - 19. 黒褐色粘性土 (無遺物層)
  - 21. 褐灰色 大小礫層



SD5埋土  
灰黄褐色砂質土 SD5



図Ⅲ-113 3-6区 基本層準図・SD5



- 層位
- I. 褐色粘性土 (粘土)
  - II. 黄褐色粘性シルト
  - III. におい黄褐色粘性土
  - IV. におい黄褐色粘性土
  - V. におい黄褐色粘性土
  - VI. 灰黄褐色粘性土
  - VII. 黒褐色粘性土
  - VIII. 灰黄褐色粘性土 (強生包壳層)
  - IX. におい黄褐色粘性土 (御木か)
  - X. 褐色粘性土
  - XI. 褐色粘性土 (粘土)
  - XII. 黄褐色粘性シルト
  - XIII. におい黄褐色粘性土
  - XIV. におい黄褐色粘性土
  - XV. 灰黄褐色粘性土
  - XVI. 明黄褐色細砂
  - XVII. 褐色砂礫 (細粒砂多 礫多含)
  - XVIII. 褐色砂礫 (細粒砂多 礫多含)
  - XIX. 褐色粗粒砂含
  - XX. におい黄褐色シルト
  - XXI. 灰黄褐色砂礫 (強生土器片含)
  - XXII. 灰黄褐色粘性土「下の重」(無遺物)
  - XXIII. 灰黄褐色粘性土
  - XXIV. 中粒砂混

北壁

図III-114 3-7区 基本層準図

### 3. 遺構と遺物

#### (1) 畦跡

北西部のⅢ-3-6区で方形区画状プラン、南半のⅢ-4E区では南北位の隆起が検出された。Ⅲ-3-6区では高さ3~5cm・幅30~40cm、Ⅲ-4E区では高さ1~17cm・幅30~40cmを測り、いずれもV層の立ち上がりとして検出された。畦6・8は、裾東側あるいは両側に深さ2~10cmの溝が沿う。畦およびその間の水田跡に該当する部分は、黄灰~にぶい黄褐色の粘性土(南半部基本層準ではIV層)で覆われており、同層からの出土遺物は少量で破片主体だが、図示した以外に古代初期前後の須恵器等の破片が出土している。Ⅲ-3-6区と同層出土遺物は計7点で、古代の可能性のある須恵器蓋片、土師器甕片各1片を含む。第IV章の自然科学分析の放射性炭素年代測定において、畦自体を形成する土層、即ち水田耕作土からの採取試料が「Ⅲ-4E区試料番号1」、「試料番号1を被覆する砂層」がそれを覆う、即ち水田跡の覆土で、南半部基本層準ではIV層(黄灰~にぶい黄褐色の粘性土にシルト若干含む)に該当する。また、珪藻分析・植物珪酸体分析では畦5の東側、畦6-7間、畦7西側を各々水田状遺構0, 2, 3とし、採取した水田跡覆土を試料とした。

#### (2) 溝跡

当区で最も先行する遺構はSD2, 3, 5で、他遺構との重複関係や検出面から判断される。いずれも南北溝で、出土遺物は少数の弥生土器片である。

SD1は波板状遺構3を切る。両者とも埋土は砂で、橙色を帯びる部分が散在する。

#### (3) 波板状遺構

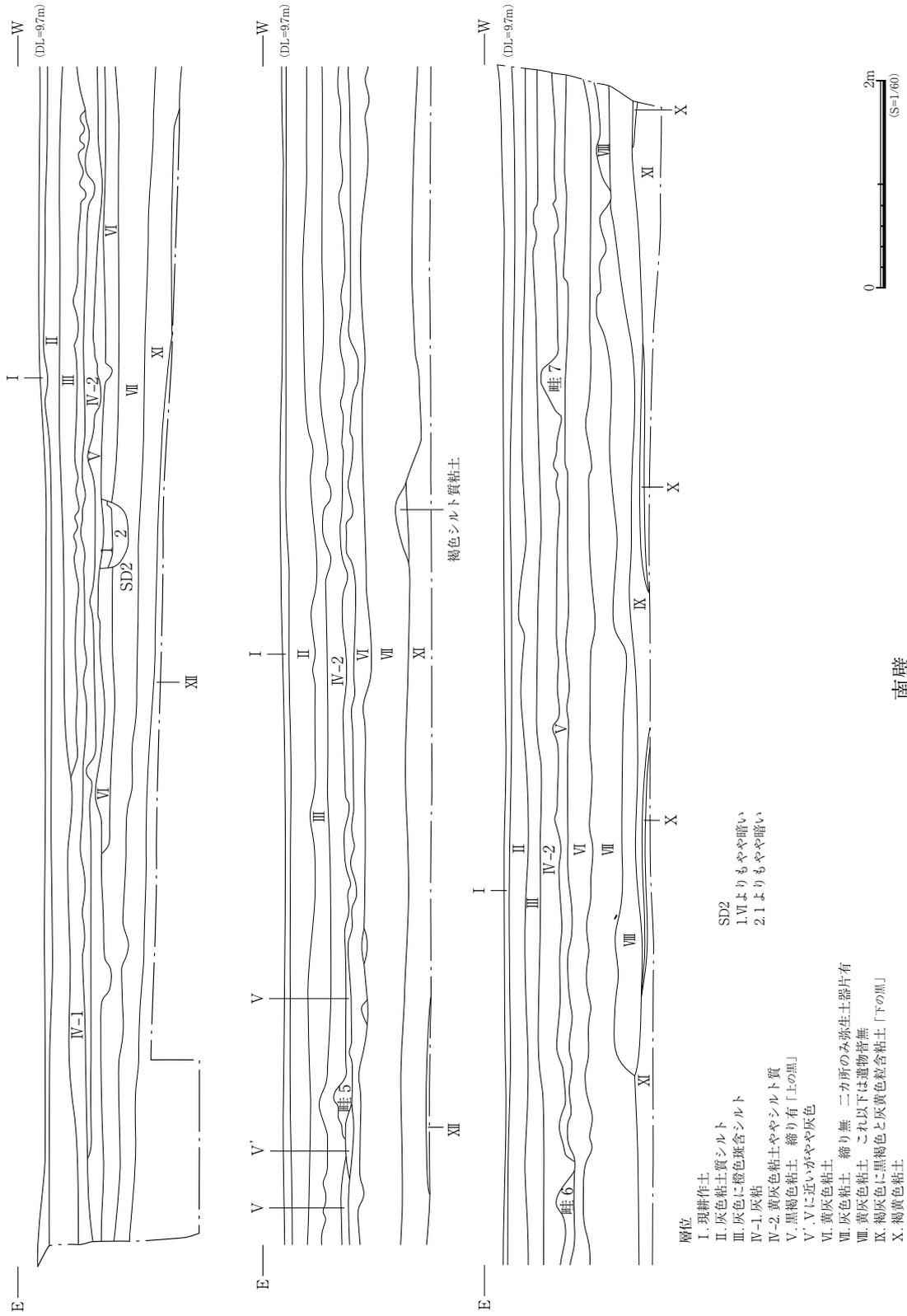
南半部で検出した。深さ数~十数cmの溝が連続する。波板状遺構2は、水田跡覆土であるIV層除去後に検出した。V層を切り、埋土は水田跡覆土除去後に検出した波板状遺構2では同覆土と同様、波板状遺構3では南半区北壁断面(図Ⅲ-119)にみられる砂層で、後者は上層に橙色を帯びる点も含めて後記のSD1と近似していた。以上より、畦跡との先後関係や波板状遺構相互の詳細な時期差は明確にできない。

波板状遺構3では、東部の地山がせり上がる部分には存在せず、各溝の検出標高に大きな高低のないことが認識できる。すなわち、下層が落込んだ部分で、かつそれが埋没し一定平坦化した段階で形成されている可能性がある。

#### (4) 掘立柱建物・ピット・土坑

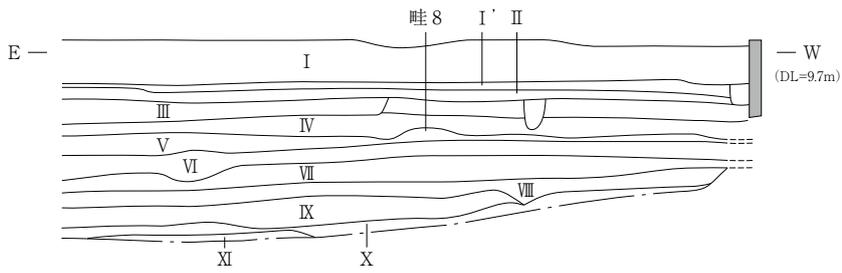
南西部で古代~中世に位置付けられる遺構群を検出した。検出面は畦跡等より上位で、IV~Ⅲ層上面に相当する。

平面方形の柱穴列や、小振りな方形の柱穴で構成される掘立柱建物跡が想定されるが、重複や建替えにより個々の建物の抽出が難しい。遺物は土師質の土器片等が出土した遺構が多く、一部瓦質土器鍋片の出土したものがある。遺構埋土は総じて似ており、黄灰~灰色シルトに黄灰粘土質シルトと灰黄~暗黄灰シルト質粘土塊を含むことを基本とする。なお、P3出土の青磁碗(11)にⅢ層掘削中の破片が接合した。

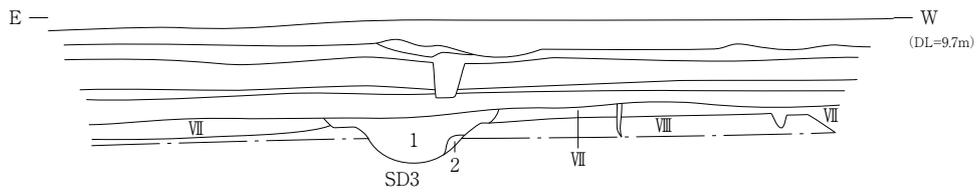


図III-115 4E区 基本層準図

- 層位
- I. 現耕作土
  - II. 灰色粘土質シルト
  - III. 灰色に橙色混入シルト
  - IV-1. 灰粘
  - IV-2. 黄灰色粘土ややシルト質
  - V. 黒褐色粘土 締り有「上の黒」
  - V', V. に近いがやや灰色
  - VI. 黄灰色粘土
  - VII. 灰色粘土 締り無 ニカ所のみ弥生土器片有
  - VIII. 黄灰色粘土 これ以下は遺物皆無
  - IX. 褐色灰色に黒褐色と灰黄色粒含粘土「下の黒」
  - X. 褐色粘土
  - XI. 黒褐色粘土 締り無 (「下の黒」に類似)
  - XII. 褐色シルト質粘土 締り有
- SD2
- 1. VIよりやや暗い
  - 2. Iよりやや暗い



- 層位
- I 現耕作土
  - I' 現耕作土
  - II 灰色粘土質シルト
  - III 灰色砂と粘土 波板状遺構はこれで埋まっている
  - IV 黄灰色粘土ややシルト質 (須恵器が出土する層)
  - V 黒褐色粘土 「上の黒」 以下無遺物
  - VI 黄灰色粘土
  - VII 明褐色灰色粘土
  - VIII 褐色灰色粘土
  - IX 褐色灰色粘土 明るめ
  - X 灰黒・褐灰・褐黄色の塊が混在する粘土
  - XI 黒褐色灰色粘土 (「下の黒」に酷似)



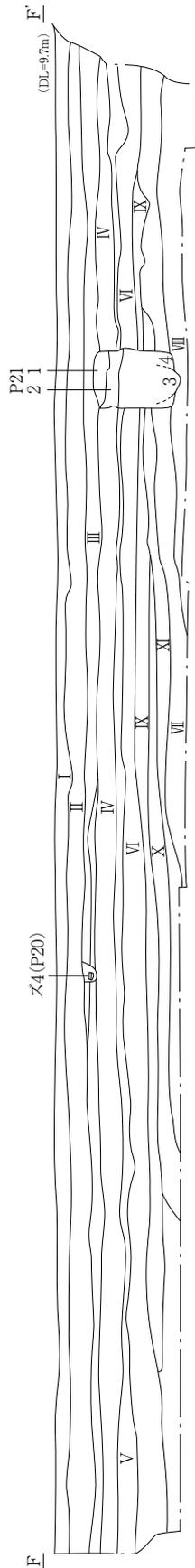
- 層位
- VII 「下の黒」
  - VIII 褐色灰色粘土

- SD3埋土
- 1. VIIよりやや暗く締り無
  - 2. 1よりやや灰色



西端南壁

図III-116 4E区西端 基本層準図1



- 層位
- I 珉結作土
  - II 灰色シルト質粘土 (波板状遺構理上に積する)
  - III 灰色シルト質粘土 棕色斑含
  - IV 灰色シルト質粘土 「上の黒」
  - V 暗褐色シルト質粘土 暗褐色斑含
  - VI 灰・褐灰・褐黄が混ざる粘土〜シルト質粘土
  - VII 暗褐色シルト質粘土 「下の黒」
  - VIII 黄褐色粘土質シルト (普通弱的にある地山)
  - IX 褐色シルト質粘土 IXより暗く北部ではやや縮り無
  - X 褐色シルト質粘土
  - XI 褐色粘土

- P21
- 1 黄灰色シルト質粘土 灰褐色塊含
  - 2 黄灰粘土質シルト
  - 3 4と灰黄色が塊上に混ざる粘土 柱痕
  - 4 黄灰色粘土 暗褐色(地山)と灰黄色塊含



西端東壁

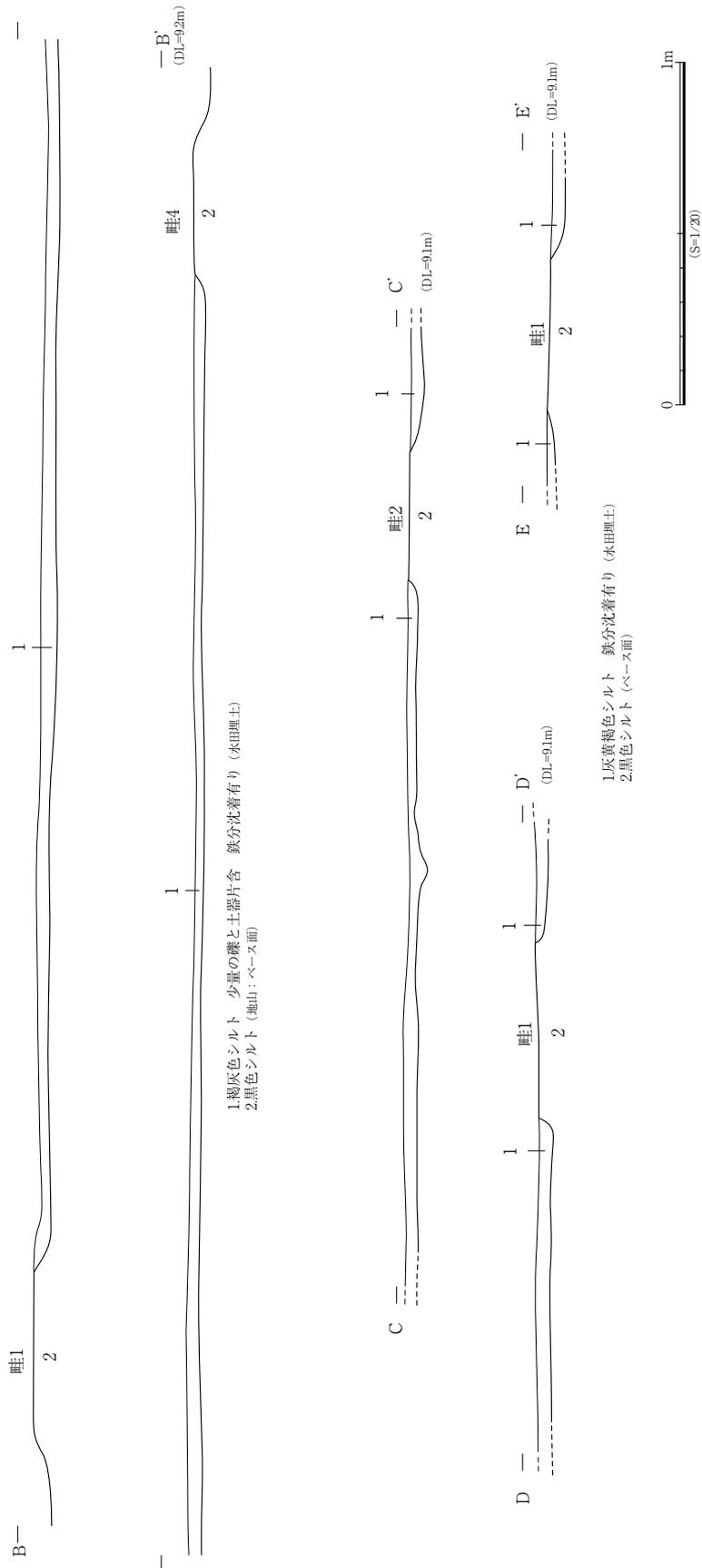
図III-117 4E区西端基本層準図2

#### (5)中世以前小結

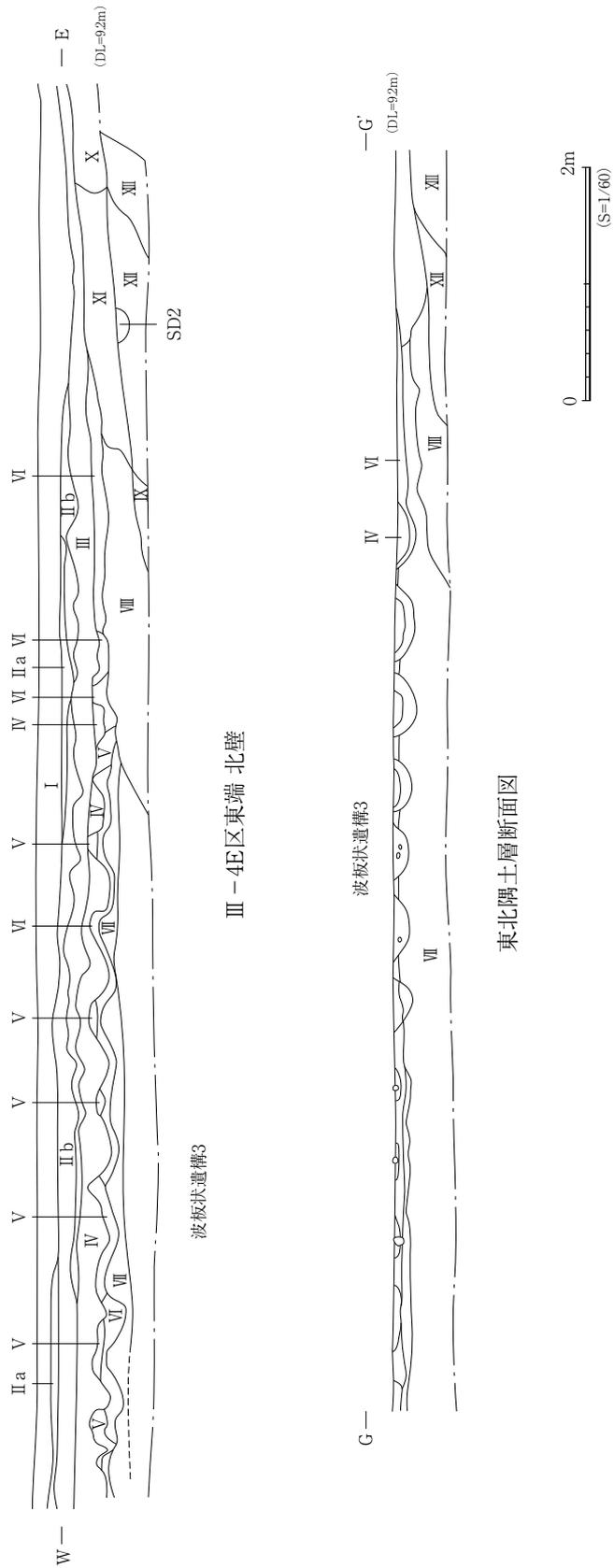
以上, 当区で検出した中世以前の遺構群の変遷の概要は, 1期:SD2・3・5で時期は2期以前, 2期:畦跡群で古墳後期～古代初期, 2 新期:SD1, 3期:掘立柱建物・ピット・土坑で古代～中世となる。波板状遺構は2期に属し, 少なくとも波板状遺構3はSD1に先行する。

#### (6)近世以降

北半区西部(Ⅲ-3-6区)のSK1は磔を多含し, 粗製の天目釉碗をはじめとする近世遺物が若干出土している。石組み井戸SE1も該期とみられる。



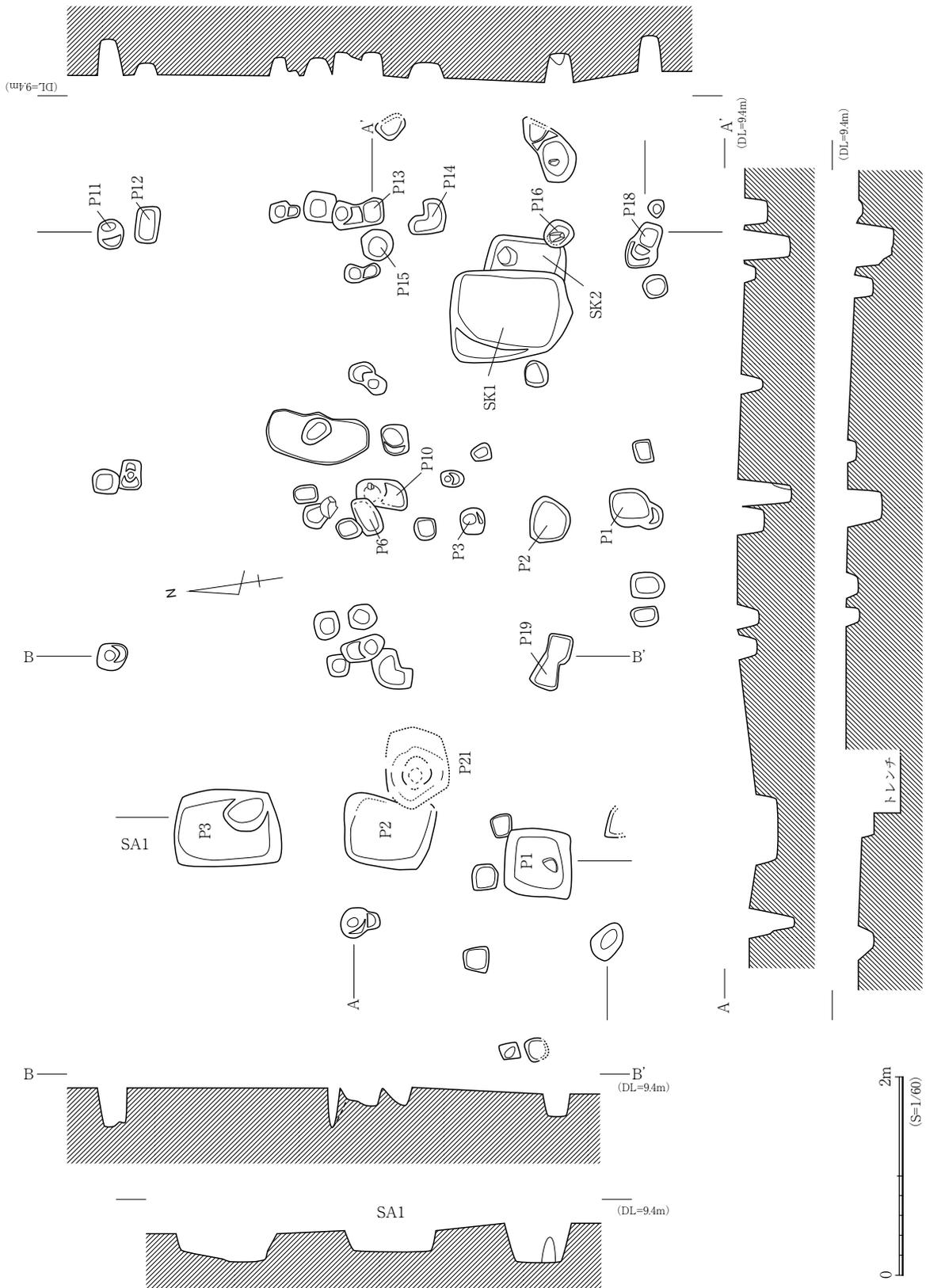
図III-118 3-6区 水田跡断面図



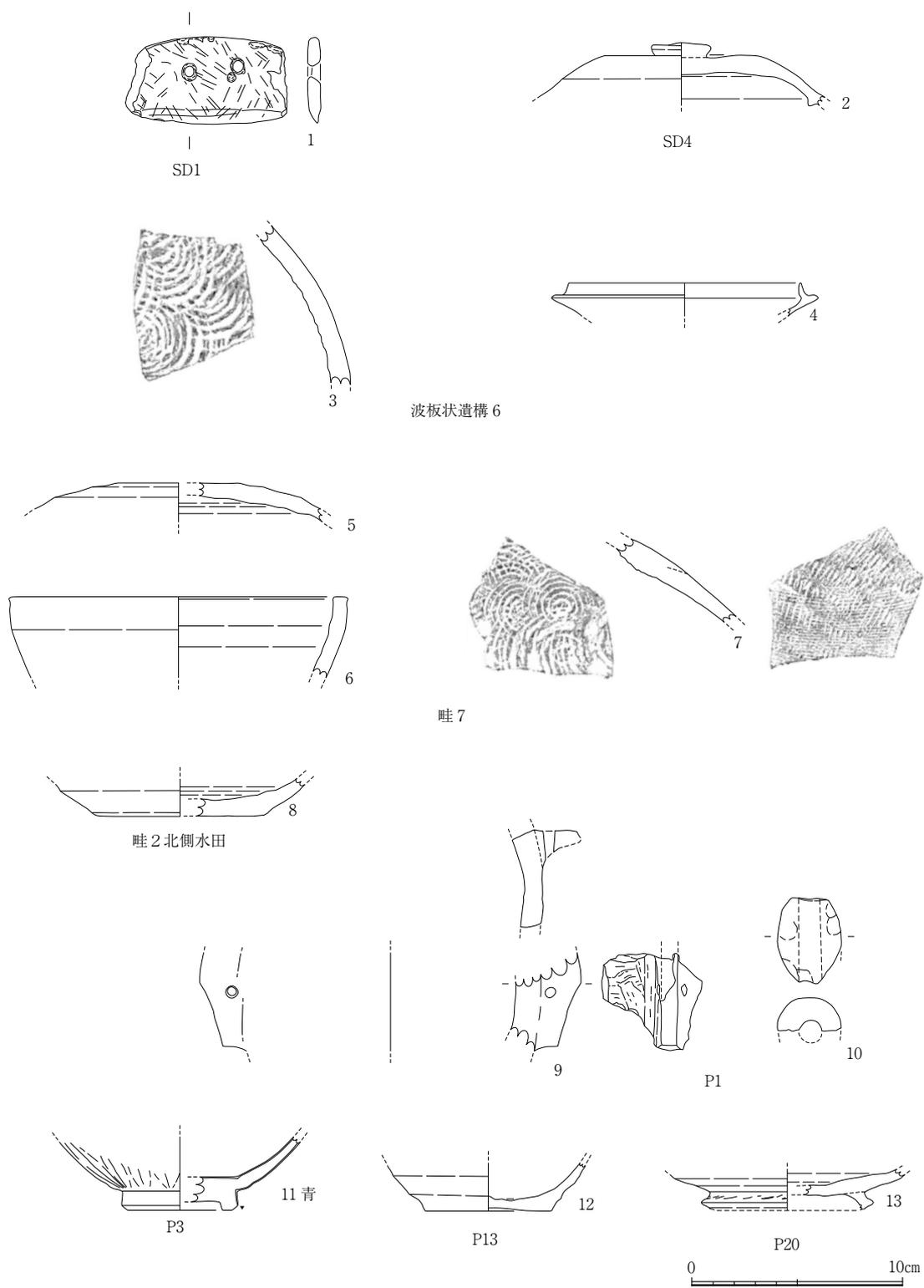
- 層位
- I 表土
  - IIa 他区のII層と共通する灰色シルト
  - IIb 他区のII層と共通する砂層
  - III 黄灰色シルト 棕色鉱物混多含
  - IV 東部のみ黄灰色シルトの比率が徐々に増す砂層
  - V 濃褐色灰色粘土 小礫含
  - VI 灰色粘土 弥生土器少量含

- VII 灰色に棕色混含シルト質粘土 小礫少含
- VIII 暗灰色粘土 小礫少含
- IX 土質はVIIIと同じ灰色粘土
- X 数cmまでの砂層
- XI 濃褐色灰色粘土ないしシルト質粘土 10数cm大までの円礫含
- XII 灰黄色シルト 小礫含
- XIII 砂と10数cm大までの円礫

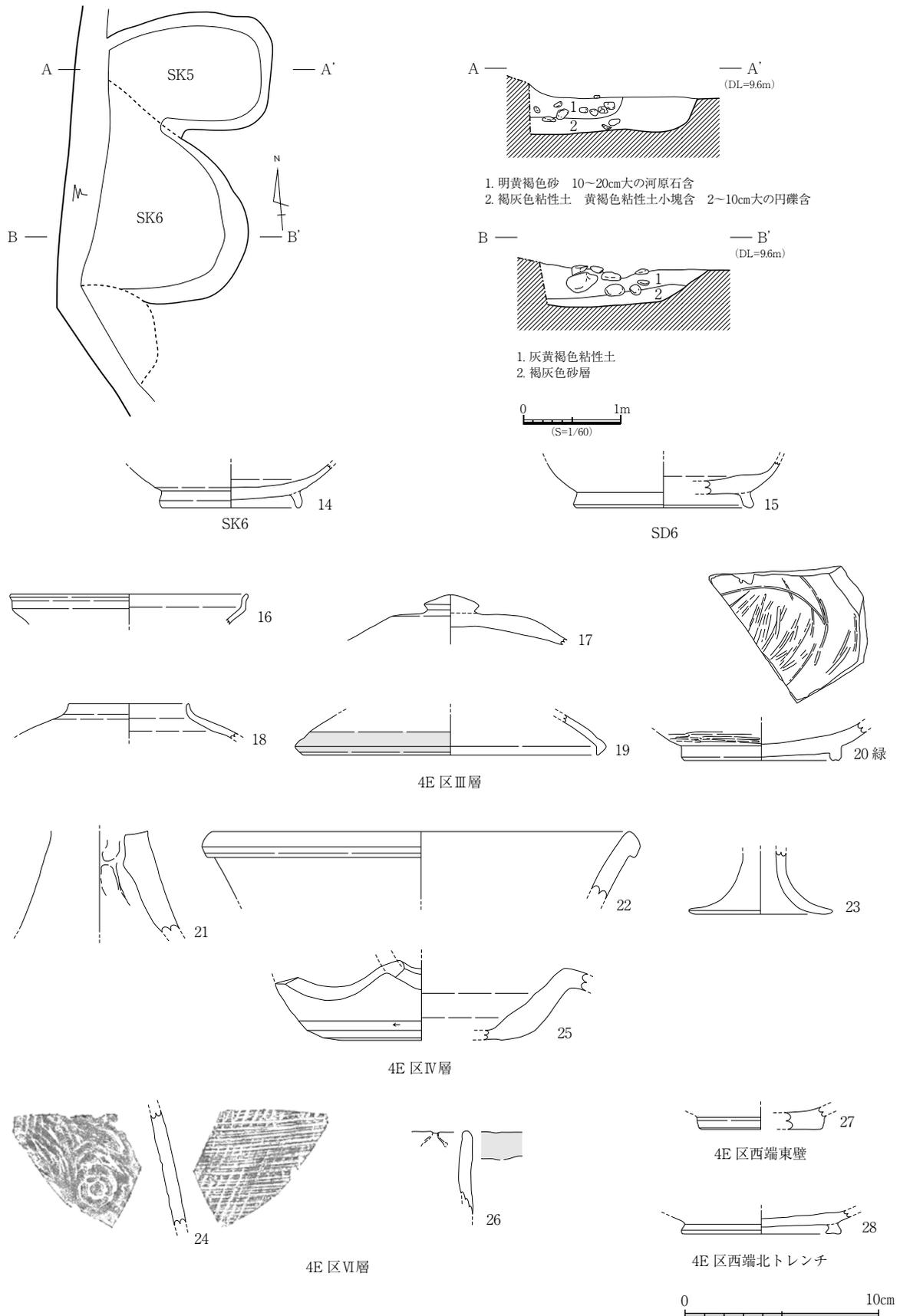
図III-119 4E区東北隅 基本層準図



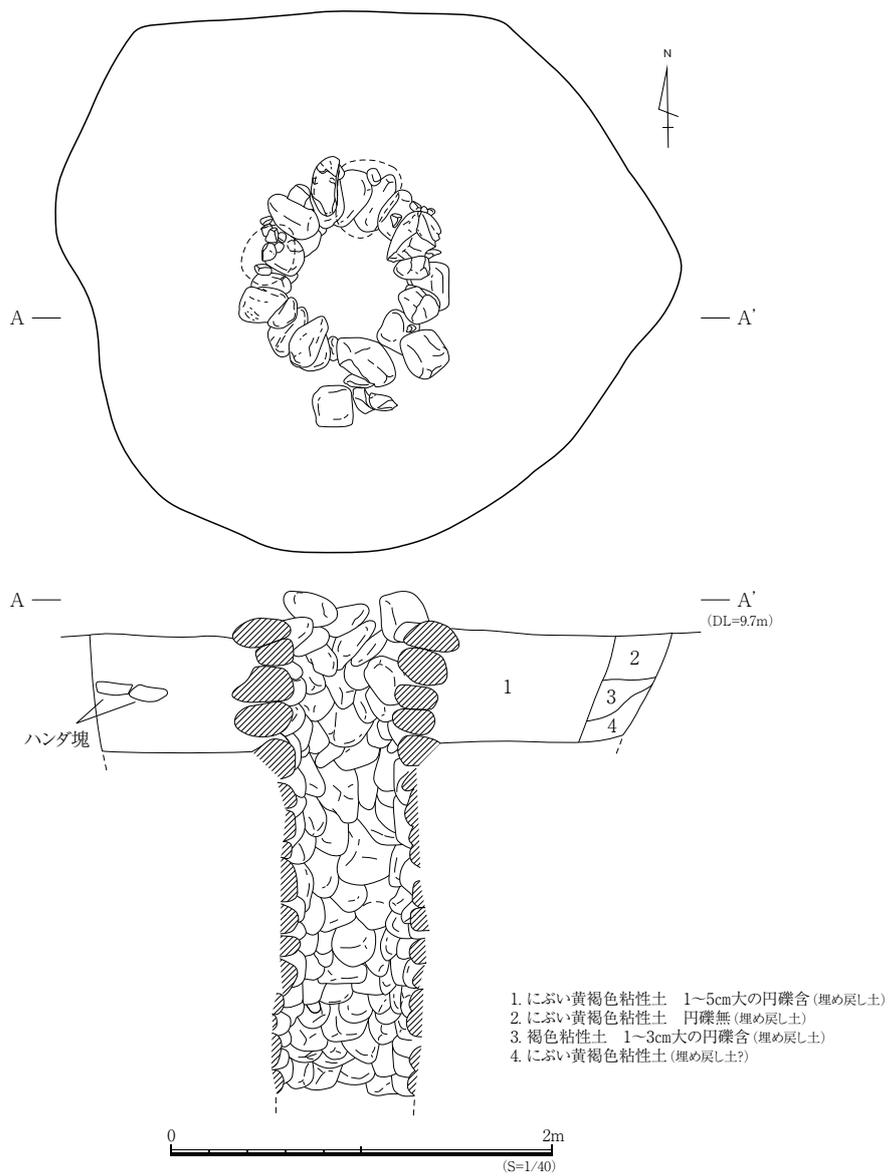
図Ⅲ-120 4E区SB・ピット平面図



図Ⅲ-121 3-6・4E区 遺構出土遺物



図Ⅲ-122 3-6・4E区 包含層等出土遺物



図III-123 3-6区SE1平断面図

表1 畦・溝跡計測表

全ての表の凡例はⅡ区 (P130・148) に準ず

遺構名	小区	検出長 (m)	幅 (cm)	高さ (cm)	方位	出土遺物	備考
畦1	3-6	(9.1)	38~61	3~4	1°		
畦2	3-6	(7.2)	45~56	2~4	4°		
畦3	3-6	2.3	41~57	3~4	0°		
畦4	3-6	(8.1)	35~54	3~5	2°		
畦5	4E	(9.6)	31~64	2~12	8°		
畦6	4E	(10.3)	36~62	2~6	3°	東肩や裾より須・土6片	裾に溝
畦7	4E	(9.3)	20~51	5~17	-2°	図5~7出土	
畦8	4E	(12.4)	49~70	2~16	4°	東裾より須恵器	掘立柱建物跡の下層。波板状遺構5と平行。
				深さ (cm)			
SD1	4E 北東	12.3	70	2~7	14.3°	弥生5片	波板状遺構3を切る
SD2	4E 東	10.1	56	3~12	8.2°	弥生8片+底1	下面で検出
SD3	4E 西端	12.5	73	20~34	-2.5°	弥生ハ埴輪多条沈線壺片	「上の黒」より1層下面で検出
SD4	4E 西	4.2	45	1~4	10.5°	須7, 弥・土30片, 古墳末古 代初か	
SD5	3-6	7.5	50	31 (南壁)	16.4°		「上の黒」より1層下面で検出

表2 畦跡の間隔

間隔	計測位置	距離 (m)
畦1-畦4	-	7.8
畦2-畦3	-	3.5
畦5-畦6	北端	11.7
	調査区南端	10.9
畦6-畦7	北端	9.0
	調査区南端	8.1
畦7-畦8	北端	5.3
	調査区南端	6.3

※ 距離は心々間

表3 波板状遺構計測表

遺構名	位置	全長(検出長) (m)	幅 (cm)	深さ (cm)	備考
波板状遺構1	東部	3.0~5.0	10~81	2~8	
波板状遺構2	-	(5.0~6.5)	8~56	2~7	
波板状遺構3	東部	(0.4~1.8)	18~61	2~7	SD1に切られる
波板状遺構4	-	(7.1~10.2)	11~(58)	4~17	
波板状遺構5	西部	(5.9~10.0)	17~51	1~5	
波板状遺構6	西端	8.7~3.0	17~73	1~5	図3・4出土

※ 全て南半 (Ⅲ-4E区)

表4 土坑・ピット計測表

遺構名	小区	平面形	長軸	短軸	深さ	出土遺物	備考
SB (ピット)	4E 西	方~不整形	24~ 46	-	5~ 38		建物の建替え・重複は分別不可能。検出面「上面」。
SA1 - P1	〃	方形	68	67	41	細片 3	
SA1 - P2	〃	方形	86	68	26	土片 9, 須片	
SA1 - P3	〃	方形	106	76	39	土片 3	
SK1	〃	方形	122	91	35	須杯, 甕, 土 17 片, 古代 前期か, SK2 と分別不能	埋土: 灰土基本に, 上層 = 黄灰粘土, 若干暗黄灰土 粘塊少含, 下層 = 暗黄灰土粘塊含。
SK2	〃	方形	79	(33)	32	上記 SK1 と分別不能	SK1・P16 に切られる。埋土: 灰土基本に, 上層 = 暗 黄灰土粘塊少含, 下層 = 黄灰粘土, 暗黄灰土粘塊混。
P1	〃	隅丸方形	51	38	37	瓦質鍋, 図 9・10, 他 3 片	
P2	〃	不整形方形か	46	40	21	瓦質鍋, 他 1 片	
P3	〃	隅丸方形	27	26	29	青磁椀 図 11	
P6	〃	長方形	39	23	27	鉄 (釘か) 片	
P13	〃	方形	52	23	24	図 12	
P16	〃	円形	29	27	28		SK2 を切る。長さ 25 cm の川原石が縦に入っている。
P20	4EW 壁	断面のみ	-	-	14	須 (椀か) 図 13	
P21	4E 西	-	81	63	64		

※ 計測値はcm

出土遺物（土製品）観察表

全ての表の凡例はⅡ区（P130・148）に準ず

挿 番 号	図 版 番 号	調査区	出土場所 (遺構)	器 種 器 形	法 量 (cm)			色 調 (外面)	特 徴
					口径	器高	底径		
Ⅲ-121	2	Ⅲ-4 E西	SD4	須恵器 杯蓋		(3.0)	握み径 2.8	灰色	口縁にカエリ。天井内丁寧ナデ。外面自然釉。残存天井 1/2。
〃	3	〃	波板状6	須恵器 甕		(7.6)		灰オリーブ色 内面灰白色	内・当具痕。外・自然釉。
〃	4	〃	波板状6	須恵器 杯	11.0			灰白色	華奢なつくり。口縁に重ね焼きを示す変色。残存 1/9。
〃	5	Ⅲ-4E	畦7 東肩	須恵器 蓋か		(1.8)		灰白色 焼成やや不	残存 1/4
〃	6	〃	畦7 東SD	須恵器 鉢	16.0			灰色	残存 1/15
〃	7	〃	畦7 東側肩	須恵器 甕		(4.1)		灰色	外面・回転コホケ後にタタキ。内面・当具痕。
〃	8	Ⅲ-3-6	畦1・2間 水田埋土	須恵器			7.9	灰白色	残存 1/4
〃	9	Ⅲ-4 E西	P1	須恵器		内径 11.8		灰白色 胎土黒点含む	内・横ナデ。外・耳圧着部周辺ナデ仕上げ。耳に穿孔, 端面は削って成形。
〃	10	〃	P1	土製品 土錘	全長 4.1	外径 3.0 孔径 1.1	重量 33.5g		棒に粘土を巻いて成形か。残存 1/2。
〃	11	〃	P3	青磁 碗			4.9	明オリーブ 灰色	鎚連弁文。壘付外周を明確に面取りし, その外端以内は釉剥ぎ。内底周縁は角をつけて削る。残存 1/4。
〃	12	〃	P13	土師質 杯			6.0	橙色 胎土素地精	糸切。摩。底径全存。
〃	13	〃	土層壁 P20	須恵器 碗か			7.3	灰白色	内底ナデ。高台端部は両側に拡張するが, 内縁は欠け。残存 2/5。
Ⅲ-122	14	Ⅲ-3-6	SK6	灰釉 陶器			7.0	内外面灰白色 胎土精	精工・灰白色で仕上げ整美, 高台三日月形の搬入品。内底ナデ, 外底回転ケズリ。灰釉陶器底部か。残存 2/5。
〃	15	〃	SD6	須恵器 杯			9.3	灰色 胎土良	内外底ナデ仕上げ。全体に丁寧。I期前。残存 1/2。
〃	16	Ⅲ-4 E西	Ⅲ層上	須恵器	12.1			灰白色 胎土精	薄手, 丁寧な仕上げ。残存 1/12。
〃	17	〃	Ⅲ層	須恵器 蓋			握み径 2.8	にぶい黄色 断面浅黄色 胎土粗粒含 焼成不	天井・内面ナデ, 外面回転ケズリ。厚手。摩。残存天井 1/1。
〃	18	Ⅲ-4E	Ⅲ層	須恵器 壺	6.2			黄灰色 内面灰白色 胎土精	口縁外面下で色調変化, 蓋を被せた状態での焼成を示す。残存 1/4。
〃	19	〃	Ⅲ層	須恵器 蓋	15.1			灰色	天井外面全面回転ケズリ。丁寧な成形・仕上げ。口縁外面に濃色帯あり, 窯詰め状態を示す。残存 1/8。
〃	20	Ⅲ-4 E西	Ⅲ層	緑釉			8.0	明オリーブ 灰色 断面灰白色	高台削出し。内外ミガキ。全面に薄い釉。素地須恵質だが焼締っていない。壘付僅かに凹。残存 1/3。
〃	21	〃	Ⅳ層	土師器 高杯		(5.3)		橙色 断面黄灰色 胎土素地精 赤レキ含	接合部で剥離。全摩。残存 1/4。

挿図 番号	図版 番号	調査区	出土場所 (遺構)	器種 器形	法量 (cm)			色調 (外面)	特徴
					口径	器高	底径		
Ⅲ-122	22	Ⅲ-4 E西	Ⅳ層	須恵器 広口壺	21.4			灰色	口縁内に自然釉。残存 1/10。
〃	23	〃	Ⅳ層 畦 8 付近	須恵器 高杯			7.4	灰白色	内外に自然釉。残存脚柱 1/1。
〃	24	〃	Ⅵ層	須恵器 甕		(6.0)		灰色	外面・タタキ後回転カキ目。内面・当具後, 若干ナデ。
〃	25	〃	Ⅳ層上	須恵器 口付瓶 か			9.9	灰色 胎土良	注口を有すか。外底回転ケズリ。残存底 2/7。
〃	26	Ⅲ-4E	Ⅵ層	-		(4.3)		橙色 内面浅黄橙色 断面灰色	口縁端部は焼塩土器風で未仕上げ。口縁外面被熱, 褐~橙色。
〃	27	Ⅲ-4 E西	東壁	土師質 椀か杯			6.4	淡黄色 胎土良	内面・滑らか。摩。残存 1/4。
〃	28	〃	NTR	須恵器 杯			8.1	灰白色	高台・端部を両側に拡張, 畳付はやや凹。内外底ナデ仕上げ。全体に丁寧。I 期前~中。残存 1/5。

#### 出土遺物 (石器) 観察表

挿図 番号	図版 番号	調査区	出土場所 (遺構)	器種 器形	法量 (cm/g)				石材	特徴
					全長	全幅	全厚	重量		
Ⅲ-121	1	Ⅲ-4E	SD1	石包丁	7.7	4.2	0.6	36.0	頁岩又は 粘板岩	磨製。未貫通の 1 孔。両側を欠く。

## 10. III-4W区

### 1. 調査区の概要

調査対象地の東部を南北に流れる田村川の西側に展開する東西に長い調査区で長さ58m、幅15mを測る。農道を挟んで北側にはIII-3区が、東側にはIII-4E区が位置する。III-4W区の中央部は農業用水路が南北に延びて調査区を切っている。また東部は住宅のコンクリート基礎が深く掘り込まれている。当調査区の現地表の標高は10m前後を測り調査区全体の中でも高い位置にある。農業用水路の西側調査区は現耕作土直下が古代の遺構検出面となっている。当調査区を含めて西方200m程は自然堤防上にあり微地形のピークとなっている。

当調査区からは古墳時代の竪穴建物4軒、古代の掘立柱建物2棟・溝3条をはじめ、近世土坑を数多く検出した。近世以降の土坑については一覧表にまとめた。

### 2. 基本層序

調査区の西端壁と北壁の層序を図示した(図III-124)。

#### 西壁基本層序

第I層：現耕作土で層厚10～20cmである。

第II層：にぶい黄橙色(10YR6/4)粘質土で礫を含む。地山で古墳から近代の遺構が掘り込まれている。

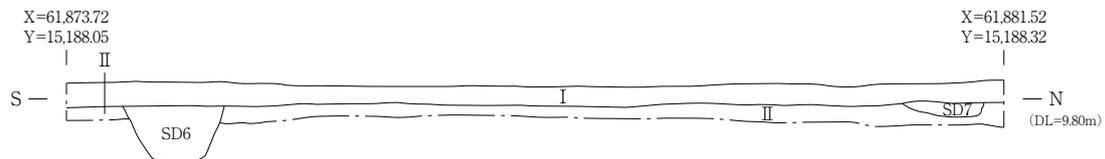
#### 北壁基本層序

第I層：現耕作土で層厚10～20cmである。

第II層：明黄褐色(10YR7/6)シルト～砂層で部分的に堆積が見られる。(古代～中世の遺物包含層)

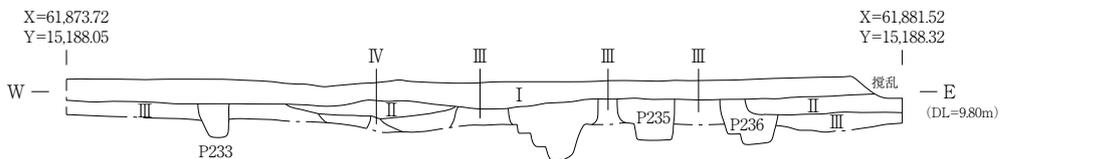
第III層：にぶい黄褐色(10YR6/6)細砂層で地山を形成しており、各時代の遺構検出面である。

第IV層：褐灰色(10YR5/1)砂層, 無遺物層。



層位  
第I層 耕作土  
第II層 にぶい黄橙色(10YR6/4)粘質土層(礫を含む, 地山)

#### 西壁基本層序



層位  
第I層 耕作土  
第II層 明黄褐色(10YR7/6)シルト～砂層(古代～中世包含層)  
第III層 にぶい黄褐色(10YR6/6)細砂層(地山)  
第IV層 褐灰色(10YR5/1)砂層

#### 北壁基本層序

図III-124 調査区西壁・北壁基本層序

### 3. 検出遺構と遺物

#### (1) 竪穴建物

##### ST1 (図Ⅲ-125)

調査区東部に位置する。一辺が3.5m前後の方形プランを持つ竪穴建物と考えられるが西側を近世の溝SD2に、コーナー部もSK5などに大きく切られている。立ち上がりは残りの良いところで10cm前後を測り、埋土は1層である。東壁際には長さ1.0mの半月形状の浅い落ち込みがあり、壁に向かって深く掘り下げられており壁直下で7cmを測る。落ち込みの中には黒褐色粘質土に砂を混ぜた土で埋められている。一種の貼床である。その上に径60cm程の焼土の広がりが見られ、一部重なるように一個体分と見られる土師器甕(1)の破片が集中して出土している。床面を精査したが支柱穴を検出することはできなかった。

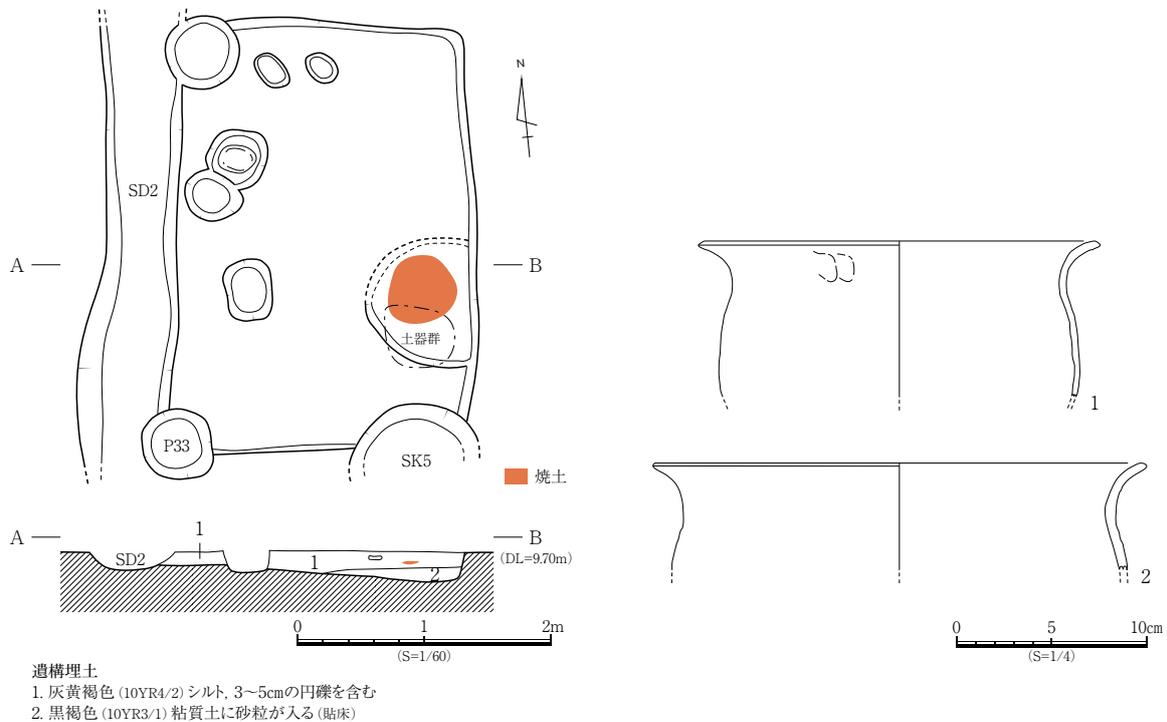
遺物は甕(1)の他、検出面からも土師器甕(2)や内面に青海波文の見られる須恵器甕片などが出土している。ST1は古墳時代後期に属する。

##### ST2 (図Ⅲ-126)

調査区南部に位置する。東側の半分以上が水路によって切られている。弥生時代終末の可能性のあるST4を切っているものと考えられるが、切り込み線を明確にすることはできなかった。平面形は一辺4.2m前後の隅丸方形を呈するものと考えられる。深さは10cm前後である。西壁側にカマド跡と考えられる浅い凹みと焼土の広がりが見られる。埋土は1層で遺物は土師器、須恵器の細片が少量出土している。須恵器杯(3)と軽石(4)を図示し得た。ST2は古墳時代後期に属する。

##### ST3 (図Ⅲ-127)

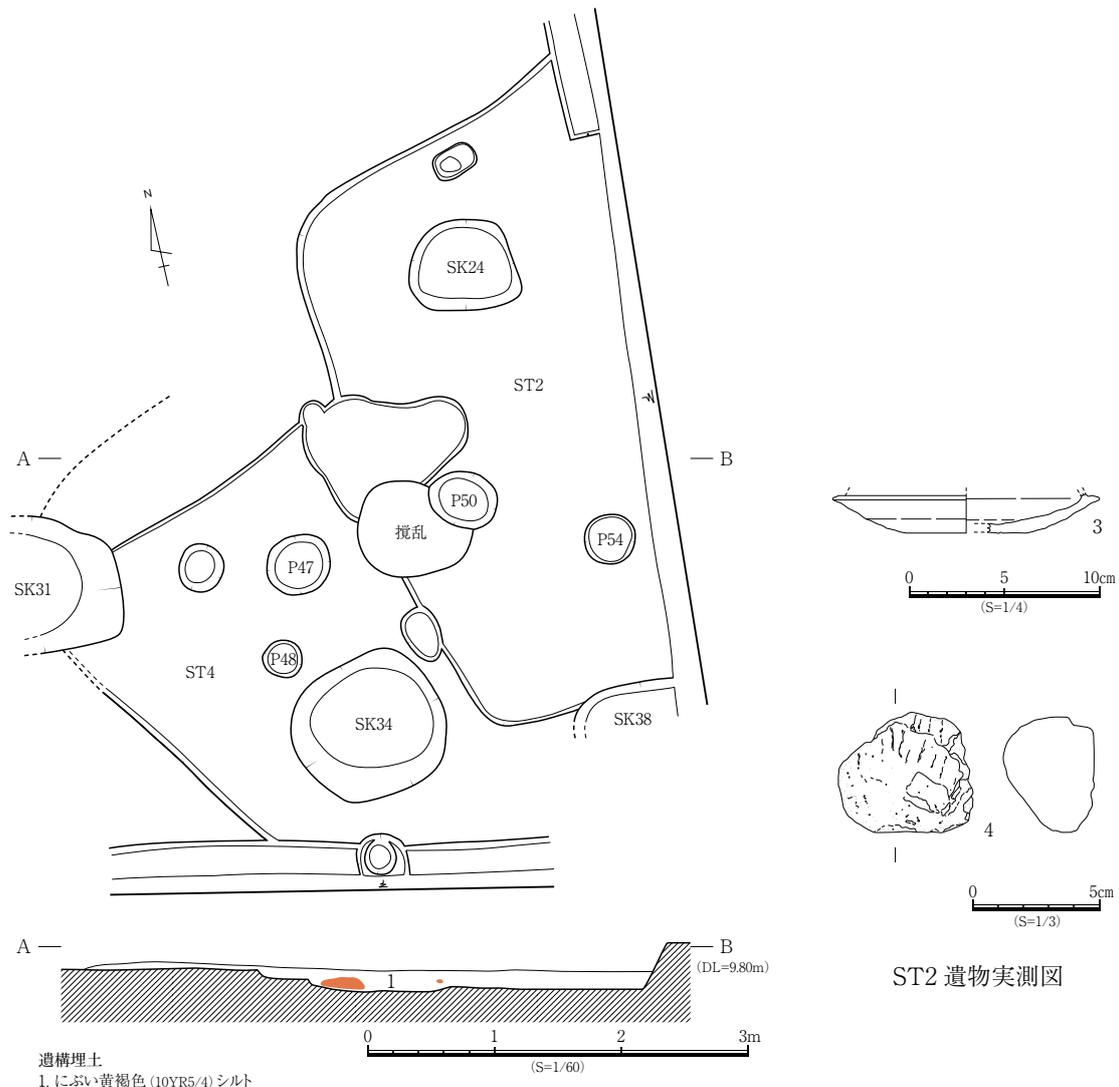
調査区西部北よりに位置する。現代攪乱や多くのピットに切られているが全体の形状を把握する



図Ⅲ-125 ST1平面図・断面図・遺物実測図

ことができる。西北壁と東南壁の長さは5.2m, 南西壁は4.8m, 北東壁は5.6mを測り平面形は台形状を呈する。深さは10cm前後で埋土は1・2層である。南東壁には幅10cm, 深さ5cmの壁溝が設けられている。主柱穴は位置関係から古代のピットも数多く掘られており主柱穴を確定することは難しいが, ST3-P1~4の4穴を該当させることができよう。P1は円形で径50cm, 深さ50cm, P2は楕円形で50×35cm, 深さ45cm, P3は径30~40cm, 深さ30cm, P4は25×50cmの不整形を呈し, 柱穴間距離はP1-P2が2.8m, P2-P3が3.14m, P3-P4が3.3m, P4-P1は2.04mである。北西壁際の中央部には径50cmの焼土の広がりを確認することができる。

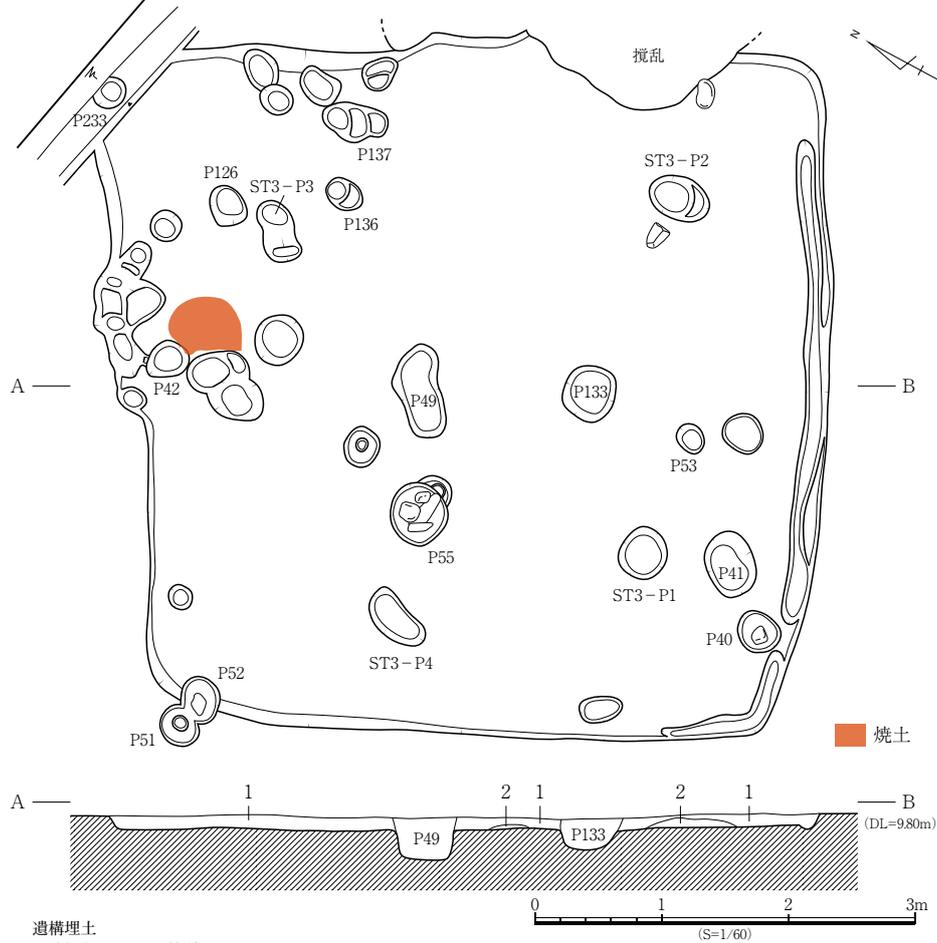
遺物は埋土中及びピットから出土している。埋土中からは古墳時代や古代の土器片が多く出土している。甑(5), 須恵器杯(6・7)は埋土中から, P1からは砥石(9), P3からは須恵器甕片(8)が出土している。9は花崗岩製で4面を使用している。この他に図示し得なかったが床面から古代の杯や移動式カマドの細片が出土している。ST3の時期比定は難しいが古墳時代後期~古代初め(6世紀後半~7世紀)の時間幅の中で捉えておきたい。



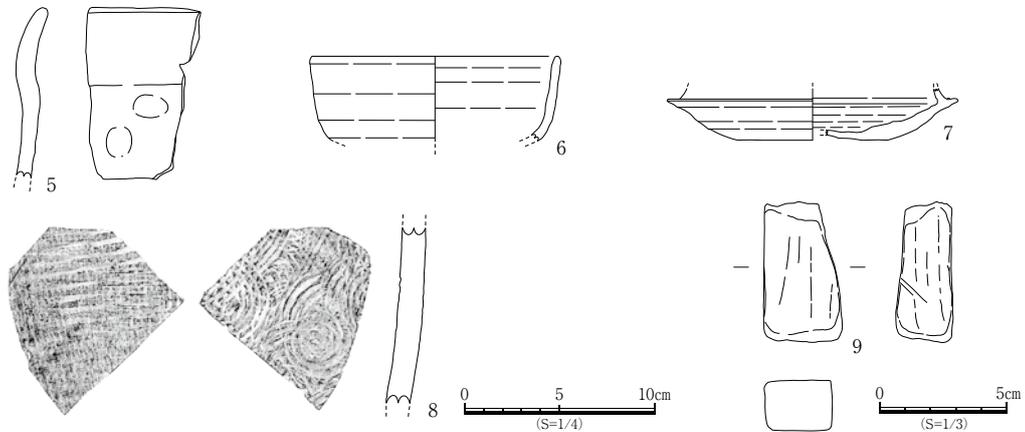
図III-126 ST2・4平面図・断面図・遺物実測図

ST4 (図Ⅲ - 126)

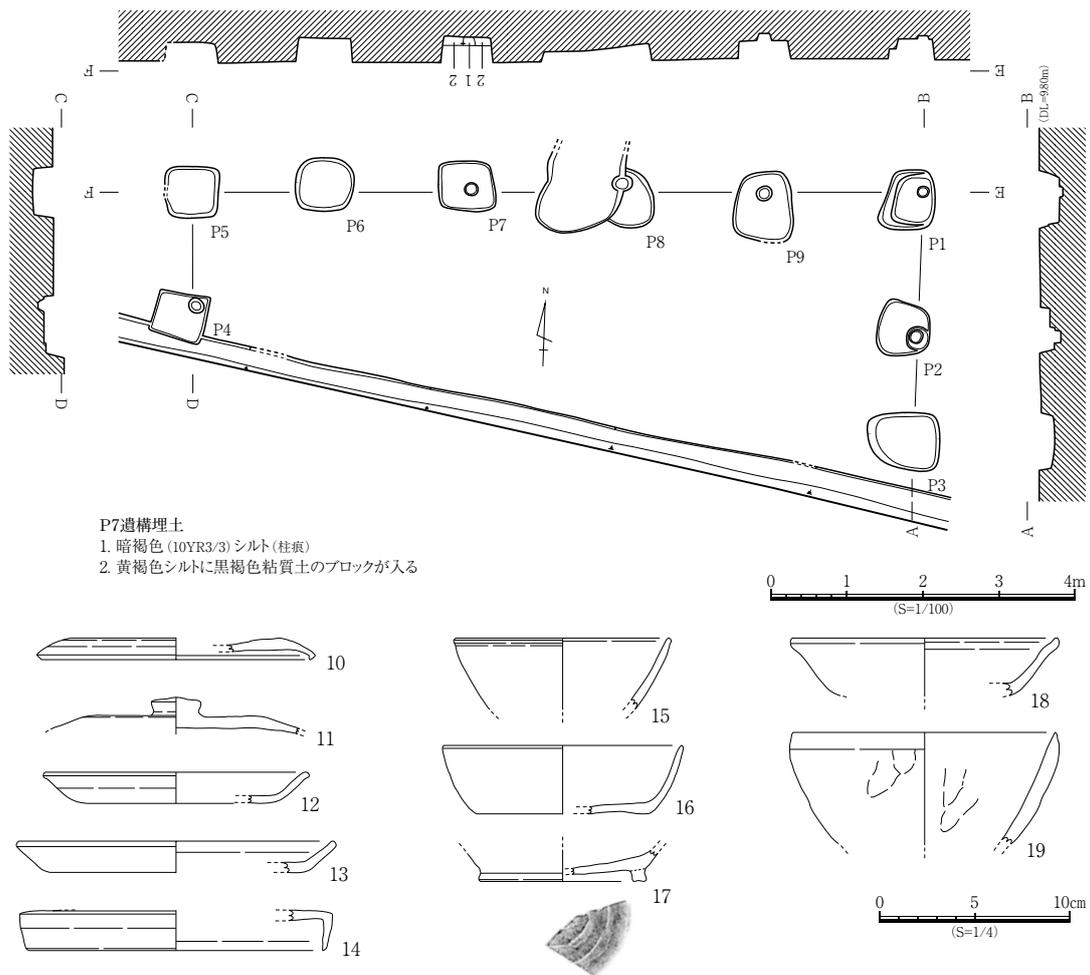
調査区南部に位置する。方形状のプランを検出したところから竪穴建物として捉えた。先述のようにST2に切られていると考えられるがプランや立ち上がりを明確にすることができない。埋土もST2と区別することができない。図示したようにA-Bのセクションベルトを残して掘削したところST2のカマドの西側で弱い立ち上がりを確認することができた。この立ち上がりはベッド状遺構の高床部を郭する段と考えられる。ST4本来の北壁ラインは図示した破線あたりに求めなければな



遺構埋土  
 1. 暗褐色 (10YR3/3) 粘質土  
 2. にぶい黄橙色 (10YR7/3) シルト、1~5cmの円礫を含む



図Ⅲ - 127 ST3平面図・断面図・遺物実測図



図III-128 SB1平面図・断面図・エレベーション図・遺物実測図

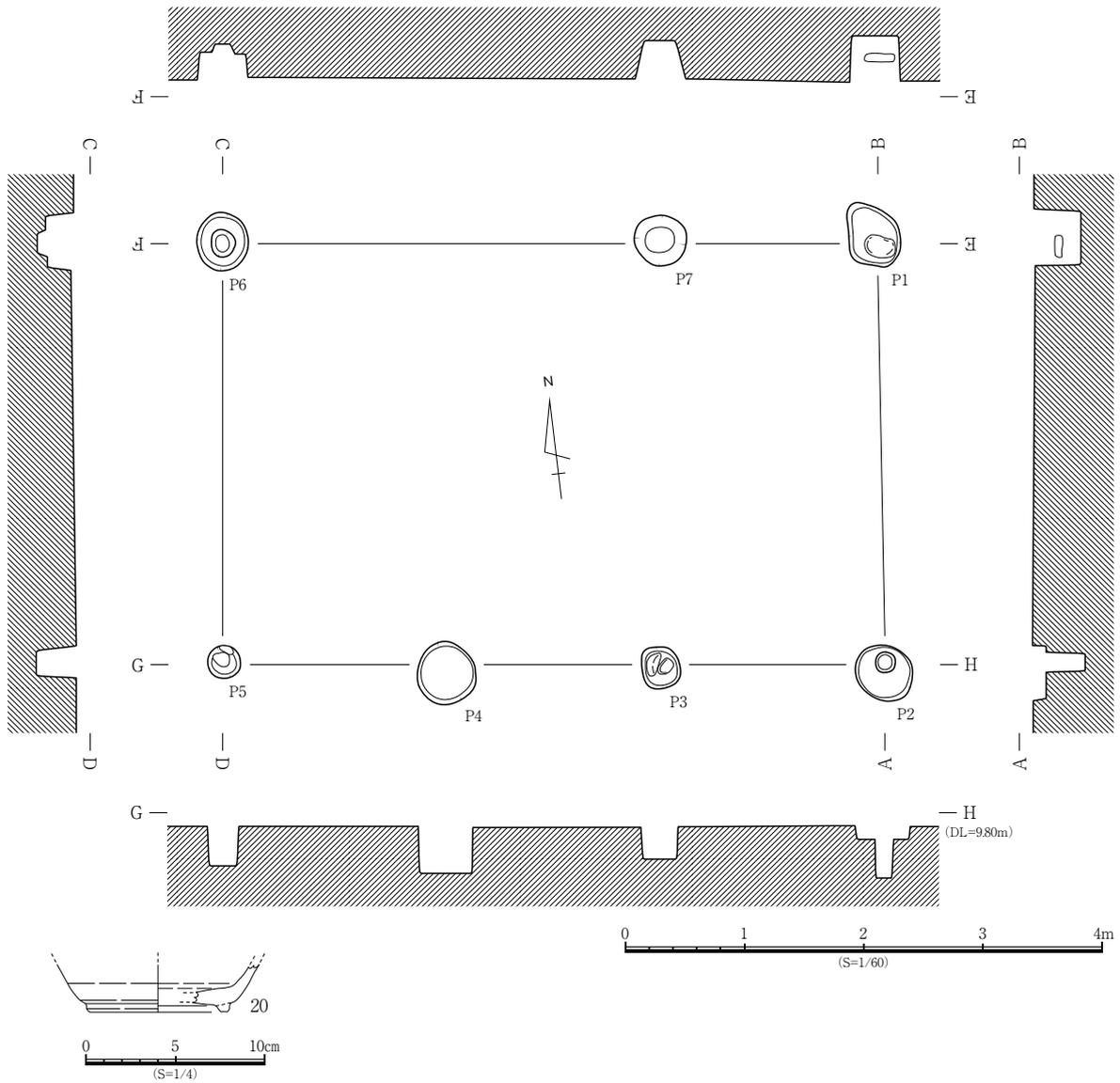
らない。埋土中から土師器片に混ざって叩き甕片が出土していることから、ST4は弥生時代後期終末～古墳時代前期初頭のベッド状遺構をもった竪穴建物である可能性がある。

## (2)掘立柱建物

### SB1 (図III-128)

調査区の西南部に位置し、かなりの部分が調査区外に出ている。東西棟で桁行5間(9.92m)、梁行は2間以上(3.0m以上)で確認できる比較的大きな建物である。方位はN-2°-Wである。柱穴の掘り方は一辺が0.7～0.8mの方形を呈しP1・2・4・7・9には径18～20cmの柱痕跡を確認することができる。掘り方の深さは総じて20cm前後と浅くかなり削平されていることが考えられる。

遺物は柱穴及び掘り方から須恵器や土師器が出土している。供膳形態で両者の比率を見ると須恵器：土師器は5(25点)：3(15点)の割合を示している。須恵器8点(10～17)と土師器2点(18・19)を図示し得た。P2からは須恵器皿(13)、同杯(15)、土師器杯(18)、P3からは須恵器蓋(10)、同皿(12)、P7からは須恵器杯(17)、製塩土器(19)、P9からは須恵器杯蓋(11)、同壺蓋(14)、同杯(16)が出土している。これらの土器は製塩土器の19がP7の柱痕跡から出土している以外はすべて掘り方埋土からの出土である。



P7 遺物実測図

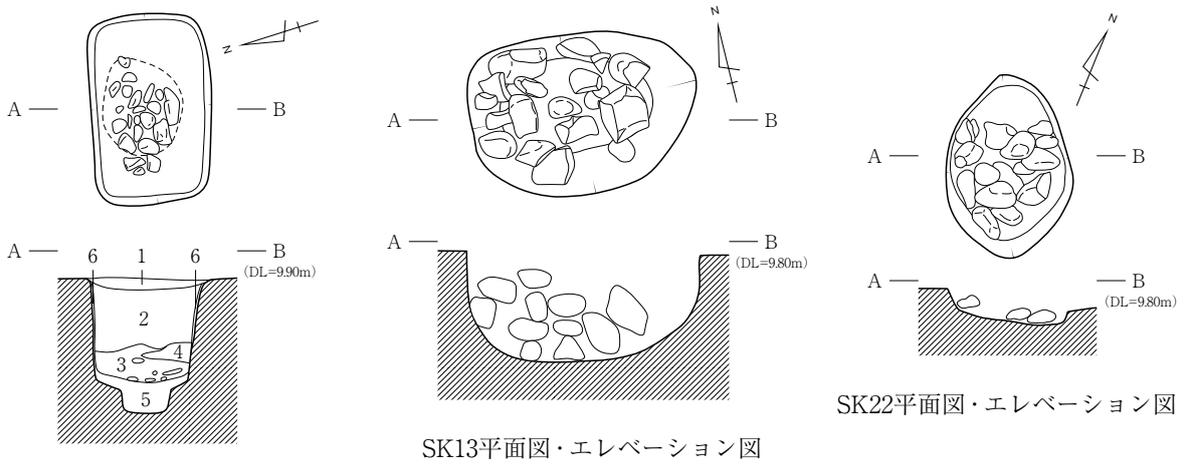
図Ⅲ-129 SB2平面図・エレベーション図・遺物実測図

これまで田村遺跡からは古代に属する掘立柱建物は100棟余り検出されているがそのほとんどはN-12°の香長条里にのっている。しかし今次のSB1の方位は10°の違いがある。

**SB2 (図Ⅲ-129)**

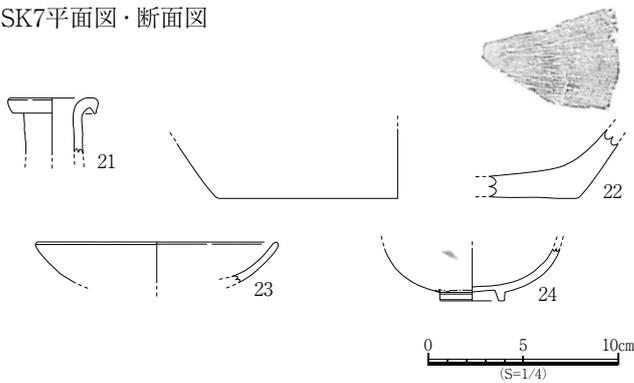
調査区の西北に位置する。東西棟で桁行3間(5.44m)、梁行1間(3.6m)の建物である。方位はN-5°-Eである。古代の溝SD6、SD7を切っている。柱穴の平面形は円形が多いがP1は不整形である。大きさも径30cmから60cmと不揃いである。P2とP6には径25cm前後の柱痕跡が確認できた。P3・P5・P7には15~20cm大の河原石が埋土下層から出土しており、P7は径15cmの柱を囲むように置かれていた。P1は図示したように40×30cmの扁平な河原石が中層に置かれていた。

遺物は各掘り方埋土から古代の土師器、須恵器細片が出土しているが、図示し得たのは須恵器杯底部(20)のみである。SB2は中世以降に属する。

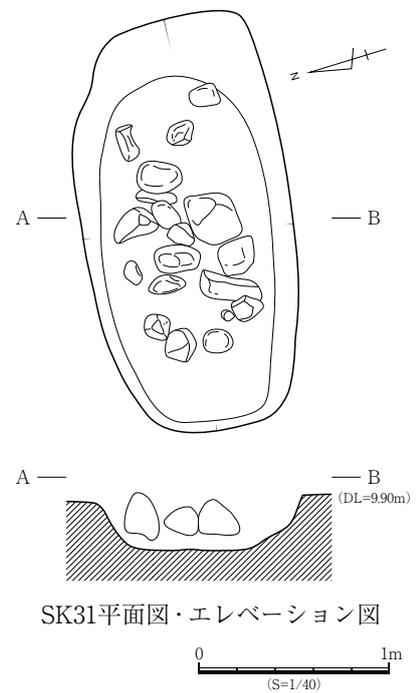


- 遺構埋土
1. 褐灰色 (10YR6/1) シルト
  2. 黄褐色 (10YR5/6) シルトに暗褐色粘質土のブロック
  3. 橙色 (7.5YR7/6) ハンダ
  4. 褐灰色 (7.5YR4/1) 粘質土
  5. 浅黄橙色 (10YR8/4) シルト
  6. ハンダ

SK7平面図・断面図



SK7・13・22・31遺物実測図



SK31平面図・エレベーション図

図III-130 SK7・13・22・31平面図・断面図・エレベーション図・遺物実測図

### (3)土坑

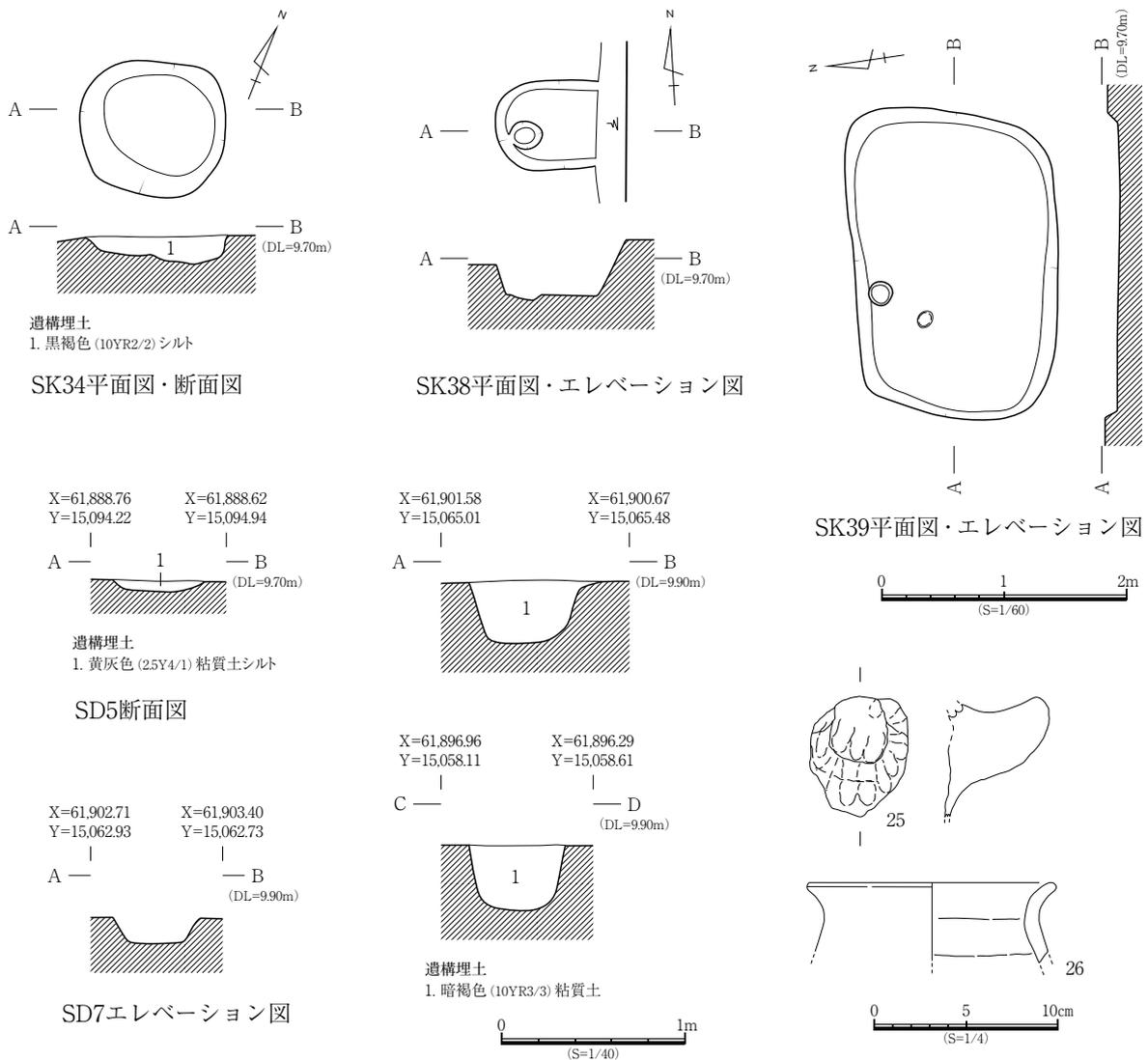
古代から近代まで44基を検出した。平面形や大きさについては土坑計測表にまとめた。時期的な内訳は古代5基、近世36基、近代3基である。古代の主要土坑と集石が検出された近世土坑についてのみ具体的な記述を行ない他の土坑については一覧表に譲る。

#### SK7 (図III-130)

調査区の東南部に位置する。平面形は長方形を呈し長軸1.02m、短軸0.68m、深さ60cmを測り床面の中央部には径25cm、深さ10cm程の穴が垂直に掘られている。埋土は1~5層である。5層は精選された浅黄橙色シルトで、中央穴と床面を覆っている。意識的に丁寧に埋め戻された層序である。2・3層も埋め戻された層序であり、3層は拳~人頭大の河原石を含んだハンダである。遺物は集石間から瀬戸の徳利口縁部(21)が出土している。近世に属する。

#### SK13 (図III-130)

調査区の東部に位置する。平面形は楕円形を呈し長軸1.2m、短軸0.86m、深さ55cmを測る。埋土



図Ⅲ-131 SK34・38・39・SD5～7平面図・断面図・エレベーション図・遺物実測図

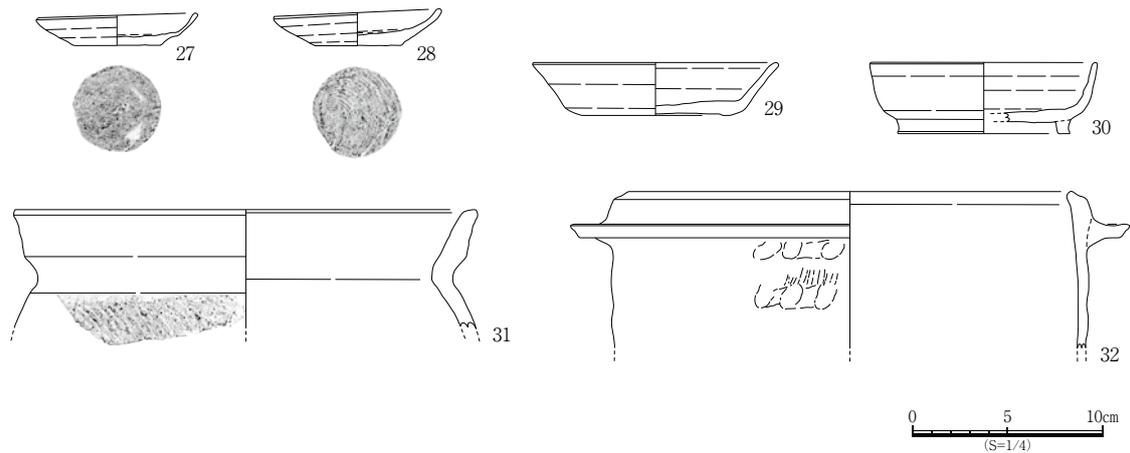
は暗灰色粘質土で図示したように拳～人頭大の河原石が大量に入れられており石臼片も見られた。遺物は備前播鉢底部片(22)が出土している。近世に属する。

SK22 (図Ⅲ-130)

調査区中央部の北よりに位置する。平面形は楕円形を呈し長軸1.0m, 短軸0.66m, 深さ20cmを測る。埋土は灰黄色シルトで図示したように拳～人頭大の河原石が置かれている。集石間から近世陶磁器片(23)が出土している。23は肥前内野山窯産の陶器皿である。近世に属する。

SK31 (図Ⅲ-130)

調査区中央部の南よりに位置する。平面形は楕円形を呈し長軸2.2m, 短軸1.1m, 深さ28cmを測る。埋土は暗灰色粘質土で、床面から少し浮いた状態で拳～人頭大の河原石が多く出土している。床面及び埋土中から近世陶磁器片が出土している。24は京信楽系の陶器色絵付小碗である。上絵付けの笹文が僅かに認められる。SK31は近世に属する。



図Ⅲ-132 ピット遺物実測図

**SK34** (図Ⅲ-131)

調査区中央部南よりに位置しST4を切っている。平面形は楕円形を呈し長軸1.2m、短軸1.12m、深さ23cmを測り床面は段状を呈する。埋土中から土師器、須恵器細片が出土している。SK34は古代に属する。

**SK38** (図Ⅲ-131)

調査区中央部南よりに位置しST2を僅かに切っている。大部分が調査区外に出ている。確認長軸0.9m以上、短軸0.76m、深さ36cmである。遺物は古代の長胴甕や黒色土器A類、須恵器杯細片が出土している。SK38は古代に属する。

**SK39** (図Ⅲ-131)

調査区南よりに位置しSB1と重複するが先後関係は不明である。平面形は隅丸長方形を呈する。長軸2.5m、短軸1.7m、深さ12cmを測る。古代の土師器、須恵器細片が出土している。SK39は古代に属する。

**(4)溝**

溝は8条(SD1~8)検出している。この内SD1~4・8の方向は現在の水田畦畔に平行している。埋土は暗灰色粘質土で近世陶磁器や瓦片が出土しており、近世の溝跡と考えられる。ここでは古代に属する溝について記述する。

**SD5** (図Ⅲ-131)

調査区東部に位置する。近世土坑SK6・12などによって激しく切られている。確認延長は2.1m程で、幅0.5m、深さ8cm、断面は皿状を呈する。方位はN-6°-Eである。埋土は黄灰色粘質土シルトで遺物は埋土中から古代の土師器細片が20点程出土している。

**SD6** (図Ⅲ-131)

調査区西部で検出した。北東から南西方向に斜めに走る溝で方位はおおよそN-60°-Eである。確認延長12.4m、幅0.5~0.7m、深さは40cm前後を測り、断面形は台形状を呈する。埋土は暗褐色粘質土である。埋土中から古代の土師器、須恵器片が出土しており土師器:須恵器は225g:375gである。甌把手(25)と土師器甕(26)を図示し得た。8世紀代の溝と考えられる。

SD7 (図Ⅲ - 131)

調査区西北隅に位置する。東北から南西方向に走る溝で方位はN-75°-Eである。確認延長8.4m, 幅0.3~0.4m, 深さ10cm前後である。

(5)ピット出土の遺物(図Ⅲ - 132)

古代から近世に及ぶ400個近くのピットを検出しこの内263個から何らかの遺物が出土している。ピットの多くは柱穴と考えられるが建物跡を復元できたのは先述した2棟のみである。ここでは図示し得た遺物について提示する。27・28はP58出土のロクロ成形の土師質小皿で近世に属する。29はP101出土の回転台成形による土師質杯で底部ヘラ切り, 30はP126出土の須恵器杯である。共に古代に属するが後者はヘラ切り跡の調整も丁寧で8世紀前葉に比定することができる。31はP150出土の鍋, 32はP167出土の羽釜, 共に古代末葉に属する。後者は在地産, 前者は搬入品と見られる。

土坑計測表(Ⅲ - 4W区)

遺構名	遺構の平面形	長軸 (m)	短軸 (m)	深さ (cm)	時 期	備 考
SK1	不整形	1.1 以上	1.04	14	近世	攪乱に切られる。
SK2	〃	0.88	0.72	13	〃	
SK3	隅丸長方形	1.1	0.88	20	〃	
SK4	〃	1.76	1.1	25	〃	
SK5	円形	径 1.02		34	〃	
SK6	長方形	3.2	0.82	36	〃	
SK7	〃	1.02	0.68	70	〃	
SK8	〃	2.0	1.1	20	〃	
SK9	〃	1.46	1.26	45	〃	一部攪乱に切られる。
SK10	楕円形状?	不明	不明	13	〃	大半をSK9に切られる。
SK11	〃	〃	〃	13	〃	大半を攪乱に切られる。
SK12	円形	径 9.2		30	近代	
SK13	楕円形	1.2	0.86	55	近世	備前播鉢など出土。
SK14	不整形	1.04	0.76	17	近代	
SK15	長楕円形	1.6	0.62	9	近世	
SK16	長方形	0.6 以上	0.6 以上	44	近代	
SK17	楕円形	1.2	1.06	50	〃	
SK18	隅丸長方形	1.48	0.9 以上	22	近世	
SK19	楕円形	0.94	0.7	16	〃	
SK20	隅丸長方形	1.0 以上	0.72	15	〃	
SK21	円形	径 0.84		45	〃	
SK22	楕円形	1.0	0.66	20	〃	集石あり。
SK23					〃	
SK24	不整形	0.86	0.72	15	〃	
SK25	楕円形	1.36	1.18	52	〃	
SK26	隅丸長方形	2.36	1.24	46	〃	
SK28	長方形	1.5	0.64	38	〃	
SK29	楕円形	1.04	1.0	31	〃	
SK30	平行四辺形	1.68	0.76	45	〃	
SK31	楕円形	2.2	1.1	28	〃	
SK32	不整形	2.16	1.86	17	〃	
SK33	〃	1.22	0.64	41	近世	
SK34	楕円形	1.2	1.12	0.23	古代	
SK35	〃	1.12	0.9	43	近世	
SK36	不整形	(1.2)	0.7	14	古代	SK6に大きく切られている。
SK37	隅丸方形	(0.9)	0.84	36	近世	
SK38	隅丸長方形	0.9 以上	0.76	29	古代	
SK39	〃	2.5	1.7	12	〃	
SK40	溝状	3.7	9.2	12	近世	
SK41	隅丸方形	1.7	(1.4)	13	〃	
SK42	楕円形	1.08	9.6	20	〃	
SK43	不整形	1.14	1.06	47	〃	
SK44	隅丸方形	(0.7)	0.5	7	〃	
SK45	溝状	1.8	0.3	15 ~ 30	古代	

出土遺物(土器・陶器)観察表

挿図 番号	図版 番号	出土場所 (遺構)	器種 器形	法量 (cm)			色調 (外面)	特徴
				口径	器高	底径		
Ⅲ-125	1	ST1	土師器 甕	20.6	(8.3)		橙色	チャート, 他の砂粒を多く含む。内外面器表の荒れが激しい。
〃	2	〃	〃	25.7	(5.7)		〃	チャート, 他の粗粒砂を多く含む。口縁部内外面横方向のナデ調整。
Ⅲ-126	3	ST2	須恵器 杯身	14.0	(2.1)	6.2	灰色	精土。外面ケズリ, ロクロは時計回り。
Ⅲ-127	5	ST3	土師器 甕		(9.0)		灰白色	チャート, 赤色風化礫の粗粒砂を多く含む。内外ナデ。
〃	6	〃	須恵器 杯	12.8	(4.6)		灰色	精土。内外横ナデ。
〃	7	〃	須恵器 杯身	15.3	(2.6)	8.0	〃	精土。底部外面ケズリ, ロクロは反時計回り。
〃	8	〃	須恵器 甕		(9.3)		〃	精土。外面平行叩き, 内面青海波文。
Ⅲ-128	10	SB1 P3	須恵器 蓋	14.1	1.2		〃	粗粒砂を含む。口縁部端面取, 内面は比較的丁寧な横ナデ, 外面の仕上げは粗雑。
〃	11	SB1 P9	〃		(2.0)		灰白色	粗粒砂を多く含む。内外面器表の荒れが激しい。
〃	12	SB1 P3	須恵器 皿	13.8	1.6	10.0	〃	精土。内外横ナデ。
〃	13	SB1 P2	〃	16.5	1.7	13.2	黄灰色	〃
〃	14	SB1 P9	須恵器 蓋	15.5	(2.1)		灰白色	〃
〃	15	SB1 P2	須恵器 杯	11.2	(3.8)		灰色	精土。内外横ナデ。内外面自然釉がかかる。
〃	16	SB1 P9	〃	12.5	3.6	9.2	灰白色	精土。内外横ナデ。丁寧な作り。
〃	17	SB1 P7	〃		(1.7)	8.7	灰色	精土。内外横ナデ。畳付は凹状を呈す。
〃	18	SB1 P2	土師器 杯	14.0	(3.0)		にぶい赤褐色	精土。内外面器表の荒れが激しいがヘラミガキが施されていたものと考えられる。
〃	19	SB1 P7	製塩 土器	13.8	(5.9)		にぶい橙色	チャート, 風化礫の小礫を含む。内面に布目圧痕を認めず。
Ⅲ-129	20	SB2 P7	須恵器 杯		(2.5)	7.9	灰黄褐色	精土。内外面横ナデ, 丁寧な作り。高台は体部と胎土が異なる。
Ⅲ-130	21	SK7	瀬戸 徳利	4.5	(3.0)		灰白色	灰釉。口縁部折り返し。
〃	22	SK13	備前 播鉢		(3.7)	18.8	灰褐色	精緻な胎土。内面磨耗。
〃	23	SK22	陶器 皿	12.6	(2.2)		黄褐色	肥前産内野山窯。釉は褐色。
〃	24	SK31	陶器 小碗		(2.8)	3.3	灰白色	京信楽系色絵付け。上絵付けは笹文が僅かに認められる。灰釉は高台脇まで施釉。
Ⅲ-131	25	SD6	土師器 甕把手		(6.6)		浅黄橙色	チャート, 他の粗粒砂を含む。
〃	26	〃	土師器 甕	13.2	(4.3)		にぶい橙色	チャートの粗粒砂を含む。内外ナデ調整, 内面に粘土紐接合痕を認める。

挿図 番号	図版 番号	出土場所 (遺構)	器種 器形	法量 (cm)			色調 (外面)	特徴
				口径	器高	底径		
Ⅲ- 132	27	P58	土師質 小皿	8.2	1.7	4.7	浅黄橙色	精土。ロクロ成形，内外横ナデ，糸切り。
〃	28	P58	〃	8.7	1.9	4.6	にぶい黄橙色	〃
〃	29	P101	土師質 杯	12.8	2.8	7.8	橙色	チャート，風化礫の小礫を含む。回転台成形，ヘラ切り。
〃	30	P126	須恵器 杯	11.7	4.8	9.0	灰色	精土。内外面横ナデ調整，丁寧な作り。底部外面も丁寧なナデ調整。
〃	31	P150	土師器 鍋	24.3	(6.3)		にぶい褐色	石英の粗粒砂，小礫を多く含む。口縁部，頸部外面強い横ナデ。
〃	32	P167	土師器 羽釜	23.2	(8.3)		橙色	石英，長石粒を含む。口縁部下に2cm幅の鏝が巡る。口唇，鏝端部は横ナデにより凹状をなす。

### 出土遺物(石器)観察表

挿図 番号	図版 番号	出土場所 (遺構)	器種	法量 (cm/g)				石材	特徴
				長さ	幅	厚さ	重さ		
Ⅲ- 126	4	ST2 下層～床	不明	4.8	5.2	3.6	20	軽石	特に使用痕跡を認めず。
Ⅲ- 127	9	ST3 下層～床	砥石	5.6	3.1	2.0	56	花崗岩	4面使用。

## 報告書抄録

ふりがな	たむらいせきぐんさん							
書名	田村遺跡群Ⅲ							
副書名	高知南国道路建設工事に伴う発掘調査報告書Ⅶ 第1分冊							
シリーズ名	高知県埋蔵文化財センター発掘調査報告書							
シリーズ番号	第142集							
編著者名	出原恵三, 池澤俊幸, 久家隆芳, パリノ・サーヴェイ株式会社							
編集機関	(公財)高知県文化財団埋蔵文化財センター							
所在地	高知県南国市篠原1437-1							
発行年月日	2015年3月20日							
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
たむらいせきぐん 田村遺跡群	〒783-0005 高知県 南国市 田村	39204	040234	33° 33′ 29″	133° 39′ 44″	2010.4.26 ～ 2010.5.31  2011.9.27 ～ 2012.1.31  2012.4.6 ～ 2013.2.28  2013.4.1 ～ 2013.6.30	31,477 ㎡	記録保存調査
所収遺跡	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
田村遺跡群	集落跡	縄文時代 弥生時代 古墳時代 古代 中世 近世	竪穴建物跡 44軒 掘立柱建物跡 111棟 柵列跡 17条 土坑 660基 井戸跡 6基 溝跡 153条 自然流路跡 9条 性格不明遺構 121基 ピット 7,000基 水田・畦・畝・波板状遺構	縄文土器 弥生土器 石器 鉄器 土師器 須恵器 土師質土器 陶器 磁器 古銭	縄文時代, 弥生時代, 古墳時代, 古代, 中世, 近世の遺構・遺物を検出した。			
要約	今次調査成果により田村遺跡群の範囲が北方へ大きく拡大することが明らかとなった。 弥生時代中期末の竪穴建物跡を30軒検出した。1～3次調査分を合わせると495軒となる。 その大部分は中期末～後期初頭に属し、最盛期を迎える。中期末には四国はもとより列島規模でも屈指の弥生集落となる。 古墳時代後期から古代, 中世前期も連続と建物跡等が認められ, 古代初期頃の水田跡も検出された。 古代後期以降の搬入品では, 畿内産黒色土器や初期貿易陶磁器の数あるいは種類において当平野域で卓越した様相を示す。							



高知県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第142集

## 田 村 遺 跡 群 Ⅲ

高知南国道路建設工事に伴う発掘調査報告書Ⅶ

(高知東部自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅳ)

第1分冊

2015年3月20日

発行 (公財)高知県文化財団埋蔵文化財センター

高知県南国市篠原1437-1

Tel. 088-864-0671

印刷 株式会社 飛 鳥

